

千歳市

オサツ2遺跡(1)・オサツ14遺跡

—都地区道管畑地帯総合土地改良事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成6年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



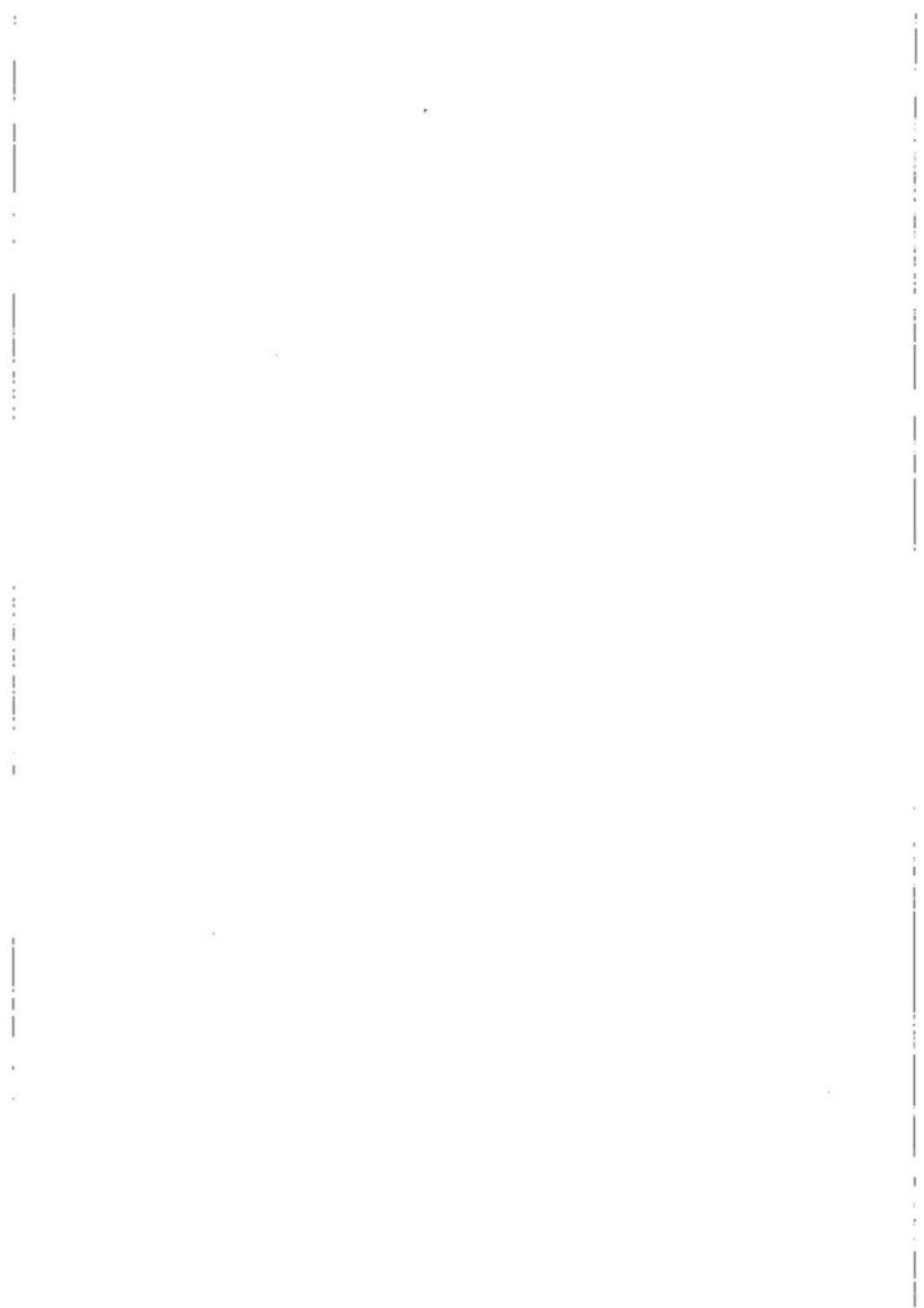
千歳市

オサツ2遺跡(1)・オサツ14遺跡

—都地区道菅畑地帯総合土地改良事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成6年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

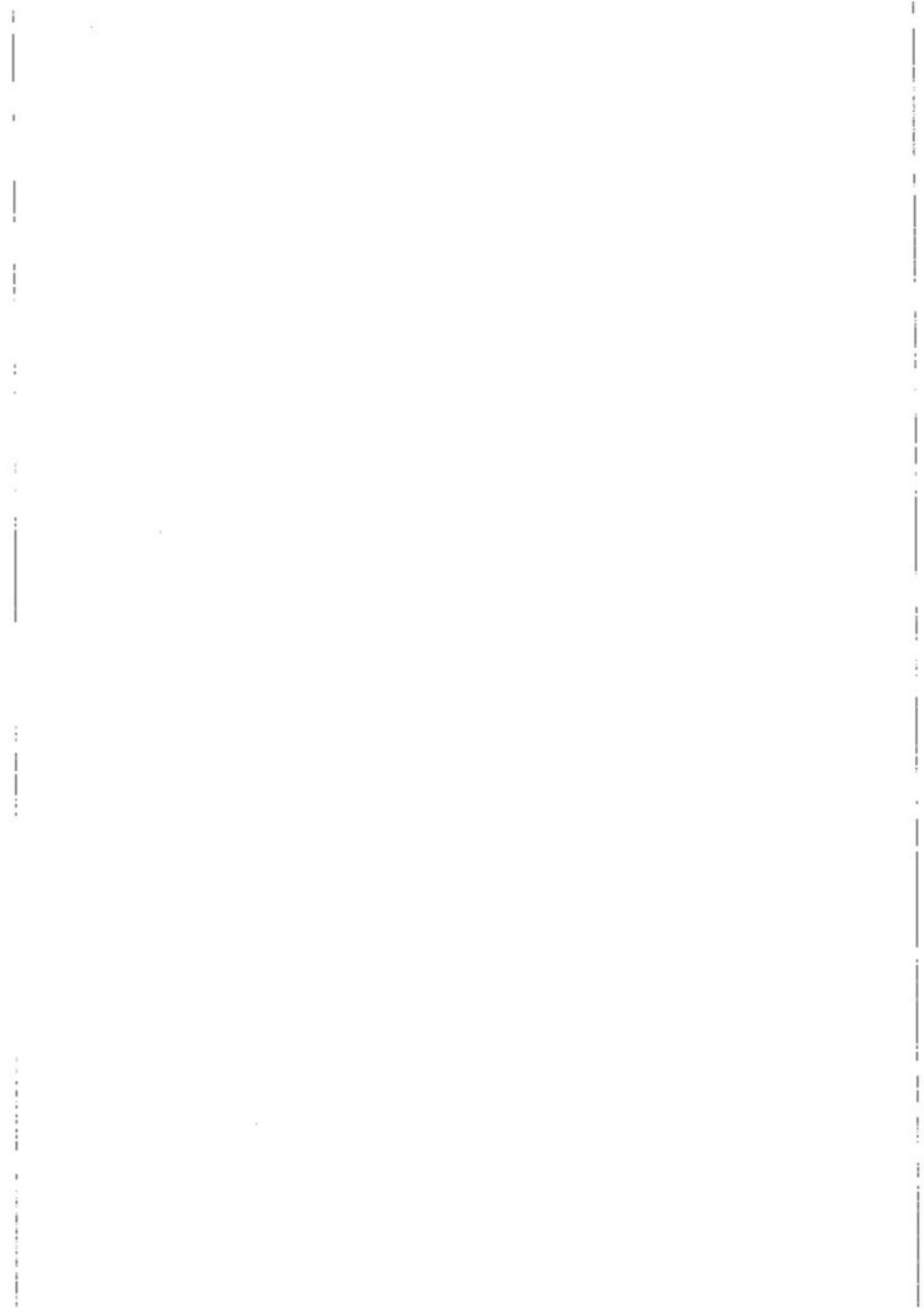


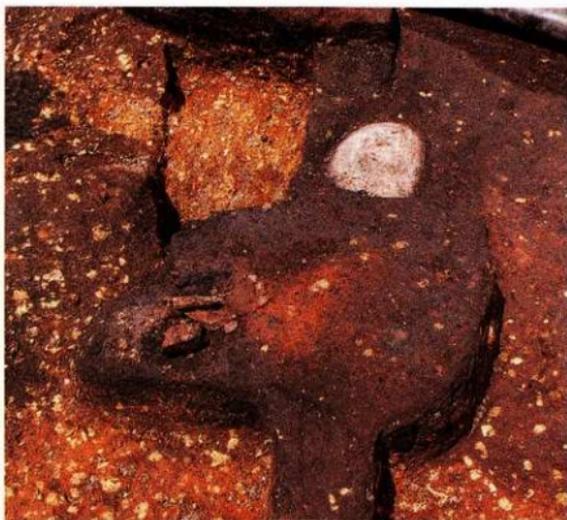


オサツ2遺跡のクロープマーク（1991年）



オサツ2遺跡 SH-19調査状況

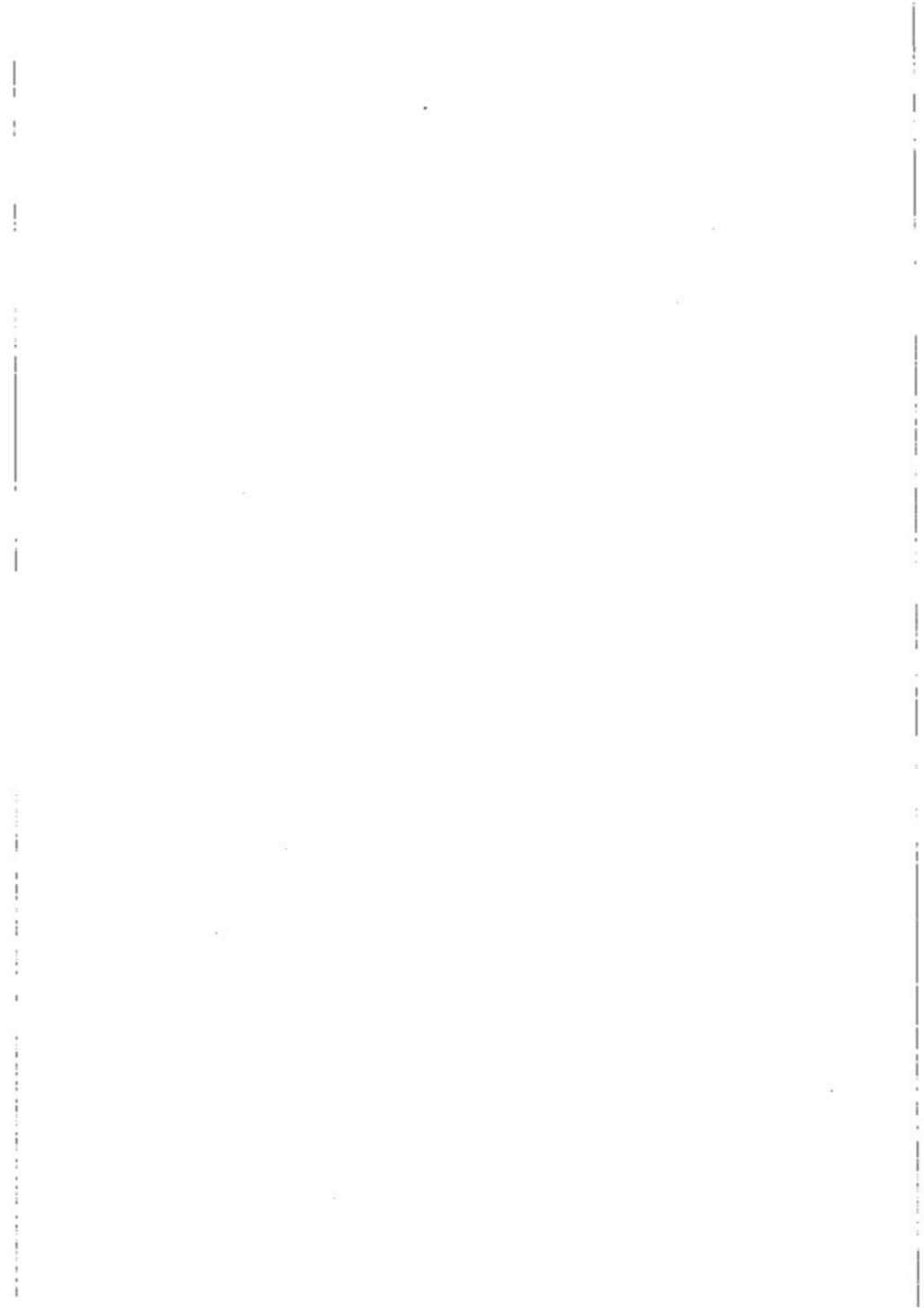




オサツ2遺跡 鍛冶遺構-2



オサツ2遺跡 SH-3の須恵器と「大」の拡大





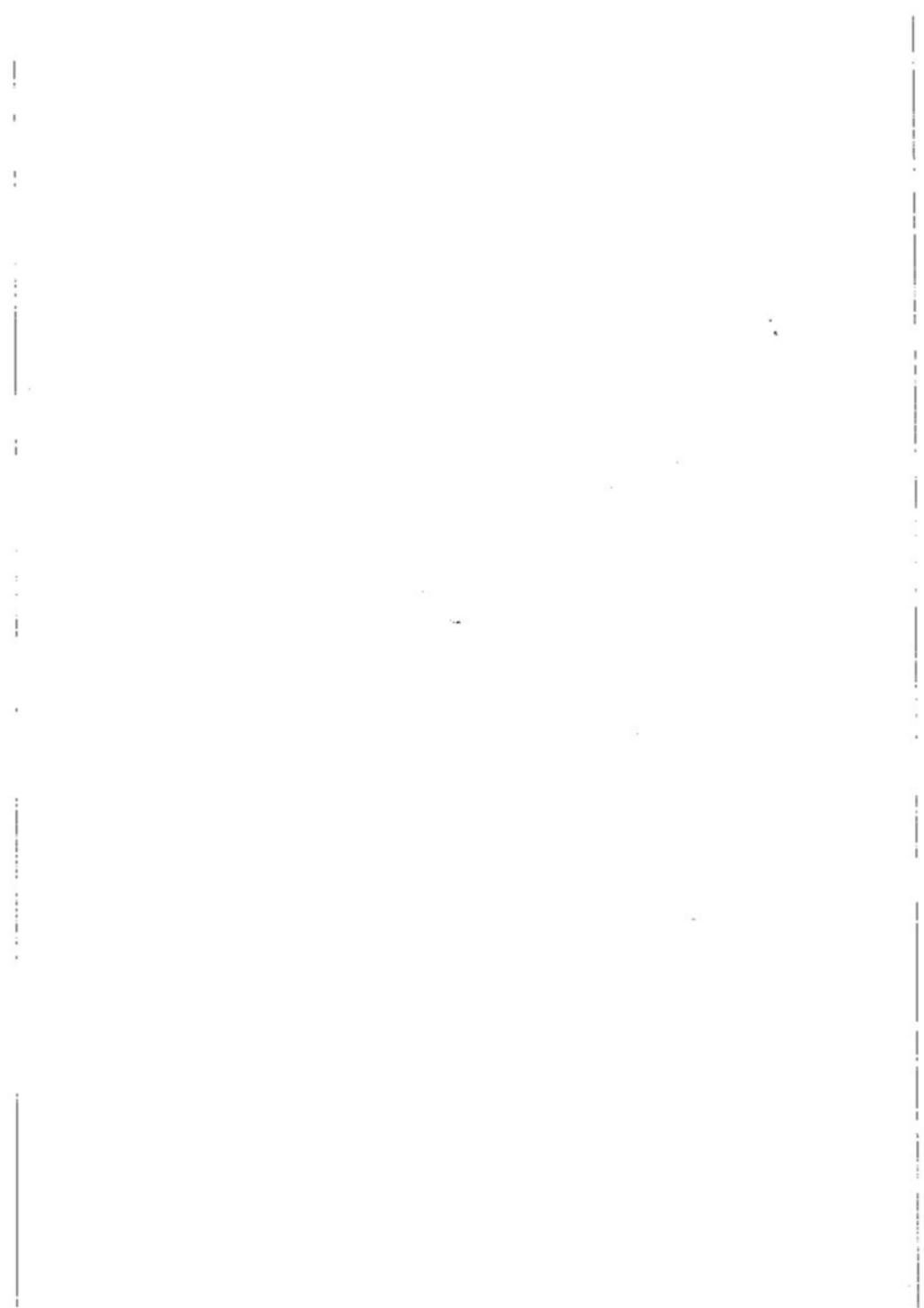
オサツ14遺跡 H-20 (ロングハウス)



オサツ14遺跡 H-28土器囲い炉



オサツ14遺構 P-25出土のヒスイ玉 (実大)



例 言

1. 本書は、都地区道営畑地帯総合土地改良事業に伴い、平成4年度から6年度までの3カ年にわたり財団法人北海道埋蔵文化財センターが実施した千歳市オサツ2遺跡・オサツ14遺跡の発掘調査の報告書の第1冊である。
2. 本書の編集は、三浦正人、鎌田 望、鈴木 信が主となって行った。執筆は、I：千葉英一・三浦正人、II：遺構については表Ⅱ-1に担当を示したが文責は鈴木にある。遺物については土器・土製品・石製品：鈴木、石器：鈴木・千葉、鉄製品：三浦が担当・執筆をした。III：遺構については文末に括弧で文責を示した。遺物については、土器・土製品：鎌田、石器・石製品：千葉、木製品・鉄製品：三浦が担当・執筆をした。
3. 動物遺存体の同定は、千歳市教育委員会の高橋 理氏に依頼し、玉稿をいただいた。なお、オサツ2については依頼中である。
植物遺存体の同定は、北海道大学の吉崎昌一氏に依頼した。なお、オサツ2については依頼中である。
放射性炭素年代測定は、京都産業大学の山田 治氏に依頼した。
金属製品の分析は、岩手県立博物館の赤沼英男氏に依頼中である。なお、オサツ2については依頼中である。
脂肪酸の分析及び解析は、株式会社ズコーシャに依頼中である。
土器の胎土分析は奈良教育大学の三辻利一氏に依頼中である。
樹種同定は、当センターの岡本育子が行った。
4. 口絵及び図版Ⅱ-1のクロップマーク写真は、千歳市教育委員会の田村俊之氏の撮影によるものである。
他の写真は現場では各自が担当し、遺物写真は、菊池慈人・三浦が担当した。
5. 調査にあたっては下記の諸機関、各氏から御指導御協力をいただいた。
千歳市教育委員会埋蔵文化財センター、恵庭市千歳市教育委員会、北海道開拓記念館、渡辺重建工業株式会社
大谷敏三、田村俊之、高橋理、豊田宏良、松田淳子、遠藤昭浩、上屋真一、松谷純一、佐藤幾子、吉崎昌一、椿坂恭代、天野哲也、小野裕子、大島直行、横山英介、松井章、青柳文吉、福田祐二、宮夫靖夫、二階堂啓也、宮宏明、森岡健治、工藤義衛、木村哲郎、吉田裕史洋、赤沼英男、野村崇、木村尚俊、畑宏明、種市幸生、大沼忠春、直井孝一、野中一宏、利部修
6. 下記の学校の、見学及び発掘体験学習を行った。
札幌市立開成小学校、藤女子高等学校、千歳市立長都小学校

記号等の説明

- 遺構の表記は以下に示す記号を用い、原則として調査順に番号を付した。

a H : アイヌ文化期の建物跡 (オサツ14)	H : 竪穴住居跡 (オサツ14)
a F : アイヌ文化期の焼土 (オサツ14)	P : 土壇
SH : 縄文文化期の竪穴住居跡	FP : 焼土 (オサツ2)
SP : 縄文文化期の土壇 (オサツ14)	F : 焼土 (オサツ14)
GP : 墓 (オサツ2)	
- 遺構図の縮尺は、スケール等が入っているもの以外は、原則として40分の1、オサツ2遺跡のG Pと鍛冶遺構は20分の1である。
遺構平面図の方位は、上がN-27°-Eである。
遺構平面図の・小数字とセクションレベルは標高(単位m)である。
- 遺構平面図の出土遺物は記載のない限り、以下の記号を用いている。

● : 土器	■ : 礫石器	★ : 金属・土製品・石製品
▲ : 剥片石器	□ : 礫	* : 骨

 × : フレイクチップ
- 遺構の規模は、「長軸の上端/下端×短軸の上端/下端×確認面からの最大深」で示してある。一部破壊されているものは現存長を()で示し、不明のものは-で示した。
- 土層名は、下記の略号を用いた場合がある。

樽前a 降下軽石層 : Ta-a	恵庭a ローム層 : En-L
樽前c 降下軽石層 : Ta-c	恵庭a 降下軽石層 : En-P
白頭山-苦小牧火山灰層 : B-Tm	支笏軽石流堆積物 : Spfl

 火山灰の略号は、曾屋龍典・佐藤博之 (1980)『千歳地域の地質』
北海道火山灰命名委員会 (1982)『北海道の火山灰』による。
- 土層の混在状態は、基本土層や上記の略号などを用いておもに下記のように表わしてある。

A+B : AとBがほぼ同量混じる
A>B : AにBが少量混じる
A>>B : AにBが微量混じる
- 遺物実測図と土器拓影図の縮尺は、スケール等が入っているもの以外は、原則として以下のとおりである。

復元土器 : 4分の1	剥片石器 : 2分の1	鉄製品 : 2分の1
土器拓影 : 3分の1	礫石器 : 3分の1	土製品・石製品 : 原寸
- 石器・石製品の大きさは、「最大長×最大幅×最大厚」で記してある。
- 表II-4の土器観察について、調整の欄内においては、上段から下段へ調整が進行することを矢印で示し、()の表現は一部分に対して行われたことを示した。主として口縁部について施されている。施文の欄内においては、上段が口縁部、下段が頸部という施文部位をそれぞれ・を行頭につけて示した。また備考の欄内の記号は出土量の多少を示した。
- 住居に関するスクリーントーンの凡例

 : カマド及び白色粘土	 : 炉及びカマド関連焼土
 : 掘揚げ土	 : 竪穴焼失時の焼土

目 次

口絵	i
例言	vii
記号等の説明	viii
I 調査の概要	
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査の経緯	1
4 調査結果の概要	5
(1) オサツ2遺跡	
(2) オサツ14遺跡	
5 遺跡の立地と周辺の遺跡	8
6 遺物の分類	9
(1) 土器	9
(2) 石器・石製品	10
(3) 土製品	10
II オサツ2遺跡の調査	
1 概要	11
2 遺構とその遺物	20
(1) 杭穴群	20
(2) アイヌ文化期の墓	20
(3) 堅穴住居跡	23
(4) 鍛冶遺構	79
(5) 墓	82
(6) 土墳	99
(7) 集石	100
(8) 焼土	105
3 I a～II a層の遺物	108
(1) 土器・土製品	108
(2) 鉄製品	110
(3) 石器・石製品	115
4 まとめ	116
(1) 堅穴住居跡	116
(2) 鍛冶遺構	118
(3) 土墳墓	118
一覧表	124

Ⅲ オサツ14遺跡の調査

1 概要	147
2 Ⅱ a層の遺構と遺物	153
(1) アイヌ文化期の遺構と遺物	153
1) -1 建物跡	153
1) -2 焼土	157
千歳市オサツ14遺跡出土動物遺存体 千歳市教育委員会埋蔵文化財センター 高橋 理	159
(2) 縄文文化期の遺構と遺物	160
2) -1 竪穴住居跡	160
2) -2 土城	166
3 Ⅱ a層の遺物	168
(1) 縄文土器	168
(2) 木製品	168
(3) 鉄製品	170
4 Ⅱ b層の遺構と遺物	171
(1) 竪穴住居跡	171
(2) 土壇	235
(3) 焼土	257
5 Ⅱ b層の遺物	264
(1) 土器・土製品	264
(2) 石器	275
6 まとめ	277
一覧表	280

写真図版

Ⅱ オサツ2遺跡の調査	296
Ⅲ オサツ14遺跡の調査	359
報告書抄録	437

目 次

I 調査の概要	
図 I-1	遺跡の位置(1)……………2
図 I-2	遺跡の位置(2)……………3
図 I-3	発掘調査区の位置と周辺の地形…4
図 I-4	周辺の遺跡……………6
II オサツ2遺跡の調査	
図 II-1	調査区の設定と表示……………12
図 II-2	土層断面……………13
図 II-3	調査区の地形と遺構の位置……………14
図 II-4	II a 層の遺構位置(1)……………15
図 II-5	II a 層の遺構位置(2)……………16
図 II-6	II a 層の遺構位置(3)……………17
図 II-7	GP-A・B……………21
図 II-8	GP-Bの遺物……………22
図 II-9	SH-1(1)……………23
図 II-10	SH-1(2)……………24
図 II-11	SH-1(3)……………25
図 II-12	SH-1の遺物(1)……………26
図 II-13	SH-1の遺物(2)……………27
図 II-14	SH-2……………28
図 II-15	SH-2の遺物……………29
図 II-16	SH-3(1)……………31
図 II-17	SH-3の遺物(1)……………32
図 II-18	SH-3(2)……………33
図 II-19	SH-3の遺物(2)……………35
図 II-20	SH-4……………36
図 II-21	SH-4の遺物……………37
図 II-22	SH-5の遺物……………38
図 II-23	SH-5……………39
図 II-24	SH-6(1)……………41
図 II-25	SH-6(2)……………43
図 II-26	SH-6(3)……………44
図 II-27	SH-6の遺物(1)……………45
図 II-28	SH-6の遺物(2)……………46
図 II-29	SH-7(1)……………48
図 II-30	SH-7(2)……………49
図 II-31	SH-7の遺物(1)……………50
図 II-32	SH-7の遺物(2)……………51
図 II-33	SH-8……………53
図 II-34	SH-9……………55
図 II-35	SH-10……………57
図 II-36	SH-11……………58
図 II-37	SH-12の遺物……………60
図 II-38	SH-12……………61
図 II-39	SH-13の遺物……………62
図 II-40	SH-13……………63
図 II-41	SH-14……………64
図 II-42	SH-15……………65
図 II-43	SH-15の遺物……………66
図 II-44	SH-16……………67
図 II-45	SH-17……………68
図 II-46	SH-19の遺物……………70
図 II-47	SH-19……………71
図 II-48	SH-20(1)……………73
図 II-49	SH-20の遺物……………74
図 II-50	SH-20(2)……………75
図 II-51	SH-23の遺物……………77
図 II-52	SH-23……………78
図 II-53	鍛冶遺構-1……………79
図 II-54	鍛冶遺構-2……………80
図 II-55	GP-1……………81
図 II-56	GP-1の遺物……………82
図 II-57	GP-2……………83
図 II-58	GP-2の遺物(1)……………84
図 II-59	GP-2の遺物(2)……………85
図 II-60	GP-2の遺物(3)……………86
図 II-61	GP-2の遺物(4)とGP-3……………87
図 II-62	GP-4……………88
図 II-63	GP-4の遺物(1)……………89
図 II-64	GP-4の遺物(2)……………90
図 II-65	GP-4の遺物(3)……………91
図 II-66	GP-5……………92
図 II-67	GP-6……………93
図 II-68	GP-6の遺物(1)……………94
図 II-69	GP-6の遺物(2)……………95
図 II-70	GP-6の遺物(3)……………96
図 II-71	GP-7……………97
図 II-72	GP-8……………98
図 II-73	II a 層の土壌……………99
図 II-74	II a 層の集石……………101
図 II-75	II a 層の焼土(1)……………102
図 II-76	II a 層の焼土(2)……………103
図 II-77	II a 層の焼土(3)……………104
図 II-78	II a 層の土器(1)……………106
図 II-79	II a 層の土器(2)……………107
図 II-80	II a 層の土器(3)・土製品……………108
図 II-81	II a 層の土器分布……………109
図 II-82	I a ~ II a 層の鉄製品……………110
図 II-83	縄文文化期整穴住居出土の石器(1)……………111
図 II-84	縄文文化期整穴住居出土の石器(2)……………112
図 II-85	II a 層の石器(1)……………113
図 II-86	II a 層の石器(2)……………114
図 II-87	II a 層の石器(3)・石製品……………115

図Ⅱ-88	捺文土器遺構内及び 遺構間接合図(1).....	120
図Ⅱ-89	# (2).....	121
図Ⅱ-90	# (3).....	122
図Ⅱ-91	# (4).....	123

Ⅲ オサツ14遺跡の調査

図Ⅲ-1	調査区の設定と表示.....	148
図Ⅲ-2	調査区の地形と遺構の位置.....	149
図Ⅲ-3	基本層序.....	151
図Ⅲ-4	低湿部基本層序.....	152
図Ⅲ-5	a H-1.....	154
図Ⅲ-6	a H-1 セクション.....	155
図Ⅲ-7	a H-2.....	156
図Ⅲ-8	Ⅱ a 層の焼土.....	157
図Ⅲ-9	S H-1.....	161
図Ⅲ-10	S H-1 セクション.....	162
図Ⅲ-11	S H-1 の炭化材と掘揚げ土.....	163
図Ⅲ-12	S H-1 層土の焼土分布.....	164
図Ⅲ-13	S P-1.....	167
図Ⅲ-14	Ⅱ a 層の土器.....	168
図Ⅲ-15	Ⅱ a 層低湿部の木製品.....	169
図Ⅲ-16	Ⅱ a 層の鉄製品.....	170
図Ⅲ-17	H-1.....	172
図Ⅲ-18	H-2.....	173
図Ⅲ-19	H-3.....	174
図Ⅲ-20	H-4.....	176
図Ⅲ-21	H-7・8・9・11・12・16・19.....	177
図Ⅲ-22	H-7・19.....	178
図Ⅲ-23	H-16.....	180
図Ⅲ-24	H-8・12.....	181
図Ⅲ-25	H-9.....	182
図Ⅲ-26	H-10.....	184
図Ⅲ-27	H-11.....	186
図Ⅲ-28	H-11 遺物分布図.....	187
図Ⅲ-29	H-11 の土器.....	188
図Ⅲ-30	H-11 の石器.....	189
図Ⅲ-31	H-13・14.....	190
図Ⅲ-32	H-15.....	192
図Ⅲ-33	H-17.....	193
図Ⅲ-34	H-17 の遺物.....	194
図Ⅲ-35	H-18.....	195
図Ⅲ-36	H-20.....	197
図Ⅲ-37	H-20 床面遺物分布図・掘揚げ土.....	199
図Ⅲ-38	H-20 層土遺物分布図.....	200
図Ⅲ-39	H-20 の土器(1).....	201
図Ⅲ-40	H-20 の土器(2).....	202
図Ⅲ-41	H-20 の石器.....	203
図Ⅲ-42	H-21.....	204
図Ⅲ-43	H-21 の遺物.....	205
図Ⅲ-44	H-22.....	206
図Ⅲ-45	H-23.....	208
図Ⅲ-46	H-23 の遺物.....	209
図Ⅲ-47	H-24.....	211
図Ⅲ-48	H-24 の遺物.....	212
図Ⅲ-49	H-25.....	213
図Ⅲ-50	H-26 土層遺構.....	214
図Ⅲ-51	H-26 土層遺構の遺物.....	215
図Ⅲ-52	H-26.....	216
図Ⅲ-53	H-26 セクション.....	217
図Ⅲ-54	H-26 の土器・土製品.....	219
図Ⅲ-55	H-26 の石器.....	220
図Ⅲ-56	H-27.....	221
図Ⅲ-57	H-28.....	223
図Ⅲ-58	H-28 の土器.....	225
図Ⅲ-59	H-28 の石器.....	226
図Ⅲ-60	H-29.....	227
図Ⅲ-61	H-30.....	228
図Ⅲ-62	H-31 土層遺構.....	229
図Ⅲ-63	H-31 土層遺構の土器.....	230
図Ⅲ-64	H-31.....	232
図Ⅲ-65	H-31 セクション.....	233
図Ⅲ-66	H-31 の遺物.....	234
図Ⅲ-67	P-1 ~ 4・6 ~ 8.....	236
図Ⅲ-68	P-5・9 ~ 11.....	238
図Ⅲ-69	P-12 ~ 16・18.....	240
図Ⅲ-70	P-17・19 ~ 20.....	242
図Ⅲ-71	P-23 ~ 26・50.....	244
図Ⅲ-72	P-27 ~ 31.....	246
図Ⅲ-73	P-32 ~ 38.....	248
図Ⅲ-74	P-39 ~ 43.....	250
図Ⅲ-75	P-44 ~ 46.....	252
図Ⅲ-76	P-47 ~ 49.....	254
図Ⅲ-77	F-1 ~ 12.....	256
図Ⅲ-78	F-13 ~ 21・24 ~ 26.....	258
図Ⅲ-79	F-22・23・27 ~ 36.....	261
図Ⅲ-80	包含層の土器(1).....	266
図Ⅲ-81	包含層の土器(2).....	267
図Ⅲ-82	包含層の土器(3).....	268
図Ⅲ-83	包含層の土器(4).....	269
図Ⅲ-84	包含層の土器(5).....	270
図Ⅲ-85	包含層の土器(6).....	271
図Ⅲ-86	包含層の土器(7).....	272
図Ⅲ-87	包含層の土器(8).....	273
図Ⅲ-88	包含層の土器(9)・土製品・石製品.....	274
図Ⅲ-89	時期別遺構・土器分布図(1).....	278
図Ⅲ-90	時期別遺構・土器分布図(2).....	279

表 目 次

I 調査の概要

表 I-1	オサツ 2 遺跡 遺構数一覧	5
表 I-2	オサツ 2 遺跡 遺物数一覧	5
表 I-3	オサツ 14 遺跡 遺構数一覧	5
表 I-4	オサツ 14 遺跡 遺物数一覧	5
表 I-5	周辺の遺跡一覧	7

II オサツ 2 遺跡の調査

表 II-1	オサツ 2 遺跡 遺構一覧	18
表 II-2	住居の属性表	116
表 II-3	捺文土器遺構間接合表	117
表 II-4	遺構・包含層掲載遺物一覧	124
表 II-5	遺構鉄製品一覧	136
表 II-6	包含層鉄製品一覧	137
表 II-7	遺構土器集計表	138
表 II-8	包含層土器集計表 (捺文)	141
表 II-9	包含層土器集計表 (統縄文)	143
表 II-10	石器集計表	144
表 II-11	礫集計表	145

III オサツ 14 遺跡の調査

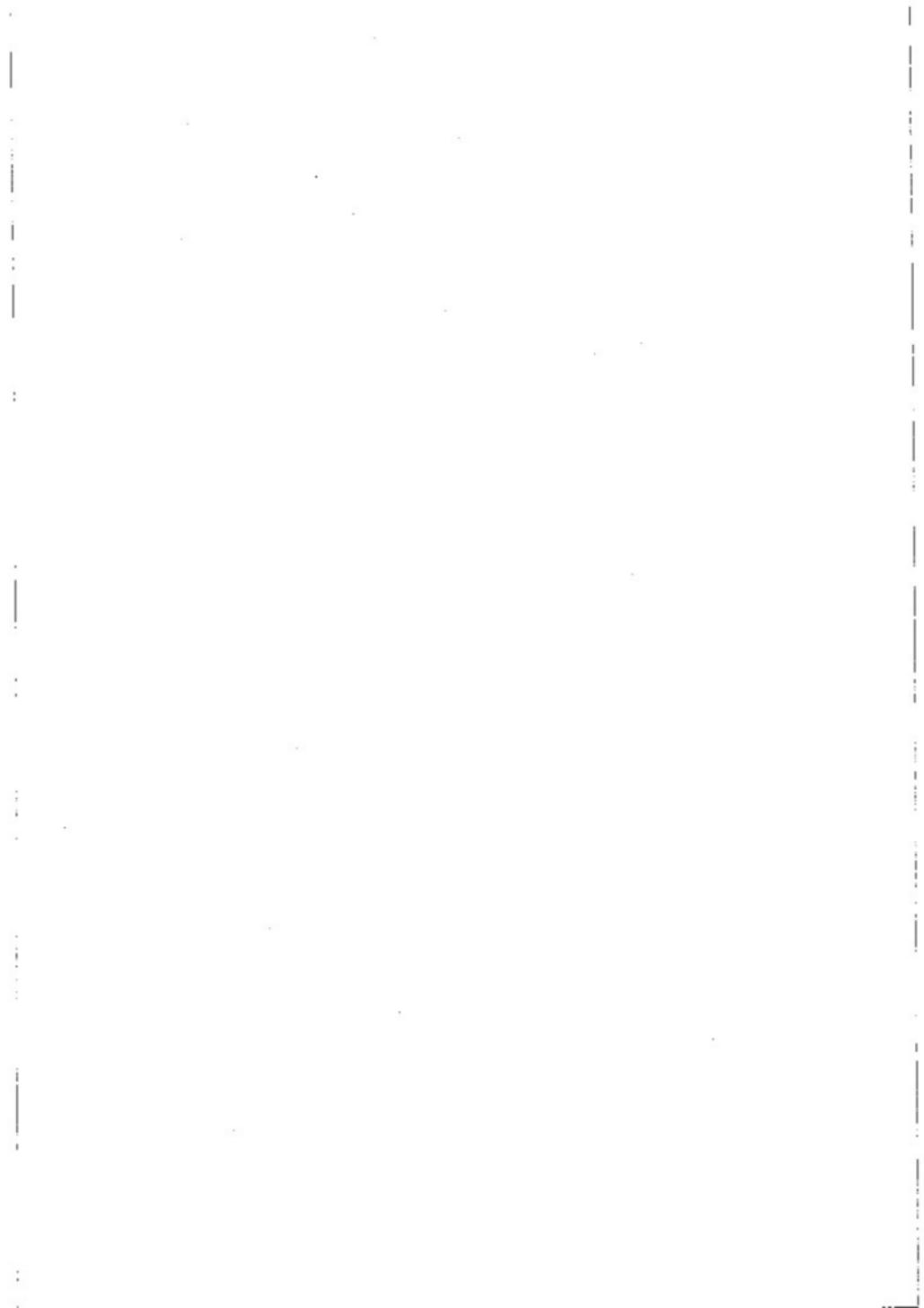
表 III-1	a H-1 付属施設一覧	153
表 III-2	a H-2 付属施設一覧	157
表 III-3	II a 層焼土動物遺存体一覧	159
表 III-4	SH-1 付属施設一覧	160
表 III-5	SH-1 炭化材一覧	165
表 III-6	SH-1 樹種同定・C ¹⁴ 年代一覧	166
表 III-7	II a 層木製品一覧	168
表 III-8	II a 層鉄製品一覧	170
表 III-9	H-1 付属施設一覧	171
表 III-10	H-2 付属施設一覧	171
表 III-11	H-3 付属施設一覧	175
表 III-12	H-7 付属施設一覧	179
表 III-13	H-19 付属施設一覧	179

表 III-14	H-16 付属施設一覧	180
表 III-15	H-8 付属施設一覧	180
表 III-16	H-9 付属施設一覧	183
表 III-17	H-10 付属施設一覧	185
表 III-18	H-11 付属施設一覧	185
表 III-19	H-13 付属施設一覧	191
表 III-20	H-14 付属施設一覧	191
表 III-21	H-15 付属施設一覧	193
表 III-22	H-17 付属施設一覧	193
表 III-23	H-20 付属施設一覧	196
表 III-24	H-21 付属施設一覧	205
表 III-25	H-22 付属施設一覧	207
表 III-26	H-23 付属施設一覧	209
表 III-27	H-24 付属施設一覧	210
表 III-28	H-25 付属施設一覧	210
表 III-29	H-26 土層遺構付属施設一覧	215
表 III-30	H-26 付属施設一覧	218
表 III-31	H-27 付属施設一覧	222
表 III-32	H-28 付属施設一覧	222
表 III-33	H-29 付属施設一覧	227
表 III-34	H-30 付属施設一覧	228
表 III-35	H-31 土層遺構付属施設一覧	230
表 III-36	H31 付属施設一覧	231
表 III-37	石器類器種別集計表	275
表 III-38	オサツ 14 遺跡 遺構一覧	280
表 III-39	脂肪酸分析及び解析依頼資料一覧	282
表 III-40	層位別土器・土製品集計表	283
表 III-41	遺構別土器・土製品集計表	283
表 III-42	包含層土器・土製品集計表	285
表 III-43	遺構別石器類集計表	286
表 III-44	遺構掲載土器一覧	287
表 III-45	包含層掲載土器一覧	291
表 III-46	遺構掲載石器一覧	293
表 III-47	包含層掲載石器一覧	294

図 版 目 次

<p>口絵-1 オサツ2遺跡(1)…………… i 口絵-2 オサツ2遺跡(2)…………… iii 口絵-3 オサツ14遺跡…………… v 図版 I-1 遺跡周辺の航空写真…………… 296</p> <p>II オサツ2遺跡の調査</p> <p>図版 II-1 クロップマーク・ソイルマーク …… 296 図版 II-2 遺跡遠景…………… 297 図版 II-3 調査開始状況(1)…………… 298 図版 II-4 調査開始状況(2)…………… 299 図版 II-5 調査風景…………… 300 図版 II-6 杭六群…………… 301 図版 II-7 G P-Aと遺物…………… 302 図版 II-8 G P-Bと遺物…………… 303 図版 II-9 S H-1…………… 304 図版 II-10 S H-2・3…………… 305 図版 II-11 S H-5・8…………… 306 図版 II-12 S H-6…………… 307 図版 II-13 S H-7…………… 308 図版 II-14 S H-9…………… 309 図版 II-15 S H-13…………… 310 図版 II-16 S H-15・16…………… 311 図版 II-17 S H-17・23…………… 312 図版 II-18 S H-19…………… 313 図版 II-19 S H-20…………… 314 図版 II-20 S H-1の土器(1)…………… 315 図版 II-21 S H-1の土器(2) ・ S H-2の土器…………… 316 図版 II-22 S H-3の土器(1)…………… 317 図版 II-23 S H-3の土器(2)…………… 318 図版 II-24 S H-3の土器(3)と紡錘車 …… 319 図版 II-25 S H-4の土器と紡錘車 …… 320 図版 II-26 S H-5の土器 ・ S H-6の土器(1)…………… 321 図版 II-27 S H-6の土器(2)…………… 322 図版 II-28 S H-6の土器(3)…………… 323 図版 II-29 S H-7の土器(1)…………… 324 図版 II-30 S H-7の土器(2)…………… 325 図版 II-31 S H-8・9の土器…………… 326 図版 II-32 S H-11・12の土器…………… 327 図版 II-33 S H-13・14の土器…………… 328 図版 II-34 S H-15の土器…………… 329 図版 II-35 S H-16の土器 ・ S H-17の土器(1)…………… 330 図版 II-36 S H-17の土器(2) ・ S H-20の土器…………… 331 図版 II-37 據文文化期整穴の須恵器片 …… 332</p>	<p>図版 II-38 據文文化期整穴の鉄製品 …… 333 図版 II-39 據文文化期整穴の石器…………… 334 図版 II-40 據文文化期整穴の 土製品・石製品…………… 335 図版 II-41 鍛冶遺構-1ほかの遺物…………… 336 図版 II-42 鍛冶遺構-2と遺物…………… 337 図版 II-43 G P-1…………… 338 図版 II-44 G P-1の遺物…………… 339 図版 II-45 G P-2…………… 340 図版 II-46 G P-2の遺物…………… 341 図版 II-47 G P-3と遺物…………… 342 図版 II-48 G P-4と遺物…………… 343 図版 II-49 G P-5と遺物・G P-7 …… 344 図版 II-50 G P-6と遺物(1)…………… 345 図版 II-51 G P-6の遺物(2) ・ G P-8と遺物…………… 346 図版 II-52 P-5・6・7・11…………… 347 図版 II-53 集石・焼土と遺物…………… 348 図版 II-54 P-5・F P-47 ・ II a層の土器(1)…………… 349 図版 II-55 II a層の土器(2)…………… 350 図版 II-56 II a層の土器(3)…………… 351 図版 II-57 II a層の土器(4)…………… 352 図版 II-58 I a~II a層の鉄製品…………… 353 図版 II-59 據文文化期整穴出土の剥片石器 …… 354 図版 II-60 據文文化期整穴出土の礫石器 …… 355 図版 II-61 II a層の剥片石器…………… 356 図版 II-62 II a層の礫石器…………… 357 図版 II-63 II a層の石製品・土製品…………… 358</p> <p>II オサツ14遺跡の調査</p> <p>図版 III-1 遺跡遠景…………… 359 図版 III-2 調査開始状況…………… 360 図版 III-3 調査風景と基本土層…………… 361 図版 III-4 低湿度 II a層の調査…………… 362 図版 III-5 a H-1…………… 363 図版 III-6 a H-2…………… 364 図版 III-7 II a層の焼土…………… 365 図版 III-8 S H-1…………… 366 図版 III-9 S H-1と遺物…………… 367 図版 III-10 S H-1・S P-1…………… 368 図版 III-11 包含層 (II a層)の遺物…………… 369 図版 III-12 H-1と遺物…………… 370 図版 III-13 H-2と遺物…………… 371 図版 III-14 H-3と遺物…………… 372 図版 III-15 H-4と土器…………… 373 図版 III-16 H-7・12・19と土器…………… 374</p>
---	---

図版Ⅲ-17	H-8・9・16と土器	375	図版Ⅲ-48	P-21・23・24・25と遺物・50	406
図版Ⅲ-18	H-7・8・9・12の石器	376	図版Ⅲ-49	P-27・28・29・30・37・40と土器	407
図版Ⅲ-19	H-10と土器	377	図版Ⅲ-50	P-41・42・43と石鏃・46と土器	408
図版Ⅲ-20	H-11	378	図版Ⅲ-51	P-47と土器・48	409
図版Ⅲ-21	H-11の遺物	379	図版Ⅲ-52	土壇の土器(1)	410
図版Ⅲ-22	H-13・14	380	図版Ⅲ-53	土壇の土器(2)	411
図版Ⅲ-23	H-15と遺物	381	図版Ⅲ-54	焼土と遺物	412
図版Ⅲ-24	H-17の遺物	382	図版Ⅲ-55	包含層の土器(1)	413
図版Ⅲ-25	H-18と遺物	383	図版Ⅲ-56	包含層の土器(2)	414
図版Ⅲ-26	H-20(1)	384	図版Ⅲ-57	包含層の土器(3)	415
図版Ⅲ-27	H-20(2)	385	図版Ⅲ-58	包含層の土器(4)	416
図版Ⅲ-28	H-20の土器(1)・石器	386	図版Ⅲ-59	包含層の土器(5)	417
図版Ⅲ-29	H-20の土器(2)	387	図版Ⅲ-60	包含層の土器(6)	418
図版Ⅲ-30	H-21と遺物	388	図版Ⅲ-61	包含層の土器(7)	419
図版Ⅲ-31	H-22と土器	389	図版Ⅲ-62	包含層の土器(8)	420
図版Ⅲ-32	H-23と遺物	390	図版Ⅲ-63	包含層の土器(9)	
図版Ⅲ-33	H-24と遺物	391		・土製品・石製品	421
図版Ⅲ-34	H-25と遺物	392	図版Ⅲ-64	包含層の剥片石器(1)	422
図版Ⅲ-35	H-26土層遺構と土器	393	図版Ⅲ-65	包含層の剥片石器(2)	423
図版Ⅲ-36	H-26	394	図版Ⅲ-66	包含層の剥片石器(3)	424
図版Ⅲ-37	H-26と遺物(1)	395	図版Ⅲ-67	包含層の剥片石器(4)	425
図版Ⅲ-38	H-26の遺物(2)	396	図版Ⅲ-68	包含層の剥片石器(5)	426
図版Ⅲ-39	H-27と遺物	397	図版Ⅲ-69	包含層の剥片石器(6)	427
図版Ⅲ-40	H-28と遺物(1)	398	図版Ⅲ-70	包含層の礫石器(1)	428
図版Ⅲ-41	H-28の遺物(2)	399	図版Ⅲ-71	包含層の礫石器(2)	429
図版Ⅲ-42	H-29・30と土器	400	図版Ⅲ-72	包含層の礫石器(3)	430
図版Ⅲ-43	H-31土層遺構と遺物	401	図版Ⅲ-73	包含層の礫石器(4)	431
図版Ⅲ-44	H-31	402	図版Ⅲ-74	包含層の礫石器(5)	432
図版Ⅲ-45	H-31と遺物	403	図版Ⅲ-75	低湿部の土層	433
図版Ⅲ-46	P-1・5・6・7・8・10	404	図版Ⅲ-76	低湿部調査風景	434
図版Ⅲ-47	P-11・12と石冠・15・16・20	405	図版Ⅲ-77	完掘風景	435



I 調査の概要

要約の査読 I

I 調査の概要

1 調査要項

事業名	都地区道営畑地帯総合土地改良事業用地内埋蔵文化財発掘調査			
委託者	北海道石狩支庁			
調査遺跡	オサツ 2 遺跡		オサツ 14 遺跡	
登録番号	A-03-14		A-03-245	
所在地	千歳市都268-1・7		都266-1・2、279-1・2	
受託期間	平成4年7月15日～5年3月26日	平成5年4月27日～6年3月25日	平成6年4月8日～7年3月27日	平成6年4月8日～7年3月27日
発掘期間	平成4年8月1日～10月29日	平成5年5月6日～10月30日	平成6年6月15日～10月21日	平成6年5月6日～8月31日
調査面積	870㎡	650㎡	810㎡	1,620㎡

2 調査体制

平成4年度	平成5年度	平成6年度
調査部長 森田 知忠	調査部長 森田 知忠	調査部長 森田 知忠
調査第1課長 鬼柳 彰	調査第1課長 鬼柳 彰	調査第3課長 千葉 英一
主任 田才 雅彦	主任 田才 雅彦	主任 三浦 正人
囑託 鎌田 望	囑託 鈴木 信	主任 鎌田 望 主任 鈴木 信

3 調査に至る経緯および調査経過

北海道教育委員会と北海道石狩支庁との当該事業（都地区・長都地区）に関する協議の経過および遺跡の取扱いについては、前年度に刊行したユカンボシC 2遺跡の報告書（北海道埋蔵文化財センター調査報告書第86集）に記したので省略することとし、ここでは今年度報告分の二遺跡について簡略に述べる。

オサツ2遺跡については、畑地部分の所在確認調査は昭和61（1986）年7月に、範囲確認調査は昭和62年10月に行われ、農道改良工事部分の範囲確認調査は平成3（1991）年11月に行われた。発掘調査は前記要項のごとく三ヶ年にわたり、その調査面積は当初計画では2,760㎡であったが、側溝分減665㎡、南側湿地分増235㎡、差引430㎡減の2,330㎡である。

オサツ14遺跡については、昭和61年の所在確認調査の際に当該畑地で遺物が採集され、昭和62年の範囲確認調査の結果、新たな埋蔵文化財包蔵地として確認された。その後農道改良工事計画に伴い、改めて平成4（1992）年6月に所在確認調査、8月に範囲確認調査が実施され、その結果発掘調査面積は1,620㎡である。

I 調査の概要



図 I-1 遺跡の位置 (平成2年修正1/100000図)

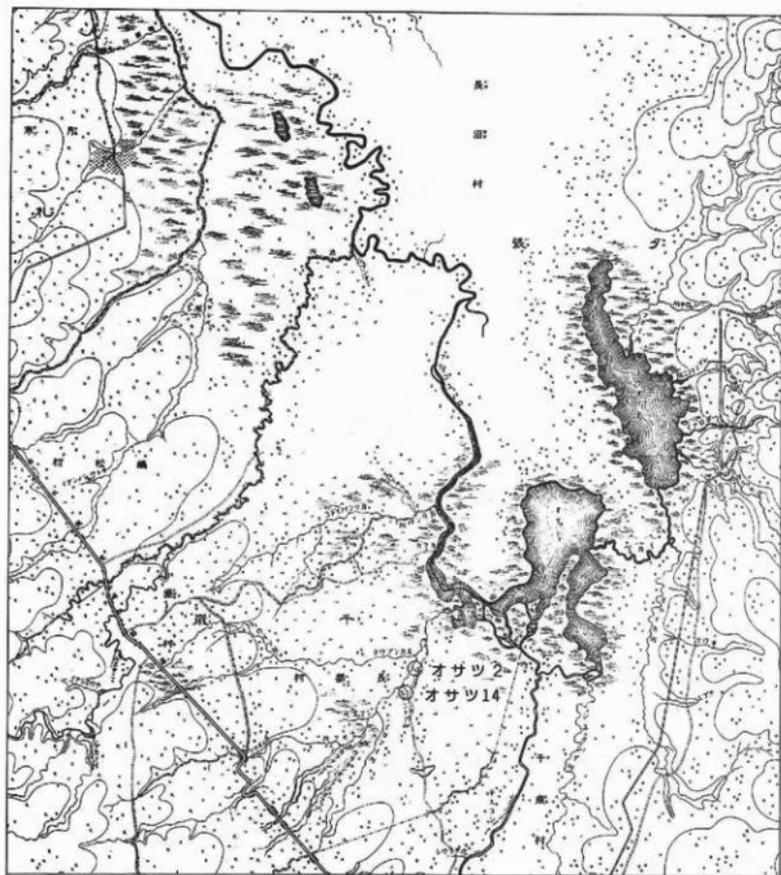


図1-2 遺跡の位置 (明治29年仮製1/100000図)

I 調査の概要

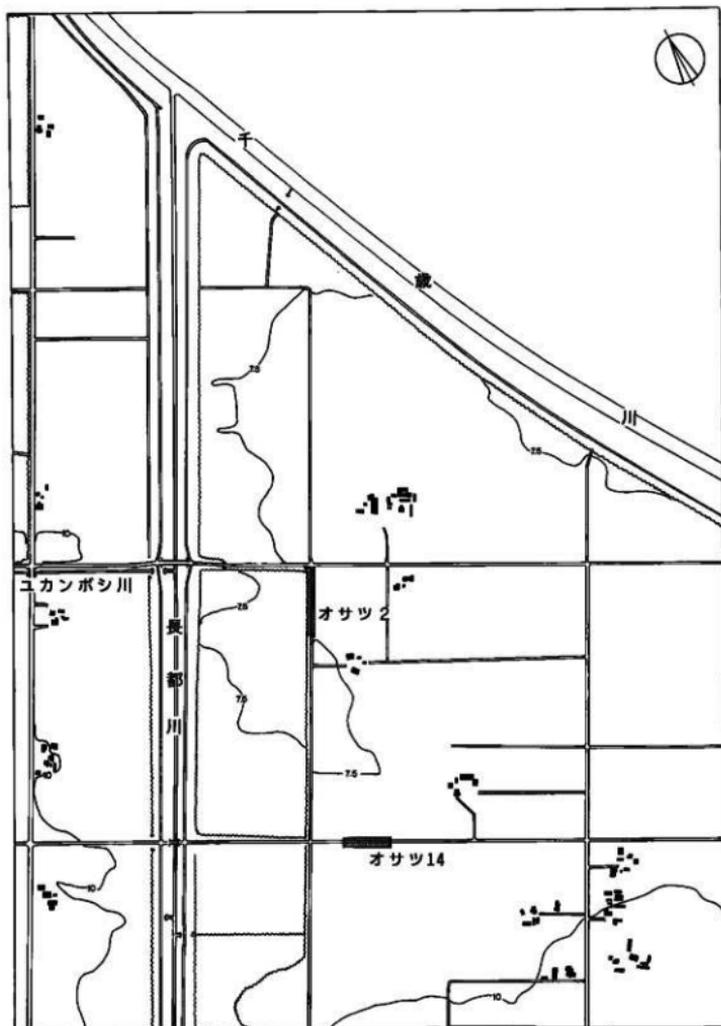


図 I-3 発掘調査区の位置と周辺の地形

4 調査結果の概要

ここでは二遺跡における遺構数および出土遺物数をそれぞれ表にて示すこととし、詳細については各遺跡の概要を参照されたい。

なお、本報告書ではオサツ2遺跡について台地部分の統縄文時代以降のものを報告することとし、旧石器時代および縄文時代のもの、また平成6年度に調査した低湿部については次年度に報告する。

表 I-1

オサツ2遺跡遺構数一覧

種別	時代・時期	4年度	5年度	6年度	計
竪穴住居跡	縄文		24	3	27
	擦文	14	6		20
土 壇 墓	統縄文	5	3		8
	アイヌ文化期	2			2
土 壇	縄文	4	11	1	16
	統縄文		6		6
Tピット	縄文	4	3		7
	旧石器		1		1
焼 土	縄文	3	8	2	13
	統縄文以降	26	9		35
鍛 冶 擦	文		2		2
道 跡	アイヌ文化期			1	1
杭 穴	擦文以降	> 900	> 400	+	> 1300
集 石	統縄文以降	2	2		4

表 I-2

オサツ2遺跡遺物数一覧（今年度報告分）

種別	数	備 考
土器(復元)	133	統縄文土器15、擦文土器118
土 器 片	6,234	縄文土器1,615、統縄文土器431、擦文土器4,118
土 製 品	23	玉、紡錘車、ふいごの羽口など
石 器 類	5,799	剥片石器951、礫石器95、剥片・石核3,711、礫・礫片1,042
石 製 品	11	管玉など
金属製品	62	刀子、小札、銃鉄片など
計	12,262	これらのほかに木製品・動植物遺存体あり

表 I-3

オサツ14遺跡遺構数一覧

種別	縄文	擦文	アイヌ文化期	計	備 考
竪穴住居跡	31	1		32	(縄文)前期5、中期24、後期2
建 物 跡			2	2	
土 壇	50	1		51	(縄文)前期1、中期22、後期27
焼 土	36		4	40	(縄文)前期1、中期12、後期23
計	117	2	6	125	

表 I-4

オサツ14遺跡遺物数一覧

種別	数	備 考
土 器	34,023	縄文土器33,845、擦文土器178
土 製 品	4	三角土製品
石 器 類	27,628	剥片石器487、礫石器392、剥片・石核25,581、礫1,168
石 製 品	2	ひすいの玉
金属製品	2	鉄錐
木 製 品	53	車轆の軸受部、串、杭、割材など
計	61,712	これらのほかに動植物遺存体あり



図1-4 周辺の遺跡（この図は、千歳市教育委員会発行「千歳市埋蔵文化財包蔵地分布図」のNo.19・20・25・26を25,000/1に縮小複製したものである。）

表I-5 周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	時期	発掘調査歴	文献No.等
3	ユカンボシC1	墳墓?	縄文・弥文・アイヌ	1947頃 河野広道 No.13か	5?
4	ユカンボシC2	集落跡	縄文・弥文・アイヌ	1969 石川徹 1993 創造文化センター 1988, 1989, 1994 千歳市教委	4・9・10・14
5	ユカンボシC3	集落跡	縄文・弥文	1990 千歳市教委	11
6	ユカンボシC4	集落跡	縄文・弥文		
7	ユカンボシC5	集落跡	縄文・弥文・アイヌ	1990, 1991 千歳市教委	11
8	ユカンボシC6	遺物包含地	縄文・弥文・アイヌ	1990 千歳市教委	11
9	ユカンボシC7	住居跡	弥文		
10	ユカンボシC8	遺物包含地	縄文・弥文・アイヌ	1991 千歳市教委	
11	ユカンボシC9	集落跡	弥文		
13	オサツ1	墳墓・集落跡	弥文・アイヌ	1950 河野広道 No.3か	4・5?
14	オサツ2	集落跡・墓	歌川・縄文・アイヌ	1992, 1993, 1994 創造文化センター	4 当報告・整理中
15	オサツ3	集落跡	弥文		4
16	オサツ4	遺物包含地	縄文		
17	オサツ5	集落跡	縄文・弥文・アイヌ		2・4
18	オサツ6	遺物包含地	縄文		
19	オサツ7	遺物包含地	弥文		
21	長都のチャシ	チャシ跡	アイヌ	1965 千歳市教委調査	2・4・13
22	イヨマイ1	集落跡	弥文・アイヌ		
23	イヨマイ2	遺物包含地	縄文		
24	イヨマイ3	集落跡	弥文		
25	イヨマイ4	集落跡	縄文・弥文		
26	長 都 田 中	集落跡	縄文・弥文・アイヌ	1953 Howard A.MacCord	1
27	シマコツナイ1	遺物包含地	縄文		
28	シマコツナイ2	遺物包含地	縄文		
29	シマコツナイ3	遺物包含地	縄文・弥文		
32	ウツノヤマトナ	集落跡	弥文		
33	ウツノヤマトナ	集落跡	弥文		
34	カマクツナイ	集落跡	弥文		
35	都	遺物包含地	縄文		
36	都のチャシ	チャシ跡	アイヌ	1966 大場利夫・石川徹	2「移遺跡」、13
37 (42)	末 広 (根志越2)	集落跡	縄文・縄文 弥文・アイヌ	1968 大場利夫・石川徹 1980, 1981, 1984 千歳市教委	3・6・7・8
38	トメト川1	集落跡	弥文		
39	トメト川2	集落跡・墳墓	縄文・弥文		
40	トメト川3	集落跡	弥文		
41	根 志 越 1	集落跡	弥文		
241	根 志 越 3	遺物包含地	アイヌ	1983 丸木舟発見	
244	ユカンボシC12	遺物包含地	縄文		
245	オ サ ツ 14	集落跡・墓	縄文・弥文・アイヌ	1994 創造文化センター	当報告
251	ユカンボシC13	遺物包含地	縄文・弥文・アイヌ	1991 千歳市教委	12
266	オ サ ツ 17	集落跡	縄文・弥文		

〔文献〕

- Howard A.MacCord 1960 'CULTURAL SEQUENCES IN HOKKAIDO,
[Proceedings of the United State National Museum] 3443
- 大場利夫・石川徹 1967 『千歳遺跡』
- 石川徹 1979 『続千歳遺跡』
- 宇田川洋校註 1984 『河野常吉ノート 考古篇1』
- 宇田川洋編 1984 『河野広道ノート 考古篇5』
- 千歳市教委 1981 『末広遺跡における考古学的調査(上)』市文調報Ⅴ
- 千歳市教委 1982 『末広遺跡における考古学的調査(下)』市文調報Ⅵ
- 千歳市教委 1985 『末広遺跡における考古学的調査(総)』市文調報Ⅹ
- 千歳市教委 1989 『ユカンボシ2遺跡発掘調査概報(1)』
- 千歳市教委 1990 『ユカンボシ2遺跡発掘調査概報(2)』
- 千歳市教委 1990 『ユカンボシ3・5・6遺跡発掘調査概要報告』
- 千歳市教委 1991 『ユカンボシC13遺跡における考古学的調査』市文調報ⅩⅦ
- 北海道教育委員 1983 『北海道のチャシ』
- 創造文化センター 1994 『千歳市ユカンボシC2遺跡』北道調報86
- 千歳市教委 1979 『千歳市における埋蔵文化財(上)』市文調報Ⅴ
- 千歳市教委 1994 『千歳市埋蔵文化財包蔵地分布図』
- 北海道教育委員会生涯学習部文化課 埋蔵文化財包蔵地カード

5 遺跡の立地と周辺の遺跡

北の空の玄関千歳市は、石狩支庁の最南部に位置し、市街地は支笏湖から東流する千歳川の中流域に発達している。支笏湖の周縁は樽前山・不風死岳・恵庭岳などの火山地帯で、支笏湖カルデラや恵庭岳・樽前山を噴出源とする降下火山灰は、千歳市以東の広い範囲に分布しており、遺構・遺物の年代指標となっている。千歳川は市街地からは、マチ川・長都川などの支流を集めて平野部を北流し、石狩川へと向かっている。長都川は市街地西側の山間部に源を発し、ボンオサツ川・イヨマイ川・ユカンボシ川などの支流を合流して北東に向かい、千歳川に注いでいる。千歳市の北東部にはかつてオサツトー・マオイトーという二つの沼があり、千歳川はオサツトーを貫流し、長都川もこの沼に注いでいた。この周辺は洪水の頻発地帯で、治水工事や土地改良のために、二つの沼も昭和26年から45年の干拓で埋め立てられ、長都川も下流が直線化されて現河道に変更された。

今回調査したオサツ2遺跡・オサツ14遺跡はこの旧長都村地域にあり、千歳市街地から北へ約5km、新千歳空港からは約10kmの畑作地帯に位置する。オサツ2遺跡は、土地改良区画東7線南24号道路の交叉点南に広がり、長都川河口からは約1km上流の右岸200mにある。オサツ14遺跡は、オサツ2遺跡の南南西500m、東7線南25号の南北に広がっている。

オサツ2遺跡は、長都川旧流の右岸に立地する。北側に隣接する国有保安林内には、縄文文化期の竪穴住居跡とみられる窪みが約20箇所残っており、これらオサツ1・3遺跡とオサツ2遺跡は、本来連続した縄文文化期の大規模な集落と考えられる。調査前の畑地には竪穴住居のクロープマークも確認されている（口絵参照）。また長都川旧流の河道が、調査区中央と南側の低湿部や、遺跡から100mほど東にみられるソイルマークに現われている。

オサツ14遺跡は、旧長都川と北流しこれに合流するエアニトマム川に挟まれた標高8mの低位段丘上に立地している。エアニトマム川は現在は畑地となり、痕跡をとどめるだけになっている。遺跡周辺は、長都川旧流がそれに沿う小河川による低湿部となっている。

長都川とその支流両岸には、約60カ所の遺跡が確認されている。図1-4に示したこの流域の34カ所中では、縄文時代の遺跡が22カ所、縄文文化期の遺跡が24カ所と多く、アイヌ文化期の遺跡も14カ所を数えるが、統縄文時代の遺跡が2カ所と少ない。縄文文化期の24カ所のほとんどは、集落跡と推定される。ユカンボシC1遺跡やオサツ1遺跡には、北海道式古墳様の盛土墓があったとされている。オサツ2遺跡の対岸にあたるユカンボシC2遺跡では、1966年に縄文文化期の竪穴住居が1軒、1988・1989・1994年には千歳市教育委員会により縄文文化期の竪穴住居群・アイヌ文化期の建物跡・鍛冶遺構等が、1993年には当センターが縄文時代早期の竪穴住居群等を調査、報告している。縄文文化期の竪穴住居は、1953年に長都田中遺跡でも調査されており、竪穴覆土からは鉄鍋の破片も発見されている。アイヌ文化期の遺構は上記建物跡のほか、長都川左岸に長都のチャシ、エアニトマム川右岸に都のチャシが知られている。

長都地区には江戸時代「シコツ十六場所」のひとつであるオサツ場所があり、アイヌの人たちと場所請負人との間で交易が行われていた。幕末の松浦武四郎『戊午日誌』には、「ヲサツ 川巾五六間、是も砂川也。此川すじの大河也と。其名義川巾はひろけれども、川口は乾て舟が入れがたしと云儀のよし也。本名はヲサツテの由なり。此処に人家はなけれども、是より一里許も下なる川口には、土人小屋此辺に落々として九軒程有と。」と記され、アイヌの人々の集落があったことがうかがえる。しかし、「皆若きものは雇に遣られて家は婆と子供のみ残り居るとかや。」などと、場所請負人に強制労働させられるアイヌの人たちの不当な扱われかたも記されている。

今後も周辺での発掘調査は続くものと思われ、新たな考古学的成果と発展が期待される。（三浦）

6 遺物の分類

(1) 土器

I群 縄文時代早期に属するもの。

- a類 貝殻腹縁圧痕文、条痕文のある土器群。
- b類 縄文・燃糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文などの施される土器群。
 - b-1類 東劍路Ⅱ式、東劍路Ⅲ式に相当するもの。
 - b-2類 コッタロ式に相当するもの。
 - b-3類 中茶路式に相当するもの。
 - b-4類 東劍路Ⅳ式に相当するもの。

II群 縄文時代前期に属するもの。

- a類 縄文の施された丸底、尖底を特色とする土器群。
 - a-1類 縄文土器に相当するものと結束のない羽状縄文の施された丸底を特色とするもの。
 - a-2類 春日町式、中野式など縄文の施された尖底を特色とするもの。
- b類 円筒土器下層式、植苗式に相当するもの。

III群 縄文時代中期に属するもの。

- a類 円筒土器上層式に相当するもの。
- b類 a類以外のもの。
 - b-1類 天神山式に相当するもの。
 - b-2類 柏木川式に相当するもの。
 - b-3類 北筒式（トコロ6類）、ノダップⅡ式、煉瓦台式に相当するもの。

IV群 縄文時代後期に属するもの。

- a類 余市式、入江式に相当するもの。
- b類 船泊上層式、手船式、鯨調式、エリモB式に相当するもの。
- c類 堂林式、三ツ谷式、御殿山式に相当するもの。

V群 縄文時代晩期に属するもの。

- a類 大洞B式、上ノ国式に相当するもの。
- b類 大洞C₁式、大洞C₂式に相当するもの。
- c類 大洞A式、大洞A'式に相当するもの。

VI群 続縄文時代に属するもの。

VII群 縄文時代に属するもの。

1 調査の概要

(2) 石器・石製品

器種別の大分類にとどめ、記号等による細分は行っていない。剥片石器には石鏃、石錐、ポイントもしくは両面加工のナイフ、つまみ付ナイフ、スクレイパー類、楔形石器、異形石器、刃こぼれ状の使用痕ある剥片（Uフレイク）、二次加工痕ある剥片（Rフレイク）などが、礫石器には磨製石斧、北海道式石冠を含むすり石、たたき石、くぼみ石、石皿・台石、砥石、石鋸、二次加工痕ある礫（R礫）などがある。ほかに剥片・石屑、石核、原石、礫・礫片がある。また旧石器時代のものと考えられる石刃、彫刻刀形石器、細石刃様石核も出土している。

石製品には管玉などの玉類がある。

(3) 土製品

縄文時代のものには三角土製品と称されるもの、埴文時代のものには紡錘車、ふいごの羽口、玉などがある。

II オサツ2遺跡の調査

II オサツ2遺跡の調査

1 概要

オサツ2遺跡は千歳市の北方約5km、長都川河口から約1km上流の右岸に位置している。この川の両岸には現在までのところ19カ所の遺跡が確認されており、その内11カ所は縄文時代の遺跡で下流に集中している。また、長都川に面して2カ所のチャシ跡があり、アイヌ文化期の遺跡も多く存在する。

遺跡の北側に隣接する国有保安林の中には、縄文時代の竪穴住居跡とみられる窪みが約20カ所残っており、南側の林の中や西側の畑の中にも多くの竪穴住居跡が分布している。これらのことから、本来はオサツ1・2・3遺跡は連続した縄文時代の大規模な集落跡と考えられる。

以前、長都川は千歳川に流れ込まず、長都沼（オサツト）に注いでいた。長都沼は馬追沼（マオイト）とともに昭和20年代から本格的に行われた千拓工事によって埋め立てられ、長都川もその後直線化された。このため遺跡が形成された当時とは景観が大きく変貌している。

調査区の現況は、未舗装の農道であった。厚く堆積していた盛土や樽前a火山灰によって包含層の上面は攪乱を受けていなかった。しかし、農道の側溝、水道管理設工によって一部はIVb層まで削平されていた。

遺物は、標高8.7mから6.5mまで分布している。縄文・縄文文化期の遺物は、標高8.0mよりも高い台地上に拡がっている。縄文時代の遺物は、前者よりも若干高い標高8.4m以上に拡がる。

調査区の設定（図II-1）

調査区は、工事予定地の東側の用地境界杭（R12）を基点（ $X=3$, $Y=7$ ）とし、R13方向（北東）をY軸の正方向を基線とした。L12方向（南西）をX軸の負方向とする座標を設定した。

グリッドは（ $X \cdot Y$ ）で表示する10m×10mの大グリッドを基本とし、各々の大グリッドを1m×1mの小グリッド（ $x y$ ）100個に分割した。各グリッドの表示は、大グリッドの場合は1・0区、1・3区、2・6区、などと表示した。なお、基線の方向は $N-20^\circ-E$ である。

各基準杭の座標は以下のとおりである。

L12杭（ $X=-125228.57$, $Y=-49028.90$ ）

R12杭（ $X=-125237.96$, $Y=-49010.34$ ）

R13杭（ $X=-125175.28$, $Y=-48979.17$ ）

L13杭（ $X=-125152.77$, $Y=-48991.76$ ）

基本層序（図II-2）

遺跡内の基本層序は、盛土、樽前a火山灰の降下軽石層、Ia、Ib、IIa、IIb、III、IVa、IVbの9層であり、これらは低湿度部を含めた調査区内のすべてで確認できた。

盛土：樽前a火山灰の降下軽石層と旧耕作土がまじったもの。

Ta-a：樽前a火山灰の降下軽石層、1739年降下

Ia：暗茶褐色粘質土、低湿度部・住居跡の凹みなどに堆積している。アイヌ文化期の遺物を含む。

Ib：灰褐色～灰白色粘質土、低湿度部・斜面部分・住居跡の凹みなどに堆積している。この層が白色がかかるのは珪藻土を非常に多く含むからである。アイヌ文化期の遺物を含む。

II オサツ2遺跡の調査

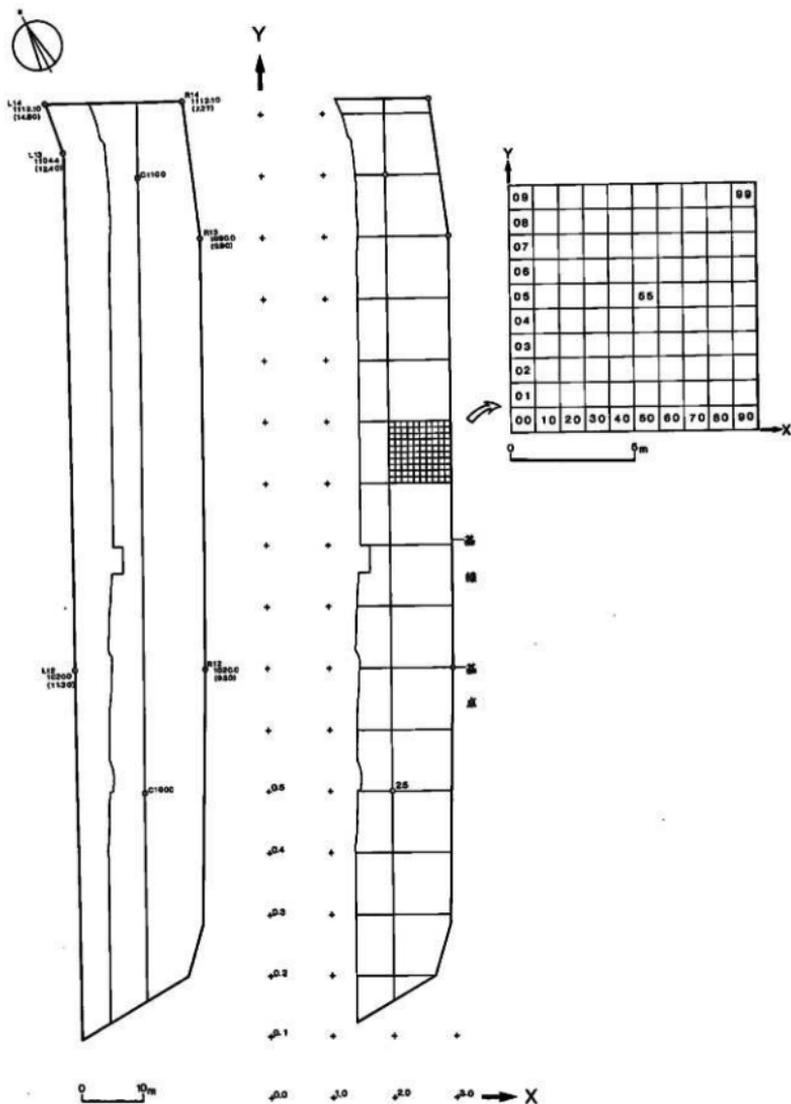
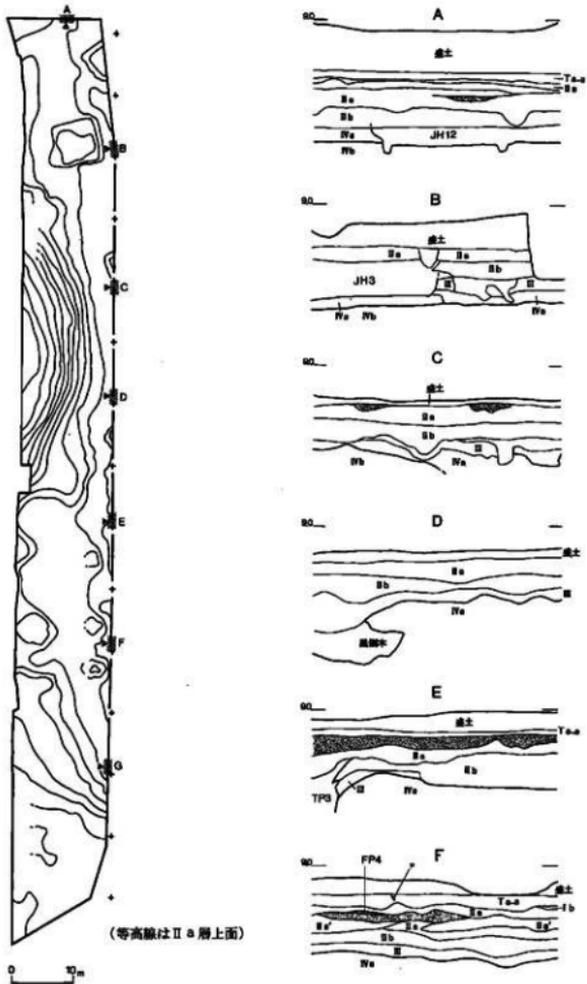
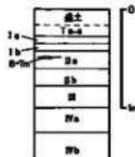


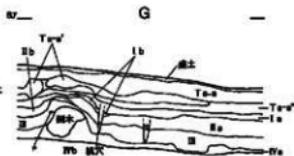
図 II - 1 発掘区の設定と表示



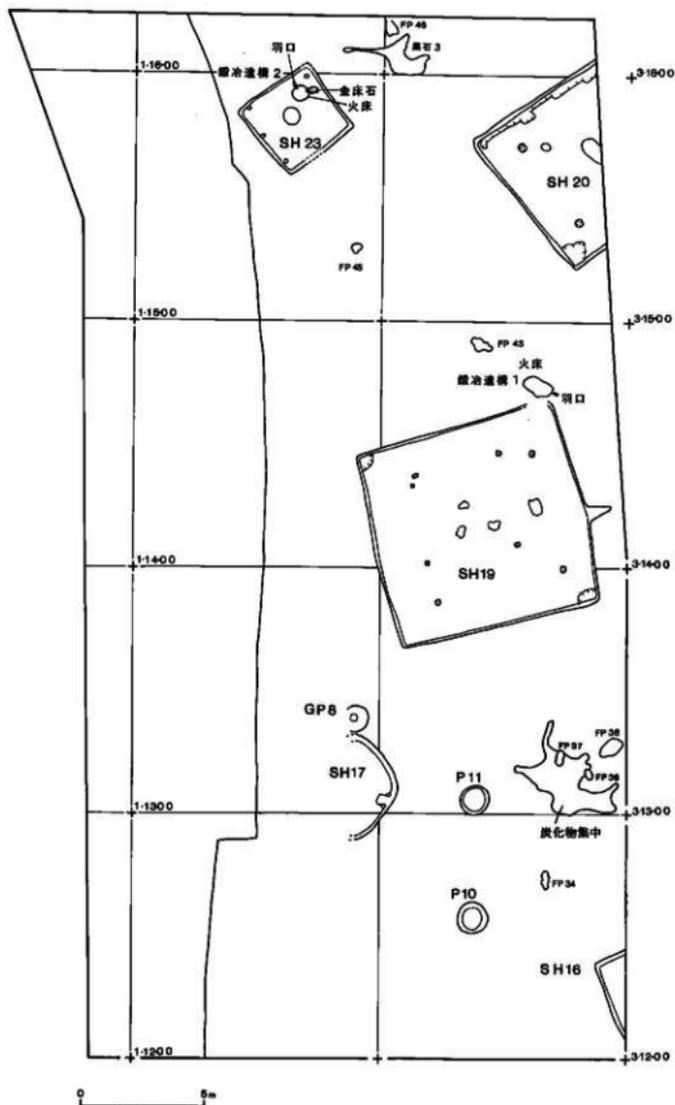
(等高線はIIa層上面)



- 基本層序
- T a - a : 雑草a層下層砂地埋層
 - I a : 暗茶褐色粘質土
 - I b : 灰褐色～灰白色粘質土
 - II a : 雑草c層下層石を含む黒色土
 - II b : 雑草c層下層石を含まない黒色土
 - III : 暗褐色土、IV aからII bまでの
 - IV a : 砂岩層
 - IV b : 黄褐色大粒礫石地埋層

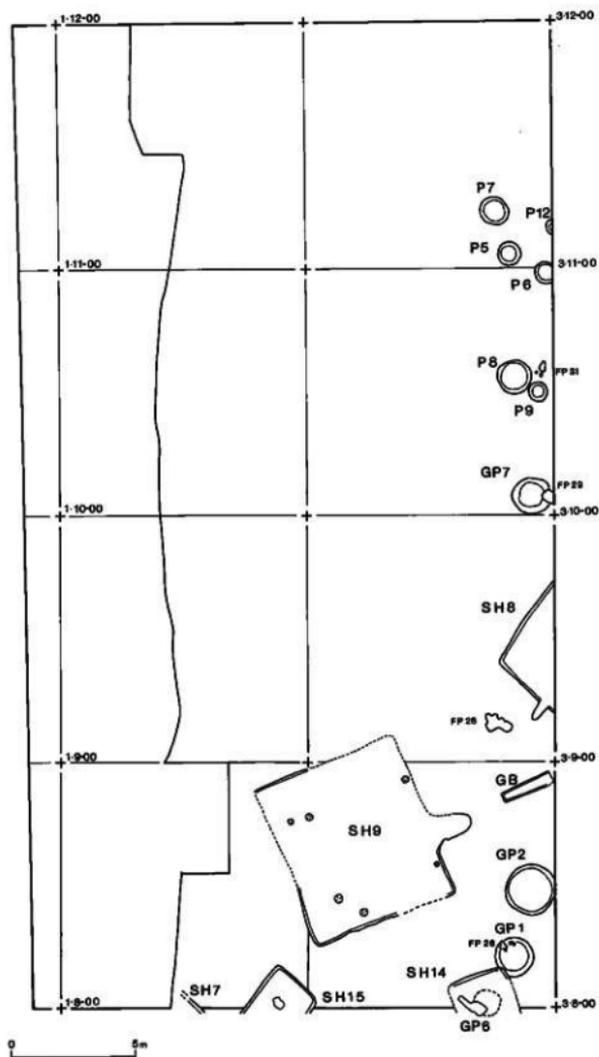


図II-2 土層断面

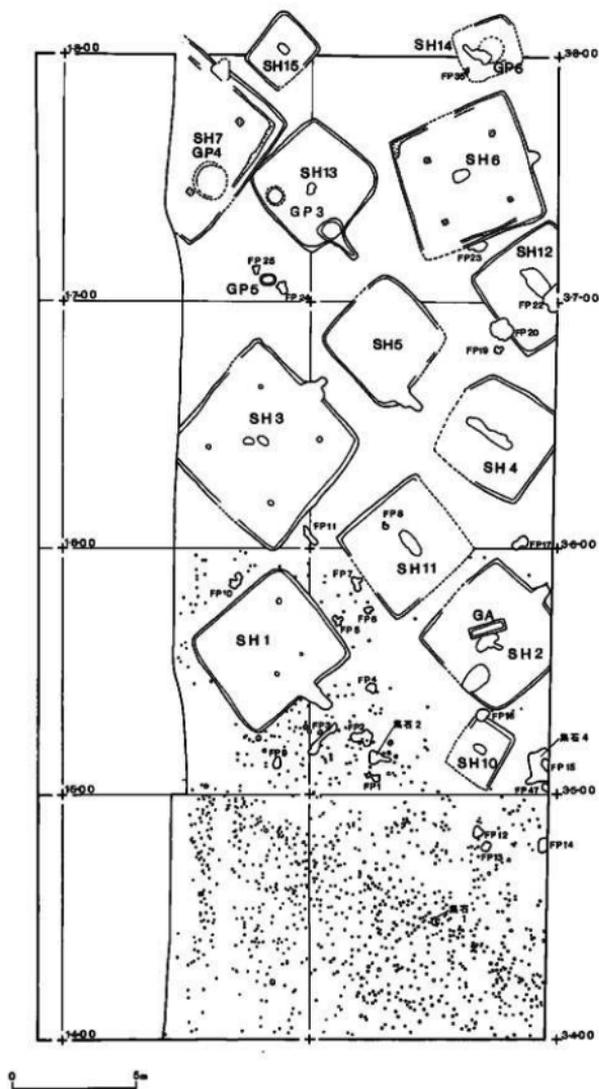


図Ⅱ-4 II a層の遺構位置(1)

II オサツ2遺跡の調査



図II-5 II a層の遺構位置②



図II-6 II a層の遺構位置(3)

表II-1 遺跡一覧

遺跡名	中心位置	切り舟の形状	時期	遺物	調査年度	調査者	遺物名	中心位置	切り舟の形状	時期	調査者	調査年度
GP-A	2.5-66	SH-2E	アノタツ	遺物	平成4	田才	FP-1	2.5-20			田才	平成4
GP-B	2.5-88		アノタツ	遺物	平成4	田才	FP-2	2.5-20			田才	平成4
SH-1	1.5-85		徳文文化層	遺物	平成4	田才	FP-3	2.5-02			田才	平成4
SH-2	2.5-76	GP-Aに	徳文文化層	一部焼酎で破壊	平成4	田才	FP-4	2.5-04			田才	平成4
SH-3	1.6-84		徳文文化層	一部焼酎で破壊	平成4	田才	FP-5	2.5-17			田才	平成4
SH-4	2.6-74		徳文文化層	1/4焼酎で破壊	平成4	田才	FP-6	2.5-27			田才	平成4
SH-5	2.6-38		徳文文化層	一部焼酎で破壊	平成4	田才	FP-7	2.5-18			田才	平成4
SH-6	2.7-38		徳文文化層	一部焼酎で破壊	平成4	田才	FP-8	2.5-22		SH-11の上	田才	平成4
SH-7	1.7-56	GP-4を	徳文文化層	排水設備前で破壊	平成4	田才	FP-9	1.5-81			田才	平成4
SH-8	2.9-94		徳文文化層	3/4掘削外	平成5	田才	FP-10	1.5-78			田才	平成4
SH-9	2.8-71		徳文文化層	掘削上土取りで破壊	平成4	田才	FP-11	1.6-00			田才	平成4
SH-10	2.5-26	FP-16が上	徳文文化層	1/2焼酎で破壊	平成4	田才	FP-12	2.4-86			田才	平成4
SH-11	2.5-49	FP-2が上	徳文文化層	1/2焼酎で破壊	平成4	田才	FP-13	2.4-77			田才	平成4
SH-12	1.7-90	FP-20-22が上 TP-2を	徳文文化層	1/4掘削外	平成4	田才	FP-14	2.4-07			田才	平成4
SH-13	2.7-04	GP-2, TP-4を	徳文文化層		平成4	田才	FP-15	2.5-31		SH-10の上	田才	平成4
SH-14	1.7-79	GP-1を	徳文文化層		平成4	田才	FP-16	2.5-33			田才	平成4
SH-15	1.8-00		徳文文化層		平成4	田才	FP-17	2.6-80			田才	平成4
SH-16	2.12-92		徳文文化層	一部焼酎で破壊	平成4	田才	FP-18	2.6-88			田才	平成4
SH-17	1.13-91		徳文文化層	一部焼酎で破壊	平成5	田才	FP-19	2.6-78		SH-12の上	田才	平成4
SH-18	2.14-41	JH-3.5を	徳文文化層	一部焼酎で破壊	平成5	田才	FP-20	2.6-99			田才	平成4
SH-19	2.15-76	JH-4を	徳文文化層	2/3土取りで破壊	平成5	田才	FP-21	2.7-02		JH-1の上	田才	平成4
SH-20	2.15-76	JH-4を	徳文文化層	1/2掘削外	平成5	田才	FP-22	1.7-71			田才	平成4
SH-21	1.15-67	敷設路2が上	徳文文化層	一部焼酎で破壊	平成5	田才	FP-23	1.7-90			田才	平成4
敷設路1	2.14-67	JH-17の上	徳文文化層		平成5	田才	FP-24	1.7-71			田才	平成4
敷設路2	1.15-69	SH-25の上	徳文文化層		平成5	田才	FP-25	2.8-82		GP-1の上	田才	平成4
GP-1	2.8-82	SH-14に	徳文文化層		平成5	田才	FP-26	2.9-71			田才	平成4
GP-2	2.8-84		徳文文化層		平成5	田才	FP-27	2.10-91		GP-7の上	田才	平成4
GP-3	1.7-84		徳文文化層		平成4	田才	FP-28	2.10-96			田才	平成4
GP-4	1.7-80		徳文文化層		平成4	田才	FP-29	2.12-67			田才	平成4
GP-5	1.7-80		徳文文化層		平成4	田才	FP-30	2.7-79			田才	平成4
GP-6	2.8-70	SH-14に	徳文文化層		平成4	田才	FP-31	2.13-81			田才	平成4
GP-7	2.10-00	SH-7に	徳文文化層		平成5	田才	FP-32	2.13-72			田才	平成4
GP-8	1.13-93		徳文文化層		平成5	田才	FP-33	2.13-82			田才	平成4
P-5	2.11-90		徳文文化層		平成5	田才	FP-34	2.14-93		JH-16の上	田才	平成4
P-6	2.10-99		徳文文化層		平成5	田才	FP-35	1.15-82			田才	平成4
P-7	2.11-72		徳文文化層		平成5	田才	FP-36	2.16-01			田才	平成4
P-8	2.12-35		徳文文化層		平成5	田才	FP-37	2.5-90			田才	平成4
P-9	2.13-30		徳文文化層		平成5	田才	FP-38				田才	平成4
P-10	2.13-30		徳文文化層		平成5	田才	FP-39				田才	平成4
P-11	2.11-91	JH-2を	徳文文化層		平成4	田才	FP-40				田才	平成4
P-12	2.4-44		徳文文化層		平成4	田才	FP-41				田才	平成4
敷51	2.5-20		徳文文化層		平成4	田才	FP-42				田才	平成4
敷52	2.5-20		徳文文化層		平成4	田才	FP-43				田才	平成4
敷53	2.16-00		徳文文化層		平成4	田才	FP-44				田才	平成4
敷54	2.5-80		徳文文化層		平成4	田才	FP-45				田才	平成4
敷55	2.5-80		徳文文化層		平成4	田才	FP-46				田才	平成4
敷56	2.5-80		徳文文化層		平成4	田才	FP-47				田才	平成4

- II a : 黒色土層前c火山灰の降下軽石を含む。美沢川流域の遺跡群における基本層序のI黒層に相当し、千歳市教育委員会の基本層序のI b層に相当する。統縄文時代からアイヌ文化期の遺物を包含する。
- II b : 黒色土層前c火山灰の降下軽石を含まない。美沢川流域の遺跡群における基本層序のII黒層に相当し、千歳市教育委員会の基本層序のII b層に相当する。おもに、縄文時代後期から中期にかけての遺物を包含する。
- III : 暗褐色土。II bとIV aとの間の漸移層。上面は縄文時代早期の遺物を包含する。
- IV a : 黄褐色土。
- IV b : 黄褐色大粒軽石堆積土。

以上のほかには、住居跡内の覆土や包含層のくぼみにはB-Tm(苫小牧火山灰)が散点的に堆積しており、低湿部には顕著にみられた。また、低湿部にはTa-c(樽前a火山灰の降下軽石層、縄文晩期降下)が、5cm位の厚さで堆積している。このようなTa-cの堆積は台地部や斜面部においてはみられない。

遺構(表I-1、表II-1、図II-3~6)

平成4年度の調査は段丘上面の調査と川岸低湿部のトレンチ調査を行った。その結果、段丘上面からは旧石器時代の遺物(ビュアリン、石斧未製品、細石刃)をはじめとして、縄文時代のTピット4基、縄文時代の焼土3基、統縄文時代の土壌墓5基、統縄文時代以降の集石2基、統縄文時代以降の焼土26基、擦文時代の竪穴住居跡14軒、アイヌ文化期の土壌墓2基、多数の杭穴や焼土が出土した。いっぽう低湿部からは、擦文時代以降の木製品(中柄、櫓、杭)が出土した。

平成5年度の調査は、調査区北部の段丘上面と調査区南部の旧長都川の岸辺についておこなった。旧石器時代の焼土1カ所、縄文時代中期後葉から後期初頭の竪穴住居跡24軒、土壌11基、Tピット3基、焼土8カ所、統縄文時代の土壌墓3基、土壌6基、統縄文時代以降の集石2基、統縄文時代以降の焼土9基、擦文時代竪穴住居跡6軒、鍛冶遺構2カ所、擦文時代の竪穴住居跡については、苫小牧火山灰のあり方や覆土の堆積からみて数時期に分かれるものと思われる。

平成6年度の調査は、調査区中央部の段丘面と低湿部、調査区南部の低湿部についておこなった。段丘面の調査では、縄文時代中期後葉の竪穴住居跡が3軒、土壌1基、焼土2基が検出された。低湿部の調査は、鋼矢板による止水及び調査区壁の崩落防止の安全対策を行い、4インチポンプで排水しながら手堀調査を行った。その結果、道跡1条、炭化物集中3カ所、立杭などが検出され、木製品が約1000点出土した。

遺物(表I-2)

今年度報告分の遺物は、土器については、主に擦文時代の竪穴住居跡から出土した擦文土器が復元個体で118点、主に統縄文時代の土壌墓から出土した後北式土器が復元個体で15点である。土製品は、擦文時代の紡錘車、白玉、平玉?、フイゴの羽口がある。石器では後北式期の土壌墓から出土した製品が目立っている。特に、緑色片岩の石鏃は5基の土壌墓から519点も出土しており、スクレーパーは25点、石斧は16点出土している。そのほかには、縄文時代の遺物が多く出土しているが、擦文時代や統縄文時代の遺構が、縄文時代の遺構や包含層を破壊した際に混じったものである。(鈴木)

2 遺構とその遺物

(1) 杭穴群(図Ⅱ-6、図版Ⅱ-6)

杭穴は約1300ヵ所検出できた。調査区全面に分布しているが、低湿部に続く標高7.50mから標高8.40m遺跡の南側斜面部分に密集する(1・4区、2・4区、1・5区、2・5区)。標高7.70m以下では杭穴の先端に木質の残存しているものもみられた。標高7.50m以下の低い部分では杭穴・立杭ともにほとんど分布していない。杭穴の平面形はほとんどが円形でまれに方形がある。直径は4cm~8cmがほとんどである。断面形は先端を尖らせたものが大半である。杭穴の覆土は、ほとんどがⅡaであるが、Ⅰa、Ⅰb、Ta-aが混じる例もある。

(2) アイヌ文化期の墓(図Ⅱ-7、図版Ⅱ-7・8)

GP-A

位置 2・5-66、76

規模 1.49/1.43×0.51/0.45×0.34m

調査

Ta-a層を除去した段階では大きな不整形のくぼみが検出されたので住居の落ちこみと認識し、さらに丁寧にTa-a層を除去したところ、くぼみの中央部が長楕円形にくぼんでいた。SH-2覆土上位のⅠa層の落ち込みとして確認した。

形態

平面形は一端が丸みを帯びる長方形。墳底は極めて平坦で、壁との境は明瞭。壁は直線的に上方へ立ち上がる。覆土は埋め戻しの3層で構成されている。長軸は東西方向にある。

遺体

遺存していない。ベンガラもみられない。

遺物

副葬品には、木部は残っていないが柄と思われる漆膜がある。これは内外面とも黒漆塗で、外面はそこに赤漆で十字の花びら状模様を描き込んでいる。そのほかには、安山岩の礫が2個副葬されていた。一つは重さ39.8kgの円礫で、もう一つは重さ60.1kgの角礫である。

時期

規模、形態、埋土、遺物の状況からアイヌ文化期の墓と判断した。

GP-B(図Ⅱ-7・8、図版Ⅱ-8)

位置 2・8

規模 (1.98) / (1.97) × 0.51 / 0.49 × 0.10m

調査

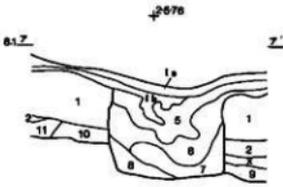
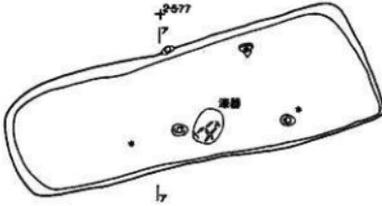
3・8区から3・9区の調査区域において、遺構確認のためトレンチを入れてみたところ、土壌のセクションを確認した。盛土除去後にⅡa層上面で、Ta-aが堆積したⅡa層の落ち込みを確認した。

形態

トレンチにより破壊してしまったが、平面形は一端が広がる長方形である。墳底は平坦で、壁の立ち上がりは明瞭である。壁は直線的に立ち上がる。覆土は埋め戻してⅡa層とTa-aが均一に混じっている。長軸は東西方向にある。

遺体

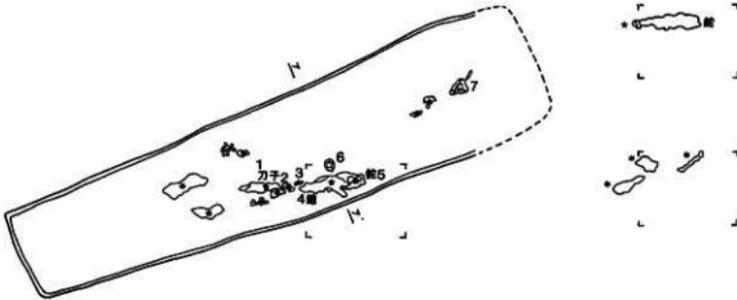
頭・腰・脚に相当する位置に骨の腐食した遺体層が残存していた。



- 1 黒色土 (H a + 厚 a)
 - 2 暗褐色土 (H > 厚 a - 粘土質 + 厚 a)
 - 3 黒色土 (H a + 厚 a), 3' は骨片を含む
 - 4 暗褐色土 (H > 厚 a + 厚)
 - 5 暗褐色土 (H a = H + 厚 a)
 - 6 黒褐色土 (H > 厚 a + 厚 - 粘土質)
 - 7 暗褐色土 (H a = H + 厚 a)
 - 8 黒色土 (H a + 厚)
 - 9 暗褐色土 (H a + 厚)
 - 10 暗褐色土 (H > 厚 a + 厚)
 - 11 黒褐色土 (H a + 褐色粘土)
- X 砂褐色を呈しよく掘り跡ある

+2980

+3000

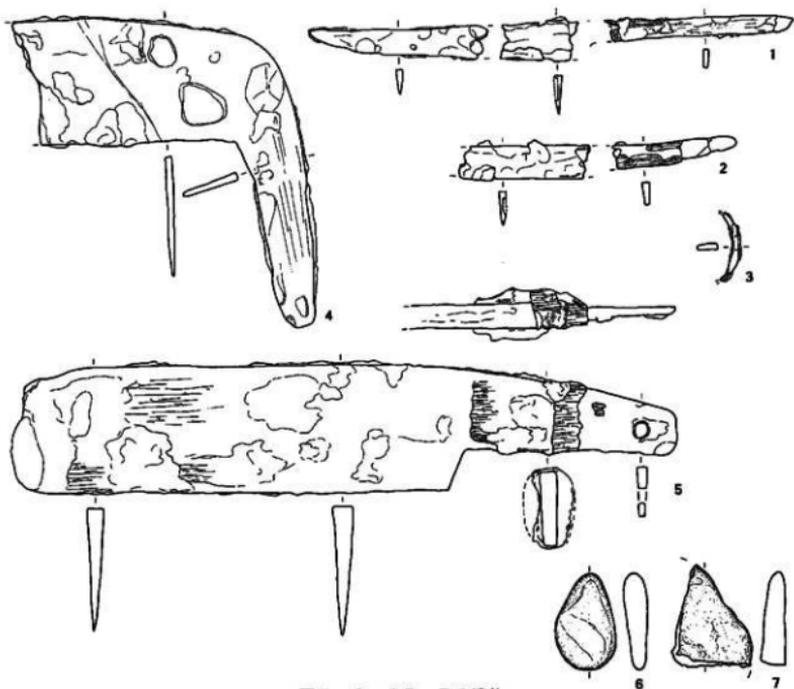


+2980

+3000



図II-7 GP-A・B



図II-8 GP-Bの遺物

遺物

刀子2点、鉄片1点、鎌1点、鉞1点と礫、礫片が出土している。遺体の腰に相当するあたりに刃部を外側、柄を脚側に向けた状態で鉞が出土した。この鉞の下から密着した状態で鎌が出土している。刃部は外側、柄は南壁を向いていた。鉞の柄の延長上では刀子が錆でくっついた状態で出土した。これらはいずれも遺体層の上から出土している。

1・2は刀子。小破片を接合して図のように復元したため、推定にとどまっている。1は茎が長く、2は茎がマキリのように外反している。残りの切先や茎片から見てもう1本ある可能性がある。3は刀子の小破片の中に混在していた。刀子鞘の責金具と思われる環状の破片。4は直刃の鎌で、刃の推定長は15cm。柄部には木質の痕跡があるが柄の固定孔はみられない。5は全長26.7cmの鉞で、体部が全体的にやや左反している。棟部中央やや先寄りに、敲打痕と思われるつぶれがある。体部全体に精木質の痕跡が、柄部には木質と樹皮巻が一部残っている。6は砂岩の円礫で、重さは34.9kg。7は安山岩の礫片。

時期

規模、形態、埋土、遺物の状況からアイヌ文化期の墓塚と判断した。

(3) 竪穴住居跡

SH-1 (図Ⅱ-9~13, 図版Ⅱ-9・20・21)

位置 1・5、2・5

規模 5.18/4.92×4.67/4.52×0.42m

調査

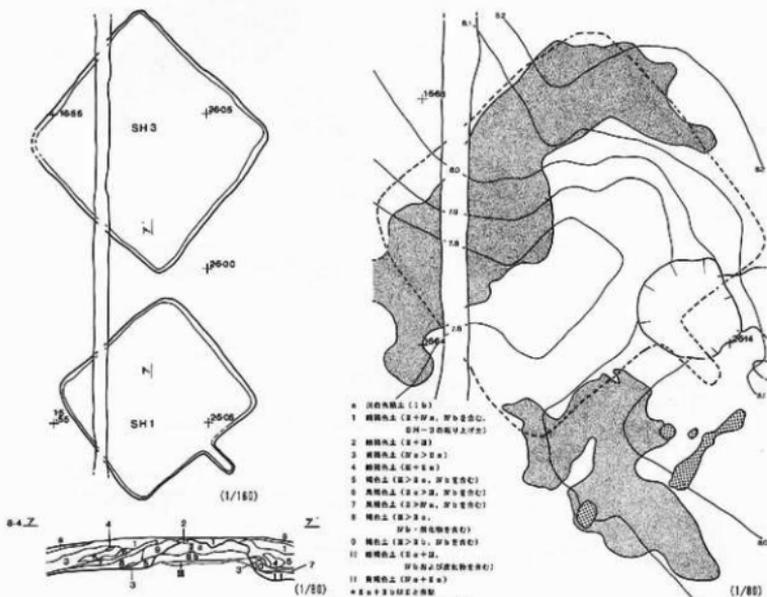
盛土除去後の1・5区、2・5区で、Ta-a層除去作業中にTa-a層の厚く堆積した回みを確認した。この回みのTa-a層の下にはI b層が堆積していた。東側の側溝攪乱の断面により竪穴のセクションを確認した。

掘揚げ土

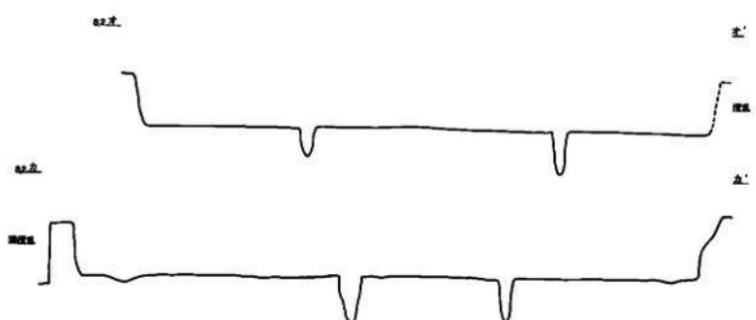
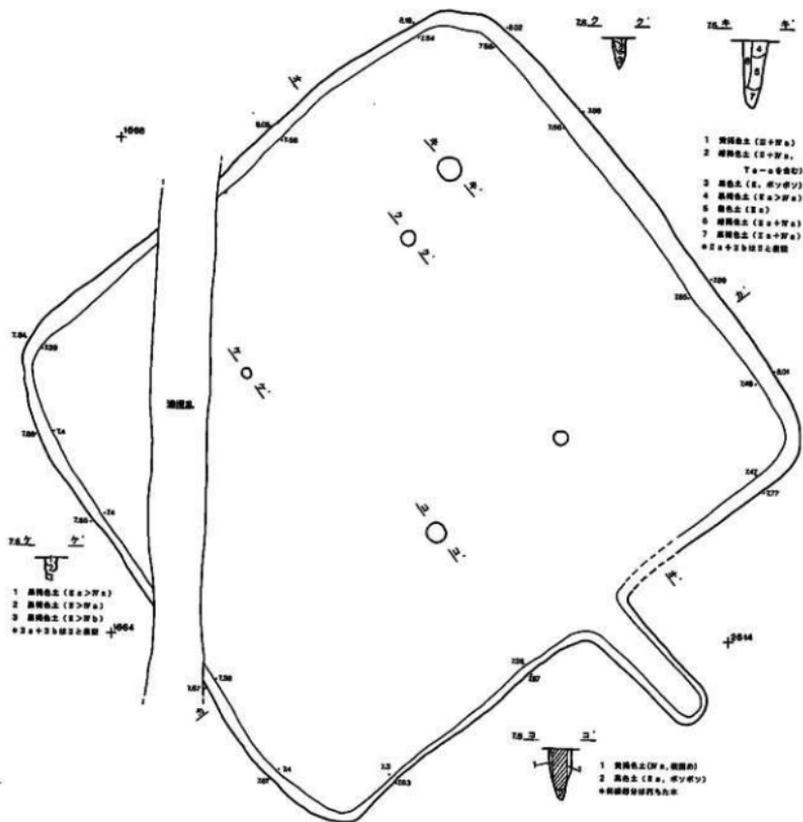
竪穴を取り囲むように掘揚げ土が分布している。特に、竪穴の南側には厚く堆積している。SH-1の北にはSH-3があり、これを繋いでトレンチを入れてみたところ(図Ⅱ-9参照)、SH-1の掘揚げ土の上をSH-3の掘揚げ土が覆っていた。これにより、SH-1がSH-3より古いことが確認された。

覆土

床面直上には、本竪穴の焼失に伴う炭化材を多量に含む層が見られる。それより上位は、掘揚げ土の流れ込みとIV層のバミスと骨粉を含むII a層が主体である。竪穴の南西側では、掘揚げ土の流れ込みの上に炭化材を含む層が堆積している部分も見られた。これらの上にはIV a層混じりのII a層が堆積しており、この回みをI b層が覆っているところにTa-a層が堆積したものである。



図Ⅱ-9 SH 1(1)



図II-11 SH1(3)

形態

平面形はほぼ方形を呈する。床はおおむね平坦だが、斜面に応じてわずかに傾斜がある。壁の立ち上がりは明瞭である。カマドの西側は倒木の攪乱により破壊されている。

付属遺構

南壁中央東寄りに灰白色粘土を用いた造り付けのカマドがある。天井石、袖石などの補強物はみられない。遺存状況は、真上からの圧力によって潰されたような状態である。焚口は掘り込みがなく、煙道側に斜めに高くなっている。焼土の下は灰白色粘土である。床面には炉は確認されていない。

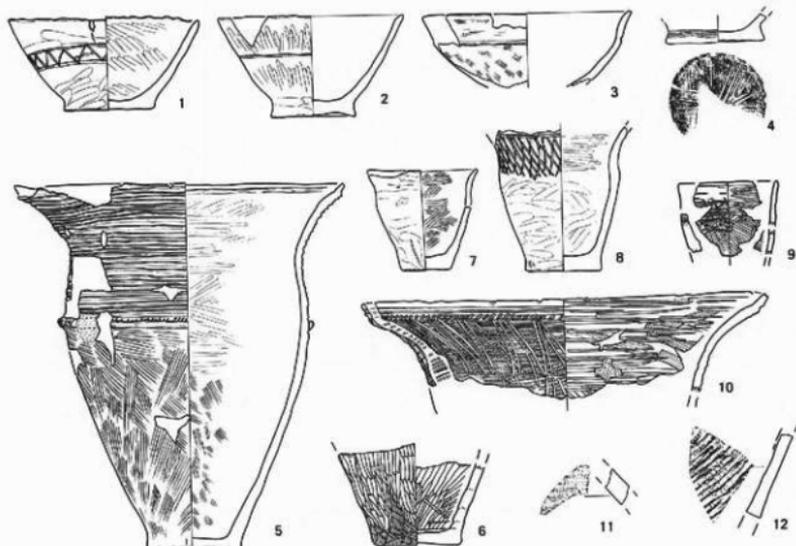
柱穴は5基検出されている。柱穴コは十文字ベルトでセクションを確認できた。柱の木質部が残存していた。柱穴キは他の柱穴よりも大きく深い。

炭化材出土状況

十文字にベルトを残して掘り下げると、床面直上に竪穴消失時の炭化材・炭化物の層を確認した。炭化材は竪穴中心部より北東寄りに集中している。竪穴中心部分には不整形に炭化物が分布していた。覆土の遺物の大半はこの層より出土している。

遺物

図Ⅱ-12-1はカマド左側の煙道から出土した坏で、2本の沈線で区画した中に単線の鋸歯文を施す。図Ⅱ-12-2は床面出土の坏で、体部中央に1本の沈線を施す。図Ⅱ-12-3は覆土1層から出土した坏で、体部中央の横位沈線を境に、上半は外反し下半は内湾する。図Ⅱ-12-4は覆土3層から出土した坏で、底部刻印記号がある。図Ⅱ-12-5は煙出し穴側の煙道から出土した深鉢で、貼付帯に刻目をもつ、内面はミガキ調整されている。図Ⅱ-12-6・7は床面出土である。覆土上層からは8-12が出土している。図Ⅱ-12-8・9は斜格子沈線の深鉢。図Ⅱ-12-10は上下段鋸歯状複沈線の深鉢。図Ⅱ-12-11・12は覆土出土の須恵器甕である。



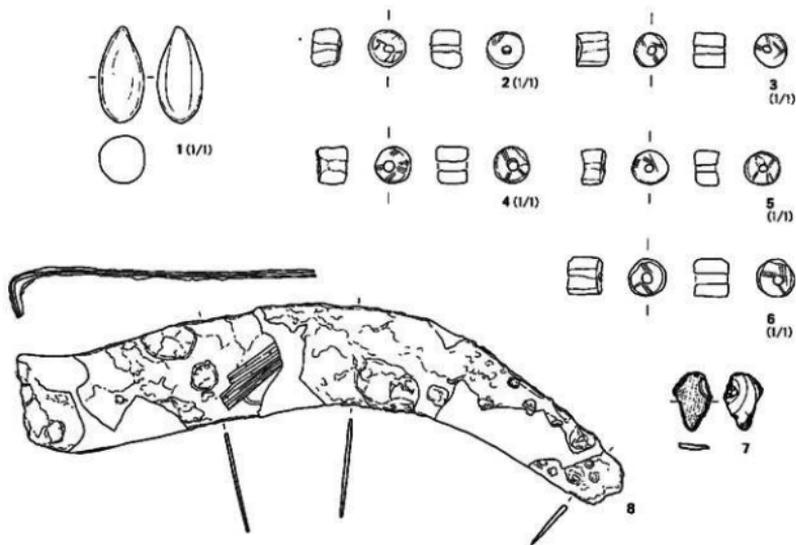
図Ⅱ-12 SH1の遺物(1)

図II-13-1はカマドの焼土をフローテーションして採集した。図II-13-2~6をフローテーションして採集した白玉である。外面はミガキ。図II-13-8は南西隅床面からは鎌で、全体に薄い造りの大型の曲刃鎌。先端部が逆に外反し、端は右に直角に折り曲げられている。ほかに小鉄片が1点出土している。カマドの右側の床にはこぶし大の礫が出土している。床面からは、流紋岩1点、安山岩19点、砂岩11点、泥岩2点、珪岩1点、片麻岩2点の完形礫が出土しており、流紋岩1点、安山岩5点、砂岩3点、泥岩2点の礫片が出土している。

植物種子は、キビ1点、ナス科4点、タデ科372点、アカザ属10点、カヤツリグサ科2点、マタタビ属2点、ニフトコ属7点などが検出されている。また、骨片(52.5g)は床やカマドから、炭化材片(23.6g)が得られた。

時期

SH-3の掘揚げ土がSH-1の掘揚げ土を覆っていることから、SH-3より古い縄文文化期の遺構と考えられる。



図II-13 SH1の遺物②

SH-2 (図II-14・15、図版II-10・21)

位置 2・5

規模 4.84/4.52×(4.76) / (4.48) ×0.43m

調査

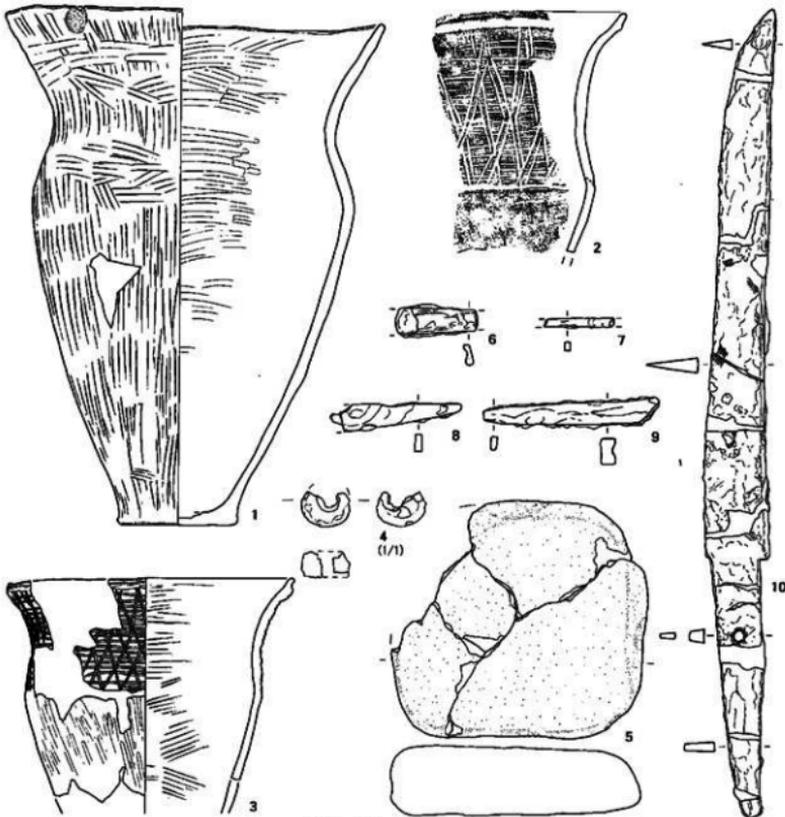
盛土などを除去した段階でTa-a火山灰の落ち込みを確認した。なお、ほぼ中央にアイヌ期の墓墳(GP-A)が掘り込まれている。壁の立上りの形態は溝攪乱の断面で確認できた。

掘揚げ土

竪穴周囲に、黄褐色ないし暗褐色の掘揚げ土が分布し、南側ではSH-10を、西側ではSH-11を埋めている。なお、掘揚げ土下の直下にB-Tm火山灰がみられた。

覆土

床面直上には、本竪穴の焼失に伴う炭化材を多量に含む層が見られる。それより上位は、掘揚げ土の流れ込みと、IV層のパミスを含むII a層が主体である。



図II-15 SH2の遺物

形 態

東端は調査区外のため不明であるが、ほぼ方形を呈するものと考えられる。床面はほぼ平坦である。カマドと反対側の壁面近くに楕円形の土壌が掘り込まれており、その上面に礫の集中がみられた。壁際の溝などはない。南側の壁は残りが良く、掘揚げ土の流れ込み状況から掘り込み面が明確にわかる。なお、F P-6は本竪穴構築時に残された焼土と考えられる。

付属遺構

北東壁の中央に白色粘土を用いた造り付けのカマドがある。天井石、袖石などの補強物はみられない。遺存状況は、真上からの圧力によって潰されたような状態である。焚口は掘り込みがなく、煙道側に斜めに高くなっている。焚口の焼土はかなり硬く縮って煙道に続き、火災の影響か煙出し部分にも焼土がみられる。

床面中央やや南西寄りに不整形の炉がある。炉床面は良く焼けて締まっており、骨片が多くみられた。なお北端はアイヌ期の墓壇によって切られている。

覆土下位の炭化材がみられる部分に、竪穴焼失時のものと考えられる焼土が分布している。

カマドの素材に用いられた粘土と同質の灰白色粘土が、床面の東側コーナー付近でブロック状にみられた。

柱穴竪穴内外ともに柱穴は認められなかった。

遺 物

1はカマドから出土した無文の深鉢で、接合関係を焚口周辺にもっている。文様は施されていないが整形技法や形態は2に近似する。底部に笹葉痕がある。2は覆土2層から出土した斜格子複沈線文の深鉢片。3は覆土3層から出土した斜格子沈線文の深鉢。胴部上半はタテミガキ。4はフローテーションで出土した滑石製の小玉、暗緑灰色を呈する。5は床面出土の安山岩の台石。6は中が凹んだ平棒状の破片で、包含層出土の図Ⅱ-81-1に類似する。鍛冶の際の鉄製品の素材と考える。7は細棒状で釘片、8はマキリの茎と思われるが、7とともに鍛冶での素材の可能性もあろう。9と10は覆土上面の出土で、アイヌ文化期のものである。9は平たい釘か鍛冶の鉄製品素材であろう。10は全長32.9cm、最大幅2.6cmの小刀で、棟がごくゆるく外反する。平棟平造りで、棟側に直角の区、刃側に浅い区という両区をもつ。刃の中ほどには使い減りが観察できる。ほかに刀片と思われる小破片が1点ある。

南西壁付近の土壌上面に43点からなる礫の集中が認められた。石質は流紋岩の2点を除き全て安山岩で、長さは最小43.7mm、最大69.4mm、平均54.8mmで、重さは最小が52.6g、最大が136.2gで、60g代が7点、70g代が8点、90g代が7点あり、平均は85.8gである。

據文時代の竪穴住居内でのこうした礫の集中出土例は、豊富遺跡（児玉、大場 1959）やワッカオイ遺跡（鮎津 1975）などで知られており、鮎津はアイヌ民族の例から「莫蓋」を編む際に用いる小石ではないかとしている。また、渡辺誠（1981）は「編物石」について4群・4類に分類しているが、本竪穴の例はA a類（全く加工のみられないすべすべした川原石）が素材で、用途としては第1群（編布、ハバキ製作用）と第2群（カゴ、コモ製作用）に該当する。

植物種子は、コムギ・キハダ・ブドウ各2点、アワ・マメ科各1点のほか、シソ属・タデ科などが検出されている。また、クルミの殻（0.2g）、骨片（1.4g）、炭化材片（478.5g）が得られた。

時 期

掘揚げ土の掛け合いの状況からSH-10・11より新しい縄文文化期に属する。

SH-3 (図II-16~19、図版II-10・22~24)

位置 1・5、1・6、2・6 m

規模 6.18/5.91×6.08/5.82×0.63 m

調査

盛土除去後、1・6区・2・6区でTa-a層の落ち込みを確認した。このTa-a層の下にはI b層が堆積していた。東側の側溝攪乱の断面により堅穴のセクションを確認した。

掘揚げ土

堅穴の周辺には掘揚げ土が分布しており、南側の掘揚げ土はSH-1の掘揚げ土を覆っている。また東側にあるSH-5は、SH-3の掘揚げ土により埋められている。

覆土

覆土下層には、本堅穴の焼失に伴う炭化材を多量に含む厚い層が見られる。この層で焼土が数多く検出されている。それより上位は、掘揚げ土の流れ込みとIV層のパミスと骨粉を含むII a層が主体である。これらの上にはIV a層混じりのII a層が堆積している。この回みをI b層が覆っているところにTa-a層が堆積したものである。

形態

平面形は菱形に近い、いびつな方形を呈する。床は平坦で壁の立ち上がりは明瞭である。

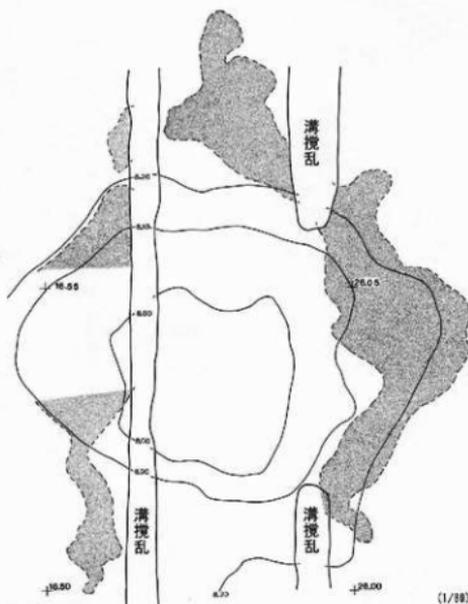
付属遺構

東壁中央に灰白色粘土を用いた造り付けのカマドがある。天井石、袖石などの補強物はみられない。遺存状況は、真上からの圧力によって潰されたような状態である。焚口は掘り込みがなく、焼けは構築面まで及んでいる。煙道に相当する部分に灰白色粘土が堆積しており、半割してみたが煙道はなかった。カマドの外見だけを真似て造ったかのように見える。

カマド南側の壁付近及び柱穴コとカマドの間には灰白色粘土がみられる。床面中央部やや北寄りに、不整形の焼土が2カ所ある炉を確認した。炉床面は良く焼け縮まっており、骨片が多くみられた。柱穴は4基検出されている。

炭化材出土状況

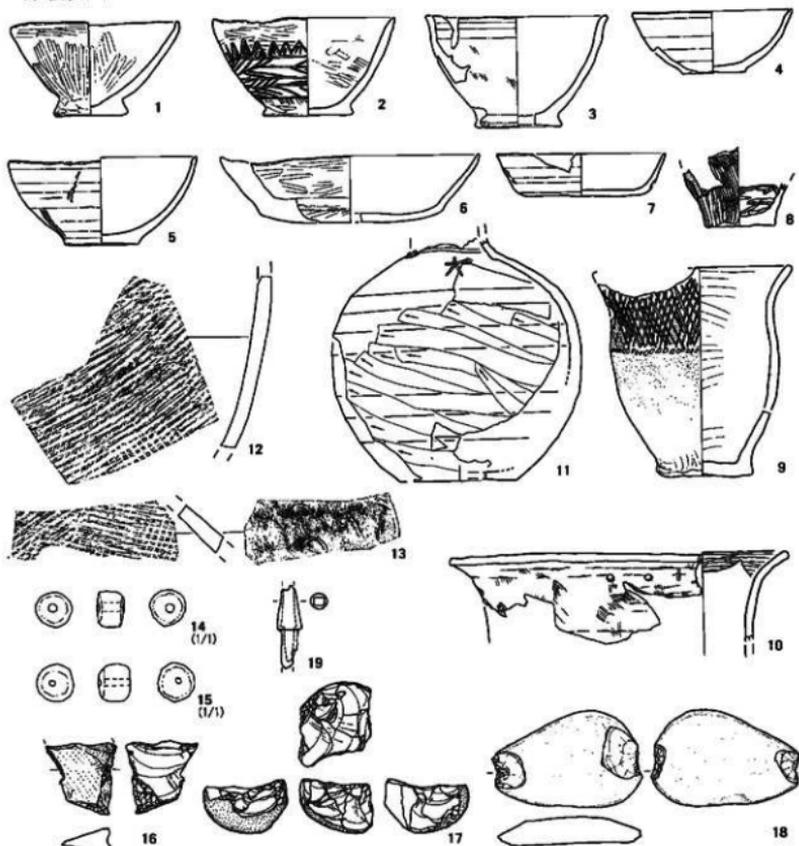
十文字にベルトを残して掘り下げると、覆土下層に堅穴消失時の炭化材・炭化物の層を確認した。炭化材は堅穴中心部を取り囲むように分布しており、炭化材がみられる部分には堅穴焼失時のものと考えられる焼土が分布している。炭化材はおおむね堅穴の中心部をむいてる。



図II-16 SH3(1)

遺物

図II-17-1は床面出土の坏で、外面は無文でタテミガキ。2はカマド焼土上・床面出土の坏で、外面はヨコミガキの後、体部に横位の矢羽状沈線文を施し、口縁部に鋸歯縄文を施す。3は覆土3層出土の坏で、外面は無文で口縁部にヨコナデを施す。4は床面出土の坏で、底部は回転糸切り。5は覆土2層・床面出土の内黒坏で、底部は回転糸切り。SH-4の覆土1の破片と接合関係をもつ。6は床面出土の内黒坏で、体部はやや外反ぎみに立ち上がる。7は覆土3層・床面出土の須恵器坏で、底部は回転ヘラ切りのあとナデ。SH-4の覆土上のII a層の破片と接合関係をもつ。8は床面出土の深鉢の下半。9は床面出土の深鉢で、胴部と頸部の境に区画の沈線（器表磨滅のため観察しづらい）を施し、斜格子沈線文を施し、再び沈線上に刺突を加える。10はカマド焼土上・覆土1層・覆土2層出土の無文の深鉢。SH-4の覆土1・3層の破片と接合関係をもつ。11は床面出土の須恵器細頸壺で、回転ナデのちクロコロ台から離してケズリを施す。肩部分には「大」の刻書がある。



図II-17 SH3の遺物(1)

「一」「(」」「ノ」と筆順は異なる。青森県前田目窯。12・13は床面出土の須恵器甕。SH-1の覆土1層、SH-4の覆土3層、SH-6の覆土1層の破片と接合関係をもつ。

図II-19-1は覆土2層・床面出土の内黒で、体部中央に沈線を施す。2は覆土2層の内黒坏で、口唇に沈線を施す。3は床面出土の無文の坏で、外面はヨコミガキを施す。4は覆土2層・床面出土の鋸歯状複沈線文深鉢。5は床面・覆土3層出土の横走沈線文深鉢。6は覆土2層・床面出土の深鉢の下半で、頸部破損後二次利用している。7は覆土1・2層出土の無文深鉢。8は覆土1・2層出土の鋸歯状複沈線文深鉢。9は覆土1層出土の須恵器甕。10は覆土1層出土の紡錘車、片面はミガキ。

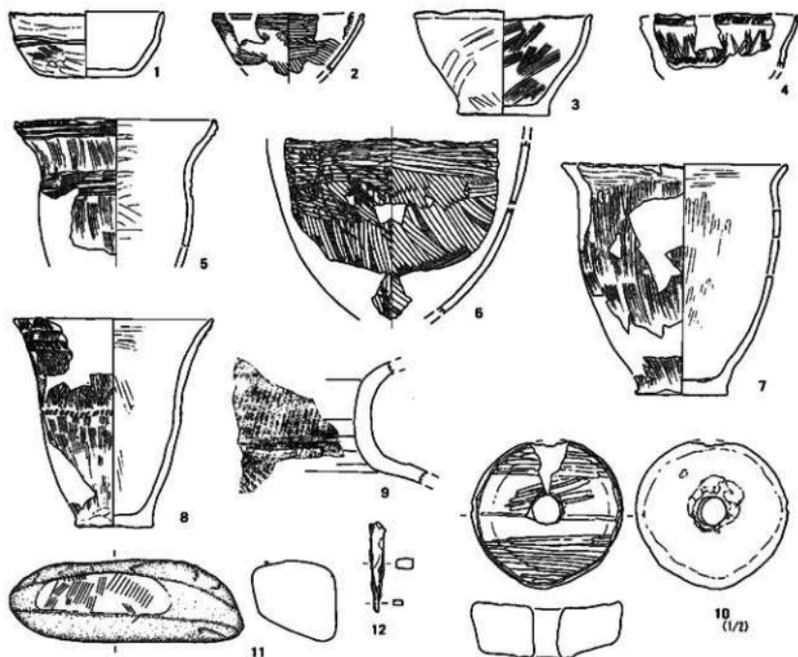
鉄製品は次の2点が出土した。図II-17-19は鉄族の筥被ぎと茎部の破片であろう。図II-19-12は釘片と思われるが、素材の可能性もある。

その他には、フローテーションによって得られた白玉が2点、石核、石錘、RFが床面から出土した。石錘は縄文時代のもので、混入の可能性もある。

植物種子は、アワ3点、キビ1点、タデ科107点、アカザ属24点、カヤツリグサ科3点、ニワトコ属3点、クルミ(0.5g)などが検出されている。また、骨片は床やカマドから42.3g、炭化材片は125.5gが得られた。

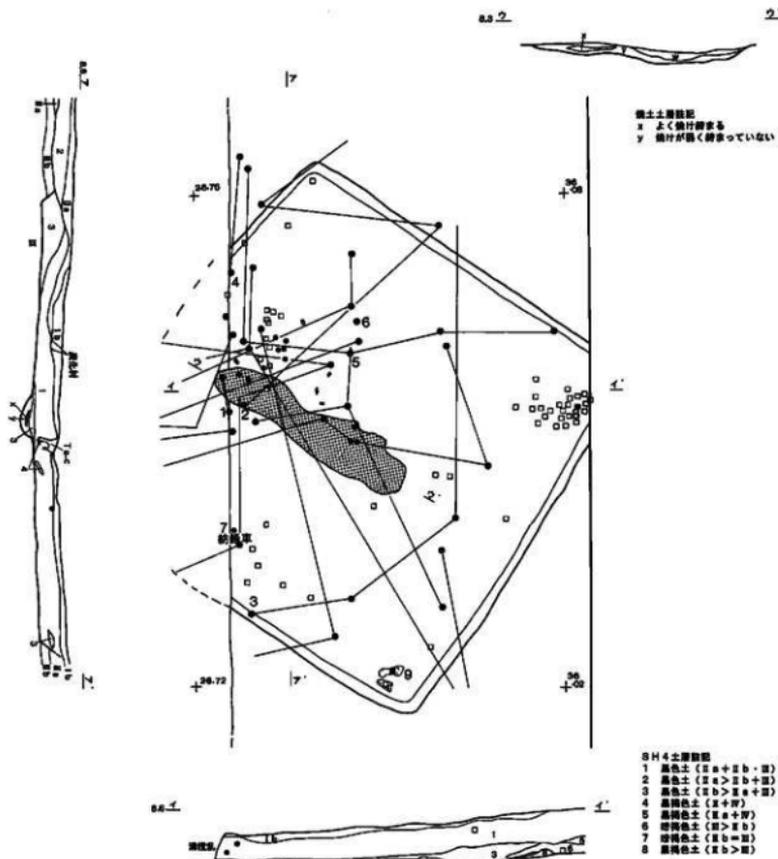
時期

SH-3の掘揚げ土がSH-1の掘揚げ土とSH-5を覆っていることから、SH-1やSH-5より新しい擦文文化期の遺構と考えられる。



図II-19 SH3の遺物(2)

II オサツ2遺跡の調査



図II-20 SH4

SH-4 (図II-20・21、図版II-25)

位置 2・6

規模 4.25/4.02×4.08/3.92×0.15m

調査

盛土などを除去した段階ではTa-a火山灰の落ち込みはみられず、攪乱溝を掘り上げ、土層断面を確認した段階で縄文時代の堅穴住居跡であることを確認した。

掘揚げ土

掘り込みがⅢ層上位と浅いため、明瞭な掘揚げ土の範囲は確認できなかった。なお、B-Tm火山灰は確認できなかった。

覆土

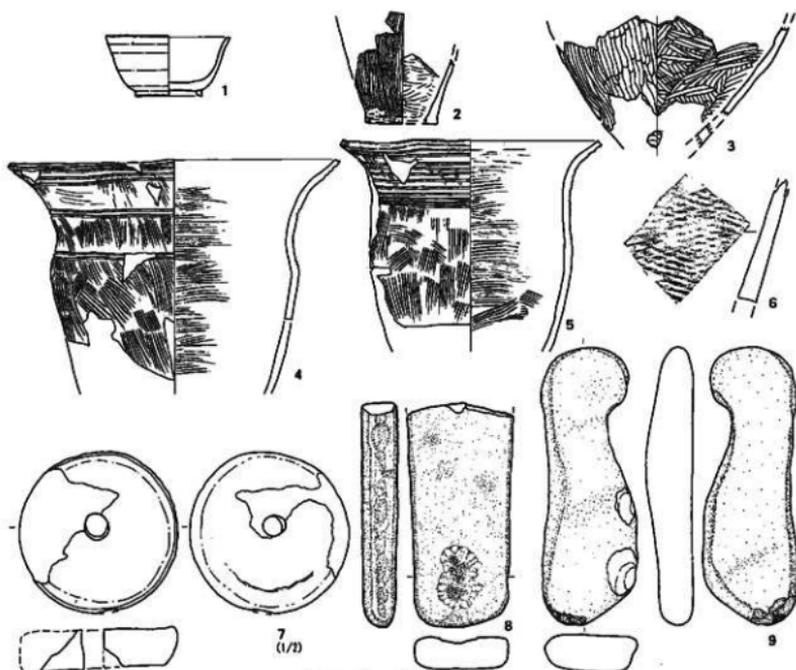
Ⅱa層が主体である。

形態

西側は溝の攪乱で不明も、ほぼ方形を呈するものと考えられる。床面は中央に向かってだらだらと下がっている。壁際の溝はない。壁は外側への開きが大きい。

付属遺構

カマドは西側部分が不明であるが、掘り込みの浅さなどからしてないものと思われる。床面中央に



図II-21 SH4の遺物

II オナツ2遺跡の調査

細長い炉がある。炉床面は中央のわずかな部分のみが良く焼けて締まっているが、全体に焼けは弱く締まりもない。焼土や灰白色粘土はない。柱穴は堅穴内外ともにその痕跡は認められなかった。

遺物

1は須恵器の坏、覆土3層から出土している。口唇には重ね焼のためについた自然釉が附着している。2は覆土1層から出土した小型の深鉢、底部には笹葉痕がついている。3は覆土1層から出土した深鉢、内黒である。SH-12覆土上層のⅡa層の破片と接合関係を持つ。4は覆土3層から出土した横走沈線文の深鉢。5は覆土1層から出土した横走沈線文の深鉢。6は須恵器の甕の胴部破片。7は覆土1層から出土した紡錘車、両面にミガキがはいる。この他にはSH-3の覆土1層から出土も出土している。

8・9はくぼみ石とたたき石。床面から出土している。これらは床から出土しているが縄文時代の礫石器である。

東隅に23点からなる礫の集中が認められた。石材は泥岩1点、砂岩4点、流紋岩6点、安山岩12点で、長さは最小63.7mm、最大98.1mm、平均81.2mmで、重さは最小が126.4g、最大が344.8gで、中心は150g代から210g代、平均は199.6gである。

この大きさはHP-2出土の礫集中より長さで23mm程、重さでは2倍以上大きく、同じ「編物石」でもその用途が異なることを窺わせる。前記渡辺分類にあてはめると、素材はAa類、用途は第3群(俵、ムシロ等製作用)に該当する。

植物種子は、クダ科4点、ニワトコ属1点、不明種3点が検出されている。また、骨片(2.7g)、炭化材片(3.3g)が得られた。

SH-5 (図Ⅱ-22・23、図版Ⅱ-11・26)

位置 2・6、2・7

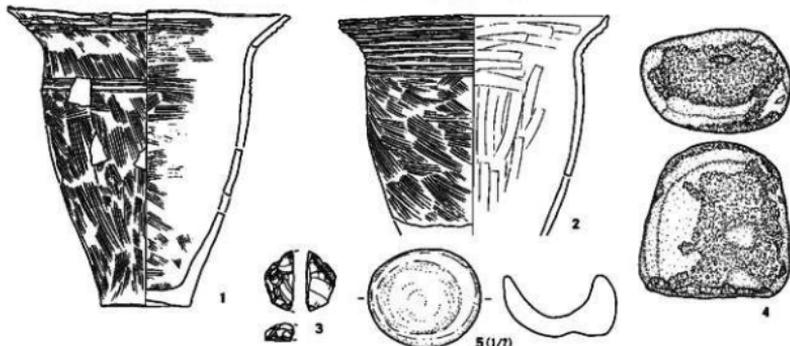
規模 4.07/3.92×4.04/3.75×/0.34m

調査

東側の側溝攪乱の断面で堅穴のセクションを確認した。堅穴の凹みはSH-3のものと思われる掘揚げ土で覆われていた。北側の一部は攪乱により破壊されている。

覆土

床面直上にはⅢ層とⅣa層を含むⅡ層土が堆積しており、その上にⅣa層混じりのⅡ層土、Ⅲ層とⅣa層を含むⅡ層土が堆積している。堅穴の北側には掘揚げ土が流れ込んでいる。



図Ⅱ-22 SH5の遺物

II オサツ2遺跡の調査

形 態

平面形はいびつな隅丸方形を呈す、浅く小型の堅穴である。床は起伏があり壁の立ち上がりは明瞭である。このタイプの堅穴の凹みを避けて大型の堅穴が構築されており、それらの掘揚げ土により覆われている。

付属遺構

南壁の西隅近くに灰白色粘土を用いた造り付けのカマドがある。天井石、袖石などの補強物はみられない。床面には炉・柱穴は確認されていない。

遺 物

1は覆土3層出土の横走沈線文深鉢で、SH-13覆土上層のII a層の破片と接合関係をもつ。2はカマド粘土の上出土の横走沈線文深鉢で、SH-12覆土上層のII a層の破片と接合関係をもつ。3は床面出土のラウンドスクレーパーの破片。4はカマド焼土の上出土の砂岩製台石。5は床面出土の泥岩製石製品。ミニチュアの石皿か？

種子は、アワ2点、タデ25点、アカザ1点、クルミ(0.4g)、ニワトコ1点、キハダ1点などが出土している。そのほかに、骨片(14.3g)、炭化材(37.5g)が出土している。

時 期

SH-3の掘揚げ土に覆われていたことから、SH-3より古い縄文文化期の遺構と考えられる。SH-6(図II-25~28、図版II-12、26~28)

位 置 2・7

規 模 5.40/5.18×5.35/5.14×0.6m

調 査

現道路敷の盛土および耕作土を除去後、I黒層にTa-a火山灰が入る隅丸方形の落ち込みを発見。さらに、溝攪乱(東7線の旧側溝)を掘り上げ、土層断面を確認して縄文時代の堅穴住居跡であることを確認した。

掘揚げ土

SH-6東半部の周囲に、黄褐色ないし暗褐色の土壌が帯状に分布している。この堅穴住居構築の際の掘揚げ土とみられる。厚さは5cm前後、上部は耕作等で削平されている。南側の掘揚げ土は南方が低くなっており、隣接するSH-12が埋まりきる前に流れ込んだものと推定される。

覆 土

黄色パミスを含むI黒層が主体。焼土や炭化物が含まれている部分もある。

形 態

ほぼ、方形(正確には平行四辺形。南西コーナーは破壊されており不明)を呈する。

構築面には深さ5cm前後の凹凸があるが、これをロームで埋めて床面としている。床面はほぼ水平。床面の標高は7.99~8.06mの範囲にある。

壁は、やや外傾しながら直線的に立ち上がる。

南・北の壁際には浅い溝がある。深さは5cm程度。両溝とも東側コーナー手前で徐々に浅くなり、消滅している。カマドがある東壁際には続いている。北壁際の溝は北東コーナーを回って、西壁際にも0.7mほど続く。南西コーナーは攪乱溝のため不明である。

確認した壁は東半部では40~60cmの高さがあるが、攪乱溝から西側では30cm前後。上半部では周囲の土層が壁を貫いて内部に入り込んでいるが、ところどころで覆土が剥離することから、壁面を確認した。壁はわずかに外側に傾斜する。

付属遺構

東壁の中央やや南寄りに造り付けのカマドがある。煙道の方向は西一東である。

焚口には、ほぼ円形に火床面が固く焼けて赤橙色になっている部分がある。焚口には掘り込みがまったくなく、むしろ周囲の床よりも高くなっている。

煙道は床より約25cm上部から、ほぼ30度の傾斜で外側に向かって掘られている。

両袖は灰白色の粘土で主につくられている。この粘土は煙道内の覆土上部から続いている。木炭粒や焼土のブロックが少し混じっているが、粘土自体が焼けて硬化した様子はみられない。

床面はほぼ中央に炉跡とみられる焼土がある。炉床面はあまり焼けていない。その他には木炭粒を含む焼土が数ヶ所ある。炭化材の分布にはば重なっている。炭化材は焼土の上部にもあるが、下部のほうが多い。

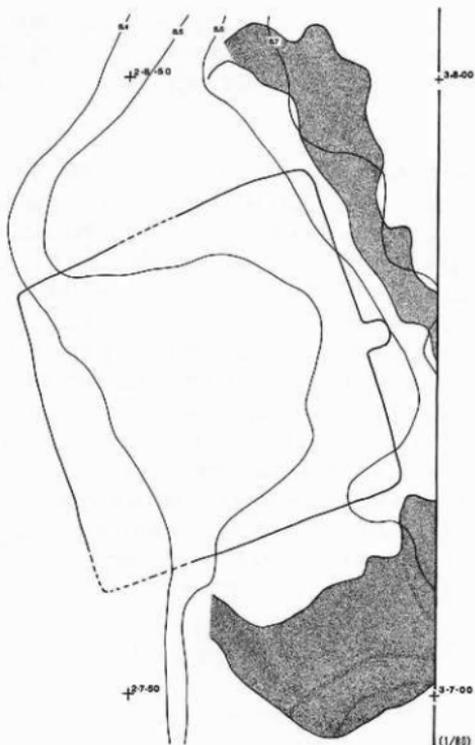


図 II-24 SH 6(1)

灰白色粘土は北東コーナーの床面上とカマドのすぐ北側の床面上に敷かれたような状態で検出された。いずれもカマド両袖を構成する粘土と同様のもの。焼けていない。

各コーナーの壁から約1.2~1.4m離れた位置に柱跡を検出した。柱は4本とも各柱だったものと思われる。床面で観察した段階では各柱跡とも平面形が不明瞭であったが、半割して角形であることを確認した（このため各柱跡とも一辺は不明）。柱穴オとウでは、掘り形も角形であることが判明した。柱穴内部の土は柔らかく、フカフカしている。柱痕オとウと掘り形の間は固く縮まったロームが詰まっている。柱痕エでは掘りかたが、判断できなかった。柱痕カは溝攪乱の底に柱穴の先端部のみが残されていた。

炭化材出土状況

木炭が覆土上部~床面上に出土。図示したものは覆土最下層から床面直上出土のもの。上部の覆土から出土したものは少ない。

木炭は床面中央部に多い（溝攪乱により不明部分もあるが）。東壁寄りと南西コーナー付近にはほとんどない。中央部では焼土と入り混じって多量の木炭が出土した。中央部では微細な木炭片や粒状の炭化物が多量にある。木炭は焼土の上部には少なく、下部（床面上）に多い。板状のもののほか、断面が丸い杖状のものがある。

遺物

大部分がカマド焚口、両袖およびその周辺の床面上で出土した。総体にて、カマドから右側に出土遺物が多い。カマド焚口には、左袖際に無文の深鉢図Ⅱ-27-2が、中央部には鋸歯状沈線+上下段充填沈線の深鉢図Ⅱ-27-5が倒置されており、この上には、斜格子複沈線の深鉢図Ⅱ-27-3と斜格子複沈線の深鉢図Ⅱ-27-4が重なって出土した。両袖からも多数の土器片が出土した。右袖内には特に多く、横位沈線をもつ坏図Ⅱ-27-1や鋸歯状沈線+上下段充填沈線の深鉢図Ⅱ-27-6があり、先端部には前田目窯の細頸壺図Ⅱ-27-7が1個体分出土している。

また、カマドちかくの床面には、図Ⅱ-28-1・6が出土している。右袖から1mあまりの床面に刀子図Ⅱ-28-10が1点出土しており、10は両端と刃部が欠損し、全体が左右にゆるく曲げられている。焚口前方にも鉄製素材図Ⅱ-28-11が1点ある。11は左端は平たく、右端にやや角ばり尖る。カマド焚口のすぐ西寄りに図Ⅱ-28-2深鉢、左袖から1mあまりに図Ⅱ-28-3深鉢が出土している。図Ⅱ-28-4・5は床面直上および覆土最下層から出土した。

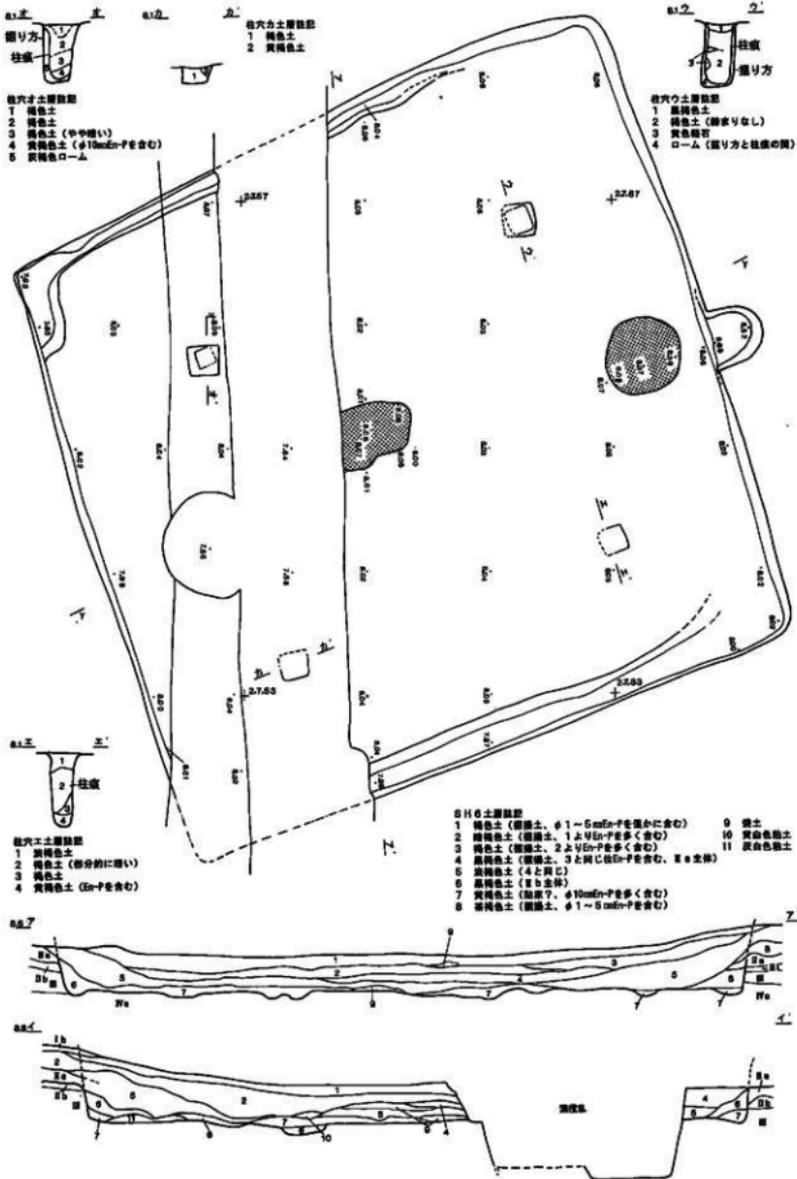
図Ⅱ-28-9は流紋岩の板状礫。柱跡と北西コーナー間の床面上で数十個の破片に割れている。東端部は浅い溝攪乱で失われており、本来は長方形だった可能性がある。

植物種子は、キビ1点、ナス科1点、タデ科234点、アカザ属55点、不明ミレット4点、不明種24点が検出されている。また、骨片（8.26g）、炭化材片（139.1g）が得られた。

時期

掘揚げ土が南隣するSH-12にかかっているため、これより新しい擦文文化期と推定される。

II オサツ2遺跡の調査



図II-25 SH6(2)

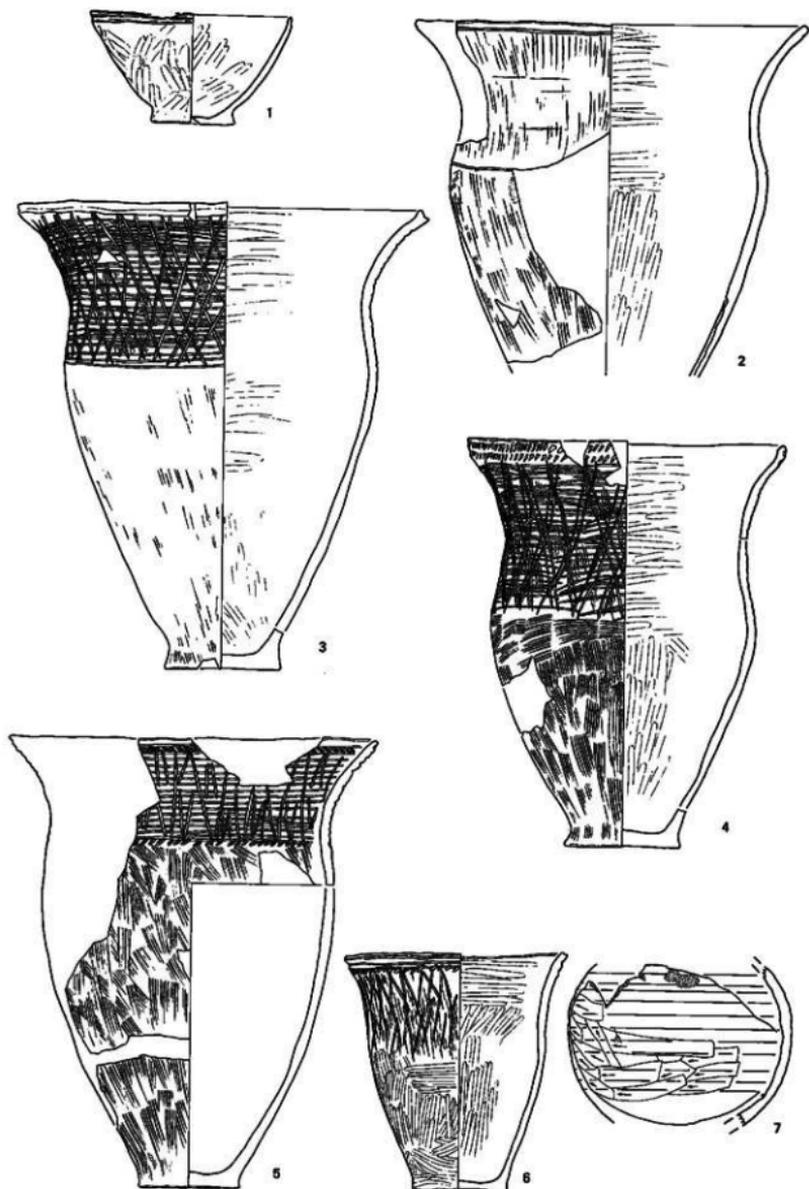
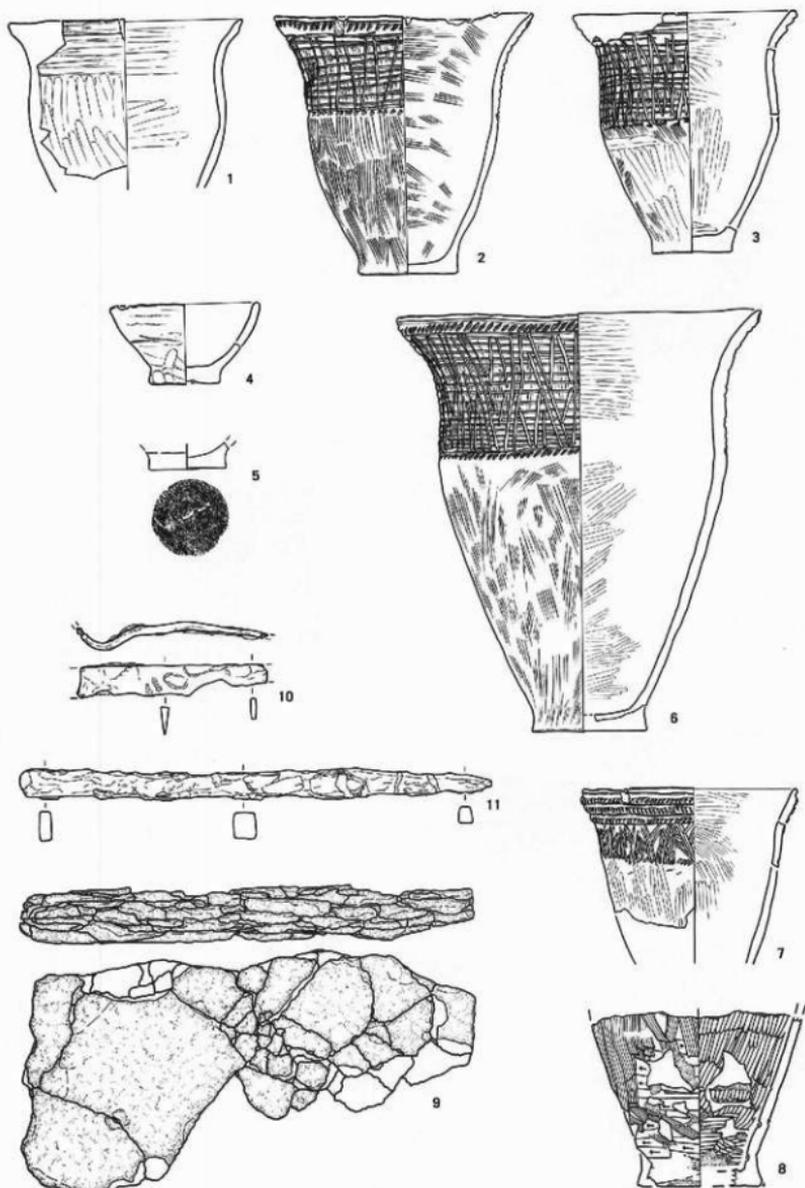


図 II-27 SH6の遺物(1)

II オサツ2遺跡の調査



図II-28 SH6の遺物②

SH-7 (図II-29~32、図版II-13・29・30)

位置 1・7、1・8

規模 -/-x-/-x0.67m

調査

道路敷盛土を除去後、I層中にTa-a火山灰が堆積した落ち込みを確認、住居跡と判断した。

道路の側溝、水道管理設溝などで削平された面において壁の立上りを確認した。

掘揚げ土

道路の側溝、水道管理設溝などで削平されているためか、周辺にはみられない。しかし、東隣するSH-13の覆土上部に、本住居を構築した際の掘揚げ土である黄褐色土が、流入していることを確認した。

覆土

黄色バミスが混じるIIa層が主体。覆土3層中より、数個体の土器が押しつぶされた状態で出土した。覆土下部は黄色バミスを含む黒褐色土が主体となっている。

形態

西半部が現道側溝のため失われているが、SH-3に類似する方形の住居(一辺)と推定される。

構築面はIVa層下部に達しており、構築時にできたとみられる凹凸が激しい。この凹部を黒褐色土で埋めて、床面としているようだ。床面の標高は7.71m~7.77mの範囲にある。壁際は床面より3~10cmほど高くなっており、約30~40cm幅のベンチ構造がある。確認した壁の高さは東コーナーで65cm、南コーナーが43cm。上部では周囲の包含層が壁を貫いている部分があるが、SH-6と同じく、壁とみられる部分で剥離する。

付属遺構

煙道方向は南西-北東。北東壁にあるが、水道管理設時の溝により東半部が消失しており詳細は不明。焚口とみられる部分は火床面が焼け赤色化している。煙道部から左袖は灰白色の粘土で覆われている。煙道は西端部のごく一部しか残っていないが、壁の途中から外へ向かって急に立ち上がっており、SH-6のカマドと同様である。煙道と粘土は焼けて硬化したり赤色化しているところはない。

炉として使用されたものとみられる焼土はない。焼土は炭化材に伴うものがカマドのちかくに1ヵ所、南東壁に沿って3ヵ所ある。

東コーナーに灰白色粘土が敷かれたような状態で検出された。カマド袖の粘土と同質。南東側2ヵ所の柱跡が確認された。柱痕・掘りかた共に方形である。掘りかたは床面では認められたが、セクションでは確認できなかった。内部は空気を含むフカフカの褐色腐植土。

北西側の柱跡は2ヵ所とも、側溝で消失した部分にあったものと推定される。

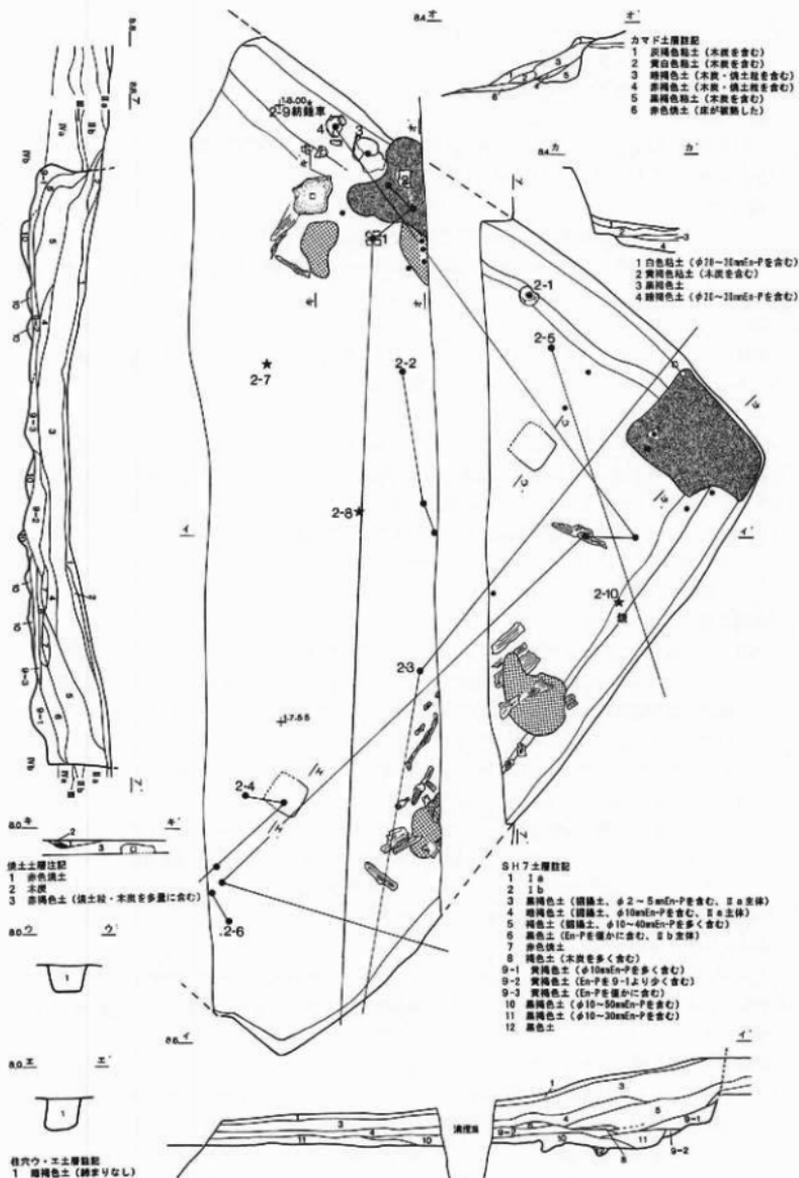
炭化材出土状況

覆土最下層および床面直上で出土した炭化材は、カマドの西部と南東壁際に大半が分布している。板状のものと丸い枝状のものがある。とくに、南東部覆土下部には木炭粒を多量に含む部分がある。

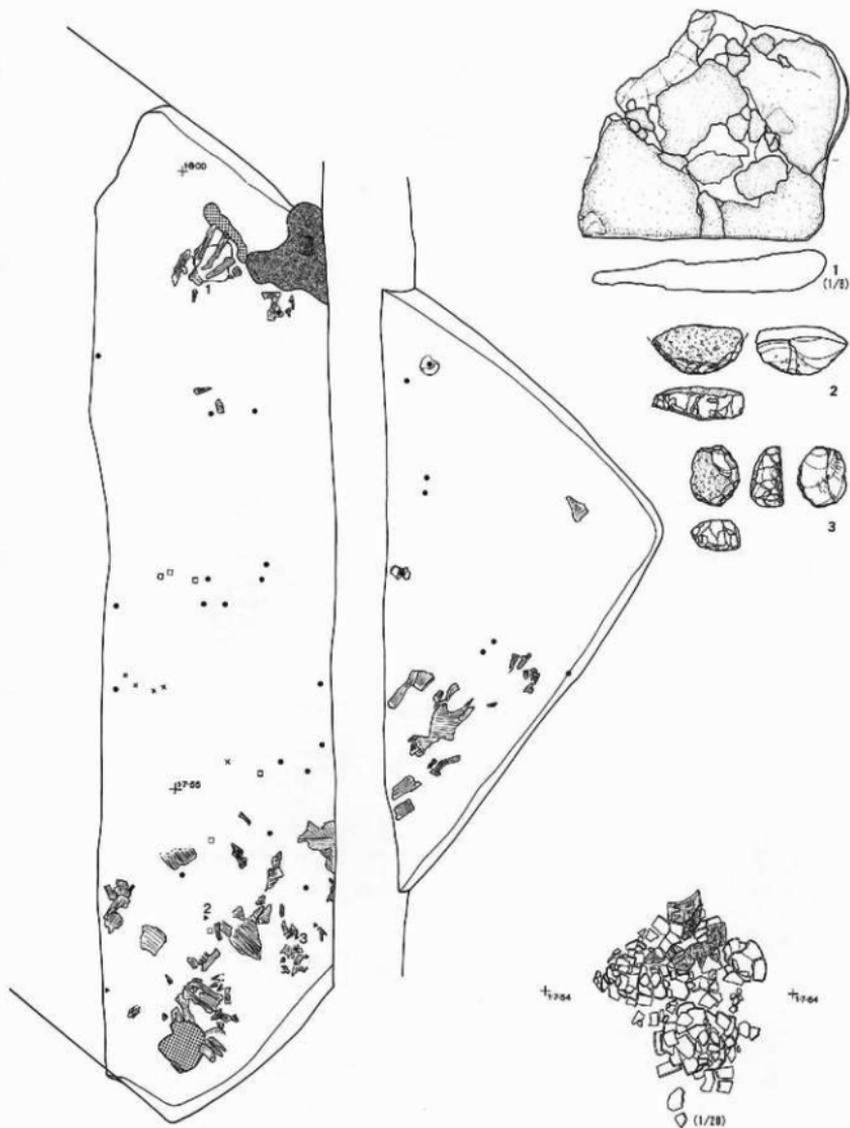
遺物

図II-30-1は流紋岩カマドの石材。図II-30-2・3はラウンドスクレーパー、2は先端部片。3は刃部のつぶれと腹面の摩耗が顕著である。図II-31-1は斜格子沈線文の深鉢で、文様はまわらない。左袖から出土。図II-31-2は上下段斜位沈線文の深鉢で、1と同様に文様はまわらない。左袖から出土。図II-31-3はカマドの脇から出土した深鉢で底部には笹葉痕がある。図II-31-4は上下段鋸歯状沈線文の深鉢で、左袖から出土。図II-32-1はカマドの右に1m強離れた位置に出

II オサツ2遺跡の調査



図II-29 SH7(1)



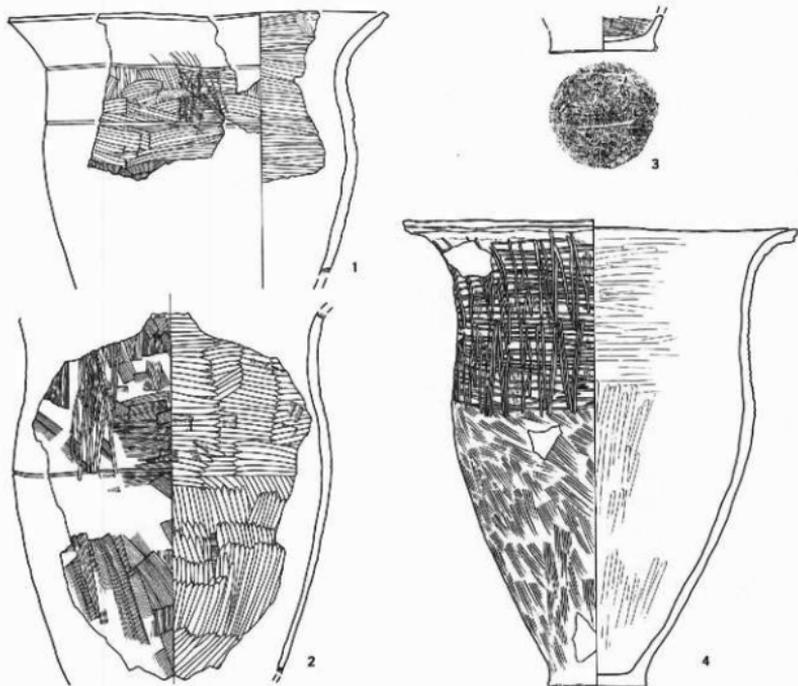
図II-30 SH7(2)

土。図Ⅱ-32-2は横位沈線が口唇にめぐる坏で、床面出土。図Ⅱ-32-4・6は住居跡南西部の床面出土の土器。接合関係もこの周辺に限られる。図Ⅱ-32-3はSH-15の覆土上のⅡa層の破片と接合する。図Ⅱ-32-7・8は土製平玉、棒状のものに粘土を付けて平らにおしつぶしている。7は住居跡床面のほぼ中央から出土している。図Ⅱ-32-9は径6cmほどの鉄製紡錘車である。紡軸はほとんど欠損しているが鉄製である。図Ⅱ-32-10は鉄製鎌、曲刃鎌で薄い造りになっている。刃部先が左に曲げられ、先端はほぼ180°向きを変えている。東コーナー付近の覆土3より出土した。

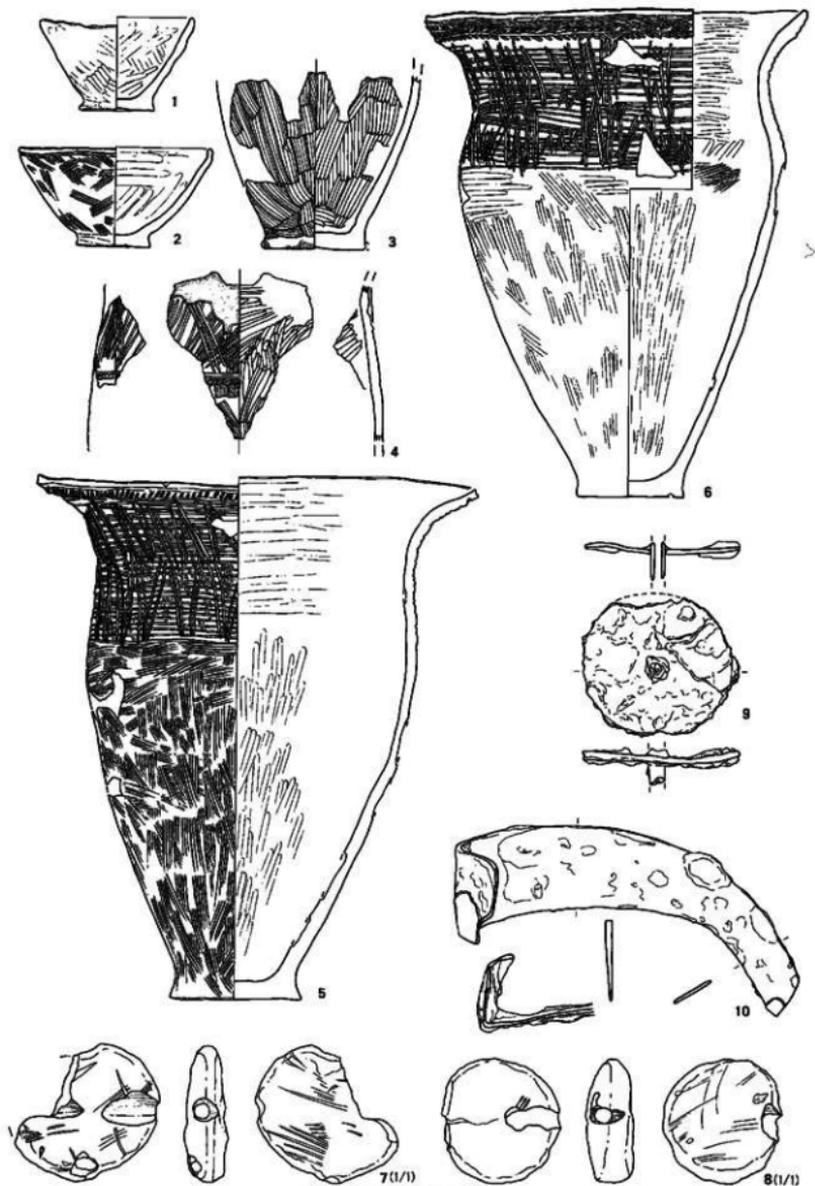
植物種子は、タデ科6点、アカザ属1点、同定不可2点などが検出されている。また、クルミ属(0.8g)、骨片(6.6g)、炭化材片(36.9g)が得られた。

時 期

本住居の南東壁とHP-13北西壁はわずか10cmほどしか離れていない。しかし、SH-13の覆土上部に本住居跡の掘揚げ土とみられる土が入っているので、前後関係が判断できる。また、SH-15の覆土上部に本住居跡の掘揚げ土とみられる土が入っている。以上より、SH-13やSH-15より新しい時期の擦文文化期。



図Ⅱ-31 SH 7の遺物(1)



図II-32 SH7の遺物(2)

SH-8 (図II-33、図版II-11・31・41)

地 区 2・9

規 模 - / - × - / - × 0.66m

調 査

盛土などを除去した段階で、Ta-a火山灰が堆積した落ち込みを確認した。なお、大半は調査区外にある。

掘揚げ土

周囲に、黄褐色ないし暗褐色の掘揚げ土が分布している。B-Tm火山灰は確認できなかった。

覆 土

床面直上には、II a層とII b層の混在する黒色土が堆積し、本竪穴焼失時のものと思われる炭化材や焼土がみられる。それより上位は掘揚げ土の流れ込みと、III層土を含むII a層が主体である。

形 態

方形であろう。

床面は中央が若干下がっており、北側壁際は溝状に下がっている。壁際の溝は北側壁際の状況から、カマドと反対側の壁際に溝が廻る可能性はある。

掘り込みは深く、壁の残りは良い。ほぼ垂直に立ち上がる。掘揚げ土の流れ込み状況から掘り込み面が明確にわかる。

付属遺構

南壁に白色粘土を用いた造り付けのカマドがある。天井石、袖石などの補強物はみられない。カマドの遺存状況は良好で、掘り抜きの煙道が良く残されている。焚口は掘り込みがない。煙道は直角に近い形で立ち上がっている。焚口の火床面はかなり硬く縮んでいる。

覆土下位の炭化材がみられる部分に、竪穴焼失時のものと考えられる焼土が分布している。灰白色粘土カマド以外にはみられない。柱穴調査した範囲では、竪穴内外ともに柱穴は認められなかった。

炭化材出土状況

覆土下位の炭化材がみられる

遺 物

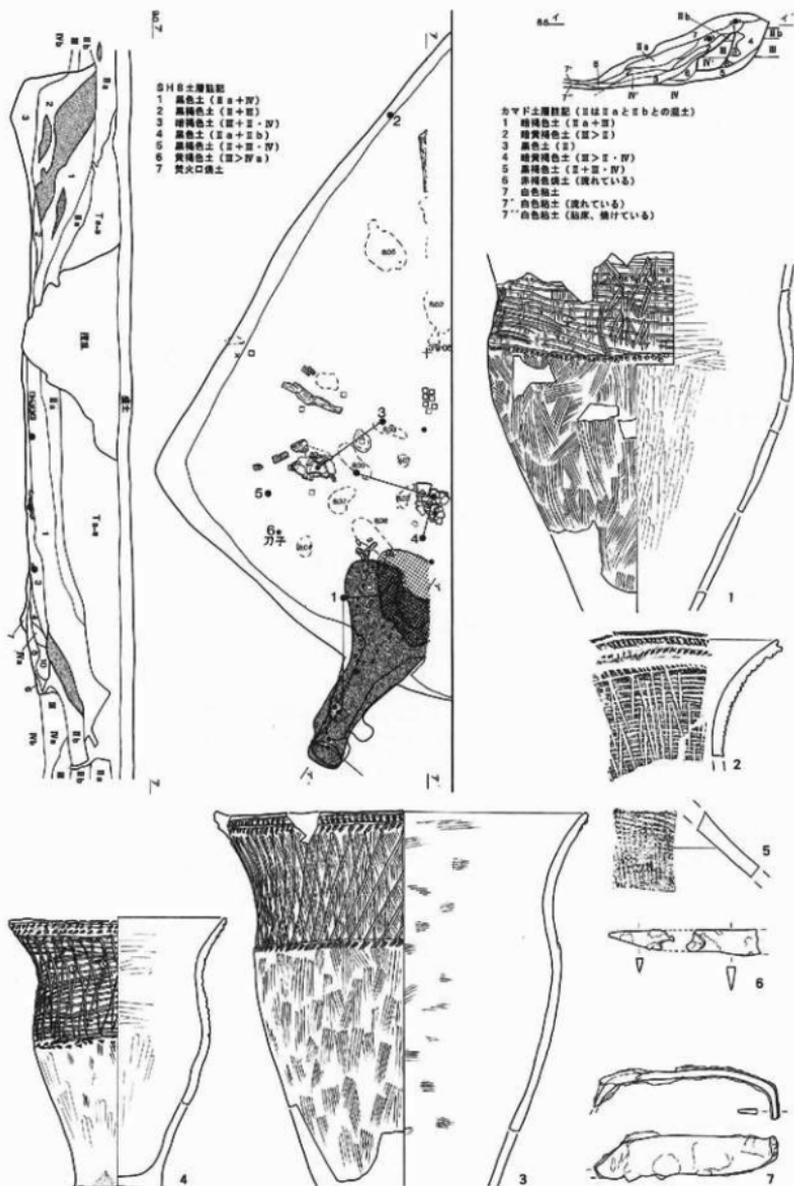
カマド焚口周囲1は針葉樹沈線文と不連続横位沈線文の深鉢。3・4は斜格子沈線文の深鉢は5は須恵器甕の肩部。6は刀子片で、幅のわりに棟厚がある後半部を折損し、中を鏝で欠失している。7は覆土最上層から出土したアイヌ文化期のマキリと思われるが、刃がなく曲げられていることから、別用途に作り替えられていると考えられる。図版II-41は覆土上面出土の鉄珠、軽量な多孔質で砂粒を含んでいる。

床面中央付近の調査区境界で礫集中がみられた。取り上げられたのは8点であるが、調査区外に広がっていることは確実である。8点のうち7点は安山岩で、1点が凝灰岩で、安山岩のうち1点はほぼ4分の1に、凝灰岩はほぼ半分に分れている。長さは43.1~62.7mmで平均56.0mm、重さは41.1~116.6gで平均83.4gである。この数値はSH-2の礫集中の数値とほぼ等しい。

植物種子は、アワ・タデ科各2点、シソ科・アカザ属・ヨモギ属各1点などが検出されている。なお、カマド煙道内から未炭化のコメ1点も出土しているが、これは混入の可能性はある。また、骨片(0.1g)、炭化材片(34.2g)も得られた。

時 期

縄文文化期。



図Ⅱ-33 SH8

SH-9 (図II-34、図版II-14・31)

位置 1・8、2・8、2・9

規模 6.48/6.43×5.92/5.83×0.43m

調査

1・8区、2・8区の土探りにより大きな穴があげられた部分で炭化物・礫が露出しており、残存部分で壁の立ち上がりを確認した。大部分は破壊されている。

覆土

わずかに覆土の残っていた南隅部分のセクションでは、床面の壁際は炭化物混じりの黒色土が堆積している。その上をIVa層混じりの黒色土が覆っており、その上には灰白色粘土混じりの黒色土や黒色土混じりの灰白色粘土が堆積している。

形態

土探りによる破壊を免れ、わずかに残った部分を繋ぎ合わせると、平面形は方形と推定される。床は平坦で、壁の立ち上がりは明瞭である。

付属遺構

東壁に灰白色粘土を用いたと推定される造り付けのカマドがある。天井石、袖石などの補強物は残存していない。焚口側が広く、IVb層まで削られた面に6基の付属ピットが確認されており、配列から主柱穴はSP-1~4と考えられる。SP-5・6はこれらよりもやや浅い。平面形は、SP-2が方形、そのほかは円形である。SP-5は底面が丸みをもっており、覆土は均一な黒色土であることから、あるいは縄文文化期以前の土壌であるのかもしれない。

炭化材出土状況

北側と南西側の残存する床面に炭化材がみられ、その部分に竪穴焼失時のものと思われる焼土が分布している。また、屋根を葺いていた茅の炭化したものが残っていた。

遺物

1はカマド焚口出土の坏、口縁部に凹線がめぐる。2はカマド出土の深鉢、口縁部と頸部に沈線をもつ。3はカマド出土の深鉢、多重の横走沈線のあとに、口縁部と頸部に刺突を施す。4・5はSP-5北側の床出土のRF。6はカマドの礫。北側の壁際の床から、こぶし大の礫がまとまって出土している。

時期

縄文文化期。

SH-10 (図II-35)

位置 2・5

規模 -/-x-/-x0.28m

調査

盛土などを除去し、II a層上面を清掃した段階で、竪穴掘揚げ土が堆積する落ち込みがみられ、いっぽう、溝攪乱で竪穴住居跡断面を確認した。

掘揚げ土

掘り込みがIII層下面からIV a層上面と浅いため、明瞭な掘揚げ土の範囲は確認できなかった。なお、B-Tm火山灰は覆土中位で確認できた。

覆土

II a層が主体で、下位には骨片及び枝状の細い炭化材片を含む層がある。

形態

西側は溝の攪乱、南側は風倒木による攪乱のため不明であるが、長方形を呈するものと考えられる。床面はほぼ平坦である。壁際の溝はない。壁の残りは良好で、掘り込み面はII a層下位である。

付属遺構

カマドは西側から南側部分が不明であるが、竪穴の規模などからしてないものと思われる。炉は床面中央に楕円形の炉がある。炉床面は良く焼けて締まっている。焼土・灰白色粘土はない。竪穴内外ともに柱穴は認められなかった。

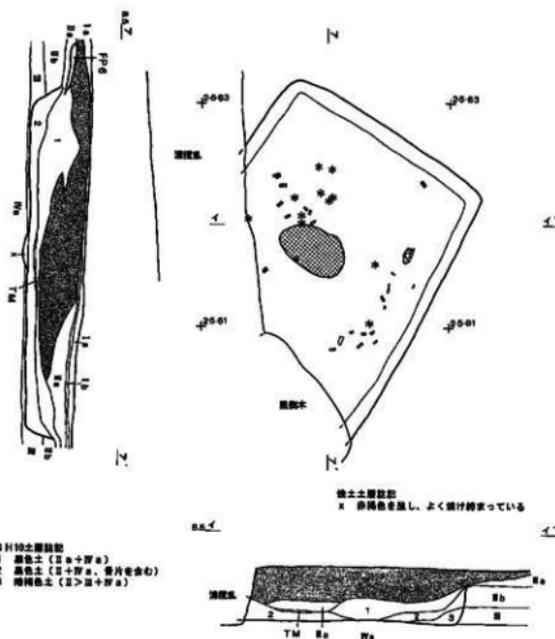
遺物

床面出土遺物は安山岩の礫2点、砂岩の礫片1点が出土している。覆土からは、坏の破片1点、深鉢の破片16点と安山岩の礫3点・礫片1点と砂岩の礫片2点が出土している。

タデ科種子2点と破損のため同定不可能な種子2点が得られている。

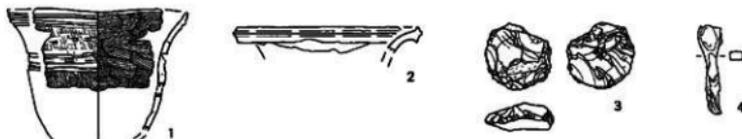
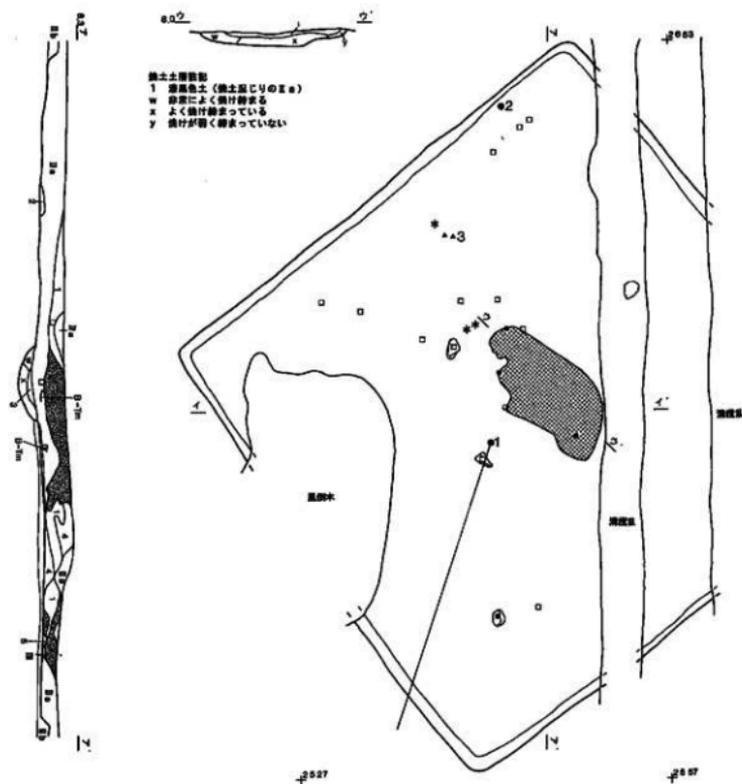
時期

SH-2の掘揚げ土に覆われている。ことより、それより古い縄文文化期。



図II-35 SH10

II オサツ2遺跡の調査



図II-36 SH11

SH-11 (図II-36、図版II-32)

位置 2・5、2・6

規模 4.32/4.13×4.13/4.00×0.10m

調査

盛土などを除去した段階では、Ta-a火山灰の堆積した落ち込みはみられず、溝掘りを掘り上げ、土層断面を確認して縄文時代の竪穴住居跡であることを確認した。

掘揚げ土

床面がII b層下位及びIII層上面と浅いため、掘揚げ土の範囲は捉えられなかった。

覆土

II a層が主体で、覆土中位から下位にB-Tm火山灰が薄い層状にみられ、その上位にSH-4の掘揚げ土がみられる。

形態

平面形はほぼ方形を呈する。床面はほぼ平坦である。壁際の溝はない。壁は低く、外への開きがかなり大きい。

付属遺構

カマドはない。床面中央に長楕円形の炉がある。炉床面は良く焼けて締まっている。焼土・灰白色粘土はない。竪穴内外ともに柱穴は認められなかった。

遺物

1は覆土4層から出土した横走沈線の深鉢。SH-1覆土上層のII a層の破片と接合した。2は覆土4層から出土した須恵器の広口壺。焼成が不完全で表面は暗赤橙褐色を呈し、断面は明黄褐色を呈する。3は床面から出土したラウンドスクレーパー、一側縁に調整を加える。4は覆土1層から出土した断面四角形の釘状の細棒で、アイヌ文化期のものと思われる。

そのほかには、覆土から流紋岩礫片7点、安山岩礫片2点、砂岩礫片4点、泥岩礫片2点。床面から安山岩礫片3点、砂岩礫片1点、チャート礫片1点が出土している。

コメ1点のほか、タデ科種子4点と不明種1点が得られている。また骨片(0.2g)、炭化材片(26.9g)もある。

時期

掘揚げ土の状況から、SH-2より古い縄文文化期。

SH-12 (図II-37・38、図版II-32)

位置 2・6、2・7

規模 -/-×4.25/4.03×0.18m

調査

盛土などを除去した段階ではTa-a火山灰の堆積した落ち込みはみられず、SH-6の掘揚げ土が落ち込んでいることから確認した。

掘揚げ土

明瞭な掘揚げ土の範囲は確認できなかった。

覆土

II a層が主体で、そのほかには、覆土下位にB-Tm火山灰がみられ、覆土上位にSH-6の掘揚げ土がみられる。

形態

東側は調査区外で不明も、ほぼ方形を呈するものと考えられる。床面はほぼ平坦である。壁際の溝はない。壁は外側への開きが大きい。

付属遺構

カマドは東側部分が不明であるが、掘り込みの浅さ、炉の広がりなどからしてないものと思われる。床面中央に細長い炉がある。炉床面は良く焼けて締まっており、枝状の炭化材と骨片が多くみられる。焼土・灰白色粘土はない。竪穴内外ともに柱穴は認められなかった。

遺物

1は床面・覆土6層出土の横走沈線文深鉢。この深鉢はSH-1の覆土1・2層とSH-3の床面の破片と接合関係をもつ。2は床面出土の横走沈線文深鉢。3は覆土6層出土の深鉢。4は覆土6層出土の横位沈線文の坏。5は覆土3・6層出土の坏。2・3・4・5の土器は遺構内のみ接合関係をもつ。6は刀子で、幅の割には棟厚がある。前半部と茎端を折損している。ほぼ直角の浅い棟区となだらかな刃区をもつ。7は床面・覆土3・6層出土の石皿。7は覆土6層出土の石製品。孔は自然にあいていた。

そのほかには、覆土から流紋岩の礫片6点、安山岩の礫片3点、砂岩の礫片7点、泥岩の礫片2点、珪岩1点、流紋岩の礫1点、安山岩の礫8点、砂岩の礫4点が出土し、床面から安山岩の礫1点、砂岩の礫1点、礫片2点が出土している。

植物種子は、アワ・マメ科各2点のほか、タデ科68点、キビ・ナス科1点などが検出されている。また、クルミの殻極少量、骨片(44.9g)、炭化材片(137.5g)も得られた。

時期

SH-6の掘揚げ土に覆われていることより、SH-6より以前の縄文文化期。縄文期の土壌(P-3)とTピット(TP-2)を切っている。

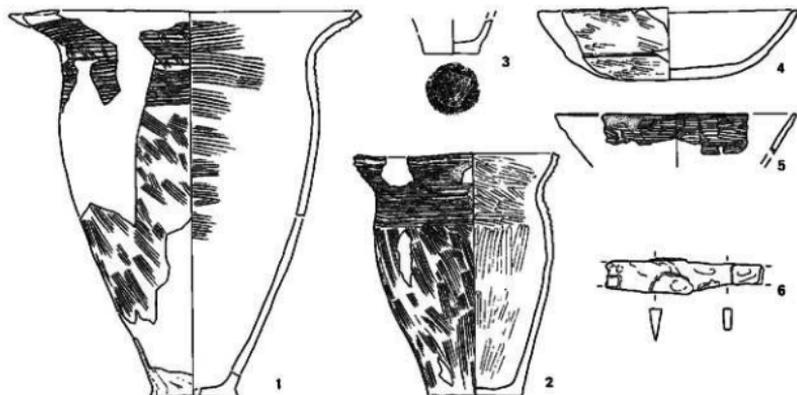
SH-13(図Ⅱ-39・40、図版Ⅱ-15・33)

位置 1・7、2・7

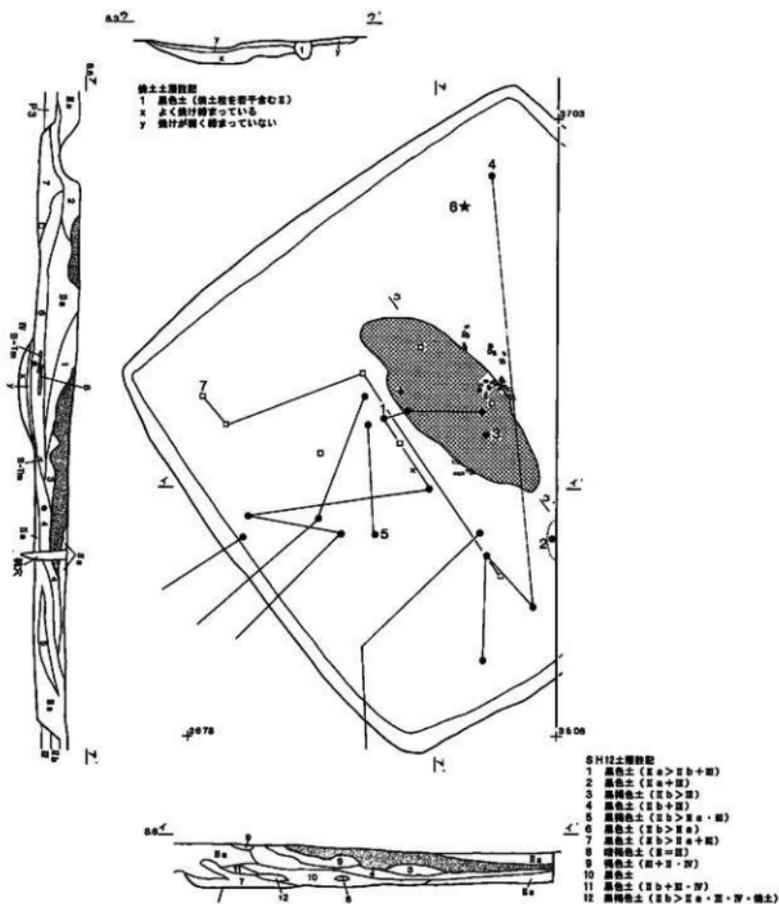
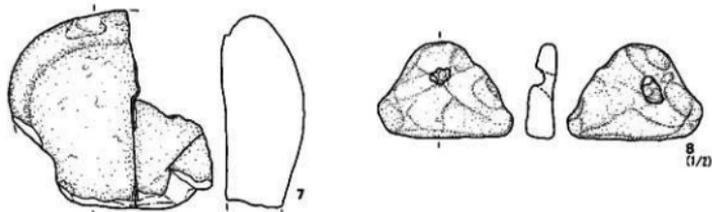
規模 4.30/4.20×4.20/4.19×0.46m

調査

道路敷盛土下に竪穴構築時の掘揚げ土とみられる黄褐色土の落ち込みが確認されたため、これを



図Ⅱ-37 SH12の遺物



図II-38 SH12

掘り下げたところ住居跡であることが判明した。現道路中央部にあたり、轍と思われる浅い溝により、上部はかなり痛んでいる。(東7線道路は昭和22年以降に敷設、空中写真によって判明)

掘揚げ土

周辺を含めて上部は攪乱されているため、掘揚げ土は確認されなかった。

覆土

上部にHP-7構築の際の掘揚げ土がある。覆土中位にB-Tm火山灰がわずかに認められる。

形態

平面形は不整隅丸方形である。床は凹凸が少なく、ほぼ水平。標高は7.97m~8.04mの範囲にある。壁はほぼ垂直にちかい立りをもつ。本来はさらに深かったものとみられる。

付属遺構

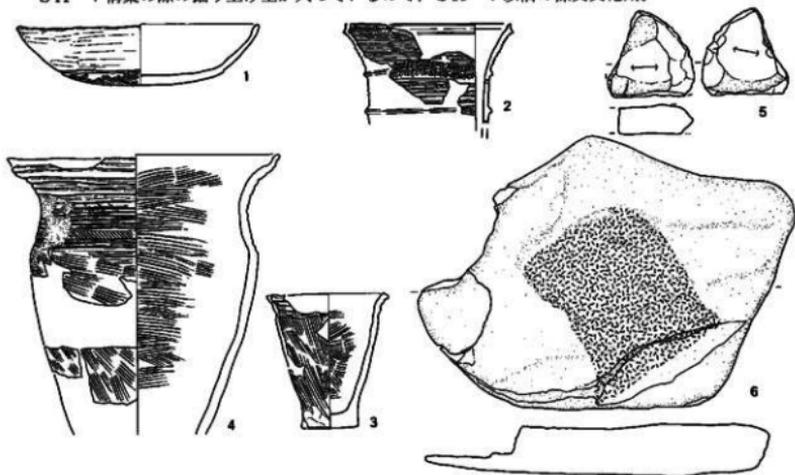
住居の規模が小さいにもかかわらず、大型のカマドをもつ。煙道は南壁の中央と南西コーナーの間に造られ、北西-南東方向に軸をもっている。焚口は床より10cmほど掘りこまれ、内部に黒色土が入っている。この黒色土の上部には火熱で酸化され赤色化している範囲がある。煙道は深く掘りこまれており、奥壁は垂直にちかい立りをもつ。煙道上部は削平されている。カマドの両袖は灰白色粘土で造られている。焼けて硬化した様子はない。左袖内より板状の礫1点が出土。軟質で非常に脆い石。カマド覆土のうち2層中に木炭・焼土粒の混入が顕著であることから、この層が煙道を埋めた土と思われる。炉は住居のほぼ中央に炉跡とみられる焼土あり。骨粉を含む。炉床面はあまり焼けていない。

遺物

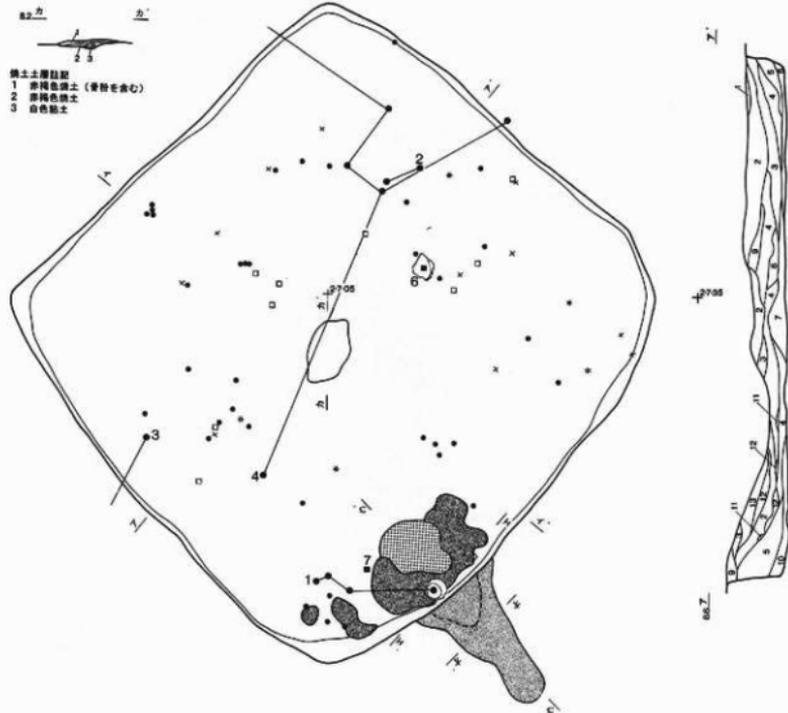
1はカマド・床面出土の横位沈線をもつ坏で、接合関係もカマド焚口上部やカマド付近にもつ。2は床面出土の横走沈線文深鉢で、住居内床面に接合関係を持つ。3は床面出土の横位段状沈線文深鉢。4は覆土7層・床面出土の横走沈線文深鉢。3・4は遺構外の包含層と接合関係をもつ。5はカマド出土の砥石6は床面出土の石皿。炭化物は非常に少ない。

時期

SH-7構築の際の掘り上げ土が入っているので、SH-7以前の縄文文化期。



図II-39 SH13の遺物



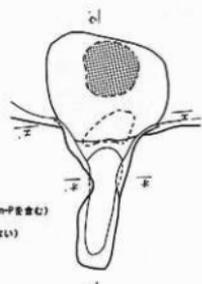
SH12土層図記
 1 赤褐色粘土 (骨粉を含む)
 2 赤褐色粘土
 3 白色粘土



SH12土層図記
 1 黒色土 (Ⅱa)
 2 赤褐色土 (HP7の層土、φ10-20mmEn-Pを含む)
 2-1 赤褐色土 (3より細い)
 3 赤褐色土 (Ⅱa)
 3-1 赤褐色土 (3より粗い)
 4 褐色土 (φ5mm以下のEn-Pを含む)
 5 赤褐色土 (φ5mm以下のEn-Pを含む、Ⅱb主体)
 6 赤褐色土 (下に厚層入)
 7 黒色土 (En-Pを含まない、Ⅱb主体)
 8 赤褐色土 (En-Pを僅かに含む)
 9 黒色土 (2巻層入)
 10 赤褐色土 (下にφ10-20mmEn-Pを含む)
 11 B-Tm
 12 褐色土 (En-Pを含む)
 13 褐色土 (4層と同様、下位ほど細かい)



カマド土層図記
 1 灰白色粘土
 1-1 灰白色粘土 (1に褐色土が混入)
 2 褐色粘質土 (木炭粒・煤土粒、φ10-20mmEn-Pを含む)
 3 褐色粘質土 (2に白色粘土を含む)
 4 褐色粘質土 (2に凝っているが木炭粒を含まない)
 5 赤褐色土
 6 褐色土
 7 赤褐色土 (φ5mm以下のEn-Pを僅かに含む)
 8 赤褐色土 (φ10mmEn-Pを含む)
 9 赤褐色土 (φ10mmEn-Pを含む)
 10 黒色土 (φ10mmEn-Pを含む)



図II-40 SH13

遺物

1は床面出土の針葉樹沈線文深鉢で、炉の近くから出土した。2は覆土2層出土の土師器甕で、タテハケが著しく目立つ。3はポイント・ナイフ、基部折失、刃縁はつぶれている。

時期

SH-6の掘揚げ土がかけられているので、SH-6より古い弥文文化期。

SH-15 (図II-42・43、図版II-16・34)

位置 1・7、2・7、1・8、2・8

規模 2.54/2.42×2.17/2.07×0.12m

調査

HP-7北部の包含層調査中、周囲よりも土が汚れていること、土器片の出土が多いことから遺構と判明したが、プランが確認できたのはII黒層下の漸移層上面である。

掘揚げ土

現道路敷設等によりI層がかなり削平されており、周辺の掘り上げ土は不明。

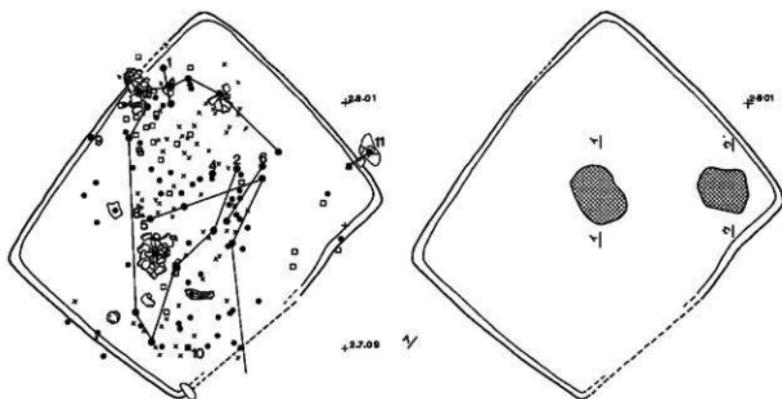
覆土

覆土上部の3層はHP-7構築時の掘り上げ土の可能性あり。

覆土中位に白頭山-苫小牧火山灰をわずかに確認。

形態

平面形は長方形。床面はII黒下の漸移層に造られており、ほぼ水平。標高は8.11m~8.16mの範囲



掘土I土層図説

1 黒褐色土 (木炭粒・骨粒を含む)

2 赤褐色土

掘土II土層図説

1 赤褐色土 (木炭粒を含む)

2 赤褐色土 (木炭粒・骨粒を含む)

3 赤褐色土



SH15土層図説

1 褐色土 (φ50cm-70cmを含む)

2 褐色土 (φ50cm-70cmを含む)

3 褐色土 (部分別にφ10-30cm-70cmを含む)

4 褐色土 (HP7の掘揚土、φ10-30cm-70cmを含む)

5 黄褐色土 (HP7の掘揚土、φ10-30cm-70cmを含む)

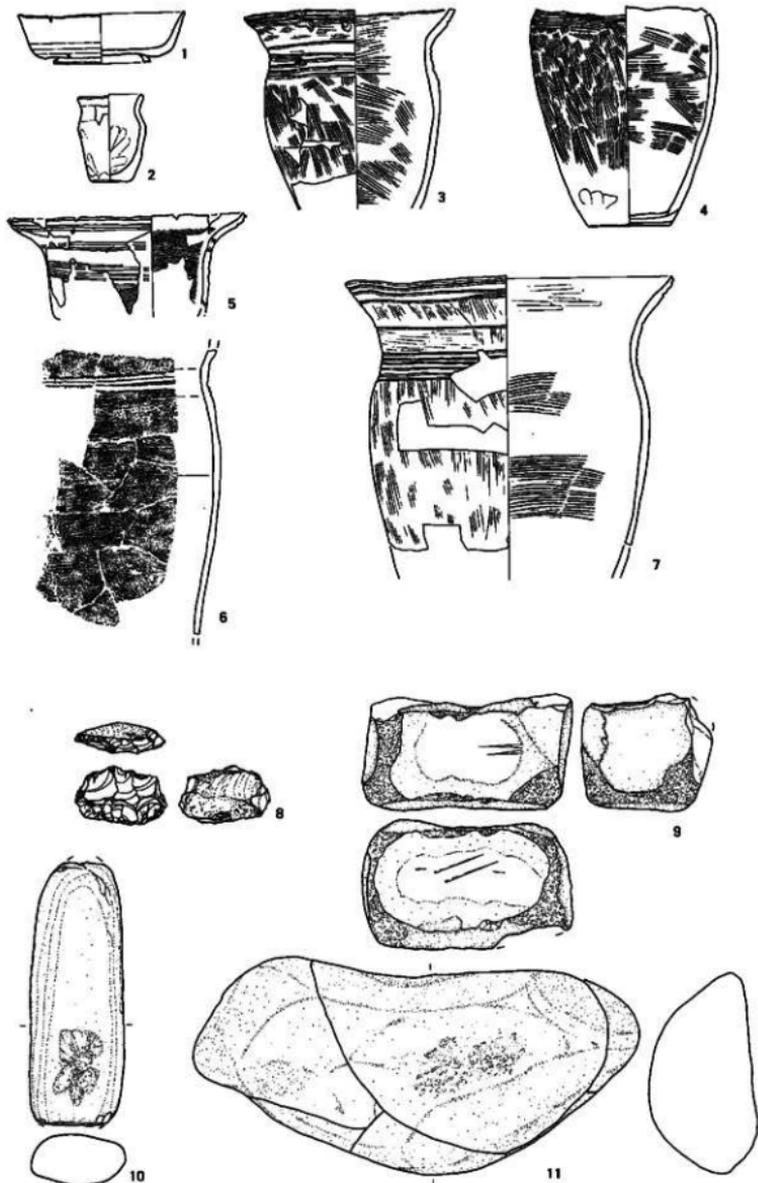
6 褐色土 (φ10cmを含む)

7 褐色土 (木炭粒を含む)



図II-42 SH15

II オサツ2遺跡の調査



図II-43 SH15の遺物

にある。確認できた壁の高さは7cm~12cm。立上りは不明瞭。

付属遺構

床面ほぼ中央部に炉。床面を少し掘り込んでいるようだ。木炭粒および骨粉を含む。他には東コーナー際に焼土あり、木炭粒および骨片を含む。掘り込みなし。

遺物

1~7は床面より出土。1の須恵器坏は口唇に燈明痕が付着する。3~7は横走沈線の深鉢。5刃SH-1、3、5、7の床・覆土の破片に接合関係をもつ。8は石核、一面に礫皮を残す。東側は削平されているため遺物が少ない。壁を超えて遺物が出土しているが、道路敷設時に動いている可能性あり。炭化物の出土は極めて少ない。

時期

SH-10に規模・プランが類似していることから同じ時期と考えられる。

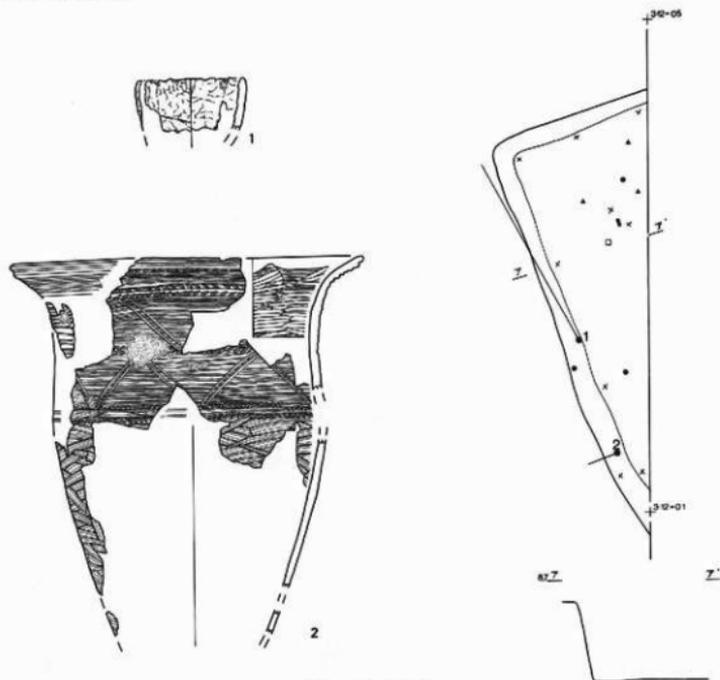
SH-16 (図II-44、図版II-16・35)

位置 2・12

規模 -/-x-/-x0.6m

調査

盛土などを除去した段階で、Ta-a火山灰が入る落ち込みを確認した。なお、大半は調査区外にあり、詳細は不明である。



図II-44 SH16

II オサツ2遺跡の調査

遺物

1・2はいずれも覆土出土。1は口径が小さい割に厚手で、器表には調整が施されていない。
2は上下段鋸歯状複沈線文の深鉢。

時期

縄文文化期

SH-17 (図II-45、図版II-17)

位置 1・12、2・12、1・13、2・13

規模 -/-x-/-x0.39m

調査

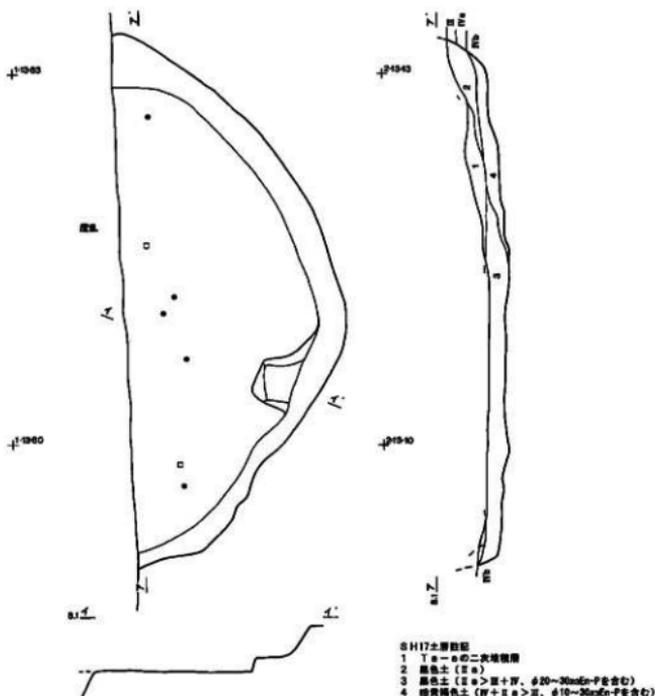
盛土などを除去した段階で、Ta-a火山灰が堆積する落ち込みを確認した。なお、土取で破壊された断面によって壁の立上りを確認した。

覆土

上位の覆土はII a層で構成され、下位の覆土はそれにIV層が混じる。

形態

土取の破壊により、全形は知りえないが、残存部分から類推すると、隅丸方形であると思われる。床面は中央に向かって少し下がる。壁はやや内湾しながら外上方へ立ち上がる。南東隅に壇上の構造



図II-45 SH17

がある。カマド・炉・柱穴は検出されていない。

遺物

復元可能な土器は出土していない。深鉢の胴部破片が覆土から2点出土している。ほかには安山岩と砂岩の礫片が各1点づつ出土している。

時期

弥文文化期。

SH-19 (図Ⅱ-46・47、図版Ⅱ-18・35・36)

位置 2・13、2・14

規模 8.68/8.46×8.60/8.10×0.60m

調査

盛土などを除去した段階で、Ta-a火山灰の落ち込みを確認した。なお、本壜穴は建て替えにより規模が拡大されており、区別する際には建て替え前の小型のものをa、建て替え後の大型のものをbと呼称する。

掘揚げ土

壜穴東側は黄褐色がちな掘揚げ土が、西側は暗褐色の掘揚げ土が分布している。

覆土

床面直上には、各層の土が入り混じったような状態で堆積し、本壜穴の焼失に伴う焼土及び炭化材がみられる。それより上位の壁際には掘揚げ土の流れ込みがみられる。

形態

ほぼ方形でカマド部分が若干外へ張り出す。床面は凹凸が目立ち、一部には貼床と思われる部分もある。北西及び南東の隅が深く掘り込まれており（北東は井戸の攪乱で不明、南西にはない）、カマド側を除く三辺の壁際には、これにつづく幅20cm、深さ10cm前後の溝状掘り込みがある。この溝は、鉋状の工具で壁面と直交する方向に掘り進められている。壁の残りは良く、ほぼ垂直に立ち上がる。掘揚げ土の流れ込み状況から掘り込み面はⅡa層の上位にあたるものと考えられる。

付属遺構

東壁中央に白色粘土を用いた造り付けのカマドがある。天井石、袖石などの補強物はみられない。カマドの遺存状況は比較的良好で、焚口から煙道にかけては階段状に掘り込まれている。焚口の火床面はかなり硬く締っている。炉は床面には全部で4か所の焼土がある。焼土キはSH-19aのカマド焚口焼土、焼土エはSH-19aの炉、焼土オとカがSH-19bの炉と考えられる。焼土は南側及び北東側で本壜穴焼失時の焼土が顕著に残っている。灰白色粘土はカマドの素材に用いられた粘土と同質のものが、床面の東側隅コーナー付近でブロック状にみられた。柱穴サ、シ、ケ、コがSH-19a、柱穴スセソタがSH-19bの柱穴である。なお、柱穴ケは他と比べて掘り込みが浅く細い。また位置的にもズレがみられることから、実際には柱穴タが二時期にわたって使われた可能性が高い。

遺物

1・5・9は北西隅の床面から出土している。8はミニチュアで、SH-20覆土8層の破片と接合関係をもつ。口唇と側面の穴には磨痕がある。9は前田目窯の須恵器細頸壺で、SH-3・4の覆土の破片と接合関係をもつ。3はカマドから出土しており、SH-20覆土上のⅡa層の破片と接合関係をもつ。

11はRF。12はラウンドスクレーパー、先端から一側縁にかけて調整。13は釧小札の破片で、2列5対の商工が確認できた。覆土上面1b層アイ文化期の遺物である。ほかには、図版Ⅱ-41に示した鉄滓が床面から出土している。

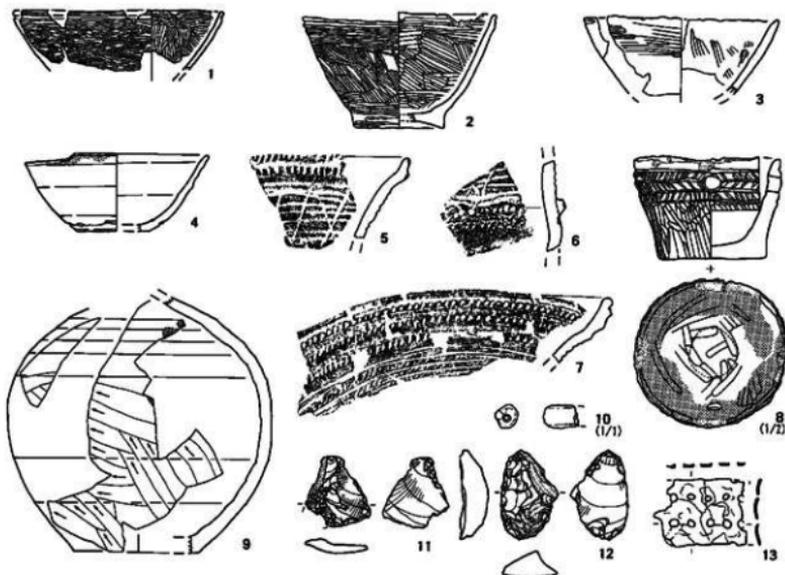
II オサツ2遺跡の調査

北西隅の掘り込み上面に18点の礫集中があった。石質は砂岩の1点を除き全て安山岩で、最小55.3mm、最大長82.8mm、平均69.2mmで、最小重量が69.2g、最大が155.6gで、平均は118.2gである。波辺分類のAa類素材で、用途は第2群。

植物種子は、マメ科5点、ブナ科6点のほかタデ科、ナス科などがある。また、クルミの殻(0.6g)、骨片(0.3g)、炭化材片(175.9g)も得られている。

時期

擦文文化期。



図II-46 SH19の遺物

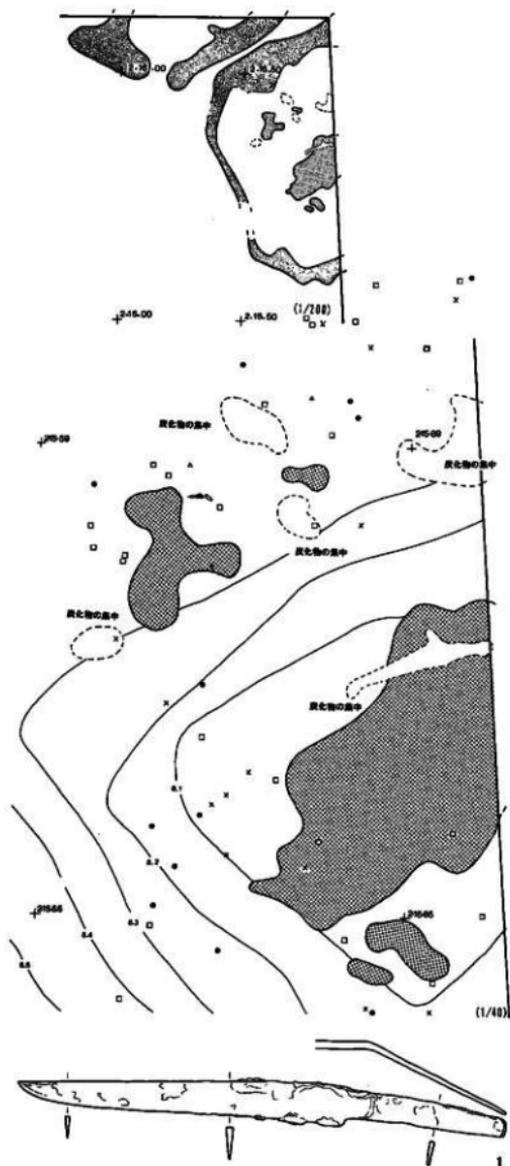


図 II-48 SH20(1)

SH-20 (図II-49・50、図版II-19・36)

位置 2・15、2・16

規模 -/-×6.62/6.44×0.54m

調査

道路敷盛土を除去後、I層中にTa-a火山灰が堆積した落ち込みを確認、住居跡と判断し、I層中の上層遺構を調査後、東西方向に土層観察用のベルトを設定した。

掘揚げ土

I層除去後、コの字状に広がる暗黄褐色土(黄色大粒バミスが混じる)を確認。北隣にも暗黄褐色土(黄色大粒バミスが混じる)を確認したが、先後関係は不明。

覆土

3・4層は堅穴の窪みに流れ込んだもの。4層以下は黄色バミスが混じるII a層が主体。5層は掘揚げ土。8層は6層とよく似た土質をもつ。5層流入以前に堆積しているので屋根土とも考えられるが、9・10・11層がすでに堆積しているので、屋根が落ちる前に壁がこわれたと考えられる。9・10・11層は壁の崩落土。14・15層はJH-4の覆土(SH-20に削平)。

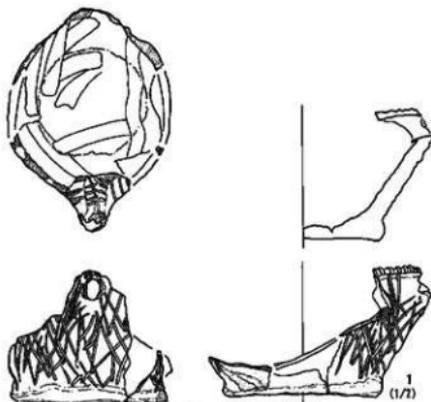
形態

東半部が調査区外のため詳細は不明であるが、方形の住居(3辺)と推定される。構築面はII a層中位である。床面の掘り込みはIV b層にまで達している。床面は極めて平坦で、標高は7.90~7.89mの範囲にある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

北側壁際は、約25~35cm幅で溝状に掘られており、床面より約8cm低くなっている。その際に鋤状工具の掘削痕が検出された。これらは意図的に埋められその埋め土は締まっていた。また南西隅には不整形な土壌が検出された。墳底はでこぼこで、深さは平均で約15cmで、その埋め土は締まっていた。これらの溝・土壌は堅穴使用時に以前に埋められていることから付属遺構ではなく堅穴掘削時の痕跡で、掘削施工時の目安(設計図のような)の役割をしていたと考えられる。

付属遺構

中央に長楕円形の炉と脇に円形の炉がある。主柱穴は平面形が円形で、先端は丸い。ほかには、直径10cm前後の細い柱穴が1.5m間隔で並んでいる。先端は尖がる。



図II-49 SH20の遺物

遺物

図II-49-1は注口のミニチュアで、口唇には刺突文、胴部には斜格子沈線文?が施されている。

図II-48-1は覆土上面I a層アイヌ文化期の刃子である。残存長20.3cmで、刃区と極めて浅い棟区がある。刃部には使い減りがみられ、茎は途中から左に折られている。

植物種子は、カヤツリグサ科1点、マメ科1点、不明ミレット1点などが検出されている。骨片(0.20g)、炭化材料(17.6g)が得られた。

上層遺構の炭化物集中からはアワ1点、ナス科1点、クルミ(1.5g)などが検出できた。

時期

3が覆土上層のII a層の破片と、SH-19の8が覆土8層の破片と接合関係をもつこと。B-Tmを切ること。以上の2点より、B-Tm火山灰降下後でSH-19より古い時期の據文文化期SH-23(図II-51・52、図版II-17・38)

位置 1・15、1・16

規模 3.35/3.29×3.33/3.23×(0.15)m

調査

Ta-a火山灰が堆積した落ち込みなどの痕跡はなく、水道管理設溝で住居の立上りを確認した。水道管理設溝と直交する方向に土層観察用のベルトを設定した。

掘揚げ土

検出されていない。

覆土

2層は焼土層。この焼土は3～5層堆積後に形成されているので、住居焼失時の焼土ではないようだ。3層と4層の間にB-Tm火山灰が堆積している。5層は壁の崩落土。

形態

平面形は方形(菱形)の住居である。構築面はII a層下位であろう。床面の掘り込みはIV a層上位で止まっている。床面は極めて平坦で、標高は8.05～8.03mの範囲にある。壁は直線的に外上方に立ち上がる。

付属遺構

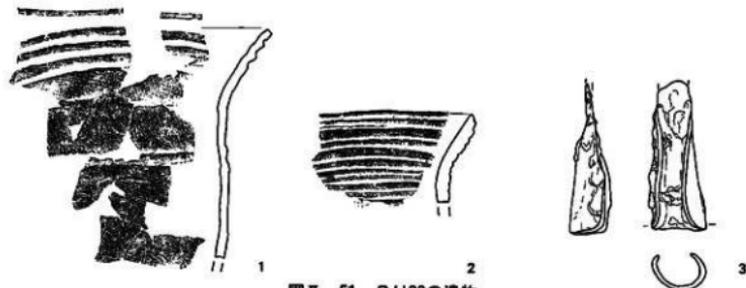
中央に円形の炉がある。炉からは骨片が検出されている。住居内に浅い柱穴が確認された。平面形が円形で、先端は丸い。主柱穴は住居内になくおそらくは住居外にあったと思われるが検出できなかった。

遺物

1は床面出土の横走沈線の深鉢。2は床面出土の横走沈線の深鉢で、1に比べると口縁部が肥厚しており、内面にはミガキが施されているところが異なる。

3は銚先で、頭部は欠損しソケット部のみが残っている。残存長は6.1cm、ソケット長4.9cmでソケット巻き込みは浅く開いている。千歳市末広遺跡のIH-98の覆土上層のI B層からほぼ完形の類例が出土している。

植物種子は、不明種子2点、同定不可3点が検出されている。骨片は微量、炭化材片(7.8g)が得られた。



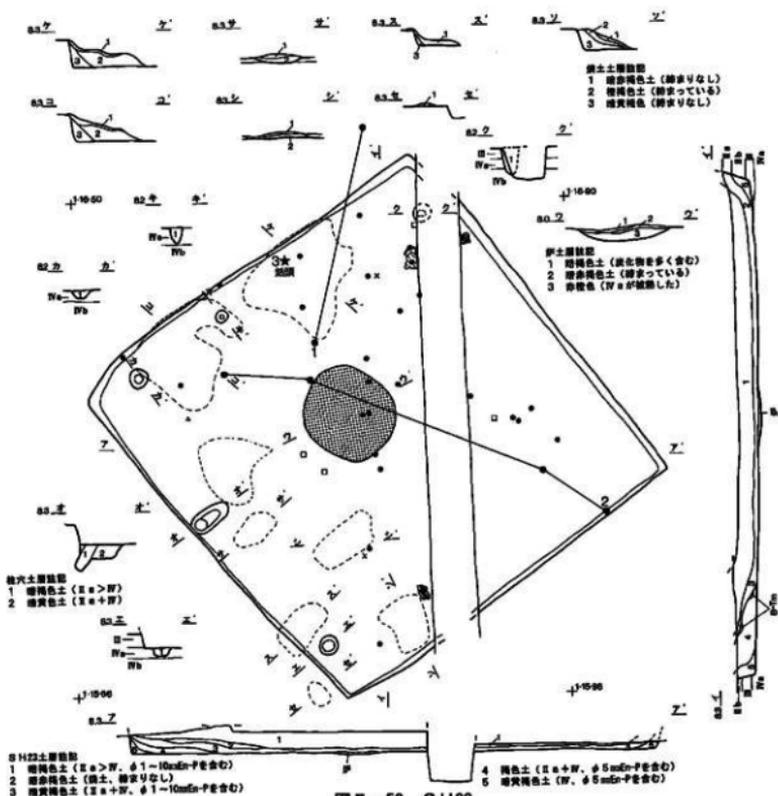
図II-51 SH23の遺物

II オサツ2遺跡の調査

上層の焼土からは不明種子1点が検出できた。

時期

B-Tm火山が覆土中位にあることから、B-Tm灰降下以前の縄文文化期。



(4) 鍛冶遺構

鍛冶遺構-1 (図II-53)

位置 2・14 規模 1.36×0.66×0.10m

調査

井戸の攪乱部分を掘り上げた段階で、南側の断面を確認した。II a層上位で、B-Tm火山灰直上に位置する。上面にSH-19の掘揚げ土が覆っている。

形態

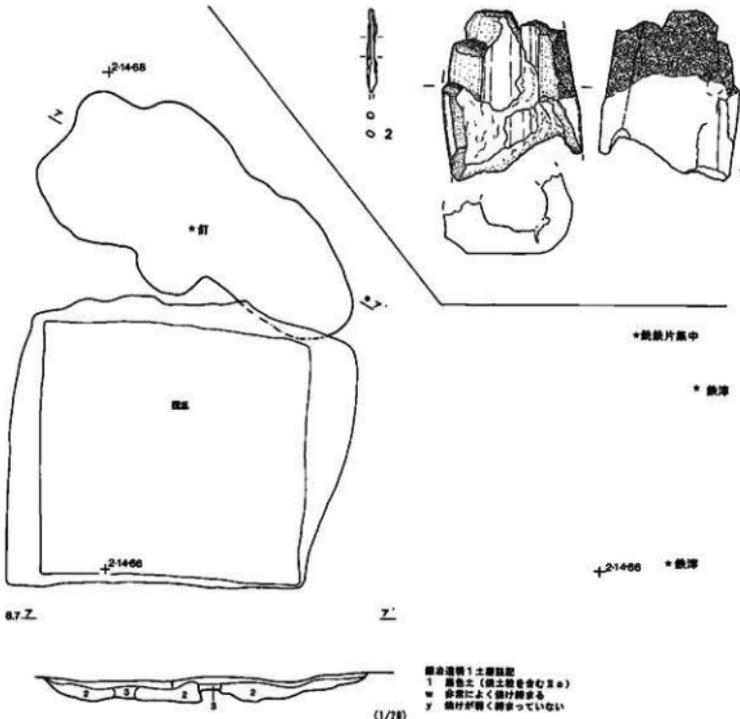
平面的には非常に良く焼けて締まる部分と、焼けが弱く締まりのない部分が交互にみられる。

遺物

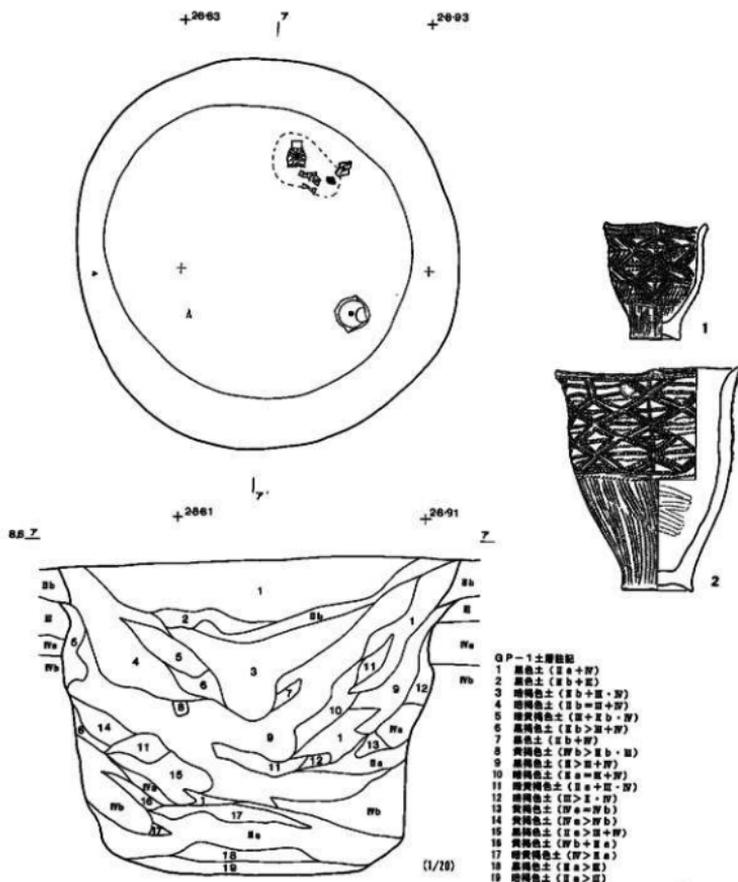
火床の中央上面から1が、南東脇から2が出土している。周辺に鉄滓・鉄鉄片の集中がある。1は断面がカマボコ型の土製羽口、通風孔の径は約2.6~2.0cmである。先端は溶解し発泡している。

時期

SH-19より古い。掘揚げ土のかぶり具合からFP-43とFP-36~38及び炭化物集中ほぼ同時期。



図II-53 鍛冶遺構1



図II-55 GP-1

II オサツ2遺跡の調査

(5) 墓

GP-1 (図II-55、図版II-43~45)

位置 2・8

規模 1.59/1.24×1.25/1.12×1.28m

調査

II b層上面で落ち込みを確認。

埋土

レンズ状に堆積する上部の層は遺体腐敗後の埋土沈下による流れ込み。ブロック状に堆積する下部の層は埋土。

形態

平面形はほぼ円形を呈する。墳底は平坦で壁との境は明瞭。IV b層を約85cm掘り込む。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺体

中央やや北よりに、ほとんどノリ状になった歯がみられたが取上げはできなかった。その北側に厚さ3cm程のベンガラが敷かれている。

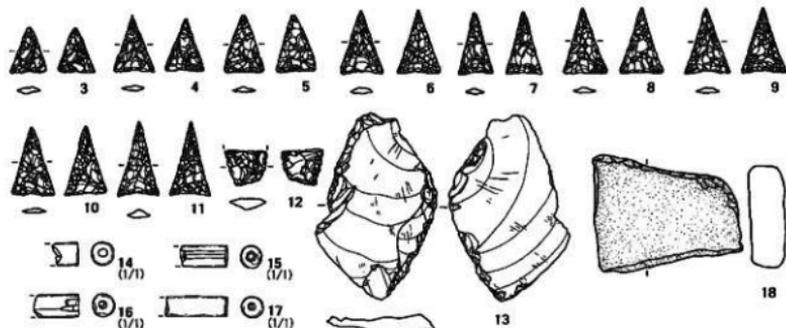
遺物

1は後北B式ミニチュア深鉢で、ベンガラ上に、口縁部を内側に向けて横倒した状態で出土している。2は後北B式の小型深鉢で、南東側隅に直立した状態で置かれていた。1・2は同じ文様構成であるが、1は文様帯が胴部まで拡大している。後北B式でもやや新しい時期のもの。

墳底から出土した石器類は全部で14点である。石鏃の向きは揃っていない。3~11は全て無茎平基の石鏃(8点はベンガラ上面からの出土)で、11は基部に若干アーチがかかる。12はポイントナイフ基部。13はベンガラ上面からの出土したナイフ、背面は両側縁の一部に調整を施し、腹面は片側縁に調整を施す。14~17はフローテーションで確認した管玉である。18は砂岩の礫で、一側面に剥離調整を施す。

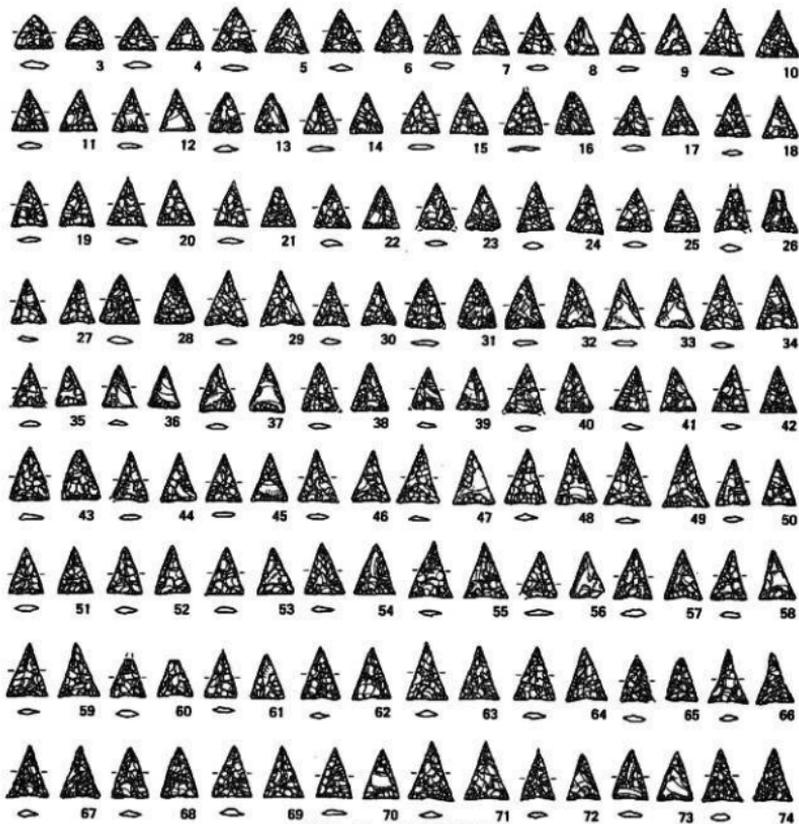
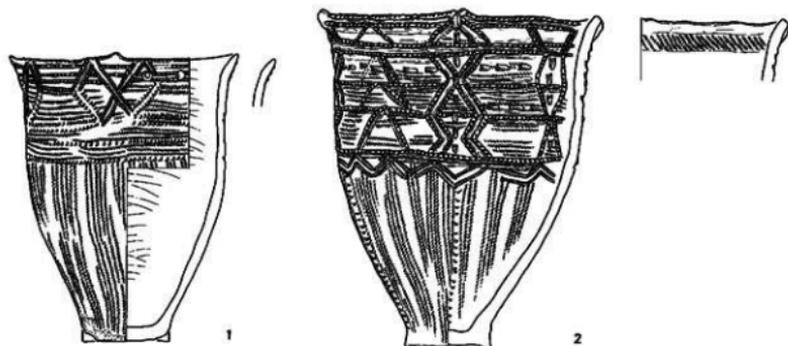
時期

出土した遺物より、後北B式期でもやや新しい時期。

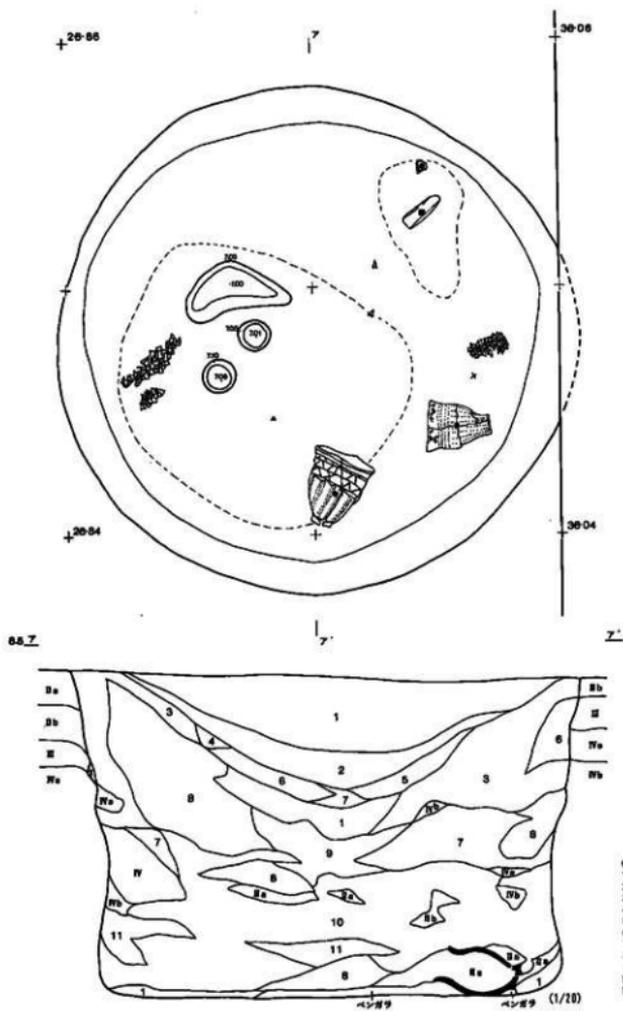


図II-56 GP1の遺物

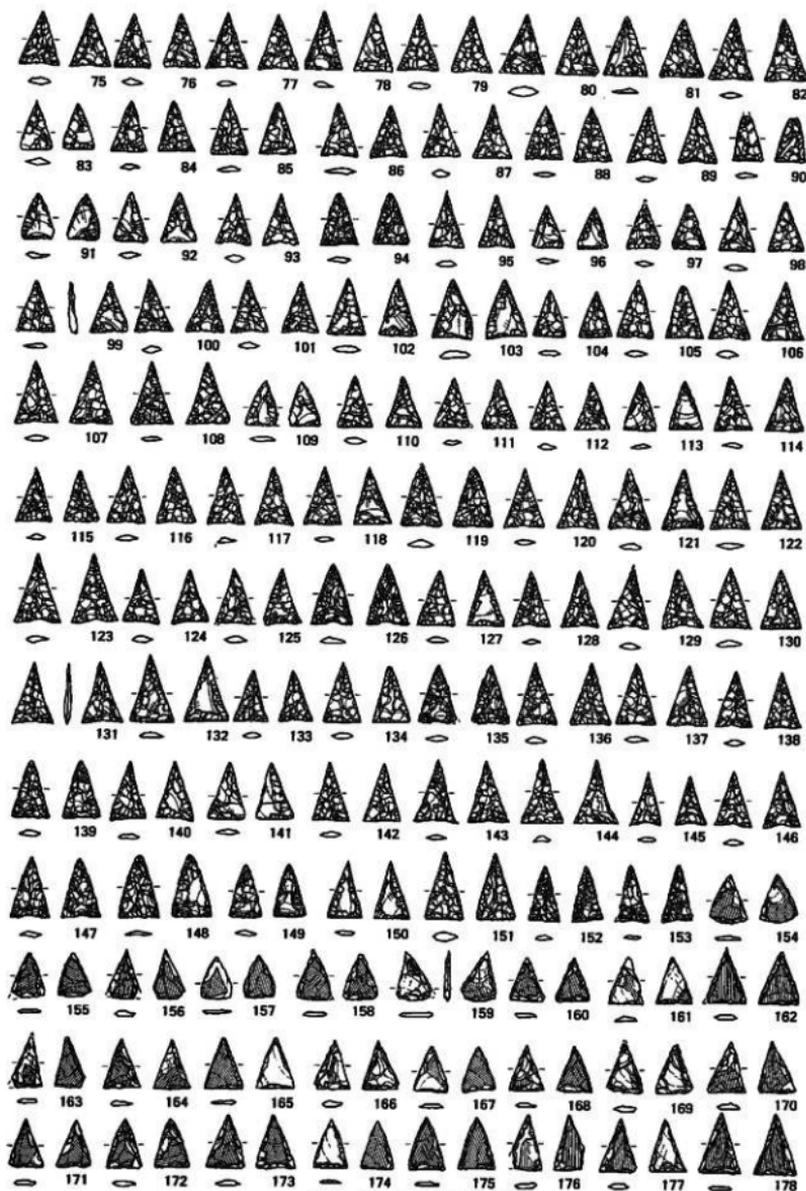
II オサツ2遺跡の調査



図II-58 GP2の遺物(1)

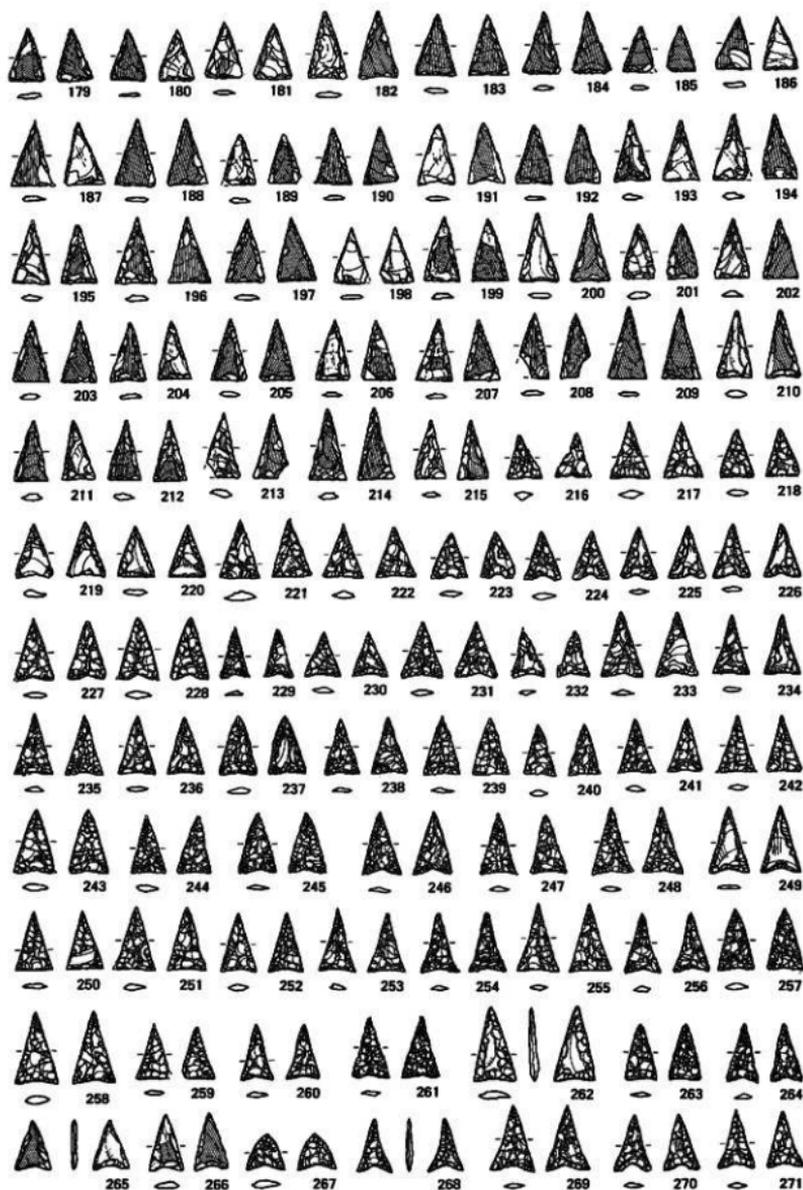


図II-57 GP2



図II-59 GP2の遺物(2)

II オサツ2遺跡の調査



図II-60 GP2の遺物(3)

GP-2 (図II-57~61、図版II-45・46)

位置 2・8

規模 2.12/1.82×1.84/1.75×1.31m

調査

II a層下位及びII b層上面で落ち込みを確認。

埋土

レンズ状に堆積する上部の1・2層は遺体腐敗後の埋土沈下による流れ込み。ブロック状に堆積する下部の層は埋土。

形態

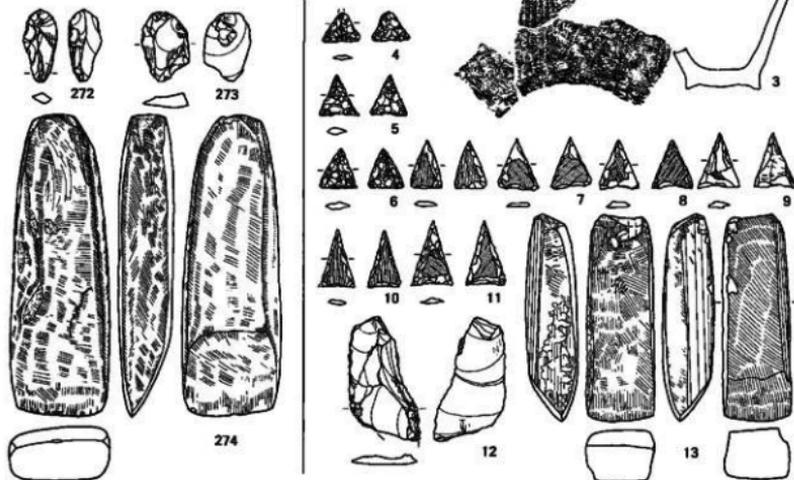
今回の調査で検出した後北期の墓壇では最大の規模を有する。平面形はほぼ円形である。墳底は平坦で壁との境は明瞭。IV b層を約94cm掘り込む。壁はほぼ垂直に立ち上がる。墳底中央西寄りに、円形の浅い小ピット2個と不正形のピット1個がある。

遺体

遺存していない。ベンガラは東側と西側に分かれてみられ、厚さは東側の壁際が最も厚く8cm程あり、ほかは4cm前後である。

遺物

1・2は後北B式の深鉢で、いずれも南側の墳底から、口縁部を内側に向けて横倒した状態で出土している。1は菱形と三角形の隆起線。2は刺突列と隆起線の組合せによる菱形。近い文様構成である。後北B式でも古い時期のもの。



図II-61 GP2の遺物(4)とGP3

墳底から出土した石器類は石斧1点と石鏃269点と石錐1点とR F 1点の計274点である。石鏃のうち83点は南東側にまとまっており、その多くは先端が南側に向けられている。西側には183点があり、155点が北側に、28点が南側にそれぞれ並べられていた。南側のもは全て綺麗に北向きに揃っているのに対し、西列のものは北向きが多いものの、横立ちになっているものや南向きなどマチマチな方向のものもみられる。

3～125は黒曜石製の無茎平基石鏃、153～215は緑色片岩製の無茎平基石鏃、216～222頁岩製の無茎平基石鏃、223～229は黒曜石製の無茎平基石鏃で基部に抉りがあるもの、230～264は黒曜石製の無茎平基石鏃で基部に若干アーチがかかるもの、265・266は緑色片岩製の無茎平基石鏃で基部に若干アーチがかかるもの、267～271は黒曜石製の無茎凹基。緑色片岩製の石鏃のなかには、三角の形だけを保っているような粗雑なものがある。272は石錐。273はR F。274は緑色泥岩製の片刃石斧で、東側のベンガラはほぼ中央に、刃を中央に向け、背を上にした状態で出土している。

時期

出土した遺物より、後北B式期でも古い時期

GP-3 (図II-61、図版II-47)

位置 1・7

規模 (1.60) / 1.46 × (1.52) / 1.40 × (0.14) m

調査

縄文時代の住居跡SH-13の床面に黒色土の円形落ち込みを確認した。

埋土

黄色バミスを含むII黒層が主体である。

形態

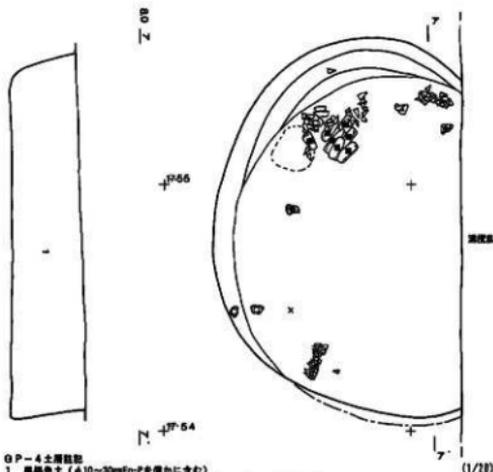
北南方向が長軸の楕円形。確認された壁と墳底はIV a層中に造られている。墳底はほぼ平坦。西側の遺物が置かれている部分が少し高い。壁の立上りも西側では緩やか。

遺物

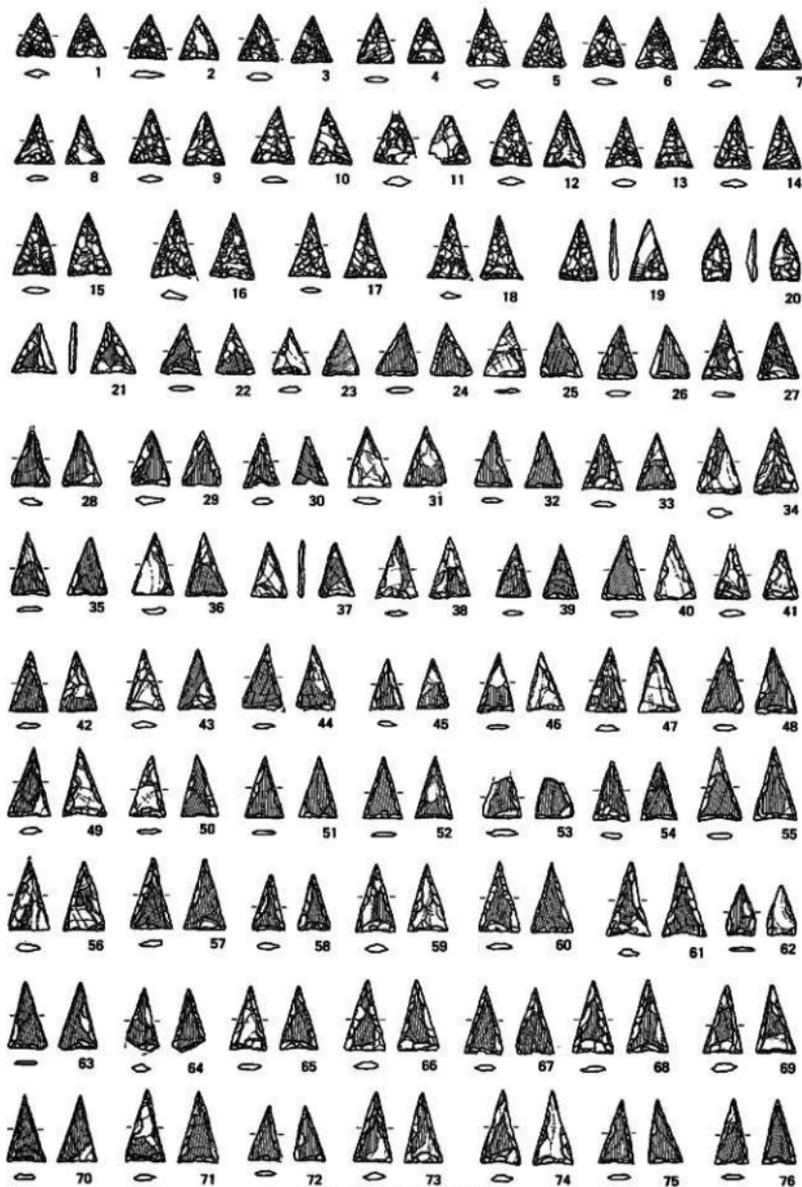
いずれも西側の墳底から横倒した状態で出土している。1は後北B式の小型深鉢で、円形と三角形の隆起線。内部には石斧が2点入っていた。2は後北B式のミニチュアの深鉢で、沈線による菱形。後北B式でも新しい時期のもの。3は覆土出土の後北式深鉢の胴部。4～6は黒曜石製の無茎平基石鏃。7～12は緑色片岩製の無茎平基石鏃。13は頁岩のスクレーパー。14は緑色泥岩製の片刃石斧で、両側面の一端に擦り切り痕を残す。

時期

出土した遺物より、後北B式期でも新しい時期。

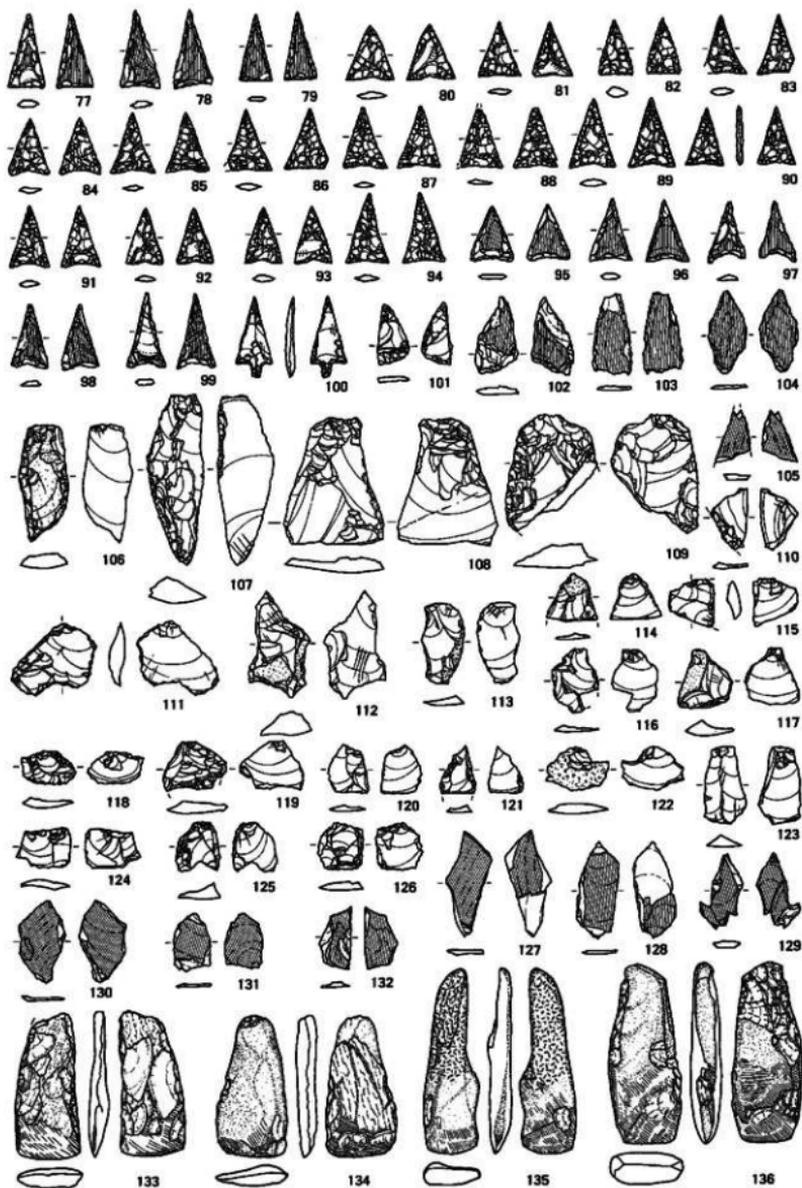


図II-62 GP4



図II-63 GP4の遺物(1)

II オサツ2 遺跡の調査



図II-64 GP4の遺物(2)

GP-4 (図II-62~65、図版II-48)

位置 1・7

規模 (1.60) / 1.41 × - / - × (0.30) m

調査

水道管の溝攪乱を掘り上げた段階で確認。上部はSH-7に切られている。

形態

東側を水道管溝で攪乱されているが、楕円に近い形を呈すものと思われる。墳底は平坦で壁との境は明瞭。壁は南側がオーバーハングし、北側が外へ開く。

埋土

黒褐色土1層で構成されている。GP-3に似る。

遺体

遺存していない。ベンガラは北側隅に薄くみられた。

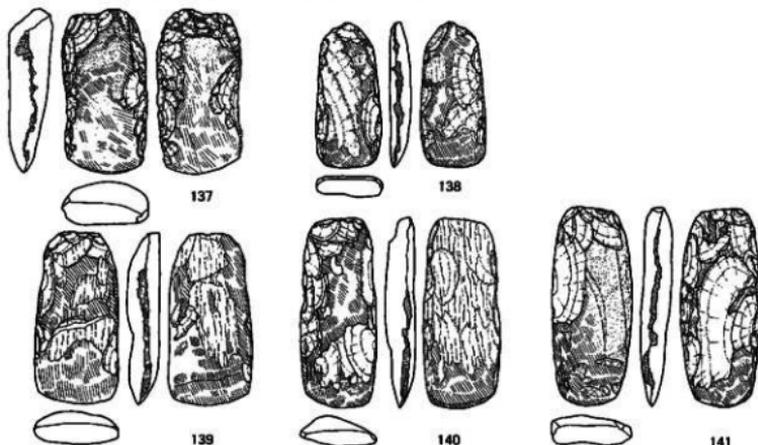
遺物

副葬位置は、北東側に石鏃19点とスクレーパー、R・F各1点が、北西側に石鏃25点、スクレーパー、ノッチドスクレーパー2点、U・F9点、焼けた剥片1点、剥片10点、石斧9点があり、西側には石鏃60点と剥片1点がある。北東側と北西側の石鏃は向きがまちまちであるのに対し、南側の石鏃は向きが綺麗に北向きに揃っている。

1~20は黒曜石製の無茎平基石鏃、21~79は緑色片岩製の無茎平基石鏃、80~82は頁岩製の無茎平基石鏃、83~94は黒曜石製の無茎平基石鏃で基部に若干アーチがかかるもの、95~99は緑色片岩製の無茎平基石鏃で基部に若干アーチがかかるもの、100は黒曜石製の有茎石鏃。102~104は緑色片岩製の石鏃未製品。106~109はスクレーパー。110はR・F。111・112はノッチドスクレーパー。113~121はU・F。122~132は剥片。133~141は石斧、いずれも側面を作出せず、刃縁は曲刃。

時期

出土した遺物や規模、形態、埋土の状況より、後北式期。



図II-65 GP4の遺物(3)

II オサツ2遺跡の調査

GP-5 (図II-66、図版II-49)

位置 1・7 規模は不明。

調査

II b層下面で出土した土器の周辺を精査した結果、墳底の一部を確認。形態、埋土、遺体は不明。

遺物

1は後北B式の古い時期の深鉢で、内側に向いて横倒れに出土した。2は焼けて半割りになった碟。

時期

出土した遺物より、後北B式期の古い時期

GP-6 (図II-67~70、図版II-50・51)

位置 2・8

規模 (1.40) / 1.28 × (1.28) / 1.08 × (0.68) m

調査

II a層下位及びII b層上面で落ち込みを確認。上面はSH-14に切られている。

形態

平面形は、長軸が南北の楕円形。墳底は平坦。壁は底面近くがオーバーハングする。

埋土

上部の1・2層は遺体腐敗後の埋土沈下による流れ込み。ブロック状に堆積する下部の層は埋土。

遺体

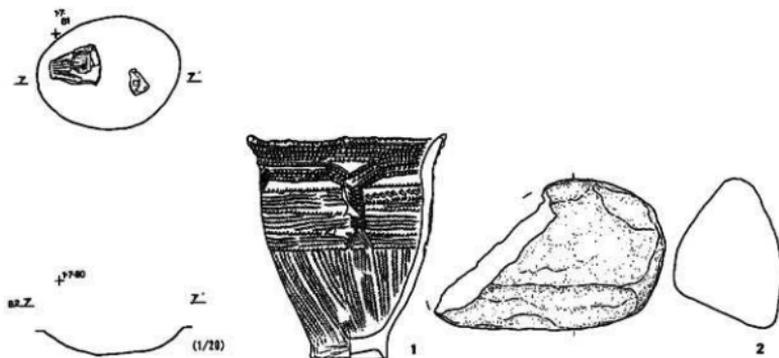
遺存していない。ベンガラは東側に薄くみられた。

遺物

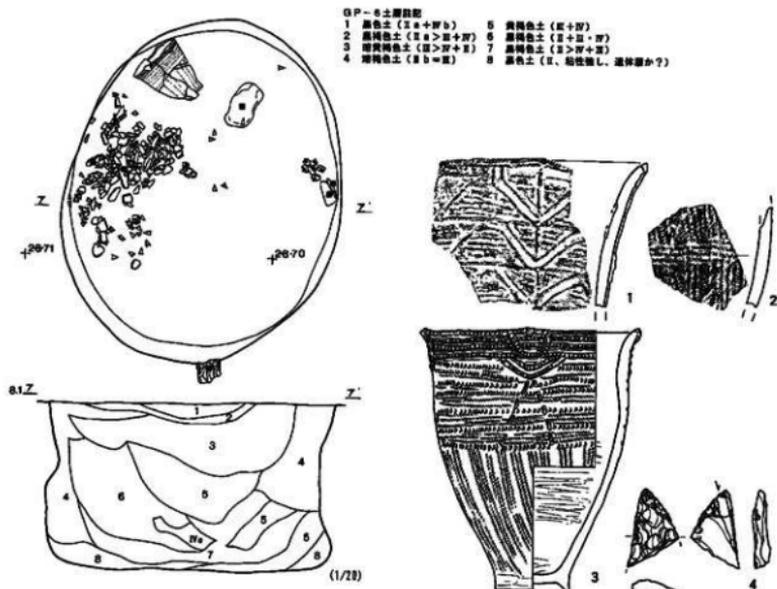
1・2は覆土上部出土。1は後北B式の深鉢で隆起線で三角形を表現する。後北B式でもやや新しい時期のもの。3は北側墳底に口縁部を外側に向けて横倒した状態で出土している。後北B式の深鉢で隆起線と押しで三角形を表現する。後北B式でも古い時期のもの。

南東側のベンガラ上には石斧・楔形石器・搔器・石核・剥片があり、北東側には砥石・石礫があった。北西側には石礫・石錐・楔形石器・搔器・ポイントナイフ・R・F・U・F・剥片・石斧・礫・彫器があった。石礫にはGP 2・4にみられたような方向の斉一性はない。

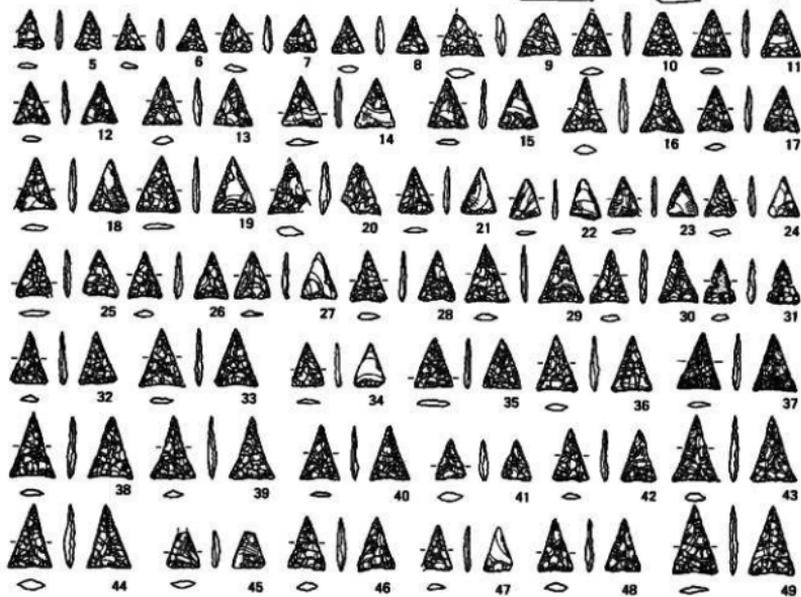
4は混入と思われる彫器。5~62は黒曜石製の無茎平基石礫、63~112は緑色片岩製の無茎平基石礫。



図II-66 GP5

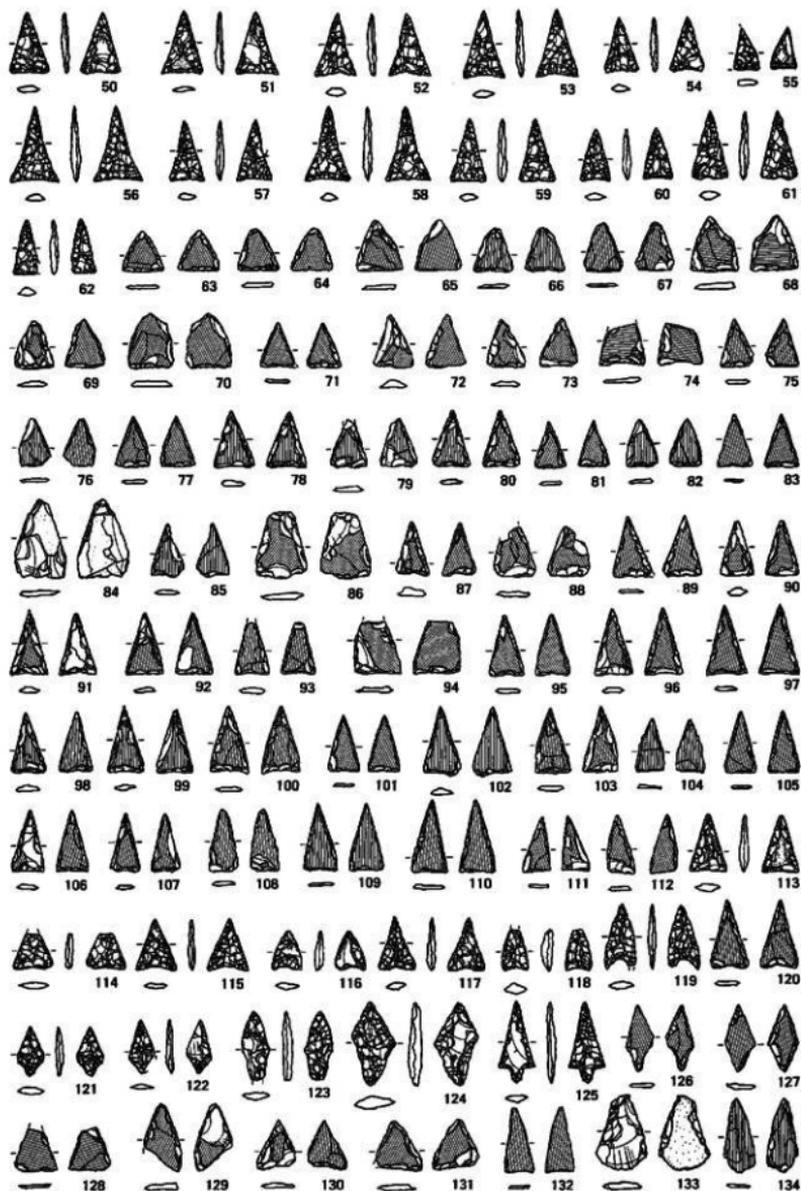


- GP-6 土層図説
- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 黄褐色土 (H a + 砂) | 5 黄褐色土 (H + 砂) |
| 2 黄褐色土 (H a > H + 砂) | 6 黄褐色土 (H + 砂 + 砂) |
| 3 黄褐色土 (H a > H + 砂) | 7 黄褐色土 (H > H + 砂) |
| 4 黄褐色土 (H b = 泥) | 8 黄褐色土 (H、粘性強し。遺存物か?) |

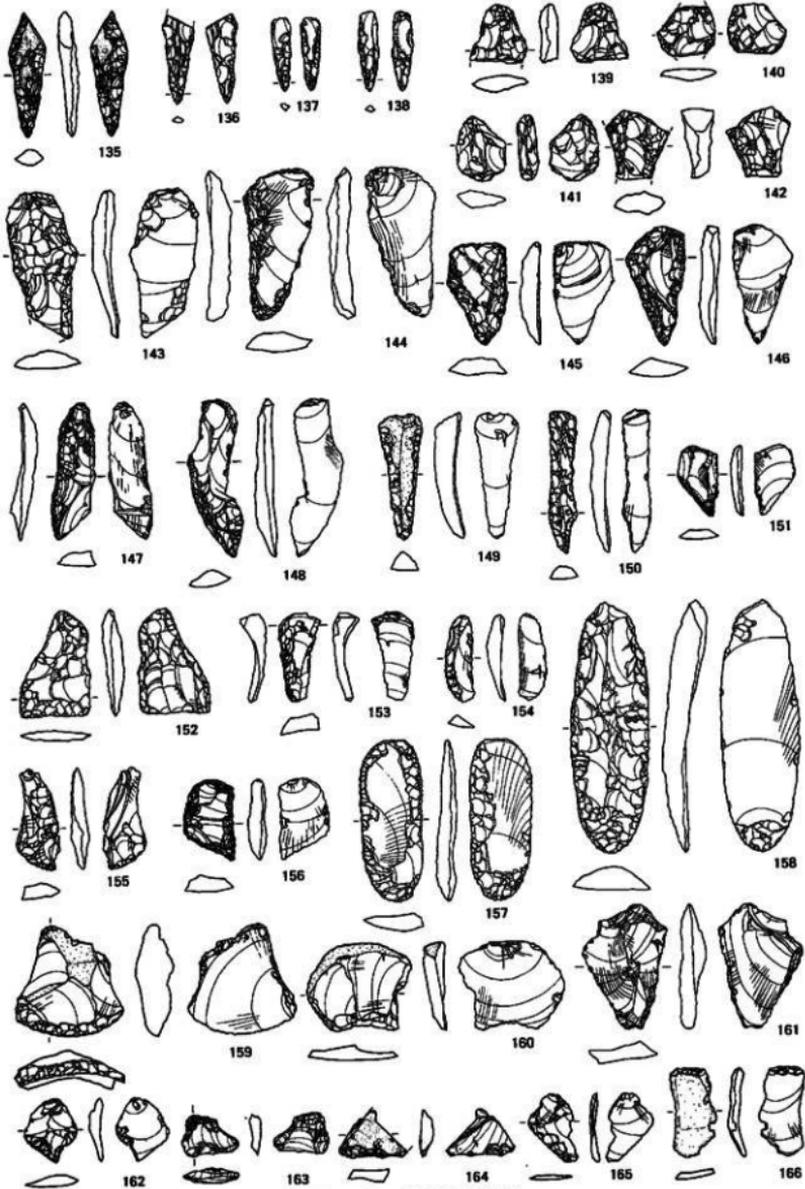


図II-67 GP 6

II オサツ2遺跡の調査

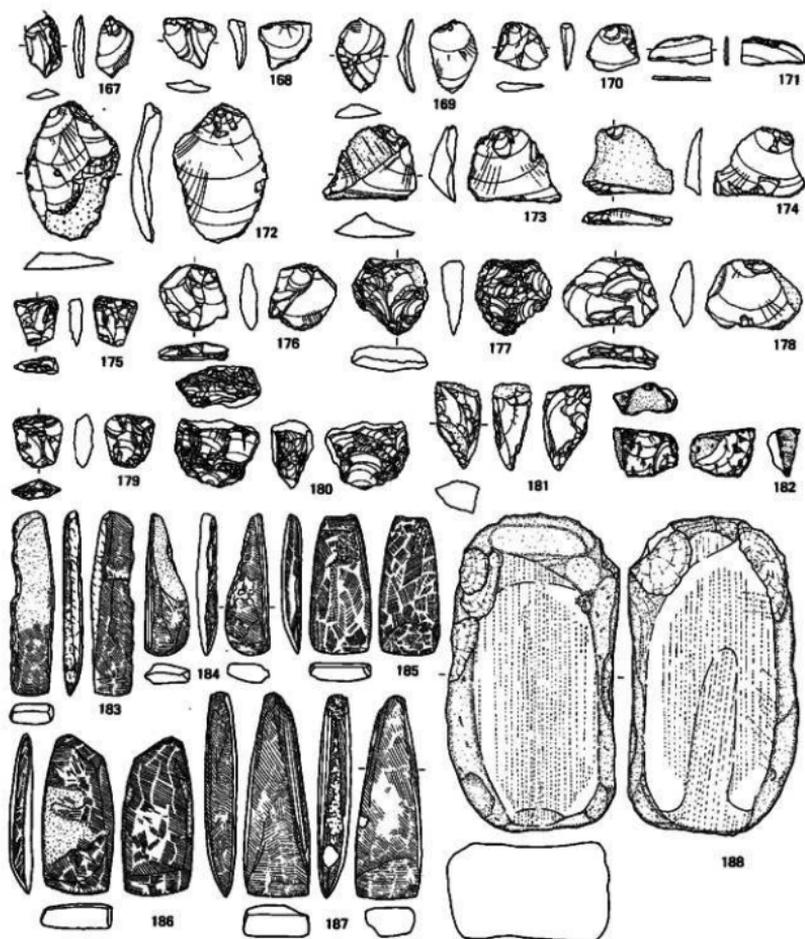


図II-68 GP6の遺物(1)



図II-69 GP6の遺物(2)

II オサツ2遺跡の調査



図Ⅱ-70 GP6の遺物(3)

113は頁岩製の無茎平基石鏃、114~118は黒曜石製の無茎平基石鏃で基部に若干アーチがかかるもの、119は黒曜石製の無茎凹基石鏃、120は緑色片岩製の無茎平基石鏃で基部に若干アーチがかかるもの、121~124は黒曜石製の凸基石鏃、125は黒曜石製の有茎石鏃、126・127は緑色片岩製の凸基石鏃、128~132・134は緑色片岩製の石鏃未製品。133は泥岩製の石鏃未製品か。135~138は石鏃。139~142はポイントナイフ。143~159はスクレーパー。160はノッチドスクレーパー。161~171はR・F。172・173はU・F。174はフレイク。175~182は楔形石器。183~187は石斧。188は砥石。

時期

出土した遺物より、後北B式期の古い時期

GP-7 (図II-71、図版II-49)

位置 2・10

規模 1.61/1.02×1.06/0.99×0.67m

調査

II b層上面で落ち込みを確認。上位のII a層中にはFP-29がある。

形態

平面はほぼ円形を呈し、壁面は南側の崩落が目立つ。

埋土

上部の1・2層は遺体腐敗後の埋土沈下による流れ込み。ブロック状に堆積する下部の層は埋土。

遺体

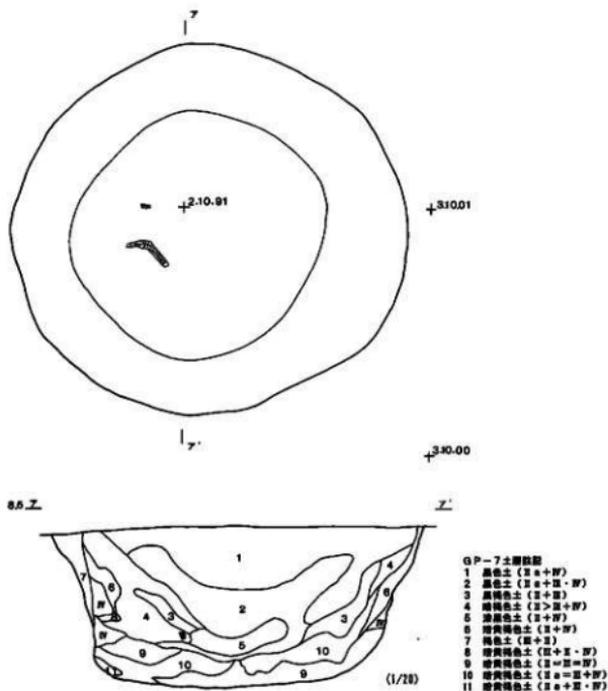
遺存していない。ベンガラもみられない。

遺物

墳底に炭化材2点がみられたほかはない。

時期

規模、形態、埋土の状況から後北式期。



図II-71 GP-7

Ⅱ オサツ2遺跡の調査

GP-8 (図Ⅱ-72、図版Ⅱ-51)

位置 1・13

規模 (1.05) / 0.35 × (0.96) / 0.33 × 0.56m

調査

SH-17の周囲を精査中、Ⅱa層中位で平面形を確認した。また、土取によって土壌の西側の上部が削り取られていたので埋土や土器の胴部も観察できた。

形態

平面形は楕円形を呈し、墳底はやや丸底。壁面は外上方に立ち上がる。

埋土

上部の1~4層は遺体腐敗後の埋土沈下による流れ込み。5・6層は埋土。7は遺体層

遺体

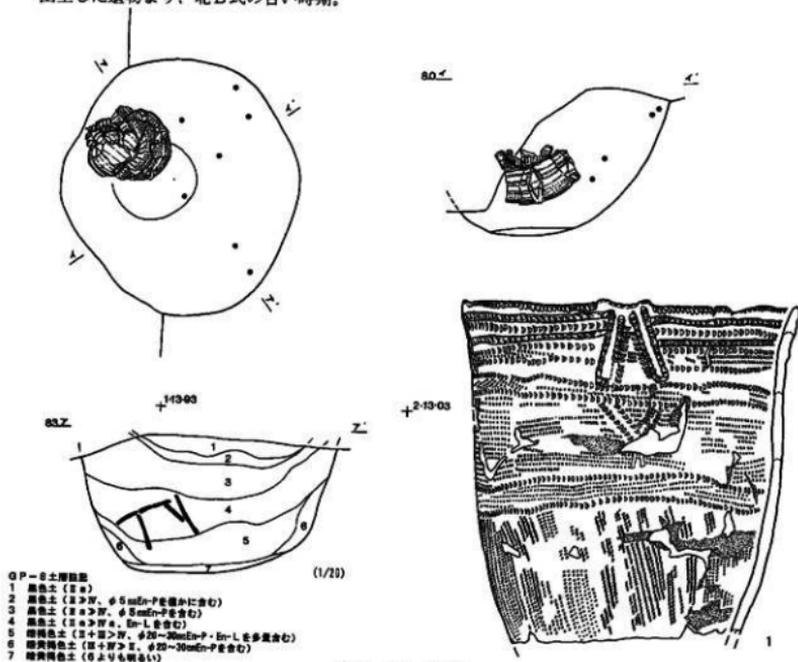
遺存していない。ベンガラもみられない。

遺物

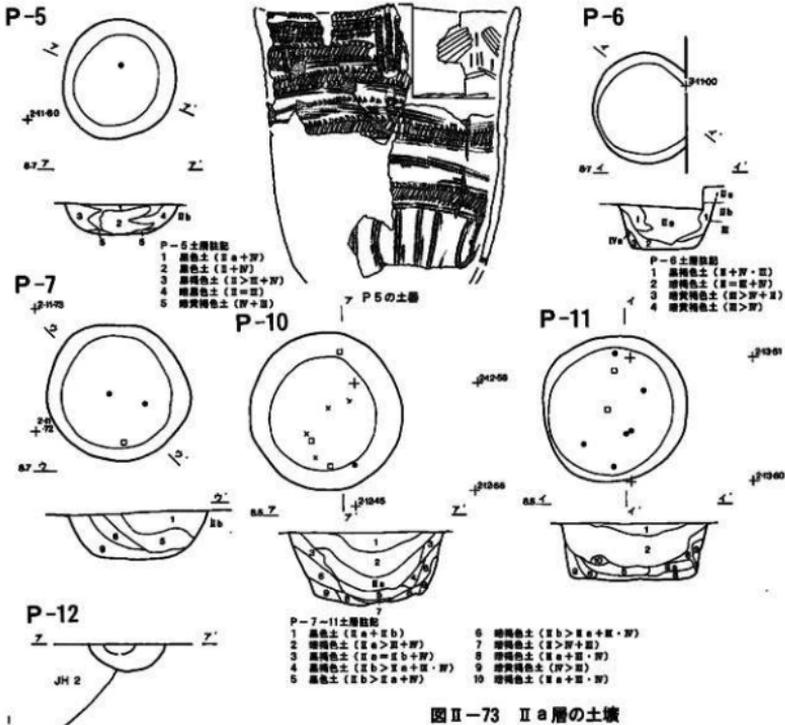
1は、4層出土の後北B式深鉢で隆起線と刺突で菱形を表現する。後北B式でも古い時期のもの。墓塚縁にあったものが、遺体腐敗後の埋土沈下によって倒れ込んだのか、倒置して中央に置かれていたのかは不明。他には、4層より上位に混入した縄文土器片が7点出土した。

時期

出土した遺物より、北B式の古い時期。

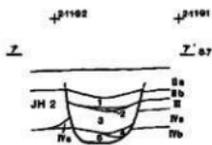


図Ⅱ-72 GP8



図Ⅱ-73 II a層の土壌

(6) 土壌 (図Ⅱ-73、図版Ⅱ-52)



P-5

位置 2・11 規模 0.98/0.76×0.82/0.65×0.25m

調査・形態

Ⅱ b層上面で落ち込みとして確認。平面はほぼ円形。内湾ぎみ外上方へ立ち上がる。確認面、覆土の状況から後北期。

遺物・時期

覆土2層から後北A式土器の破片1点が出土し包含層の破片と合わせて復元できた。遺物、確認面、覆土の状況から後北期。

P-12土層図説

- 1 黒色土 (Ⅱb>Ⅱa、φ5mm以下を僅かに含む)
- 2 暗褐色土 (Ⅱa+Ⅱb)
- 3 黒褐色土 (Ⅱa+Ⅱb+Ⅱ、φ5~25mm以下を多数含む)
- 4 黒色土 (Ⅱa+Ⅱb、砂多し)
- 5 暗褐色土 (Ⅱa+Ⅱb>Ⅱ、砂多し)
- 6 暗褐色土 (Ⅱa+Ⅱb>Ⅱ、砂多し)

P-6

位置 2・10、2・11

規模 0.90/0.72×—/—×0.38m

調査・形態

Ⅱ b層上面で落ち込みとして確認。平面はほぼ円形であろう。壁は外上方へ立ち上がる。確認面

遺物・時期

遺物なし。覆土の状況から後北期。

Ⅱ オサツ2遺跡の調査

P-7

位置 2・11 規模 1.16/0.92×1.11/0.88×0.40m

調査・形態

Ⅱb層上面で落ち込みとして確認。平面はほぼ円形。壁は内湾ぎみ外上方へ立ち上がる。

遺物・時期

覆土1層中から縄文中期の土器片2点、覆土2層中から礫1点が出土している。確認面、覆土の状況から後北期。

P-10

位置 2・12 規模 1.27/0.91×1.24/0.87×0.60m

調査・形態

Ⅱb層上面で落ち込みとして確認。平面はほぼ円形。壁は外上方に立ち上がるが、覆土の状況からは壁面の崩落が大きいことが考えられる。

遺物・時期

覆土中から縄文中期の土器片2点、剥片、礫が出土している。確認面、覆土の状況から後北期。

P-11

位置 2・13 規模 1.22/1.02×1.20/0.97×0.47m

調査・形態

Ⅱb層上面で落ち込みとして確認。平面はほぼ円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物・時期

覆土中から擦文、後北、縄文中期の土器片、礫が出土している。確認面、覆土の状況から後北期。

P-12

位置 2・11 規模 0.61/0.25×—/—×0.43m

調査・形態

Ⅱb層上面で落ち込みとして確認。平面は楕円形？。壁は外上方に立ち上がる。

遺物・時期

遺物はなし。確認面、覆土の状況から後北期。

(7) 集石 (図Ⅱ-74、図版Ⅱ-53)

集石1

位置 2・4 規模 完形11、破片16点

層位 Ⅱa層上位。 時期 擦文文化期。

遺物

完形礫の長さは47.0~70.8mmで平均58.6mm、重さは12.5~45.4gで平均27.8gであり、安山岩1点、流紋岩1点、泥岩9点が出土している。礫片は流紋岩が16点。ほかに擦文土器の深鉢胴部下半片1点が出土している。

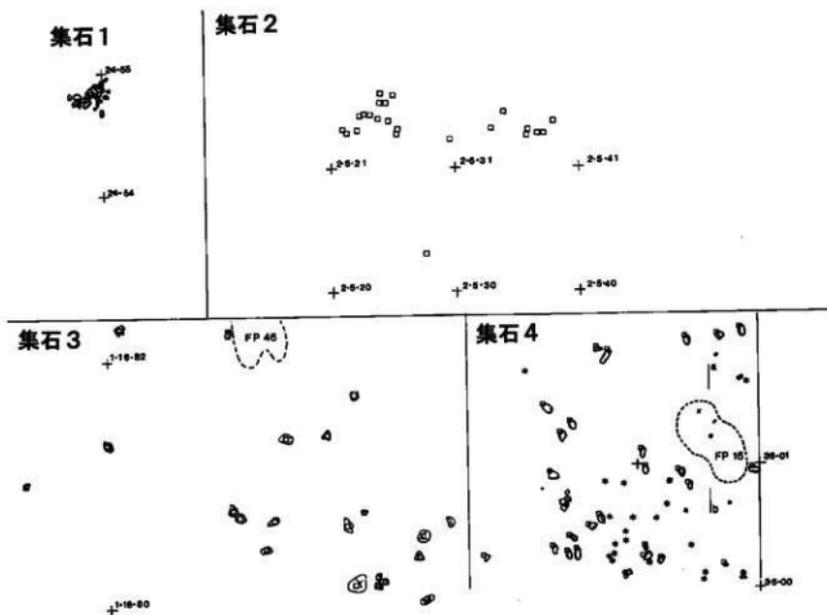
集石2

位置 2・5 規模 完形32点

層位 Ⅱa層上位。 時期 出土層位より擦文文化期。

遺物

長さは38.6~86.7mmで平均63.4mm、重さは33.3~169.6gで平均61.6gである。安山岩13点、流紋岩1点、砂岩9点、泥岩6点、蛇紋岩1点が出土している。



図II-74の集石

集石3

位置 1・16 規模 完形2、破片11点
 層位 II a層中位。 時期 後北式期
 遺物

完形礫の長さは91.8、124.2mmで平均108.0mm、重さは439.5~1550.0gで平均994.8gであり、砂岩、泥岩各1点。礫片は安山岩6点、砂岩3点、泥岩2点である。ほかに後北式土器の深鉢胴下部片1点が出土している。

集石4

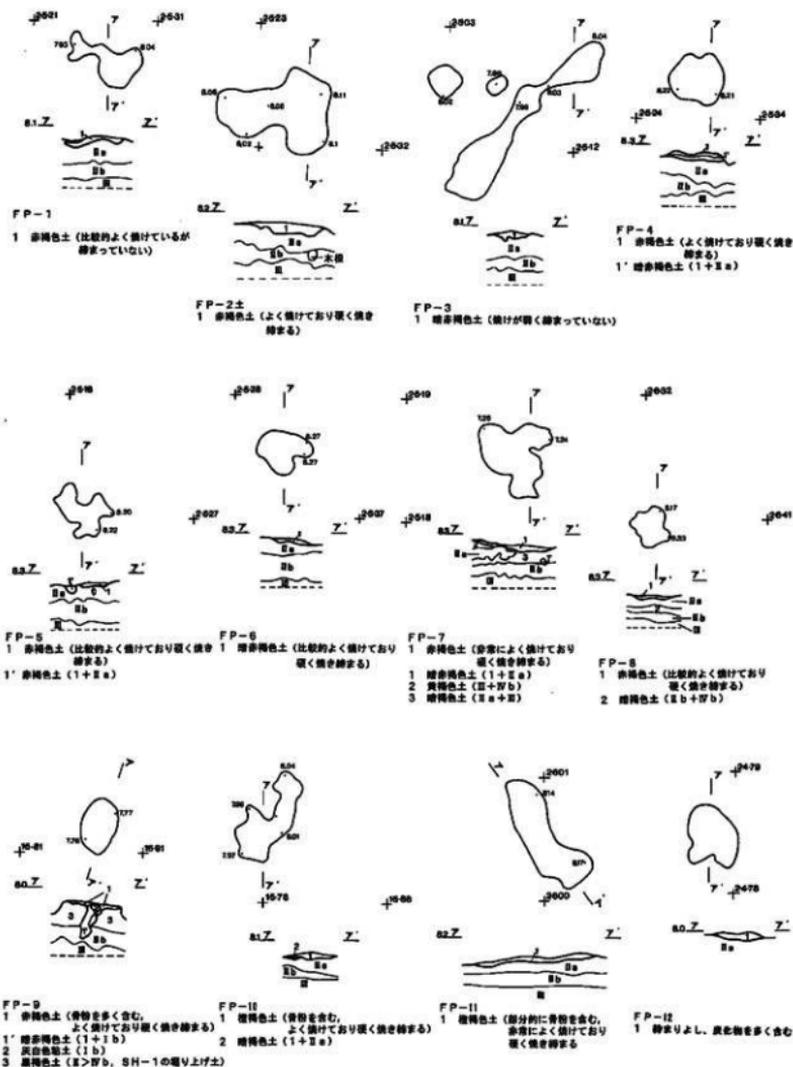
位置 2・5 規模 列状に6点、南側に5点の完形礫計11点。
 層位 II a層上位。SH-2掘揚げ土の上位。FP 15・47と同一面上に残されている。
 遺物

長さは67.2~86.5mmで平均73.5mm、重さは80.1~169.9gで平均126.7gである。安山岩が11点なお、北側と南側の礫群の間には骨片が多くみられ、この周囲からは、FP-47出土破片と接合する破片が出土した。、鉄製品も出土している。

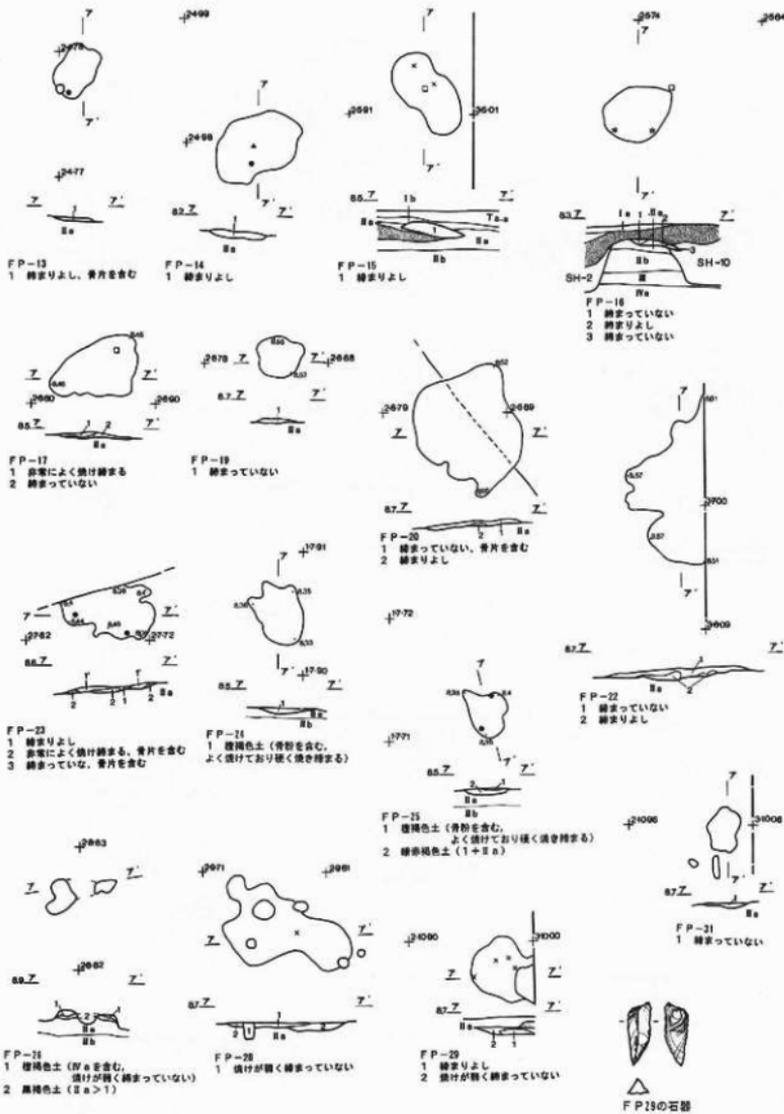
時期

SH-2より新しい濠文文化期で、FP-15・47と同一時期。

II オサツ2遺跡の調査

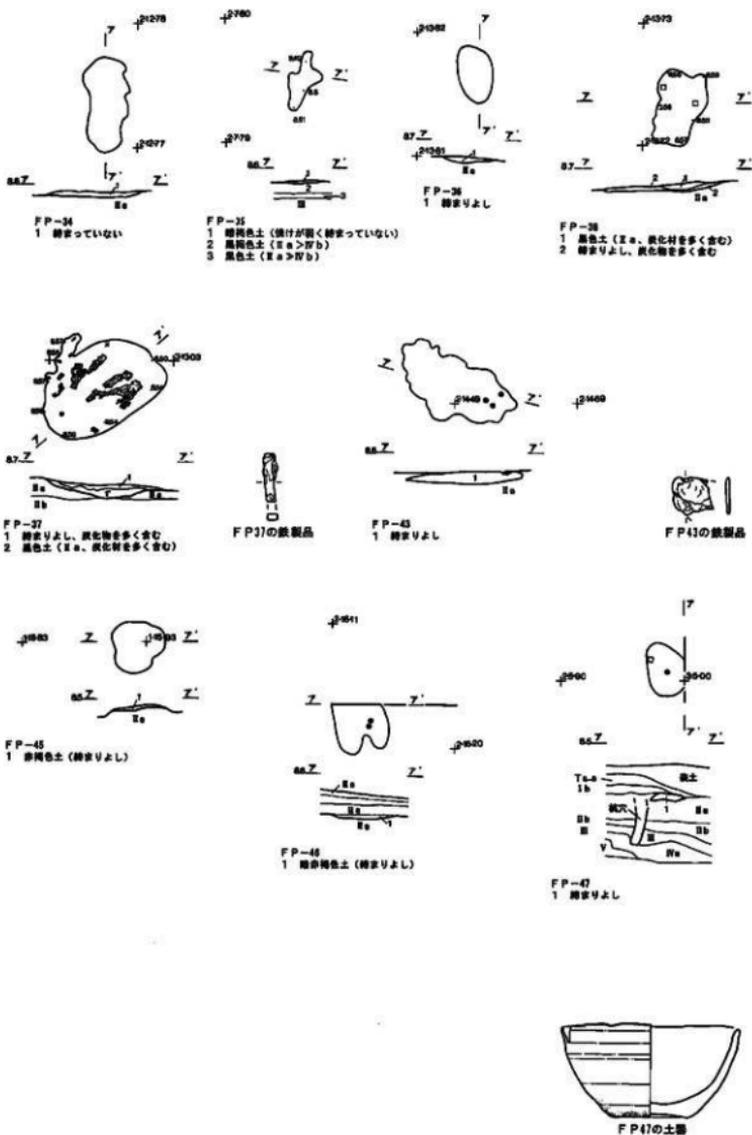


図II-75 II a層の焼土(1)



図II-76 II a層の焼土(2)

II オサツ2遺跡の調査



図II-77 II a層の焼土(3)

(8) 焼土 (図Ⅱ-75~77、図版Ⅱ-53)

縄縄文時代以降の焼土は、FP-34・45・46である。FP-34がⅡa層中位で、FP-45・46がⅡa層下位である。

FP-46からは後北式土器の胴部破片が2点出土している。

縄文文化期の焼土は、FP-13~16・23・29である。構築面はFP-15がⅡa層上位で、FP-13・14・16・23・29がⅡa層中位である。

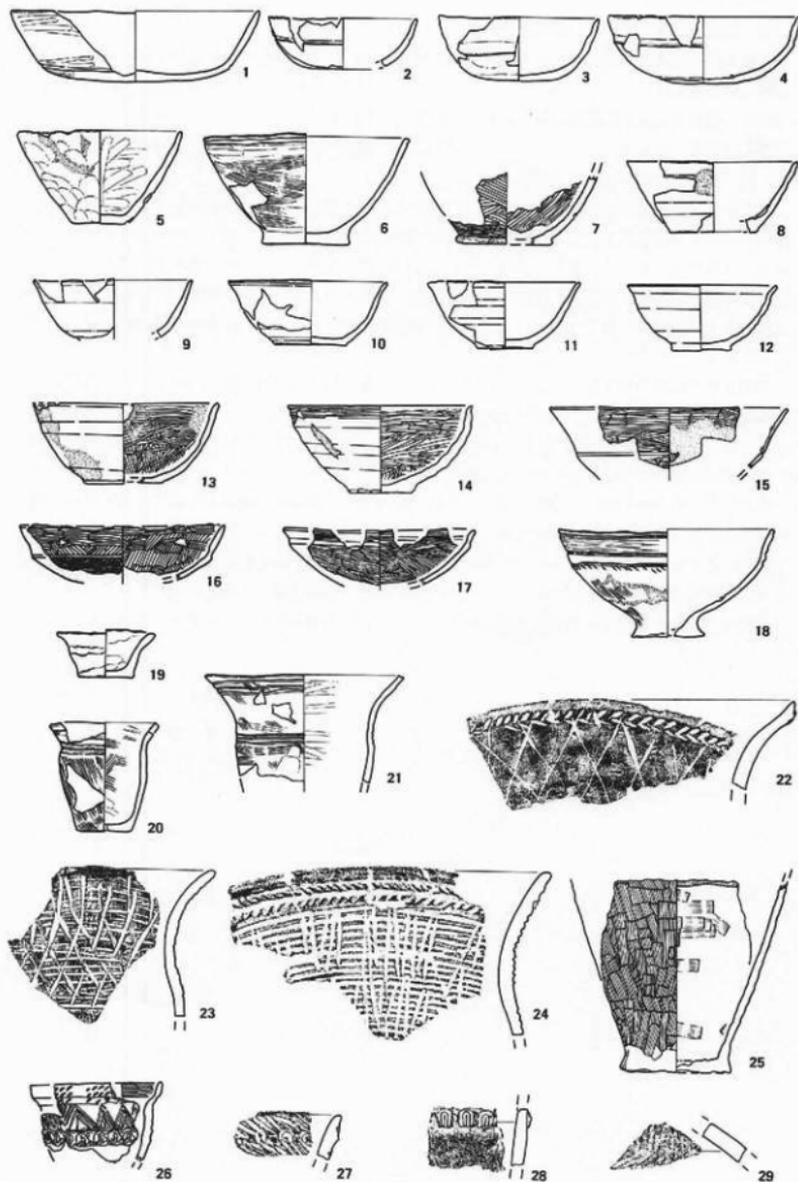
FP-13は焼土中に骨片がみられ、焼土直上から縄文土器深鉢の胴部下半が出土している。FP-15はSH-2の掘揚げ土直上に位置する。焼土中から焼けた剥片1点、焼土上から安山岩礫片1点と剥片1点が出土している。FP-16はSH-2の掘揚げ土直下で、SH-10覆土上に位置する。焼土上には骨片がみられ、焼土脇には礫片が1点ある。FP-23はSH-6で切られている。焼土上、焼土中、焼土脇に焼けた剥片1点がある。FP-29は焼土中に剥片4点、上面に板状の炭化材1点が出土している。

縄文文化期以降の焼土は、FP-1~12・17・19・20・22・24~26・28・31・35・36・47である。構築面はFP-1~6・10・11・19・20・22・25・26がⅡa層上位で、FP-8・12・17・24・28がⅡa層中位である。FP-7はSH-11の掘揚げ土の上、FP-9はSH-1の掘揚げ土の上にある。FP-35はSH-4のくぼみを利用した焼土である。

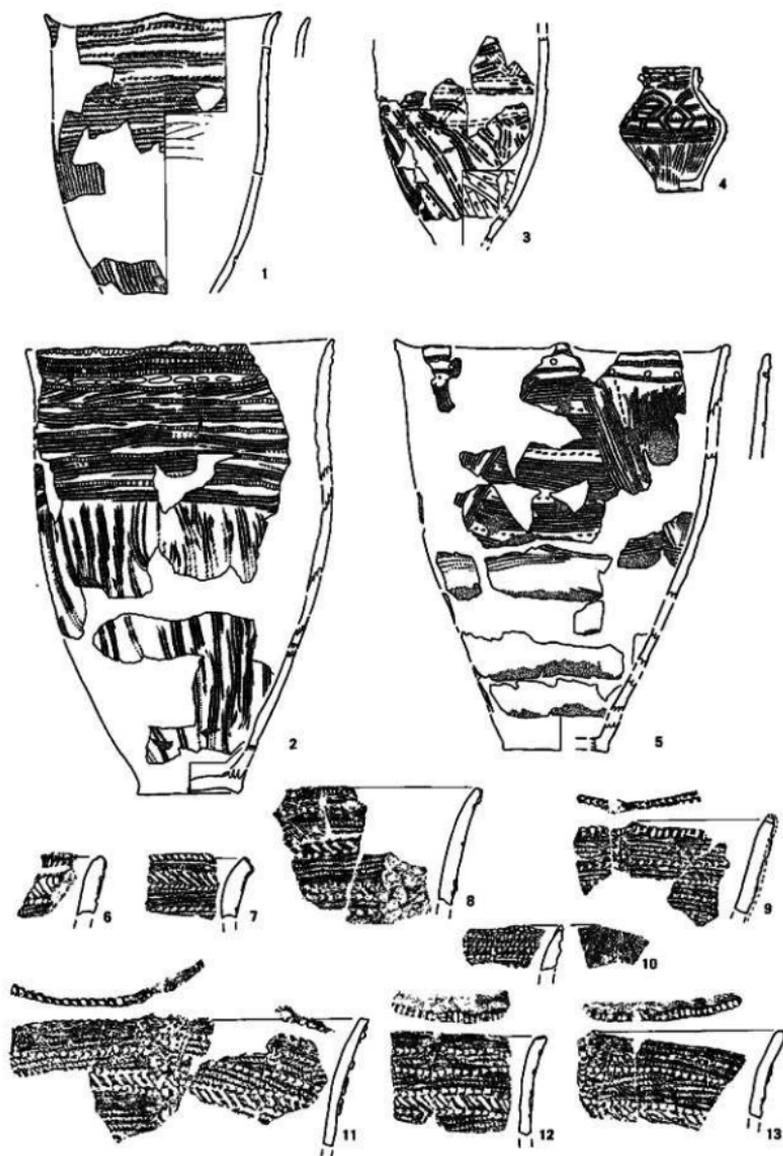
FP-12は焼土中に骨片を多量に含む。FP-17は焼土上に安山岩礫が1点出土した。FP-22は中央付近がドーナツ状によく焼けている。FP-28は焼土上に剥片が1点、焼土脇に焼けた剥片が1点ある。FP-47は焼土中から坏の破片が出土した。この坏は、周辺の包含層の破片と接合し復元できた。内黒でタテミガキが施されている。そのほかには安山岩の礫片1点が出土している。

そのほか時期は不明であるが、FP-38・43からは不明の鉄製品が各1点出土している。

II オサツ2遺跡の調査



図II-78 II a層の土器(1)



図II-79 II a層の土器②

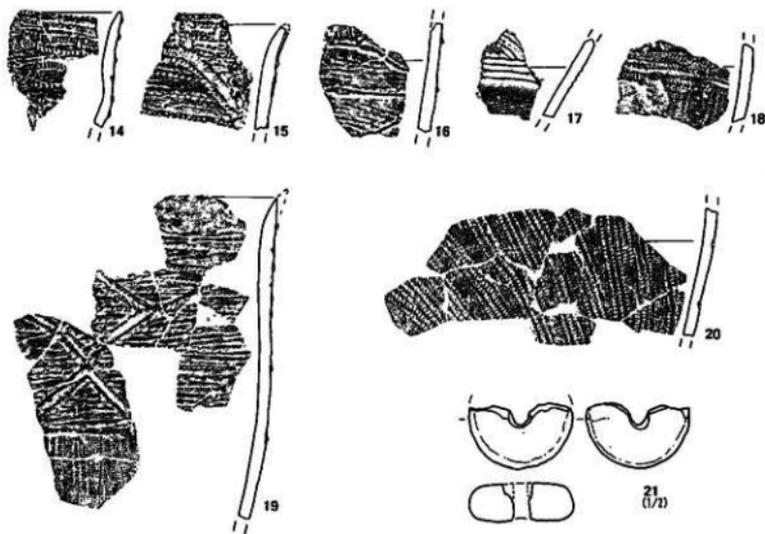
3 Ia~IIa層の遺物

(1) 土器・土製品 (図II-78~81, 図版-54~57)

II-78の1~29は縄文文化期の土器。1~4は内黒非ロクロ成形の坏。1は段が沈線化しており、沈線は底部と体部の屈曲部分に施される。2~4は段が沈線化しており、沈線は体部の中ほどに施される。5~7は非ロクロ成形の坏(碗)。6は口縁部に沈線がめぐる。8・10~12はロクロ成形の坏(碗)。8は体部が直線的に外上方に立ち上がる。10~12は体部が内彎ぎみに立ち上がる。9・13・14は内黒ロクロ成形の坏(碗)で、体部は内彎ぎみに立ち上がる。15~18は内黒の高坏。15~17は脚部を欠失するが、器高が低いことからおそらく高坏であろう。15・16は内彎ぎみに立ち上がる体部下半と、外半ぎみに立ち上がる体部上半の境に段状の沈線をもつ。17は内彎ぎみに立ち上がる体部と口縁部に段状の沈線をもつ。18は内彎ぎみに立ち上がる体部との口縁部に横位沈線+刺突をもつ。19・20はミニチュア。20・21は口縁部と頸部に横走沈線をもつ。22・23は斜格子沈線をもつ。24は上下段鋸歯状沈線をもつ。26~28は馬蹄形布疋痕をもつ。29は須恵器甕の肩部、条線タタキをもつ。

図II-78・80の1~20は縄文時代の土器。1は後北A式の古いもの。2は後北A式の新しいもの。3は後北B式で、隆起線が剥落している。4は後北B式のやや新しいミニチュア。5は北大1式、この土器は波頂部を基点に帯状縄文で三角形を連続させ、鋸歯文を描きだし、そのあいだを縦位と横位の縄文で充填する。胴部下半は横位の縄文で区画するがタテナデのままで、充填しない。6~13は後北A式。11・12・13は同一個体。14・15・19は後北B式。16・17は後北C₂・D式。

21は紡錘車、断面は楕円形を呈する。両面はナデ。



図II-80 IIa層の土器(3)・土製品

(2) 鉄製品 (図Ⅱ-82、図版Ⅱ-58)

Ⅱ a層や竪穴掘揚土などから、23個体が出土している。内10点が縄文文化期に属するもの、13点が縄文文化期からそれ以降アイヌ文化期のものと推定できる。以下、説明は種類別に行うため、時期は表Ⅱ-6を参照されたい。

1は2面に凹みのある角棒状のもので、2片が接合した鉄製品の素材として流通したものと推定される。岩手県立博物館の赤沼英男氏から得た。2・3は同時に出土したが接合しない2点の細棒。

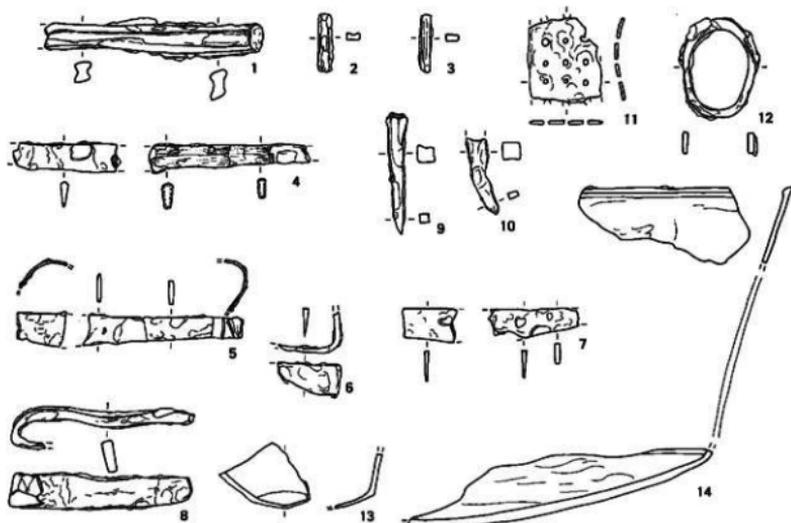
4~7と図版Ⅱ-58の15はいずれも刀子の破損品である。4には柄木質が残っている。5は中ほどと茎が、6は切先が曲げられており、木器の内部を削る用途が考えられる。8はやや厚みを持った刀の茎と思われるが、折損部端が曲げられており、破損後再利用された可能性がある。

9・10と図版Ⅱ-58の17は釘であろう。

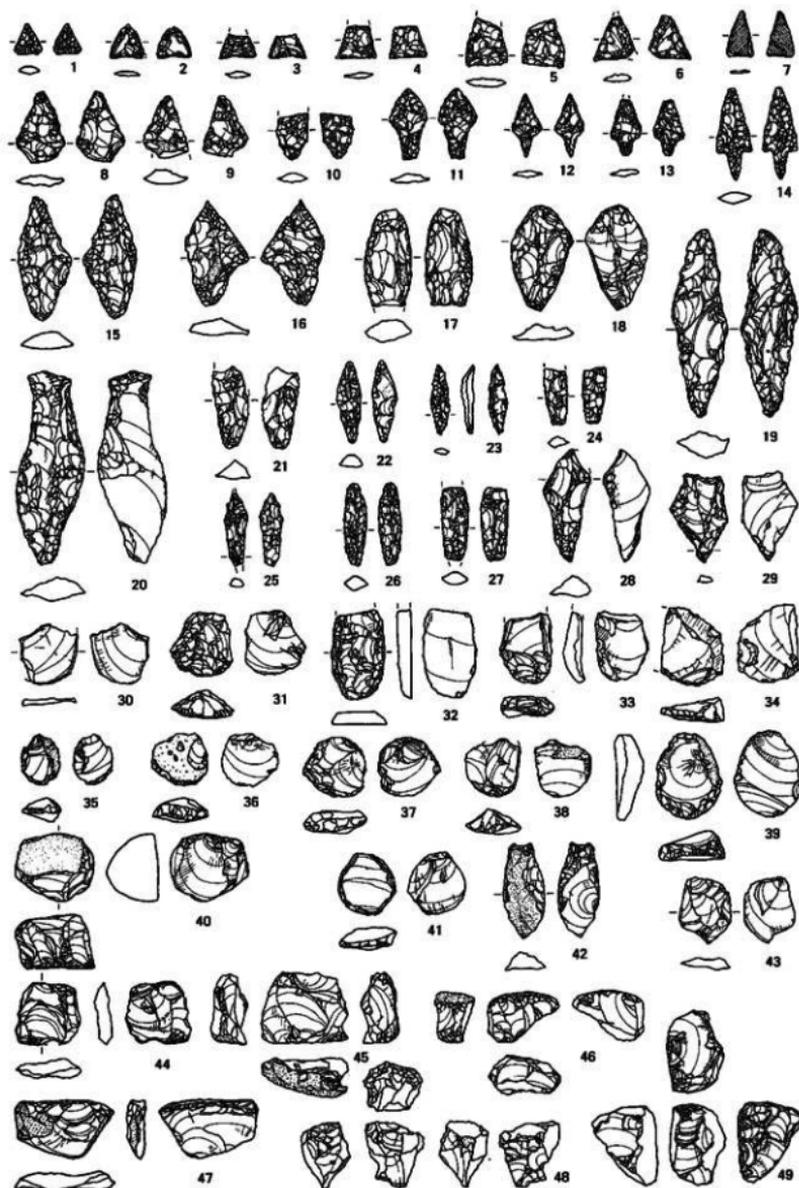
11は細小孔の破片で、3列5対の小孔が確認できる。12と図版Ⅱ-58の16は環状の製品である。12は長径4.0cm、高さ0.85cmの完形品で、鉈などの柄金具であろう。

13・14は鉄鍋破片で、13は胴部から底部にかけての小片である。14は接合できなかったが、一箇体分の一括出土で、口径約30cm、高さ14cm前後と推定復元できる。口縁部の形状から、吊耳鉄鍋と思われる。

ほかには図版Ⅱ-41に示した小銃鉄片や不明小片が数点ある。筒上の鍛造品と思われる製品は、本体ごと分析を依頼したため、結果を待っての報告となる。

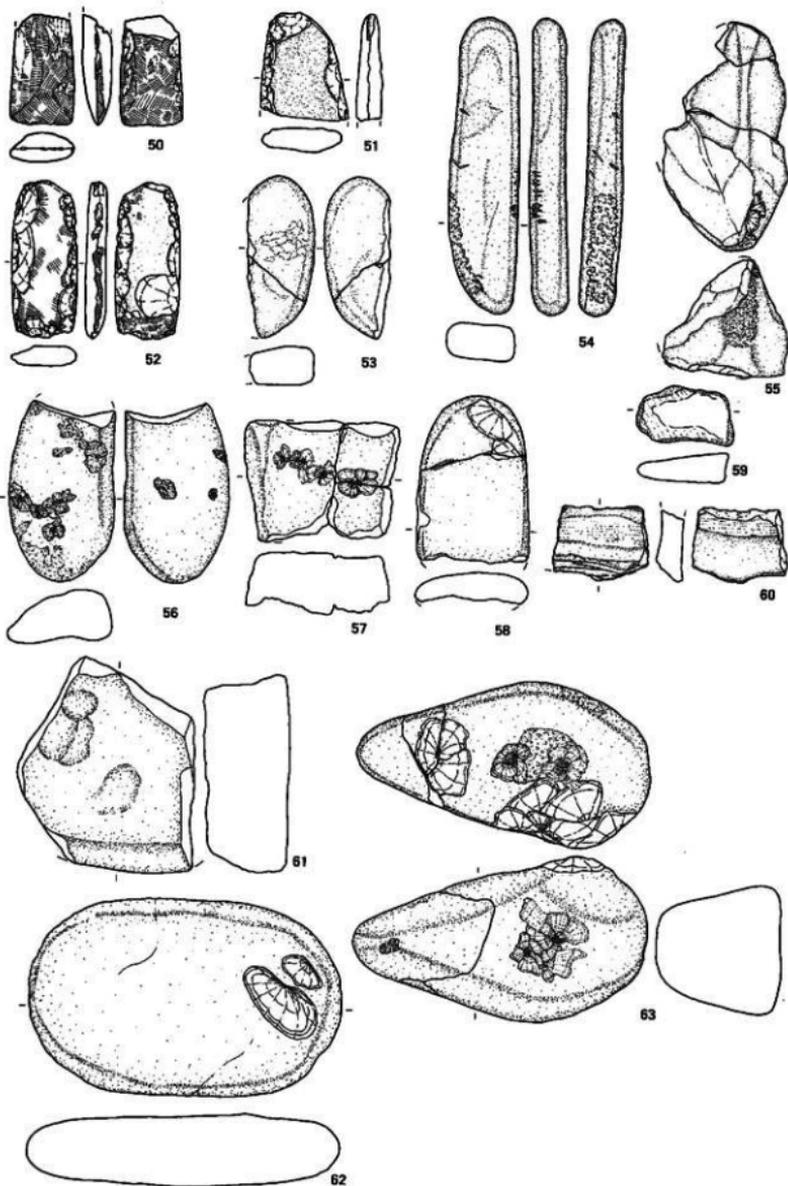


図Ⅱ-82 Ⅱ a~Ⅱ a層の鉄製品

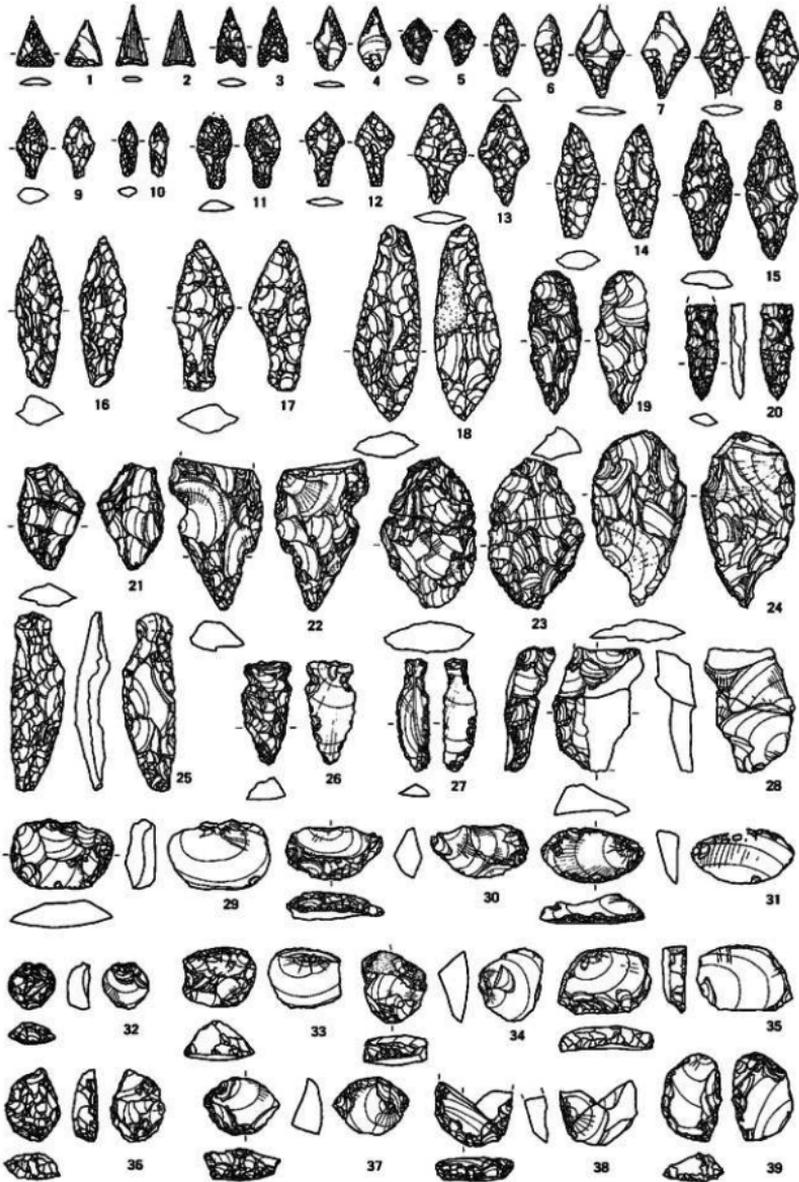


図II-83 擦文文化期堅穴住居出土の石器(1) (縄文~統縄文時代)

II オサツ2遺跡の調査

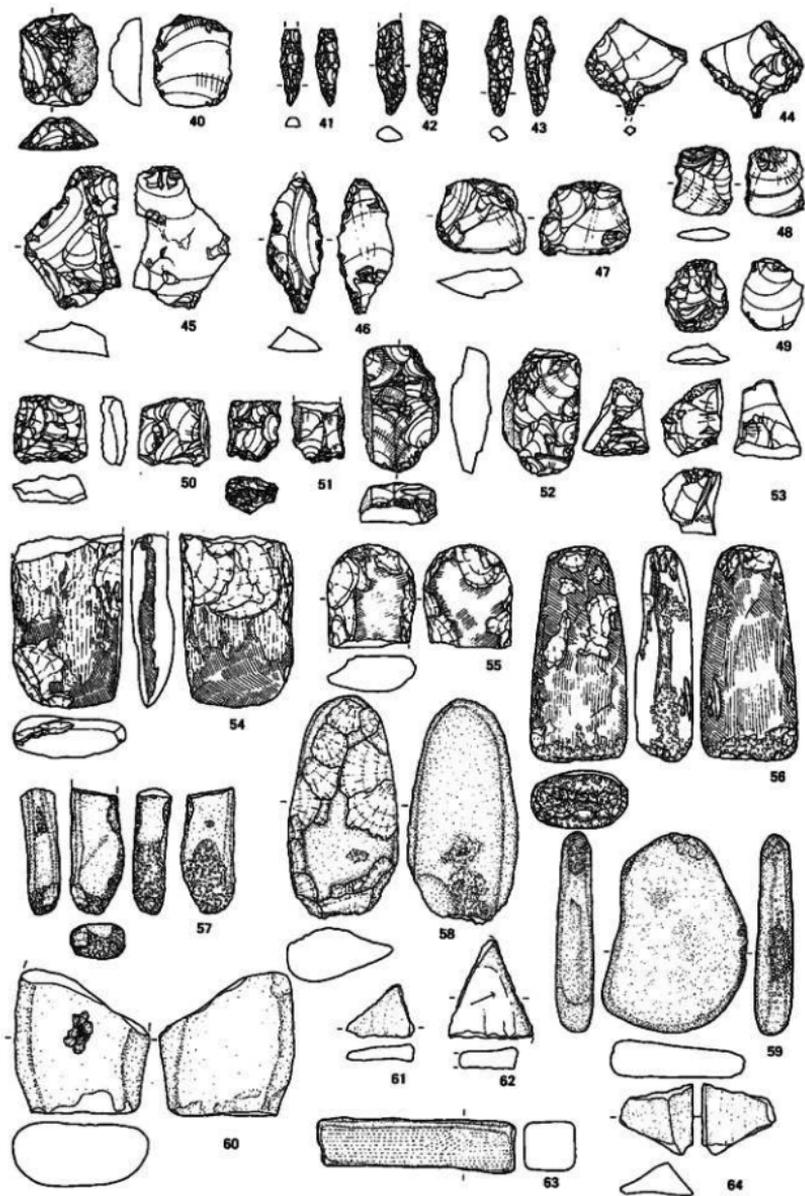


図II-84 擦文文化期整穴住居出土の石器(2) (縄文~続縄文時代)

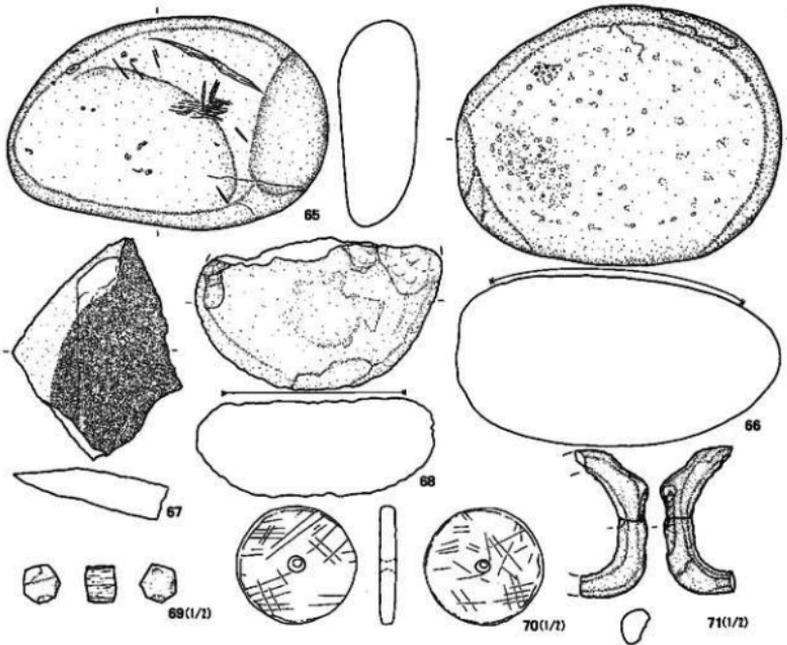


図II-85 . II a層の石器(1)

II オサツ2遺跡の調査



図II-86 II a層の石器(2)



図II-87 II a層の石器(3)

(3) 石器・石製品 (図II-83~87、図版II-59~63)

図II-83・84は擦文文化期の堅穴住居跡から出土した剝片石器と礫石器で主に覆土に含まれていた。次年度報告になるがこの遺跡は縄文時代中期の集落跡でもある。縄文時代や統縄文時代の遺構を壊して擦文期の堅穴が構築されているので遺構の石器として扱わなかった。1~14は石鏃。1~7は統縄文時代のものか。15・16はポイント。17はポイントナイフ。18・19・21はナイフ。20はつまみ付ナイフ。22~27は石錐。28~32はスクレイパー。33~41はラウンドスクレイパー。40は石核素材のラウンドスクレイパー。30~41は統縄文時代以降の可能性がある。42はR F、両面に基部調整様の剥離がある。43はU F。44は楔形石器。45~49は石核。47・49は石核をスクレイパーに利用した。50~53は石斧。52は変成度の高い砂岩である。53~58はたたき石・くぼみ石。59・60は砥石。61~63は台石。

図II-85~87はII a層出土の剝片石器と礫石器で、上述した理由から統縄文時代以前の石器も包含している。1~13は石鏃。1~3は統縄文時代のもの。14~17はポイント。18~24はナイフ。25~27はつまみ付ナイフ。28~31はスクレイパー。32~40はラウンドスクレイパー。41~44は石錐。45~49はR F。50は楔形石器。51~53は石核。51・52は楔形石器の可能性ある。54~56は石斧。56は刃部側が破損した後、折れ面を転用して敲石としてしている。57~60はたたき石・くぼみ石。61~64は砥石。65・66は台石。67・68は石皿。67は一部被熱している。68は軽石製で、6面取りをし、角柱状に加工している。70は凝灰岩を研磨し、中央に両方から穿孔している。紡錘車のミニチュアか？

これら群の配列は、¹⁴C年代の結果においては、E群-D(11-12)群-B群(6, 9, 19)-A群(2, 3, 7)-C群(13-5, 1)となり、B-Tm火山灰の有無や揚げ土の掛け合い関係について、A・B群とC群との関係が逆転する。遺構間接合資料においては、SH-1と12、SH-3と6と19に上述の結果と逆転する例と合致する例が各1例ある。遺構間接合の結果については概ね一致すると解釈してよい。次に下記の基準で各群内における関係を見てみよう。

ハ) 遺物に関すること

・土器の出土状態

- 1 : 揚げ土 (新築時: 包含層を壊している)ので種々の型式が有る
- 2 : 竈・煙道 (新築時: 転用が多い)ので直前代の型式に属する
- 3 : 焚口・床面・付属遺構 (使用時、廃棄直後: 当代の型式に属する)
- 4 : 覆土 (廃棄以降: 後代の型式に属する事が多い)

E群はSH-15のみが土器を出土させている。SH-15の土器は、口縁・肩部に横走沈線をもつ土器が出土した。D(4, 11, 12)群は、SH-11はハ-4で、口縁・肩部に横走沈線をもつ土器が出土した。SH-12はハ-3で、多重する横走沈線土器が出土した。内面にミガキが施されたものもある。SH-4はハ-4で、口縁・肩部に横走沈線をもつ土器と多重する横走沈線土器が出土した。

C(1, 5, 13)群は、SH-1はハ-2で、胴部に刻目をもち、多重する横走沈線の深鉢が出土した。内面にミガキが施されたものもある。SH-5はハ-2で、多重する横走沈線深鉢が出土した。SH-13はハ-2で、底部と体部の境に沈線をもつ。ハ-3で、口縁・胴部に刻目をもち、多重する横走沈線の深鉢と多重する横走沈線深鉢が出土した。

B(6, 9, 19)群は、SH-6はハ-2で、口縁・肩部に沈線をもつ無文と横走沈線を下地にする斜格子沈線文と斜格子複沈線文と鋸歯状沈線文と上下段鋸歯状沈線文の深鉢と口縁部に沈線をもつ坏が出土した。ハ-3で、横走沈線を下地にする鋸歯状沈線文と上下段鋸歯状沈線文の深鉢が出土した。SH-19はハ-3で、斜格子沈線文の深鉢と口縁部に沈線をもつ坏が出土した。SH-9はハ-2で、口縁・肩部に沈線をもつ無文の深鉢が出土した。

A(2, 3, 7)群は、SH-2はハ-2で、無文の深鉢が出土した。SH-3はハ-3で、回転糸切りの坏と斜格子沈線文の深鉢が出土した。SH-7はハ-2で、横走沈線を下地にする上下段鋸歯状沈線文と口縁部に沈線をもつ坏が出土した。ハ-3で、横走沈線を下地にする上下段鋸歯状沈線文と口縁・肩部に沈線をもち一部分に上下段鋸歯状沈線文がある深鉢が出土した。

4、イ)ロ)ハ)から推定した遺構群並びに群内の変遷

E(10, 15)→D(11-4, 12)→C(13-5-1)

└─ B-Tm火山灰降灰以前 ─┘

→B(6, 9, 19)→A(2, 3, 7)

└─ B-Tm火山灰降灰以後 ─┘

以下では群ごとの特徴について述べる。

E群は長方形の平面形をもち、炉は楕円形で長軸は平面形の長軸と直交する。竈はない。床面はⅣA層上面・上部と浅い。D群は方形の平面形をもち、炉は長細形竈はない。床面はⅣA層上面・上部と浅い。C群は方形の平面形をつ。竈は片方

表Ⅱ-3 據文土器遺構間接合表

遺構番号	遺構名	層位	層位	組合	組合層位	備考
SH-12-9	SH-1	深鉢(蓋土)	蓋土1	SH-12	蓋土1	斜格子沈線文
SH-13-5	SH-3	深鉢	蓋土1	SH-4	蓋土1	斜格子沈線文・内面
SH-11-11	SH-4	深鉢	蓋土1	SH-11	蓋土1	斜格子沈線文
SH-11-10	SH-3	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-4	蓋土1	斜格子沈線文
SH-17-11	SH-9	深鉢	蓋土1	SH-12	蓋土1	深鉢
SH-19-5	SH-3	深鉢	蓋土1	SH-1	蓋土1	深鉢
SH-19-4	SH-4	深鉢	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-1	SH-8	深鉢	蓋土3	SH-13	蓋土3	斜格子沈線文
SH-21-2	SH-5	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-3	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-4	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-5	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-6	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-7	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-8	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-9	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-10	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-11	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-12	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-13	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-14	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-15	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-16	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-17	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-18	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-19	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-20	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-21	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-22	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-23	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-24	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-25	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-26	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-27	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-28	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-29	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-30	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-31	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-32	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-33	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-34	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-35	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-36	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-37	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-38	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-39	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-40	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-41	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-42	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-43	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-44	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-45	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-46	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-47	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-48	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-49	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文
SH-21-50	SH-6	深鉢(カマド)	蓋土1	SH-12	蓋土1	横走沈線文

II オサツ2遺跡の調査

によっている。竈の軸と炉の長軸は一致しない。床面はIV a層上部・IV b層上面とやや深い。B群は方形の平面形をもち、竈は片方によっている。竈の軸と炉の長軸は一致する。床面はIV b層中部・上部と深い。内側4本主柱穴をもつ。A群は方形の平面形をもち、竈は中央にあり、竈の軸と炉の長軸は一致する例としない例がある。床面はIV b層上部・IV a層上部とやや深い。内側4本主柱穴をもつ例と持たない例がある。

今回の調査では、遺跡全体を発掘していないのでA～E群のほかにも群が存在し、さらに細分される可能性が非常に高い。したがってSH-8・14・16・17・20・23についても、群を形成しないのではない可能性が非常に高い。以下ではこれらが、仮りにA～E群のどのへんに位置するかを述べることにする。

SH-8は竈が南西向きにあるのでどの群にも属さない。竈から横走沈線を下地にする針葉樹木の深鉢が出土している。土器より、A群よりも後出の住居と考えられる。SH-14は平面形など分類項目について不明であるため、分類はできないが、炉の形態、覆土中のB-Tm火山灰の状況より、おそらくD群に属すると思われる。SH-16は平面形など分類項目について不明であるため、分類はできない。床面資料もないので不明。SH-17は平面形など分類項目について不明であるため、分類はできない。床面資料もないので不明。SH-20は平面形など分類項目について不明であるため、分類はできない。B群のSH-19との接合関係はいずれもSH-20が古いことを示している。またB-Tm火山灰降灰以後に構築されているので、B群に含まれるか、B群とC群との間に位置するかのどちらかである。SH-23は遺構の形態においてはD群に属する可能性はあるが炉の形態が異なる。出土した遺物からみると、C群とD群との間に位置するかの。

(2) 鍛冶遺構

鍛冶遺構1は、B群のSH-19の掘揚げ土の下でB-Tm火山灰の直上、鍛冶遺構2は、C群とD群との間に位置するSH-23の上層遺構でB-Tm火山灰の上位である。これらの特徴は次の2点である。ひとつめは羽口の断面形である。鍛冶遺構1・2の羽口の断面形は、いずれも蒲鉾型をしている。北海道内における標文文化期の羽口の断面形は、円形で、面取りしていないものが標準的である。ふたつめは鍛冶遺構のそばから銑鉄片が出土していることである。特に鍛冶遺構1の付近では銑鉄片がまとまって出土した。銑鉄片が出土したことによってこれらの遺構が単純に小鍛冶遺構と断定しがたくなった。成分分析の結果を待って再述したい。

(3) 土壌墓

GP-2・5・6・8は後北B期の前葉。GP-1は後北B期中葉。GP-3は後北B期の後葉。平面形は円形または楕円形で、断面形は、墳底が平坦で壁との境が明瞭なもの(GP-1~4・6)と、墳底がやや湾曲し壁との境がやや不明瞭なもの(GP-7・8)の2種類がある。副葬品のIは、墳底に置かれるもの(GP-1~7)と、墳口?に置かれるもの(GP-8)の2種類ある。

副葬品の種類は、土器と石器を共伴するもの(GP-1~3・6)と、土器だけを副葬するもの(GP-5・8)、石器だけを副葬するもの(GP-4)と遺物が検出されないもの(GP-7)の4種類ある。

主な副葬品について特徴を述べる。石鐮の形態は、無茎平基がほとんどで、無茎平基の細分型式として、基部に若干アーチをもつものと挟りが入るもの計3種類ある。ほかにはGP-2・4・6から、極僅かに無茎凹基、無茎凸基、有茎平基の3種類が出土している。石鐮の石材は、無茎平基と無茎平基の細分型式が黒曜石と緑色片岩と極僅かの頁岩である。無茎凹基、無茎凸基、有茎平基が黒曜石である。以上より石鐮の変遷は次のとおりになる。GP-2・5・6・8のころは無茎平基と無茎

平基の細分型式、無茎凹基、無茎凸基、有茎平基があり、石材は黒曜石と緑色片岩と頁岩がある。G P-1・3のころは無茎平基と若干アーチをもつもの石材は黒曜石と緑色片岩がある。

石斧は、刃縁が直線の片刃で、厚みのある緑色泥岩素材のものと、刃縁が曲線の両刃で、厚みのない泥岩・片岩素材のもの2種類ある。

そのほかには、先端部をもち、片面の側縁に調整を加えるスクレーパーの副葬が目立つ。逆に包含層で出土するラウンドスクレーパーや楔形石器ほとんどない。(鈴木)

引用・参考文献

- 札幌市教育委員会 【K435遺跡】 (1993)
- 千歳市教育委員会 【末広遺跡における考古学的調査 (上)・(下)・(続)】 (1981・82・85)
- 豊田宏良 「縄文時代における住居構造からみた竈について」
【第32回 埋蔵文化財研究集会 古墳時代の竈を考える】(1992)
- 松本建速 「副葬・供献された石鏃の形態と土器型式からみた文化の接触と変化」
【筑波大学 先史学・考古学研究】 (1992)
- 渡辺 誠 「編み物錘具としての自然石の研究」
【名古屋大学文学部研究論集LXX】 (1981)

II オサツ2遺跡の調査

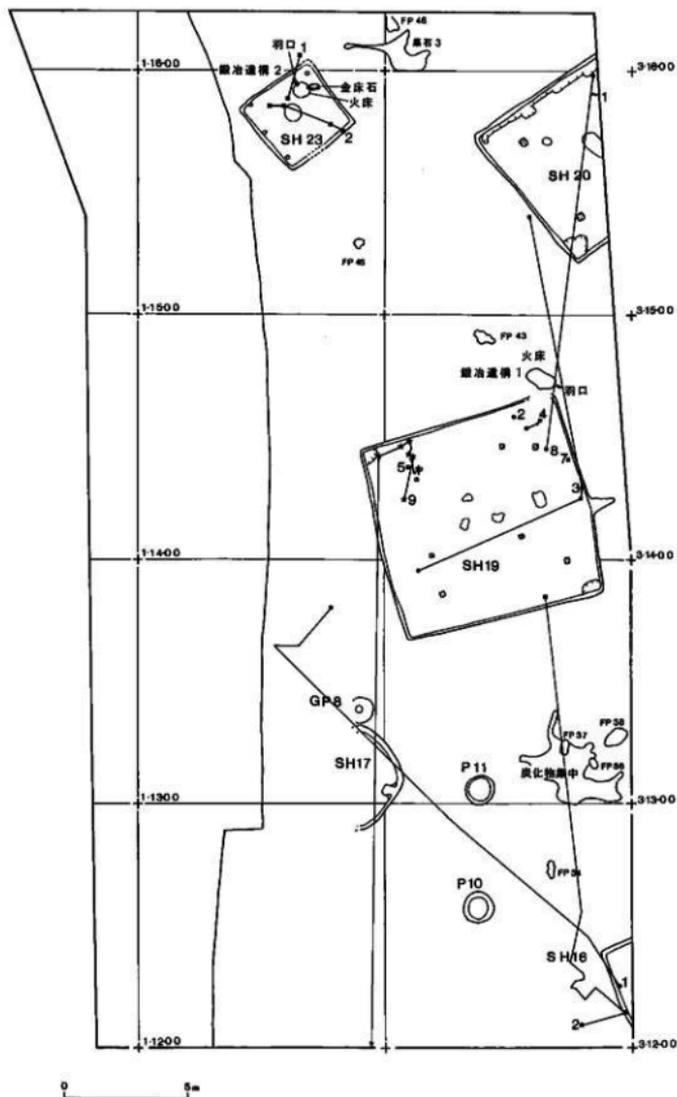
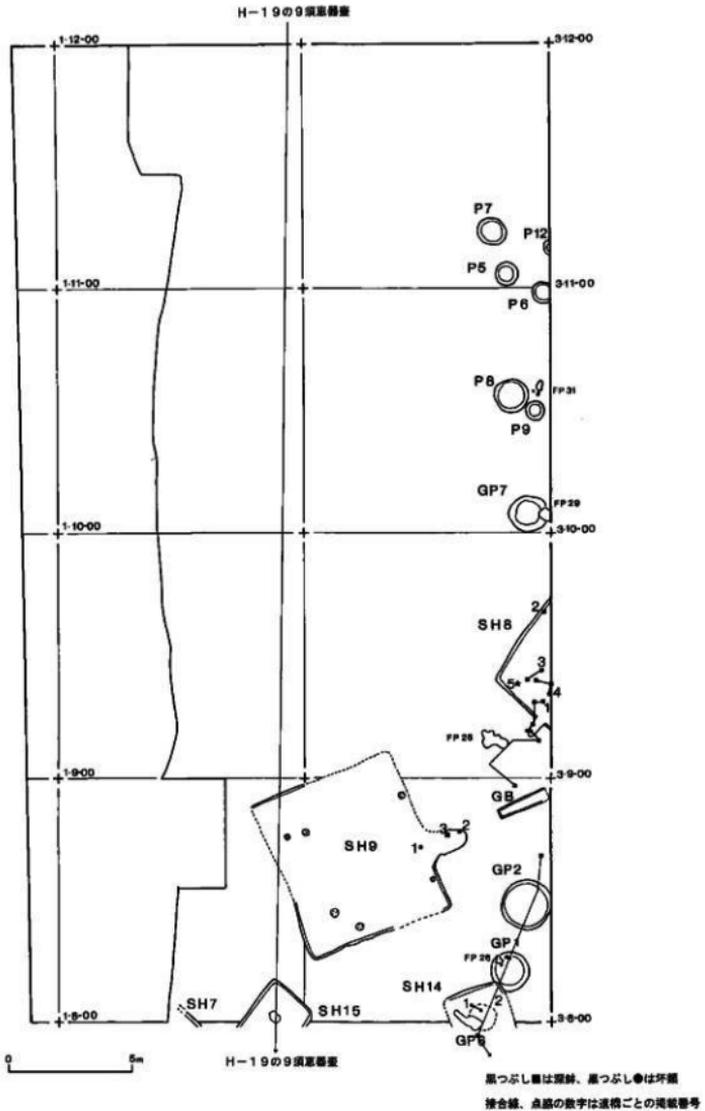
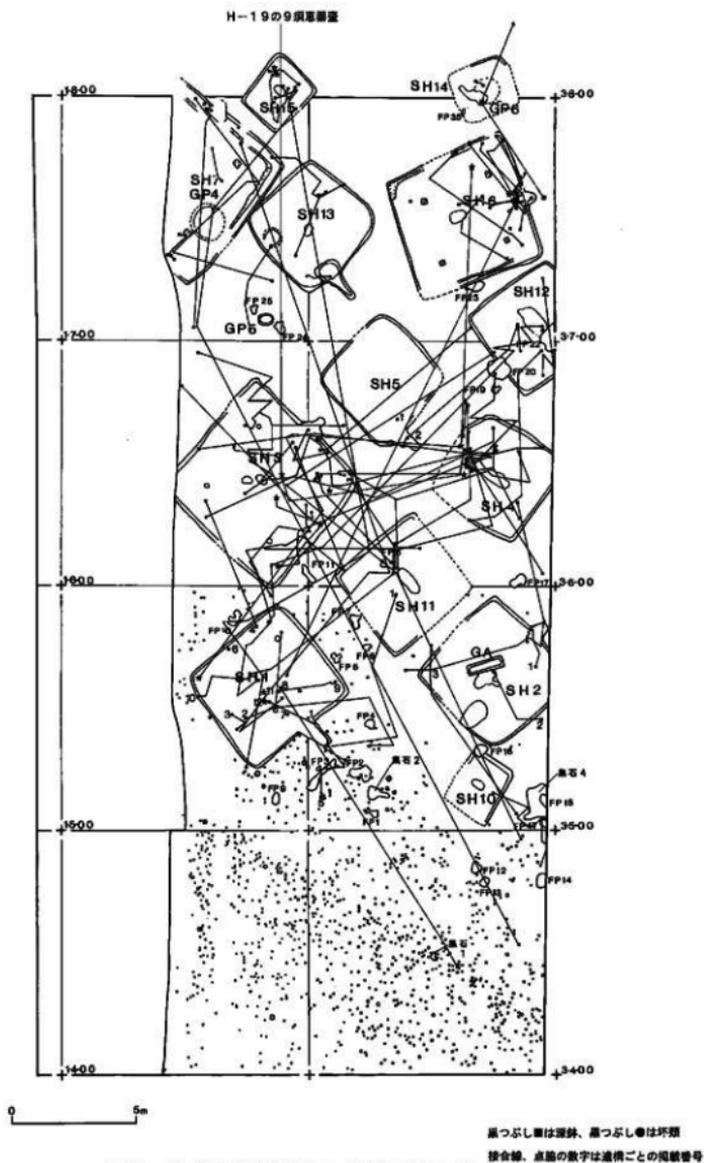


図 II-88 捺文土器遺構内及び遺構間接合図(1)

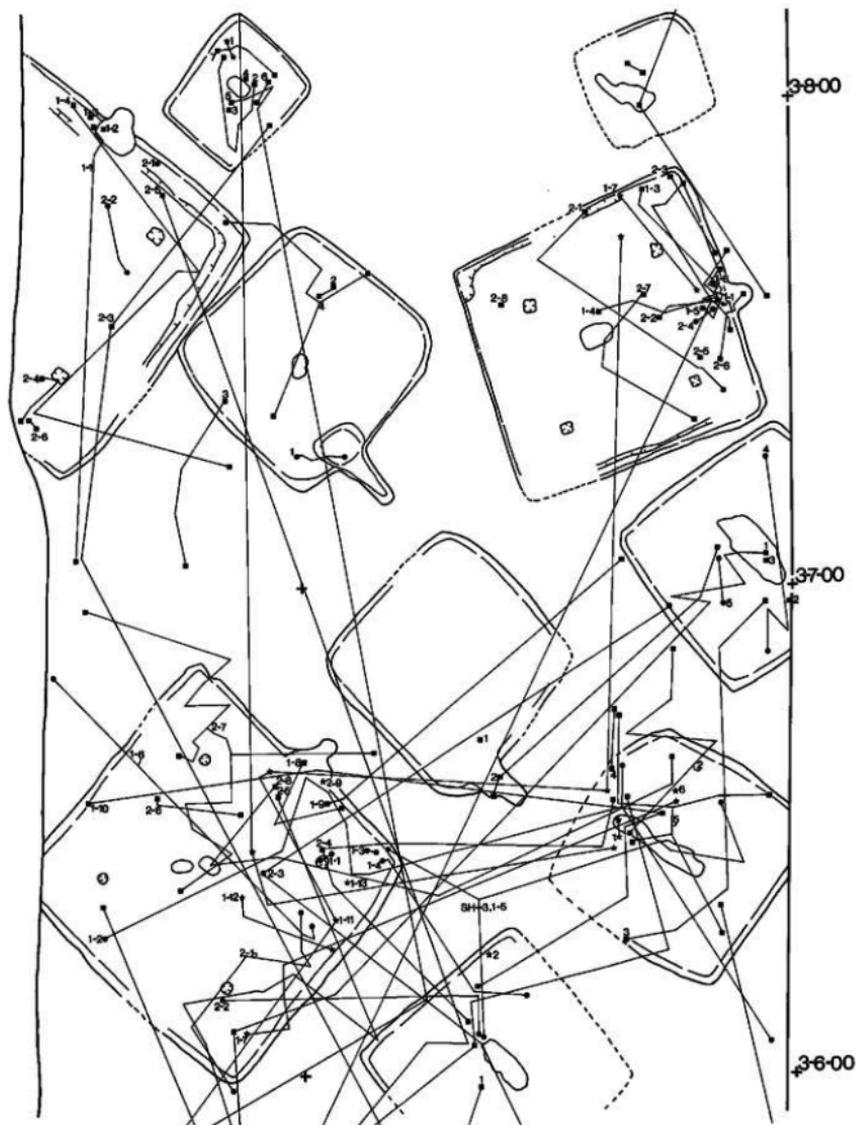


図II-89 縄文土器遺構内及び遺構間接合図(2)

II オサツ2遺跡の調査



図II-90 據文土器遺構内及び遺構間接合図(3)



黒つぶし■は堀跡、黒つぶし●は環壕
 接合線、点線の数字は遺構ごとの掲載番号（○—○という表記の場合は、先
 面の数字が遺構ごとの図番号で、次の番号が掲載番号を示す。例：SH-3
 の2-6、SH-3の2枚目の遺構面の6番目の遺物。）

図Ⅱ-91 竈文土器遺構内及び遺構間接合図(4)

II オサツ2遺跡の調査

表II-4 遺構・包含層地蔵一覽

遺構番号	発掘区 遺構名	器 種	跡高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(数量)	器 種 調 査		地 文	備 考	
							外 面	内 面			
II-12-1	SH-1	坏	8.0	15.0	7.5	?	タテハケ ヨコミガキ	タテハケ ヨコミガキ	横位沈線(区画) 一層敷状沈線	埋道	
12-2		坏	7.6	15.0	6.0		ヨコミガキ タテミガキ タテミガキ	?	横位沈線	床>覆土3 内層	
12-3		坏	6.1	17.2	8.0		ヨコナデ(ハケ) 一横位沈線 ヨコミガキ ナメミガキ タテミガキ	(ヨコミガキ) ナメミガキ ヨコミガキ		覆土1 内層	
12-4		坏					?	?	期印	覆土3=覆土2	
12-5		環鉢	30.0	26.0	7.7		ヨコハケ タテハケ ヨコナデ 一匙付番	ヨコハケ タテハケ ミガキ	横位沈線 一割突	埋道	
12-6		環鉢	7.5	12.0	6.6		タテハケ タテミガキ	ヨコハケ タテミガキ		床	
12-7		環鉢	8.0	9.4	4.0		ナデ タテハケ	ナデ ヨコハケ		床	
12-8		環鉢	11.0	11.3	6.4		タテハケ ヨコミガキ ヨコナデ	タテハケ タテミガキ ヨコミガキ	横位沈線 一割格子沈線	覆土2 底部隆起痕	
12-9		環鉢	5.0	7.8	5.8		ヨコナデ タテハケ	ヨコハケ ミガキ ヨコミガキ	横位沈線 一割格子沈線	覆土2>覆土1	
12-10		環鉢	9.0	32.0	20.5		タテハケ ヨコナデ	ヨコハケ ヨコミガキ	横位沈線一割突 横位沈線 一段隆起状沈線 一段隆起状沈線	覆土2>覆土1>覆土3	
12-11	環鉢脚壁					長縁タタキ	ナデ		覆土3 脚部		
12-12	環鉢脚壁					長縁タタキ	ナデ		覆土 脚部		
II-13-1	土製品	1.9	0.8	8.7	1.2				カマド 明赤褐色		
13-2	白玉	0.6	0.7	0.7	0.4	ミガキ			床 黒褐色		
13-3	白玉	0.6	0.6	0.6	0.3	ミガキ			床 黒褐色		
13-4	白玉	0.6	0.7	0.7	0.3	ミガキ			床 黒褐色		
13-5	白玉	0.4	0.7	0.8	0.2	ミガキ			床 黒褐色		
13-6	白玉	0.5	0.7	0.7	0.3	ミガキ			床 黒褐色		
13-7	R.F	2.3	1.5	0.3	1.1				床 黒褐色		
13-8	散石品は別表に掲載								床 黒褐色		
II-15-1	SH-2	環鉢	40.0	30.9	9.4		タテハケ ヨコハケ ヨコナデ	ヨコハケ タテミガキ ヨコミガキ		カマド>竈口>埋下 底部隆起痕	
15-2		環鉢					タテハケ ヨコハケ ヨコナデ	ヨコハケ タテミガキ ヨコミガキ	区画 横位沈線 一割格子沈線	覆土2	
15-3		環鉢	18.0	23.0			タテハケ ヨコナデ タテミガキ	ヨコハケ タテミガキ ヨコナデ	区画 横位沈線 一割格子沈線	覆土1	
15-4		小玉	0.5	0.9	0.6	0.5				床 滑石	
15-5		白石	15.0	14.3	4.2	1630.0				床 安山岩	
15-5-10		散石品は別表に掲載									
II-17-1		SH-3	坏	7.0	13.0	5.8		ヨコハケ タテミガキ ヨコナデ	タテミガキ ヨコミガキ		床
17-2			坏	8.3	14.5	7.1		ナメハケ ヨコハケ ヨコミガキ	ナメハケ ヨコミガキ	横位沈線(区画) 一横位矢羽状沈線 一層敷状沈線	床>カマド
17-3			坏	8.7	14.0	7.3		ヨコハケ タテハケ ヨコナデ	ヨコナデ ヨコハケ タテハケ		覆土3
17-4			坏	5.0	12.7	5.0		回転ナデ	回転ナデ		床 回転糸切り
17-5	坏		7.2	15.3	6.0		回転ナデ	回転ナデ タテミガキ ヨコミガキ		床	
17-6	坏		5.9	20.7	14.7		?	?		回転糸切り 内層	
17-7	環志器坏		3.0	13.3	6.5		タテミガキ ヨコミガキ	ヨコミガキ		内層ミガキ、外層放射状ミガキ 内層	
17-8	環鉢		6.6	6.8	5.6		?	?		床一覆土3 回転糸切りナデ	
17-9	環鉢		16.8	13.3	8.7		?	?		床	
17-10	環鉢		7.6	27.5	20.6		?	?		カマド	

調査号	発掘区 遺構名	部 位	最高cm (床面)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	器 皿 類 類		遺 文	備 考	
						外 面	内 面			
II-17-11	SH-3	遺意貯蔵	18.5	5.5	9.5	回転ナデ -ヨコケズリ	回転ナデ		床「大」の割巻	
17-12		遺意貯蔵				先縁タタキ	ナデ		床 厨部	
17-13		遺意貯蔵				先縁タタキ	→ナデ			
17-14		白玉	0.5	0.7	0.7	ミガキ			床 黒褐色	
17-15		白玉	0.6	0.7	0.7	ミガキ			床 黒褐色	
17-16		石片	2.9	2.8	0.9	6.5			床 黒褐色	
17-17		石片	3.3	2.7	1.8	22.4			床 黒褐色	
17-18		石片	3.6	5.8	1.9	122.9			床 灰色	
17-19		製品品は別表に掲載								
II-19-1		SH-4	坏	5.3	12.8	7.5	ナデー(ケズリ) -(ハケ) -一枚状破 -ヨコミガキ			床>覆土2 内底放射状ミガキ 外底ケズリ 内底
19-2	坏		4.0	12.0	6.0	ナナメミガキ -(ヨコミガキ)		・横位沈線	覆土2 内底	
19-3	坏		8.5	14.7	7.1	タチハケ -(ヨコナデ) -ヨコミガキ	ヨコハケ -ヨコミガキ		床	
19-4	深鉢		4.5	15.5	10.0	?	?	・横位沈線-割突 ・横位沈線(区画)-割突 -一枚状破沈線	覆土2>床	
19-5	深鉢		11.3	18.0		タチハケ -(ヨコナデ)	ヨコハケ -ヨコナデ	・横位沈線-割突 ・横位沈線	床	
19-6	深鉢		14.0	20.0		タチハケ -ヨコハケ -タチハケ -ヨコミガキ	タチハケ -ヨコハケ -タチハケ -ヨコミガキ		覆土2>床 埋部破損後二次利用	
19-7	深鉢		18.0	18.0	7.5	→ヨコハケ -タチハケ -(ヨコミガキ)	タチミガキ -(ヨコミガキ)		覆土1>覆土2	
19-8	深鉢		17.0	14.8	6.4	タチハケ -(ヨコナデ) -タチミガキ	タチハケ -タチミガキ -ヨコミガキ	・横位沈線-割突 ・横位沈線(区画) -一枚状破沈線 -割突	覆土1=覆土2	
19-9	遺意貯蔵					先縁タタキ -(ヨコナデ)	→ヨコナデ		覆土1	
19-10	筋線			8.0	2.1		ミガキ		覆土1	
19-11	磁石	14.0	6.4	4.7	646.0			覆土 芝岩		
19-12	製品品は別表に掲載									
II-21-1	SH-4	遺意貯蔵	5.0	9.9	5.4	回転ナデ	回転ナデ		覆土3 全部回転ヘラ切り後、 高台を貼付ナデ	
21-2		深鉢	8.0	7.3	5.5	タチハケ -ヨコナデ	?		覆土1 埋部破損後	
21-3		深鉢	10.0	15.5	5.0	?	タチハケ -タチミガキ -ヨコミガキ		覆土1 内底	
21-4		深鉢	18.9	25.8		タチハケ -(ヨコナデ)	ヨコハケ -(ヨコミガキ) -(ヨコナデ)	・横位沈線 ・横位沈線	覆土3	
21-5		深鉢	17.0	21.0		タチハケ -(ヨコナデ)	ヨコハケ -(ヨコナデ)	・横位沈線 ・横位沈線	覆土1	
21-6		遺意貯蔵				先縁タタキ	ヨコナデ		覆土1	
21-7		筋線		6.5	1.2	ミガキ	ミガキ		覆土1	
21-8		くぼみ石	13.8	6.3	1.9	355.4			床 砂 遺	
21-9		たつき石	16.7	5.5	2.7	371.7			床 砂 遺	
II-22-1		SH-5	深鉢	23.8	22.5	7.0	ヨコハケ -(タチハケ) -(ヨコナデ)	ヨコハケ -(ヨコナデ)	・横位沈線	覆土3 全部破損後
22-2	深鉢		17.2	21.5		?	?	・横位沈線	カマド敷土上	
22-3	タテ穴カハ		2.4	1.1	0.7	2.0			床 黒褐色	
22-4	台石		9.4	9.0	6.0	800.3			カマド敷土上 砂 遺	
22-5	石製品		4.8	4.0	2.6	39.7			床 灰色	
II-27-1	SH-6		坏	9.0	15.8	6.9	?	?	・横位沈線	カマド袖下 穿孔
II-27-2		深鉢	28.0	31.5		?	ヨコハケ -ヨコミガキ -タチミガキ -(ヨコミガキ)	・横位沈線	床>カマド袖	
27-3	深鉢	37.2	32.0	9.3	?	?	・横位沈線 -筒子沈線	床=カマド袖 =覆土7		

II オサツ2遺跡の調査

調査号	発掘区 遺跡名	跡 形	跡高cm (長き)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	器 種 類 数		加 文	備 考
							外 面	内 面		
II-27-4	SH-6	環跡	33.0	26.0	9.2		タテハケ - (ヨコナデ) - (ヨコハケ)	ヨコハケ - タテミガキ - (ヨコミガキ)	・刺突 ・横位沈線 ・刺物子取沈線	床>カマド跡 >覆土7>覆土2
27-5		環跡	36.5	29.3	8.0		? - タテハケ - (ヨコナデ)	? - ヨコハケ - ヨコミガキ	・横位沈線-刺突 ・刺突-横位沈線 ・刺物子取沈線	カマド跡=貫口 底部管埋痕
27-6		環跡	19.8	18.0	7.5		? - タテハケ - (ヨコナデ)	? - ヨコハケ - ヨコミガキ	・横位沈線-刺突 ・横位沈線 ・横位沈線 - 上段斜位充気沈線 - 下段斜位充気沈線	カマド跡 カマド跡 底部管痕
27-7		環形遺物	15.0	13.5	9.0		新転ナデ - ヨコケズリ	新転ナデ		カマド跡>床
II-28-1		環跡	13.8	18.0			? - タテハケ - (ヨコナデ)	? - ヨコハケ - ヨコミガキ		床
28-2		環跡	20.1	20.4	8.0		? - タテハケ - (ヨコナデ)	? - ヨコハケ - ヨコミガキ	・横位沈線-刺突 ・横位沈線 ・横位沈線 - 刺物子取沈線-刺突	床 内風呂
28-3		環跡	18.7	18.0	6.3		? - タテハケ - (ヨコナデ) - {タテミガキ}	? - ヨコハケ - タテミガキ - (ヨコミガキ)	・横位沈線 ・横位沈線 ・横位沈線 - 刺物子取沈線-刺突 ・横位沈線 ・横位沈線	床 厨間文様が2種類ある
28-4	環	6.5	11.6	5.6		? - ヨコハケ - ヨコミガキ	? - ヨコハケ - ヨコミガキ	・横位沈線	覆土2	
28-5	環			6.0			ミガキ		覆土2 底部管埋痕	
28-6	環跡	33.0	29.5	9.0		? - タテハケ - (ヨコナデ)	? - ヨコハケ - ヨコミガキ	・横位沈線-刺突 ・横位沈線-刺突 ・横位沈線 - 刺物子取沈線	覆土2	
28-7	環跡	12.7	15.4			ヨコナデ - タテミガキ	? - タテミガキ - ナメミガキ - ヨコミガキ	・横位沈線-刺突 ・横位沈線-刺突 ・下段斜位充気沈線 ・横位沈線 ・横位沈線 - 上段斜位充気沈線 + 上段斜位充気沈線	床=覆土4>覆土2	
28-8	環跡	13.0	16.5	9.5		ヨコケズリ - ヨコミガキ - タテハケ	? - タテミガキ		覆土4	
28-9	環	59.4	29.3	6.6	5000.0				カマド 洗灰岩	
28-10・11	鉄製品は別表に掲載									
II-30-1	SH-7	カマド跡	33.0	27.0	5.0	3439.4				カマド 洗灰岩
30-2		ツクリカクハク	2.0	3.7	1.1	9.6				床 黒曜石
30-3		ツクリカクハク	4.8	2.0	1.2	6.8				床 黒曜石
II-31-1	環跡	22.0	29.5	18.5		? - タテハケ - (ヨコハケ) - (ヨコナデ)	? - ヨコハケ - (ヨコミガキ)	・横位沈線 (区画) - 横位沈線 - 刺物子取沈線	カマド>カマド貫口 厨間文様は回らない	
31-2	環跡	33.0	24.0	12.0		? - タテハケ - (ヨコハケ) - (ヨコナデ)	? - ヨコハケ - タテミガキ - (ヨコミガキ)	・横位沈線 (区画) - 下段斜位充気沈線 - 上段斜位充気沈線	カマド>カマド貫口 厨間文様は回らない	
31-3	環跡			8.0		? - ヨコナデ	? - ヨコハケ		カマド 底部管埋痕	
31-4	環跡	38.0	31.4	7.9		? - タテハケ - (ヨコナデ)	? - ヨコハケ - (タテミガキ) - (ヨコミガキ)	・横位沈線 ・横位沈線 - 横位沈線 (区画) - 下段斜位充気沈線 - 上段斜位充気沈線	カマド	
II-32-1	環	7.5	12.3	5.5		? - ヨコハケ - タテミガキ	? - ヨコハケ - ヨコミガキ		床	
32-2	環	8.3	15.2	6.1		タテハケ - ヨコハケ - ヨコミガキ	? - タテミガキ - ヨコミガキ	横位沈線	床	
32-3	環跡	16.0	13.0	8.5		? - タテハケ	ヨコハケ - タテミガキ		床>カマド跡	
32-4	環跡	13.0	24.0			? - タテハケ	ヨコハケ - タテミガキ	・横位沈線 (区画)-刺突 - 刺物子取沈線	床	
32-5	環跡	42.5	35.7	10.4		タテハケ - (ヨコハケ) - (ヨコナデ)	? - ヨコハケ - タテミガキ - (ヨコミガキ)	・横位沈線-刺突 ・横位沈線 - 下段斜位充気沈線 - 上段斜位充気沈線	床	

II オサツ2遺跡の調査

調査号	発掘区 遺構名	形 種	長さcm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	器 皿 類 類		出 文	備 考
							外 面	内 面		
32-6	SH-7	深鉢	39.1	32.2	8.7		タテハケ -(ヨコナデ) -(タテミガキ) -(ヨコミガキ)	・横走沈線一割突 ・横走沈線 一上下段曲状沈線(区画) 一上下段曲状沈線 一3・1段曲状沈線	床 上下段曲状沈線を 施した後、3段曲状 沈線を壁に2層施し、 後に1段曲状沈線を 壁に2層施す	
32-7		平玉	3.0	(2.7)	0.9	4.5	ナデ			工具に巻つけたあとに 磨した
32-8		平玉	2.5	2.4	0.9	5.2	ナデ			磨土 工具に巻つけたあとに 磨した
32-9・10	敷製品は別表に掲載									
33-1	SH-8	深鉢	28.5	24.2			ヨコハケ -タテハケ	? -ヨコハケ -タテミガキ -(ヨコミガキ)	・横走沈線 一上下段曲状沈線 一横走沈線一割突	カマド>壁土1
33-2		深鉢					? -ヨコナデ	? -ヨコハケ -(ヨコミガキ)	・横走沈線一割突 ・横走沈線 一横走沈線(区画) 一上下段曲状沈線 一上下段曲状沈線	覆土3>床=覆土2
33-3		深鉢	29.5	30.0			? -タテハケ -(ヨコナデ)	? -ヨコハケ -(タテミガキ) -(ヨコミガキ)	・横走沈線一割突 ・横走沈線(区画)一割突 一割子沈線	覆土3>覆土2
33-4		深鉢	21.9	17.0	5.9		? -タテハケ -(ヨコナデ)	? -ヨコハケ -(タテミガキ) -(ヨコミガキ)	・割突 ・横走沈線一割突 一割子沈線	床>覆土3
33-5		遺品整理					糸輪タタキ	ナデ		
34-1	SH-9	杯	6.5	15.4	7.3		? -ヨコミガキ	? -ヨコミガキ	・凹線	カマド開口
34-2		深鉢	15.0	32.0			? -タテハケ -(ヨコナデ)	? -ヨコハケ -(ヨコミガキ)	・横走沈線	カマド
34-3		深鉢					? -(ヨコナデ)	? -ヨコハケ -(ヨコミガキ)	・横走沈線一割突	カマド
34-4		R F	25.4	15.7	5.8	1.5				床 黒燐石
34-5		R F	33.5	16.2	10.1	4.1				床 黒燐石
34-6		カマド礎	252.0	175.0	30.3	2020.9				カマド 遺骸等
35-1		SH-11	深鉢	9.5	14.7			? -タテハケ -(ヨコナデ)	? -ヨコハケ	・横走沈線 ・横走沈線
35-2	遺品整理		3.0	15.0			回転ナデ	回転ナデ		覆土4 口縁部
35-3	タテハケ		26.5	29.3	9.4	7.4				床 黒燐石
35-4	敷製品は別表に掲載									
37-1	SH-12	深鉢	32.0	27.5	7.0		? -タテハケ -(ヨコナデ) -(ヨコハケ) -(ヨコナデ)	? -タテミガキ -(ヨコミガキ)	横走沈線	床>覆土6 底部黒炭
37-2		深鉢	20.0	18.0	7.5		? -タテハケ -(ヨコナデ) -(ヨコハケ)	? -タテミガキ -(ヨコミガキ)	横走沈線	床
37-3		深鉢	3.6	6.9	3.0		? -タテハケ	? -ヨコハケ		覆土6
37-4		杯	5.2	20.8	14.0		ナデ 一横走沈線 -ヨコミガキ	ヨコナデ -ヨコミガキ -ナメミガキ -(ヨコミガキ)		覆土6 内外黒ミガキ 内黒
37-5		杯	3.5	19.5	12.5		? -ヨコハケ -ヨコミガキ	? -ヨコミガキ		覆土3>6 内黒
37-6		敷製品は別表に掲載								
38-7	SH-13	石皿	11.9	11.9	4.7	720.0				床、覆土6=3 砂 岩
38-8		石製品	5.3	3.8	1.4	30.6				覆土6 砂 岩
39-1	SH-13	杯	4.8	19.3	13.0		ヨコナデ -ハケ -横走沈線 -タテミガキ -ヨコミガキ	ヨコナデ -ハケ -タテミガキ -ヨコミガキ		カマド>床面 内底取付状ミガキ 外底ハケ 内黒

II オサツ2遺跡の調査

図番号	発掘区 遺構名	器種	器高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	器面調査		施文	備考
							外 面	内 面		
II-39-2	SH-13	深鉢	7.5	13.0	8.5	?	?	・刺突 ・横走沈線	床	
		深鉢	11.3	8.3	5.0	?	?	・横位沈線	床	
		深鉢	21.3	21.0		?	?	・横走沈線	床>覆土?	
		底石	5.1	5.1	2.0	69.1				カマド 砂 岩
II-41-1	SH-14	深鉢	25.0	28.5		?	?	・粘付帯	床	
41-2		土師器				?	?	・刺突 ・横走沈線	覆土2	
41-3		ポイントナイフ	1.5	2.0	1.0	2.6	?	?		床 黒曜石
II-43-1		SH-15	須恵鉢坏	4.0	13.5	7.7	回転ナデ	回転ナデ		床
43-2	深鉢		7.2	5.8	3.5	麻痺	?		床	
43-3	深鉢		16.1	17.3		?	?	・横位沈線 ・横走沈線	床	
43-4	深鉢		18.0	13.3	6.5	?	?	・横走沈線	床	
43-5	深鉢		7.0	19.5		?	?	・横位沈線 ・横走沈線	床	
43-6	深鉢					?	?	・横走沈線	床	
43-7	深鉢		22.0	25.8		ナデ	ナデ	・横位沈線 ・横走沈線	床	
43-8	石壁		2.3	3.7	1.0	8.7			床 黒曜石	
43-9	磁石		12.0	6.3	7.6	1020.0			覆土 砂 岩	
43-10	たたき石		15.8	5.4	3.1	448.5			床 砂 岩	
43-11	台石	26.0	12.3	7.3	2960.0			床 砂 岩		
II-44-1	SH-16	坏	5.7	9.0	7.0	未調査	未調査		覆土	
II-45-1	SH-19	深鉢	30.6	28.5	11.0	?	?	・横位沈線(北面)→刺突 ・横走沈線→刺突 ・上段磨痕状沈線 ・下段磨痕状沈線	覆土	
45-2		坏	5.0	18.2	10.8	?	?	・横位沈線(北面) ・横位尖角沈線	床、掘穴方向 掘方角斜位沈線を上下交 互に差し、尖角状にして いる 磨明痕 内底	
45-3		坏	8.0	15.0	7.5	?	?	・横位沈線	床	
45-4		坏	6.0	16.0	5.8	?	?		カマド=カマド開口=床 内底	
45-5		坏	5.7	15.0	6.3	回転ナデ	回転ナデ		床 回転糸切 口唇に磨明痕	
45-6		深鉢				?	?	・横位沈線→刺突 ・横走沈線 ・刺突	床	
45-7		深鉢				?	?	・粘付帯に磨痕 ・横走沈線 ・刺突	床	
45-8		深鉢	4.0	6.0	4.3	?	?	・横位沈線→刺突 ・横走沈線 ・磨痕状沈線	覆土 内底	
45-9		須恵鉢	20.0	9.0	10.0	回転ナデ	回転ナデ		覆土9>10=11=床	

II オサツ2遺跡の調査

調査号	発掘区遺構名	部 種	部高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	部 面 積 積		施 文	備 考						
							外 面	内 面								
II-46-10	SH-19	土製品	0.6	0.4	4.3	0.1	朱調整	朱調整		灰管玉						
46-11		スケーラー	3.5	2.2	0.9	6.4				硝子2 黒曜石						
46-12		Rド	2.8	2.4	0.6	2.7				灰 黒曜石						
46-13		鉄製品は別表に発表														
II-49-1	SH-20	注口	5.2		6.0		?	?	・削突 ・削棒子状跡?	硝子6						
II-52-1		SH-20	厚鉄				?	?		横走状跡	灰					
52-2	厚鉄						?	?		横走状跡	灰					
52-3	鉄製品は別表に発表															
II-53-1	跡池1	明口	6.8	5.5	3.4											
53-2		鉄製品は別表に発表														
II-54-1	跡池2	明口	9.3	5.9	3.8					砂 遊						
54-2		厚床石?	27.1	15.5	11.0	680.0										
II-55-1	GP-1	厚鉄	9.4	8.5	4.1		ナデ -RL線状-RL線状	?	ケズリ削突 - (ヨコナデ)	横走						
55-2		厚鉄	18.1	14.8	5.6		ナデ -RL線状-RL線状	?	・縁起線-削突 - (押引)	横走						
調査号	発掘区遺構名	部 種	部高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	石 材	調査号	発掘区遺構名	部 種	部高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	石 材	
II-56-3	GP-1	石籠	1.9	1.6	0.3	0.5	黒曜石	56-12	GP-1	石籠	1.5	1.7	0.7	1.7	黒曜石	
56-4			2.2	1.5	0.3	0.6	黒曜石	56-13			ナイフ	7.6	5.1	0.8	24.7	黒曜石
56-5			2.4	1.6	0.2	0.6	黒曜石	56-14								
56-6			2.6	1.7	0.3	0.7	黒曜石	56-15								
56-7			2.5	1.4	0.2	0.6	黒曜石	56-16								
56-8			2.7	1.8	0.3	0.8	黒曜石	56-17								
56-9			2.7	1.8	0.3	0.9	黒曜石	56-18								
56-10			2.8	1.7	0.3	0.8	黒曜石									
56-11			3.0	1.6	0.3	1.0	黒曜石									
56-12																
II-58-1	GP-2	厚鉄	23.5	17.9	6.3		ナデ -RL線状-RL線状	ケズリ削突 - (ヨコナデ)	縁起線-削突 - (押引)	横走						
58-2		厚鉄	27.2	22.1	7.1		ナデ -RL線状-RL線状	ヨコナデ -削突 - (RL削行)	縁起線- (比跡) - (押引)	横走						
調査号	発掘区遺構名	部 種	部高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	石 材	調査号	発掘区遺構名	部 種	部高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	石 材	
II-59-1	GP-2	石籠	1.3	1.6	0.2	0.5	黒曜石	59-37	GP-2	石籠	2.0	1.5	0.2	0.4	黒曜石	
59-2			1.3	1.5	0.3	0.3	黒曜石	59-38			2.0	1.5	0.2	0.5	黒曜石	
59-3			1.8	1.8	0.2	0.6	黒曜石	59-39			1.7	1.3	0.2	0.4	黒曜石	
59-4			1.6	1.5	0.3	0.5	黒曜石	59-40			2.1	1.6	0.2	0.5	黒曜石	
59-5			1.6	1.5	0.2	0.4	黒曜石	59-41			1.9	1.4	0.2	0.3	黒曜石	
59-6			1.5	1.4	0.2	0.3	黒曜石	59-42			1.9	1.5	0.2	0.4	黒曜石	
59-7			1.5	1.4	0.2	0.4	黒曜石	59-43			2.1	1.5	0.3	0.7	黒曜石	
59-8			1.9	1.7	0.3	0.6	黒曜石	59-44			2.0	1.5	0.2	0.4	黒曜石	
59-9			1.7	1.5	0.3	0.4	黒曜石	59-45			2.0	1.5	0.2	0.4	黒曜石	
59-10			1.7	1.4	0.2	0.4	黒曜石	59-46			2.1	1.5	0.2	0.5	黒曜石	
59-11			1.6	1.3	0.2	0.4	黒曜石	59-47			2.2	1.7	0.2	0.5	黒曜石	
59-12			1.6	1.4	0.2	0.3	黒曜石	59-48			2.2	1.6	0.2	0.6	黒曜石	
59-13			1.7	1.5	0.2	0.5	黒曜石	59-49			2.5	1.9	0.2	0.7	黒曜石	
59-14			1.7	1.5	0.2	0.4	黒曜石	59-50			1.8	1.4	0.2	0.4	黒曜石	
59-15			1.6	1.4	0.2	0.3	黒曜石	59-51			1.9	1.4	0.3	0.5	黒曜石	
59-16			1.7	1.4	0.2	0.4	黒曜石	59-52			1.9	1.4	0.3	0.5	黒曜石	
59-17			1.7	1.4	0.2	0.3	黒曜石	59-53			2.0	1.5	0.3	0.5	黒曜石	
59-18			1.8	1.4	0.2	0.4	黒曜石	59-54			2.1	1.6	0.2	0.5	黒曜石	
59-19			1.7	1.4	0.2	0.5	黒曜石	59-55			2.2	1.7	0.2	0.6	黒曜石	
59-20			1.9	1.5	0.2	0.4	黒曜石	59-56			2.0	1.4	0.3	0.4	黒曜石	
59-21			1.7	1.4	0.2	0.4	黒曜石	59-57			2.1	1.5	0.3	0.6	黒曜石	
59-22			1.7	1.4	0.3	0.5	黒曜石	59-58			2.1	1.5	0.3	0.5	黒曜石	
59-23			1.9	1.4	0.2	0.4	黒曜石	59-59			2.2	1.6	0.3	0.5	黒曜石	
59-24			2.0	1.5	0.2	0.5	黒曜石	59-60			1.6	1.4	0.3	0.5	黒曜石	
59-25			1.8	1.4	0.2	0.4	黒曜石	59-61			1.9	1.4	0.2	0.4	黒曜石	
59-26			1.6	1.5	0.3	0.5	黒曜石	59-62			2.1	1.6	0.3	0.5	黒曜石	
59-27			1.8	1.4	0.3	0.4	黒曜石	59-63			2.2	1.6	0.2	0.5	黒曜石	
59-28			2.0	1.6	0.3	0.7	黒曜石	59-64			2.2	1.6	0.3	0.6	黒曜石	
59-29			2.1	1.8	0.3	0.7	黒曜石	59-65			1.7	1.3	0.3	0.4	黒曜石	
59-30			1.8	1.4	0.3	0.4	黒曜石	59-66			2.0	1.5	0.2	0.5	黒曜石	
59-31			2.0	1.5	0.2	0.6	黒曜石	59-67			2.1	1.5	0.3	0.6	黒曜石	
59-32			2.0	1.6	0.2	0.5	黒曜石	59-68			2.1	1.5	0.3	0.6	黒曜石	
59-33			2.1	1.6	0.2	0.5	黒曜石	59-69			2.2	1.6	0.3	0.7	黒曜石	
59-34			2.3	1.9	0.3	0.7	黒曜石	59-70			2.1	1.5	0.2	0.4	黒曜石	
59-35			1.6	1.2	0.2	0.3	黒曜石	59-71			2.4	1.7	0.2	0.7	黒曜石	
59-36			1.7	1.3	0.2	0.3	黒曜石	59-72			1.9	1.4	0.2	0.3	黒曜石	

II オサツ2遺跡の調査

図番号	発掘区 遺構名	部 種	部高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	石 材	図番号	発掘区 遺構名	部 種	部高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	石 材	
II-56-73	GP-2	石甕	2.0	1.4	0.2	0.5	黒曜石	II-59-151	GP-2	石甕	2.7	1.6	0.3	1.1	黒曜石	
56-74			2.1	1.6	0.3	0.7	黒曜石	59-152			2.2	1.2	0.2	0.4	黒曜石	
56-75			2.2	1.6	0.3	0.6	黒曜石	59-153				2.3	1.2	0.2	0.4	黒曜石
56-76			2.2	1.6	0.3	0.6	黒曜石	59-154				1.9	1.5	0.1	0.5	片岩
56-77			2.3	1.7	0.2	0.6	黒曜石	59-155				1.6	1.4	0.2	0.5	片岩
56-78			2.3	1.6	0.2	0.7	黒曜石	59-156				2.0	1.3	0.2	0.4	片岩
56-79			2.3	1.7	0.2	0.6	黒曜石	59-157				1.7	1.3	0.1	0.3	片岩
56-80			2.4	1.7	0.4	0.9	黒曜石	59-158				1.6	1.4	0.1	0.5	片岩
56-81			2.4	1.7	0.2	0.7	黒曜石	59-159				2.0	1.4	0.2	0.5	片岩
56-82			2.5	1.8	0.3	0.7	黒曜石	59-160				1.8	1.4	0.2	0.6	片岩
56-83			1.9	1.3	0.2	0.6	黒曜石	59-161				1.8	1.4	0.2	0.4	片岩
56-84			2.1	1.4	0.2	0.5	黒曜石	59-162				2.1	1.6	0.2	0.7	片岩
56-85			2.1	1.5	0.2	0.6	黒曜石	59-163				2.1	1.2	0.1	0.4	片岩
56-86			2.1	1.5	0.2	0.4	黒曜石	59-164				2.0	1.5	0.2	0.7	片岩
56-87			2.2	1.5	0.3	0.5	黒曜石	59-165				2.0	1.6	0.2	0.4	片岩
56-88			2.2	1.5	0.2	0.5	黒曜石	59-166				2.0	1.4	0.2	0.6	片岩
56-89			2.2	1.6	0.2	0.6	黒曜石	59-167				1.9	1.4	0.1	0.4	片岩
56-90			1.8	1.3	0.2	0.4	黒曜石	59-168				1.9	1.4	0.2	0.5	片岩
56-91			2.0	1.3	0.2	0.4	黒曜石	59-169				2.1	1.5	0.2	0.6	片岩
56-92			2.0	1.4	0.2	0.5	黒曜石	59-170				2.1	1.5	0.2	0.6	片岩
56-93			2.0	1.4	0.3	0.5	黒曜石	59-171				1.9	1.4	0.2	0.5	片岩
56-94			2.1	1.4	0.3	0.5	黒曜石	59-172				2.0	1.4	0.2	0.7	片岩
56-95			2.1	1.5	0.3	0.5	黒曜石	59-173				2.1	1.6	0.2	0.8	片岩
56-96			1.7	1.2	0.2	0.3	黒曜石	59-174				2.0	1.4	0.1	0.3	片岩
56-97			1.8	1.3	0.2	0.5	黒曜石	59-175				2.2	1.5	0.1	0.5	片岩
56-98			2.1	1.5	0.3	0.6	黒曜石	59-176				2.3	1.1	0.2	0.7	片岩
56-99			2.1	1.5	0.2	0.5	黒曜石	59-177				2.1	1.5	0.2	0.6	片岩
56-100			2.1	1.5	0.3	0.6	黒曜石	59-178				2.5	1.7	0.2	0.8	片岩
56-101			2.3	1.5	0.2	0.5	黒曜石	II-60-179				2.2	1.4	0.2	0.5	片岩
56-102			2.5	1.6	0.2	0.7	黒曜石	60-180				2.1	1.4	0.2	0.5	片岩
56-103			1.9	1.7	0.3	0.9	黒曜石	60-181				2.3	1.5	0.2	0.6	片岩
56-104			2.2	1.3	0.2	0.4	黒曜石	60-182				2.6	1.5	0.2	0.8	片岩
56-105			2.4	1.5	0.3	0.6	黒曜石	60-183				2.5	1.6	0.2	0.9	片岩
56-106			2.5	1.7	0.3	0.8	黒曜石	60-184				2.5	1.6	0.2	0.8	片岩
56-107			2.6	1.8	0.3	0.8	黒曜石	60-185				1.9	1.2	0.2	0.5	片岩
56-108			1.8	1.7	0.3	0.8	黒曜石	60-186				2.1	1.3	0.2	0.5	片岩
56-109			2.1	1.3	0.2	0.3	黒曜石	60-187				2.5	1.6	0.2	0.7	片岩
56-110			2.1	1.4	0.3	0.4	黒曜石	60-188				2.7	1.7	0.1	0.6	片岩
56-111			2.0	1.4	0.3	0.5	黒曜石	60-189				2.1	1.3	0.2	0.5	片岩
56-112			2.0	1.4	0.4	0.6	黒曜石	60-190				2.3	1.4	0.1	0.5	片岩
56-113			2.0	1.4	0.2	0.4	黒曜石	60-191				2.5	1.5	0.2	0.6	片岩
56-114			2.2	1.5	0.2	0.5	黒曜石	60-192				2.4	1.5	0.1	0.6	片岩
56-115			2.1	1.4	0.3	0.5	黒曜石	60-193				2.5	1.5	0.2	0.7	片岩
56-116			2.3	1.6	0.2	0.6	黒曜石	60-194				2.7	1.4	0.2	0.7	片岩
56-117			2.3	1.6	0.3	0.5	黒曜石	60-195				2.4	1.4	0.3	0.8	片岩
56-118			2.3	1.6	0.2	0.5	黒曜石	60-196				2.7	1.6	0.2	0.8	片岩
56-119			2.4	1.6	0.3	0.9	黒曜石	60-197				2.6	1.6	0.2	0.9	片岩
56-120			2.5	1.6	0.3	0.6	黒曜石	60-198				2.3	1.3	0.2	0.7	片岩
56-121			2.5	1.7	0.3	0.8	黒曜石	60-199				2.6	1.5	0.2	0.8	片岩
56-122			2.5	1.6	0.2	0.6	黒曜石	60-200				2.2	1.3	0.3	0.8	片岩
56-123			2.8	1.8	0.3	0.9	黒曜石	60-201				2.2	1.2	0.3	0.8	片岩
56-124			2.2	1.5	0.3	0.6	黒曜石	60-202				2.4	1.4	0.3	0.7	片岩
56-125			2.2	1.5	0.3	0.8	黒曜石	60-203				2.5	1.5	0.3	0.9	片岩
56-126			2.5	1.7	0.2	0.7	黒曜石	60-204				2.4	1.4	0.3	0.8	片岩
56-127			2.2	1.5	0.3	0.5	黒曜石	60-205				2.5	1.4	0.2	0.6	片岩
56-128			2.3	1.5	0.2	0.4	黒曜石	60-206				2.5	1.4	0.2	0.6	片岩
56-129			2.4	1.6	0.3	0.8	黒曜石	60-207				2.5	1.4	0.3	0.8	片岩
56-130			2.5	1.6	0.3	0.8	黒曜石	60-208				2.8	1.1	0.2	0.6	片岩
56-131			2.5	1.6	0.2	0.6	黒曜石	60-209				2.9	1.6	0.1	0.7	片岩
56-132			2.7	1.6	0.3	0.9	黒曜石	60-210				2.8	1.5	0.3	1.0	片岩
56-133			2.1	1.8	0.2	0.4	黒曜石	60-211				2.5	1.4	0.3	0.9	片岩
56-134			2.2	1.4	0.2	0.7	黒曜石	60-212				2.5	1.3	0.3	0.9	片岩
56-135			2.3	1.5	0.3	0.8	黒曜石	60-213				2.6	1.4	0.3	0.8	片岩
56-136			2.6	1.7	0.2	0.7	黒曜石	60-214				2.9	1.5	0.3	1.1	片岩
56-137			2.5	1.6	0.2	0.7	黒曜石	60-215				2.5	1.2	0.3	0.7	片岩
56-138			2.3	1.5	0.3	0.5	黒曜石	60-216				1.8	1.5	0.3	0.4	頁岩
56-139			2.3	1.5	0.3	0.7	黒曜石	60-217				2.3	1.6	0.3	0.8	頁岩
56-140			2.3	1.5	0.3	0.6	黒曜石	60-218				2.0	1.4	0.3	0.5	頁岩
56-141			2.4	1.5	0.2	0.7	黒曜石	60-219				2.2	1.6	0.2	0.5	頁岩
56-142			2.4	1.5	0.2	0.5	黒曜石	60-220				2.1	1.5	0.2	0.6	頁岩
56-143			2.6	1.7	0.3	0.7	黒曜石	60-221				2.4	1.6	0.4	1.1	頁岩
56-144			2.6	1.7	0.3	0.9	黒曜石	60-222				2.1	1.7	0.4	0.7	頁岩
56-145			2.0	1.3	0.2	0.4	黒曜石	60-223				1.9	1.4	0.3	0.4	黒曜石
56-146			2.3	1.5	0.3	0.5	黒曜石	60-224				2.0	1.5	0.2	0.4	黒曜石
56-147			2.4	1.5	0.3	0.7	黒曜石	60-225				2.1	1.5	0.2	0.5	黒曜石
56-148			2.5	1.6	0.2	0.6	黒曜石	60-226				2.2	1.5	0.2	0.5	黒曜石
56-149			2.2	1.3	0.2	0.4	黒曜石	60-227				2.4	1.6	0.2	0.6	黒曜石
56-150			2.3	1.4	0.2	0.5	黒曜石	60-228				2.5	1.6	0.3	0.8	黒曜石

II オサツ2道跡の調査

図番号	分属区 道番号	部 種	幅高cm (長さ)	最大幅cm (幅)	底高cm (厚)	(数量)	石 材	図番号	分属区 道番号	部 種	幅高cm (長さ)	最大幅cm (幅)	底高cm (厚)	(数量)	石 材	
II-60-229	GP-2	石壁	1.8	1.2	0.2	0.3	黒輝石	60-252	GP-2	石壁	2.4	1.4	0.3	0.6	黒輝石	
60-230			1.8	1.5	0.2	0.4	黒輝石	60-253			2.5	1.5	0.3	0.6	黒輝石	
60-231			2.2	1.8	0.2	0.7	黒輝石	60-254			2.5	1.5	0.2	0.4	黒輝石	
60-232			1.9	1.3	0.2	0.4	黒輝石	60-255			2.8	1.7	0.3	0.7	黒輝石	
60-233			2.6	1.7	0.3	0.8	黒輝石	60-256			2.4	1.4	0.3	0.6	黒輝石	
60-234			2.4	1.5	0.2	0.5	黒輝石	60-257			2.5	1.5	0.3	0.8	黒輝石	
60-235			2.5	1.6	0.3	0.5	黒輝石	60-258			3.0	1.7	0.4	1.2	黒輝石	
60-236			2.4	1.5	0.2	0.5	黒輝石	60-259			2.1	1.3	0.2	0.5	黒輝石	
60-237			2.4	1.5	0.2	0.6	黒輝石	60-260			2.3	1.3	0.2	0.4	黒輝石	
60-238			2.2	1.4	0.2	0.5	黒輝石	60-261			2.5	1.4	0.2	0.6	黒輝石	
60-239			2.3	1.4	0.2	0.5	黒輝石	60-262			3.0	1.7	0.3	1.1	黒輝石	
60-240			2.0	1.3	0.3	0.5	黒輝石	60-263			2.3	1.3	0.2	0.5	黒輝石	
60-241			2.3	1.4	0.3	0.5	黒輝石	60-264			2.4	1.3	0.2	0.4	黒輝石	
60-242			2.3	1.4	0.2	0.5	黒輝石	60-265			2.1	1.4	0.2	0.6	片岩	
60-243			2.5	1.6	0.3	0.8	黒輝石	60-266			2.4	1.4	0.3	0.6	片岩	
60-244			2.2	1.4	0.3	0.5	黒輝石	60-267			1.4	1.5	0.3	0.4	黒輝石	
60-245			2.3	1.5	0.2	0.7	黒輝石	60-268			2.2	1.4	0.3	0.3	黒輝石	
60-246			2.5	1.5	0.3	0.6	黒輝石	60-269			2.7	1.8	0.3	0.7	黒輝石	
60-247			2.2	1.4	0.2	0.5	黒輝石	60-270			2.3	1.5	0.2	0.5	黒輝石	
60-248			2.7	1.7	0.2	0.5	黒輝石	60-271			2.3	1.4	0.3	0.4	黒輝石	
60-249			2.7	1.6	0.2	0.6	黒輝石	II-61-272			3.0	1.4	0.8	2.4	黒輝石	
60-250			2.4	1.5	0.2	0.5	黒輝石	61-273			R F	2.8	2.0	0.6	2.9	黒輝石
60-251			2.7	1.6	0.3	0.9	黒輝石	61-274			石砂	18.3	6.0	3.2	670.0	緑色泥岩
図番号	分属区 道番号	部 種	幅高cm (長さ)	最大幅cm (幅)	底高cm (厚)	(数量)	石 材	部 種	幅高cm (長さ)	最大幅cm (幅)	底高cm (厚)	(数量)	石 材			
II-61-1	GP-3	溝跡	15.5	11.6	6.0			外 面								
								内 面								
61-2		溝跡	7.6	6.3	2.6			ナデ -R.L.新引 -L.新引 溝跡	ヨコナデ				溝跡 溝跡			
61-3		溝跡			4.5			ナデ	ヨコナデ				溝跡			
								ナデ-R.L.新引	ヨコナデ				溝跡			
図番号	分属区 道番号	部 種	幅高cm (長さ)	最大幅cm (幅)	底高cm (厚)	(数量)	石 材	図番号	分属区 道番号	部 種	幅高cm (長さ)	最大幅cm (幅)	底高cm (厚)	(数量)	石 材	
61-4	GP-3	石壁	1.4	1.4	0.2	0.3	黒輝石	63-36	GP-4	石壁	2.6	1.7	0.2	0.8	片岩	
61-5			1.7	1.5	0.3	0.6	黒輝石	63-37			2.3	1.4	0.3	0.5	片岩	
61-6			1.6	1.4	0.3	0.5	黒輝石	63-38			2.5	1.7	0.2	0.7	片岩	
61-7			2.0	1.6	0.2	0.6	黒輝石	63-39			2.2	1.4	0.2	0.5	片岩	
61-8			2.3	1.7	0.2	0.6	片岩	63-40			2.6	1.7	0.2	0.8	片岩	
61-9			2.0	1.3	0.2	0.5	片岩	63-41			2.0	1.4	0.3	0.9	片岩	
61-10			2.3	1.7	0.3	0.8	片岩	63-42			2.4	1.5	0.2	0.6	片岩	
61-11			2.4	1.9	0.2	0.6	片岩	63-43			2.5	1.6	0.3	0.9	片岩	
61-12			2.6	1.6	0.3	1.1	片岩	63-44			2.6	1.6	0.2	0.7	片岩	
61-13	3ヶ所イ		4.3	2.6	0.3	0.3	頁岩	II-63-45			2.1	1.3	0.2	0.5	片岩	
61-14		石砂	12.5	4.0	3.1	309.3	緑色泥岩	63-46			2.3	1.5	0.2	0.7	片岩	
II-63-1	GP-4	石壁	1.8	1.6	0.3	0.6	黒輝石	63-47			2.7	1.6	0.2	0.9	片岩	
63-2			1.8	1.6	0.3	0.5	黒輝石	63-48			2.7	1.6	0.2	1.0	片岩	
63-3			1.9	1.6	0.3	0.6	黒輝石	63-49			2.9	1.7	0.2	0.9	片岩	
63-4			1.9	1.5	0.3	0.5	黒輝石	63-50			2.4	1.5	0.2	0.7	片岩	
63-5			2.2	1.8	0.3	0.7	黒輝石	63-51			2.5	1.6	0.2	0.6	片岩	
63-6			2.1	1.7	0.2	0.6	黒輝石	63-52			2.6	1.6	0.2	0.6	片岩	
63-7			2.2	1.8	0.3	0.7	黒輝石	63-53			1.8	1.6	0.2	0.8	片岩	
63-8			2.0	1.5	0.2	0.4	黒輝石	63-54			2.4	1.5	0.2	0.7	片岩	
63-9			2.2	1.7	0.3	0.7	黒輝石	63-55			3.0	1.6	0.3	1.1	片岩	
63-10			2.3	1.7	0.2	0.7	黒輝石	63-56			2.9	1.7	0.3	1.1	片岩	
63-11			2.0	1.7	0.4	1.1	黒輝石	63-57			2.9	1.7	0.3	1.0	片岩	
63-12			2.3	1.7	0.3	0.8	黒輝石	63-58			2.2	1.3	0.2	0.6	片岩	
63-13			2.0	1.5	0.3	0.5	黒輝石	63-59			2.7	1.6	0.3	1.1	片岩	
63-14			2.2	1.5	0.3	0.7	黒輝石	63-60			2.8	1.6	0.2	0.8	片岩	
63-15			2.4	1.7	0.3	0.8	黒輝石	63-61			3.1	1.8	0.3	1.1	片岩	
63-16			2.7	1.8	0.3	1.1	黒輝石	63-62			2.1	1.2	0.2	0.4	片岩	
63-17			2.6	1.7	0.3	0.7	黒輝石	63-63			2.7	1.6	0.2	0.7	片岩	
63-18			2.6	1.7	0.2	0.7	黒輝石	63-64			2.5	1.4	0.2	0.7	片岩	
63-19			2.5	1.5	0.3	0.7	黒輝石	63-65			2.6	1.5	0.2	0.8	片岩	
63-20			2.1	1.2	0.3	0.8	黒輝石	63-66			2.9	1.6	0.2	1.2	片岩	
63-21			1.9	1.6	0.3	0.3	片岩	63-67			2.7	1.5	0.2	0.7	片岩	
63-22			2.0	1.7	0.2	0.6	片岩	63-68			2.8	1.7	0.3	1.1	片岩	
63-23			1.9	1.5	0.3	0.7	片岩	63-69			2.6	1.6	0.3	1.1	片岩	
63-24			2.2	1.7	0.2	0.7	片岩	63-70			2.8	1.5	0.2	0.6	片岩	
63-25			2.3	1.7	0.2	0.7	片岩	63-71			2.9	1.6	0.2	1.0	片岩	
63-26			2.2	1.6	0.2	0.7	片岩	63-72			2.2	1.3	0.2	0.5	片岩	
63-27			2.3	1.7	0.2	0.8	片岩	63-73			2.9	1.6	0.3	1.2	片岩	
63-28			2.3	1.6	0.2	0.7	片岩	63-74			3.1	1.6	0.3	1.0	片岩	
63-29			2.3	1.6	0.2	0.8	片岩	63-75			2.6	1.4	0.2	0.7	片岩	
63-30			2.0	1.4	0.2	0.5	片岩	63-76			2.7	1.4	0.2	0.7	片岩	
63-31			2.5	1.7	0.3	0.9	片岩	II-64-77			3.0	1.5	0.3	1.1	片岩	
63-32			2.3	1.5	0.2	0.5	片岩	64-78			3.2	1.6	0.2	1.0	片岩	
63-33			2.3	1.6	0.2	0.7	片岩	64-79			2.8	1.3	0.2	0.7	片岩	
63-34			2.7	1.8	0.3	1.2	片岩	64-80			2.2	2.0	0.3	1.0	頁岩	
63-35			2.3	1.6	0.2	0.6	片岩	64-81			2.2	1.7	0.3	0.5	頁岩	

II オサツ2遺跡の調査

図番号	発掘区 遺構名	器 種	器高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	石 材	図番号	発掘区 遺構名	器 種	器高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	石 材
II-64-82	GP-4	石皿	2.2	1.4	0.4	0.8	頁岩	64-112	GP-4		4.0	2.0	1.6	8.1	黒曜石
64-83			2.4	1.6	0.3	0.6	黒曜石	64-113		UF	3.3	1.7	0.4	2.3	黒曜石
64-84			2.3	1.7	0.3	0.7	黒曜石	64-114			1.9	2.1	0.3	1.0	黒曜石
64-85			2.5	1.8	0.4	0.7	黒曜石	64-115			1.9	1.9	0.8	2.2	黒曜石
64-86			2.6	1.8	0.3	0.7	黒曜石	64-116			2.6	2.0	0.3	1.0	黒曜石
64-87			2.5	1.8	0.3	0.8	黒曜石	64-117			2.4	2.1	0.5	2.4	黒曜石
64-88			2.4	1.7	0.2	0.7	黒曜石	64-118			1.4	2.3	0.3	1.1	黒曜石
64-89			2.6	1.9	0.3	1.1	黒曜石	64-119			2.0	2.8	0.6	2.9	黒曜石
64-90			2.3	1.5	1.3	0.8	黒曜石	64-120			2.2	1.6	0.2	0.7	黒曜石
64-91			2.5	1.6	0.3	0.8	黒曜石	64-121			1.9	1.5	0.4	0.7	黒曜石
64-92			2.3	1.5	0.3	0.7	黒曜石	64-122		フレイク	2.6	1.8	0.5	1.7	黒曜石
64-93			2.3	1.5	0.3	0.7	黒曜石	64-123			2.2	1.6	0.5	2.8	黒曜石
64-94			2.8	1.7	0.3	0.7	黒曜石	64-124			1.6	2.3	0.5	1.5	黒曜石
64-95			2.3	1.8	0.2	0.9	黒曜石	64-125			2.0	1.8	0.7	1.7	黒曜石
64-96			2.5	1.7	0.2	0.8	片岩	64-126			2.1	2.1	0.4	1.3	片岩
64-97			2.4	1.5	0.3	0.7	片岩	64-127			4.3	1.7	0.2	1.6	片岩
64-98			2.9	1.5	0.2	0.7	片岩	64-128			3.8	1.6	0.1	1.3	片岩
64-99			3.1	1.5	0.2	0.8	片岩	64-129			2.9	1.7	0.3	1.4	片岩
64-100			3.3	1.5	0.3	1.1	頁岩	64-130			3.4	2.0	0.2	1.4	片岩
64-101			2.5	1.3	0.3	0.9	黒曜石	64-131			2.3	1.6	0.2	0.7	片岩
64-102		石皿味結晶	3.3	1.7	0.3	1.5	片岩	64-132			2.6	1.4	0.2	0.8	片岩
64-103			3.2	1.6	0.2	1.2	片岩	64-133		石片	87.7	3.9	1.2	51.8	片岩
64-104			3.4	1.6	0.1	1.0	片岩	64-134			85.3	4.2	1.1	59.7	緑色泥岩
64-105			2.9	1.3	0.1	0.5	片岩	64-135			112.0	3.1	1.4	57.9	緑色泥岩
64-106		スライパー	4.8	2.1	0.8	8.0	頁岩	64-136			108.6	4.2	1.8	135.2	緑色泥岩
64-107			8.8	2.9	1.1	14.3	頁岩	II-65-137			99.9	5.0	2.6	261.7	片岩
64-108			5.2	3.9	1.1	20.6	頁岩	65-138			81.7	4.0	1.2	70.5	片岩
64-109			5.0	3.4	1.3	16.8	黒曜石	65-139			104.6	5.0	2.6	166.8	片岩
64-110		R F	2.5	1.5	0.3	0.8	黒曜石	65-140			115.7	4.6	1.8	139.0	片岩
64-111		799999999	2.7	1.9	0.6	5.0	黒曜石	65-141			120.8	4.8	1.7	149.4	片岩
図 号 号	発掘区 遺構名	器 種	器高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	石 材	器 種		器高cm (長さ)		最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	石 材
II-66-1	GP-5	深鉢	18.5	15.8	6.2			ナデ	ナデ	・磨起線--(沈線)					緑泥
								-R.L.線--R.L.線	- (ヨコナヅリ)	-削突--(押引)					
66-2		壺	142.9	91.4	6.2	835.0			- (ヨコナヅ)						緑泥 片岩 残っている
II-67-1	GP-6	深鉢					?	ナデ	ナデ	・磨起線--(沈線)					緑口
								-R.L.線	- (ヨコナヅ)	-削突--(押引)					
67-2		深鉢						ナデ	ナデ						緑土
								-R.L.線--R.L.線	- (ヨコナヅ)						
67-3		深鉢	21.4	17.5	6.0			ナデ	ナデ	・(磨起線)--(沈線)					緑土
								-R.L.線--R.L.線	- (ヨコナヅ)	-削突--(押引)					
図番号	発掘区 遺構名	器 種	器高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	石 材	図番号	発掘区 遺構名	器 種	器高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(重量g)	石 材
67-4	GP-6	深鉢	2.4	2.4	0.6	2.8	黒曜石	67-37	GP-6	石皿	2.3	1.7	0.3	0.6	黒曜石
67-5		石皿	1.5	1.0	0.3	0.3	黒曜石	67-38			2.4	1.8	0.3	0.8	黒曜石
67-6			1.3	1.2	0.2	0.2	黒曜石	67-39			2.5	1.8	0.3	0.7	黒曜石
67-7			1.6	1.3	0.3	0.5	黒曜石	67-40			2.2	1.6	0.3	0.5	黒曜石
67-8			1.5	1.2	0.3	0.4	黒曜石	67-41			1.6	1.2	0.3	0.4	黒曜石
67-9			1.7	1.7	0.4	0.8	黒曜石	67-42			2.1	1.4	0.3	0.5	黒曜石
67-10			1.7	1.6	0.3	0.5	黒曜石	67-43			2.8	1.8	0.3	0.9	黒曜石
67-11			1.9	1.6	0.2	0.4	黒曜石	67-44			2.5	1.7	0.4	0.9	黒曜石
67-12			1.7	1.4	0.3	0.4	黒曜石	67-45			1.5	1.3	0.3	0.5	黒曜石
67-13			1.9	1.6	0.3	0.6	黒曜石	67-46			2.1	1.4	0.3	0.6	黒曜石
67-14			1.9	1.6	0.3	0.4	黒曜石	67-47			1.8	1.2	0.2	0.4	黒曜石
67-15			2.0	1.6	0.2	0.5	黒曜石	67-48			2.1	1.4	0.3	0.5	黒曜石
67-16			2.2	1.8	0.4	0.7	黒曜石	67-49			2.8	1.8	0.2	1.0	黒曜石
67-17			1.9	1.4	0.2	0.4	黒曜石	II-68-50			2.4	1.5	0.2	0.6	黒曜石
67-18			2.0	1.6	0.2	0.6	黒曜石	68-51			2.5	1.6	0.3	0.7	黒曜石
67-19			2.2	1.7	0.3	0.7	黒曜石	68-52			2.5	1.6	0.3	0.8	黒曜石
67-20			2.1	1.7	0.4	0.7	黒曜石	68-53			2.7	1.7	0.3	0.8	黒曜石
67-21			1.9	1.4	0.2	0.4	黒曜石	68-54			2.1	1.3	0.2	0.5	黒曜石
67-22			1.6	1.2	0.2	0.3	黒曜石	68-55			1.6	1.0	0.2	0.4	黒曜石
67-23			1.6	1.2	0.2	0.3	黒曜石	68-56			2.1	1.9	0.4	1.0	黒曜石
67-24			1.6	1.3	0.2	0.3	黒曜石	68-57			2.4	1.4	0.3	0.6	黒曜石
67-25			1.8	1.4	0.2	0.5	黒曜石	68-58			3.0	1.8	0.3	0.9	黒曜石
67-26			1.9	1.4	0.3	0.4	黒曜石	68-59			2.5	1.5	0.3	0.8	黒曜石
67-27			1.9	1.4	0.2	0.5	黒曜石	68-60			2.1	1.2	0.3	0.6	黒曜石
67-28			2.0	1.5	0.2	0.4	黒曜石	68-61			2.7	1.4	0.3	0.8	黒曜石
67-29			2.3	1.6	0.2	0.6	黒曜石	68-62			2.1	1.0	0.3	0.5	黒曜石
67-30			2.1	1.6	0.2	0.6	黒曜石	68-63			1.6	1.7	0.1	0.6	片岩
67-31			1.8	1.3	0.3	0.5	黒曜石	68-64			1.7	1.6	0.2	0.6	片岩
67-32			2.0	1.5	0.2	0.4	黒曜石	68-65			2.0	1.8	0.2	0.9	片岩
67-33			2.3	1.7	0.3	0.6	黒曜石	68-66			1.6	1.6	0.2	0.5	片岩
67-34			1.8	1.3	0.2	0.3	黒曜石	68-67			2.0	1.6	0.1	0.7	片岩
67-35			2.0	1.5	0.2	0.5	黒曜石	68-68			2.2	1.9	0.2	1.3	片岩
67-36			2.3	1.7	0.3	0.7	黒曜石	68-69			1.6	1.6	0.2	0.8	片岩

II オサツ2遺跡の調査

図番号	発掘区 遺構名	部 種	断面cm (長さ)	最大径cm (他)	底径cm (厚)	(重量g)	石 材	図番号	発掘区 遺構名	部 種	断面cm (長さ)	最大径cm (他)	底径cm (厚)	(重量g)	石 材
Ⅱ-60-70	GP-E	石礎	2.2	1.8	0.2	1.2	片岩	60-130	GP-F	石礎	1.9	1.6	0.2	0.6	片岩
60-71			1.8	1.4	0.1	0.4	片岩	60-131			2.1	1.7	0.3	1.1	片岩
60-72			2.1	1.6	0.3	0.7	片岩	60-132			2.6	1.1	0.1	0.8	片岩
60-73			1.9	1.5	0.2	0.6	片岩	60-133			3.0	2.1	0.3	1.8	泥岩
60-74			1.8	1.8	0.2	0.8	片岩	60-134			3.0	1.3	0.1	0.6	片岩
60-75			1.9	1.3	0.2	0.4	片岩	60-135		石礎	5.0	1.5	0.7	4.0	メノウ
60-76			1.9	1.3	0.1	0.4	片岩	60-136			3.6	1.3	0.9	2.6	真鍮
60-77			2.0	1.4	0.2	0.5	片岩	60-137			2.9	0.8	0.4	0.7	真鍮
60-78			2.3	1.6	0.2	0.8	片岩	60-138			3.2	0.8	0.5	1.3	メノウ
60-79			1.9	1.5	0.2	0.7	片岩	60-139			2.3	2.3	0.7	3.4	黒曜石
60-80			2.3	1.5	0.2	0.6	片岩	60-140		タコナデ	2.0	2.3	0.5	2.6	黒曜石
60-81			1.9	1.2	0.2	0.4	片岩	60-141			2.6	2.0	0.7	3.8	黒曜石
60-82			1.9	1.3	0.2	0.5	片岩	Ⅱ-60-142		タコナデ	2.8	2.6	1.3	7.2	黒曜石
60-83			2.1	1.4	0.1	0.4	片岩	60-143		スライパ	6.1	2.7	0.8	12.4	真鍮
60-84			3.2	2.1	0.3	0.4	片岩	60-144			6.3	2.9	0.8	12.9	黒曜石
60-85			2.1	1.3	0.1	1.9	片岩	60-145			4.1	2.5	0.8	7.8	真鍮
60-86			2.7	2.1	0.3	1.7	片岩	60-146			4.8	2.4	0.8	7.7	真鍮
60-87			2.1	1.4	0.3	0.7	片岩	60-147			5.6	1.6	0.6	5.7	黒曜石
60-88			2.0	1.6	0.2	0.8	片岩	60-148			6.4	1.7	0.7	7.8	真鍮
60-89			2.4	1.5	0.1	0.5	片岩	60-149			5.0	1.7	0.9	6.0	黒曜石
60-90			2.2	1.3	0.3	0.8	片岩	60-150			5.7	1.2	0.6	4.3	黒曜石
60-91			2.4	1.5	0.2	0.7	片岩	60-151			3.0	1.7	0.4	2.0	真鍮
60-92			2.5	1.5	0.2	0.8	片岩	60-152			3.4	2.8	0.7	6.0	鉛
60-93			2.1	1.4	0.2	0.8	片岩	60-153			4.6	1.7	0.7	3.1	黒曜石
60-94			2.1	1.8	0.3	1.4	片岩	60-154			3.5	1.1	0.6	1.8	黒曜石
60-95			2.4	1.4	0.1	0.6	片岩	60-155			4.1	1.8	0.6	3.6	黒曜石
60-96			2.7	1.5	0.2	0.8	片岩	60-156			3.2	2.0	0.7	4.9	真鍮
60-97			2.8	1.6	0.2	0.7	片岩	60-157			6.5	2.5	0.7	11.7	黒曜石
60-98			2.5	1.4	0.3	0.6	片岩	60-158			10.0	3.1	1.2	34.6	黒曜石
60-99			2.6	1.4	0.2	0.7	片岩	60-159			4.4	4.3	0.9	17.2	黒曜石
60-100			2.7	1.5	0.2	0.9	片岩	60-160		ツツボ	3.6	4.1	0.8	11.3	黒曜石
60-101			2.3	1.2	0.1	0.3	片岩	60-161		RF	4.7	3.5	0.8	10.7	黒曜石
60-102			2.9	1.5	0.3	0.9	片岩	60-162			2.5	2.1	0.5	1.8	黒曜石
60-103			2.6	1.4	0.2	0.7	片岩	60-163			1.6	2.2	0.5	1.6	黒曜石
60-104			2.1	1.1	0.1	0.4	片岩	60-164			1.9	2.7	0.5	1.8	黒曜石
60-105			2.5	1.3	0.1	0.4	片岩	60-165			2.9	1.8	0.2	0.9	黒曜石
60-106			2.5	1.3	0.2	0.7	片岩	60-166			3.6	1.7	0.4	2.2	黒曜石
60-107			2.3	1.2	0.2	0.5	片岩	Ⅱ-70-167			2.3	1.4	0.3	1.0	黒曜石
60-108			2.5	1.2	0.2	0.6	片岩	70-168			1.8	2.2	0.6	1.8	黒曜石
60-109			2.7	1.4	0.1	0.5	片岩	70-169			2.9	1.8	0.4	1.8	黒曜石
60-110			2.9	1.4	0.1	0.7	片岩	70-170			1.7	2.0	0.5	1.4	黒曜石
60-111			2.1	1.1	0.1	0.3	片岩	70-171			1.1	2.5	0.1	0.6	黒曜石
60-112			2.3	1.1	0.2	0.5	片岩	70-172		UF	5.5	3.8	0.7	15.6	黒曜石
60-113			2.2	1.5	0.3	0.6	真鍮	70-173			3.0	3.8	1.0	8.4	黒曜石
60-114			1.5	1.6	0.3	0.6	黒曜石	70-174		フレイク	2.9	3.6	0.8	6.0	黒曜石
60-115			2.0	1.6	0.2	0.5	黒曜石	70-175			1.9	1.7	0.7	2.2	黒曜石
60-116			1.6	1.2	0.3	0.5	黒曜石	70-176		模範石	2.6	2.9	0.7	5.0	黒曜石
60-117			2.1	1.5	0.3	0.6	黒曜石	70-177			3.1	3.1	0.9	7.2	黒曜石
60-118			1.6	1.1	0.4	0.7	黒曜石	70-178			2.8	3.8	1.1	9.5	黒曜石
60-119			2.6	1.3	0.3	0.7	黒曜石	70-179			2.1	2.0	0.8	3.0	黒曜石
60-120			2.7	1.5	0.2	0.8	片岩	70-180			2.6	3.4	1.7	14.2	黒曜石
60-121			2.0	1.1	0.3	0.4	黒曜石	70-181			3.3	1.9	1.5	8.4	黒曜石
60-122			2.1	1.1	0.3	0.4	黒曜石	70-182		模範石	1.9	2.7	1.2	4.7	黒曜石
60-123			2.8	1.1	0.3	1.0	黒曜石	70-183		石片	11.1	2.7	1.1	59.8	緑色泥岩
60-124			3.3	1.7	0.5	2.2	黒曜石	70-184			8.5	2.6	1.1	32.0	褐色泥岩
60-125			3.3	1.4	0.3	1.0	真鍮	70-185			8.5	3.7	1.1	66.4	褐色泥岩
60-126			2.6	1.2	0.2	0.5	片岩	70-186			8.5	4.3	1.3	97.8	褐色泥岩
60-127			2.7	1.2	0.2	0.7	片岩	70-187			12.3	4.0	1.9	149.6	褐色泥岩
60-128		石器製品	1.7	1.7	0.1	0.5	片岩	70-188			19.0	9.9	6.1	1910.0	砂岩
60-129			1.8	1.6	0.3	1.2	片岩								

図 号	発掘区 遺構名	部 種	断面cm (長さ)	最大径cm (他)	底径cm (厚)	(重量g)	部 置 置		備 文	備 考
							外 面	内 面		
Ⅱ-72-1	GP-B	環鉢	28.5	27.0			ナデ	タチケズリ	・(縁起線)→刺突	黒土中位
Ⅱ-73	P-5	環鉢	23.5	22.5			ナデ	→ココナデ	・(縁起線)→刺突	黒土中位
Ⅱ-76	FP-B	UF	2.3	1.0	0.6	1.1	ナデ	→ココナデ	・(縁起線)→刺突	黒曜石
Ⅱ-77	FP-Q	坏	7.7	14.6	6.0		環鉢ナデ	→タチミガキ		環鉢赤切り
Ⅱ-78-1	1・7	坏	5.7	20.2	15.0		?	→タチミガキ		内外産ミガキ
							?	→タチミガキ		内黒
78-2	2・5	坏	4.2	11.5	5.5		?	→タチミガキ		内黒
78-3	2・5	坏	6.0	13.3	7.5		?	→タチミガキ		内産部状ミガキ
							?	→タチミガキ		外産ミガキ
							?	→タチミガキ		内黒

II オサツ2遺跡の調査

調査号	発掘区 遺構名	形 態	跡高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(数量等)	器 物 調 査		施 文	備 考
							外 面	内 面		
II-78-4	2・6	坏	5.6	15.3	6.0		?-横位沈線 -タチミガキ -ヨコミガキ	? -タチミガキ -ヨコミガキ		内産放射状ミガキ 外産ミガキ 内産
78-5	2・8	坏	7.6	13.2	5.0		? -タチミガキ - (ヨコミガキ)	? -タチミガキ - (ヨコミガキ)		
78-6	1・7	坏	9.0	16.0	6.9		? -ヨコミガキ	? -タチミガキ -ヨコミガキ	・横位沈線	底部空露痕 内産
78-7	2・14	坏	5.7	12.7	7.7		? -ヨコミガキ	? -タチミガキ		内産
78-8	2・5	坏	5.9	13.7	6.8		回転ナデ	回転ナデ		回転糸切り 遺物痕
78-9	2・4 他	坏	4.6	12.5			回転ナデ -ヨコミガキ	回転ナデ -ヨコミガキ		内産
78-10	2・5 他	坏	5.3	13.0	5.7		回転ナデ	回転ナデ		回転糸切り
78-11	2・5 他	坏	5.6	12.2	4.7		回転ナデ	回転ナデ		回転糸切り
78-12	2・12 他	坏	4.5	12.0	4.8		回転ナデ	回転ナデ		回転糸切り
78-13	2・16	坏	6.5	15.0	6.0		?-回転ナデ	?-回転ナデ -タチミガキ - (ヨコミガキ)		回転糸切り 内産
78-14	2・13	坏	7.0	15.0	5.3		?-回転ナデ	?-回転ナデ -タチミガキ - (ヨコミガキ)		回転糸切り 外産ヘラケズリ 内産
78-15	2・7	高坏?	5.0	19.0			ヨコハケ -ヨコナデ -段状沈線 - (ヨコミガキ)	? - (ヨコミガキ)		内産
78-16	2・11	高坏?	4.5	16.5			ヨコハケ -段状沈線 - (ヨコミガキ)	? -タチミガキ - (ヨコミガキ)		内産
78-17	2・5	高坏?	3.5	15.0			? -段状沈線 - (ヨコミガキ)	-ヨコハケ - (ヨコミガキ)		内産
78-18	1・6	高坏	9.1	17.2	5.9		? -ヨコナデ - (タチミガキ) - (ヨコナデ)	? -ナデ - (タチミガキ) - (ヨコミガキ)	・横位沈線-割突	内産
78-19	2・7	坏	3.0	8.0	4.5					
78-20	2・6	深鉢	8.9	8.8	4.6		未調査	未調査		
78-21	2・7 他	深鉢	8.0	15.0			? -タチハケ - (ヨコナデ)	? -ヨコハケ - (ヨコナデ)	・横位沈線	
78-22	2・7 他	深鉢	8.0	15.0			? -タチハケ - (ヨコハケ)	? -ヨコハケ - (ヨコナデ)	・横位沈線 ・横位沈線	
78-22	2・8	深鉢					? -タチハケ - (ヨコナデ)	? - (ヨコミガキ)	・割突 -斜棒子沈線	
78-23	2・11	深鉢					? -タチハケ - (ヨコナデ)	? -ヨコハケ - (タチミガキ) - (ヨコミガキ)	・横位沈線 -斜棒子沈線	
78-24	2・9	深鉢					? - (ヨコナデ)	? -ヨコハケ - (ヨコミガキ)	・横位沈線-割突 ・横位沈線 -下段垂面状沈線 -上段垂面状沈線	
78-25	1・8	深鉢					? -タチハケ	? -ヨコハケ - (ヨコナデ)		
78-26	1・4	深鉢	6.0	10.5			? -タチハケ - (ヨコナデ)	? -タチミガキ - (ヨコミガキ)	・割突 -粘付等-風脚形在産 -粘付等	
78-27	2・5	深鉢					? - (ヨコミガキ)	? - (ヨコミガキ)	・風脚形在産-割突	
78-28	2・6	深鉢					? -ミガキ	? -ミガキ	・粘付等-風脚形在産	
78-29	2・6	底産器					漆器タチキ	ナデ		外産に自然物
II-79-1	2・8	深鉢	24.0	19.0			ナデ -R.L. 磁土-R.L. 磁土	ナデ -ヨコナデ	・ (割突) + (押引)	
79-2	2・13	深鉢	35.5	24.0	8.0		ナデ -R.L. 磁土-R.L. 磁土	ナデ -ヨコナデ	・ (磁器)	
79-3	1・16	深鉢		14.5			ナデ -R.L. 磁土-R.L. 磁土	ナデ -ケズリ	・ (割突) -?	磁器縁が割断している

II オサン2遺跡の調査

図番号	発掘区遺構名	部 種	跡高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(数量#)	部 置		施 文	備 考					
							外 周	内 周							
79-4	2・7	窪	10.5	7.5	3.7		ナデ -R.L.壁面-R.L.側行 -R.L.横走	ナデ -ヨコナデ	・隆起線+（沈線） -（削突）+（押引）						
79-5	1・4 他	窪跡	32.5	26.5	8.5		? -タテナデ	? -ヨコナデ	・（隆起線） -（内影削突）-削突 ・R.L.壁面伏 -R.L.壁位（沈線） -R.L.壁位（底面） -ナデ（区画）-削突						
79-6	2・7	窪跡					? -R.L.横走	? -ヨコナデ	・押引 -斜位沈線-削突						
79-7	2・7	窪跡					? -R.L.横走	? -ヨコナデ	・押引 -斜位沈線-削突						
79-8	2・11	窪跡					? -R.L.横走	? -ヨコナデ	・隆起線-押引 ・隆起線-斜位沈線 -削突						
79-9	2・11	窪跡					? -R.L.横走	? -ヨコナデ	・押引 -削突						
79-10	2・8	窪跡					? -R.L.横走	? -ヨコナデ -R.L.側行	・押引 -削突						
79-11	1・7	窪跡					? -R.L.横走	? -ヨコナデ	・隆起線-押引 ・隆起線-斜位沈線 -削突	11・12・13は同一図休					
79-12	1・7	窪跡					? -R.L.横走	? -ヨコナデ	・隆起線-押引 ・隆起線-斜位沈線 -削突						
79-13	1・7	窪跡					? -R.L.横走	? -ヨコナデ	・隆起線-押引 ・隆起線-斜位沈線 -削突						
80-14	1・7	窪跡					? -R.L.横走-ナデ	? -ヨコナデ	・隆起線-押引 ・隆起線-削突						
80-15	1・9	窪跡					? -R.L.横走-ナデ	? -ヨコナデ	・隆起線-押引 ・隆起線-削突						
80-16	2・6	窪跡					? -R.L.横走-ナデ	? -ヨコナデ	・隆起線						
80-17	1・7	窪跡					? -R.L.横走-ナデ	? -ヨコナデ	・隆起線-削突						
80-18	2・4	窪跡					? -R.L.横走	? -ヨコナデ	・削突						
80-19	1・7 他	窪跡					? -R.L.横走-ナデ	? -ヨコナデ	・隆起線-削突						
80-20	2・7	窪跡					? -R.L.横走-ナデ	? -ヨコナデ							
80-21	2・6	紡錘車	4.2		1.5		ナデ								
図番号	発掘区遺構名	部 種	跡高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(数量#)	石 材	図番号	発掘区遺構名	部 種	跡高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (厚)	(数量#)	石 材
80-21	SH-16	石壁	1.3	1.1	0.3	0.3	黒曜石	80-31	SH-6	スライド	2.6	2.5	1.1	5.9	黒曜石
80-2	SH-7		1.3	1.3	0.2	0.4	黒曜石	80-32	SH-8		3.5	2.2	0.5	5.2	黒曜石
80-3	SH-3		1.0	1.5	0.3	0.4	黒曜石	80-33	SH-19	ツツボ付	2.6	2.1	0.5	4.1	黒曜石
80-4	SH-4		1.3	1.5	0.3	0.5	黒曜石	80-34	SH-11		3.3	2.6	0.9	7.3	黒曜石
80-5	SH-11		2.0	1.7	0.4	1.4	黒曜石	80-35	SH-15		1.9	1.6	0.9	2.2	黒曜石
80-6	SH-7		1.8	1.7	0.3	1.9	黒曜石	80-36	SH-4		2.1	2.3	1.0	5.1	黒曜石
80-7	SH-3		1.6	1.1	0.1	0.4	片巻	80-37	SH-3		2.4	2.5	0.9	6.1	黒曜石
80-8	SH-2		2.8	2.0	0.6	2.1	黒曜石	80-38	SH-3		2.3	2.3	0.8	4.6	黒曜石
80-9	SH-11		2.5	1.8	0.5	1.6	黒曜石	80-39	SH-21		3.4	2.7	1.3	8.8	黒曜石
80-10	SH-2		1.9	1.3	0.4	0.9	黒曜石	80-40	SH-20		2.8	2.8	2.1	21.1	黒曜石
80-11	SH-3		2.9	1.6	0.5	1.7	黒曜石	80-41	SH-1		2.5	2.4	0.7	3.7	黒曜石
80-12	SH-7		2.5	1.2	0.4	0.7	黒曜石	80-42	SH-7	RF	3.8	1.8	0.8	5.1	黒曜石
80-13	SH-2		2.3	1.2	0.3	0.7	黒曜石	80-43	SH-13	UF	2.8	2.3	0.5	2.7	黒曜石
80-14	SH-19		3.7	1.4	0.5	1.5	黒曜石	80-44	SH-3	狭口石壁	2.6	2.6	0.3	5.0	黒曜石
80-15	SH-20	ポイント	5.0	2.2	0.7	5.8	黒曜石	80-45	SH-6	石壁	1.8	3.1	1.5	8.0	黒曜石
80-16	SH-20		4.2	2.5	0.7	4.8	黒曜石	80-46	SH-7		2.6	3.1	1.5	14.4	黒曜石
80-17	SH-13	石(ナデ)	3.9	2.9	1.1	9.3	黒曜石	80-47	SH-3		2.3	4.0	0.7	7.1	黒曜石
80-18	SH-3	ナイフ	4.2	2.5	0.9	8.0	アノウ	80-48	SH-4		2.4	2.6	2.0	10.4	黒曜石
80-19	SH-3		7.5	2.3	1.2	17.1	黒曜石	80-49	SH-20		3.4	2.3	2.2	17.2	片岩
80-20	SH-7	2部付ワ	7.8	2.6	1.0	17.9	頁岩	81-50	SH-6	石弁	6.6	3.8	1.6	67.7	泥岩
80-21	SH-13	ナイフ	3.3	1.4	0.8	2.9	頁岩	81-51	SH-11		6.3	5.3	1.3	71.8	泥岩
80-22	SH-20	石壁	3.3	1.0	0.5	1.9	黒曜石	81-52	SH-2		9.5	3.9	1.1	75.0	砂岩
80-23	SH-9		2.9	0.7	0.5	0.5	黒曜石	81-53	SH-1	たがき石	9.7	3.9	2.4	125.8	砂岩
80-24	SH-6		2.3	1.0	0.5	1.3	頁岩	81-54	SH-4		17.6	4.1	2.3	289.8	泥岩
80-25	SH-4		3.0	1.0	0.5	1.4	黒曜石	81-55	SH-19		13.9	7.9	7.6	750.0	砂岩
80-26	SH-8		3.3	0.9	0.5	1.8	頁岩	81-56	SH-1		10.8	6.2	3.5	282.9	砂岩
80-27	SH-15		2.0	1.1	0.6	2.2	頁岩	81-57	SH-2		9.2	7.3	3.8	365.5	砂岩
80-28	SH-13	スライド	4.5	1.7	1.0	6.7	頁岩	81-58	SH-1		10.2	6.7	2.6	236.6	砂岩
80-29	SH-14		3.6	2.4	0.9	5.8	頁岩	81-59	SH-11	板石	5.8	3.5	1.7	38.5	砂岩
80-30	SH-6		2.3	2.7	0.4	1.6	黒曜石	81-60	SH-16		5.5	4.4	1.7	58.0	砂岩

II オサツ2遺跡の調査

図番号	発掘区 遺構名	器 種	器高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (幅)	(重量g)	石 材	図番号	発掘区 遺構名	器 種	器高cm (長さ)	最大径cm (幅)	底径cm (幅)	(重量g)	石 材					
I-81-61	SH-11	合石	14.2	10.8	5.3	880.0	砂岩	I-82-35	2・5	石壁	2.7	4.2	0.9	12.0	黒曜石					
			18.7	11.8	4.0	1720.0	安山岩				82-36	1・7	3.0	2.3	1.1	6.9	黒曜石			
			17.0	9.8	7.4	1610.0	安山岩				82-37	2・15	2.4	2.5	1.2	7.2	黒曜石			
I-82-1	2・10	石壁	1.8	1.5	0.2	0.4	黒曜石	I-83-40	1・4	石壁	3.2	3.4	0.9	6.2	黒曜石					
			2.3	1.3	0.2	0.6	頁岩				82-38	2・4	3.5	2.4	1.1	8.2	黒曜石			
			1.8	1.2	0.3	0.5	黒曜石				82-39	2・6	3.2	2.4	1.1	8.2	黒曜石			
			2.6	1.2	0.6	1.3	黒曜石				83-41	1・6	3.6	3.1	1.3	16.8	黒曜石			
			3.6	2.2	0.3	1.8	黒曜石				83-42	2・15	3.1	0.9	0.5	1.4	頁岩			
			3.3	1.8	0.4	1.9	黒曜石				83-43	2・13	3.8	1.1	0.7	3.2	頁岩			
			2.5	1.3	0.8	1.3	黒曜石				83-43	2・6	3.9	1.2	0.6	3.1	黒曜石			
			2.2	0.8	0.4	0.6	黒曜石				83-44	1・6	4.0	4.1	0.9	10.0	頁岩			
			2.9	1.4	0.4	1.4	黒曜石				83-45	1・4	5.9	3.7	1.5	28.0	黒曜石			
			3.0	1.5	0.4	1.2	黒曜石				83-46	2・11	5.4	2.3	1.0	9.7	黒曜石			
			4.0	2.1	0.5	2.9	黒曜石				83-47	2・16	3.0	3.7	1.0	12.0	黒曜石			
			I-82-14	2・7	ポイント	4.6	1.8				0.8	5.9	黒曜石	83-48	2・14	2.8	2.4	0.8	3.7	黒曜石
						5.6	2.2				0.7	6.5	黒曜石	83-49	2・5	2.9	2.5	0.8	4.8	黒曜石
6.2	2.0	1.2				10.5	黒曜石	83-50	2・10	2.6	3.0	1.0	9.1	黒曜石						
6.2	2.4	1.1				11.5	黒曜石	83-51	2・13	石壁	2.5	2.1	1.4	7.1	黒曜石					
7.9	2.6	1.3				24.1	頁岩	83-52	2・10	5.1	3.0	1.8	27.6	黒曜石						
5.8	2.0	1.2				13.0	黒曜石	83-53	2・5	3.7	3.0	2.4	17.2	片岩						
3.9	1.4	0.5				2.8	黒曜石	83-54	2・11	石弁	10.2	5.0	2.5	294.5	泥岩					
4.3	2.7	1.0				9.3	黒曜石	83-55	2・15	6.3	5.3	2.4	135.9	泥岩						
6.0	4.0	1.3				23.5	黒曜石	83-56	1・9	12.9	5.8	3.3	435.8	泥岩						
6.0	3.9	1.2				29.5	黒曜石	83-57	2・10	たつき石	7.5	3.1	1.9	91.2	泥岩					
7.1	3.8	1.0				22.9	黒曜石	84-58	2・12	13.2	6.7	3.8	425.0	安山岩						
7.2	2.2	1.0				16.6	頁岩	84-59	2・9	12.0	8.0	2.2	330.0	安山岩						
4.2	2.1	0.7				6.8	黒曜石	84-60	2・5	8.5	8.0	4.2	479.2	安山岩						
4.5	1.3	0.4	3.1	頁岩	84-61	2・4	石	3.5	3.2	1.0	10.8	砂岩								
5.5	3.0	1.1	18.8	黒曜石	84-62	2・5	5.9	5.1	1.5	36.0	砂岩									
2.8	4.1	1.1	13.5	黒曜石	84-63	2・5	11.9	3.1	3.1	228.9	砂岩									
2.2	3.9	1.1	7.8	黒曜石	84-64	2・9	4.3	3.2	2.2	28.4	砂岩									
2.3	4.2	1.1	7.9	黒曜石	84-65	2・9	石	19.4	12.8	5.1	1890.0	砂岩								
1.9	0.8	2.7	8.4	黒曜石	85-66	2・15	19.8	15.4	10.1	4750.0	安山岩									
3.0	2.4	1.5	11.2	黒曜石	85-67	2・5	石	13.6	10.4	2.8	328.0	砂岩								
2.7	1.2	8.4		黒曜石	85-68	2・13	14.8	8.8	6.2	890.0	安山岩									
					85-69	2・15	石製皿	0.7	0.7	0.6	0.5	重鉄岩								
					85-70	2・15		2.4	2.4	0.3	3.0	重鉄岩								
					85-71	2・15		6.0		1.6	21.1	頁岩								

表II-5 遺構鉄製品一覽

遺構名	図 №	№	名 称	層 位	時 期	備 考
GP-B	図Ⅱ-8	1	刀子	墳底	アイヌ文化期(近世)	分析依頼中
		2	刀子	墳底	〃	
		3	環?	墳底	〃	
		4	鎌	墳底	〃	分析依頼中
		5	鉈	墳底	〃	柄巻残 分析依頼中
SH-1	図Ⅱ-13	8	鏃	床面	縄文文化期	分析依頼中
			不明小鉄片	床面	〃	
SH-2	図版Ⅱ-38	刀?	Ⅱ a 層上面	アイヌ文化期(中近世)		
		10	小刀	覆土上面	〃	分析依頼中
	図Ⅱ-15	9	釘?	覆土上面	〃	素材? 分析依頼中
8		マキリ茎?	覆土2層	縄文文化期	素材?	
6		素材?	床面	〃	包含層№1と類似	
SH-3	図Ⅱ-19	7	釘	カマド前	〃	
		12	釘	覆土	縄文文化期	
SH-6	図Ⅱ-17	19	鉄鏃?	床面	縄文文化期	
		10	刀子	床面	縄文文化期	分析依頼中
SH-7	図Ⅱ-28	11	素材?	床面	〃	曲 分析依頼中
		9	鎌	覆土3層	縄文文化期	分析依頼中
SH-8	図Ⅱ-32	10	紡錘車	床面	〃	分析依頼中
			鉄滓	覆土上面	アイヌ文化期(中近世)	分析依頼中
	図版Ⅱ-41		鉄滓	覆土上面	〃	分析依頼中
		7	マキリ?	覆土最上層	〃	別製品に作り替え?
SH-9	図版Ⅱ-38	刀子	覆土2層	縄文文化期		
		6	刀子	床直	〃	
SH-11	図Ⅱ-33	6	微小鉄片	床面	縄文文化期	分析依頼中
SH-11	図Ⅱ-36	4	釘?	覆土1層	アイヌ文化期(中近世)	
SH-12	図Ⅱ-37	6	刀子	覆土2層	縄文文化期	分析依頼中

遺構名	図 No.	No.	名称	層位	時期	備考
SH-19	図Ⅱ-46	13	小札	I b層	アイヌ文化期(中近世)	
	図版Ⅱ-41		鉄滓	床面	縄文文化期	分析依頼中
SH-20	図Ⅱ-48	1	刀子	I a層	アイヌ文化期(中近世)	
SH-23	図Ⅱ-52	3	銚先	住居内FP-5	縄文文化期	ソケット部のみ
FP-38	図版Ⅱ-53		棒状鉄製品	覆土中	縄文文化期	細棒
FP-43	図版Ⅱ-53		不明小鉄片	フローテーション	縄文文化期	
鍛冶遺構-1	図版Ⅱ-41		鉄滓	SH-19掘揚土下	縄文文化期	分析依頼中
			鉄滓	SH-19掘揚土下	"	分析依頼中
			鉄鉄片	SH-19掘揚土下	"	分析依頼中
			鉄鉄片	SH-19覆土1層	"	
	図Ⅱ-53	2	釘?	SH-19掘揚土下の埋土上	"	細棒
鍛冶遺構-2	図版Ⅱ-42		鉄鉄片		縄文文化期	分析依頼中

写真のみ掲載のものには、図No.の項に図版No.をいれてある。

表Ⅱ-6 包含層鉄製品一覧

図 No.	No.	名称	グリッド	層位	時期	備考
図Ⅱ-82	2・3	釘?	1・6-84	SH-3掘揚土	縄文文化期	細棒2本
図Ⅱ-82	11	小札	1・6-84	SH-3掘揚土	縄文文化期	
図Ⅱ-82	6	刀子?	1・6-75	SH-3掘揚土	縄文文化期	
図Ⅱ-82	8	刀の茎	1・6-54	SH-3掘揚土	縄文文化期	再利用?
図版Ⅱ-41		鉄鉄片	1・14-71	JH-5覆土3層	縄文文化期	
図版Ⅱ-58	15	刀子	2・12-65	II b層?	縄文文化期	
図Ⅱ-82	7	刀子	1・7-71	II a層	縄文文化期	
図版Ⅱ-58	16	環?	2・11-75	II a層	縄文文化期	
		不明	2・12-68	II a層	縄文文化期	
図Ⅱ-82	12	柄金具	1・7-94	SH-13掘揚土	縄文~アイヌ文化期	分析依頼中
		筒状鍛造品?	2・10-33	II a層	縄文~アイヌ文化期	分析依頼中
図版Ⅱ-58	17	釘?	2・13-93	II a層	縄文~アイヌ文化期	
図Ⅱ-82	5	刀子	2・13-63	II a層	縄文~アイヌ文化期	
図Ⅱ-82	4	刀子	2・13-93	II a層	縄文~アイヌ文化期	
図Ⅱ-82	10	釘	2・12-68	掘揚土の上	縄文~アイヌ文化期	素材?
		不明	2・5-70	II a層	縄文~アイヌ文化期	
		不明	2・4-79	II a層	縄文~アイヌ文化期	
図版Ⅱ-58	18	不明小鉄片	2・13-93	II a層	縄文~アイヌ文化期	
図Ⅱ-82	1	素材?	2・4-79	II a層	縄文~アイヌ文化期(近世)	接合
		素材?	2・5-70	II a層	縄文~アイヌ文化期(近世)	接合
図Ⅱ-82	9	釘	2・6-97	II a層	縄文~アイヌ文化期(近世)	
図Ⅱ-82	14	鍋	2・10-24	II a層上面	アイヌ文化期(近世)	吊耳か
図Ⅱ-82	13	鍋		表探	アイヌ文化期(近世)	

写真のみ掲載のものには、図No.の項に図版No.をいれてある。

II オサツ2遺跡の調査

表II-7 遺構土器集計表

遺構名	土 器								純 陶 文 土 器			純文土器	土 製 品		
	復 元 土 器 (個体数)				破 片 土 器 (片数)				復元土器 (個体数)		破片土器 (片数)		破片土器 (片数)	土 製 品 (個体数)	
	土 師 質		須 恵 質		土 師 質		須 恵 質		(個体数)		(片数)		(片数)	(個体数)	
	環など	深鉢	環など	壺	環など	深鉢	細片	環など	壺	深鉢	その他	深鉢	その他	細片	(個体数)
SH-1	4	6			49	151	44	1	2			6		361	6
SH-2		2			60	53	55							38	2
SH-3	9	8	1	1	57	222	132	6	1	5		23		241	7
SH-4		4	1		9	68	20		5	1		2		70	1
SH-5		2			5	63	115					2		95	
SH-6	3	11		1	17	146	60		3			12		29	1
SH-7	2	8			7	131	23		1			10		5	2
SH-8		2			9	4			1	1		2		9	
SH-9	1	1			3	19	3		1	1		5		13	
SH-10					1	16						1		15	
SH-11		1		1	7	88	29					1		66	
SH-12	2	3			7	52	32		1			4		160	
SH-13	1	3			14	97	62		2			7		22	
SH-14		1				15	1							8	
SH-15		5	1		6	35	53					20		11	
SH-16		2				3	2					1		6	
SH-17						2	3					2		50	
SH-19	5			1	24	22	4							300	1
SH-20	1				4	21	2							49	
SH-23					1	42	13							45	1
総合遺構1															1
総合遺構2															1
GP-1										2					
GP-2										2					
GP-3										2		3			
GP-5										1					
GP-6										1		2			
GP-7															4
GP-8										1					7
P-5										1					
P-7															1
P-10												3			2
P-11												3			2
FP-1						1									
FP-13						1									1
FP-14						1									
FP-17															1
FP-23							3								
FP-24						1									
FP-25							1								
FP-26															1
FP-31								1							
FP-38								1							
FP-43								3							
FP-46												2			
FP-47	1														
炭化物集申1						1									

SH-1

層位	部位	土 師 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	細片	合計	杯	深	壺	合計
覆	口縁部	15		26		41				
	頸部			24		24				
	胴部	17		77		94	1	2	3	
	底部	5		8		13				
土	口縁部	37		138		20	1	2	1	
	頸部	3		7		10				
	胴部			2		2				
	底部	5		4		9				
床	口縁部	4		3		7				
	頸部	12		18		24				
	胴部									
	底部									
カマド	口縁部			1		1				
	頸部									
	胴部									
	底部									

SH-2

層位	部位	土 師 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	細片	合計	杯	深	壺	合計
覆	口縁部	3		11		14				
	頸部			8		8				
	胴部	7		22		29				
	底部									
土	口縁部	10		41		48				
	頸部	2		4		8				
	胴部			1		1				
	底部			6		6				
床	口縁部	47				47				
	頸部	48		11		59				
	胴部									
	底部									
カマド	口縁部	1				1				
	頸部									
	胴部			1		1				
	底部	1				1				

SH-3

層位	部位	土 師 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	細片	合計	杯	深	壺	合計
覆	口縁部	8				36				
	頸部			12		12	1	1	2	
	胴部	19		3		114				
	底部	4		2		8				
土	口縁部	31		5		164				
	頸部	3		1		17				
	胴部			5		7				
	底部	9				22				
床	口縁部	3				31	4		4	8
	頸部									
	胴部					19				
	底部	15		6		53				
カマド	口縁部					3				
	頸部					1				
	胴部					1				
	底部					5				

SH-4

層位	部位	土 師 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	細片	合計	杯	深	壺	合計
覆	口縁部	9				18				
	頸部			7		7	1		1	
	胴部			44		44			4	1
	底部			6		6				
土	口縁部	9		66		19			5	1
	頸部									
	胴部									
	底部									
床	口縁部									
	頸部									
	胴部					2			2	
	底部									
カマド	口縁部					2	1			
	頸部									
	胴部									
	底部									

SH-5

層位	部位	土 師 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	細片	合計	杯	深	壺	合計
覆	口縁部	3				12				
	頸部	1				6				
	胴部	1				52			53	
	底部	5				4			4	
土	口縁部					74			42	
	頸部					5			5	
	胴部									
	底部					2			2	
床	口縁部									
	頸部									
	胴部									
	底部					1			1	
カマド	口縁部									
	頸部									
	胴部					1			1	
	底部					2			2	

SH-6

層位	部位	土 師 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	細片	合計	杯	深	壺	合計
覆	口縁部	6				15			21	
	頸部					36			36	
	胴部	8				46			54	
	底部									
土	口縁部	14				36			26	
	頸部					6			7	
	胴部	1				12			12	
	底部					16			17	1
床	口縁部									
	頸部									
	胴部					12			12	
	底部					46			33	1
カマド	口縁部	1				1			2	
	頸部									
	胴部					2			2	2
	底部	1				3			1	2

SH-7

層位	部位	土 師 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	細片	合計	杯	深	壺	合計
覆	口縁部	2				11			13	
	頸部	1				3			3	
	胴部	1				29			31	
	底部	3				13			16	
土	口縁部					5			7	
	頸部					2			2	
	胴部					24			26	
	底部					4			4	
床	口縁部									
	頸部									
	胴部									
	底部					3			3	1
カマド	口縁部					1			1	
	頸部									
	胴部					7			7	
	底部					8				

SH-8

層位	部位	土 師 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	細片	合計	杯	深	壺	合計
覆	口縁部									
	頸部					1			1	
	胴部					3			3	1
	底部									
土	口縁部					4			2	
	頸部									
	胴部									
	底部									
床	口縁部									
	頸部									
	胴部					1			1	
	底部					3			3	
カマド	口縁部									
	頸部									
	胴部					1			1	
	底部					1			2	

II オサツ2遺跡の調査

SH-9

層位	部位	土 器 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	総片	合計	坏	釜	壺	合計
覆	口縁部			1	1					
	胴部			2	2					
	胴部	1		12	13					
	土底部	1		18	19					
床	口縁部				1					
	胴部			4	4					
	胴部						1		1	
	土底部	1		4						
カマド	口縁部									
	胴部				1					
	胴部	1								
	土底部	1			2					

SH-10

層位	部位	土 器 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	総片	合計	坏	釜	壺	合計
覆	口縁部	1			8	9				
	胴部				5	5				
	胴部				3	3				
	土底部	1			18					
床	口縁部									
	胴部									
	胴部									
	土底部									
カマド	口縁部									
	胴部									
	胴部									
	土底部									

SH-11

層位	部位	土 器 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	総片	合計	坏	釜	壺	合計
覆	口縁部	1		24	25					
	胴部	1		4	5					
	胴部	2		28	30					
	土底部	1		1	2					
		5		55	60					
床	口縁部	1		8	9					
	胴部			6	6					
	胴部	1		19	20					
	土底部	2		33	35					
カマド	口縁部									
	胴部									
	胴部									
	土底部									

SH-12

層位	部位	土 器 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	総片	合計	坏	釜	壺	合計
覆	口縁部	1		7	8					
	胴部			14	14					
	胴部	4		19	23		1	1		
	土底部	1		3	4					
		8		43	51					
床	口縁部									
	胴部									
	胴部			9	9					
	土底部									
カマド	口縁部									
	胴部									
	胴部									
	土底部									

SH-13

層位	部位	土 器 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	総片	合計	坏	釜	壺	合計
覆	口縁部	3		9	12					
	胴部			11	11					
	胴部	5		57	62		2	2		
	土底部	3		4	7					
		11		81	92		2	2		
床	口縁部	2		8	10					
	胴部			3	3					
	胴部	1		11	12					
	土底部	3		3	6					
カマド	口縁部									
	胴部			2	2					
	胴部			5	5					
	土底部									

SH-14

層位	部位	土 器 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	総片	合計	坏	釜	壺	合計
覆	口縁部				2	2				
	胴部									
	胴部			11	11					
	土底部				1	1				
床	口縁部									
	胴部									
	胴部			1	1					
	土底部									
カマド	口縁部									
	胴部									
	胴部									
	土底部									

SH-15

層位	部位	土 器 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	総片	合計	坏	釜	壺	合計
覆	口縁部	3			3					
	胴部	1		12	13					
	胴部									
	土底部	4		12	16					
床	口縁部	2		3	5					
	胴部			2	2					
	胴部			9	9					
	土底部			1	1					
カマド	口縁部									
	胴部									
	胴部									
	土底部									

SH-16

層位	部位	土 器 質				須 恵 質				
		杯	高杯	深鉢	総片	合計	坏	釜	壺	合計
覆	口縁部									
	胴部			2	2					
	胴部			1	1					
	土底部									
床	口縁部									
	胴部			3	3					
	胴部									
	土底部									
カマド	口縁部									
	胴部									
	胴部									
	土底部									

SH-17

部位	部位	土器質				遺棄質			
		杯	高杯	深鉢	罌片	合計	杯	罌	合計
土	口縁部								
	頸部								
	胴部			2		2			
	底部			2		2			
床	口縁部								
	頸部								
	胴部								
	底部								
カマド	口縁部								
	頸部								
	胴部								
	底部								

SH-19

部位	部位	土器質				遺棄質		
		杯	高杯	深鉢	罌片	合計	杯	罌
土	口縁部	4		3		7		
	頸部							
	胴部	1		6		7	6	6
	底部	1			1	2		
床	口縁部	6		9	1	16	8	
	頸部	10		3		13		
	胴部			4		4		
	底部	7		6		13	1	1
カマド	口縁部							
	頸部	1				1		
	胴部							
	底部	1				1		

SH-20

部位	部位	土器質				遺棄質		
		杯	高杯	深鉢	罌片	合計	杯	罌
土	口縁部	2		4		6		
	頸部		1	5		6		
	胴部			8		8		
	底部	2	1	19		22		
床	口縁部	1				1		
	頸部							
	胴部			4		4		
	底部	1		4	2	7		
カマド	口縁部							
	頸部							
	胴部							
	底部							

SH-23

部位	部位	土器質				遺棄質		
		杯	高杯	深鉢	罌片	合計	杯	罌
土	口縁部	1		2		3		
	頸部			13		13		
	胴部			23		23		
	底部	1		2		3		
床	口縁部							
	頸部							
	胴部			2		2		
	底部			2	2	4		
カマド	口縁部							
	頸部							
	胴部			2	2	4		
	底部							

その他遺構

部位	部位	土器質				遺棄質		
		杯	高杯	深鉢	罌片	合計	杯	罌
土	口縁部							
	頸部							
	胴部			FP-1:1	FP-25:1	2		
			FP-13:1	FP-31:1		2		
			FP-14:1	FP-38:1		2		
			FP-23:3	FP-43:3		6		
			FP-24:1			1		
底部		炭化物集中:1			1			
合計					8			

表Ⅱ-8 包含層土器集計表(雑文土器)

1・4

部位	部位	土器質				遺棄質		
		杯	高杯	深鉢	罌片	合計	杯	罌
土	口縁部			2		2		
	頸部			4		4		
	胴部	4		8		12		
	底部			2		2		
合計		4		16	12	2		

1・5

部位	部位	土器質				遺棄質		
		杯	高杯	深鉢	罌片	合計	杯	罌
土	口縁部	3		5		8		
	頸部			7		7		
	胴部	6		26		32		
	底部	1		1		2		
合計		10		41	8	2		

1・6

部位	部位	土器質				遺棄質		
		杯	高杯	深鉢	罌片	合計	杯	罌
土	口縁部	2		5		7		
	頸部			4		4		
	胴部	5		30		35	1	1
	底部	4		7		11	1	1
合計		11		55	17	2	2	

2・4

部位	部位	土器質				遺棄質		
		杯	高杯	深鉢	罌片	合計	杯	罌
土	口縁部	4		9		13		
	頸部			12		12		
	胴部	4		22		26	1	1
	底部	1		6		7		
合計		9		49	7	2	2	

2・5

部位	部位	土器質				遺棄質		
		杯	高杯	深鉢	罌片	合計	杯	罌
土	口縁部	10		25		35		
	頸部			19		19		
	胴部	7		41		48		
	底部	4		7		11	1	1
合計		21		92	23	1	2	

2・6

部位	部位	土器質				遺棄質		
		杯	高杯	深鉢	罌片	合計	杯	罌
土	口縁部	10		14		24		
	頸部			43		43		
	胴部	10		144		154	1	3
	底部			6		6		
合計		20		207	93	4	3	

II オサツ2遺跡の調査

1-7

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部	4		5		9			
頸部			16		16			
胴部	1		58		59	1		1
底部			5		6			
合計	6		84	63	153	1		1

1-8

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部	1		5		6			
頸部			10		10			
胴部			23		23	1		1
底部	1				1			
合計	2		38	6	46	1		1

1-9

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部	1		1		2			
頸部			1		1			
胴部	1		3		4	2		2
底部								
合計	1		5		6	2		2

1-13

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部								
頸部								
胴部			3		3			
底部								
合計			3		3			

1-14

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部								
頸部								
胴部			1		1			
底部								
合計			1		1			

1-15

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部			6		6			
頸部			5		5			
胴部	1		10		11			
底部								
合計	1		21		22			

2-7

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部	2		11		13			
頸部			15		15			
胴部	17		67		84	4		4
底部			7		7			
合計	19		100	74	193	4		4

2-8

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部	3		11		14			
頸部			10		10			
胴部	4		48		52	1		1
底部			3		3			
合計	7		70	44	121	1		1

2-9

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部	1		3		4			
頸部			3		3			
胴部	4		12		16			
底部								
合計	5		18	4	27			

2-10

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部			2		2			
頸部			19		19			
胴部	1		10		11			
底部								
合計	1		31		32			

2-11

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部	3		2		5			
頸部			2		2			
胴部	2		21		23	1		1
底部			6		6			
合計	5		31	9	45	1		1

2-12

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部	1		4		5			
頸部			6		6			
胴部			32		32			
底部	2		42	12	56			
合計	3		84	12	99			

2-13

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部	2		3		5			
頸部			2		2			
胴部			22		22			
底部	2		3		5			
合計	4		30	9	39			

2-14

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部	2		2		4			
頸部			1		1			
胴部	1		5		6			
底部								
合計	3		8	4	15			

2-15

部位	土師 質				須恵 質			
	杯	高杯	深鉢	罎片	合計	杯	深鉢	合計
口縁部	4		3		7			
頸部			8		8			
胴部			33		33			
底部								
合計	4		44	49	97			

1・16

部 位	土 器 質				雑 質			
	杯	高杯	深鉢	罌片	合計	坏	甕	合計
口縁部	2		3		5			
頸部			27		27			
胴部			55		55			
底部			1					
合 計	2		86		88			

2・16

部 位	土 器 質				雑 質			
	杯	高杯	深鉢	罌片	合計	坏	甕	合計
口縁部	1		17		18			
頸部			6		6			
胴部			211		211			
底部			4		4			
合 計	1		238		239			

表Ⅱ-9 包含層土器集計表(続縄土器)

1・4

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部					
頸部		3			
胴部		2			
底部		1			
合 計		5			

2・4

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部		1			
頸部		1			
胴部		8			
底部					
合 計		10			

1・5

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部					
頸部					
胴部			1		
底部	1				
合 計	1		1		

2・5

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部					
頸部		1			
胴部		1			
底部					
合 計		2			

1・6

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部					
頸部		2			
胴部		9			
底部		1			
合 計		12			

2・6

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部					
頸部		6			
胴部		10			
底部					
合 計		16		3	

1・7

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部		9			
頸部		15			
胴部		64			
底部		5			
合 計		93			

2・7

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部		2			
頸部		5			
胴部		21			
底部		1			
合 計		29		8	

1・8

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部		1			
頸部					
胴部		2			
底部					
合 計		3			

2・8

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部					
頸部		6			
胴部		4			
底部		1			
合 計		11			

1・9

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部					
頸部					
胴部		2			
底部					
合 計		2			

2・9

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部		2			
頸部		3			
胴部		4			
底部					
合 計		9			

2・10

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部					
頸部		4			
胴部		10			
底部					
合 計		14		2	

2・11

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部		1			
頸部		8			
胴部		4			
底部					
合 計		13			

2・12

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部					
頸部		1			
胴部		1			
底部					
合 計		2			

2・13

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部					
頸部					
胴部		22			
底部					
合 計		22			

2・14

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部					
頸部		6			
胴部		1			
底部		3			
合 計		10			

1・15

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部					
頸部					
胴部		1			
底部					
合 計		1			

2・15

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部					
頸部		3			
胴部		4			
底部					
合 計		7			

1・16

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部					
頸部		3			
胴部		14			
底部			5		
合 計		17			

2・16

部 位	注口	深鉢	その他	罌片	合計
口縁部		2			
頸部		2			
胴部		14			
底部		1	5		
合 計		17			

II オサツ2遺跡の調査

表II-10 石器類集計表

遺物名	石鏃	石鏃・ナイフ	石鏃	鏃穂	削片	R	F	UF	鏃形	石核	剥片	石片	礫石	礫り石	石鏃	礫石	礫み石	石鏃	礫石	カマドの礫	
SH-1					1						101										
SH-2											241								1		
SH-3					1				1		292	1		1						1	1
SH-4											52						1	1			
SH-5			1								174								1		
SH-6											137										1
SH-7			2		1						54										1
SH-8											18										
SH-9					1	1					48										1
SH-10											15										
SH-11			1								251										
SH-12			1								311							1			1
SH-13											129			1				1			
SH-14		1									54	1				1				1	
SH-15									1		238										
SH-16											45										
SH-17											2										
SH-19			2			1					189										
SH-20											99										
SH-23											18										
遺物集計2																				1	
GP-1	9	2																			4
GP-2	266		1			1						1									
GP-3	9		1									1									
GP-4	105		6			1	9				11	9									
GP-6	130	4	4	18		11	2	8				1	5	1							
P-10											6										
FP-6											1										
FP-9											2										
FP-11											3										
FP-14											9										
FP-15											2										
FP-17											1										
FP-19											7										
FP-22											3										
FP-24											85										
FP-25											34										
FP-28											11										
FP-29						1					11										
FP-31											1										
FP-34											9										
FP-39											36										
I層			2		1	1					47	1									1
II層	56	25	11	38	5	41	9	4	15	962	35	7				8		2	5	4	

表Ⅱ-11 遺構出土の礫・礫片集計表

遺構名	層位	流紋岩		安山岩		砂岩		泥岩		チャート		進電片		片岩		片麻岩		その他	
		礫	礫片	礫	礫片	礫	礫片	礫	礫片	礫	礫片	礫	礫片	礫	礫片	礫	礫片	礫	礫片
SH-1	覆土	6	24	6	16	4	8	5	23									4	2
	床・カマド	1	1	19	5	11	3	2	2			1		1	1				
SH-2	覆土	1	3	5	3	3	7		2										1
	床・カマド	3	6	26	4		1		1										2
SH-3	覆土	4	36	21	18	8	17	5			1								4
	床・カマド	2	22	14	7	2	9	1											1
SH-4	覆土	1	11	12	8	1	12	5	14	1						1			
	床・カマド	6		13	1	4	6	3	1										
SH-5	覆土	1			2		3								1				2
	床・カマド					1	1	1	1			1							1
SH-6	覆土		1	3	3	7	9	1			1								3
	床・カマド	3		3	2	1	2	1											1
SH-7	覆土		1		5	1	6		5				1						2
	床・カマド		3	2	3	1	3		2			2							1
SH-8	覆土	1	4	3	2				1	1	1								
	床・カマド		2	5	3		1		2										
SH-9	覆土		1	1					7										
	床・カマド		1	20	2														1
SH-10	覆土			3	1		2												
	床・カマド			2			1												
SH-11	覆土		7		2		4		2						1				
	床・カマド				3		1		1		1								1
SH-12	覆土	1	6	8	3	4	7		2				1						1
	床・カマド			1		1	2												
SH-13	覆土				4		4		1		2								2
	床・カマド				1	5	4		4										2
SH-14	覆土	1	1		3		2		1										
	床・カマド			1			2												
SH-15	覆土		2	2	1				5										
	床・カマド				1		3		3										
SH-16	覆土					1			1										
	床・カマド																		
SH-17	覆土				1		1												
	床・カマド																		
SH-19	覆土		13		10		4		7										2
	床・カマド		8		16		3		11										3
SH-20	覆土	2	2	5	5				1	6									
	床・カマド				1				2										2
SH-23	覆土		1		1				1										
	床・カマド																		
遺構不明?						1													
GP-A	覆土・床			2															
GP-B	覆土・床				1	1													
GP-1	覆土・床								1										
GP-4	覆土・床				2														
GP-5	覆土・床								1										
GP-6	覆土・床				1														1
GP-8	覆土・床							1											
P-7	覆土						1												
P-10	覆土						2												1
P-11	覆土						1												
集石-1		1	16	1				9											
集石-2		1		13			9		6		1				1			1	
集石-3					6	1	3	1	2										
集石-4				11															
FP-15					1														
FP-17																			1
FP-37																			
FP-46		1					1												
FP-47					1														

II オサツ2遺跡の調査

表II-11 包含層出土の礫・礫片集計表

地区名	層位	流紋岩		安山岩		砂岩		泥岩		チャート		凝灰岩		片麻岩		片麻岩		その他	
		礫	礫片	礫	礫片	礫	礫片	礫	礫片	礫	礫片	礫	礫片	礫	礫片	礫	礫片	礫	礫片
2・4	I			1	1		2		1										
2・10	#						1												
2・11	#				3				1										
2・13	#																		1
2・15	#	2	5	3	5	1	3	1	15										
1・4	II#		2		5				1										
2・4	#		1					2											
1・5	#								1										
2・5	#	10	7	6	5	1	5	2											
1・6	#				1				1		1								
2・6	#	3	7		4	6	6					1							
1・7	#				1		3		1										
2・7	#			1															
1・8	#						1												
2・8	#		1	2	3		2												1
1・9	#	1	1	2	5	2	2	7	4									2	
2・9	#		9	4	5	5	5	1	6		1				1				
2・10	#	1	1	2	2	1	2		2										
2・11	#		1		4		5		7										
1・12	#								1										
2・12	#			1	9	2	5	1	12										3
1・13	#				2				1										2
2・13	#	6	5	6	7	3	7	2	8					1					1
1・14	#																		1
2・14	#			4	2	1	1												1
1・15	#						4		1										
2・15	#		1	1	5		4		3										1
1・16	#						3		1										

Ⅲ オサツ14遺跡の調査

査察の視察がげせ木 III

Ⅲ オサツ14遺跡の調査

1 概要

当遺跡は北北東に流れる長都川と、北流しこれに合流するエアニトマム川に挟まれた標高8mの低位段丘上に立地している。現状では、長都川は改修により直線化されて千歳川に注いでおり、エアニトマム川は畑地となり痕跡をとどめるだけになっている。周辺は一大畑作地帯で、川の合流部付近という遺跡立地景観は今は見られない。オサツ2遺跡からは南南西に500mの位置にある。

調査は農道改良工事によるもので、調査区は土地改良区面東7線南25号の南25号道路下にあたる幅約18m×長90mの範囲である。遺跡の範囲は調査区を中心に南北に広がっている。

調査区の現況は道路下ではあったが、1739年降下の樽前a火山灰が残存しており、遺物包含層は比較的良好な状態であった。ただし、側溝や水道管により筋状に破壊されており、北側は上層が畑作によって攪乱されている。樽前a火山灰を除去した後のⅡa層上面でみると、標高最高点は8.85m、平坦面の低い点で8.3mほどで、Ⅱa層の遺構の窺いも現われている。また、調査区西端には長都川旧流かそれに沿う小河川による低湿地が存在する。調査後のⅢ層上面でみると、平坦部は8.25～7.90mの標高で、低湿地は標高6m以下となる。(図Ⅲ-2)

調査区の設定 (図Ⅲ-1)

調査区は、農道工事のセンターラインをCラインとし、これを南北の基準とした。Cラインから南に5mごとにBライン・Aライン、北に5mごとにDライン・Eラインとし、南北を画した。つぎにセンターライン上のSP700をとおり、これに直交するラインを20ラインとし、東西の基準とした。20ラインからは5mごとに西へは数を減じ19・18・17……、東へは数を加え21・22・23ラインとした。

このようにして区画した5m四方の大グリッドは、南西の交点を呼称名として、B15区、C9区、D21区などと表示した。遺物の取上げなどのため、大グリッドはさらに1m×1mの小グリッド25区画に分割し、南西から北上するようにNoをふった。表示はB15-18、C9-25、D21-7などとした。

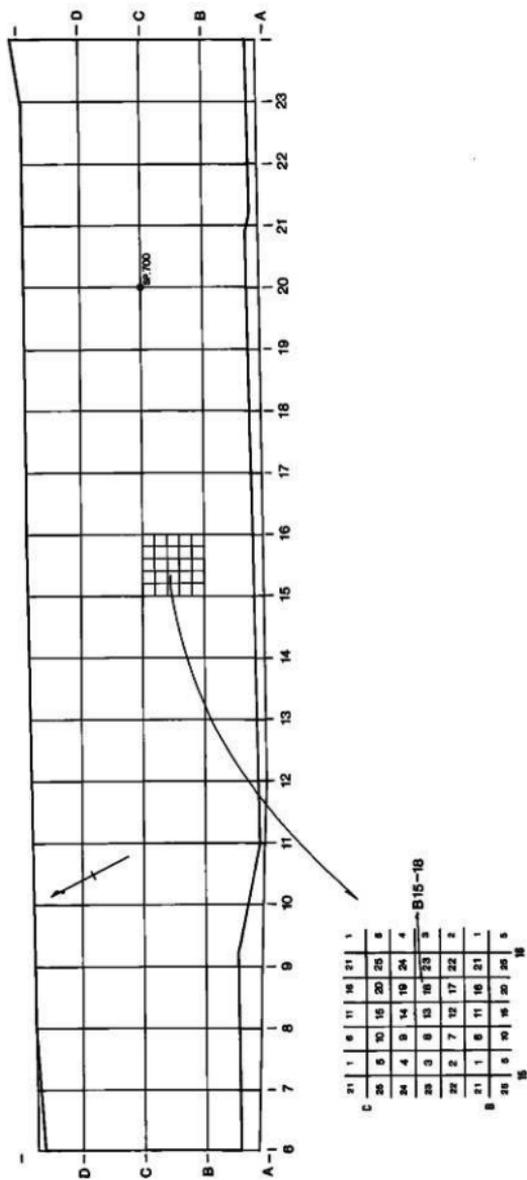
なお、Cラインの方位はN-63°Wである。

基本層序 (図Ⅲ-3・4)

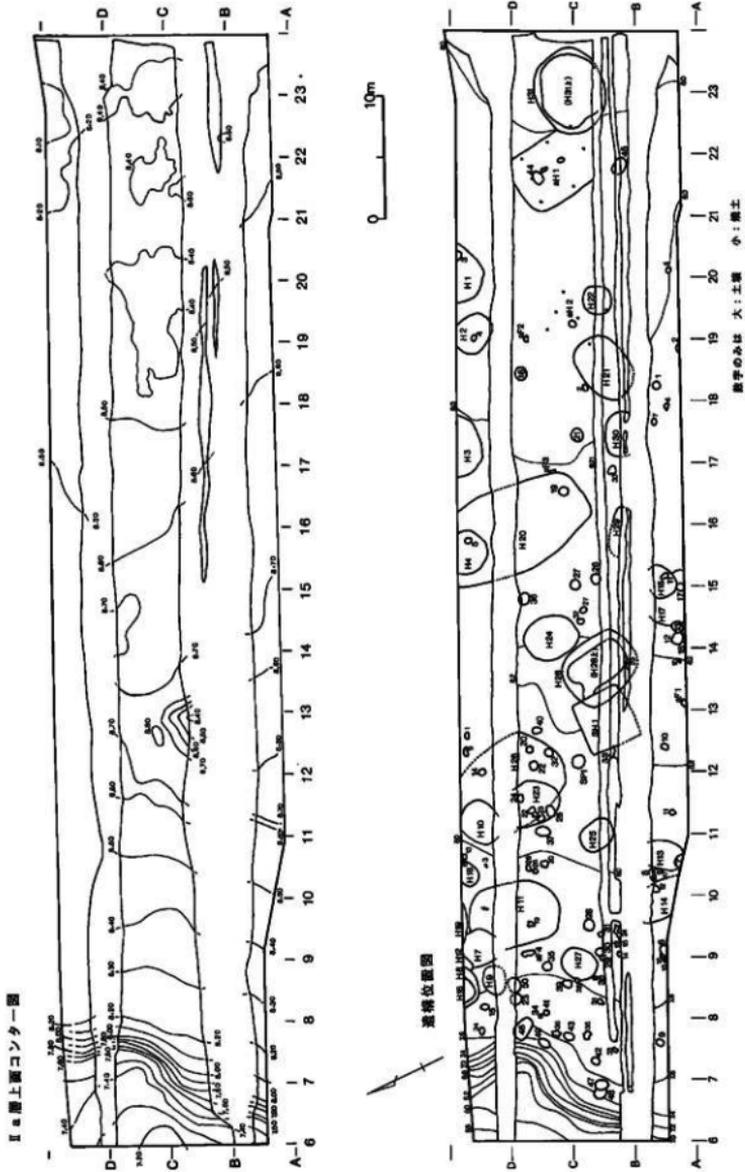
基本的にはオサツ2遺跡の土層表記を踏襲している。Ⅱa層とⅡb層の良好な残存地点では、それぞれが上下2層に分層できる。図Ⅲ-3はその代表的な15ライン南北セクションである。Ⅱa層の上には1739年降下の樽前a火山灰(Ta-a)が5～15cmの厚さで堆積していた。また、段丘上には縄文時代晩期降下の樽前c火山灰(Ta-c、Ⅱa層とⅡb層の間)はみられなかった。遺物包含層は、アイヌ文化期・擦文文化期のⅡa層と、縄文時代早期から後期のⅡb層である。

図Ⅲ-4に示したのは、西側の調査境界線である6ラインの南北セクションで、低湿地の基本土層となる。現道盛土下の旧表土層に道跡らしきくぼみがあり、古くからここが道として使われていたであろうことがうかがえる。Ta-aも厚く堆積し、この降灰によって低湿地がほぼ埋まったことがわかる。段丘上のⅡa層は上・中・下①②③の5層(Ⅱa層下が、中以下の4層)に分層できる。Ⅱa下①②③層は、10世紀頃の降下とされる白頭山-苫小牧火山灰(B-Tm)とTa-cの二次堆積によって分けられる。Ⅱa層とⅡb層の間にはTa-cがあり、Ⅱb層は上・中・下①②の4層に分層される。Ⅲ・Ⅳ層はなく、基盤層は支筋石流堆積物(Spfl)である。遺物包含層は、アイヌ文化期の木製品のあるⅡa

III オサツ14遺跡の調査



図III-1 調査区の設定と表示



図Ⅰ-2 調査区の地形と遺構の位置

層上・中と、縄文時代後期主体のⅡb層下①②である。Ⅱb層に木製品等はなく、土器・石器も流れ込んだ状態であった。当時はまだ不安定な水辺だったのであろう。現状では、段丘斜面のⅢ層とⅣ層の層間からの湧水が著しい。

遺構と遺物

遺構は建物跡・住居跡34軒、土壌51基、焼土40基を確認した。遺物の総点数は61,712点で、内訳は土器・土製品34,027点、剥片石器487点、剥片・石刻25,581点、礫石器392点、礫1,168点、玉2点、木製品53点、鉄製品2点で、他に動植物遺存体がある。

Ⅱa層 アイヌ文化期

柱穴列・炉や盛土から確認した建物跡2軒(aH-1・2)のほか、焼土4基(aF-1~4)がある。aF-1の脇からは内耳鉄鍋が出土している。低湿部では串や割材などの木製品53点が出土している。

Ⅱa層 擦文文化期

住居跡1軒(SH-1)、土壌1基(SP-1)を確認した。SH-1はカマドをもたない一辺4mの正方形の住居跡である。全面に炭化した建材が残っており、中央部と南部は側溝等で破壊されている。遺構内とその周辺から擦文土器が出土している。SP-1はSH-1の北側にあり、覆土にSH-1の掘揚げ土が入っている。

Ⅱb層 縄文時代

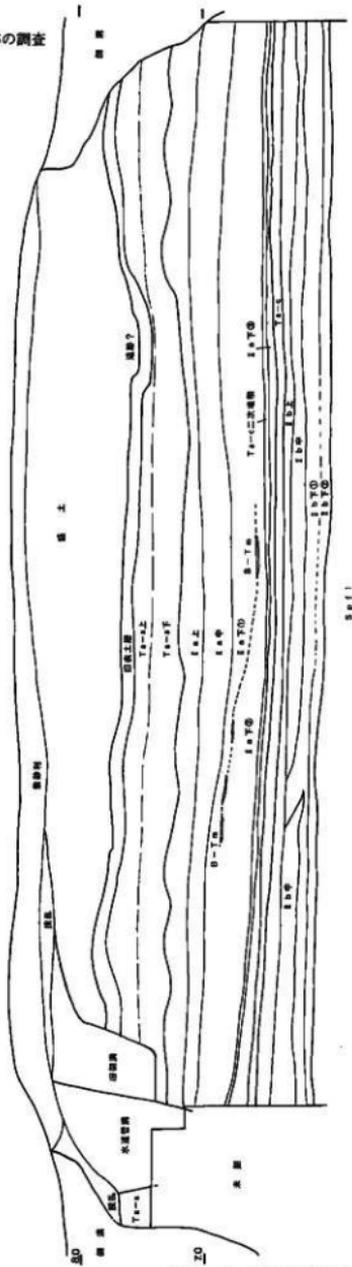
住居跡31軒(H-1~4・7~31・26と31の上層遺構)、土壌50基(P-1~50)、焼土36基(F-1~36)を確認した。住居跡は前期5・中期24・後期2軒ととらえたが、遺構の切り合いが多く、側溝等の破壊攪乱や調査範囲外への広がりなど、不確定要素を多々内在している。このうちH-11は前期前半、静内中野式の土器が見られる長径約7.5mの比較的大型のものである。中期では円筒上層式土器の時期に大型小型の住居が混在している。この中では、長径13~14mと推定できるロングハウスH-20が際だっている。南と西に壁周溝をもち、径30cm前後、深60~70cmほどの主柱穴が5本づつ2列に並び、炉も5基確認している。H-26もこの時期の長径6mほどの住居で、壁周溝の存在やしっかりとした主柱穴、フレイクチップの集中など、同じ並びのH-20との深い関連がうかがえる。またH-26・31は、ともに覆土の凹みを利用した上層遺構を確認している。後期には余市式の土器片囲い炉のある推定長径10mのH-28が存在する。

段丘平坦面に散在する土壌・焼土とともに、住居との関係をうかがわせる。西側段丘縁には、後期の群をなす土壌もある。土壌のうち、ヒスイ玉の入っていたP-25や、一個体の土器があったP-40・46・47は、墓と思われる。住居覆土中にある焼土は上層遺構の炉の可能性もある。

遺物分布は前期・中期・後期とも、ほぼ遺構分布に沿ったありかたをしている。土器の出土数で見ると、前期1,847点と後期の16,616点はA21区からC16区を通る標高8mの等高線を境にして、西半が濃い傾向にある。中期の12,123点は調査区ほぼ全域に分布する。西端の低湿部には木製品はなく、後期主体の遺物の流れ込みが、樽前c火山灰層と基盤層のあいだの腐植土中に見られる。

(三浦)

III オサツ14遺跡の調査



図四一四 低地部基本層序

低地部(6ライン)基本層序

- T1-1: 埋没土
- T1-2: 埋没土
- T1-3: 埋没土
- T1-4: 埋没土
- T1-5: 埋没土
- T1-6: 埋没土
- T1-7: 埋没土
- T1-8: 埋没土
- T1-9: 埋没土
- T1-10: 埋没土
- T1-11: 埋没土
- T1-12: 埋没土
- T1-13: 埋没土
- T1-14: 埋没土
- T1-15: 埋没土
- T1-16: 埋没土
- T1-17: 埋没土
- T1-18: 埋没土
- T1-19: 埋没土
- T1-20: 埋没土
- T1-21: 埋没土
- T1-22: 埋没土
- T1-23: 埋没土
- T1-24: 埋没土
- T1-25: 埋没土
- T1-26: 埋没土
- T1-27: 埋没土
- T1-28: 埋没土
- T1-29: 埋没土
- T1-30: 埋没土
- T1-31: 埋没土
- T1-32: 埋没土
- T1-33: 埋没土
- T1-34: 埋没土
- T1-35: 埋没土
- T1-36: 埋没土
- T1-37: 埋没土
- T1-38: 埋没土
- T1-39: 埋没土
- T1-40: 埋没土
- T1-41: 埋没土
- T1-42: 埋没土
- T1-43: 埋没土
- T1-44: 埋没土
- T1-45: 埋没土
- T1-46: 埋没土
- T1-47: 埋没土
- T1-48: 埋没土
- T1-49: 埋没土
- T1-50: 埋没土
- T1-51: 埋没土
- T1-52: 埋没土
- T1-53: 埋没土
- T1-54: 埋没土
- T1-55: 埋没土
- T1-56: 埋没土
- T1-57: 埋没土
- T1-58: 埋没土
- T1-59: 埋没土
- T1-60: 埋没土
- T1-61: 埋没土
- T1-62: 埋没土
- T1-63: 埋没土
- T1-64: 埋没土
- T1-65: 埋没土
- T1-66: 埋没土
- T1-67: 埋没土
- T1-68: 埋没土
- T1-69: 埋没土
- T1-70: 埋没土
- T1-71: 埋没土
- T1-72: 埋没土
- T1-73: 埋没土
- T1-74: 埋没土
- T1-75: 埋没土
- T1-76: 埋没土
- T1-77: 埋没土
- T1-78: 埋没土
- T1-79: 埋没土
- T1-80: 埋没土
- T1-81: 埋没土
- T1-82: 埋没土
- T1-83: 埋没土
- T1-84: 埋没土
- T1-85: 埋没土
- T1-86: 埋没土
- T1-87: 埋没土
- T1-88: 埋没土
- T1-89: 埋没土
- T1-90: 埋没土
- T1-91: 埋没土
- T1-92: 埋没土
- T1-93: 埋没土
- T1-94: 埋没土
- T1-95: 埋没土
- T1-96: 埋没土
- T1-97: 埋没土
- T1-98: 埋没土
- T1-99: 埋没土
- T1-100: 埋没土

2 II a層の遺構と遺物

(1) アイヌ文化期の遺構と遺物

1) -1 建物跡

aH-1 (図Ⅲ-5・6, 図版Ⅲ-5)

位置 B21, B22, C21, C22

規模 (7.00) / 4.15×5.04 / 3.17×0.22m

調査 Ta-a層を除去した調査開始の段階で、周囲南北6m・東西5mの緩い土層状の盛り上がりを確認した。北東角と南西角は攪乱で破壊されている。II a層を2~3cmほど除去すると、中央と周囲に焼土の広がりが見出された。さらに精査すると、盛り上がり上に柱穴の並びが確認できたので、

表Ⅲ-1 aH-1付属施設一覧

No.	用途等	径(上縁の径×下縁の径×高) (内径)	備考
HP1	柱穴	10×10×40	
HP2	"	10×10×30	
HP3	"	12×12×57	
HP4	"	10×10×50	
HP5	"	11×11×35	
HP6	"	9×9×30	
HP7	"	11×11×18	
HF1	炉	76×49×8	
HF2	炉	63×36×4	
HF3	盛土上焼土	41×14×2	東辺に集中
HF4	"	14×10×1	"
HF5	"	22×10×2	"
HF6	"	11×8×1	北西角に集中
HF7	"	26×11×1	"
HF8	"	11×8×1	"
HF9	"	10×8×1	"
HF10	"	16×12×1	南西角
HF11	"	31×19×2	南辺

建物跡と認定した。

周囲の盛り上がりはすべてが盛土ではなく、中央部のII a層を削平し、これを周囲に載せて建物範囲を区画したものである。これにより約4×3mの床面が作られている。

柱穴は盛り上がりの最高部からやや内側に、南北で一間半・東西で一間の間隔で設けられており、南北三間・東西二間の建物があったことがわかる。南西角の1本は攪乱で失われたものと思われる。個々の柱穴は、HP-7がやや浅い以外は、径10cm前後・深さ30~57cmで、先を尖らせた柱を打ち込んだよう

な形状をしている。盛り上がりと柱穴配列から長軸方向は北-南である。

中央の二カ所の焼土は炉で、長軸方向に並んでいる。HF-1のほうが大きく厚いが、1・2とも骨・種子等はフローテーションでも検出できなかった。

HF-3~11の盛り上がり上の焼土は、個々が小範囲で1~2cmと薄い。柱穴列に沿った形で並ぶことから、建築前の建物区画に関する何らかの意味を持つ焼土と考えられる。

遺物 HP-5の内側に一個体の割れた礫が出土している。

時期 II a層上層の遺構で、アイヌ文化期に属するものと考えられる。

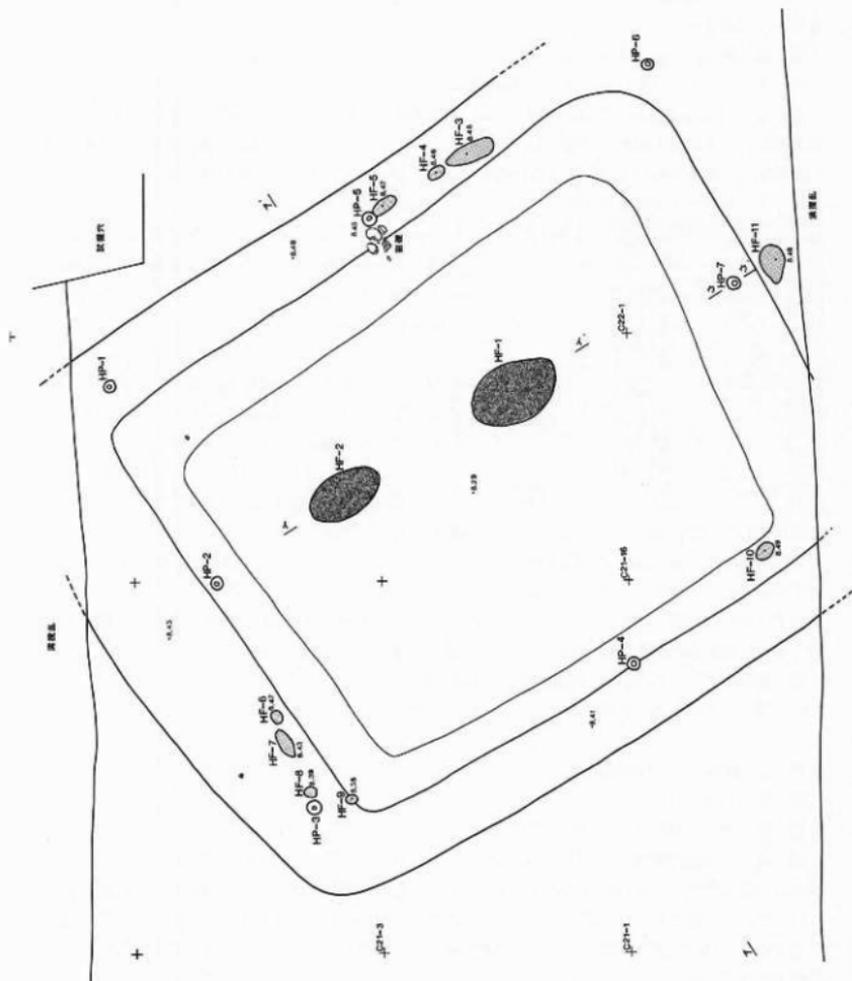
aH-2 (図Ⅲ-7, 図版Ⅲ-6)

位置 B18, B19, C19

規模 主柱穴の距離 3.70×3.30m

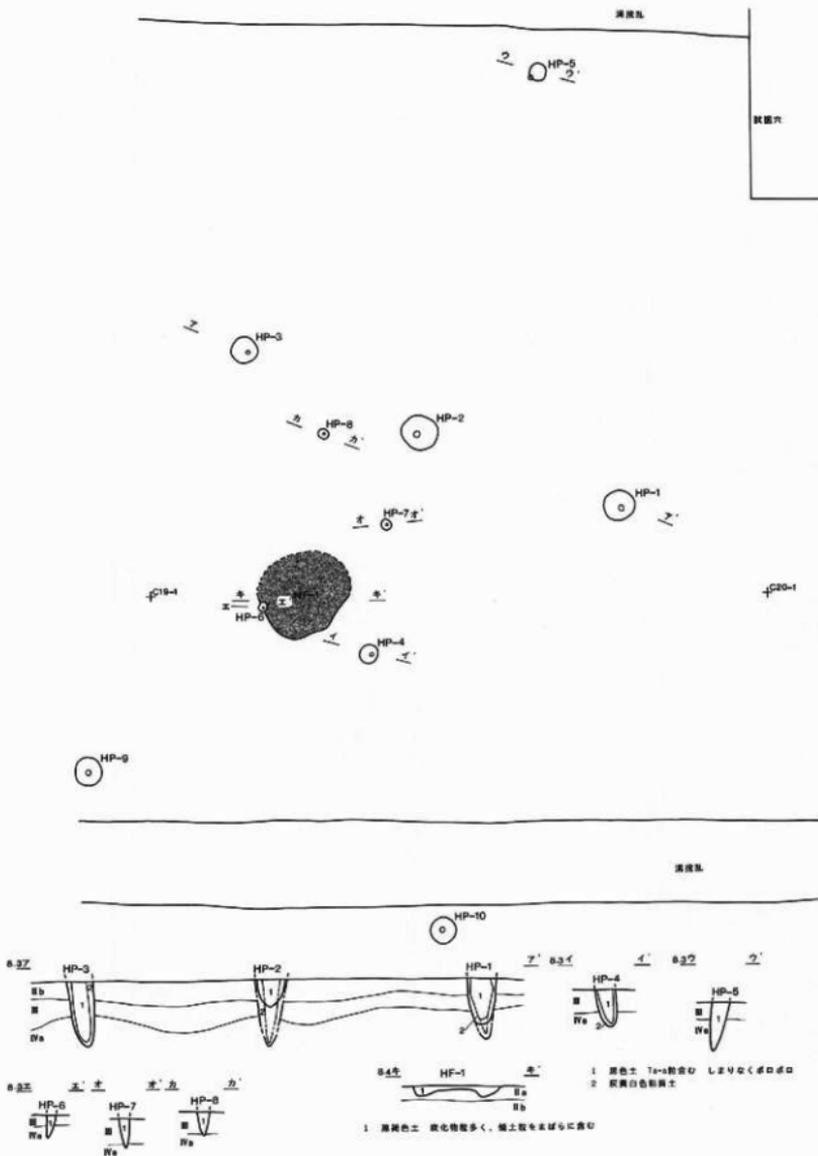
調査 Ta-a層を除去した調査開始の段階で、B19区にごく緩い窪みが確認できた。II a層を2~3cmほど除去すると、径70cmほどの焼土を検出したが柱穴が確認できず、焼土遺構として調査を進めていった。II b層に近づいた段階で、焼土の北東側に3本の柱穴列が確認できたため、建物跡の調査にきり替え、他の柱穴の確認に努めた。上面の緩い窪みの存在からみて、aH-1のような削平と周囲の盛り上げがあったのかもしれない。

柱穴はHP-1・2・3・9・10のような太く深いものと、HP-6・7・8のごとく細く浅いもの、その中間のHP-4・5の3種がある。太く深いものは建物主柱穴で、その配列から建物の長軸方向は北東-南西である。主柱穴の間隔は長軸方向は二間・短軸方向は一間弱である。HP-9と10のあいだは攪乱で失われている。断面から、掘りかたに根固めの粘土を入れて柱を建てたように観察

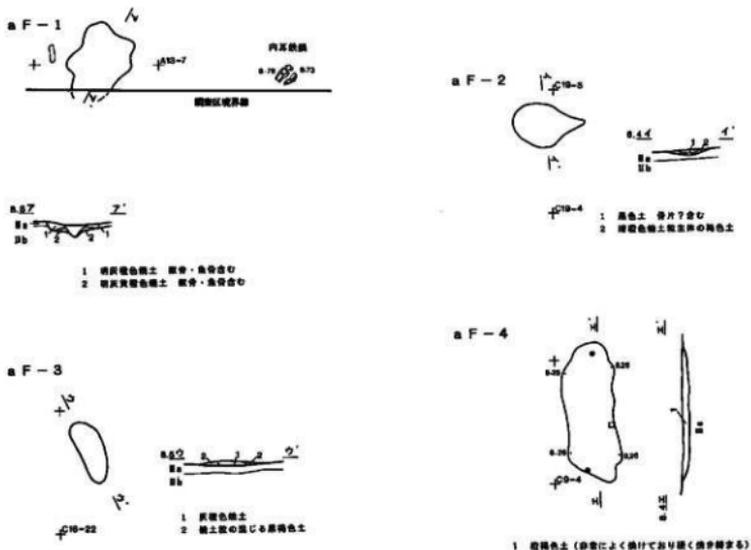


図III-5 aH-1

III オサツ14遺跡の調査



図III-7 aH-2



図Ⅲ-8 II a層の焼土

表Ⅲ-2 a H-2付風施設一覽

No.	用途等	形状 (上端の長さ×幅×高さ・厚cm) 内径形状	備 考
HP1	柱 穴	25 × 25 × 50	
HP2	"	29 × 27 × 55	
HP3	"	21 × 21 × 54	
HP4	"	14 × 14 × (40)	
HP5	"	14 × 14 × (60)	東に傾く
HP6	"	7 × 7 × (29)	HF1と重なる
HP7	"	8 × 8 × (34)	
HP8	"	8 × 8 × (28)	
HP9	柱 穴	22 × 22 × (50)	
HP10	"	20 × 20 × (50)	
HF1	炉	(74) × (67) × 8	HP6と重なる

できる。HP-4はほぼ中心にあり、建物の支柱と思われる。HP-5は長軸方向北東に離れてあり、無関係の可能性もある。細いHP-6~8は建物内施設のものであろう。

炉の焼土は、ほぼ円形だが厚さが不均一である。フローテーションでも何も検出されなかった。

遺物 礫1点以外は出土していない。

時期 a H-1同様アイヌ文化期に属するものと考えられる。(三浦)

1) -2 焼土

a F-1 (図Ⅲ-8, 図版Ⅲ-7)

位置 A13-1・2

規模 (60) × 42 × 5 cm

調査 II a層を薄くはいた段階で、調査範囲外に延びるかたちで確認された。灰と骨片の広がりをとらえ、さらにまわりを精査したが柱穴等は見つからなかった。1 mほど離れた境界線沿いに内耳鉄鍋の破片が検出された。約6 cmの厚みを持ち、灰質で全体に骨片を含んでいる。

遺物 土壌水洗とフローテーションの結果、種子と獣骨が検出された。種子は、ブドウ属とミズキ属の種子が各1粒と同定された。獣骨については千歳市教育委員会蔵文化財センター 高橋理氏

Ⅲ オサツ14遺跡の調査

の同定報告を次ページに掲載した。内耳鉄鍋は3箇(3)項で報告してある。

時期 II a層上層であり、内耳鉄鍋と同レベルであることから、アイヌ文化期のものである。

a F-2 (図Ⅲ-8)

位置 C18-24, C19-9

規模 58×35×4 cm

調査 II a層を薄くはいだ段階で、骨片を含む焼土が径20cmほどの範囲で確認できた。精査すると、そのまわりと下層には焼土粒が広がっていた。南約2mに位置するa H-2と関係する遺構であろう。

遺物 土壌水洗の結果、魚骨と獣骨が検出された。千歳市教育委員会埋蔵文化財センター 高橋理氏の同定報告を次ページに掲載した。

時期 a H-2と同レベルであることから、アイヌ文化期のものと考えられる。

a F-3 (図Ⅲ-8, 図版Ⅲ-7)

位置 C16-22

規模 52×20×4 cm

調査 II a層を薄くはいだ段階で、灰質と焼土粒の細長い広がり確認できた。周囲に柱穴等は見られなかった。

遺物 土壌水洗やフローテーションでも何も検出されなかった。

時期 II a層上層であり、アイヌ文化期のものと考えられよう。

a F-4 (図Ⅲ-8, 図版Ⅲ-7)

位置 C9-4・5

規模 113×38×6 cm

調査 II a層を薄く剥がしていくと、鮮やかな橙色焼土が、長く広がって確認された。ほぼ均質の焼土がやや厚目に残っている。周囲に柱穴等は見られなかった。II a層上層ではあるが、縄文時代の遺物が混在することから、H-11掘揚げ土の上に形成されたものかと思われる。

遺物 礫1点のほかは、II a層に相当する遺物はなく、土壌水洗やフローテーションでも何も検出されなかった。

時期 アイヌ文化期か縄文文化期の遺構であろう。

(三浦)

千歳市オサツ14遺跡出土動物遺存体

千歳市教育委員会埋蔵文化財センター 高橋 理

はじめに

平成6年度の北海道埋蔵文化財センターによるオサツ14遺跡の発掘調査において、aF-1およびaF-2と呼称された遺構からごく少量ではあるが、動物遺存体が発見された。これらはサケ科魚類とシカ（エゾシカ *Cervus nippon yesoensis*）の骨片と判断される。

aF-1は哺乳類の骨片が14点ということで持ち込まれたが、シカのほぼ完形の距骨（r）に復元された。以下に点数および重量を報告する。また、fr.は「破片」、per.は「完形」を意味する。

出土動物遺存体

脊椎動物門 Vertebrata

硬骨魚綱 Osteichthyes

サケ科 Salmonidae gen. et sp. indet.

サケ? *Oncorhynchus Keta* (Walbaum)?

哺乳綱 Mammalia

シカ科 Cervidae

シカ（エゾシカ） *Cervus nippon yesoensis*

表Ⅲ-3 II a層焼上動物遺存体一覧

遺構名	動物遺存体	部位	遺存部位	数量	重量	備考
aF-1	シカ	距骨(r)	per.	1		図版Ⅲ-7
aF-2	サケ科		fr.	2	0.1g	
	哺乳類		fr.	26	1.6g	

(2) 縄文文化期の遺構と遺物

2) - 1 竪穴住居跡

SH-1 (図Ⅲ-9~12, 図版Ⅲ-8~10)

位置 B12, B13, C12, C13

規模 (4.60) / 4.28 × (4.60) / (4.28) × 0.52m

調査 Ta-a層を除去した調査開始の段階で、まだTa-a層が残存しているⅡa層の大きな窪みが確認できた。攪乱で半分を切られてはいたが、C13の杭を北東の頂点とする一辺4mほどの窪みで、周囲に縄文土器も散布していることから、縄文文化期の竪穴住居跡と確認された。窪みのTa-aを除去すると、3本の攪乱溝で切られていることがわかり、カット面でセクションを観察することができた。

セクションから、西側のH-26と東側のP-33を切って構築されていることがわかった。また、幾層もの焼土堆積と灰・炭化物から、焼失住居であると考えられた。掘揚げ土も確認できた。竪穴の掘り込みはIVb層上面にまで達している。

掘揚げ土は、Ⅱb・Ⅲ・Ⅳ層の混合した褐色土でIVb層の大粒が点々と目立つ。攪乱を受けていない北側と東側でその広がりを検出した。竪穴から3~4m先までみられるが、特に東壁と北西角に濃い部分がある。

覆土にある焼土は、炭化物層や焼土粒が入る層を含めると十層もみられる。3層から10層までは、南東側に寄る傾向があるが、床面直上では北側にも広がっている。合計16カ所(図Ⅲ-12のA~P)からサンプリングし、土壌水洗・フローテーションを行ったが、同定不可の一粒の種子がサンプルNo Cから検出されたのみで、純粋に土と木だけが焼けたものと判断できる。

炭化材は、図Ⅲ-11と表Ⅲ-5に示したとおり、216点を床面とその直上で検出した。10~40cmの中型材が111点と半数を超え、小型材が1/3強、1m近い大型材は割ほどしかない。種別では板材が約2/3を占め、次いで厚板材・棒状となる。56~63にみられるような壁材や、壁と直交・並行して出土している屋根材と思われるものが、この炭化材のほとんどであろう。後述するが、太い柱はなかったと思われる。樹種は、表Ⅲ-6に示した20点について同定を行い、比較的限定された材を使用しているような結果を得た。いずれも広葉樹で、環孔材のコナラ属14点、トネリコ属4点、散孔材のハンキ属2点で、大型材はコナラ属が多い。このうち4点についてC14年代測定を依頼し、表Ⅲ-6のような結果を得た。

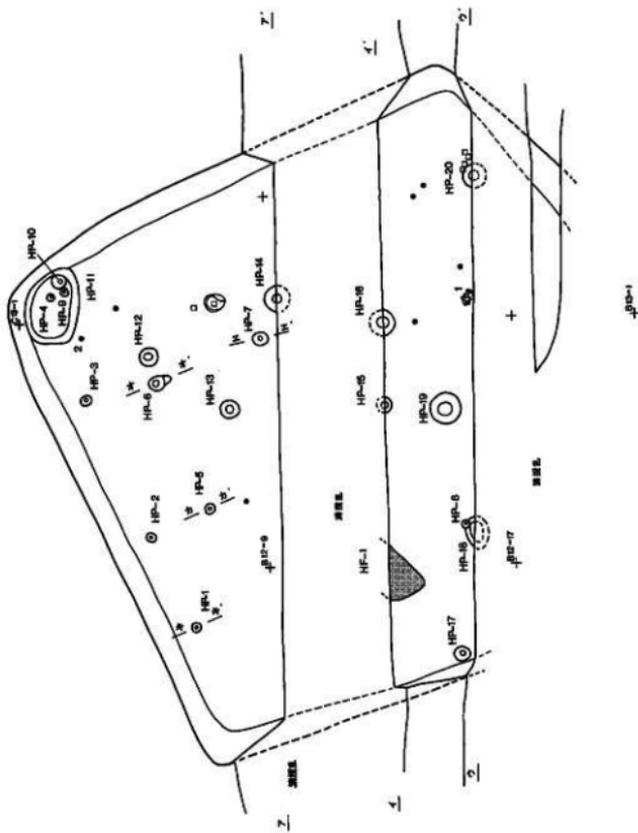
焼土と炭化材の調査を終え、壁面と床面を確認した。壁はやや傾斜をもって立ち上がる。平面形は一辺4.5mほどの正方形と推定される。南西を除く三つのコーナーを確認したが、南東角や一部残存する南壁や西壁は、攪乱で形の崩れが大きい。床面は凹凸が著しく、HP-12~20のような浅い小ピットも点在している。柱穴はHP-1~10のような細く深い杭様のもので、東西約1m・南北約1.5m間隔のHP-1~3・7・8が基本配列と思われるが、攪乱溝による欠失で不確定ではある。HP-4・9・10は入り口等施設のものであろう。

床面には焼土HF-1があるが、片寄った位置にあり炉とは考えられない。カマドも確認できていな

表Ⅲ-4 SH-1付属施設一覧

No.	用途等	規模(土壁の厚さ×縦×横、m)	1P地数	備考
HP1	柱穴	7 × 7 × 36		
HP2	"	7 × 7 × 30		
HP3	"	8 × 7 × 31		
HP4	"	6 × 6 × 30		HP11内
HP5	"	7 × 7 × 22		
HP6	"	18 × 12 × 33		二股
HP7	"	11 × 11 × 32		
HP8	"	6 × 6 × 21		HP18と重なる
HP9	"	7 × 6 × 35		HP11内
HP10	"	11 × 11 × 25		HP11内
HP11	付属土壁	65 × 44 × 7		中にHP4・9・10
HP12	"	15 × 15 × 7		
HP13	"	15 × 15 × 11		
HP14	"	21 × (21) × 12		半壊
HP15	"	13 × (13) × 8		半壊
HP16	"	20 × (20) × 10		半壊
HP17	"	12 × 12 × 6		
HP18	"	(27) × (14) × 7		HP8と重なる 半壊
HP19	"	26 × 26 × 14		
HP20	"	20 × (20) × 6		半壊
HF1	床面焼土	(60) × (35) × 1		

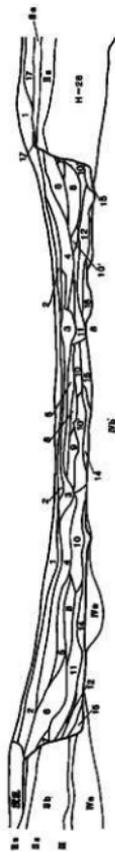
遺跡名: 奥土18号



図一〇 SH-1

92Z

2.



92L

1.



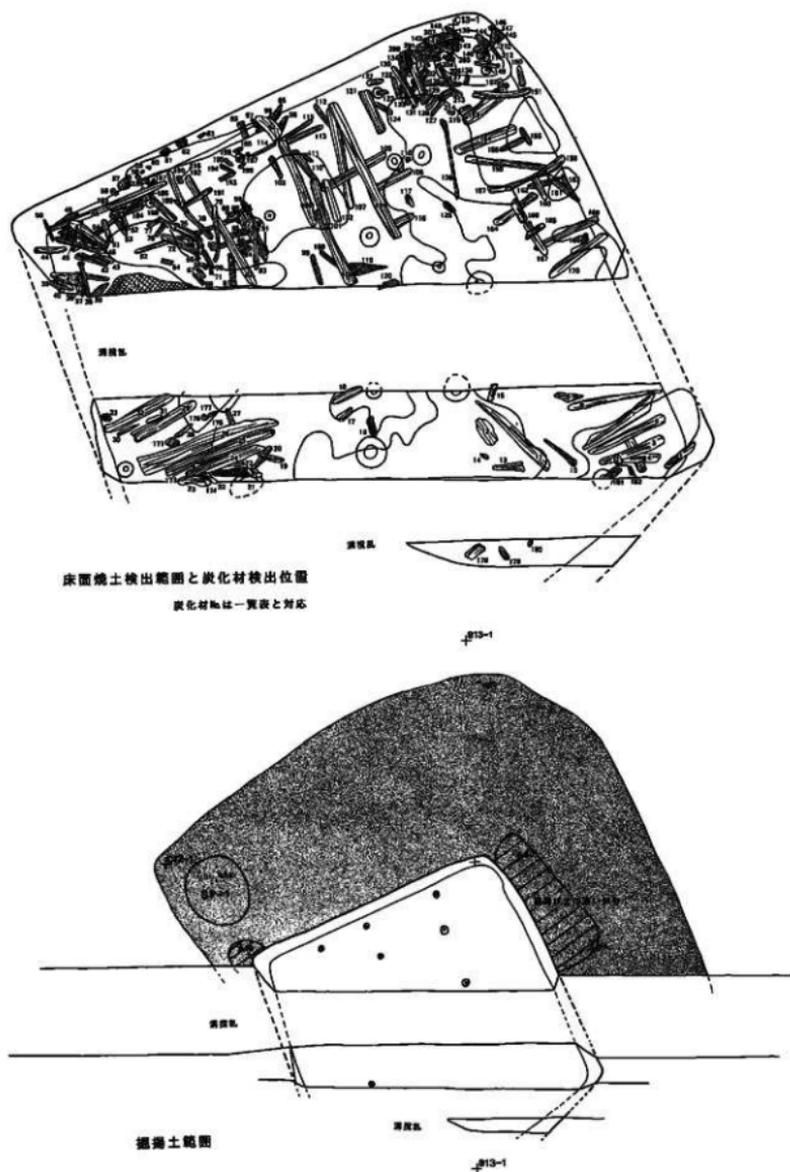
92C

2.



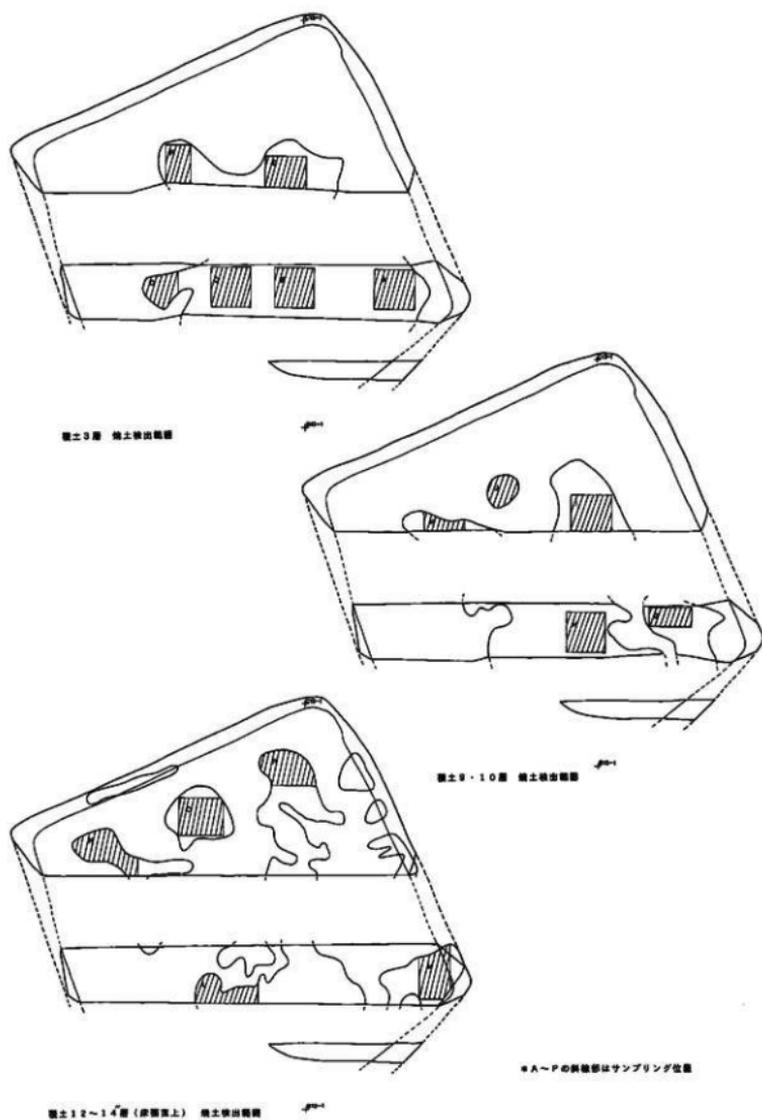
- 1 埋戻土 (H-28) 埋戻
- 2 埋戻土 (H-28)
- 3 埋戻土 (H-28)
- 4 埋戻土と埋戻土の間の部分、埋戻土や埋戻土の間
- 5 埋戻土 (H-28)
- 6 埋戻土 (H-28)
- 7 埋戻土 (H-28)
- 8 埋戻土 (H-28)
- 9 埋戻土 (H-28)
- 10 埋戻土 (H-28)
- 11 埋戻土 (H-28)
- 12 埋戻土 (H-28)
- 13 埋戻土 (H-28)
- 14 埋戻土 (H-28)
- 15 埋戻土 (H-28)
- 16 埋戻土 (H-28)
- 17 埋戻土 (H-28)

図10 SH-1セクション



図重-11 SH-1の炭化材と掘揚げ土

III オサツ14遺跡の調査



図III-12 SH-1覆土の焼土分布

表Ⅲ-5 SH-1 炭化材一覽

No	大きさ	形状	備考
1	中	板	
2	小	丸	
3	中	太	
4	大	状	
5	中	状	
6	大	状	
7	中	丸	
8	大	太	
9	中	状	
10	中	状	
11	中	状	
12	中	状	
13	中	状	
14	中	状	
15	中	状	
16	中	状	
17	中	状	
18	中	状	
19	中	状	
20	中	状	
21	中	状	
22	中	状	
23	中	状	
24	大	状	
25	大	状	
26	大	状	
27	中	状	
28	中	状	
29	大	状	
30	小	状	
31	小	状	
32	小	状	
33	大	状	
34	大	状	
35	中	状	
36	中	状	
37	中	状	
38	中	状	
39	中	状	
40	中	状	
41	中	状	
42	中	状	
43	中	状	
44	中	状	
45	中	状	
46	中	状	
47	中	状	
48	中	状	
49	中	状	
50	中	状	
51	中	状	
52	中	状	
53	中	状	
54	中	状	
55	大	状	
56	中	状	
57	中	状	
58	小	状	
59	小	状	
60	小	状	
61	中	状	
62	中	状	
63	中	状	
64	小	状	
65	小	状	
66	小	状	
67	小	状	
68	小	状	
69	小	状	
70	小	状	
71	小	状	
72	中	状	

No	大きさ	形状	備考
73	小	板	
74	中	厚板	
75	中	厚板	
76	小	厚板	
77	小	厚板	
78	中	厚板	
79	中	厚板	
80	中	厚板	
81	中	厚板	
82	中	厚板	
83	中	厚板	
84	中	厚板	
85	中	厚板	
86	中	厚板	
87	大	厚板	
88	小	厚板	
89	小	厚板	
90	中	厚板	
91	中	厚板	
92	中	厚板	
93	中	厚板	
94	中	厚板	
95	中	厚板	
96	小	厚板	
97	小	厚板	
98	中	厚板	
99	中	厚板	
100	中	厚板	
101	中	厚板	
102	中	厚板	
103	中	厚板	
104	大	厚板	
105	大	厚板	
106	大	厚板	
107	大	厚板	
108	大	厚板	
109	中	厚板	
110	中	厚板	
111	中	厚板	
112	中	厚板	
113	中	厚板	
114	中	厚板	
115	中	厚板	
116	中	厚板	
117	小	厚板	
118	小	厚板	
119	中	厚板	
120	中	厚板	
121	中	厚板	
122	小	厚板	
123	小	厚板	
124	小	厚板	
125	小	厚板	
126	中	厚板	
127	中	厚板	
128	中	厚板	
129	中	厚板	
131	小	厚板	
132	小	厚板	
133	小	厚板	
134	中	厚板	
135	中	厚板	
136	中	厚板	
137	中	厚板	
138	中	厚板	
139	中	厚板	
140	中	厚板	
141	中	厚板	
142	中	厚板	
143	中	厚板	
144	中	厚板	

No	大きさ	形状	備考
145	小	板	
146	小	板	
147	小	板	
148	小	板	
149	中	板	
150	中	板	
151	中	板	
152	中	板	
153	中	板	
154	大	板	
155	大	板	
156	中	板	
157	中	板	
158	大	板	
159	大	板	
160	中	板	
161	中	板	
162	中	板	
163	中	板	
164	中	板	
165	中	板	
167	中	板	
168	大	板	
169	大	板	
170	大	板	
171	小	板	
172	中	板	
173	中	板	
174	中	板	
175	中	板	
176	中	板	
177	小	板	
178	小	板	
179	小	板	
180	小	板	
181	小	板	
182	小	板	
183	中	板	
184	中	板	
185	小	板	
186	小	板	
187	小	板	
188	中	板	
189	中	板	
190	中	板	
191	中	板	
192	中	板	
193	小	板	
194	小	板	
195	小	板	
196	小	板	
197	小	板	
198	小	板	
199	小	板	
200	小	板	
201	小	板	
202	小	板	
203	小	板	
204	小	板	
205	小	板	
206	小	板	
207	小	板	
208	小	板	
209	小	板	
210	小	板	
211	小	板	
212	小	板	
213	小	板	
214	小	板	
215	小	板	
216	小	板	

表Ⅲ-6 SH-1 樹種同定・C¹⁴年代一覧

炭化材№	樹種(属名)	C ¹⁴ 年代(BP)
6	トネリコ属	1310±60
25	コナラ属	
26	コナラ属	1290±40
32	コナラ属	
47	トネリコ属	1270±40
55	コナラ属	
61	コナラ属	
82	トネリコ属	
87	コナラ属	
92	コナラ属	
93	コナラ属	
94	コナラ属	
100	コナラ属	
104	コナラ属	1210±60
105	ハンノキ属	
106	コナラ属	
107	トネリコ属	
154	コナラ属	
164	コナラ属	
166	ハンノキ属	

時期 床面出土の球胴甕は、美々8遺跡における佐藤和雄分類(当センター1994『美沢川流域の遺跡群XVII』北理調報89)における、Ⅱ類に分類される。また、周辺出土の擦面出土の擦文土器(3節1項 図Ⅲ-14)もⅡ類が多い。Ⅱ類には8世紀前半の年代があたえられている。

また、炭化材のC14年代測定からは、1310±60BPから1210±60BPという結果が得られている。

これらのことから、この壑穴住居は、擦文文化期の8世紀代に造られたものととらえることができよう。(三浦)

2) -2 土壌

SP-1 (図Ⅲ-13, 図版Ⅲ-10)

位置 B12-5・10, C12-1・6

規模 1.10/0.60×1.01/0.57×0.28m

調査 SH-1の掘揚げ土を調査除去していく段階で、掘揚げ土の溜った円形の窪みを確認した。覆土はほとんどが黒色土系で、一部にTa-cと思われる粒子を含んでいる。掘り込みはⅢ層まで達しておらず、底面や壁面はⅡa層・Ⅱb層で形成される。平面形は円形で、浅い碗状を呈しており、底と立ち上りの区別はほとんどできない土壌である。

遺物 覆土の縄文土器以外は出土していない。

時期 SH-1の掘揚げ土が覆土に入ることや、周辺の擦文土器分布から、SH-1より古い擦文文化期の遺構と考えられる。

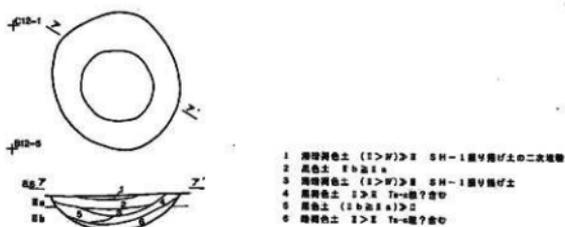
なおこの調査で、統縄文時代および縄文時代晩期の遺物・遺構は、検出されていない。

(三浦)

いが、大きく壊された東壁が南壁に造られていた可能性はある。

遺物 覆土と床面から20点の擦文土器が出土している。1は床面出土の小型の球胴甕で、外反する口縁部を欠く現存高は12.2cm、胴部の張りは13.5cmをはかる。外面は、頸部に横位の段状沈線が3本以上入り、胴部はタテミガキ後ヨコミガキで器面調整されている。胴部下位はヨコミガキが入らない。底部には笹葉庄痕が残っている。内面はヨコナデで調整されている。2は、覆土6層出土の壑の胴部片である。

礫は、床面でHP-20の脇から接合する4片が出土しているほか、HP-7付近の床面直状から径15cmほどの大型礫が1点が見つまっている。



図III-13 SP-1

3 II a層の遺物

遺構出土以外のII a層の遺物には、擦文土器・石器・フレイクチップ・礫・木製品・鉄製品がある。石器等については、縄文時代に属するものと思われるので、II b層の項に記載する。

(1) 擦文土器 (図III-14・図版III-11)

破片数で130点が出土している。1は唯一復元できた坏で、口径17.3cm・器高6.65cmをはかる。胴部と底部の移行部に小さな段があり、胴部内面と外面全体がヘラミガキで調整されている。2・3は甕の口縁部、4は頸部、5は胴部の破片である。

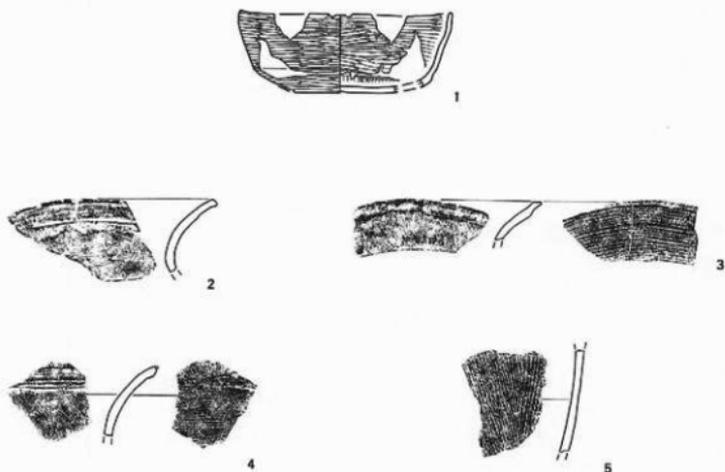
(2) 木製品 (図III-15・図版III-11)

調査区西側低湿部のII a層上・中層で、アイヌ文化期(美沢川流域の遺跡群の美々8遺跡のOB・IB-1層に相当、図III-4参照)の木製品53点を検出した。表III-6で27目に整理してある。内訳は、OB層相当15目35点・IB-1層相当12目18点である。樹種同定を行った26点はすべて広葉樹で、環孔材のトネリコ属13点・クリ属1点・コナラ属3点、散孔材のハンノキ属5点・アジサイ属2点・カエデ属・カツラ属各1点である。OB層相当中トネリコ属が11点73%を占め、IB-1層相当中ハンノキ属が5点42%と多いのが特徴的である。

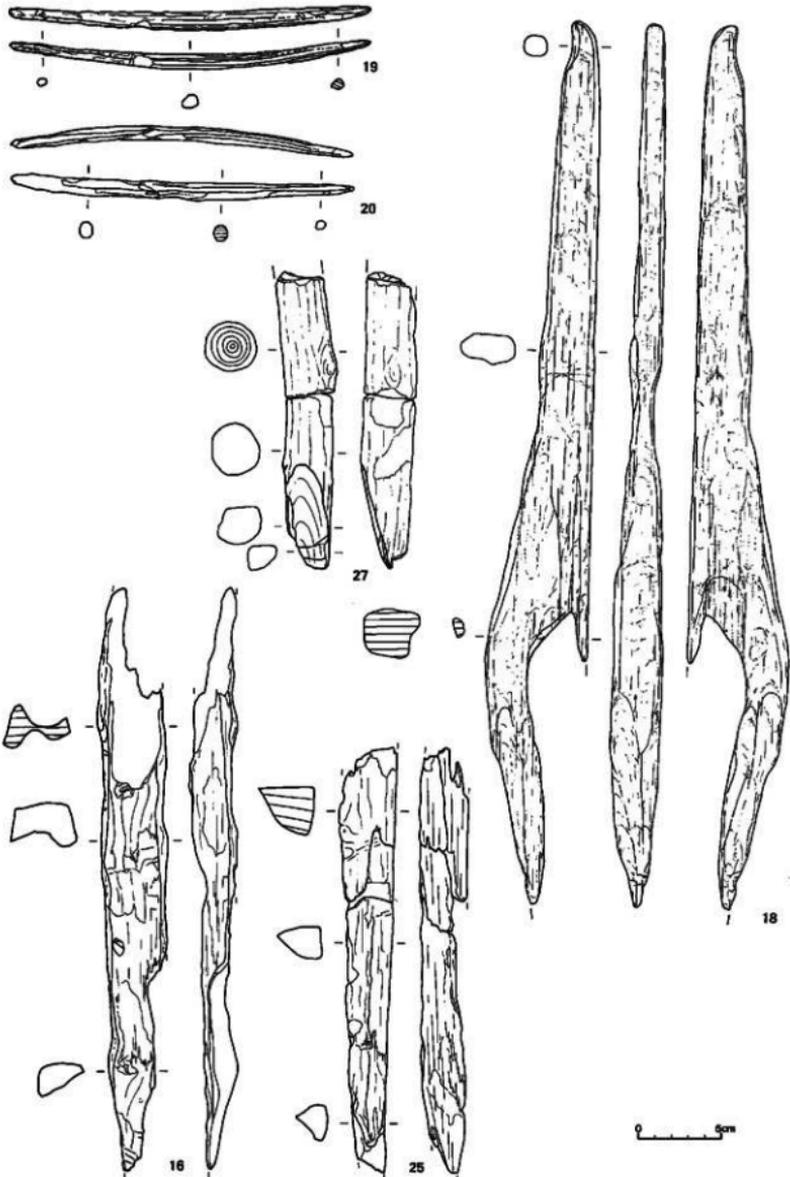
表III-7 II a層木製品一覧

目録番号	名称	グリッド	種別	レベル	寸法	樹種	備考
1	甕	D-7-2	OB	7.41 7.28	1	トネリコ属	
2	甕	D-6-6	OB	7.35 7.21	1	コナラ属	
3	口縁	D-6-7	OB	7.14	1	トネリコ属	
4	口縁	D-6-10	OB	7.20 6.99	1	トネリコ属	
5	甕	D-6-13	OB	7.09	1	トネリコ属	立
6	二層特製	D-6-12	OB	7.22	1	トネリコ属	形
7	口縁	D-6-12	OB	7.27 7.26	1	トネリコ属	形
8	口縁	D-6-18	OB		5	トネリコ属	
9	口縁	D-6-17	OB		13	トネリコ属	
10	口縁	D-6-13	OB		1	カエデ属	形
11	口縁	D-6-22	OB		3	トネリコ属	
12	口縁	D-7-4	OB		3	トネリコ属	
13	環孔	C-6-25	IB-1	7.22	1	トネリコ属	
14	環孔?	C-6	OB		1		形
15	口縁	C-6-13	IB-1	7.12	1	トネリコ属	
16	口縁加工	C-6-17	IB-1	7.16	1	コナラ属	
17	口縁	目-6-7	IB-1	7.29	1	ハンノキ属	
18	口縁加工	目-6-9	IB-1	7.23	1	カツラ属	ツカマツ
19	口縁	目-6-6	IB-1	7.06	1	アジサイ属	
20	口縁	目-6-6	IB-1	7.06	1	アジサイ属	
21	口縁	目-6-8	IB-1	7.21	4	ハンノキ属	
22	口縁	目-6-7	IB-1	7.29	4	ハンノキ属	
23	口縁加工	目-6-7	IB-1	7.22	1	ハンノキ属	
24	口縁	目-6-7	IB-1	7.21	1	カツラ属	
25	口縁加工	目-6-7	IB-1	7.17	1	ハンノキ属	形
26	口縁加工	C-6	OB		1	クリ属	
27	口縁加工	C-6	OB		1	トネリコ属	

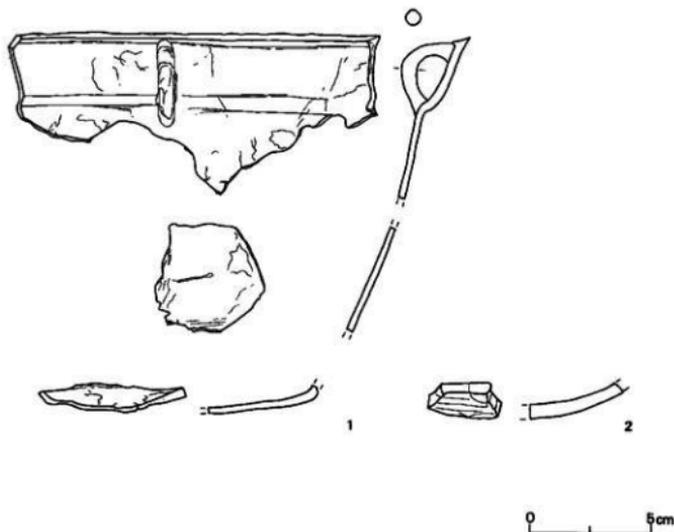
*形状図III-15・図版III-11と対応



図III-14 II a層の土器



図III-15 II a層低湿度部の木製品



図Ⅲ-16 II a層の鉄製品

杭類や枝加工としたものは、一方が折れているものがほとんどで、残りの端に鋭角あるいは鋭角の切り落とし痕や削り痕がみられるものである。割材とその加工品は、ほとんどが板目で材を割取ったものである。18の割材加工品は片側を欠損しているが、全体形状・平滑な底面・端部の挟り加工・中央部の孔などから、もとは舟の車權の輪受部（タカマ）であった可能性が高い。材質もカツラ属と特殊である。欠損端に削り痕があることから、タカマを材とした二次利用品と考えられる。19・20は串で、19は長さ20・0cm、20は長さ20.6cmを計る。並んで出土しており、ともに材質はアジサイ属で、枝材利用ではなく小割した材を削って作っている。両端は尖らせているが、体部断面形はゆがんだ円形である。

(3) 鉄製品 (図Ⅲ-16・図版Ⅲ-11)

鉄鍋が2個体分出土している。1は、a F-1付近から出土 (図Ⅲ-8・図版Ⅲ-7) した内耳鉄鍋である。調査範囲境界にあったため全体の1/5ほどしか破片がなく、残りは範囲外にあるものと思われる。推定口径約32cm・推定高約16cmに復元できる。内耳は、肩がなだらかな半円形をしている。折れていたため「す」の状態が観察でき、それによって鍋本体と耳が同時に「湯」を流された一体型であることが判明した。湯口部は確認できていない。2は、1より厚手の鍋底部片で、ほかに少量の破片がある。

(三浦)

表Ⅲ-8 II a層鉄製品一覽

順	名称	グリッド	層	レベル m	数量	備考
1	内耳鉄鍋	A-12-8・11	II a	8.72 8.78	1	割材 a F-1付近
2	鉄鍋	B-11-5	II a	8.51	1	鍋底片 1と同一種類か?

4 II b層の遺構と遺物

II b層では、29軒の竪穴住居跡と2ヵ所の竪穴上層遺構、50基の土壇、36基の焼土を確認した。竪穴上層遺構は、竪穴住居跡として報告してある。時期は、縄文時代前期・中期・後期にわたっている。記載順は基本的には、発見順であるが、切り合い関係や近接など同・図面上にあるものについては、順を変えて適宜扱った。なお、H-5・6はH-20に取り込まれ、欠番となっている。

(1) 竪穴住居跡

H-1 (図Ⅲ-17, 図版Ⅲ-12, 表Ⅲ-8)

位置 D19, 20

規模 (2.25) / (2.05) × (2.03) / (1.88) × 0.37m

調査 耕作が遺構上面に及んでいたため、耕作土除去後に平面形が確認できた。平面形は楕円で1/2が調査範囲外である。長軸方向はN-71°-Wである。覆土は、流入土の2~5層と壁面崩落土と思われる6層によって構成されている。覆土3層は、H-2の掘揚げ土である。

床面は平坦でIV b層を8~16cmを掘り込んで作られている。壁はほぼ直線的に外上方向に立ち上がる。柱穴は壁面にめぐり、深さは12~14cmである。HP-1は付属土壇で、ほぼ中央に位置し、平面形は楕円で、断面は皿状を呈し浅い。HF-1は地床炉で、平面は不整形。炉の土をフローテーションした結果、炭化物0.75g以外に種子などは検出されなかった。

遺物 土器は、Ⅲ群a類土器が11点、Ⅲ群b-2類土器が28点出土している。床面からはⅢ群a類土器が2点、Ⅲ群b-2類土器が11点出土しているが、特に集中してはいない。遺構間遺構内接合もみられない。1は柏木式の胴部破片、2は円筒上層b式相当の胴部破片である。石器は覆土から石

表Ⅲ-9 H-1 付属施設一覽

№	用途等	規模(上部の長さ×幅×深・厚m) (内は底径)	備考
HP1	付属土壇	(106) × (72) × 15	
HP2	壁柱穴	10 × 10 × 12	
HP3	"	12 × 12 × 11	
HP4	"	13 × 11 × 11	
HP5	"	9 × 9 × 14	
HF1	炉	(85) × 66 × 14	

斧が2点出土している他は、フレイクチップが12点出土している。4は緑色泥岩の転石を素材としている。刃部は曲刃で、最大幅が基部中央にある。5は緑色片岩を素材とし、刃部は欠失している。

時期 Ⅲ群b-2類土器の時期、縄文時代中期中ごろの柏木川式期でH-2よりも古い。(鈴木)

H-2 (図Ⅲ-18, 図版Ⅲ-13, 表Ⅲ-9)

位置 D18

規模 3.28/3.02×2.86/2.52×0.32m

調査 耕作が遺構上面に及んでいたため、耕作土除去後に平面形が確認できた。平面形はやや隅が張る楕円である。長軸方向はN-19°-Eである。覆土は、流入土の4~8層によって構成されている。H-1に比べて腐植土の流入が少ない。

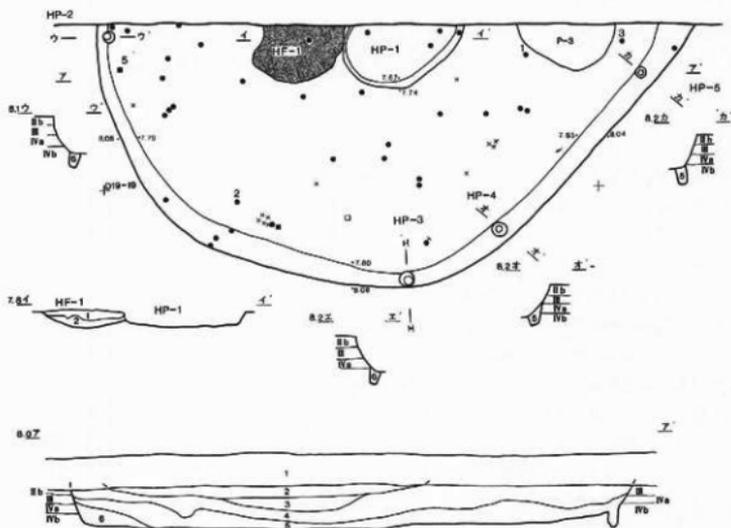
床面は平坦でIV b層を4~6cmを掘り込んで作られている。壁は内湾しながら外上方向に立ち上がる。柱穴は壁面と床面の境にめぐり、深さは6~16cmである。HP-1は付属土壇で、長軸上に位置し、平面形は不整形に近い楕円で、2つの凹みをもつ。断面は皿状を呈し浅い。HF-1は地床炉で、

表Ⅲ-10 H-2 付属施設一覽

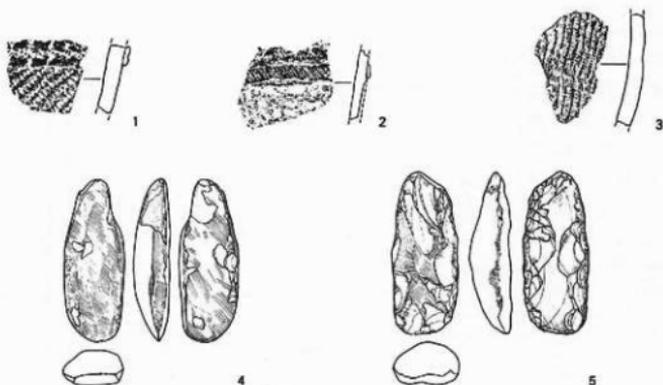
№	用途等	規模(上部の長さ×幅×深・厚m) (内は底径)	備考
HP1	付属土壇	97×67×12・13	灰子
HP2	壁柱穴	8 × 8 × 16	
HP3	"	10 × 9 × 13	
HP4	"	8 × 8 × 7	
HP5	"	13 × 12 × 15	
HP6	"	16 × 15 × 16	
HF1	炉	29 × 27 × 6	
HF2	焼土塊	30 × 26 ×	

平面は不整形。HF-2は焼土の塊。HF-1・2の土をフローテーションした結果、炭化物各0.6、0.7g以外に種子などは検出されなかった。

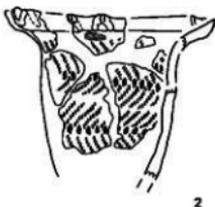
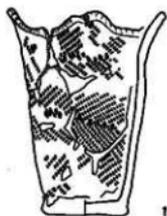
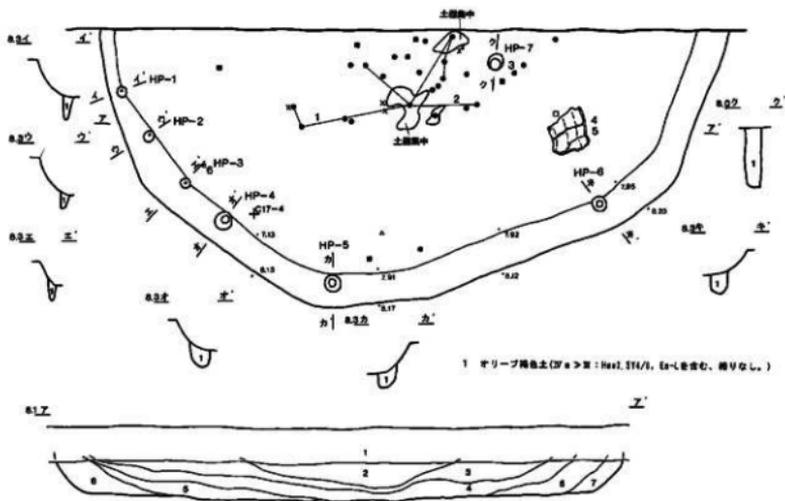
遺物 土器はⅢ群b-2類土器が44点出土し、それ以外は8点出土している。床面からは、Ⅲ群b-



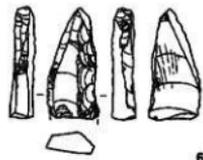
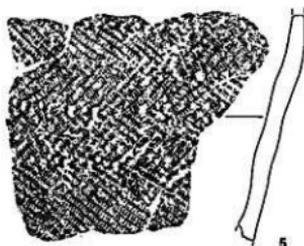
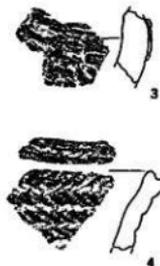
- | | |
|--|---|
| <p>1 灰色土(礫作土、土部・石部を多く含む。)</p> <p>2 黒色土(2b>2a) H1: 1/8, φ 5mm以下を少量含む。)</p> <p>3 暗オリーブ褐色土(2a>2b+2c: Hs2: 1/3) 7)</p> <p>4 灰褐色土(2b>2a: Hs1: 1/3) 1/, φ 2mm以下を少量含む。)</p> <p>5 オリーブ褐色土(2a+2b+2c: Hs1: 1/4) 1/, φ 5mm以下を少量含む。)</p> <p>6 暗オリーブ褐色土(2a+2b+2c: Hs1: 1/3) 1/, φ 2mm以下を少量含む。)</p> | <p>1 黒褐色土(2b+2c: Hs1: 1/2) 1/, 炭土粒を含む。織りよくない。)</p> <p>2 明灰褐色土(2b: Hs1: 1/3) 1/8, 織りよし。)</p> |
|--|---|



図III-17 H-1



- 1 褐色土 (Fb > Df b : M1. S/3, φ 5mmE-Fを食む、土器・石器を多く含む。)
- 2 褐色土 (Fb > Df b : M1. S/3, φ 5mmE-Fを食む、土器・石器を多く含む。)
- 3 黒褐色土 (Fb > Df b : Hoz. S15/6, φ 10mmE-Fを食む。)
- 4 明黄褐色土 (Fb > Df b : Hoz. S15/6, φ 10-15mmE-Fを食む。)
- 5 黄褐色土 (Fb > Df a : Hoz. S15/6, φ 10mmE-Fを多量に食む。)
- 6 オリーブ褐色土 (Fa > B : Hoz. S15/6, Es-Lを食む。)
- 7 明黄褐色土 (Fb > Df b : Hoz. S15/6, Es-Lを多量に食む。)



図III-19 H-3

2類土器が7点出土しており、HF-1の周囲にやや集中している。遺構間遺構内接合はみられない。

1・2は柏木川式の胴部破片である。石器は覆土2層から石鏃・つまみ付ナイフ片が2点出土している。3は焼けて少し発泡している。二次調整は基部と片側片が丁寧である。

時期 Ⅲ群b-2類土器の時期、縄文時代中期ごろの柏木川式期でH-1よりも新しい。

H-3 (図Ⅲ-19, 図版Ⅲ-14, 表Ⅲ-10)

位置 D16, 17

規模 (5.09) / (4.72) × (2.24) / (1.95) × 0.36m

調査 耕作が遺構上面に及んでいたのは、耕作土除去後に平面形が確認できた。平面形は楕円で、1/2が調査範囲外である。長軸方向はN-63°-Wである。覆土は、流入土の2~5層と壁面崩落土と思われる6・7層によって構成されている。

床面は平坦でIV b層を掘り込んで作られている。壁は内湾しながら外上方向に立ち上がる。柱穴は壁面と床面の境にめぐり、深さは12~19cmである。柱穴7は深さ48cmであり、この住居の柱かどうか決めがたい。付属施設は確認されなかったが調査範囲外に存在している可能性が高い。

遺物 土器はⅡ群b類土器が113点、Ⅲ群a類土器が80点、時期不明土器が27点出土している。床面からはⅡ群b類土器が111点出土しており、中央部分に集中している。覆土2層内において円筒上層式の接合関係がある。1は萩ケ岡2式で、2は円筒上層c・d式相当である。3は萩ケ岡2~3式の

表Ⅲ-11 H-3付属施設一覧

施	用途等	規模(上層の径×下層の径・高)	内径	備考
HP1	壁柱穴	9×8×19		
HP2	"	10×8×12		
HP3	"	8×8×15		
HP4	"	16×14×15		
HP5	"	13×13×13		
HP6	"	13×11×16		
HP7	柱穴	14×13×48		

突起部破片、4・5は大麻V式であり、床面に貼り

付くようであった。石器は覆土4層から砥石・石斧薄片が出土しているが、床面からの出土はない。6は彫器片、覆土2層から出土した。

時期 Ⅱ群b類土器の時期、縄文時代前期中ごろの大麻V式期。(鈴木)

H-4 (図Ⅲ-20, 図版Ⅲ-15)

位置 D15

規模 3.57/3.15 × (2.53) / (2.41) × 0.48m

調査 耕作が遺構上面に及んでいたため、耕作土除去後に確認できた。平面形はほぼ円形に近い楕円形。長軸方向はN-58°-Wである。覆土は、流入土の2~3層によって構成されている。

H-1・2に比べて腐植土の流入が多い。

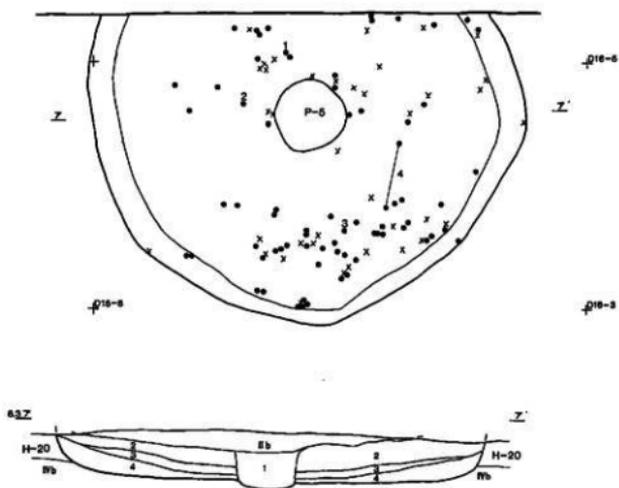
床面は平坦でIV b層を13~15cmを掘り込んで作られている。壁はやや内湾しながら外上方向に立ち上がる。柱穴は確認できなかった。付属施設はみられないが、中央がP-5によって削除されているので、ここに炉があった可能性は十分にある。

遺物 土器はⅢ群b-2類土器が62点出土し、Ⅲ群a類土器が11点出土し、それ以外は3点出土している。床面からは、Ⅲ群b-2類土器が5点出土しており、覆土4層には10点、覆土3層には13点出土した。覆土下層の土器は住居の南西部分に集中している。床面の土器は覆土下層の土器の東部分に集中している。住居北半は遺物の分布が希薄である。遺構内接合は床面においてみられる。2・3は萩ケ岡2式の口縁部破片である。4は柏木川式の口縁部破片である。石器はフレイクチップが37点出土しているほかは、RFが覆土4層から1点出土している。

時期 Ⅲ群b-2類土器の時期、縄文時代中期ごろの柏木川式期。

(鈴木)

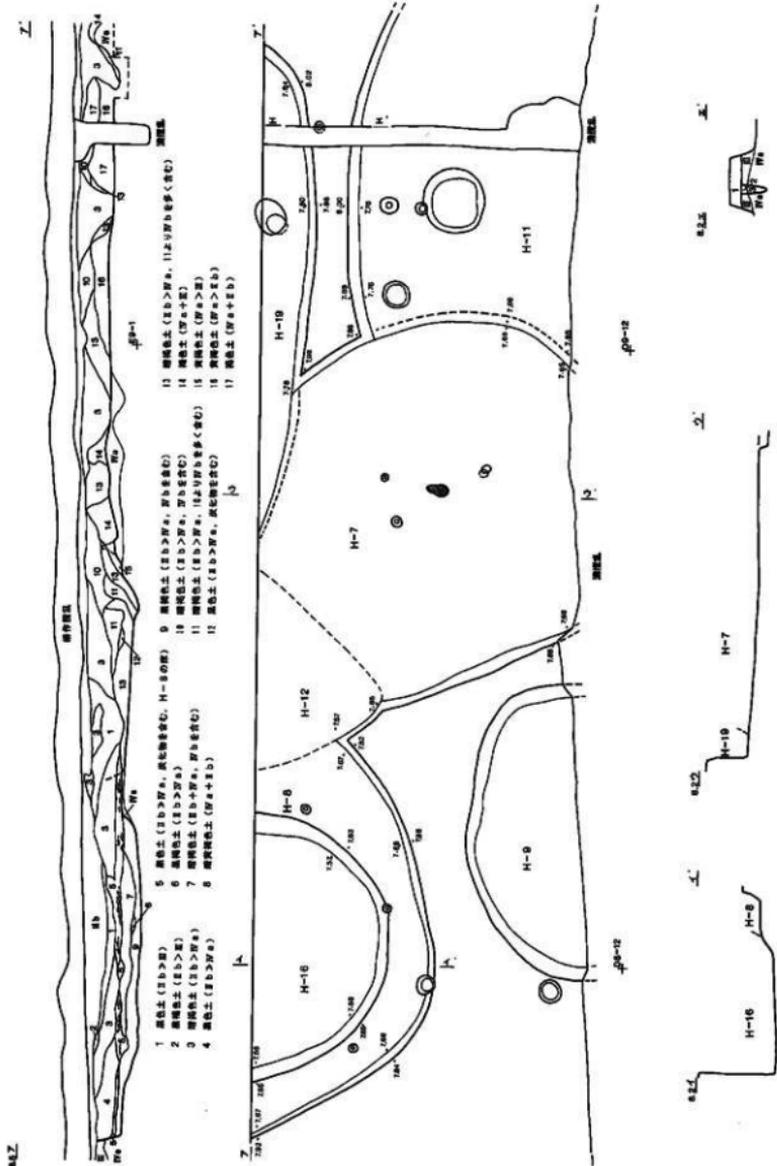
Ⅲ オサツ14遺跡の調査



- 1 黒色土 (黒土 > 灰土 : N1. 5/4, P-5 の遺土, φ 5mm以下を少量含む, 焼りなし。)
- 2 暗オリーブ褐色土 (灰土 > 黒土 + 灰土 + 灰土 : Hx1. 5/2/1, φ 10mm以下を含む。)
- 3 黒色土 (黒土 + 灰土 > 灰土 + 灰土 : Hx1. 5/2/1, φ 10mm以下を含む, 焼りなし。)
- 4 暗褐色土 (灰土 + 灰土 > 黒土 + 灰土 : Hx1. 5/2/1, φ 10-15mm以下を多量に含む, 炭化物も多量を含む。)



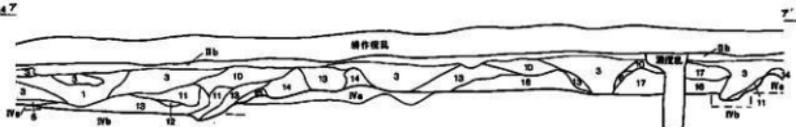
図Ⅲ-20 H-4



図中-21 H-7・8・9・11・12・16・19

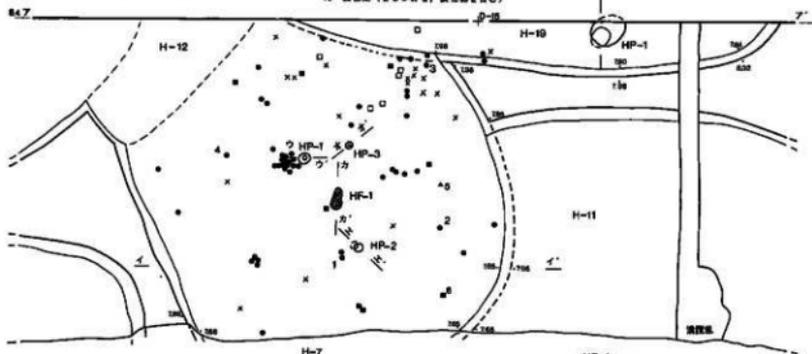
Ⅲ オサツ14遺跡の調査

647



- | | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒色土 (E b > W) | 7 緑褐色土 (E b + W a, W b を含む) | 13 緑褐色土 (E b > W a, 11よりW bを多く含む) |
| 2 黒褐色土 (E b > W) | 8 暗黄褐色土 (W a + E b) | 14 褐色土 (W a + E) |
| 3 緑褐色土 (E b > W a) | 9 黒褐色土 (E b > W a, W b を含む) | 15 黄褐色土 (W a + E) |
| 4 黒色土 (E b > W a) | 10 緑褐色土 (E b > W a, W b を含む) | 16 黄褐色土 (W a + E b) |
| 5 黒色土 (E b > W a, 炭化物を含む, H-8の層) | 11 緑褐色土 (E b > W a, 11よりW bを多く含む) | 17 褐色土 (W a + E b) |
| 6 黒褐色土 (E b > W a) | 12 黒色土 (E b > W a, 炭化物を含む) | |

647



H-11 HP-1 土層図記

- 1 緑褐色土 (E b > W a, W b を含む)
- 2 暗黄褐色土 (E b + W a)

647

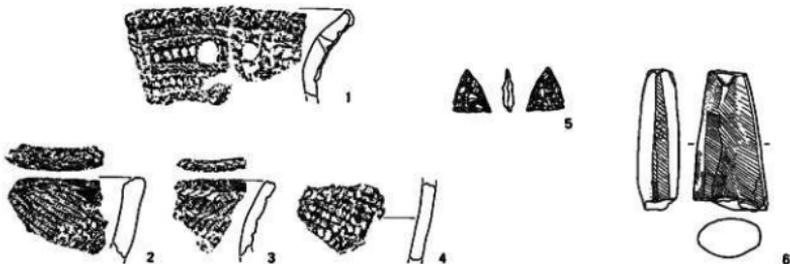
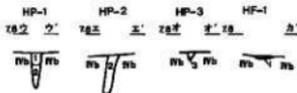


H-7 HP-1-2-3土層図記

H-7 HP-1土層図記

- 1 褐色土 (W a + E b)
- 2 緑褐色土 (E b + W a)
- 3 黒色土 (E b, ちり)

1 腐土 (暗黄褐色土を呈し、染けが深(緑がっていない))



図Ⅲ-22 H-7・19

H-7・19・16・8・12・9・10・11について

側溝攪乱北側のB8・9区にかけてⅡb層の落ち込みと掘り上げ土の広がりを確認した。側溝攪乱の断面で堅穴のセクションを確認した。当初3基(H-8・16, H-7・11・12, H-10)の堅穴住居跡を想定して調査を進めていたが、さらに調査区域境界にトレンチを掘り、4基(H-8, 12, 16, 19)の堅穴のセクション住居跡を確認した。この一帯でH-7・8・9・11・12・16・19の7基の住居跡を検出した。このうち6基は切り合い関係にある。これらの新旧関係は、H-16・H-12⇨H-8, H-11⇨H-7⇨H-12・19になる。こうした切り合いがあるので、H-7・19・16・8・12・9・10・11の順に記述していく。

H-7 (図Ⅲ-21・22, 図版Ⅲ-16・18)

位置 B9

規模 -/-×(2.91)/2.84×0.26m

表Ⅲ-12 H-7付属施設一覧

No.	用途等	規模(土層の底面×壁面×高・厚m)	内訳	備考
HP1	柱穴	9×9×29		
HP2	"	6×6×32		
HP3	柱穴?	7×7×7		
HF1	床面焼土	17×9×2		

調査 D9区の側溝攪乱の断面で堅穴のセクションを確認した。当初、セクションでは2軒と捉え難く、壁の立ち上りと出土遺物からH-11を切るH-7を認定した。堅穴の北側はH-12とH-19に切られており、南側は側溝により破壊されている。長軸はほぼ北-南に向いており、平面形は楕円形と推定される。覆土は黒色土主体で、掘り込みはIVb層まで達している。壁は比較的鋭く立ち上がっている。床は平坦で、中央にひょうたん形の炉(HF-1)が検出された。これを取り囲むようにHP-1~3を検出した。いずれも細く、HP-3は浅い。断面から杭状のものが想定される。

遺物 覆土から床までⅡ群a類・Ⅱ群b類・Ⅲ群a類・Ⅲ群b-2類の土器片が95点混在しているが、主体となるのは61点出土しているⅢ群a類である。HP-1の横の床に集中している。1は覆土と堅穴上部包含層出土の土器片が接合したⅢ群a類である。口縁は外反し補修孔が穿たれている。口唇と横環する貼付帯を縦の貼付帯で繋ぎ、貼付帯には細かい縄文が押捺されている。文線帯には縄文による圧痕と、貼付帯に沿って2本1組の縄文が施されている。内面は磨かれており、胎土に砂を含む。2は地文にRL+LRの結束羽状縄文が施され、胎土に砂を含む。内傾する口唇にRLの縄文が施されている。3は口縁が外反し、口唇と器面に縄文が施されている。縄文には途中でLRからRLに変わっているものもある。いずれも覆土出土のⅢ群b-2類である。4は床出土のⅢ群a類で、地文にRL+LRの結束羽状縄文が施されている。内面は磨かれている。石器類は石鏃1点、Rフレイク1点、石斧1点、石斧薄片6点、フレイクチップ68点、礫片5点の計82点が出土している。5は覆土出土の無茎の石鏃である。6は床出土の磨製石斧である。石材は片岩で刃部が欠損している。

時期 Ⅲ群a類の時期、縄文時代中期前葉の円筒土器上層式期の遺構であろう。(鎌田)

H-19 (図Ⅲ-21・22, 図版Ⅲ-16)

位置 B9

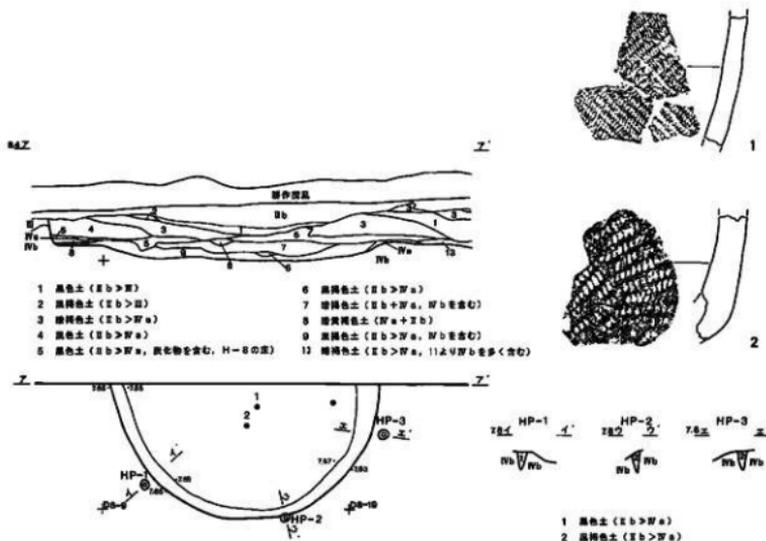
規模 -/-×-/-×0.20m

調査 調査区域境界のトレンチで堅穴のセクションで確認した。H-7を切る堅穴である。ともにH-7を切るH-12とは直接関わらないが、H-12より掘り込み面が明瞭であることから、H-12よりも新しいものと推定される。ほとんどの部分は調査区域外にあるため長軸・平面形は不明であるが、大型の住居跡と推定される。東側は暗渠による

表Ⅲ-13 H-19付属施設一覧

No.	用途等	規模(土層の底面×壁面×高・厚m)	内訳	備考
HP1	柱穴	28×23×19		内傾

攪乱を受けている。覆土はⅡb層主体の土の下にIVa層の土が堆積している。壁は比較的鋭く立ち上り、床は平坦でIVb層まで掘り込まれている。柱穴は東に傾く太いHP-1が検出された。



図III-23 H-16

遺物 覆土からⅡ群a類の土器片2点、フレイクチップ1点が出土している。

時期 縄文時代中期以降の遺構と考えられる。

(鎌田)

H-16 (図III-21・23, 図版III-17)

位置 D8

規模 -/-x-/-x0.10m

調査 調査区域境界のトレンチにより堅穴のセクションを確認した。掘り込みはIV b層まで達しており、H-8により上部が破壊されている。北半分は調査区域外にあり、長軸・平面形は不明であるが、ほぼ北-南長軸で平面形は円形と推定される。堅穴の外にHP-1~3が廻っている。いずれもほぼ同じ規模であり、堅穴の周囲に柱穴が廻る形態と推定される。

遺物 Ⅱ群a類の土器片が覆土と床から4点、Ⅱ群b類の土器片が覆土から3点出土している。

1は覆土のⅡ群b類で地文にRLとLRの斜行縄文が施されている。2は床出土のⅡ群a類で地文にLRの斜行縄文が施されている。いずれも胎土に砂を含む。ほかに床からフレイクチップが1点出土している。

表III-14 H-16付風施設一覽

No.	用途等	規模(上縁の長さ×縦向き長さ・深さ) 穴径	備考
HP1	分注穴	7×7×14	
HP2	"	7×7×16	
HP3	"	8×8×15	

時期 Ⅱ群a類の時期、縄文時代前期の静内中野式期の遺構であろう。

(鎌田)

H-8 (図III-21・24, 図版III-17・18)

位置 D8

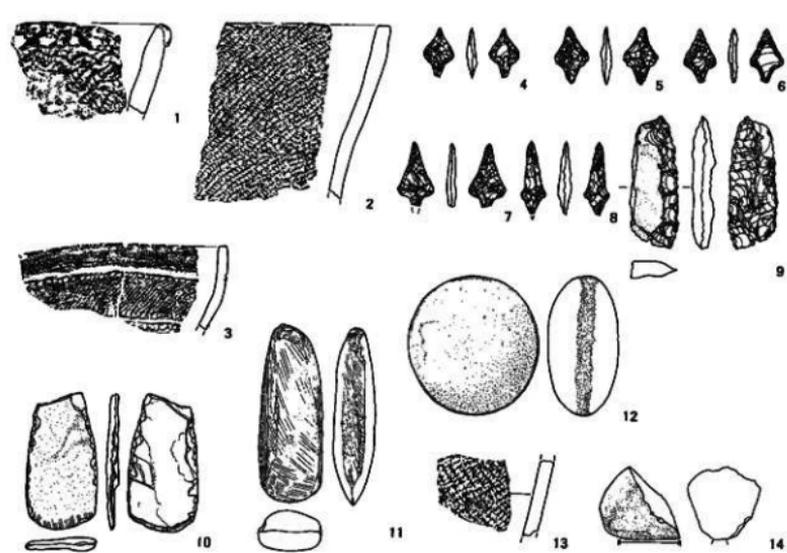
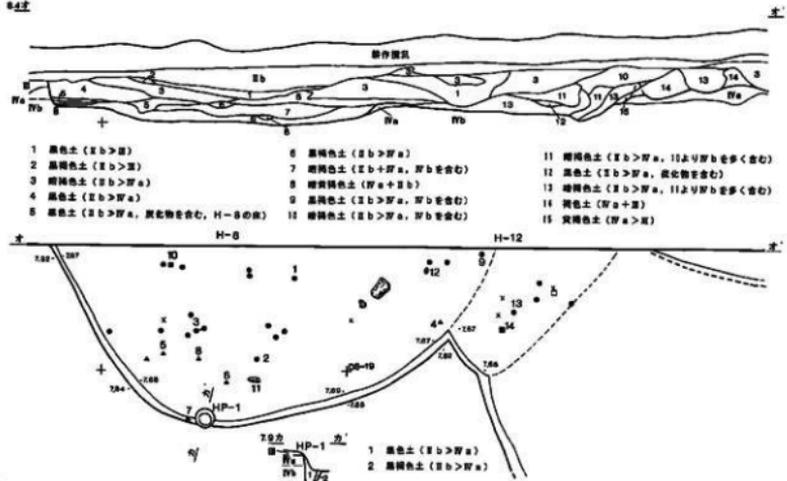
規模 -/-x-/-x0.19m

調査 調査区域境界のトレンチで堅穴のセクションを確認した。床の黒色土の下にH-16の覆土

表III-15 H-8付風施設一覽

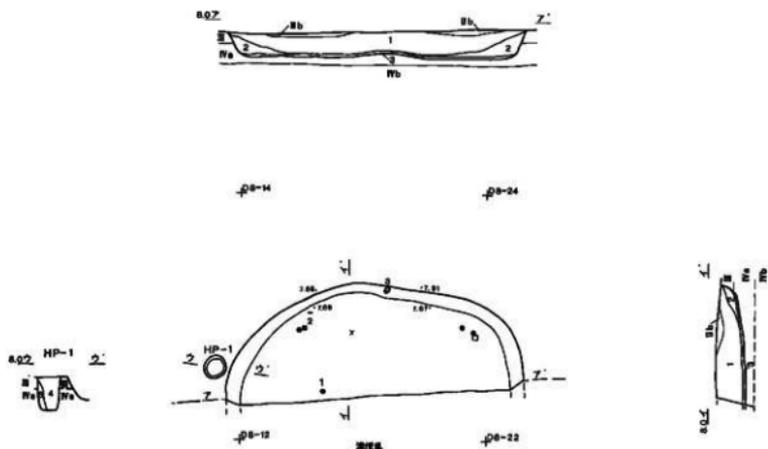
No.	用途等	規模(上縁の長さ×縦向き長さ・深さ) 穴径	備考
HP1	堅柱穴	15×15×11	

442



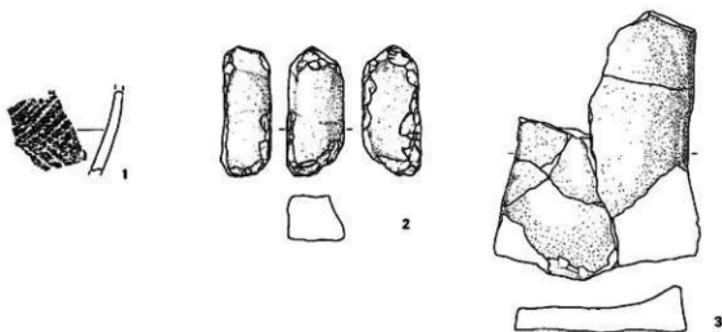
図Ⅲ-24 H-8・12

III オサツ14遺跡の調査



H-9土器注記

- 1 黒褐色土 (E b > 灰, Wa b を含む)
- 2 黒色土 (E b > Wa)
- 3 緑褐色土 (E b > E b)
- 4 黒色土 (E b > Wa)
- 5 緑褐色土 (Wa + E b)



図III-25 H-9

の黒褐色土が堆積している。掘り込みはIV b層まで達しており、H-16の埋没後、この上部を破壊して構築された竪穴である。また、セクションからH-12を切っていることを確認した。北半分は調査区域外であり、長軸・平面形は不明であるが、北-南長軸で平面形は長楕円形と推定される。壁は比較的鋭く立ち上がる。1基検出した柱穴は壁柱穴である。

遺物 覆土にはII群a類からIV群b類までの土器片が混在しているが、床からはII群a類が1点、III群a類が3点出土している。1~3は覆土出土の土器である。1はIII群b-2類で、地文にLRの縄文が認められる口縁貼付帯と外傾する口唇に半截竹管状工具による刺突、口縁部には縄線文が施されている。2・3はIV群b類である。2は器面に地文のLR斜行縄文のみが認められる。胎土に小礫を含む。3は地文に細かいLRの縄文が施され、口縁に区画した磨消しがある。沈線に沿って棒状工具により列点文が施されている。いずれも口唇断面は角形で、内面は平滑である。石器は石鏃・Rフレイク・石斧各1点と石斧薄片6点、フレイクチップ68点、礫・礫片5点が出土している。4~6・8は床出土、7は覆土出土の石鏃、9は床出土のスクレイパーである。10は覆土出土の泥岩製の石斧、11は床出土の泥・砂岩製の石斧である。12は床出土のたたき石である。石材は安山岩である。

時期 III群a類の時期、縄文時代中期の円筒土器上層式期の遺構であろう。(鎌田)
H-12 (図III-21・24, 図版III-16・18)

位置 D8

規模 -/-x-/-x0.17m

調査 当初、H-7と混同していたが、壁の立ち上がりと調査範囲境界のセクションで別の遺構であると判明した。セクションからH-7を切り、H-8に切られる竪穴と判断した。IV b層まで掘り込まれており、わずかに残った壁は比較的鋭く立ち上がる。大部分が調査区域外にあるため、規模・長軸・平面形は不明である。H-7・8・12とも床のレベルはほとんど同じであるため切り合い部分は床の範囲を破線で示した。

遺物 覆土・床からIII群a類を中心に18点の土器片が出土している。13は覆土出土のIII群a類で、地文はLR+RLの羽状縄文、内面は平滑で胎土に砂を含んでいる。石器は石斧薄片5点、すり石1点、フレイクチップ14点と礫片1点が出土している。14は床出土の安山岩製のすり石である。

時期 III群a類の時期、縄文時代中期の円筒土器上層式期の遺構であろう。(鎌田)
H-9 (図III-21・22, 図版III-16・18)

位置 D8

規模 -/-x-/-x0.20m

表III-16 H-9付属施設一覧

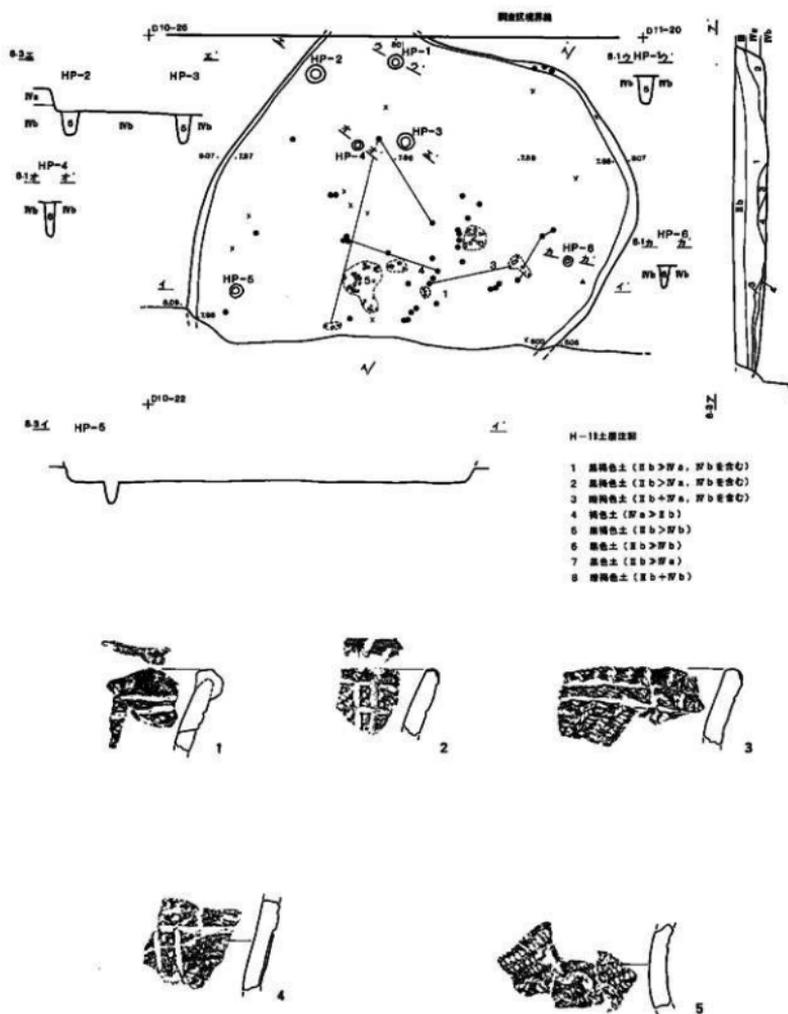
No.	用途等	規模 [上端の長さ×底×厚(m)]	内訳	備考
HP1	外柱穴	19×17×28		

調査 D8区の側溝攪乱の断面で竪穴のセクションを確認した。II b層の下にII b層主体の黒褐色土が堆積しその下の壁際には黒色土がたまっていた。床にはIII層主体の暗褐色土が薄く堆積している。掘り込みはIV a層まで達しており、床はほぼ平坦である。南側は側溝攪乱により失われている。竪穴の外に柱穴を1基検出した。隣接するH-7・8を繋ぐトレンチを掘ってセクションを観察したが両者との先後関係は見出せなかった。

遺物 1は床出土のI群b-4類の土器片である。竪穴構築時に掘り上げられたものが流れ込んだと考えられる。地文に自縄自巻のLR+RLの羽状縄文が施されている。ほかに覆土・床からIII群a類の土器片が4点出土している。2は覆土出土の砂岩製のたたき石である。3は床出土の砥石である。ほかに床からフレイクチップが1点出土している。

時期 III群a類の時期、縄文時代中期の円筒土器上層式期の遺構であろう。(鎌田)

III オサツ14遺跡の調査



図三-26 H-10

H-10 (図Ⅲ-26, 図版Ⅲ-19)

位置 D10・11

規模 $-/- \times 3.09 / 2.97 \times 0.27\text{m}$

調査 D10・11区の側溝攪乱の断面で堅穴のセクションを確認した。北側の一部は調査区域外である。上部はH-28により破壊されており、南側1/4ほどは側溝攪乱により失われている。長軸は北東-南西に向いており、平面形はいびつな楕円形と推定される。床はほぼ平坦で、柱穴は6基検出されている。大きさや断面の共通性から、HP-1・2・3とHP-4・5・6の2つに分けられる。

遺物 床に近い覆土からⅢ群b-2類の土器片72点と不明細片1点が出土している。1~5は同一個体である。地文はLRの斜行縄文である。内面は平滑で、胎土に砂を含む。1は口唇の小突起に面取りがあり、口唇外面には縄による刻みが認められる。2は口唇に蕪状工具による刻み、口唇外面に縄による刻みが施されている。器面には縦横に沈線が引かれている。3は口唇外面に縄による刻みが認められ、器面に縄線文と沈線文が施されている。4は器面に縦横に沈線が引かれている。5には綾格文が施されている。石器類は覆土からポイント・ナイフ1点、フレイクチップ14点が出土している。

時期 Ⅲ群b-2類の時期、縄文時代中期の柏木川式期の遺構であろう。

(録田)

表Ⅲ-17 H-10付属施設一覧

No.	用途等	規模 (上端の長さ×幅×深) (内は建設)	備考
HP1	柱穴	15×15×19	
HP2	"	14×14×23	
HP3	"	12×14×23	
HP4	"	8×8×28	
HP5	"	7×7×18	
HP6	"	10×10×18	

H-11 (図Ⅲ-21・27~30, 図版Ⅲ-20・21)

位置 C9・10, D9・10

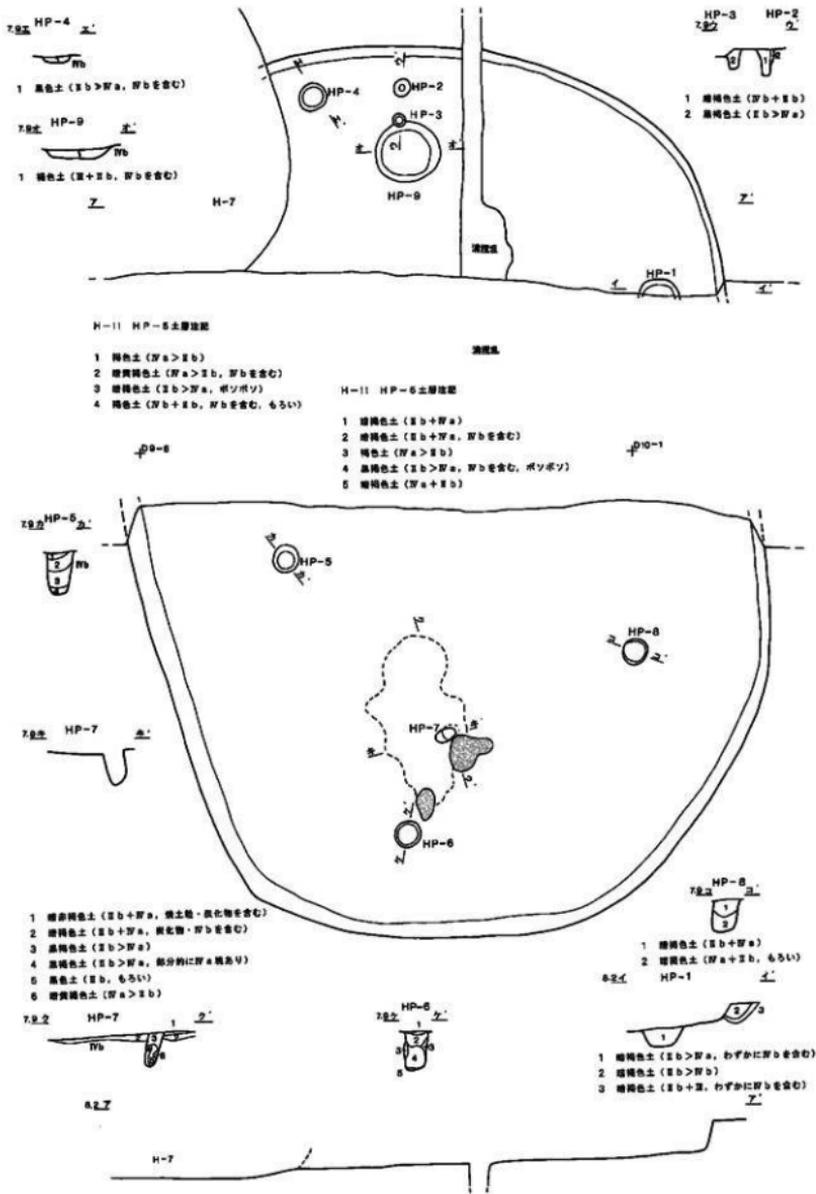
規模 $7.34 / 7.10 \times (4.99) / 4.81 \times 0.32\text{m}$

調査 C9・D9区の側溝攪乱の断面で堅穴のセクションを確認した。側溝攪乱により分断されている。北西側はH-7により切られ、北東側は暗渠による攪乱を受けている。長軸はほぼ北-南に向いており、平面形は小判形である。掘り込みはIVb層に達しており、床は平坦である。堅穴の北側の側溝攪乱に接して炭化物の集中、南側で焼土粒・炭化物を含む広がりや炭化物混じりの土の広がりを検出した。また、側溝の南側の堅穴西壁付近でフレイクチップの集中が検出された。HP-1~9の大小の土塊が検出されており、HP-1・4・5・6・8が柱穴である。HP-2・3はこれらより小さい。HP-9は出土遺物から、Ⅲ群a類、縄文時代中期の円筒土器上層式期の土塊と思われる。H-11を切っている。HP-2・3はHP-9と関連があるものと推定される。

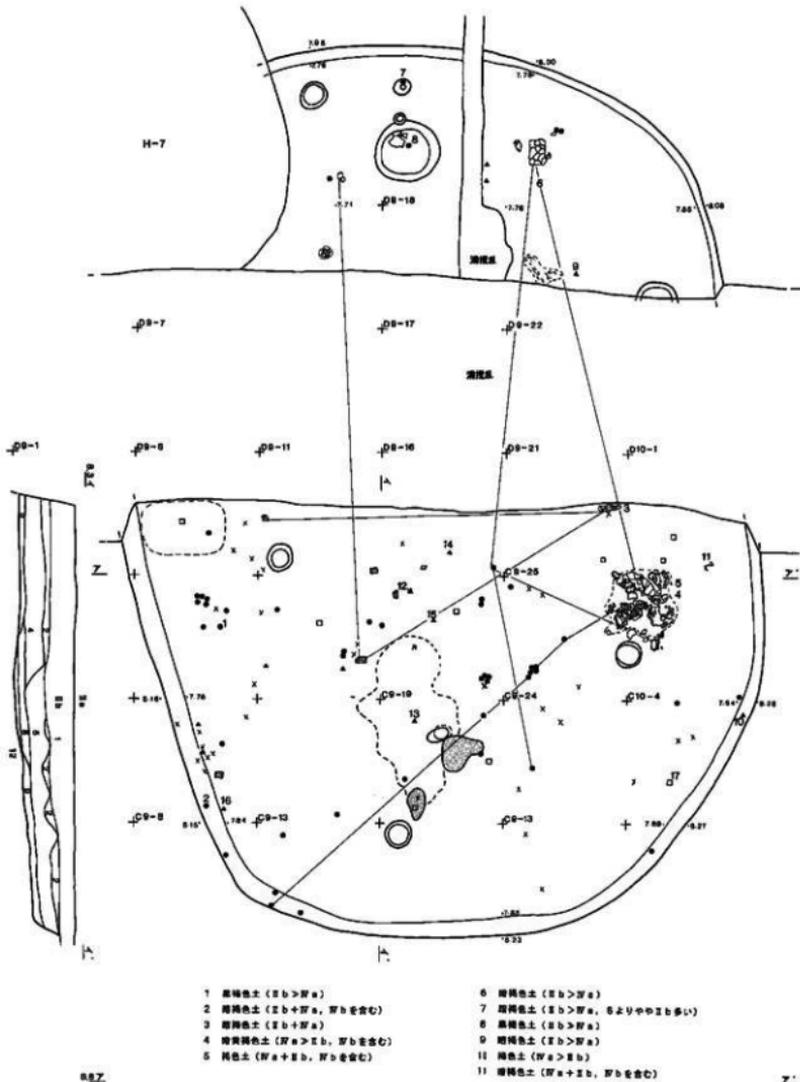
表Ⅲ-18 H-11付属施設一覧

No.	用途等	規模 (上端の長さ×幅×深) (内は建設)	備考
HP1	柱穴	33 × (25) × 15	半壊
HP2	"	13 × 13 × 16	
HP3	"	10 × 9 × 22	HP9と重なる
HP4	柱穴?	23 × 21 × 5	
HP5	柱穴	23 × 20 × 33	
HP6	"	21 × 21 × 32	
HP7	"	17 × 10 × 27	
HP8	"	22 × 20 × 26	
HP9	付属土塊	53 × 49 × 8	HP3と重なる
HF1	床面遺土	36 × 28 × 2	
HF2	"	25 × 15 × 2	

III オサツ14遺跡の調査



図III-27 H-11

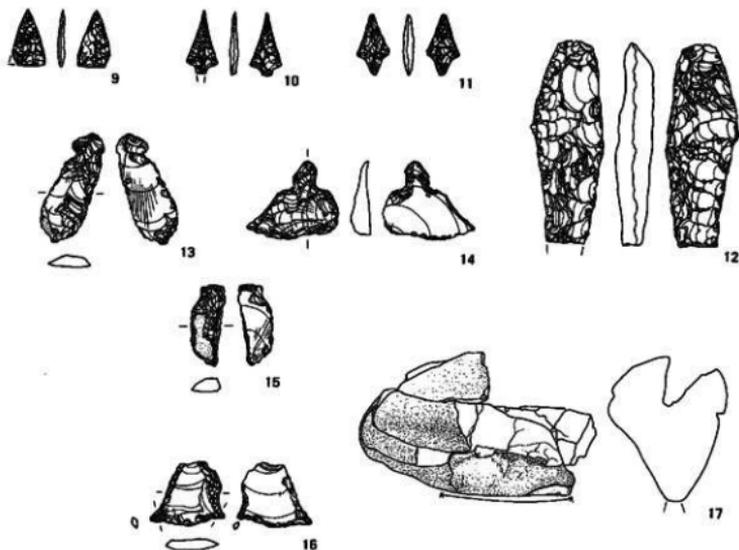


図Ⅲ-28 H-11遺物分布図

III オサツ14道跡の調査



図三-29 H-11の土器

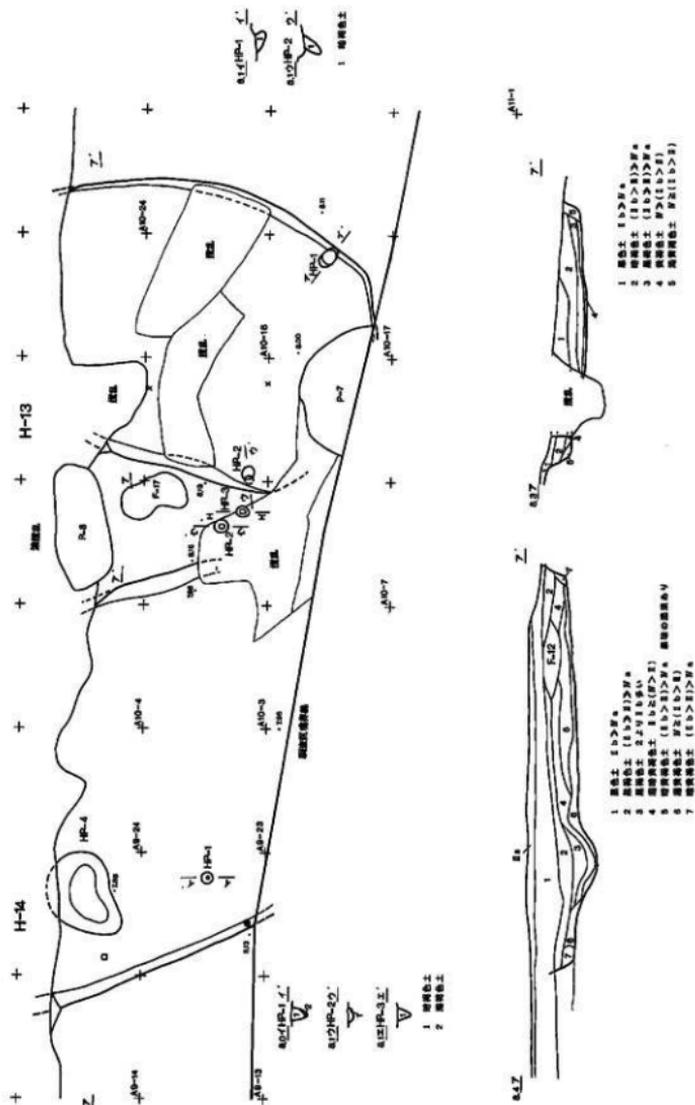


図Ⅲ-30 H-11の石器

遺物 土器片は216点出土している。覆土から柱穴までⅠ群a類・Ⅱ群a類・Ⅱ群b類・Ⅲ群a類・Ⅳ群b類が混在しているが、主体となるのは129点出土しているⅡ群a類である。床の2ヵ所で土器片が集中して出土している。1～7はⅡ群a類で、胎土に繊維を含む。1は覆土出土で、口唇が丸みを帯び、地文にRLの縄文が施されている。胎土に小礫を含む。2～5は床出土のもので地文にLRの縄文が施されている。2は口唇が角形である。6は覆土と床出土の土器片が接合したもので、器形は砲弾形、丸底の深鉢と思われる。7はHP-2出土で、地文はLR+RLの羽状縄文である。8はHP-9出土のⅢ群a類である。頸部に2本1組の縄文が施されている。地文はLR+RLとRL+LRの結束羽状縄文である。内面は平滑で、胎土に砂を含む。石器類は石鏃5点、石錐1点、スクレイパー1点、Uフレイク6点、石斧1点、石斧薄片2点、すり石1点、砥石2点、フレイクチップ363点と礫片1点の398点が出土している。9～11は覆土出土の石鏃である。9は無茎平基、10・11は有茎凸基のものである。12は覆土出土のポイント・ナイフである。13～15は床出土のつまみ付きナイフである。13・15は縦形、14は横形である。16は床出土の石錐である。17は床と覆土で出土した破片が接合した安山岩製のすり石である。

時期 Ⅱ群a類の時期、縄文時代前期の静内中野式期の遺構であろう。

(鎌田)



図III-31 H-13・14

H-13 (図Ⅲ-31, 図版Ⅲ-22)

位置 A10

規模 $-(2.58) \times 2.33 / 2.14 \times 0.27\text{m}$

調査 A9・10区のⅡb層調査中に、Ⅳ層混じりの広がりを確認した。セクション観察から、2軒の堅穴と2基の土壇・2基の焼土の存在を認定した。

H-13は、上層からの攪乱で浅い掘り込みしか認識できず、しかも北側は側溝による攪乱で失われている。南側端もP-7と調査範囲外などで不明確である。平面形は残る壁から、長軸を北東-南西に向けた、西側に張りのない楕円形と推定される。上層からの攪乱は中央部の床面にまでおよんでおり、炉が検出されなかったのもこのためかもしれない。柱穴は、内傾する2本の壁柱穴を確認した。この配列から、失われた北側の対称的位置にも2本の壁柱穴があり、計4本の壁柱穴で構成されていたものと考えられる。

表Ⅲ-19 H-13付属施設一覽

No.	用途等	規模 (上層の長さ×縦長×厚) (約は推定)	備考
HP1	壁柱穴	17×11×17	内傾
HP2	"	10×10×12	内傾

遺物 図示していないが、覆土3層から黒曜石のスクレイパー、床面からメノウのフレイクチップが出土している。土器はなかった。

時期 周辺の状況から縄文時代中期と推定される。

(三浦)

H-14 (図Ⅲ-31, 図版Ⅲ-22)

位置 A9, A10

規模 $-(2.14) \times 2.96 / 2.80 \times 0.35\text{m}$

調査 H-13と同時に確認した。北側1/3は旧側溝による攪乱で失われており、南側も1/3が調査範囲外と上層からの攪乱で不明である。平面形は残る壁から、長軸を北-南に向けた、長楕円形と推定される。炉はみつかっておらず、失われた北部分にあったものと思われる。不整形の付属土壇が西寄りにある。HP-1~3はともに浅く、2本は外にある。他に柱穴らしきものはなく、柱の構成は不明である。覆土にあるF-12は、H-14の埋没の窪みを利用した上層遺構の炉の可能性はある。

表Ⅲ-20 H-14付属施設一覽

No.	用途等	規模 (上層の長さ×縦長×厚) (約は推定)	備考
HP1	柱穴	9 × 9 × 14	
HP2	外柱穴	10 × 10 × 5	
HP3	"	9 × 9 × 10	H-13の外柱穴か
HP4	付属土壇	76 × (50) × 17	一部破壊

遺物 壁際の覆土7層からⅢ群a類の土器片1点が出土している。覆土や床面直下からは黒曜石のフレイクチップと礫片も出土している。

時期 Ⅲ群a類土器の時期、縄文時代中期前半円筒上層式期であろう。

(三浦)

H-15 (図Ⅲ-32, 図版Ⅲ-23, 表Ⅲ-21)

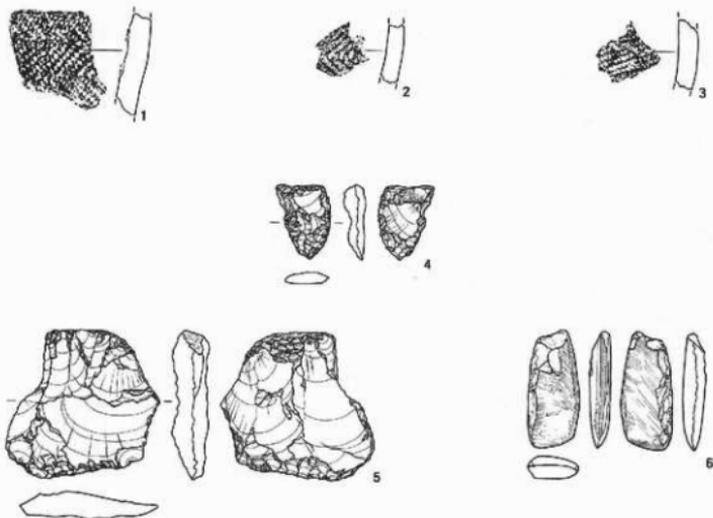
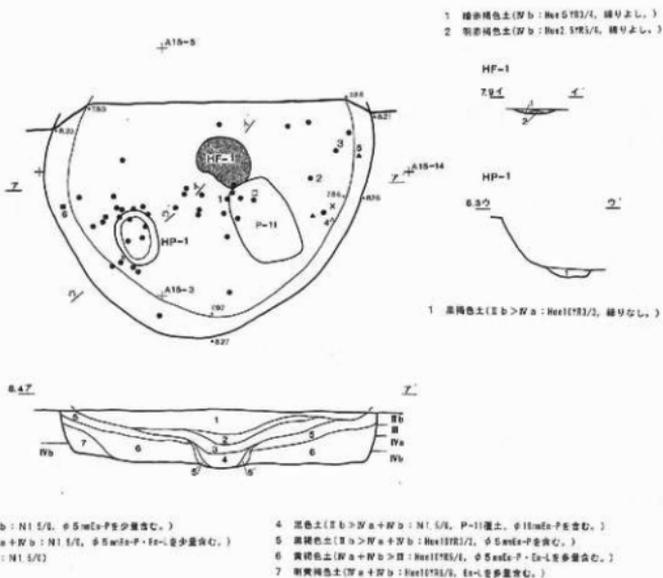
位置 A14, 15

規模 $(2.04) / (1.83) \times (1.91) / (1.79) \times 0.45\text{m}$

調査 遺構の北東側にある側溝攪乱の断面で、遺構を確認した。平面形はほぼ円形に近い楕円形。長軸方向はN-72°-Wである。覆土は、流入土の5・6層によって構成され、覆土7層は壁面崩落土である。H-1・2に比べて腐植土の流入が多い。

床面は平坦でⅣb層を8~17cm掘り込んで作られている。壁はほぼ上方向に立ち上がる。柱穴は確認できなかった。HP-1は付属土壇で、住居の長軸上の西端に位置している。平面形は楕円で、断面は皿状を呈し浅い。HF-1は地床炉で住居の中央に位置し、平面は不整形。炉の土をフローテーションした結果、炭化物0.22g以外に種子などは検出されなかった。

III オサツ14遺跡の調査



図III-32 H-15

遺物 土器はⅢ群b-2類土器が33点出土し、Ⅳ群b類土器が13点出土し、それ以外は18点出土している。床面からの出土はない。覆土6層にはⅢ群b-2類土器が10点出土しており、覆土5層にはⅢ群b-2類土器10点出土している。覆土1層にはⅣb類土器が12点出土した。覆土下層の土器は住居の西部に集中している。住居北半は遺物の分布が希薄である。1~3は柏木川式の胴部破片である。掲載石器はいずれも覆土5層から出土している。4はスクレイパー、剥片のはしの部分を素材

としている。背面側基部に微細な調整が施される。

5もスクレイパー、砒岩の円礫を原石としている。

時期 Ⅲ群b-2類土器の時期、縄文時代中期中ごろの柏木川式期。(鈴木)

表Ⅲ-21 H-15付属施設一覽

No.	用途等	種類(上端の番号×縦幅×深) : 内径寸法	備考
HP1	付属土庫	46×34×6	
HF1	炉	46×34×4	

H-17 (図Ⅲ-33、図版Ⅲ-24、表Ⅲ-22)

位置 A14, 15

規模 - / - x - / - x 0.20m

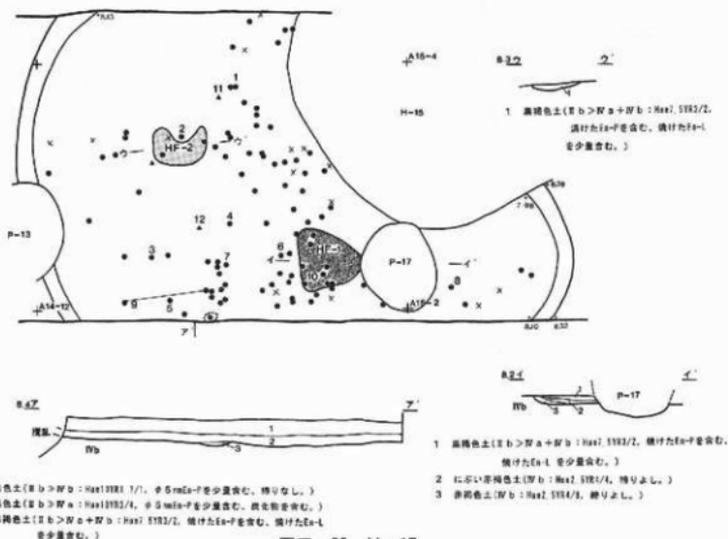
調査 遺構の北東側にある側溝攪乱の断面で、遺構を確認した。平面形は楕円形。長軸方向はN-Sである。覆土は、流入土の1・2層によって構成されている。

床面は平坦でⅣb層を掘り込んで作られている。壁はほぼ上方向に立ち上がる。柱穴は確認できなかった。HF-1は地床炉で、平面は不整形。HF-2は焼土の塊。HF-1は地床炉で住居の長軸

上に位置している。平面は隅丸三角形。炉の上をフローテーションした結果、炭化物0.22g以外に種子などは検出されなかった。

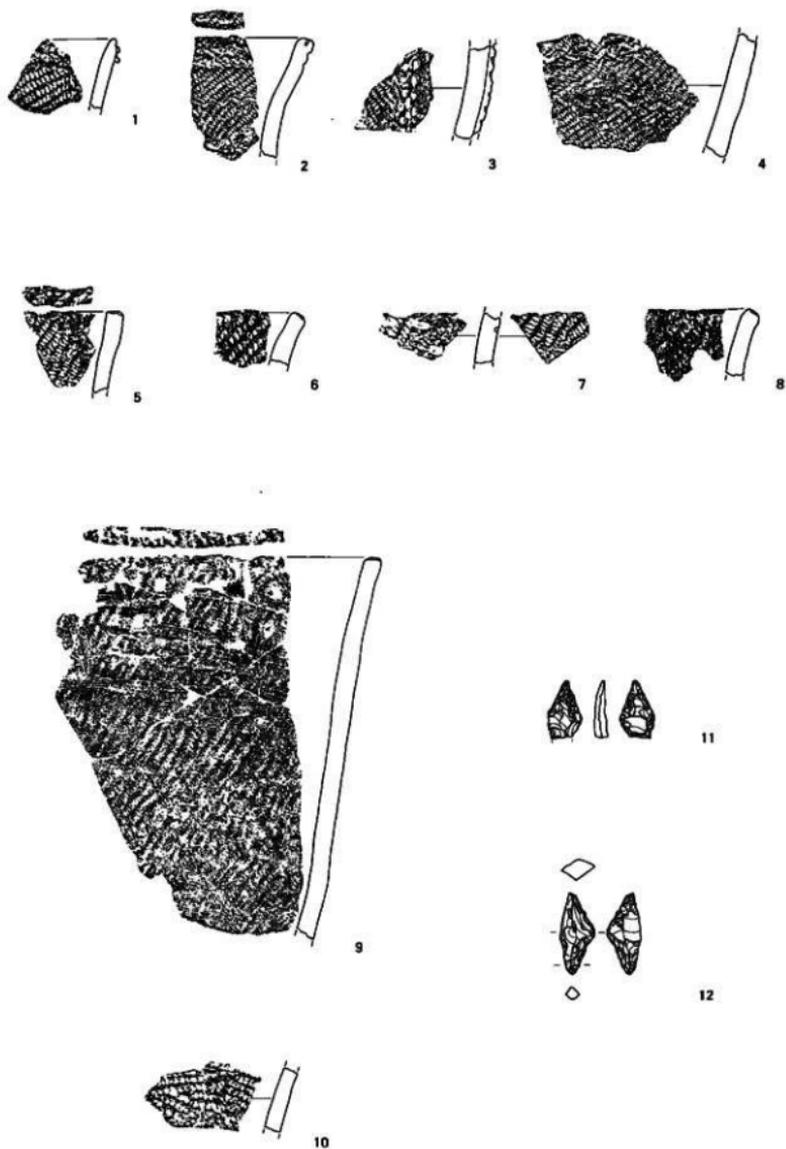
表Ⅲ-22 H-17付属施設一覽

No.	用途等	種類(上端の番号×縦幅×深) : 内径寸法	備考
HF1	炉	57×49×7	
HF2	未調査土	44×28×5	



図Ⅲ-33 H-17

III オサツ14遺跡の調査



図III-34 H-17の遺物

遺物 土器はⅢ群b-2類土器が173点出土し、不明土器が45点出土している。床面からの出土はない。覆土2層にはⅢ群b-2類土器が146点出土しており、覆土下層の土器は住居の中央部分に集中している。1~10は柏木川式の口縁部・胴部破片である。縄による施文を多用している。11は石鏝、欠損した基部を再調整している。12は石錐、白色のめのうを素材としている。先端部は磨滅して光沢もっている。

時期 Ⅲ群b-2類土器の時期、縄文時代中期中ごろの柏木川式。

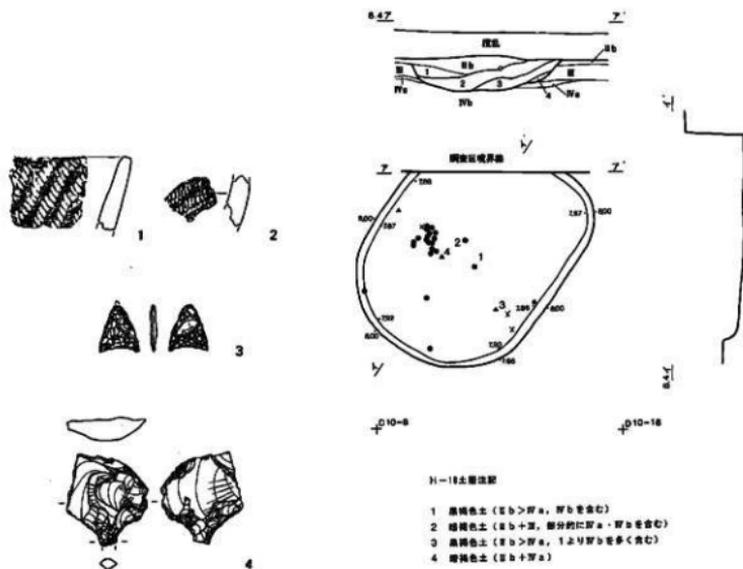
(鈴木)

H-18 (図Ⅲ-35, 図版Ⅲ-25)

位置 D10

規模 (1.69) / (1.63) × 1.55 / 1.42 × 0.16m

調査 D10区のⅡb層調査中に、楕円形のⅡb層の溜りと掘上げ土を確認した。調査区域境界のトレンチで堅穴のセクションを確認した。覆土はⅡb層主体であり、耕作によりⅡb層と覆土の一部が消平されている。長軸は北東-南西を向いており、平面形は角張った小判形を呈する小型の堅穴である。床はほぼ平坦で掘り込みはⅣb層に達している。北側の一部は調査区域外にある。壁は比較的鋭く立ち上がっている。炉・柱穴は検出されていない。



図Ⅲ-35 H-18

遺物 覆土から13点、床から9点のⅡ群a類の土器片が出土している。竪穴中央西寄りに集中が見られる。1は覆土出土のもので、口唇が角張っており、地文にLRの太い縄文が施されている。2は床出土のもので、LRの縄文が認められる。いずれも胎土に繊維を含んでいる。石器類は覆土からフレイクチップ5点、床から石鏃1点、石錐1点、Rフレイク1点、フレイクチップ4点が出土している。3は床出土の石鏃で、無茎凹基である。4は床出土の石錐で先端が欠損している。

時期 Ⅱ群a類の時期、縄文時代前期の静内中野式期の遺構であろう。(鎌田)

H-20 (図Ⅲ-36・37・38, 図版Ⅲ-26・27・28・29, 表Ⅲ-23)

位置 B・C・D15, 16

規模 (11.32) / (10.11) × 6.94 / 6.58 × 0.61m

調査 遺構の北半については耕作が遺構上面に及んでいたため、耕作土除去後に平面形が確認できた。また、遺構の北東側にある側溝攪乱の断面でも遺構が確認できた。平面形は隅が丸く、胴の張った長方形で、北端が調査範囲外である。長軸方向はN-32°-Eである。覆土は、流入土の1~4層と壁面崩落土と思われる5層、生活面の覆土6層によって構成されている。また、住居跡の周辺には掘揚げ土がみられた。調査当初、側溝攪乱を挟んで別な遺構と推定していたが深い柱穴や炉の並びと平面形からロングハウスであることを確認した。

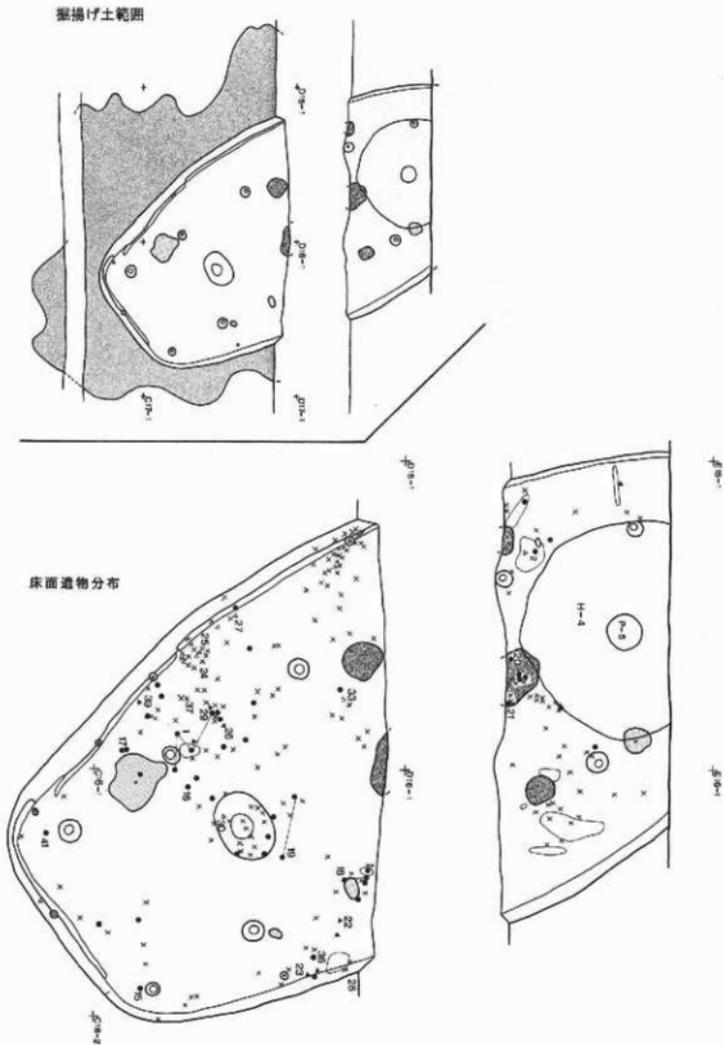
床面は平坦でIV b層を4~6cmを掘り込んで作られている。壁は内湾しながら外上方向に立ち上がる。壁立上り付近には深さ6cmの周溝がめぐる。周溝に付随して先端のやや尖る小柱穴がある。深さは8cmくらいである。主柱穴は長軸方向に2列5本ずつ配置される。深さは37~59cmである。主柱穴は断面は先が平坦である。HP-1は付属土庫で、住居の南側の長軸上に位置し、平面形は楕円で、壁は内湾しながら外上方向に立ち上がる。HF-1~5は地床炉で、2列の主柱穴の内側にはHF-2~5が位置しており、かつHF-3・5は住居南側の長軸上に位置している。HF-6~9は焼土の集積である。フローテーションした結果、炭化物2.38g以外に種子などは検出されなかった。

表Ⅲ-23 H-20付属施設一覧

No.	用途等	規模 (L壁の長さ×壁高×深・高) 穴は直径	備考
HP1	付属土庫	117 × 86 × 34	
HP2	主柱穴	36 × 36 × 55	
HP3	"	31 × 27 × 55	
HP4	"	35 × 34 × 59	
HP5	"	26 × 26 × 54	
HP6	"	27 × 27 × 53	
HP7	"	22 × 22 × 37	
HP8	"	35 × 35 × 59	
HP9	"	35 × 33 × 58	
HP10	壁柱穴	10 × 10 × 10	
HP11	"	11 × 11 × 8	
HP12	"	13 × 13 × 8	
HP13	"	15 × 15 × 9	
HP14	"	12 × 12 × 6	
HP15	"	12 × 12 × 10	
HF1	炉	46 × (30) × 2	半壊
HF2	炉	65 × 64 × 11	
HF3	炉	(95) × (72) × 6	半壊
HF4	炉	49 × 42 × 6	
HF5	炉	(150) × (80) × 10	大部分破壊
HF6	床面焼土	102 × 88 × 5	
HF7	"	24 × 14 × 4	
HF8	"	35 × 22 × 4	
HF9	"	48 × 44 × 3	

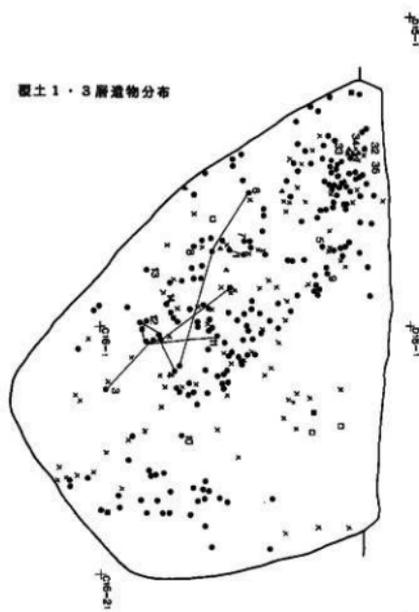
遺物 土器は、Ⅲ群a類土器が313点、Ⅲ群b-2類土器が225点出土しているその他は覆土1層からⅣ群a・b・c類が出土している。床面からはⅢa類土器が128点、Ⅲ群b-2類土器が5点出土しており、HP-1・HFからはⅢ群a類土器が12点出土している。覆土1・3層においては、住居西半に多く分布しており、後期前葉~中期中葉の土器に接合関係がみられる。覆土4・5層には土器があまり含まれておらず、接合関係がみられていない。床面においては住居西半に多く分布しており、中期中葉の土器に接合関係が1個みられるが、破片資料はほとんどが中期前葉の土器である。

1は萩ケ岡3式。2はⅢ群a類土器。3は入江式。4・5は焼溝式。6~8は柏木川式。9は萩ケ岡1式。10は萩ケ岡2式。15~17は円筒上層d・e式相当である。

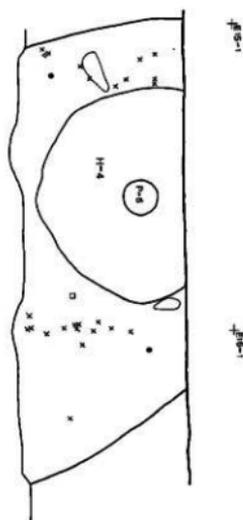
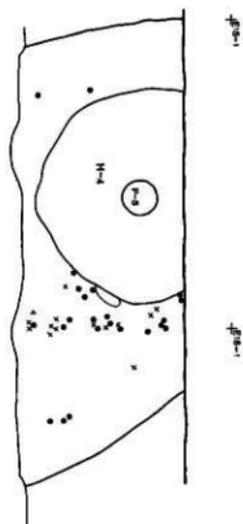
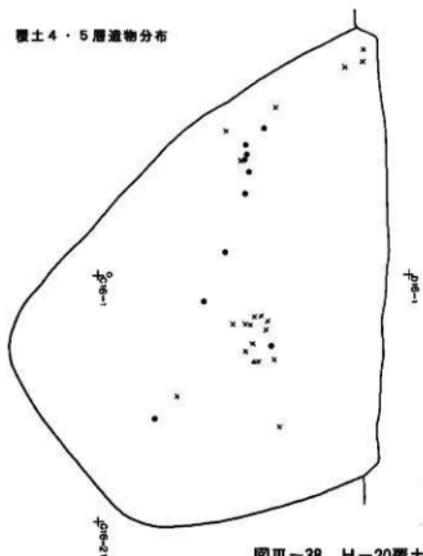


図Ⅲ-37 H-20床面遺物分布図・掘揚げ土

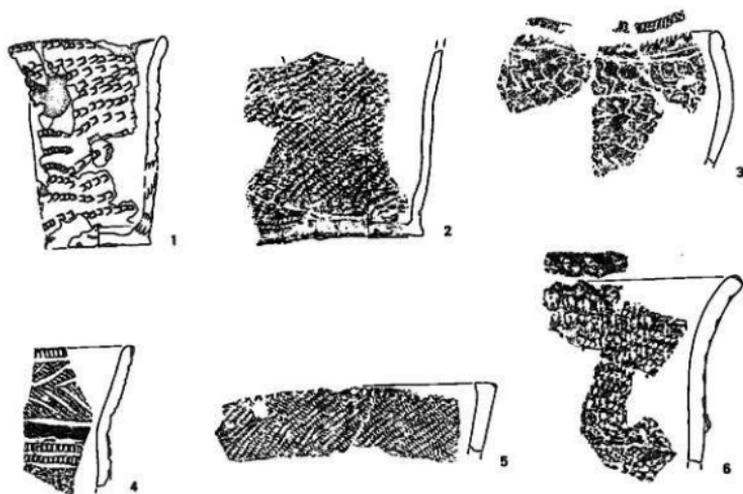
覆土1・3層遺物分布



覆土4・5層遺物分布



図III-38 H-20覆土遺物分布図



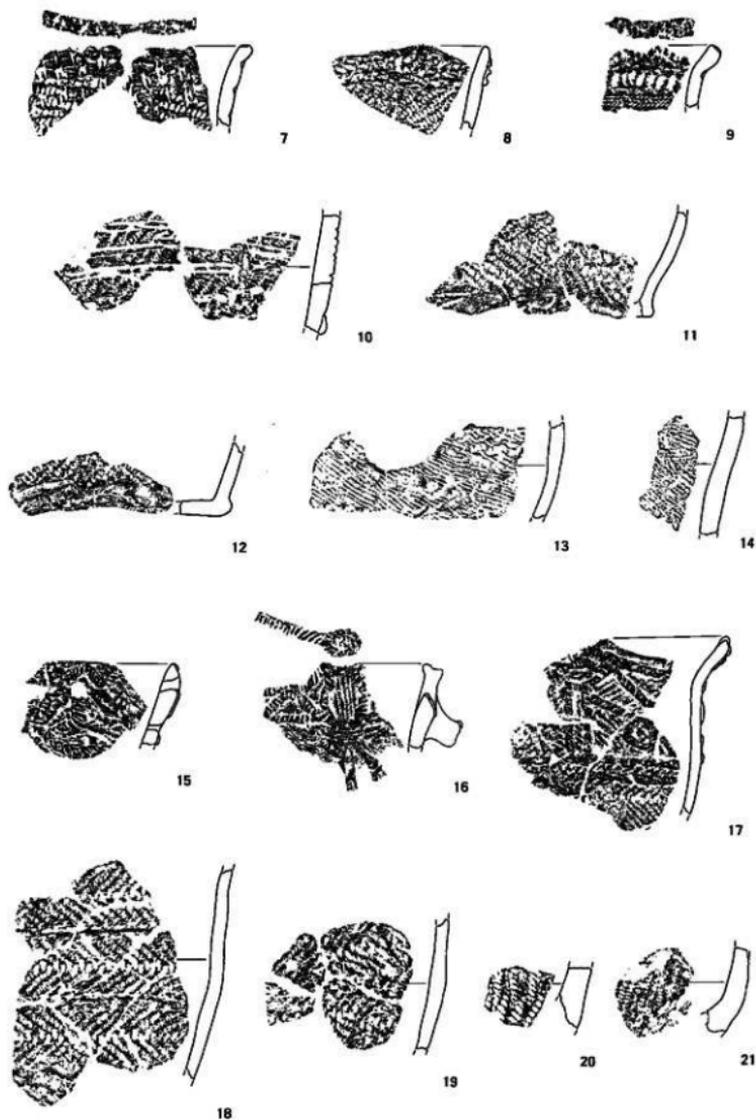
図Ⅲ-39 H-20の土器(1)

石器はおもに覆土1・3層と床面から出土している。石鏃が20点、石錐が2点、石核が1点、石斧が5点出土しており、他にはフレイクチップが6458点出土している。この出土点数は、オサツ14遺跡の住居中で最多を数えるものである。覆土1・3層においては、住居西半に多く分布しており、床面においても住居西半に多く分布しているものの、支柱穴よりも内側の範囲では希薄な分布を示している。床面におけるフレイクチップの集中(実線で囲った範囲)は住居北半部に多く、支柱穴よりも外側で、壁の立上り部分よりも内側に偏在する。HP-1、HF-1~5からはフレイクチップがわずかに検出されている。

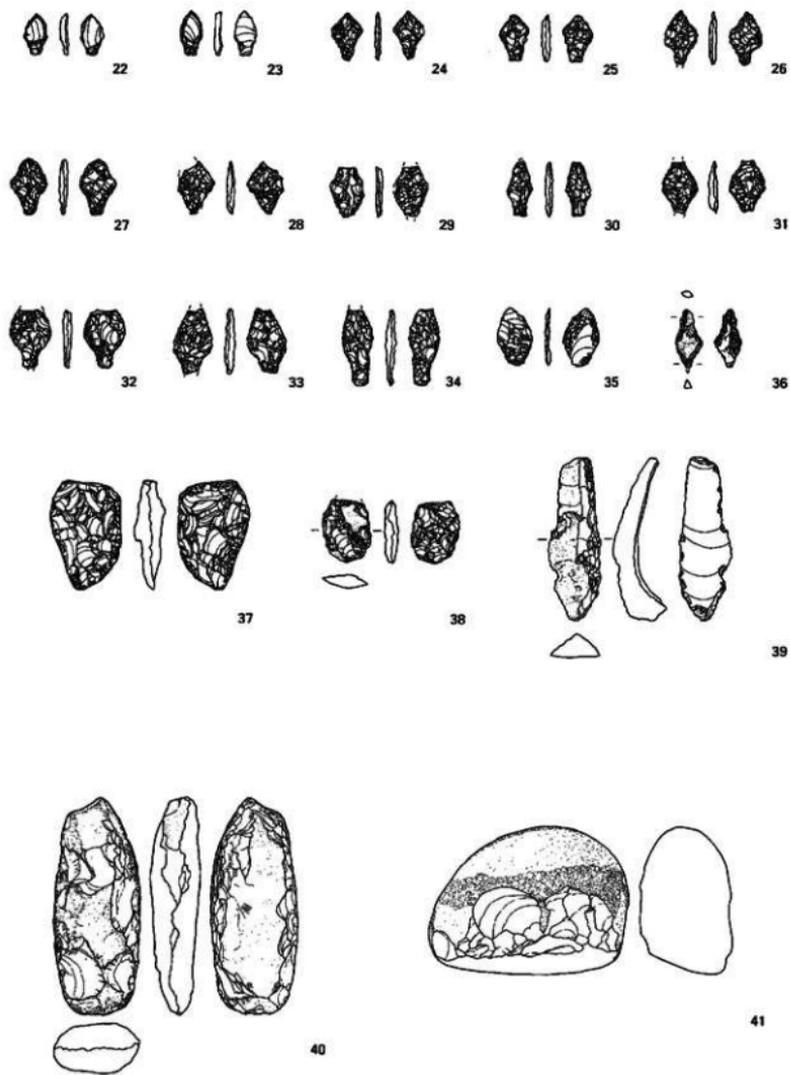
22~34は石鏃。28・29・31が凸基の石鏃である以外は、すべて有茎の石鏃である。有茎の石鏃の石鏃ではあるが、かえりが明瞭に作出されていない。35・36は石錐。35は扁平な剥片を素材とし、基部の腹面側のみ調整を施している。37はポイント・ナイフ。刃部は偏り、先端は尖らない。38・39はスクレイパー。38は背面に稜皮を残す。39は背面に稜皮を残し、片側縁のみ調整を施す。40は片岩の転石を素材とした石斧。基部側縁に剥離調整が施される。両主面は自然面のまま。41は安山岩の扁平だ円礫を半割したものを素材としている。敲打は回るがその袈れは浅い。使っているうちに使用面の幅が広くなりすぎたのか、剥離によって再調整している。

時期 床面から円筒上層d・e式相当が出土しているので、縄文時代中期前葉ころの遺構であろう。
(鈴木)

III オサツ14遺跡の調査

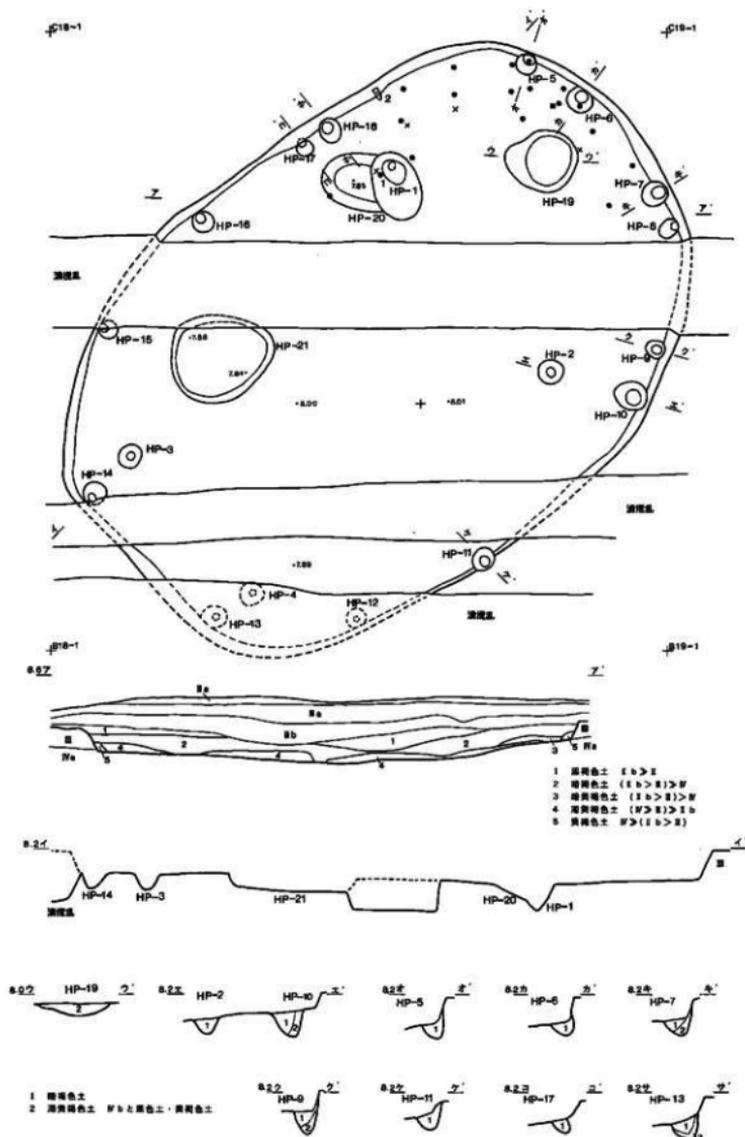


図Ⅲ-40 H-20の土器(2)



図III-41 H-20の石器

III オサツ14遺跡の調査



図III-42 H-21



図Ⅲ-43 H-21の遺物

H-21 (図Ⅲ-42・43, 図版Ⅲ-30)

位置 B18, B19

規模 5.39/5.22×3.77/3.65×0.47m

調査 B18区の3本の溝攪乱の断面で、堅穴のセクションが確認できた。IV a層上面まで掘り込まれており、床面は平坦である。平面形は、長軸をほぼ東一西に向けた小判形を呈している。炉は検出されておらず、幅広い旧側溝によって失われたものと考えられる。床面には、HP-19~21の3個の付属土塊があり、HP-21はやや大型である。柱穴は16本を確認し、その配列から2本を推定して、計18本の構成となる。いずれも11~21cmと浅い。主柱穴はHP-1~4の4本で全体的に西寄りである。壁柱穴は、東半分では2本セットで4カ所に、西半分は1本ずつ6カ所に、ほぼ均等の距離をおいて配置されている。柱根の浅い分を柱の構成と数でカバーし、建物の強度を保ったものと考えられる。

表Ⅲ-24 H-21付属施設一覧

No.	用途等	位置(上縁の長さ×幅×深) (内は数)	備考
HP1	主柱穴	56 × 37 × 21	二重 HP20と重なる
HP2	"	20 × 20 × 12	
HP3	"	20 × 18 × 14	
HP4	"		厚ぼろ全壊
HP5	壁柱穴	17 × 17 × 13	内壊
HP6	"	22 × 22 × 11	
HP7	"	22 × 22 × 14	
HP8	"	17 × 14 × 16	内壊
HP9	"	16 × 14 × 18	
HP10	"	27 × 23 × 21	
HP11	"	21 × 17 × 14	
HP12	"		推定
HP13	"		推定
HP14	"	19 × 19 × 13	一部破壊
HP15	"	16 × (16) × 12	内壊 平坦
HP16	"	18 × 18 × 13	
HP17	"	14 × 13 × 12	内壊
HP18	"	21 × 17 × 16	
HP19	付属土塊	58 × 49 × 9	
HP20	"	83 × 46 × 5	HP1と重なる
HP21	"	86 × (72) × 16	

る。

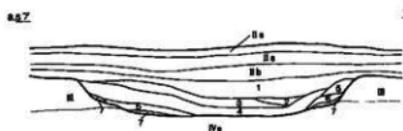
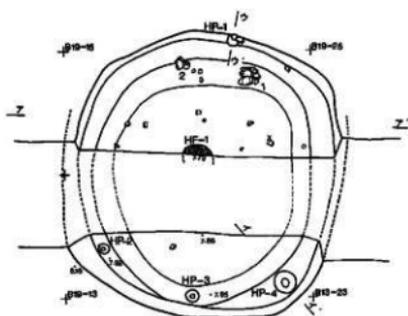
遺物 Ⅲ群b-2類の土器片が、床面とその直上から9点、覆土から11点出土しているが、いずれも小片である。

石器は、2の石斧が北壁際から出土しているほか、床面直上からの石斧刃先の小片がある。ほかに、覆土と床から黒曜石のフレイクが6点出土している。

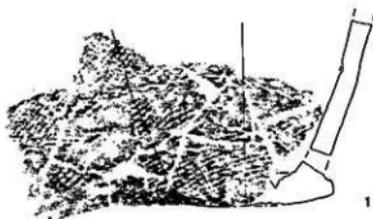
時期 Ⅲ群b-2類土器の時期、縄文時代中期中ごろ柏木川式期であろう。

(三浦)

III オサツ14遺跡の調査



- 1 埋藏層土 (I b > c) > F
- 2 埋藏層土 (I b > d) > F
- 3 埋藏層土 (I b > e) > F
- 4 埋藏層土 (I b > f) > F 炭化物類・焼土類を含む
- 5 埋藏層土 (I b > g) > F 炭化物類・焼土類を含む
- 6 埋藏層土 (I b > h) > F
- 7 埋藏層土 (I b > i) > F



図III-44 H-22

H-22 (図Ⅲ-44, 図版Ⅲ-31)

位置 B19

規模 2.34/1.54×(2.25) / (1.50) × 0.28m

調査 B19区の旧側溝攪乱の断面で、堅穴のセクションが確認できた。IV a層上面まで掘り込まれていた。平面形は、円形化した正方形で、長軸を北東-南西に向けている。床面は、壁際15~20cmの幅を残し中央を少し深くする二段構造になっている。床面中央部には、径25cmの小さな炉があるが、半分は旧側溝攪乱で削られている。柱穴は4本とも壁柱穴で、長軸北東に1本、南西に3本で構成されている。南西の脇2本HP-2・4は段上配置されている。中央部の低い床面の面積が約1.8㎡という小規模な堅穴である。

表Ⅲ-25 H-22付属施設一覧

No.	用途等	開口(上縁の長さ×深さ×厚) (内径)	備考
HP1	壁柱穴	9 × 9 × 9	内縁
HP2	"	9 × 9 × 10	
HP3	"	11 × 11 × 6	
HP4	"	18 × 18 × 14	
HF1	炉	(25) × (20) × 2	半壊

遺物 Ⅲ群b-2類の土器片が、床面とその直

上から、2カ所の一括を含んで105点出土している。2カ所の一括は、周りの土器を接合して図の1と2の2個体の底部に復元できた。1は丸底気味の底部で、外に張り出しをもつ。2はやや小振りな土器の胴部~底部である。

他に、床から黒曜石のフレイクが1点、覆土から小礫が1点出土している。

時期 Ⅲ群b-2類土器の時期、縄文時代中期ごろ柏木川式期であろう。

(三浦)

H-23 (図Ⅲ-45・46, 図版Ⅲ-32)

位置 C11

規模 (3.31) / (3.12) × 3.47/3.17 × 0.33m

調査 C・D11区にある北側側溝の南面(Dライン寄り)に切り合う2軒の堅穴と1基の土壇を確認した。当初は2軒の壁を混同して調査を進めていたが、壁面から形状を捉えるにいたり、H-28を切るH-23を認定した。北部1/3ほどは側溝攪乱により失われており、床と壁の一部はP-24・25に切られている。破壊された側溝範囲ではH-10を切っていた可能性がある。また、覆土上層にはF-22・23や炭化物の広がりが見出されており、これはH-23埋没時の窪みを利用した上層遺構の焼土であった可能性もある。

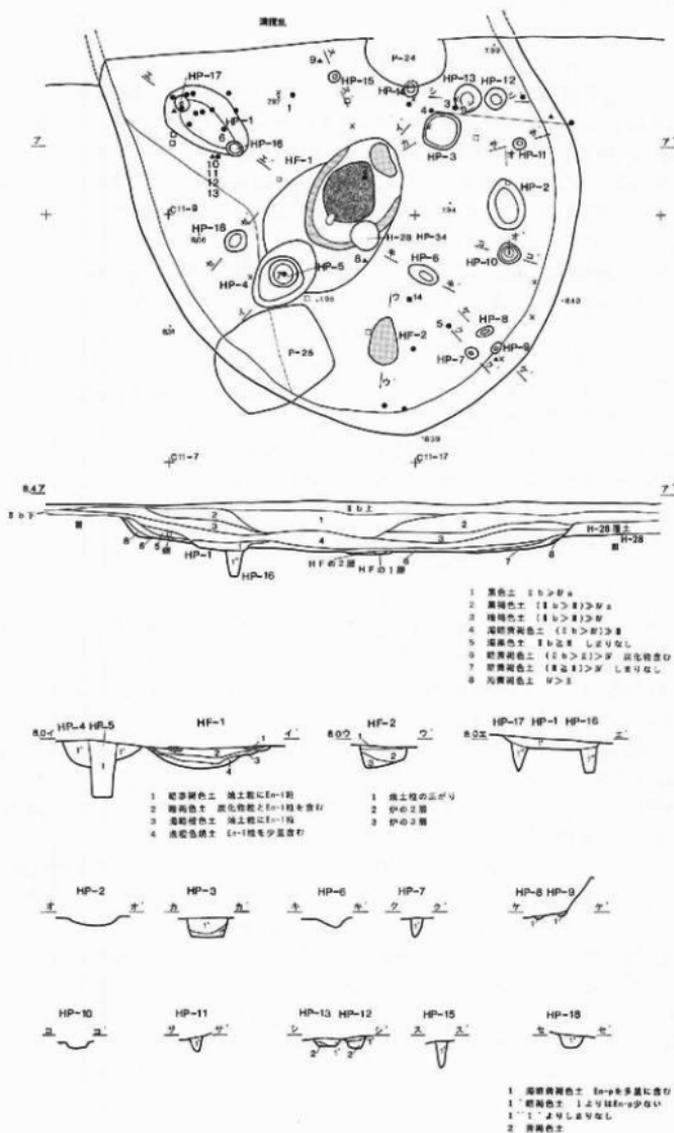
長軸はほぼ北-南に向いており、平面形はいびつな楕円形と推定される。掘り込みはIV層には達しておらず、床と壁はⅢ層とH-28の覆土からなる。

床の残存部中央には大型の炉(HF-1)が作られている。全体がごく浅く掘り込まれた中に、厚さ15cmの焼土を取り巻くように炭化物と焼土粒のまとまりがあり炉を形成している。炭化物帯は炉囲いの材であろうか。炉の南側には廃棄焼土の詰まったHF-2がある。

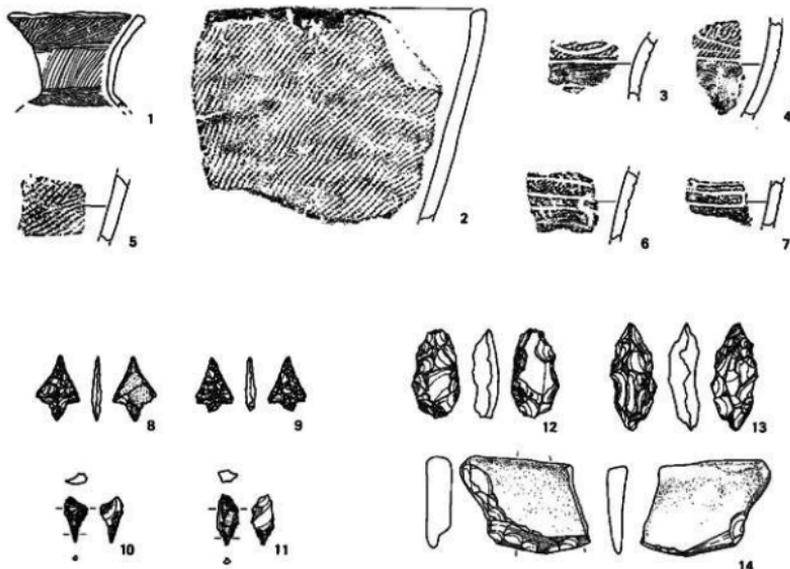
床面全体は平坦であるが、大小の付属土壇が多く凹凸の激しい印象をあたえる。その中でHP-1~4は炉を取り囲むようにある比較的大きな土壇である。HP-4は柱穴HP-5の根固めの可能性もある。HP-6・8~10・12・13・18のような浅く小さいピットの性格は不明であるが、HP-10や炉から黒曜石のフレイクチップが出土しているのが注目される。

断面が杭形であったり深いHP7本を柱穴としたが、配置や柱穴の規模に規則性を見いだせない。HP-5が立派な柱穴なので、攪乱欠失部も考慮し、HP-14・5・7・11を含む外周6本の主柱穴構成と考えられようか。

III オサツ14遺跡の調査



図III-45 H-23



図Ⅲ-46 H-23の遺物

遺物 IV群b類の土器が、覆土から床面を通じて80点出土している。覆土にはⅢ群土器も入っていた。図示したものはすべてIV群b類のものである。1は、上層遺構とも思われる焼土近辺から出土した壺か注口土器の口縁部～頸部である。1・3・4・7には沈線で区切った磨消帯がみられ、3・4には弧線文、6・7にはS字沈線がある。5・6が床、7がHP-5からの出土である。

石器類は、覆土から頁岩の石鏃2点・原石2点・フレイクチップ、黒曜石の石鏃1点・ポイント1点・フレイクチップ、たたき石1点と礫が出土している。床面直上と床面からは黒曜石の石鏃2点(図

表Ⅲ-26 H-23付属施設一覧

No	用途等	壁(上端の長さ×下端の長さ) (内径)	備考
HP1	竹風土壁	77×46×7	中にHP16・17
HP2	"	41×29×5	
HP3	"	33×30×16	
HP4	"	64×44×21	HP5の根固めか HP4内
HP5	柱穴	24×24×45	
HP6	"	25×14×9	
HP7	柱穴	9×9×15	
HP8	"	15×7×3	
HP9	"	10×7×3	
HP10	"	17×16×5	フレイク集中
HP11	柱穴	9×9×12	
HP12	"	18×18×8	
HP13	"	22×22×7	
HP14	柱穴	12×12×15	
HP15	"	10×10×22	
HP16	"	14×13×21	HP1内
HP17	"	13×12×20	HP1内
HP18	"	20×17×10	
HF1	伊	100×70×15	
HF2	黄瀬焼土	39×23×18	焼土粒

の8・9)・フレイクチップ、頁岩の石鏃2点(図の10・11)・ポイント・ナイフ2点(図の12・13)・原石1点、砂岩の石鏃(図の14)、礫が出土しているほか、HP-10から28点・炉から13点の黒曜石のフレイクチップがみつかっている。炉からは、小骨片も0.57g検出している。

時期 IV群b類土器の時期、縄文時代後期中葉の手稲式期と考えられる。今回調査した壺穴住居の中では、最も新しい時期のものである。

(三浦)

H-24 (図III-47, 図版III-33)

位置 B14, C13, C14

規模 4.41/4.14×3.72/3.29×0.41m

調査 C14区のⅡb層調査中に、ほぼ円形のⅡb層の溜りを確認した。十字ベルトを残して調査を進め、床と壁の立ち上がりを検出した。長軸は北-南で、平面形は楕円形を呈している。掘り込みはⅣa層に達している。壁は、比較的脱く立ち上がっている。南西壁がH-26に接するようにあり、この付近ではH-26の掘揚げ土がH-24に入り込んでいる。

中央部には、円形で皿状の掘り込みのある炉(HF-1)があり、焼土の中からは炭化物とフレイクチップが検出されている。南側に付属土壌HP-1があり、HP-4~10は壁柱穴、HP-2・3は太く、HP-11~16は細い杭状のピットである。配列や規模に規則性は認められないが、壁柱と支柱による建物構造と思われる。

遺物 覆土から床面までⅡ群a類・Ⅲ群a類・Ⅲ群b-2類の土器が混在しているが、主になるのは、35点中床面直上・床・炉・付属土壌から31点が出土しているⅢ群a類である。1は太い押引文

表Ⅲ-27 H-24付属施設一覽

No.	用途等	規模(上端の長さ×幅×深)(内は埋没)	備考
HP1	付属土壌	51×44×10	
HP2	柱穴?	30×23×7	
HP3	"	25×25×18	
HP4	壁柱穴	10×10×22	
HP5	"	9×9×7	内埋
HP6	"	9×9×30	
HP7	"	10×10×7	
HP8	"	13×13×8	
HP9	"	8×8×10	内埋
HP10	"	13×13×18	内埋
HP11	柱穴?	9×9×14	
HP12	"	10×10×9	
HP13	柱穴?	10×10×16	
HP14	"	8×8×21	
HP15	"	8×8×7	
HP16	柱穴?	8×8×24	
HF1	炉	79×65×17	

のⅡ群a類の口縁部、2・3はⅢ群a類の胴部で3には絞絡文がみられる。

石器は床面直上と床から、図示した石斧4点(4~7)のほか17点の石斧小片と礫片、黒曜石のフレイクチップ1点が出土している。フレイクチップはすべて黒曜石で、床と直上50点・炉35点・付属土壌23点を数える。

時期 Ⅲ群a類土器の時期、縄文時代中期前葉の円筒上層式期の遺構であろう。H-26とは同時期であるが、掘揚げ土の入り込みから、H-24のほうが古いといえる。(三浦)

H-25 (図III-49, 図版III-34)

位置 A10・11, B10・11

規模 2.89/2.61×(2.35)/(2.09)×0.27m

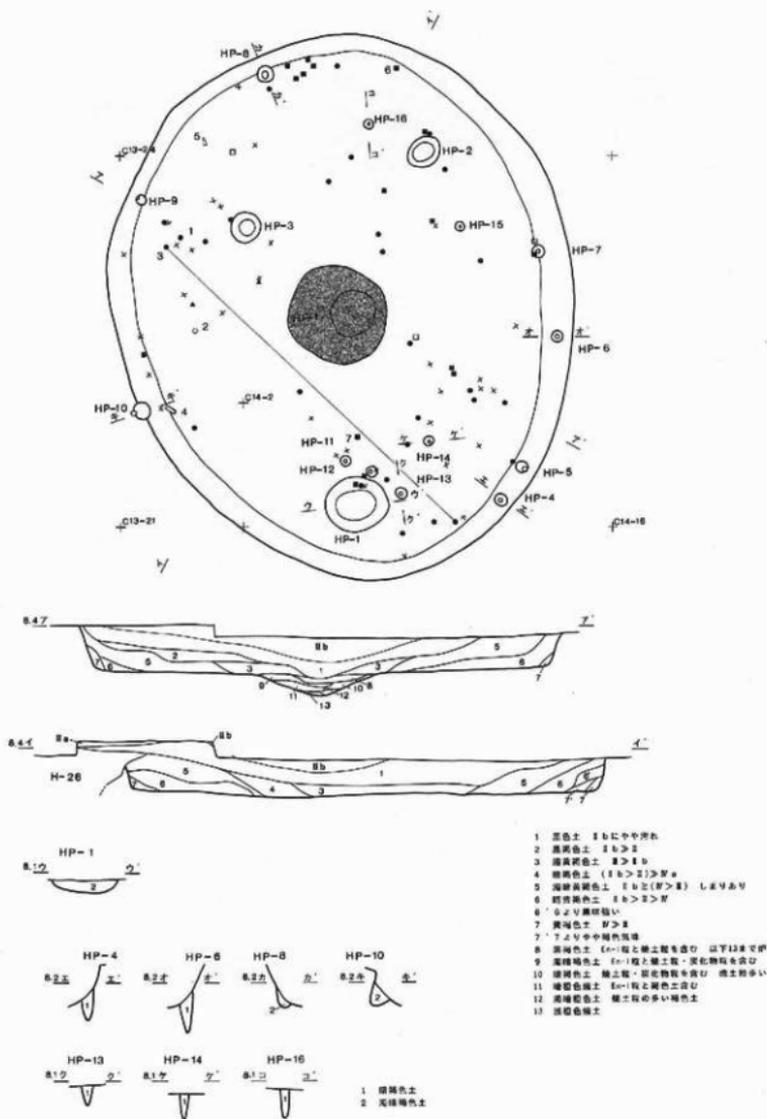
調査 B10・11区の側溝攪乱の断面で壁穴セクションを確認した。側溝により分断されている。長軸は北-南で、平面形はいびつな楕円形を呈している。覆土はⅡb層が主体である。床は中央部東寄りから緩やかに凹んでいるほかは、ほぼ平坦である。掘り込みはⅣa層に達している。壁の立ち上がりは比較的緩やかで、場所によっては不明瞭な部分もある。1基検出した柱穴は壁柱穴である。

遺物 覆土から床まで、Ⅱ群a類・Ⅲ群a類・Ⅲ群b-2類の土器片が39点混在しているが、主体となるのは35点出土しているⅢ群b-2類である。床からは18点出土している。1は覆土出土のものである。貼付帯に縄線文を施し、爪により刻んでいる。器面は摩耗している。H-26の5と同一個体である。2・3は床出土のものでLRの縄文が認められる。いずれもⅢ群b-2類で胎土に砂を含んでいる。石器類は覆土から異形石器1点、礫片1点、床からRフレイク1点、フレイクチップ4点、すり石1点が出土している。4は覆土出土の異形石器である。

時期 Ⅲ群b-2類の時期、縄文時代中期の柏木川式期の遺構であろう。(鎌田)

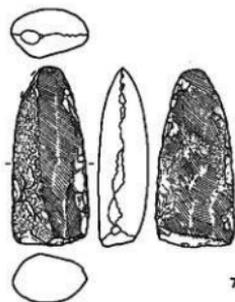
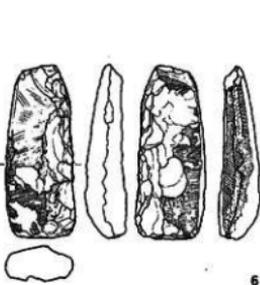
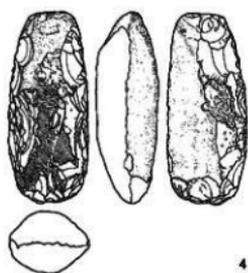
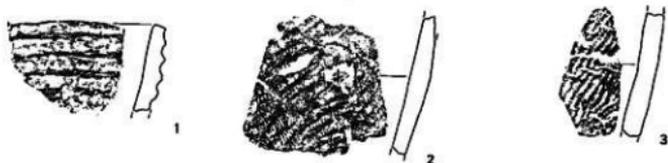
表Ⅲ-28 H-25付属施設一覽

No.	用途等	規模(上端の長さ×幅×深)(内は埋没)	備考
HP1	壁柱穴	10×10×33	

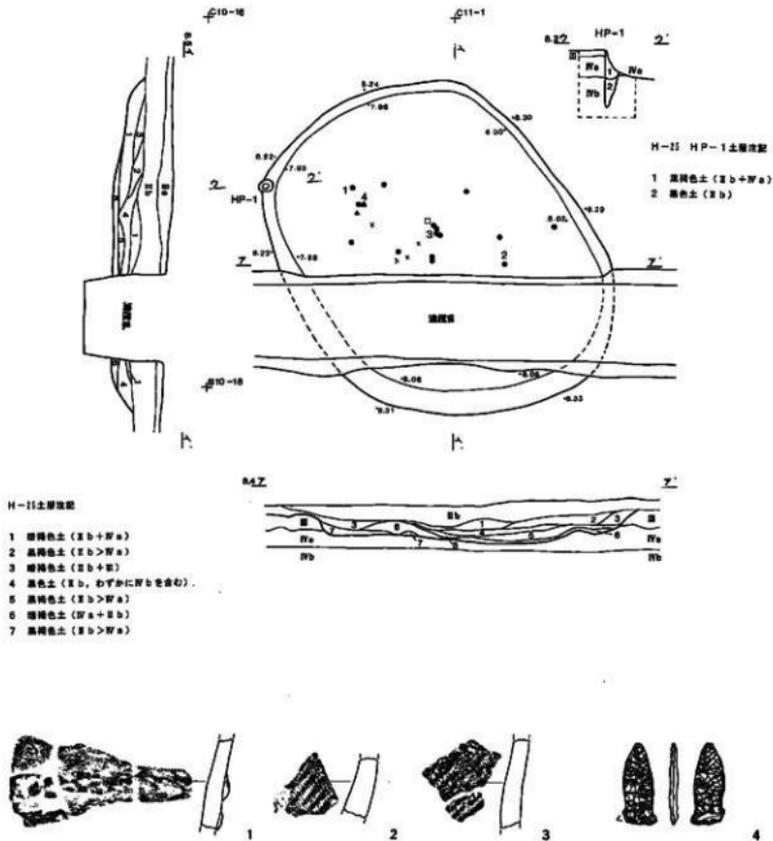


図III-47 H-24

III オサツ14遺跡の調査

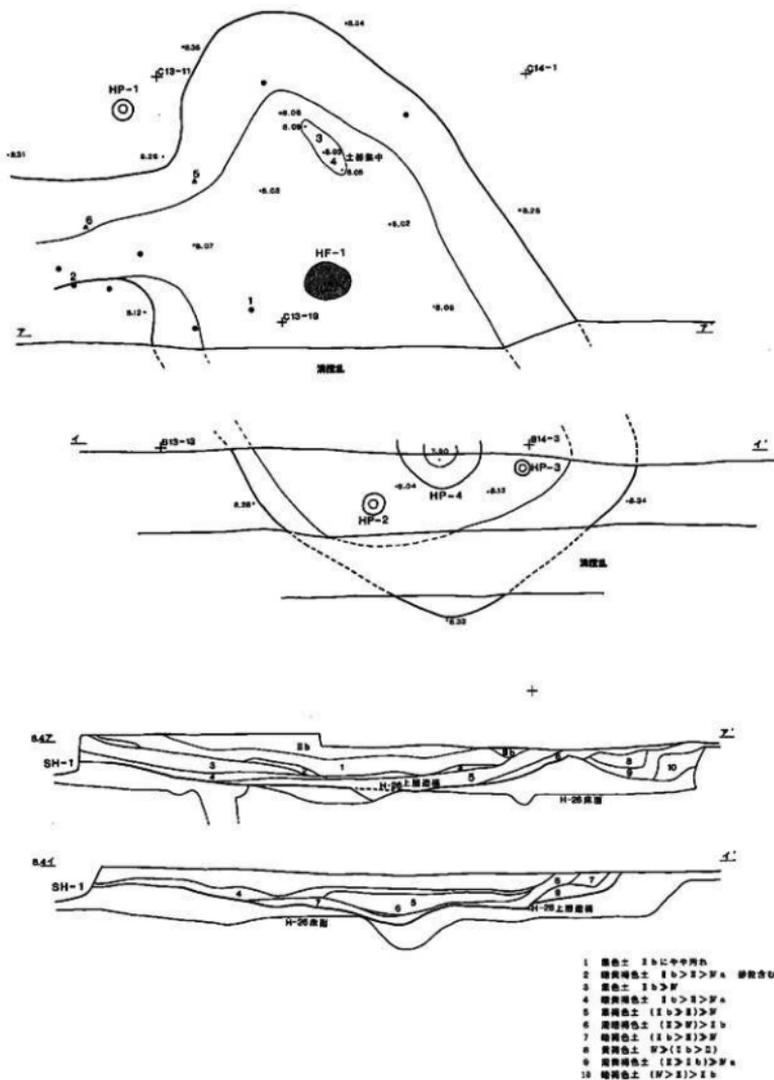


図Ⅲ-48 H-24の遺物

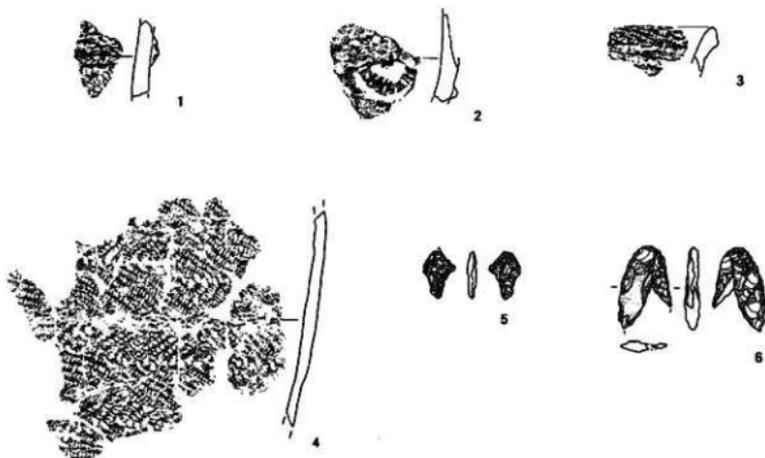


図III-49 H-25

III オサツ14遺跡の調査



図III-50 H-26上層遺構



図Ⅲ-51 H-26上層遺構の遺物

H-26上層遺構 (図Ⅲ50・51, 図版Ⅲ-35)

位置 B13, B14, C13

規模 5.12/3.84×2.97/2.20×0.42m

調査 B13・14区の攪乱溝の断面に、堅穴のセクションが確認されていた。これは、SH-1調査時にこれに切られる縄文時代の堅穴として認識されていたものである。セクション観察で、堅穴埋没時の窪みを浅皿状に整えたようにみられる面があったので、これを先に調査した。

長軸はH-26よりもやや北に振れたほぼ北-南で、平面形は不整な長方形である。壁の立ち上がりはなく、なだらかな窪みを形成している。北西部に窪みの延長する入り口様の部分をもつ。中央には小規模な炉(HF-1)がある。付属土壌HP-4は、H-26の付属土壌HP-1の窪みをそのまま利用したものである。柱穴はHP-1～3の3本で、いずれも浅い。あるいは北東角にもう1本あり、4本で構成されていたかもしれない。形状や柱からみて、仮小屋的な遺構かとも思われるが、その割には規模が大きい。

遺物 床面の土器片合計267点中、Ⅲ群a類が262点を占める。特に北側床面の土器集中では、小片ではあるが255点が出土しており、3・4がその土器である。1・2は貼付がみられる床面の土器。

床面の石器は図示した黒曜石製の2点で、5が石鏃、6はスクレイパーである。

覆土の遺物は幅広くH-26で取り扱ったが、上層遺構関係ととらえられるものでは、Ⅲ群b-2類土器が約400点、石斧片が20点ほどある。

表Ⅲ-29 H-26上層遺構付属施設一覧

No.	用途等	位置(北緯×東経)	長×幅	内径	備考
HP1	堅穴	17 × 17	7		
HP2	"	17 × 17	6		
HP3	"	12 × 12	4		
HP4	付属土壌	65 × (65)	14	編 H-26HP1と同一	
HF1	炉	37 × 30	2		

時期 Ⅲ群a類土器からⅢ群b-2類土器の時期、縄文時代中期前半から中ごろの遺構であろう。

(三浦)

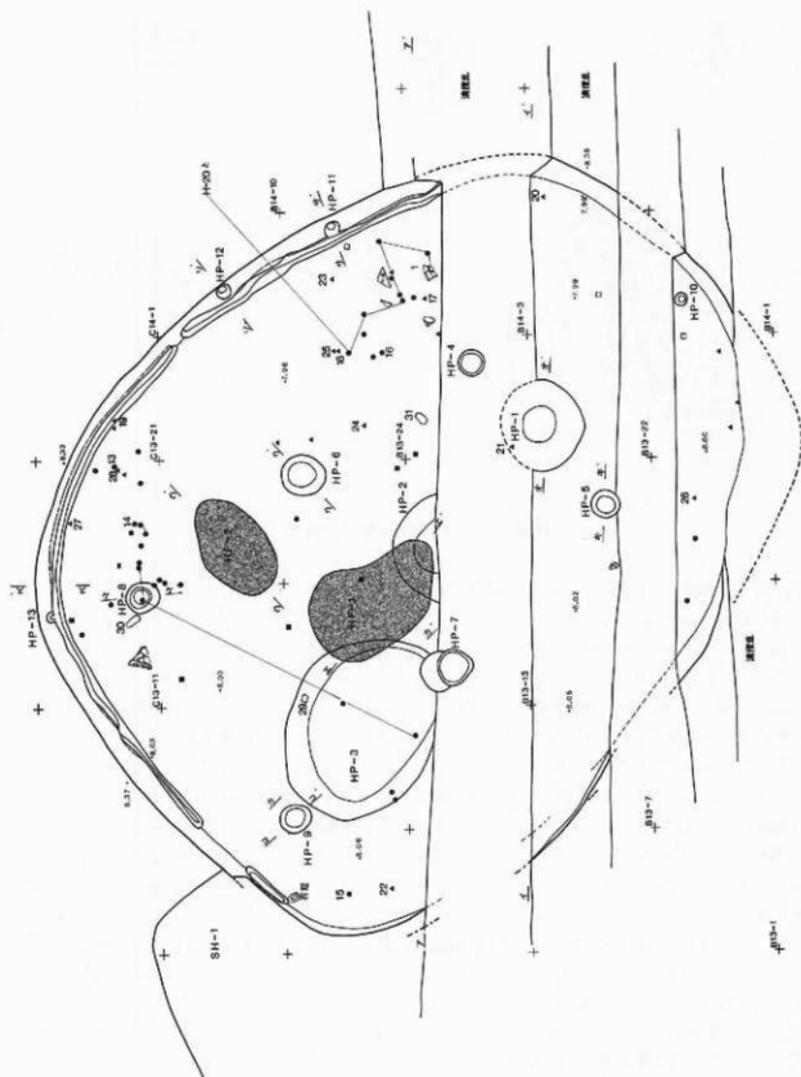


図 III-52 H-26

H-26 (図Ⅲ-52~55, 図版Ⅲ-36~38)

位置 B13, B14, C13

規模 6.22/5.89×5.10/4.80×0.46m

調査 SH-1調査時点で、これに切られていた壁穴をH-26とした。セクション観察から、先の中におさまる上層遺構を調査し、その後全体的にH-26の調査を行った。中央から南が3条の攪乱によって溝状に破壊されているほか、西側の壁の上方はSH-1構築時に削り取られている。隣接するH-24には、掘揚げ土が入り込んでいる。

長軸は北-南から少し西に振れている。平面形は、寸のつまった卵形である。IV b層上面まで掘り込まれており、床面はIV b層の大粒により細かい凹凸があるが硬くしまっている。壁も立ち上がりが鋭く、硬くしまっている。北壁と東壁際には、途切れながらも周溝がめぐっている。周溝は上端幅5~10cmで、壁方向に掘り込まれオーバーハンクしている部分が多い。

表Ⅲ-30 H-26付属施設一覧

地	用途等	規模(上の長さ×短さ×高さ・厚) (内径)	備考
HP1	付属土壇	74 × (69) × 32	フレイクチップが 8層
HP2	"	88 × (75) × 20	HF1にかかると 平壁
HP3	"	156 × 123 × 15	(HP7・HF1)にかかると 平壁
HP4	支柱穴	(25) × (25) × (60)	上部破壊
HP5	"	23 × 23 × 49	
HP6	"	36 × 33 × 57	
HP7	"	(30) × (30) × (65)	上部破壊
HP8	"	28 × 26 × 36	
HP9	"	27 × 23 × 35	
HP10	"	11 × 11 × 14	
HP11	壁柱穴	13 × 12 × 15	
HP12	"	13 × 11 × 13	
HP13	"	9 × 7 × 10	
HF1	壁	119 × 76 × 9	HP2・3にかかると
HF2	壁	87 × 54 × 11	

炉は2ヵ所あり、中央長軸上のHF-1はやや盛り上がり付属土壇HP-2・3に一部がかかっている。その北東直角の位置にあるHF-2は緩い掘り込みがある。ともに下層部に黒曜石のフレイクチップを含んでいる。付属土壇は3基あり、長軸上の2基HP-1・2は円形で鉢状、HP-3は大型長円形で浅皿状を呈している。HP-1全体には、1,261点の黒曜石のフレイクチップが入っていた。HP-2は壁穴の中心に位置している。

柱穴は10本を確認した。整然と配置されているHP-4~9と頂点の位置にあるHP-10で支柱を構成している。東の列にはこれと対応するように周溝と壁の間に、壁柱穴HP-11~13が検出された。HP-4~9は深くしっかりと掘り方をもっており、H-20の支柱穴と似ている。

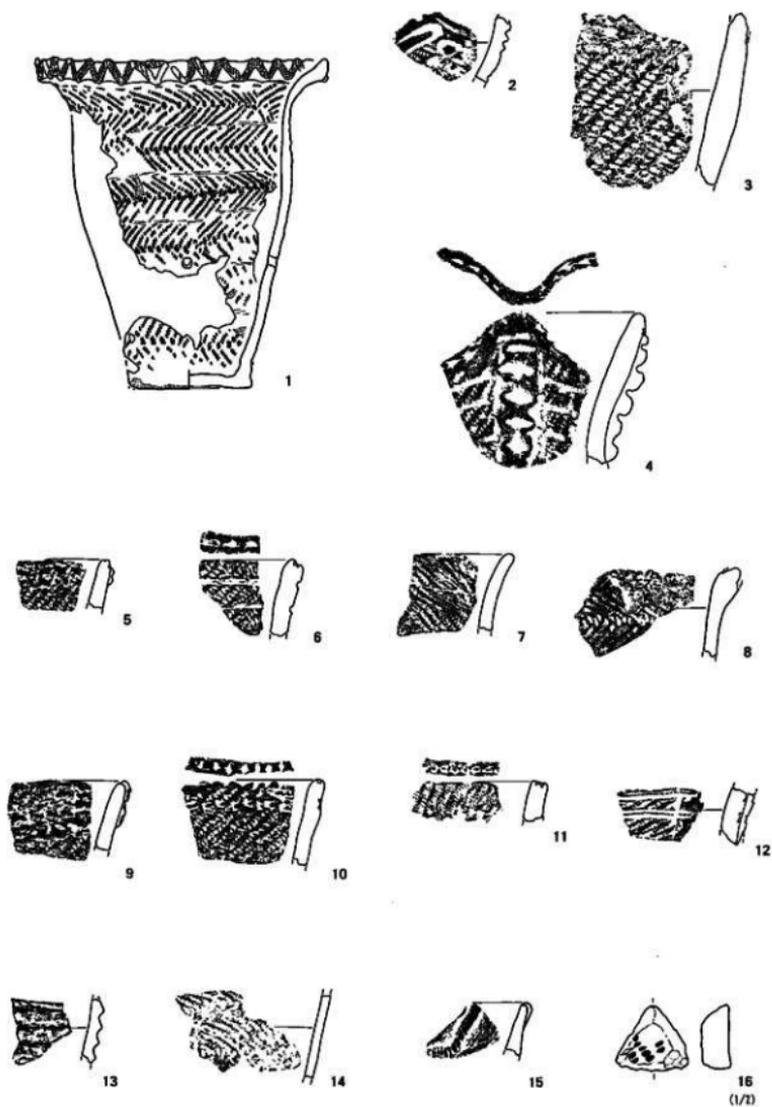
遺物 覆土から床面までの土器片の総点数は、上層遺構床面を除いて863点で、Ⅲ群a類が221点、Ⅲ群b-2類が526点を占める。Ⅲ群b-2類は覆土5層までの出土で、床面とその直上にあるのはⅢ群a類の土器である。図の1は、床直上・床とH-20床の破片が接合したⅢ群a類の復元土器である。器高26.9cmで口唇部に波状の貼付がある。2~6は覆土1層のもので、2のⅣ群b類以外はⅢ群b-2類、7は覆土3層、8~12は覆土5層出土ですべてⅢ群b-2類土器である。13はⅡ群a類でH-24の覆土ほかに同一個体がある。14・15は床直上と床のⅢ群a類の土器で、15は貼付のある口縁部突起である。16は土器片を面取加工した三角土製品で床面出土である。

石器類は、上層遺構関係といえる覆土5層までを除くと、石鏃14・スクレイパー2・つまみ付きナイフ1・Rフレイク8・石核1・フレイクチップ7,839・石斧片8・石冠1・すり石1・たたき石2・礫3点である。剥片石器は、図の17~26が石鏃・27はつまみ付きナイフ・28はスクレイパーで、23の頁岩、27のめのう以外はフレイクチップも含めてすべて黒曜石製である。礫石器は、図示できるものは29のすり石と30・31のたたき石がある。他に、北西壁際から出土した北海道式石冠があるが、土付きのまま脂肪酸分析を依頼中である。

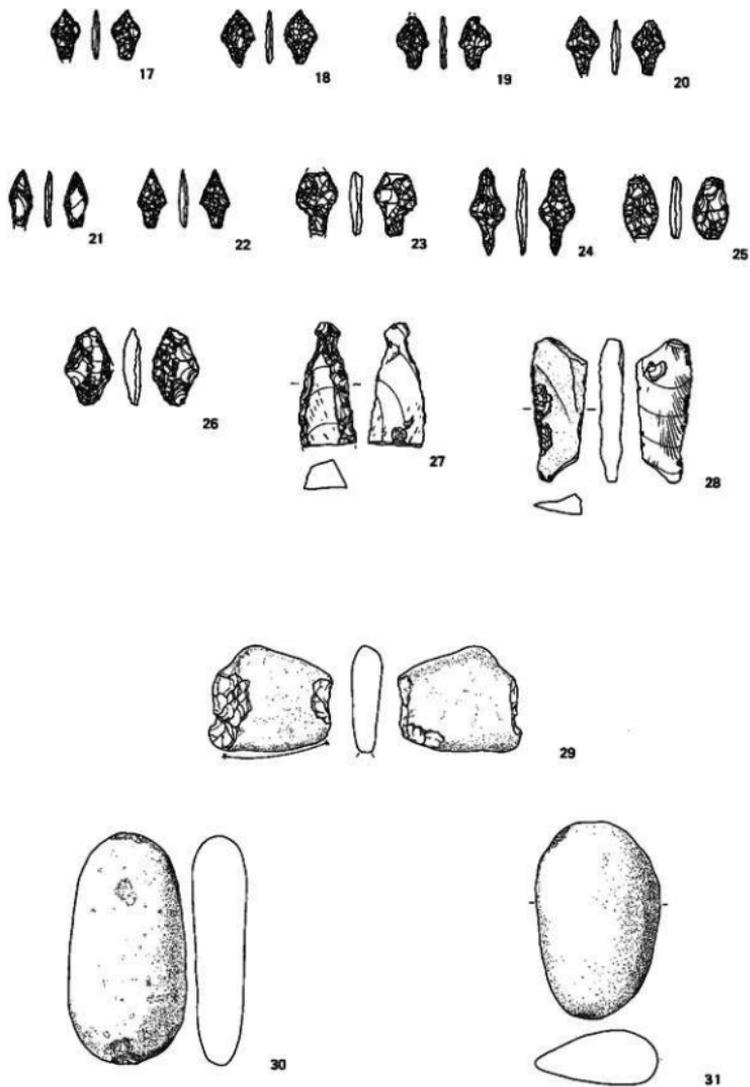
遺物出土状況から、この壁穴はH-20に付随した石器製作所の感がある。

時期 Ⅲ群a類土器の時期、縄文時代中期前葉の円筒上層式期で、H-20と併存しH-24より新しい。

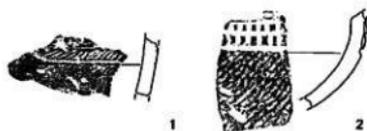
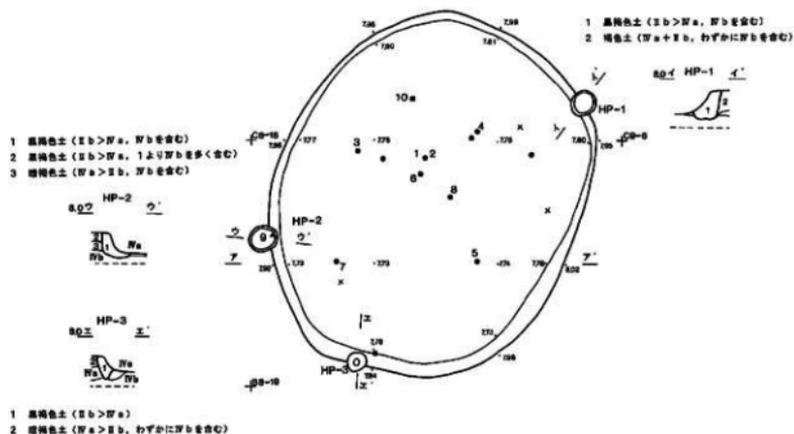
(三浦)



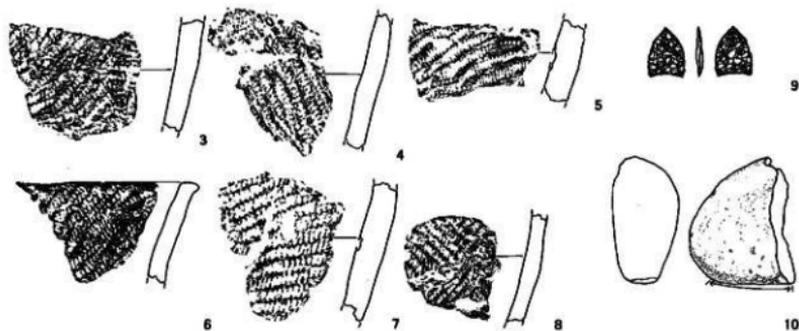
図III-54 H-26の土器・土製品



図Ⅲ-55 H-26の石器



- 1 黒褐色土 (Bb>Pa)
- 2 黒褐色土 (Bb, わずかにWbを含む)
- 3 黒褐色土 (Bb>Pa)
- 4 黒褐色土 (Bb>Pa, わずかにWbを含む)
- 5 黒褐色土 (Bb>Pa)
- 6 褐色土 (Pa>Bb, わずかにWbを含む)
- 7 褐色土 (Pa>Bb)
- 8 黒黄褐色土 (Pa>Bb, Wbを含む)



図III-56 H-27

H-27 (図Ⅲ-56, 図版Ⅲ-39)

位置 B8・C8

規模 2.94/2.28×2.47/2.26×0.39m

調査 B8・C8区のⅡb層調査中に、楕円形のⅡb層の溜りを確認した。十字ベルトを残して調査を進め、床と壁の立ち上がりを検出した。長軸は北東-南西で、平面形は楕円形を呈している。壁は比較的鋭く立ち上がる。床は平坦で掘り込みはⅣb層に連している。柱穴は壁に3基検出した。堅穴の規模に対してかなり大きく、付属ピットの可能性もある。

遺物 覆土・床からはⅡ群a類・Ⅲ群a類・Ⅲ群b-1類・Ⅲ群b-2類・Ⅳ群b類などが59点出土しているが、主体となるのはⅡ群a類である。1は区画の中に細かい縄文を充填した磨消縄文が認められる。2は口唇が欠損した浅鉢で、口唇に2段の刻目列が廻っている。いずれも覆土出土のⅣ群b類である。3~6は覆土出土のⅡ群a類である。

表Ⅲ-31 H-27付属施設一覧

No	用途等	規模 (上壁の長さ×縦長×深さ) (内容)	備考
HP1	壁柱穴	21×20×23	
HP2	"	23×21×20	
HP3	"	16×16×19	

器面に太い縄文が施されている。7・8は床出土のⅡ群a類である。7にはLR、8にはRLとLRの太い縄文が施されており、胎土に繊維を含んでいる。

石器類は覆土から石鏃1点、Rフレイク1点、フレイクチップ18点、すり石1点、礫片9点、床からフレイクチップ2点が出土している。9は覆土出土の石鏃で、無茎凹基のものである。10は覆土出土の安山製のすり石である。

時期 Ⅱ群a類の時期、縄文時代前期の静内中野式期の遺構であろう。(鎌田)

H-28 (図Ⅲ-57~59, 図版Ⅲ-40・41)

位置 C11, C12, D11, D12

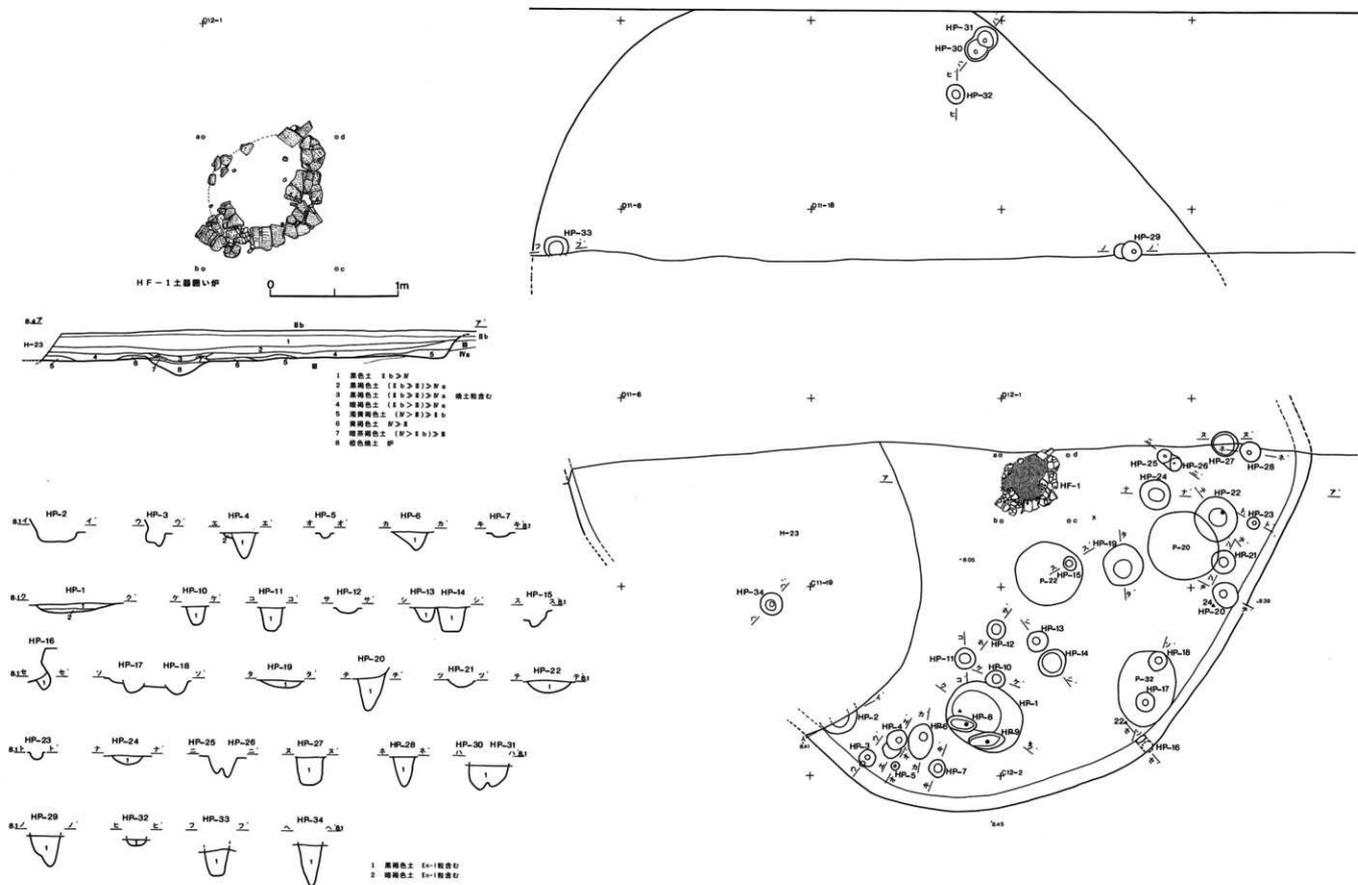
規模 (9.20) / (8.85) × (7.00) / (6.70) × 0.27m

調査 H-23の項で述べたごとく、側溝断面にみられた2軒の切り合いで、H-23に切られた堅穴をH-28とした。調査を終えてしまった調査区北辺から範囲外にかけても広がっているようで、H-10の上面を壊していた可能性もある。調査区北辺部は畑作攪乱が深く及んでいたために、壁や床が検出できなかったものと思われる。中央部を側溝によって破壊されており、残存部西側はH-23に切られている。また、床面はP-20・22に切り取られ、構築時にP-14・24・32の上方を壊している。

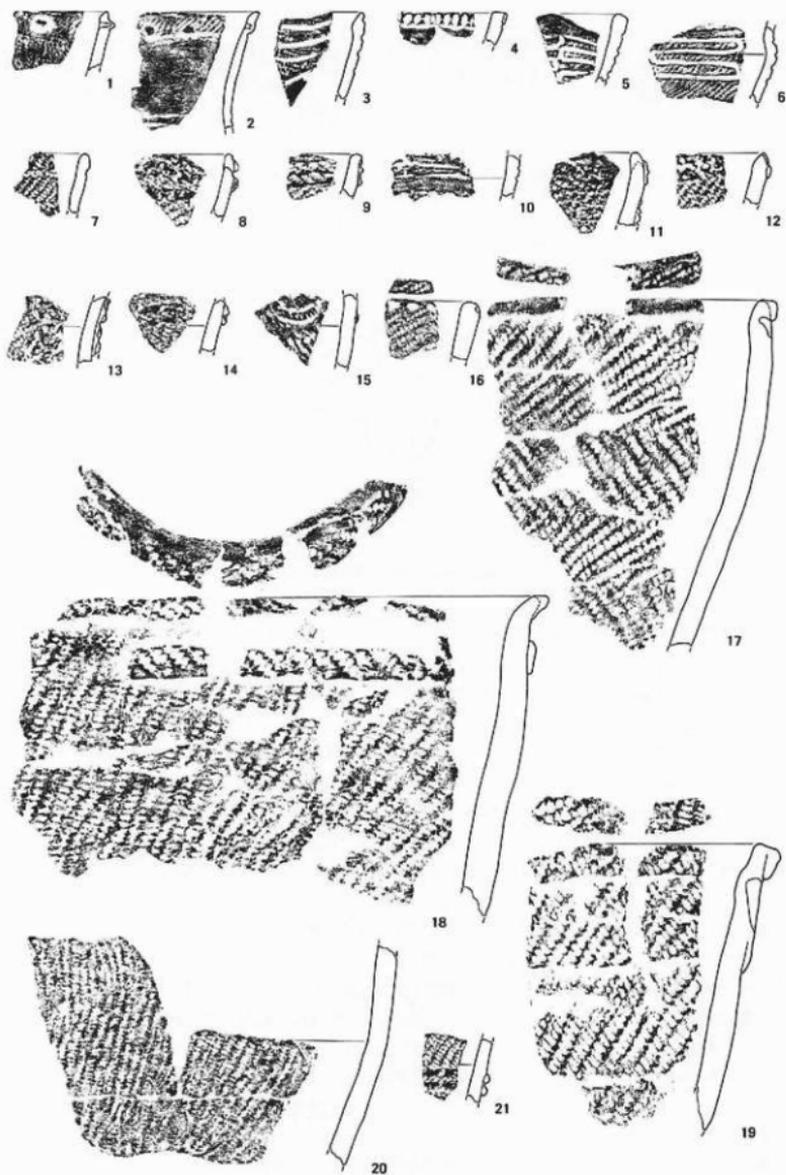
長軸は北-南よりやや西に振れている。平面形が長六角形状を呈する長軸約9mの大型住居である。掘り込みは浅く、東側の一部を除いては、Ⅲ層に床面が構築されている。床面は平坦であるが、南側

表Ⅲ-32 H-28付属施設一覧

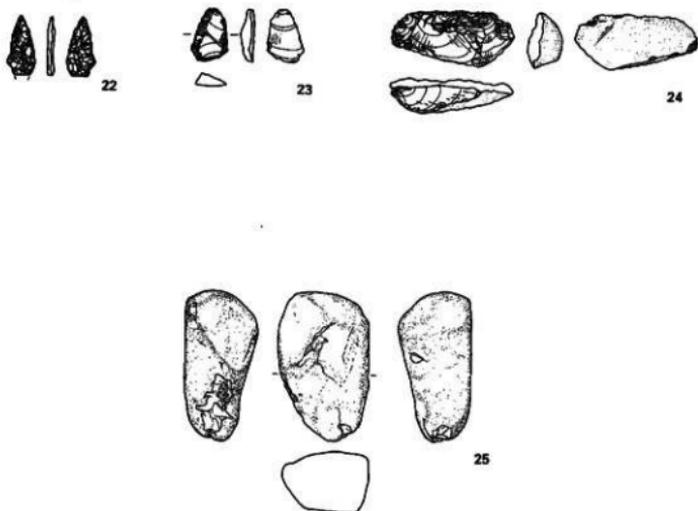
No	用途等	規模 (上壁の長さ×縦長×深さ) (内容)	備考
HP1	付属土壌	83 × 66 × 9	中にHP8・9
HP2	"	40 × (40) × 10	半壊
HP3	壁柱穴	17 × 17 × 15	内傾
HP4	柱穴	33 × 21 × 27	主柱穴?
HP5	"	9 × 8 × 6	
HP6	柱穴?	38 × 25 × 20	
HP7	"	17 × 17 × 4	
HP8	"	31 × 16 × 12	HP1内
HP9	"	38 × 18 × 12	"
HP10	柱穴	21 × 19 × 19	
HP11	"	22 × 22 × 19	
HP12	"	20 × 20 × 5	
HP13	柱穴	23 × 21 × 15	
HP14	"	30 × 28 × 25	
HP15	柱穴?	16 × 14 × (18)	上部破壊
HP16	壁柱穴	15 × 12 × 18	内傾
HP17	柱穴?	20 × 20 × 15	
HP18	柱穴?	20 × 18 × 15	
HP19	付属土壌	42 × 42 × 7	
HP20	柱穴	28 × 28 × 35	
HP21	"	26 × 26 × 8	
HP22	付属土壌	47 × 45 × 12	
HP23	"	13 × 13 × 8	
HP24	付属土壌	33 × 31 × 9	
HP25	柱穴	14 × 14 × 18	
HP26	"	15 × 13 × 21	
HP27	"	28 × 26 × 29	主柱穴?
HP28	"	23 × 21 × 31	主柱穴?
HP29	"	30 × 21 × (37)	主柱穴? 上部破壊
HP30	"	25 × 25 × (34)	主柱穴? 上部破壊
HP31	"	25 × 25 × (30)	主柱穴? 上部破壊
HP32	"	21 × 19 × (15)	上部破壊
HP33	柱穴	26 × (24) × (45)	主柱穴? 上部破壊
HP34	"	24 × 23 × (55)	主柱穴? 上部破壊
HF1	炉	65 × 50 × 14	土器片 縦×55cm



図III-57 H-28



図III-58 H-28の土器



図Ⅲ-59 H-28の石器

は付属土壌や柱穴の数が多く有効面積は小さい。

中央南寄りに掘り込みのある炉（HP-1）が作られている。周囲を土器片で四角く囲んでおり、60cm四方ほどの規模をもつ。焼土はほぼ均質で、フレイクチップを含んでいる。土器片囲いは4個体分ほどがブロックごとに使われている。

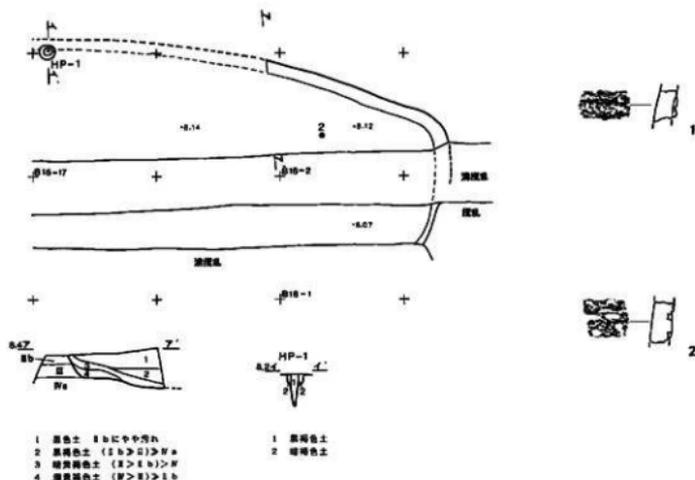
大きめの付属土壌は、長円形のHP-1と円形のHP-2・19・22・24で、いずれも浅いボウル状である。柱穴は北側も精査して検出した。柱穴と考えられるもののうちで、形状や配置から主柱穴といえるのは、HP-4・14・20・27・29・30・33・34の8本である。33と34の間には破壊された部分にもう1本あったものと思われる。主柱には4・27と28・29・30と31のように双子状になるものがある。これにHP-3や16のような壁柱穴や他の浅い小ピットがどのように支柱構造として関係するのかは不明である。

遺物 北側が調査を終えていたため、ここで扱うのは南側出土のものである。覆土にはⅡ群a類からⅣ群c類まで各時期の土器片が696点みられる。図の1～3はⅣ群c類、4～6・10はⅣ群b類、7～9・11～14はⅢ群b-2類、16・21はⅢ群a類である。Ⅳ群b類はH-23との関係深いものと思われる。床面からは257点の土器片が出土しているが、そのほとんどは図の17～20に示した炉の土器片囲いのもので、口縁部に折り返しや貼付があり縦位に刺突のあるⅣ群a類である。

剥片石器類はすべて黒曜石で、床面では炉と床直上にRフレイクがあるほかはフレイクチップである。覆土には図示した22の石鏝、23のスクレイパー、24の石核等がある。礫石器類は覆土で25のたつき石と礫が出土している。

時期 炉囲いの土器Ⅳ群a類の時期、縄文時代後期前葉の遺構であろう。

(三浦)



図Ⅲ-60 H-29

H-29 (図Ⅲ-60, 図版Ⅲ-42)

位置 B15, B16

規模 (3.40) / (3.25) × (1.70) / (1.60) × 0.32m

調査 B15・16区の溝攪乱に挟まれている細長い残存部を調査中に、縦穴の存在に気がついた。大半を側溝で失い、B15区は包含層調査をほとんど終了していたために、B16区でわずかに壁の立ち上がりをとらえたのみであった。

長軸、平面形ともに不明である。掘り込みはIV a層上面にまで達しているが、両側の攪乱の影響等で、床・壁ともに絡まった状態になかった。浅い掘り方をもつ柱穴HP-1を検出し、これに沿ってB15区の壁を推定した。

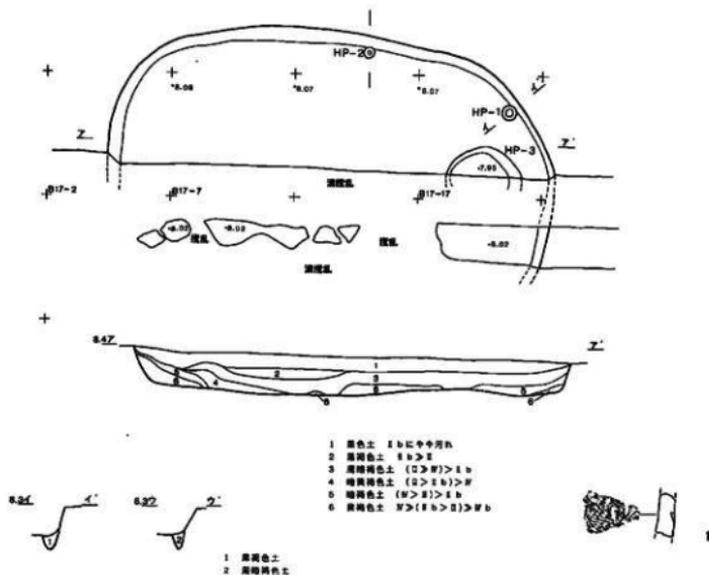
遺物 覆土からⅢ群b-2類の土器小片11点が出土している。1には貼付帯、2には連続刺突がみられる。

時期 Ⅲ群b-2類土器の時期、縄文時代中期中ごろの柏木川式期と思われる。

表Ⅲ-33 H-29付属施設一覧

(三浦)

No.	用途等	規模(上部の断面×縦径×深・長) 内径測定	備考
HP1	柱穴	12×12×25	



図Ⅲ-61 H-30

H-30 (図Ⅲ-60, 図版Ⅲ-42)

位置 B17

規模 (3.62) / (3.45) × (1.80) / (1.65) × 0.32m

調査 H-29同様に、溝攪乱に挟まれている細長い残存部に半壊した壁穴を確認した。南側が溝攪乱によりほぼ全壊しているが、北部から南東にかけては、かろうじて連続した壁面をとらえることができた。

長軸をほぼ北西-南東に向け、平面方は小判形を呈するものと推定される。掘り込みはIV a層に達しており、床面は平坦である。締まりは両側の攪乱の影響か、床・壁ともにあまりない。炉は攪乱で失われたものと思われる。付属土壌は、長軸上南東寄りに円形のきわめて浅いHP-3がある。柱穴は2本の浅い壁柱穴を検出したのみである。

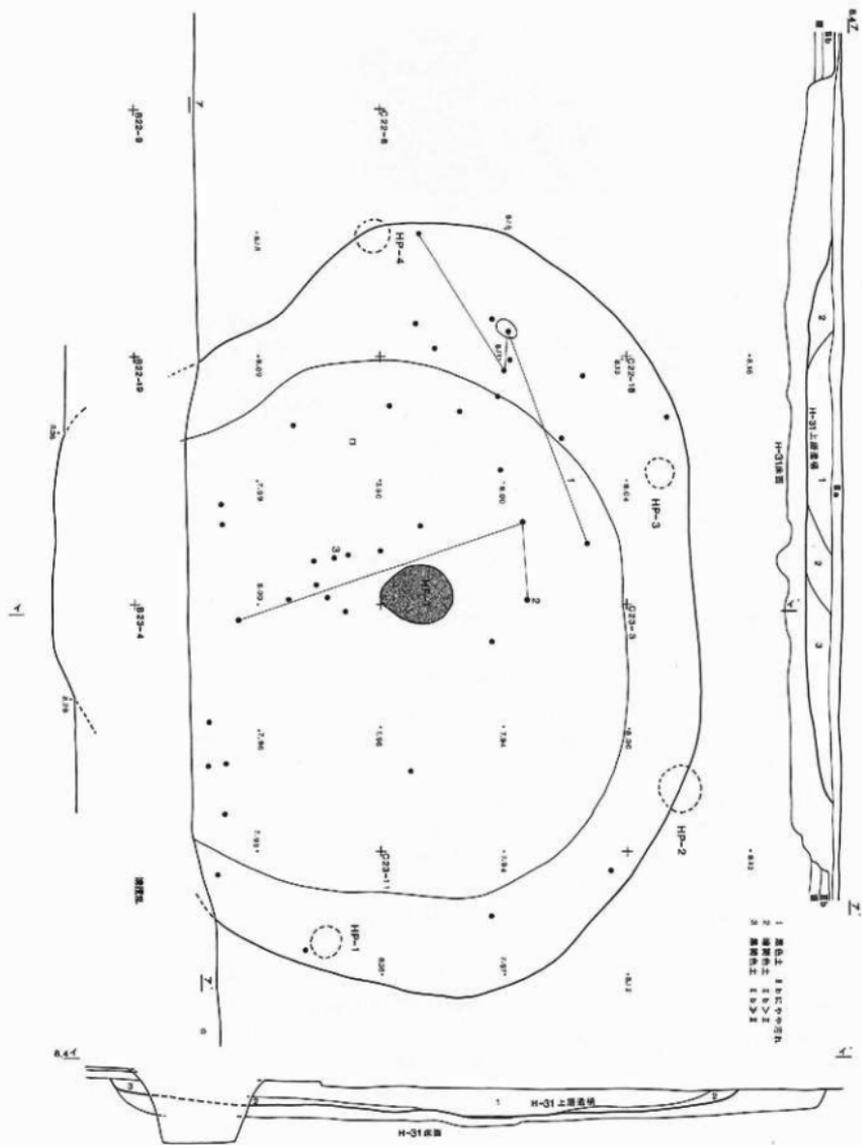
遺物 覆土から37点の土器小片が出土している。そのうち床面に近い覆土3層の土器片すべてをふくめた26点がⅢ群b-2類である。石器類は、覆土に黒曜石のRフレイク1点、フレイクチップ8点、礫1点がある。

時期 Ⅲ群b-2類土器の時期、縄文時期中期中ごろの柏木川式期と思われる。

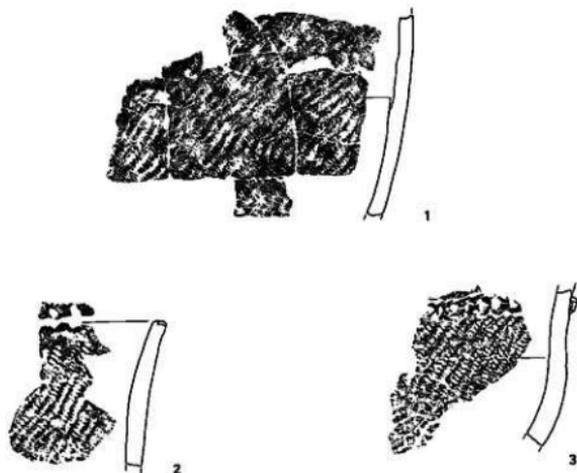
表Ⅲ-34 H-30付属施設一覧

(三浦)

No.	用途等	規模(上端の長さ×幅×高さ)内は不定	備考
HP1	壁柱穴	12 × 12 × 12	
HP2	h	9 × 9 × 13	
HP3	付属土壌	(60) × (46) × 11	半壊



図III-62 H-31上層遺構



図Ⅲ-63 H-31上層遺構の土器

H-31上層遺構 (図Ⅲ-62・63, 図版Ⅲ-43)

位置 B22, B23, C22, C23

規模 6.27/4.36 × 5.20/ (3.52) × 0.29m

調査 調査区東のB22・23区にある旧側溝の断面に、竪穴のセクションが現われていた。またB C22・23区のⅡa層調査後、周囲のⅡb層と色調や湿り気の異なる円形の窪みが確認された。セクション観察から、竪穴埋設時の窪みを利用して浅皿状に整えたような面がみられたため、H-31の上層遺構として先に調査した。

長軸はほぼ東一西で、平面形は不整形円形である。壁の立ち上がりはなくなだらかな窪みを形成して、床はほぼ平坦に整地されている。その中央部に炉HF-1が営まれている。柱穴は図にHP-1～4と破線で示したごとく、判然としない痕跡のようなものしかとらえられなかった。その配列から、溝による欠損部にあと1～2本の柱があったものと推定できる。仮小屋的ではあるが、規模はかなり大きい。

遺物 土器片点数102点のうち91点は、床とその直上出土のⅢ群b-2類である。3個体を図示した。1は北隅の一括出土が本体である。石器類は、覆土から黒曜石のフレイクチップが出土している

表Ⅲ-35 H-31上層遺構付属施設一覧

№	用途等	規模 (上地の表面×縦長×深・厚) (内は埋設)	備考
HP1	柱穴	25×25×(10)	不明瞭
HP2	"	40×40×(10)	"
HP3	"	25×25×(10)	"
HP4	"	27×27×(10)	"
HF1	炉	58×47×1.5	

のみである。

時期 Ⅲ群b-2類土器の時期、縄文時代中期中ごろの柏木川式期の遺構であろう。

(三浦)

H-31 (図Ⅲ-64~66, 図版Ⅲ-44・45)

位置 B22, B23, C22, C23

規模 6.89/6.66×5.50/5.30×0.44m

調査 上層遺構で述べたごとく、B22・23区の旧側溝断面に現われていた竪穴のセクションをH-31とした。セクション観察で確認できた上層遺構を先に調査した後、セクションと見合った周囲のⅡb層と色調や湿り気の異なる円形の窪みを再確認した。

長軸はほぼ東一西で、平面形は長円形である。比較的大型の住居で、Ⅳb層上部まで掘り込まれており、床面は中央部がやや窪んでいる。壁の立ち上がりは鋭いが、攪乱付近では形が崩れている部分もある。

炉は、中央に大型で掘り込みのあるHF-1、その東側の長軸上に副炉HF-2がある。HF-1は床面の最も低い位置にあるが、焼土の厚みがある炉で、その上端は上層遺構の最も窪み炉の位置とほぼ接している。HF-3・4は、西側に長軸を挟んで並んでいる。HF-2~4は地床炉である。HF-5~7は浅い窪みに廃棄された焼土である。

付属土壌は、石皿片が入っていた卵形のHP-1が、東側長軸上でHF-3と4の間にある。他の円形のピットは、HP-10・27がやや深いほかは小型で浅い。一部は壁と炉の間の空間に規則的に配置されているようにも見られるが、柱穴との関係もあり一律にはとらえられない。

深く確かな柱穴が少数しか検出できなかったため、明確な柱穴の配列は確認できていない。概略的には、HP-25・17・14・2・4で構成されるやや南寄りの内回りと、北側だけにあるこの外回りのHP-21・19・15・13・12の列、HP-31・24・23・16のような壁柱穴?という構成となるうか。

遺物 出土土器片数128点のうち122点がⅢ群b-2類のもので、床面とその直上から89点がみつまっている。1・4には貼付があり、1・3・4・5には連続刺突がみられる。2は張り出しのある底部である。

石器類は、床面とその直上からポイント2点(図の7ほか1点)・スクレイパー1点(図の8)・Rフレイク1点・石斧1点(図の9)・石斧薄片3点等のほか黒曜石のフレイクチップが28点・礫2点出土している。HP-1には石皿の1/4ほどの破片があった。覆土からの出土は黒曜石のフレイクチップが17点・礫2点のみである。

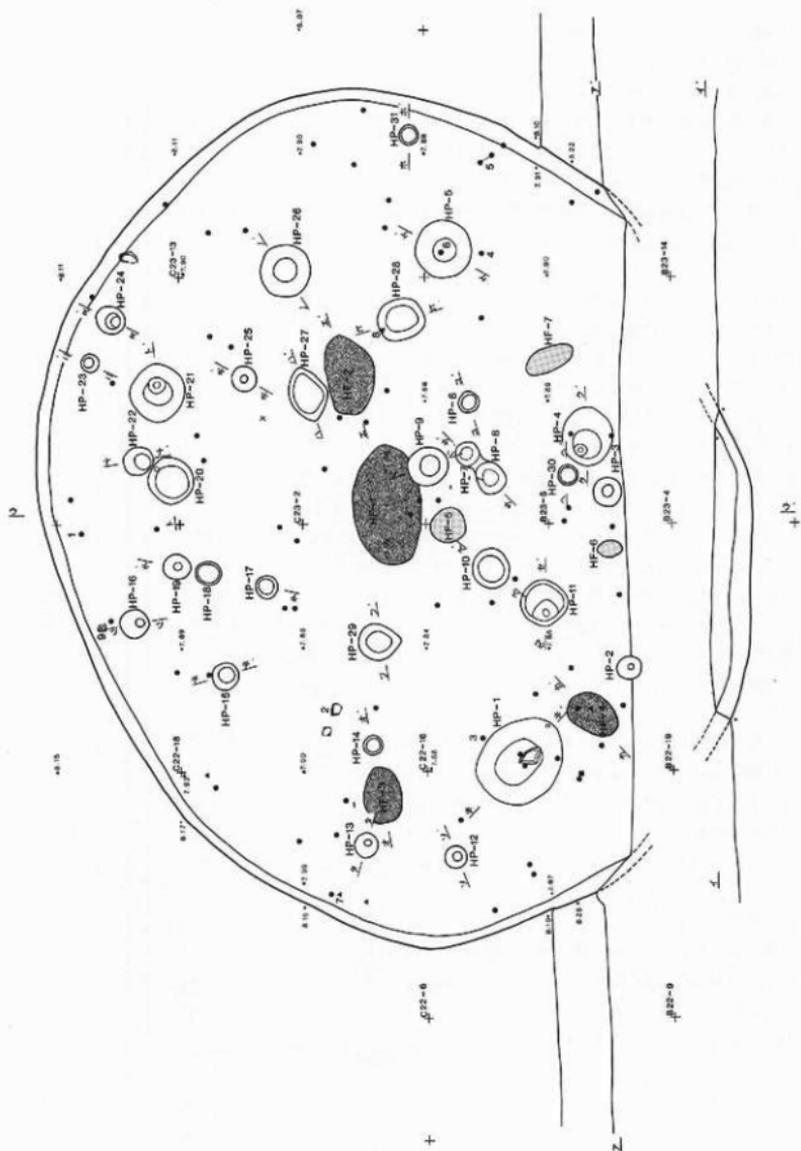
時期 Ⅲ群b-2類土器の時期、縄文時代中期ごろの柏木川式期の竪穴と考えられる。長軸方向や平面形からみて、北側にあるH-1や西側のH-21とほぼ同時に存在したものであろう。

(三浦)

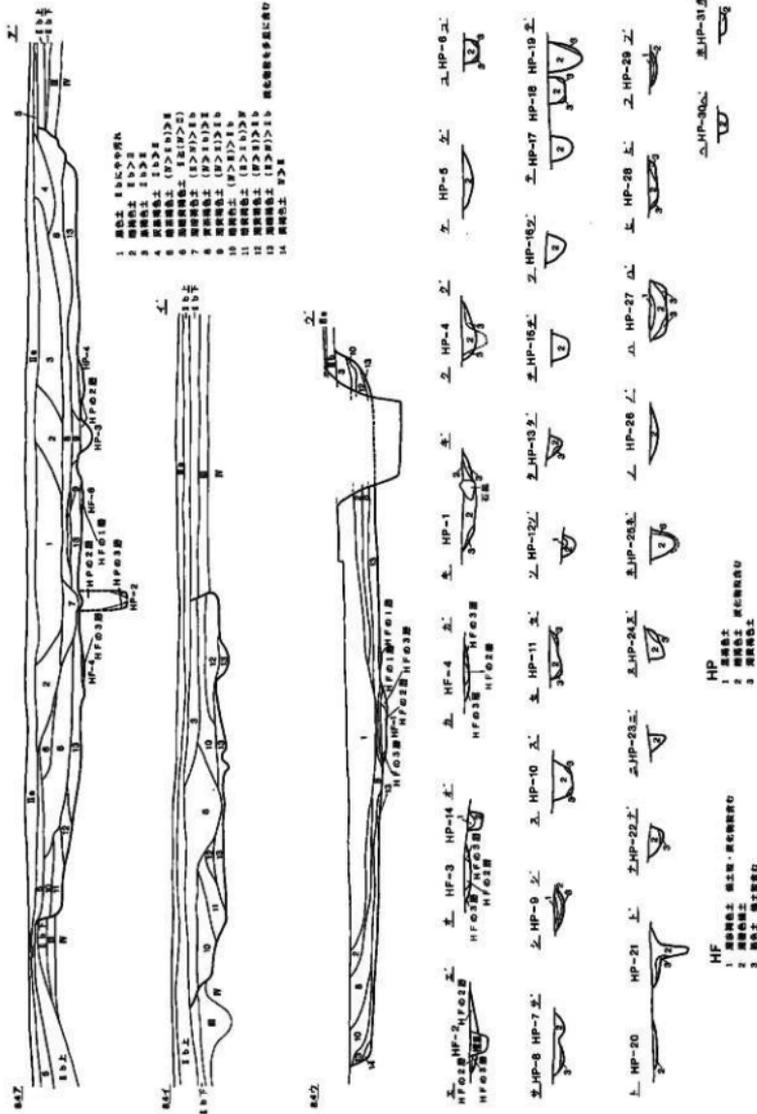
表Ⅲ-36 H-31付属施設一覧

No	用途等	規模(上端の縦×横×深) (内径)	備考
HP1	付属土壌	77×64×11	石皿
HP2	柱穴	19×18×38	主柱穴?
HP3	"	23×23×4	
HP4	柱穴	48×41×20	主柱穴?
HP5	付属土壌	46×46×8	
HP6	柱穴?	18×18×12	
HP7	"	20×20×8	
HP8	"	26×24×9	
HP9	付属土壌	33×31×8	HF1にかかると
HP10	"	32×30×16	
HP11	"	38×38×9	
HP12	柱穴	18×18×11	
HP13	"	20×20×10	
HP14	"	15×15×12	主柱穴?
HP15	"	22×22×14	
HP16	柱穴?	23×23×15	
HP17	柱穴	18×18×18	主柱穴?
HP18	柱穴?	21×20×14	
HP19	柱穴	24×21×28	
HP20	付属土壌	39×37×3	
HP21	柱穴	48×45×31	
HP22	柱穴?	24×23×11	
HP23	柱穴	14×14×13	
HP24	柱穴?	24×21×13	
HP25	柱穴	21×21×23	主柱穴?
HP26	付属土壌	42×41×7	
HP27	"	45×32×14	
HP28	"	39×33×7	
HP29	"	35×30×5	
HP30	"	16×16×7	
HP31	"	17×17×4	
HF1	炉	97×66×7	HP9E-群後らる
HF2	炉	55×40×6	
HF3	炉	46×31×5	
HF4	炉	43×30×4	
HF5	南東焼土	29×27×2	焼土粒
HF6	"	20×14×1	"
HF7	"	42×20×2	"

III オサツ14遺跡の調査

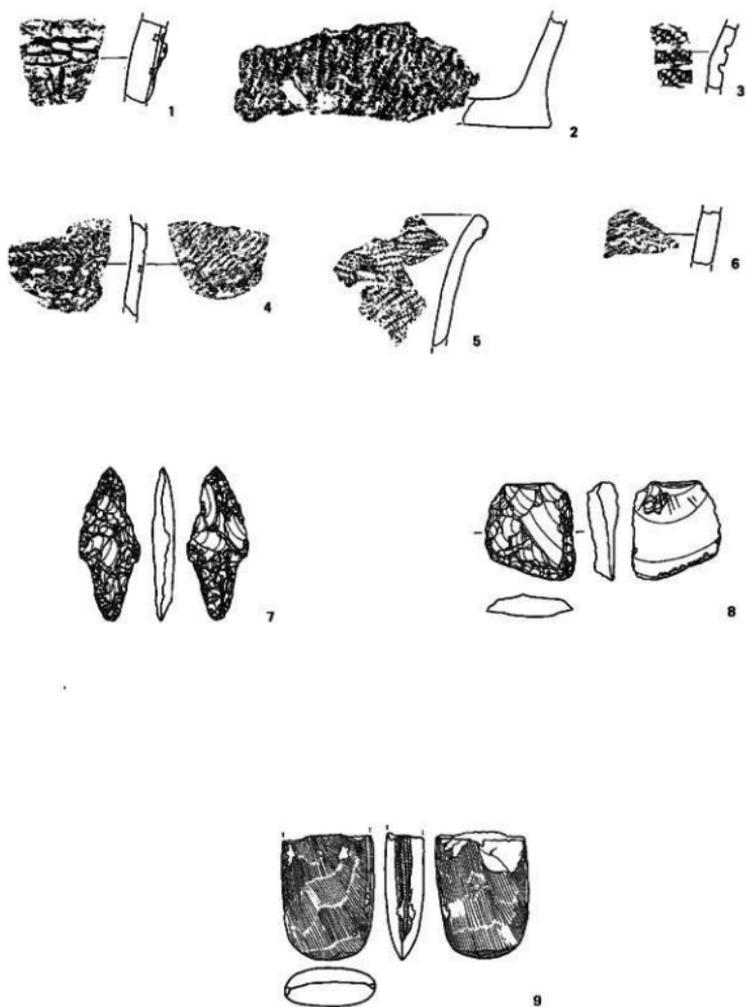


図III-64 H-31



図III-65 H-31セクション

III オサツ14遺跡の調査



図III-66 H-31の遺物

② 土壌

P-1 (図Ⅲ-67, 図版Ⅲ-46)

位置 A18-4・8・9 規模 0.74/0.33×0.59/0.28×0.17m

調査 黒色土が覆土のほとんどを占めていたので、平面はⅡb層下部まで下がった面で確認した。平面形は楕円形、墳底と壁の境は不明瞭、壁は内湾しながら外上方向へ立ち上がる。覆土は流れ込みの2層で構成されている。覆土2層からⅢ群b-2類土器3点と礫1点が出土している。

時期 出土した土器より縄文時代中期。(鈴木)

P-2 (図Ⅲ-67)

位置 A18-17・22 規模 0.68/0.44×(0.26)/(0.15)×0.34m

調査 黒色土が覆土上位にあったので、平面はⅡb層下部まで下がった面で確認した。平面形は楕円形、墳底と壁の境は明瞭、壁はほぼ直線的に上方向に立ち上がる。覆土は流れ込みの2層で構成されている。

時期 構築面のレベルから縄文時代中期の可能性がある。(鈴木)

P-3 (図Ⅲ-67)

位置 D20-9・10・15 規模 -/×-/××0.26m

調査 H-1の覆土を切って構築されている。平面形は隅が角張る楕円形、墳底と壁の境は明瞭、壁はほぼ直線的に外上方向へ立ち上がる。覆土は流れ込みの4層で構成されている。覆土2層からⅣ群土器2点が出土している。

時期 出土した土器より縄文時代後期。(鈴木)

P-4 (図Ⅲ-67)

位置 D18-23・24, 19-3・4 規模 0.57/0.27×0.44/0.23×0.27m

調査 H-2の覆土を切って構築されている。平面形は楕円形、墳底と壁の境は不明瞭、壁はほぼ内湾しながら外上方向へ立ち上がる。覆土は流れ込みの2層で構成されている。覆土2層からⅣ群土器1点とフレイク1点が出土している。

時期 出土した土器より縄文時代後期。(鈴木)

P-5 (図Ⅲ-68)

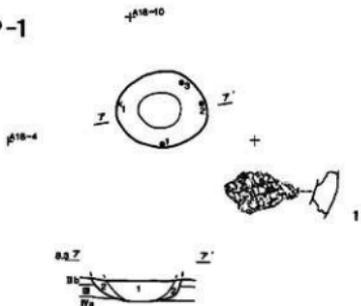
位置 D15-19・24 規模 0.59/0.36×0.56/0.33×0.33m

調査 H-4の覆土を切って構築されている。平面形は円形、墳底と壁の境は不明瞭、壁はほぼ直線的に外上方向へ立ち上がる。覆土は1層で構成されている。覆土から安山岩の石皿が壁に立てかけられるようにしてあった。土器は11点出土している。1は堂林式。他には礫が1点出土している。Ⅳ群土器1点とフレイク1点が出土している。

時期 出土した土器より縄文時代後期の堂林式期。(鈴木)

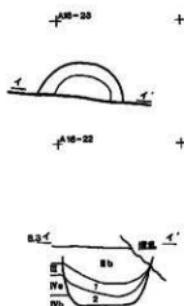
III オサツ14遺跡の調査

P-1



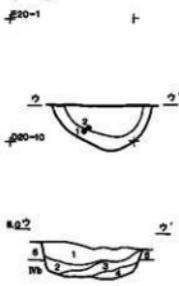
- 1 黒色土 (E b : N1. S/L, 跡りなし。)
- 2 黄褐色土 (E a > F a : Hs1. S71/L, Es-Lをブロックで含む。)

P-2



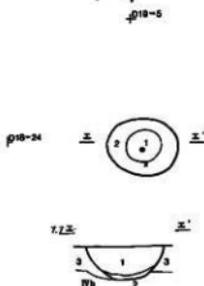
- 1 黒色土 (E b > F a + F b : N1. S/L, φ 5 cm Es-Fを含む。)
- 2 オリーブ褐色土 (E a + F a > F b : Hs1. S71/L, φ 6 cm Es-F・Es-Lをブロックで含む。)

P-3



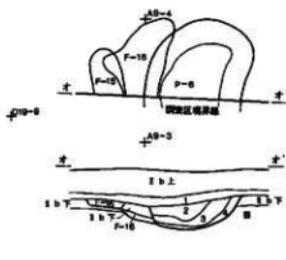
- 1 黒褐色土 (E b > F a : Hs1. S71/L, φ 10 cm Es-Fを含む。)
- 2 黒褐色土 (E b > F a : Hs1. S71/L), 跡りなし。)
- 3 にぶい黄褐色土 (F a + F b : Hs1. S71/L, φ 12 cm Es-Fを多量含む。)
- 4 黒褐色土 (F a + F b > E b : Hs1. S71/L, φ 5 cm Es-Fを含む。)

P-4



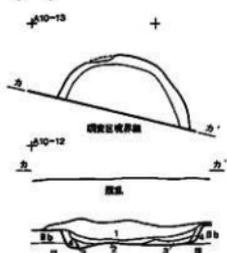
- 1 黒色土 (E b : N1. S/L)
- 2 オリーブ褐色土 (F a > F b : Hs1. S71/L, Es-Lを含む, 跡りなし。)

P-6



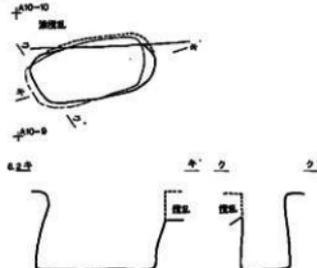
- 1 黒色土 E b > F a
- 2 黒褐色土 E b > E
- 3 黒褐色土 (E b > E) > F a
- 4 黄褐色土 F a (E b > E)

P-7



- 1 黒色土 E b > F a
- 2 黒褐色土 E b > E
- 3 黄褐色土 F a (E b > E)
- 4 黄褐色土 F a (E b > E)

P-8



図III-67 P-1~4・6~8

P-6 (図Ⅲ-67, 図版Ⅲ-46)

位置 A9-3 規模 $(0.66) / (0.47) \times 0.79 / 0.47 \times 0.28\text{m}$

調査 調査範囲境界線にかかるため、半分だけ調査できた。平面形は長軸を北東-南西に向けた長円形で、Ⅲ層に掘りこまれている。底面・壁面ともは丸味をもっているが、F-16を壊してつくられている西側はやや乱れて角張った感じである。

時期 周辺の土器から、縄文時代後期の遺構と思われる。(三浦)

P-7 (図Ⅲ-67, 図版Ⅲ-46)

位置 A10-12・17 規模 $1.10 / 0.95 \times (0.47) / (0.39) \times 0.19\text{m}$

調査 調査範囲境界線にかかるため、半分だけ調査できた。平面形は円形と思われ、Ⅲ層に掘りこまれている。H-13の壁と床を壊してつくられている。上部は攪乱で削り取られている部分もある。底面は平坦で、壁の立ち上がりは明瞭である。

時期 周辺の土器や切り合い関係から、縄文時代後期の遺構と思われる。(三浦)

P-8 (図Ⅲ-67, 図版Ⅲ-46)

位置 A10-9・14 規模 $1.00 / 0.97 \times (0.50) / (0.46) \times 0.64\text{m}$

調査 ほぼ全体が側溝攪乱の中にあつて上部まで削り取られている部分もあるが、H-13・14の調査で確認された。平面形は長軸を東-西に向けた長楕円形で、IV層にまで深く掘り込まれている。底面は平坦、壁は直線的につくられており、東側を除いてオーバーハングする。覆土はほぼ均一に黒色土とIV層が混合しており、人為的に埋められたように見うけられる。形態・覆土ともにP-24と類似しているおり、墓塚の可能性はある。

時期 周辺の状況や類似するP-24から、縄文時代後期の遺構と思われる。(三浦)

P-9 (図Ⅲ-68)

位置 A7-13・14・18・19 規模 $0.72 / 0.49 \times 0.64 / 0.52 \times 0.19\text{m}$

調査 II層調査後のⅢ層土面に、黒色土の落ち込みを確認した。平面形は不整形で、IV層まで掘り込まれている。底と壁も不均一で、丸みをもつ部分とそうではない部分がある。

遺物 墳底近くから黒曜石のUフレイク1点が出土している。

時期 周辺の同規模の土壌と同じく、縄文時代中期の遺構と思われる。(三浦)

P-10 (図Ⅲ-68, 図版Ⅲ-46)

位置 A12-8・13 規模 $0.64 / 0.48 \times 0.59 / 0.48 \times 0.12\text{m}$

調査 II層調査後のⅢ層土面に、黒色土の落ち込みと礫片が確認できた。平面形は円形で、IV層まで掘り込まれている。底面は凹凸が著しく、壁の立ち上がりは明瞭である。

遺物 覆土にIV群c類が1点、中央部に礫片が1点入っていた。

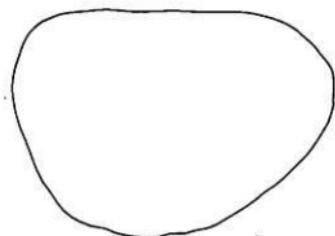
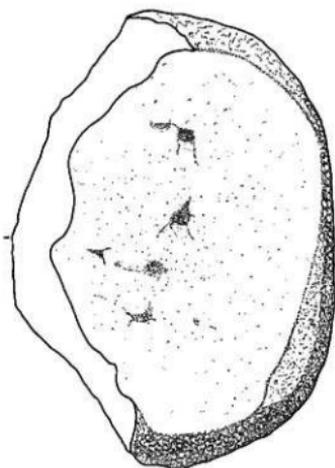
時期 IV群c類土器の時期、縄文時代後期後葉の堂林式期の遺構である。(三浦)

III オサツ14遺跡の調査

P-5



- 1 黒色土 (E b > F b : N1 5/2, φ 5 mls-F を含む, 継りなし。)
- 2 H-4 の覆土



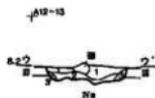
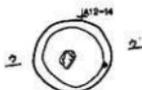
2

P-9



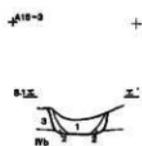
- 1 黒褐色土 E b > E
- 2 黒褐色土 (E b > E) > F a
- 3 黒褐色土 F a (E b > E)

P-10



- 1 黒褐色土 (E b > E) > F a
- 2 黒褐色土 F a (E b > E)
- 3 F 層の遺物

P-11



- 1 黒色土 (E b > F b : N1 5/2, φ 10 mls-F を含む, 継りなし。)
- 2 黒褐色土 (F a + F b > E b : N1 10/2/2, φ 5 mls-F を多量含む, Es-1 を含む。)
- 3 H-15 の覆土

0 10cm

図III-68 P-5・9~11

P-11 (図Ⅲ-68, 図版Ⅲ-47)

位置 A15-3 規模 0.71/0.62×0.49/0.30×0.23m

調査 H-15の覆土を切って構築されている。平面形は隅が丸い長方形、墳底と壁の境は明瞭、壁はほぼ直線的に外上方向へ立ち上がる。覆土は2層で構成されている。覆土からは土器が2点と礫が1点出土している。

時期 出土した土器より縄文時代後期堂林式期。(鈴木)

P-12 (図Ⅲ-69)

位置 A14-2・3・7・8 規模 1.15/0.93×1.00/0.67×0.35m

調査 P-13を調査中にⅢ層よりやや暗い土の範囲に気がついた。平面形は楕円形、墳底は平坦で、壁との境は明瞭、壁は直線的に上方向へ立ち上がる。覆土は埋め戻しの2層で構成されている。墳底からは北海道式石冠と礫が1点出土している。

時期 出土した石冠より縄文時代中期。(鈴木)

P-13 (図Ⅲ-69)

位置 A14-7・8・12・13 規模 1.05/0.53×0.81/0.45×0.39m

調査 黒色土が覆土上位にあったので、平面はⅡb層下部まで下がった面で確認した。平面形はやや角がある楕円形、墳底は平坦で、壁との境は不明瞭、壁はほぼ直線的に上方向へ立ち上がる。覆土は流れ込みの4層と壁の崩落土の5層で構成されている。覆土からは石斧片1点とフレイクチップが12点と礫が1点出土している。

時期 P-12を切っているので、縄文時代中期以降の可能性がある。(鈴木)

P-14 (図Ⅲ-69, 図版Ⅲ-52)

位置 D11-23, D12-3 規模 0.68/0.43×0.63/0.42×0.15m

調査 Ⅱb層調査中にⅣ層調査中にⅣ層混じりの黒色土の落ち込みが確認できた。位置的にはH-28に上面を壊されているが、調査時にはその存在に気付いていない。平面形は不整形で、Ⅲ層に掘りこまれている。底面は凹凸が著しく、壁の立ち上がりは明瞭である。

遺物 覆土にⅢ群b-2類の土器が1点、フレイクチップが1点入っていた。

時期 Ⅲ群b-2類土器時期、縄文時代中期中ごろ柏木川式期の遺構であろう。(三浦)

P-15 (図Ⅲ-69, 図版Ⅲ-46・52)

位置 D8-2・3・7・8 規模 0.72/0.54×0.57/0.42×0.06m

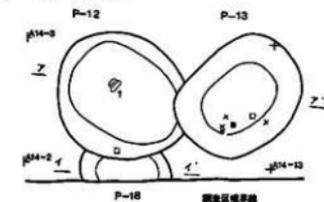
調査 Ⅱb層調査後のⅢ層上面に、黒色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で、Ⅳb層まで掘り込まれている。底面・壁面とも丸みをもっている。覆土は黒色土主体で、ほぼ均一にⅣb層が混合しており、人為的に埋められたように見うけられる。

遺物 覆土からⅢ群b-2類の土器片が1点出土している。

時期 Ⅲ群b-2類の時期、縄文時代中期中ごろ柏木川式期の遺構であろう。(鎌田)

III オサツ14遺跡の調査

P-12・13・18



P-12

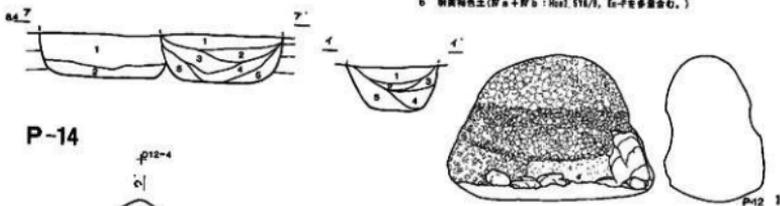
- 1 黒色土 (E b > F b : Has117E1/1, φ 5 mmE-Fを少量含む。)
- 2 黒褐色土 (F a + F b > E b : Has117E2/1, φ 5 mmE-Fを少量含む。)
- 3 黒色土 (E b > F b : N1/1, φ 5 mmE-Fを少量含む。)
- 4 暗褐色土 (F a + F b + E b > E b : Has117E3/1, φ 11-15 mmE-Fを少量含む。)
- 5 黄褐色土 (F a + F b : Has117E1/1, φ 11-15 mmE-Fを少量含む。)

P-17

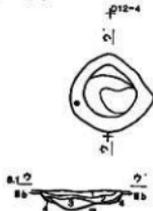
- 1 黄褐色土 (F a + F b : Has117E1/1, φ 5 mmE-Fを少量含む。跡りなし。)
- 2 褐色土 (F a + F b > E b : Has117E1/1, φ 5 mmE-Fを少量含む。跡りなし。)

P-18

- 1 オリーブ褐色土 (F a + F b + E b : Has2 51E/1, φ 11 mmE-F・Ea-Lを少量含む。)
- 2 オリーブ褐色土 (F a + F b + E b : Has2 51E/2, φ 11 mmE-F・Ea-Lを少量含む。)
- 3 暗褐色土 (F a + F b : Has2 51E/1, Ea-Lを少量含む。)
- 4 黄褐色土 (F a + F b : Has2 51E/1, Ea-Lを少量含む。)
- 5 暗褐色土 (F a + F b : Has2 51E/1, Ea-Lを少量含む。)

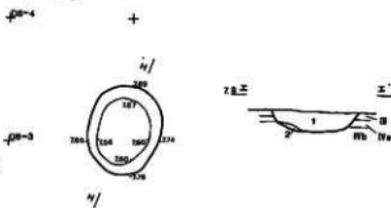


P-14



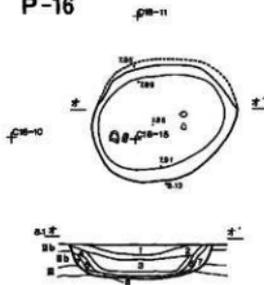
- 1 黒褐色土 (E b > F a)
- 2 暗褐色土 (E b > F a : 横土粒含む)
- 3 暗褐色土 (E b > F a : 横土粒も多量に含む)
- 4 暗褐色土 (F a (E b > E))

P-15



- 1 黒色土 (E b > F b)
- 2 暗褐色土 (E b > F a, F bを少量含む)

P-16



- 1 黒色土 (E b > F a)
- 2 黒褐色土 (E b > F a)
- 3 黒色土 (E b > F a : 横土粒多量)
- 4 黒色土 (E b > F a : 横土粒多量)
- 5 暗褐色土 (F a > E b > E)
- 6 黄褐色土 (F a > E b)
- 7 暗褐色土 (E > E b) > F a

図III-69 P-12~16・18

P-16 (図-69, 図版Ⅲ-47)

位置 C18-9・10・14・15 規模 1.19/1.04×0.99/0.75×0.38m

調査 II b層調査中にIV層混じりの黒色土の落ち込みが確認できた。長軸がほぼ東-西を向いた平面形が長円形の土壌で、IV層上面まで掘り込まれている。底面は平坦で、壁は丸みをもって立ち上がる。

遺物 覆土にⅢ群b類と思われるの土器が2点、礫が2点入っていた。

時期 土器と周囲の堅穴などから、縄文時代中期中ごろ柏木川式期の遺構と考えられる。(三浦)

P-17 (図Ⅲ-70)

位置 A14-21・22, 15-1・2 規模 0.69/0.51×0.85/0.41×0.29m

調査 H-17の覆土を切って構築されている。平面形は楕円形、墳土と壁の境は不明瞭、壁はほぼ直線的に外上方向へ立ち上がる。覆土は1層で構成されている。覆土からは柏木川式土器が6点出土している。

時期 出土した土器より縄文時代中期柏木川式期。

(鈴木)

P-18 (図Ⅲ-69)

位置 A14-1・2・6・7 規模 -/-x-/-×0.33m

調査 P-13を調査中にⅢ層よりやや暗い土の範囲に気がついた。平面形は不明。墳底は平坦で、壁と境は明瞭、壁はほぼ直線的に外上方向へ立ち上がる。覆土は流れ込みの5層で構成されている。

時期 P-13に切られているので、縄文時代中期以前の可能性がある。

(鈴木)

P-19 (図Ⅲ-70)

位置 C16-11・12・16 規模 0.79/0.54×0.71/0.49×0.17m

調査 H-20の覆土を切って構築されている。平面形は円形、墳底と壁の境は明瞭、壁はやや内湾しながら外上方向へ立ち上がる。覆土は1層で構成されている。覆土からは柏木川式土器19点とフレイクチップ12点が出土している。

時期 出土した土器より縄文時代中期柏木川式期。

(鈴木)

P-20 (図Ⅲ-70, 図版Ⅲ-47)

位置 C12-9・14 規模 0.68/0.62×0.64/0.58×0.20m

調査 H-28の調査中にIV b層混じりの黒色土の落ち込みを確認した。H-28埋没後に掘り込まれている。平面形は円形で、底面は平坦である。壁の立ち上がりは明瞭である。付近にはP-22・32・40がある。

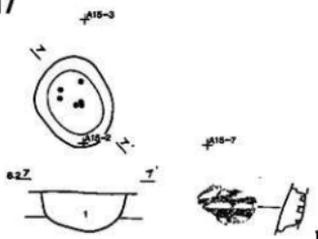
遺物 覆土からIV群b類の土器片13点、石礫1点、フレイクチップ5点が出土している。1は地文のRLの縄文に沈線が認められる。内面は磨かれている。2にはLRとRLの細かい縄文が施されている。内面は平滑で胎土に砂を含んでいる。

時期 IV群b類の時期、縄文時代後期中葉の遺構であろう。

(鎌田)

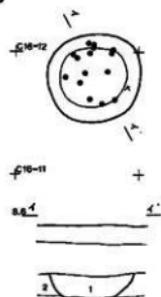
III オサツ14遺跡の調査

P-17



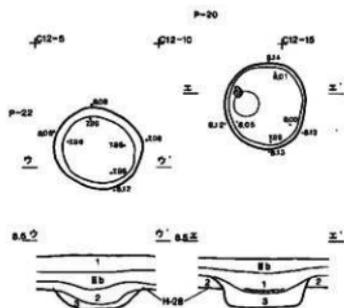
1 黒色土 (E b > F b : N1.5/L, φ 6 cm) + P を僅少含む、跡りなし、)

P-19



1 黒色土 (E b > F b : Hx2.5/L1, φ 6 cm) + P - Ex-L を少量含む、)
2 H13 燻土

P-20・22

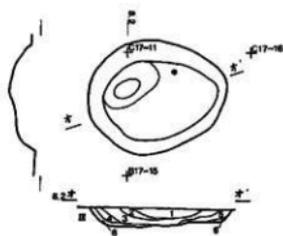


1 黒褐色土 (E b > F b, H-13 燻土)
2 黒褐色土 (E b > F a)
3 褐色土 (F a + E b)

1 黒色土 (E b > F b, 炭化物を含む、H-13 燻土)
2 黒褐色土 (E b > F b)
3 黒色土 (E b, わずかに F b を含む)



P-21



1 黒褐色土 (E b > F a)
2 黒褐色土 (E b > F a)
3 黒褐色土 (E b > F a)
4 黒褐色土 (E b > F a)
5 黒褐色土 (E b > F a)
6 黒褐色土 (E b > F a)



III-70 P-17・19~22

P-21 (図Ⅲ-70, 図版Ⅲ-48・52)

位置 B17-10・15, C17-6・11

規模 1.15/0.92×0.92/0.65×0.15m

調査 II b層調査中にIV層混じりの黒色土の落ち込みが確認できた。長軸がほぼ東-西を向いた平面形が長円形の土壌で、IV層上面まで掘り込まれている。底面は平坦だが、北側にもう一段小さな窪みがある。壁は明瞭に立ち上がる。

遺物 覆土からⅢ群 a類土器の底部が1点出土している。

時期 縄文時代中期前半か中ごろの遺構であろう。(三浦)

P-22 (図Ⅲ-70)

位置 C12-3・4

規模 0.70/0.60×0.63/0.52×0.20m

調査 H-28の調査中にIV a層混じりの黒色土の落ち込みが確認できた。この上にはII b層が堆積しており、その上にはIV b層混じりの黒色土が堆積している。当初、この層をH-28の覆土としていたが、堆積状況、周辺の遺構との関係から考えてH-23の掘揚げ土であると考えられる。平面形は円形である。底面は平坦で壁は丸みをもって立ち上がる。

時期 周辺の同規模の土壌と同じく、縄文時代後期中葉の遺構と思われる。(鎌田)

P-23 (図Ⅲ-71, 図版Ⅲ-48・52)

位置 C8-10

規模 (0.58) / (0.48) × 0.91/0.72 × 0.35m

調査 C8区の側溝攪乱の断面で土壌のセクションを確認した。北側は側溝により破壊されている。平面形は円形と推定される。底面は平坦で壁の立ち上がりは明瞭である。隣接してP-50がある。

遺物 覆土からⅢ群 a類1点、IV群 b類12点、墳底からIV群 b類9点の土器片が出土している。1は覆土出土、2~4は墳底出土のIV群 b類である。いずれも内面が磨かれている。1には細かいLRの縄文が施されている。2は横走る太い平行沈線の間を刻んでいる。3にはLRの斜行縄文、4にはLR+RLの羽状縄文が施されている。石器類は、覆土からフレイクチップ8点、礫1点が出土している。

時期 IV群 b類の時期、縄文時代後期中葉の遺構と思われる。(鎌田)

P-24 (図Ⅲ-71, 図版Ⅲ-48・52)

位置 C11-15・20

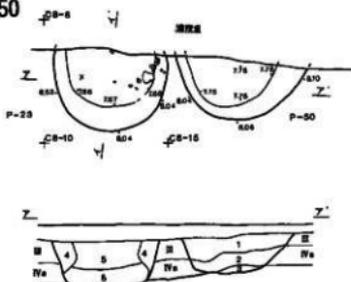
規模 0.67/0.69 × (0.50) / 0.46 × 0.24m

調査 H-23調査中に、この床面を裏して作られている土壌を確認した。北側は側溝で破壊されている。長軸を北西-南東に向け、平面形は長円形を呈している。IV b層にまで深く掘り込まれており、底面は平坦、壁はほぼ直線的につくられ一部はオーバーハングする。覆土2層はほぼ均一に黒色土とIV層が混合しており、人為的に埋められたように見られる。形態・覆土ともにP-8と類似している。墓塚の可能性はある。

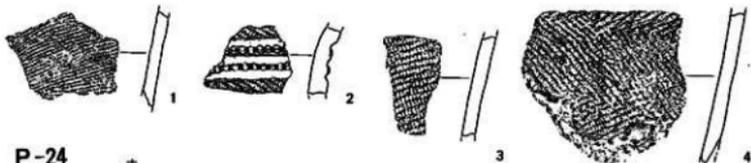
遺物 覆土からIV群 b類の土器が4点、フレイクチップが2点出土している。

時期 IV群 b類土器の時期、縄文時代後期中ごろ手稲式期の土壌であろう。(三浦)

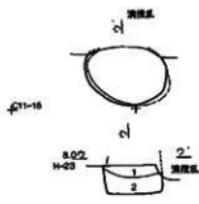
P-23-50



- 1 埴輪土 (Ib>Ia)
- 2 埴土 (Ia+Ib)
- 3 埴輪土 (Ia>Ib)
- 4 埴輪土 (Ib>Ia)
- 5 埴土 (Ib, わずかにIaを含む)
- 6 埴土 (Ib)

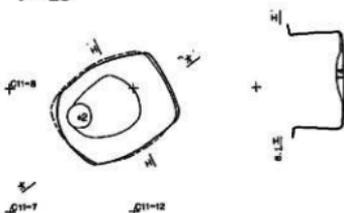


P-24

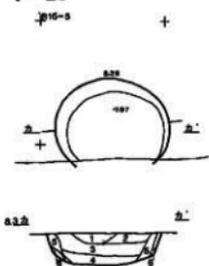


- 1 埴土 (Ibにやや中肉)
- 2 埴輪土 (Ia>Ib)

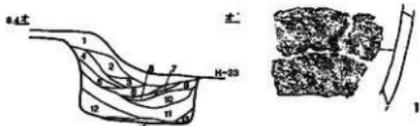
P-25



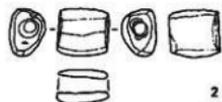
P-26



- 1 埴輪土 (Ib>Ia)>Ia
- 2 埴輪土 (Ib>Ia)
- 3 埴輪土 (Ib>Ia)>Ia, 灰化物を含む
- 4 埴輪土 (Ib>Ia)>Ia, 灰化物を含む
- 5 埴輪土 (Ib>Ia)>Ia
- 6 埴輪土 (Ia>Ib)



- 1 埴土 (Ib>Ia)
- 2 埴輪土 (Ib>Ia)>Ia
- 3 埴輪土 (Ia>Ib)
- 4 埴輪土 (Ia>Ib)>Ia
- 5 埴輪土 (Ia>Ib)>Ia
- 6 埴輪土 (Ib>Ia)>Ia
- 7 埴土
- 8 埴輪土ブロック (Ia>Ib)
- 9 埴輪土 (Ia>Ib)>Ia
- 10 埴輪土 (Ia>Ib)>Ia
- 11 埴輪土 (Ib>Ia)>Ia
- 12 埴輪土 (Ia>Ib)
- 13 埴輪土 (Ia>Ib)
- 14 埴輪土 (灰化物を含む) ねっとりとしている



2 (1/2)

図III-71 P-23~26・50

P-25 (図Ⅲ-71, 図版Ⅲ-48・52)

位置 C11-7・8・12・13

規模 $0.94/0.94 \times 0.76/0.79 \times 0.70\text{m}$

調査 H-23調査中に、この床面と壁を壊して作られている土壌を確認した。長軸をほぼ西一東に向けた、胴張りのある長方形を呈する土壌で、IV b層にまで深く掘り込まれている。底面は平坦、壁はほぼ直線的につくれ東部を除いてオーバーハングする。形態から墓塚と判断し調査した。塚底部中央西寄りに、14層とした粘り気のある土の広がりがあり、これが埋葬遺体の痕跡と思われる。頭部を西に向けた側臥の思葬のように観察できた。

遺物 塚底部の14層上、頭部と思われる部分からヒスイ玉が1点検出されている。いびつな筒状を呈し、穿孔は両面から行われている。覆土からは、Ⅲ群b-2類土器が5点、IV群b類土器が5点と、黒曜石のUフレイク1点、ヒスイのような小礫片が1点出土している。

時期 切り合い関係と土器から、縄文時代後期中ごろ手稲式期かそれ以降の墓塚といえる。

(三浦)

P-26 (図Ⅲ-71)

位置 B-15-3・4・8・9

規模 $0.92/0.79 \times (0.77) / (0.64) \times 0.26\text{m}$

調査 旧側溝攪乱に現われていた断面から、土壌を確認した。平面形は、長軸を北西-南東に向けた長円形を呈する。IV b層上面まで掘り込まれており、底部はやや丸みをもっている。壁の立ち上がりは明瞭である。

遺物 覆土から黒曜石のフレイクチップ2点が出土しているのみである。

時期 縄文時代後期の土壌と推定される。

(三浦)

P-27 (図Ⅲ-72, 図版Ⅲ-49)

位置 B14-24, B15-5, C14-21, C15-1

規模 $0.91/0.74 \times 0.86/0.74 \times 0.49\text{m}$

調査 15ラインでメインセクション面を出しているときに、IV層の混入した黒色土の落ち込みを確認した。平面形は円形で、掘り込みはIV b層に及んでいるが、底部は東側にずれて作られている。したがって、壁は途中で緩い段をもっており、東半分はこの段や壙口部がオーバーハングし、西側壙口部に開き気味である。底部はやや丸みをもっている。

遺物 覆土からIV群b類土器が3点と黒曜石のフレイクチップ3点が出土している。

時期 縄文時代後期中ごろの土壌と推定される。

(三浦)

P-28 (図Ⅲ-72, 図版Ⅲ-49・52)

位置 B9-14・15

規模 $0.97/0.87 \times (0.87) / 0.76 \times 0.22\text{m}$

調査 遺構確認のトレンチによりII b層中にIV a混じりの黒色土を確認した。平面形は円形で底面は平坦である。壁の立ち上がりは明瞭である。

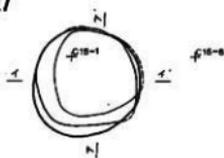
遺物 覆土上面および覆土から8点の土器片が出土しており、主体となるのは6点出土したIV群b類である。1は覆土上面、2・3は覆土出土のIV群b類である。1・2には沈線で区画された磨消帯がある。3には沈線文が施されている。ほかに覆土からフレイクチップ1点と礫1点、塚底からフレイクチップ2点が出土している。

時期 IV群b類の時期、縄文時代後期中葉手稲式期の遺構と思われる。

(鎌田)

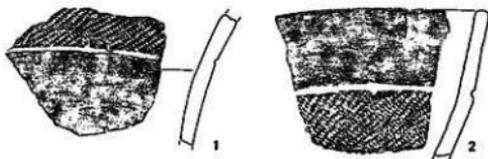
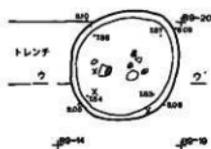
III オサツ14遺跡の調査

P-27



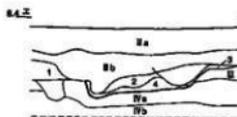
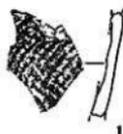
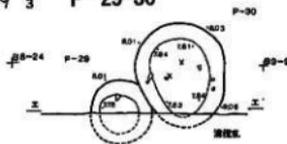
- 1 黒色土 (2b>2a) かたしき層
- 2 黒色土 (2b)に中層れ かたしき層
- 3 暗褐色土 (2a>2b)>2c かたしき層
- 4 暗褐色土 (2b>2a)>2c 腐化層(腐敗) かたしき層
- 5 黒褐色土 (2a>2c)
- 6 暗褐色土 (2a>2c)

P-28

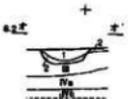


P-29-30

- 1 黒色土 (2b, わずかに2aを包含)
- 2 赤色土 (2a>2b)
- 3 暗褐色土 (2a+2b)



P-31



- 1 黒色土 (2b)
- 2 暗褐色土 (2b>2a)



図III-72 P-27~31

P-29 (図Ⅲ-72, 図版Ⅲ-49・52)

位置 B8-23, B9-3 規模 (0.52) / (0.32) × 0.49 / 0.32 × 0.30m

調査 B8区の側溝攪乱の断面で土壌のセクションを確認した。平面形は円形で掘り込みはIV a層に達している。底面・壁面とも丸みをもつ、隣接するP-30に切られている。

遺物 覆土からⅢ群a類の土器が1点出土している。1は外傾する口唇を肥厚させ、そこに貼付帯を波状に張り付けた痕跡がある。

時期 Ⅲ群a類の時期、縄文時代中期前葉円筒土器上層式期の遺構であろう。(鎌田)

P-30 (図Ⅲ-72, 図版Ⅲ-49・52)

位置 B8-23, B9-3・4 規模 (0.84) / (0.60) × 0.72 / 0.41 × 0.30m

調査 B8区の側溝攪乱の断面で土壌のセクションを確認した。平面形は楕円形で掘り込みはIV a層に達している。底面・壁面とも丸みをもつ。隣接するP-29を切っている。

遺物 覆土からⅡ群a類・Ⅲ群b-2類の土器片各2点、スクレイパーとRフレイク各1点、フレイクチップ2点が出土している。墳底からはⅢ群b-2類の土器片1点、フレイクチップ2点が出土している。1・2はⅢ群b-2類である。1は覆土出土でLR+RLの羽状縄文が認められる。内面は平滑である。2は墳底出土でLRの縄文が施されている。

時期 Ⅲ群b-2類の時期、縄文時代中期中ごろ柏木川式期の遺構であろう。(鎌田)

P-31 (図Ⅲ-72, 図版Ⅲ-52)

位置 B9-8 規模 (0.45) / 0.28 × (0.39) / (0.21) × 0.11m

調査 B9区の側溝攪乱の断面で土壌のセクションを確認した。平面形は楕円形で掘り込みはⅢ層に達している。底面・壁面とも丸みをもつ。

遺物 覆土上面から墳底までⅡ群a類・Ⅲ群a類・Ⅳ群b類の土器片が22点出土しているが、主体となるのは20点出土しているⅣ群b類である。1は覆土と土壌の横で出土した土器片が接合したものの。2は土壌横で出土したもの。いずれも波状口縁で横長のS字形の沈線が施されている。3は覆土出土で横走する平行沈線が認められる。ほかに覆土から礫が1点出土している。

時期 Ⅳ群b類の時期、縄文時代後期中葉手稲式期の遺構であろう。(鎌田)

P-32 (図Ⅲ-73)

位置 C12-7・8 規模 0.79 / 0.68 × 0.61 / 0.52 × 0.10m

調査 H-28調査中にその床面に土壌を確認した。H-28壁との関係や覆土から、H-28以前に作られ、これに上方を壊された土壌と判断した。底の一部も柱穴によって壊されている。平面形は、長軸を北東-南西に向けた長円形である。Ⅳ層上面まで掘り込まれており、壁・底とも丸みがある。

時期 縄文時代後期初頭かそれ以前と推定される。(三浦)

P-33 (図Ⅲ-73)

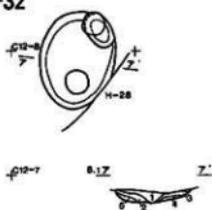
位置 B12-7・8・12・13 規模 - / 0.77 × (0.43) / (0.27) × 0.30m

調査 SH-1の調査時に旧側溝攪乱の断面に現われていた、SH-1に切られた土壌である。北側は攪乱、東側はSH-1に壊され、全体の1/4ほどしか残存していない。平面形は長円形と思われ、Ⅳa層上面まで掘り込まれている。底面は平坦で、壁の立ち上がりは明瞭である。斜めに入る柱穴上の窪みも、攪乱ではなくこの土壌に付属するものである。

時期 縄文時代後期と推定される。(三浦)

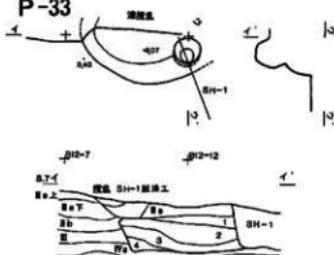
III オサツ14遺跡の調査

P-32



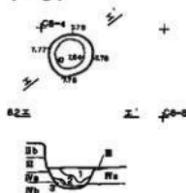
- 1 焼円色土 (I b > II)
- 2 焼黄褐色土 (II > I b) > V
- 3 焼赤褐色土 (III > I b) > V 焼土層も多少含む
- 4 褐色焼土
- 5 黄褐色土 (V > III) > I b

P-33



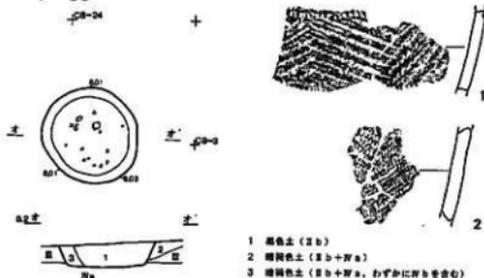
- 1 黒色土 (I b > V a)
- 2 黒褐色土 (I b > II) > V a
- 3 黄褐色土 (V > II) > I b
- 4 黄褐色土 (V a > (I b > II))

P-34



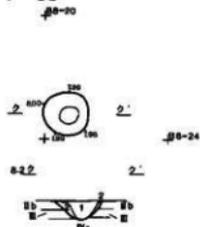
- 1 黒色土 (I b > V a)
- 2 焼褐色土 (I b + V a)
- 3 焼黄褐色土 (V a > I b, わずかにI bを含む)

P-35



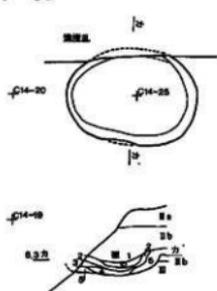
- 1 黒色土 (I b)
- 2 焼褐色土 (I b + V a)
- 3 焼黄褐色土 (I b + V a, わずかにI bを含む)

P-38



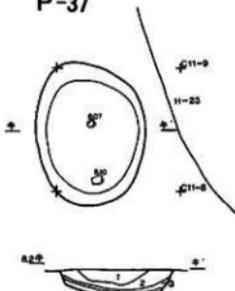
- 1 黒色土 (I b > II)
- 2 焼褐色土 (I b + II)

P-36



- 1 黒色土 灰化層を含む
- 2 焼円色土 I b > II
- 3 焼褐色土 I b > II
- 4 黄褐色土 (V > II) > I b
- 5 黄褐色土 (I b > V) > II

P-37



- 1 黒色土 I b に多少含む
- 2 焼褐色土 (I b > II) > V a
- 3 焼黄褐色土 (II > I b) > V
- 4 黄褐色土 (V > II) > I b



図III-73 P-32~38

P-34 (図Ⅲ-73)

位置 C 8-3 規模 0.36/0.25×0.33/0.24×0.16m

調査 II b層調査後のⅢ層上面に、黒色土の落ち込みを確認した。平面形は円形で、底面・壁面とも丸みをもつ。掘り込みはIV b層に達している。

遺物 覆土から礫片が1点出土している。

時期 周辺と同規模の土壌と同じく、縄文時代後期中葉の遺構と思われる。(鎌田)

P-35 (図Ⅲ-73, 図版Ⅲ-52)

位置 C 8-17・18・22・23 規模 0.80/0.65×0.75/0.60×0.20m

調査 II b層調査後のⅢ層上面に、黒色土の落ち込みを確認した。平面形は円形で、底面は平坦である。壁の立ち上がりは明瞭である。

遺物 覆土からI群b-4類4点、Ⅲ群a類5点、IV群b類8点の土器片が出土しているが、主体はIV群b類である。1はI群b-4類で縄端刺突と自網自巻の縄文が施されている。2はIV群b類でLRとRLの縄文が施されている。

時期 IV群b類の時期、縄文時代後期中葉の遺構と思われる。(鎌田)

P-36 (図Ⅲ-73)

位置 C14-19・20・24・25 規模 (1.06)/0.94×0.78/0.65×0.21m

調査 15ラインのメインセクションベルト裏断面にかかって、黒色土の落ち込みが確認できた。北側の壁の一部が攪乱により壊されている。平面形は、長軸をきた西-南東に向けた卵形で、Ⅲ層に掘り込まれている。底面はやや凹凸があり、壁は丸みをもって立ち上がる。

時期 縄文時代中期と推定される。(三浦)

P-37 (図Ⅲ-73, 図版Ⅲ-49)

位置 C10-23, C11-2・3・4 規模 1.17/0.93×0.89/0.75×0.23m

調査 H-23周辺のII b層調査時に、これに隣接した黒色土の落ち込みが確認できた。H-23との掘揚土の前後関係はみられない。平面形は、長軸を北東-南西に向けた長円形である。IV a層に掘り込まれており、底面は丸底気味になっている。壁は直線的で明瞭に立ち上がる。

遺物 覆土からⅢ群b-2類土器が2点、IV群b類土器が2点と、フレイクチップ・礫片が各1点出土している。

時期 H-23と同時期、縄文時代後期ごろの土壌と考えられる。(三浦)

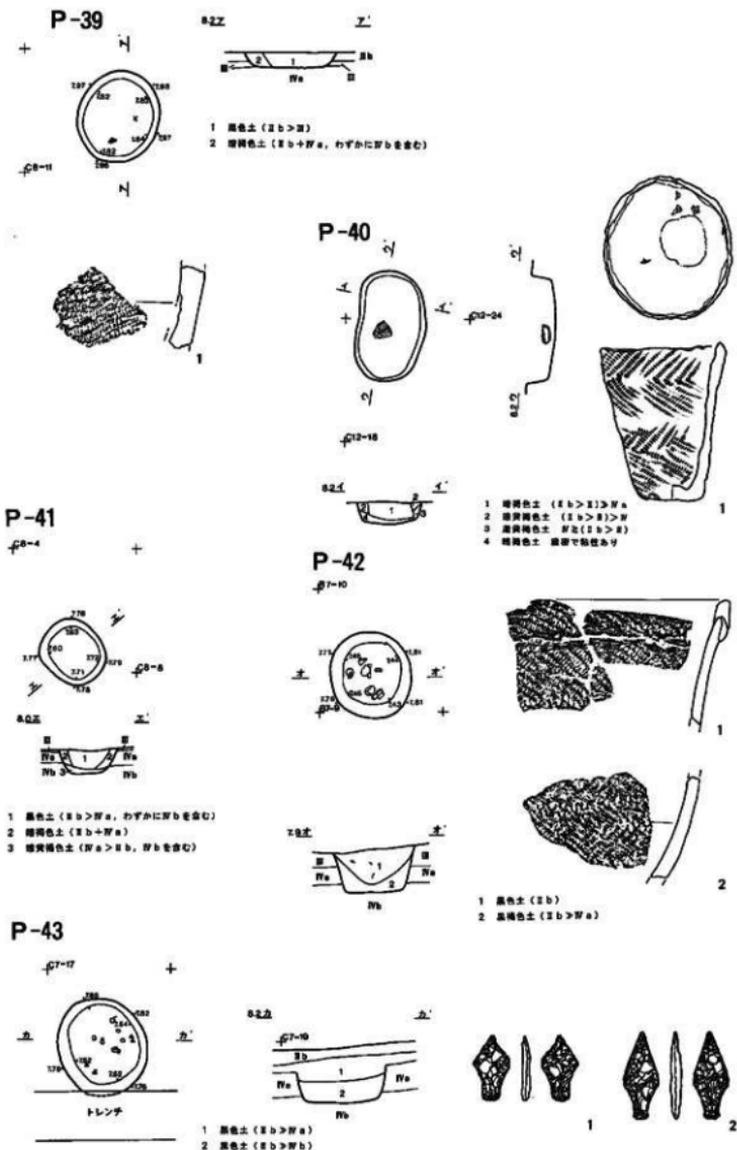
P-38 (図Ⅲ-73)

位置 B 8-19 規模 0.37/0.14×0.35/0.14×0.15m

調査 II b層調査中にⅢ層混じりの黒色土の落ち込みを確認した。平面形は円形で底面・壁面とも丸みをもつ。掘り込みはIV a層に達している。

時期 周辺と同規模の土壌と同じく、縄文時代後期中葉の遺構と思われる。(鎌田)

III オサツ14遺跡の調査



図III-74 P-39~43

P-39 (図Ⅲ-74, 図版Ⅲ-52)

位置 C 8-11・16 規模 0.75/0.64×0.66/0.55×0.07m

調査 II b層調査中にIII層混じりの黒色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で底面は平坦である。壁の立ち上がりは明瞭である。掘り込みはIV a層に達している。

遺物 覆土からIII群b-2類の土器片1点とフレイクチップ1点が出土している。1にはLRの縄文が認められる。

時期 III群b-2類の時期、縄文時代中期中ころ柏木川式期の遺構であろう。(鎌田)

P-40 (図Ⅲ-74, 図版Ⅲ-49)

位置 C12-18・19 規模 0.90/0.84×0.56/0.47×0.23m

調査 H-28周辺のII b層調査時に、これに隣接してIV層が混合した黒色土の落ち込みが確認できた。平面形は、長軸を北東-南西に向けた、いびつな長円形である。IV a層に掘り込まれており、底面は丸底気味になっている。壁は直線的で明瞭に立ち上がる。土器のありかたから墓墳の可能性が高いと判断し調査を進めた。墳底部には粘性のある4層が広がっている。4層・土器内の土・土器近くの4層の3サンプルについて脂肪酸分析を依頼している。

遺物 墳底部に広がっている4層の中央部に、IV群b類の小型深鉢が覆かされて置かれた状態で出土している。

時期 IV群b類土器の時期、縄文時代後期手稲式期の墓墳であろう。(三浦)

P-41 (図Ⅲ-74, 図版Ⅲ-50)

位置 C 8-2・3 規模 0.55/0.42×0.47/0.36×0.19m

調査 II b層調査後のIII層上面に、黒色土の落ち込みを確認した。平面形は円形で底面は平坦である。壁の立ち上がりは明瞭である。掘り込みはIV b層に達している。

時期 周辺の同規模の土壇と同じく、縄文時代後期中葉の遺構と思われる。(鎌田)

P-42 (図Ⅲ-74, 図版Ⅲ-50・52)

位置 B 7-8・9 規模 0.72/0.50×0.66/0.48×0.70m

調査 低湿地部に向かった台地端で、II b層調査後のIII層上面に黒色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で底面は平坦である。壁の立ち上がりは明瞭である。掘り込みはIV b層に達している。覆土はIV a層が均一に混じる黒色土であり、人為的に埋められたように見うけられる。形態・覆土ともにP-43と類似しており、墓墳の可能性がある。

遺物 覆土からIII群b-2類の土器片12点と砥石2点、礫が1点出土している。1は口縁に貼付帯を廻らせ、口唇に突起がある。貼付帯にも地文のR L斜行縄文が施されている。2にはL RとR Lの縄文が重複して施文されている。いずれも胎土に砂を含む。

時期 III群b-2の時期、縄文時代中期中ころ柏木川式期の遺構であろう。(鎌田)

P-43 (図Ⅲ-74, 図版Ⅲ-50)

位置 B 7-20, C 7-16 規模 0.81/0.65×0.71/0.55×0.26m

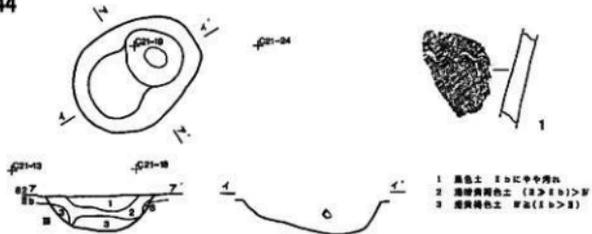
調査 低湿地部に向かった台地端での遺構確認調査により、II b層中にIV a層混じりの黒色土を確認した。平面形は楕円形で底面は平坦である。壁の立ち上がりは明瞭である。掘り込みはIV b層に達している。覆土はIV b層が均一に混じる黒色土であり、人為的に埋められたように見うけられる。形態・覆土ともにP-42と類似しており、墓墳の可能性がある。

遺物 覆土からIII群b-2類の土器片3点、石鏝2点、フレイクチップ3点、礫・礫片4点、墳底からフレイクチップ1点が出土している。1・2は黒曜石製の石鏝で、有茎凸基のものである。

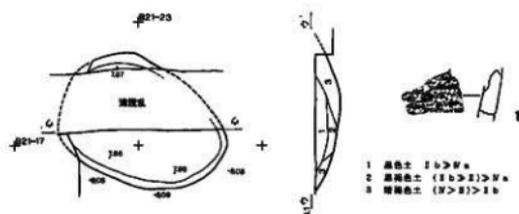
時期 III群b-2類の時期、縄文時代中期中ころ柏木川式期の遺構であろう。(鎌田)

III オナツ14遺跡の調査

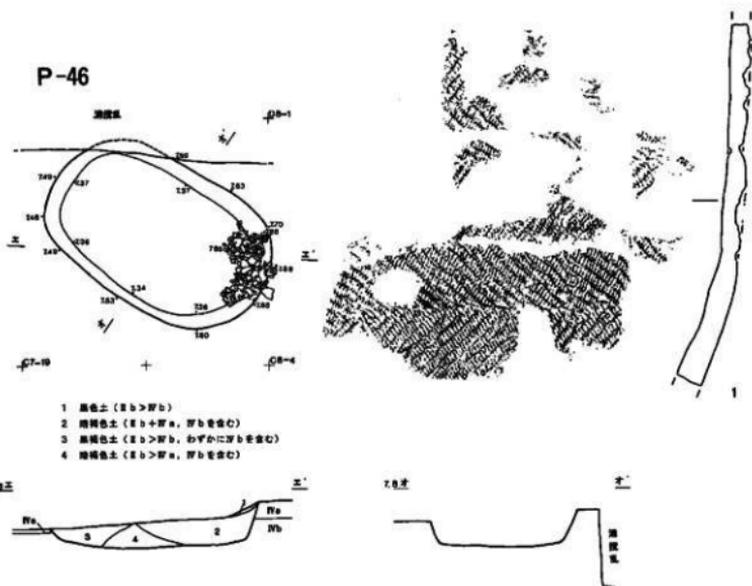
P-44



P-45



P-46



図III-75 P-44~46

P-44 (図Ⅲ-75, 図版Ⅲ-53)

位置 C21-13・14・18・19

規模 1.08/0.85×0.84/0.52×0.28m

調査 II b層調査中に黒色土の落ち込みを確認した。平面形は、長軸を東-西に向けた非形で、IV層上面まで掘り込まれている。底面は東側がより深く窪み二段になっており、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物 覆土からⅢ群b-2類土器が2点と礫1点が出土している。

時期 土器と周囲の堅穴などから、縄文時代中期中ごろ柏木川式期の土壌と考えられる。

(三浦)

P-45 (図Ⅲ-75, 図版Ⅲ-53)

位置 B21-16・17・21・22

規模 (1.38) / (1.28) × 0.98/0.85 × 0.21m

調査 水道管による攪乱溝の断面に、土壌のセクションが確認できた。半分は攪乱で破壊されている。平面形は卵形で、長軸を南-北からやや東に振れている。掘り込みはIV層上面までで、底と壁の区分の不明確な緩い窪みの土壌である。

遺物 覆土からⅢ群b-2類土器が1点出土している。

時期 土器と周囲の堅穴などから、縄文時代中期中ごろ柏木川式期の土壌と考えられる。

(三浦)

P-46 (図Ⅲ-75, 図版Ⅲ-50)

位置 C7-19・20・24・25, C8-4・5

規模 1.89/1.62×1.19/0.99×0.32m

調査 低湿地部に向かった台地端でII b層にII群a類の一括土器が出土した。その15cmほど下にIV a層とIV b層混じりの黒色土の落ち込みを確認した。平面形はいびつな小判形で、底面は台地側が平坦で斜面側に緩いぼみをもつ。壁は明瞭に立ち上がり、斜面下側では丸みをもつ。覆土はIV a層・IV b層が各覆土の中では均一に混じった黒色土であり、人為的に埋められたように見うけられる。形態・覆土・土壌上台地側で出土した一括土器から、墓塚と考えられる。

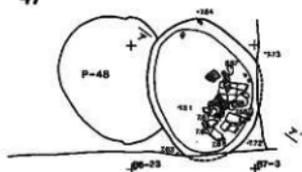
遺物 1は土壌上で227点一括出土したII群a類の深鉢である。33点が接合した。器面にはLRとRLの太い縄文が交互に施されており、胎土には繊維を含んでいる。

時期 II群a類の時期、縄文時代前期前葉の遺構であろう。

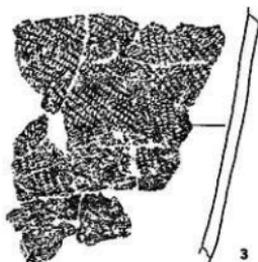
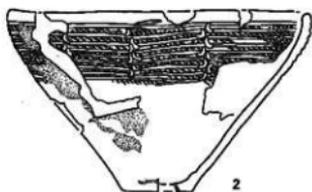
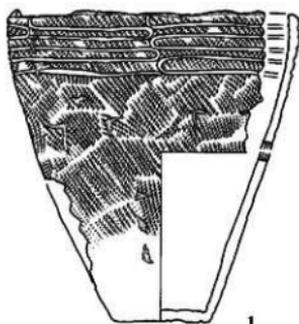
(鎌田)

III オサツ14遺跡の調査

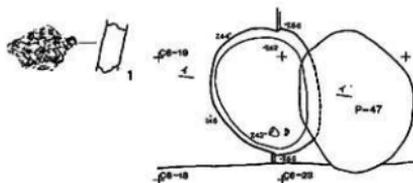
P-47



- 1 黒色土 (F>B)
- 2 黒褐色土 (F>B)>B
- 3 赤褐色土 (F>B)>(F>B)
- 4 黒褐色土 灰化物混じり



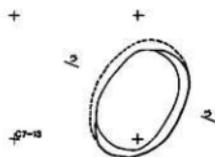
P-48



- 1 黒褐色土 (F>B)に水の影響?
- 2 黒褐色土 (F>B)>B 水の影響?



P-49



- 1 黒褐色土 (F>B)>B 水の影響?

図III-76 P-47~49

P-47 (図Ⅲ-76, 図版Ⅲ-51)

位置 B 6-23・24, B 7-3 規模 (1.15) / 1.02 × (0.92) / 0.79 × 0.18m

調査 低湿部に向かった台地端のⅡb層調査中に、土器のまとまりと、黒色土の落ち込みを確認した。西側はもうひとつの土壌を壊していた。平面形は卵形で、長軸を北-南に向けている。Ⅳa層の最上面に平坦な底面が形成されており、壁は丸みをもって立ち上がる。墓塚の可能性もあろう。

遺物 南壁の墳底付近からまとまって、Ⅳ群b類土器5個体分の破片が出土した。うち2個体を復元、3個体を図示した。1は横長のS字・コの字形沈線が入る深鉢。2は口縁下に横走沈線を弧線で見え文様帯をもち、他面は磨消縄文の鉢。2は口縁部の一部のみが墳内にあり、大半の破片が10~30m離れた地点に散らばっていた。覆土には他期の土器片数点やフレイクチップ4点が入っていた。

時期 Ⅳ群b類土器の時期、縄文時代後期手稲式期の遺構であろう。(三浦)

P-48 (図Ⅲ-76, 図版Ⅲ-51・53)

位置 B 6-18・19・23・24 規模 1.05/0.93 × (0.87) / 0.74 × 0.16m

調査 P-47の調査中、西の壁面に切られた土壌断面が現われた。低湿部に向かう斜面の上端に位置する。平面形は卵形で、長軸を北-南に向けている。Ⅳa層に掘り込まれており、丸みをもった底面・壁面が作られている。

遺物 覆土からⅢ群b-2類土器7点、フレイクチップ4点、礫1点が出土している。

時期 Ⅲ群b-2類土器の時期、縄文時代中期中ごろ柏木川式期の土壌と考えられる。(三浦)

P-49 (図Ⅲ-76)

位置 C 7-12・13・17・18 規模 (1.00) 0.84 / (0.71) × 0.57 / 0.11 × m

調査 低湿部に向かう斜面の調査中に、その上端部に濁った土の溜りが確認できた。斜面下方はすでに壁を欠失しており、底と台地側の壁が検出された。平面形は長円形で、長軸は斜面コンターと平行な北東-南西を向いている。Ⅳ層に掘り込まれており、底面は平坦だがやや傾斜している。

時期 縄文時代後期の土壌と推定される。(三浦)

P-50 (図Ⅲ-71, 図版Ⅲ-48)

位置 C 8-15・20 規模 (0.45) / (0.37) × (0.49) / (0.35) × 0.31m

調査 C 8区の側溝攪乱の断面で土壌のセクションを確認した。北側を側溝により破壊されている。平面形は円形と推定される。底面は平坦で壁の立ち上がりは明瞭である。隣接してP-23がある。

時期 周辺の同規模の土壌と同じく、縄文時代後期中葉の遺構と思われる。(鎌田)

(3) 焼土

F-1 (図Ⅲ-77)

位置 D12-14・19 規模 66×41×16cm

調査 II b層の下層部が焼けた状態で検出された。卵形の広がり、Ⅲ層にまで及んでいる。F-9と並んで存在する。

時期 縄文時代中期と推定される。(三浦)

F-2 (図Ⅲ-77)

位置 B18-4・5・9・10 規模 52×48×13cm

調査 II b層の中位で検出された。不整形の広がり、焼土層は厚くⅢ層にまで及んでいる。

時期 縄文時代中期と推定される。(三浦)

F-3 (図Ⅲ-77)

位置 D10-12・13 規模 28×20×7cm

調査 II b層の中位で検出された、小型の焼土である。

時期 縄文時代後期中ごろと推定される。(鎌田)

F-4 (図Ⅲ-77, 図版Ⅲ-54)

位置 D9-17・18 規模 28×(14)×6cm

調査 H-11上のII b層中位で検出された。西側を暗渠により破壊されている。

遺物 IV群b類土器が1点出土している。1の器面は磨消部分である。内面は磨かれている。

時期 縄文時代後期中ごろと推定される。(鎌田)

F-5 (図Ⅲ-77)

位置 A20-3 規模 0.48×0.36cm

調査 平面形は楕円形。

時期 構築面から縄文時代中期と推定できる。(鈴木)

F-6 (図Ⅲ-77)

位置 A17-19 規模 0.48×0.36cm

調査 平面形は楕円形。

時期 構築面から縄文時代後期と推定できる。(鈴木)

F-7 (図Ⅲ-77)

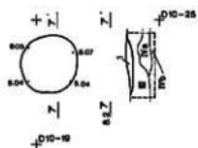
位置 A77-23 規模 0.48×0.36cm

調査 平面形は不整形。

時期 構築面から縄文時代中期と推定できる。(鈴木)

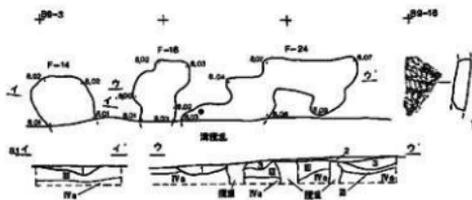
III オサツ14遺跡の調査

F-13



1 赤褐色土 (よく焼けてあり硬く脆き砂多る)

F-14-18-24

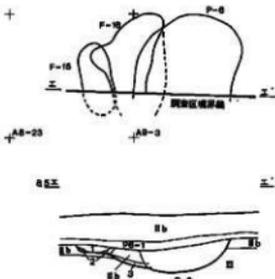


F-14
1 赤褐色土 (比較的よく焼けてあり、やや脆き砂多る)

F-18-24
1 赤褐色土 (比較的よく焼けてあり脆き砂多る)
2 褐色土 (B3+B2)
3 暗褐色土 (B1+B0)

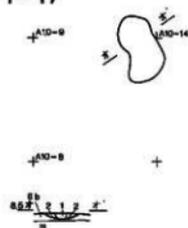


F-15-16



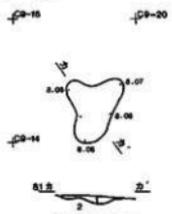
1 暗褐色粘土 F-15
2 褐色土 粘土質多む F-16
3 暗褐色土に褐色土多む F-16

F-17



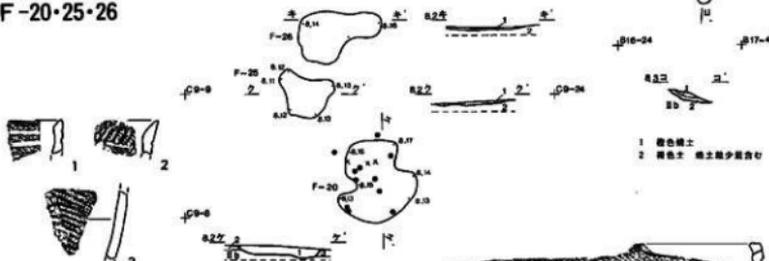
1 暗褐色粘土 En-1層多む
2 褐色土 粘土質多む

F-19



1 暗褐色土 (焼けて固く硬多る)
2 褐色土 (B1+B0, わずかに砂多る)

F-20-25-26



F-25-26
1 暗褐色土 (焼けて固く、厚さ2-3mと硬多る)
2 褐色土 (B1+B0, H-11層はH-12の層V上付止)

F-21
1 暗褐色土 (非常によく焼けてあり硬く脆き砂多る)
2 褐色土 (B1+B0, わずかに砂多る)
H-11層はH-12の層V上付止
3 褐色土 (B1+B0, わずかに砂多る)



図III-78 F-13~21・24~26

F-8 (図Ⅲ-77)

位置 D10-14 規模 21×11×2cm
 調査 H-18上のⅡb層中位で検出された。小さな不整形を呈した薄い焼土である。
 遺物 黒曜石のフレイクチップが2点出土している。
 時期 縄文時代後期と推定される。 (鎌田)

F-9 (図Ⅲ-77)

位置 D12-9・14 規模 84×28×3cm
 調査 Ⅱb層の下層部が焼けた状態で検出された。長方形の広がり、Ⅲ層にまで及んでいる。
 F-1と並んで存在する。
 時期 縄文時代中期と推定される。 (三浦)

F-10 (図Ⅲ-77)

位置 A13-17・22 規模 31×19×3cm
 調査 Ⅱb層の中位の検出された。小さな卵形を呈した薄い焼土で、小礫を含んでいる。
 遺物 Ⅳ群b類土器が2点出土している。
 時期 縄文時代後期中ごろと推定される。 (三浦)

F-11 (図Ⅲ-77)

位置 A11-7・8 規模 61×47×11cm
 調査 Ⅱb層の中位から焼けて、Ⅲ層に及んでいる。平面形は菱形を呈し、厚みがある。
 時期 縄文時代後期と推定される。 (三浦)

F-12 (図Ⅲ-77, 図版Ⅲ-54)

位置 A10-4 規模 73×(45)×14cm
 調査 H-14の覆土中にある。H-14の埋土の窪みを利用した上層遺構の炉の可能性があり、北側が攪乱で破壊されている。平面円形で、厚いレンズの焼土である。
 遺物 Ⅲ群b-2類土器が3点出土している。
 時期 Ⅲ群b-2類土器の時期、縄文時代中期中ごろ柏木川式期と思われる。 (三浦)

F-13 (図Ⅲ-78)

位置 D10-14・19 規模 49×46×5cm
 調査 Ⅲ層上面で検出された。平面形は円形を呈し、厚みがある。
 時期 縄文時代前期と推定される。 (鎌田)

F-14 (図Ⅲ-78, 図版-54)

位置 B8-22, B9-2 規模 (42)×44×7cm
 調査 Ⅱb層の下層部が焼けた状態で検出された。楕円形の広がり、Ⅲ層にまで及んでいる。南側は側溝により破壊されている。
 遺物 石磯1点、黒曜石のフレイクチップが38点出土している。1は先端が欠損している黒曜石製の石磯で、無基平基のものである。
 時期 縄文時代中期と推定される。 (鎌田)

Ⅲ オサツ14遺跡の調査

F-15 (図Ⅲ-78)

位置 A 8-23 規模 (39) × 26 × 6 cm

調査 II b層の中位に、F-16を覆して作られている。南部は調査範囲境界にかかり未調査である。F-16との時期差はそれほどないものと思われる。

時期 縄文時代中期と推定される。 (三浦)

F-16 (図Ⅲ-78, 図版Ⅲ-54)

位置 A 8-23, A 9-3 規模 (64) × (50) × 3 cm

調査 II b層の中位に作られている。南部は調査範囲境界にかかり未調査である。F-15とP-6に挟まれているが、厚みのある焼土であることがセクションからうかがえる。

時期 縄文時代中期と推定される。 (三浦)

F-17 (図Ⅲ-78)

位置 A10-8・9・13 規模 54 × 33 × 5 cm

調査 II b層の中位に作られている小型の焼土である。

時期 縄文時代後期と推定される。 (三浦)

F-18 (図Ⅲ-78)

位置 B 9-2・7 規模 (50) × 33 × 8 cm

調査 II b層の下層部が焼けた状態で検出された。平面形は不整形を呈し、厚みがある。南側は側溝により破壊されている。

時期 縄文時代中期と推定される。 (鎌田)

F-19 (図Ⅲ-78)

位置 C 9-14 規模 58 × 42 × 6 cm

調査 H-11の覆土中で検出された。平面形は不整形を呈する。

時期 縄文時代後期と推定される。 (鎌田)

F-20 (図Ⅲ-78, 図版Ⅲ-54)

位置 C10-13 規模 67 × 61 × 7 cm

調査 H-11・23の掘り上げ土の上で検出された。平面形は不整形を呈し、厚みがある。

遺物 IV群c類土器が112点、黒曜石のフレイクチップが4点出土している。1は16点接合した深鉢である。平口縁に突起がある。口唇は切り出し状で、口縁には横走る平行沈線が引かれている。地文はRLの斜行縄文である。内面は磨かれている。

時期 IV群c類土器の時期、縄文時代後期後葉堂林式期と思われる。 (鎌田)

F-21 (図Ⅲ-78)

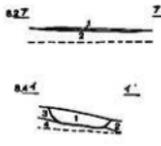
位置 B16-24 規模 28 × 20 × 5 cm

調査 II b層中位の傾いた面に作られている、小型の焼土である。

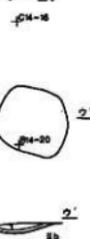
遺物 黒曜石のフレイクチップ8点が出土している。

時期 縄文時代後期と推定される。 (三浦)

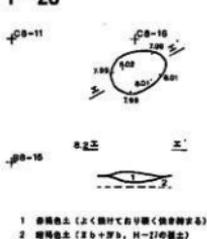
F-22・23



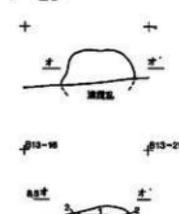
F-27



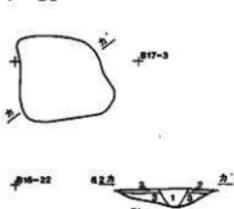
F-28



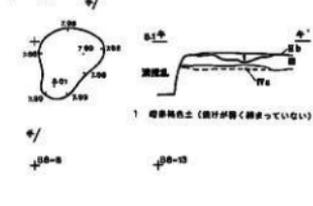
F-29



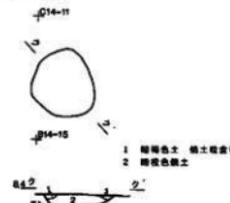
F-30



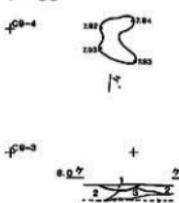
F-31



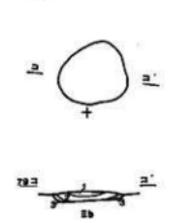
F-32



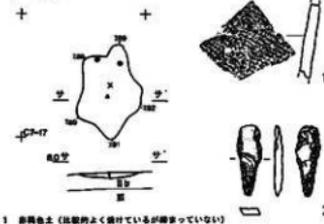
F-33



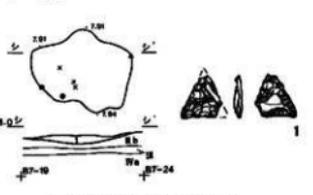
F-34



F-35



F-36



図III-79 F-22・23・27~36

F-22 (図Ⅲ-79)

位置 C11-8・9・13・14 規模 85×(68)×1cm

調査 H-23の覆土中で検出された。これに連なって炭化物が分布する。隣接するF-23とともに堅穴のくぼみを利用したものである。不整形の薄い焼土である。

時期 縄文時代後期と推定される。

(鎌田)

F-23 (図Ⅲ-79, 図版Ⅲ-54)

位置 C11-3・8 規模 55×51×11cm

調査 H-23の覆土中で検出された。隣接するF-22とともに堅穴のくぼみを利用したものである。平面形は不整形を呈し、厚みがある。

遺物 IV群c類土器が1点出土している。1は器面にRL+LRの羽状縄文が認められる。

時期 IV群c類土器の時期、縄文時代後期後葉堂林式期と思われる。

(鎌田)

F-24 (図Ⅲ-78, 図版Ⅲ-54)

位置 B9-8・12 規模 (147)×45×3cm

調査 IIb層の下層部が焼けた状態で検出された。不整形を呈し、III層にまで及んでいる。南側は側溝により破壊されている。

遺物 III群b-2類土器が1点出土している。1は地文にRLの縄文が施されており、胎土に砂を含む。

時期 III群b-2類土器の時期、縄文時代中期ごろ柏木川式期と思われる。

(鎌田)

F-25 (図Ⅲ-78, 図版Ⅲ-54)

位置 C10-8・9・13・14 規模 44×37×1cm

調査 H-11・23の掘揚げ土の上で検出された。不整形の薄い焼土である。隣接してF-26がある。

遺物 IV群c類土器が23点、黒曜石のフレイクチップが26点出土している。1・2は口唇が切り出し状で、口縁に沈線が施されている。2には突瘤文が認められ、突瘤が欠損している。地文は1がLR、2・3はRLの縄文である。

時期 IV群c類土器の時期、縄文時代後期後葉堂林式期と思われる。

(鎌田)

F-26 (図Ⅲ-78)

位置 C10-4・9 規模 69×43×1cm

調査 H-11・23の掘揚げ土の上で検出された。不整形の薄い焼土である。隣接してF-25がある。これらは一連のものと思われる。

時期 縄文時代後期と推定される。

(鎌田)

F-27 (図Ⅲ-79)

位置 B14-14・15・19・20 規模 65×57×8cm

調査 IIb層の中位に作られている。平面不整形の薄い焼土である。

時期 縄文時代後期と推定される。

(三浦)

F-28 (図Ⅲ-79)

位置 B8-15・20 規模 46×32×7cm

調査 H-27の覆土中で検出された。平面形は卵形を呈す、厚いレンズ状の焼土である。

遺物 IV群b類土器が4点、礫片が1点出土している。

時期 IV群b類土器の時期、縄文時代後期中葉と思われる。

(鎌田)

F-29 (図Ⅲ-79)

位置 B13-16 規模 60×(26)×7cm

調査 H-26を確認する前の、IIb層の上位に作られている。半分は攪乱で破壊されている。平面不整形の厚みのある焼土である。

時期 縄文時代後期と推定される。

(三浦)

F-30 (図Ⅲ-79)

位置 B16-22・23 規模 91×76×14cm

調査 II b層の上位に作られている、平面不整形四角形の厚みのある焼土である。中央部に炭化物の詰まっている窪みが入っている。

時期 縄文時代後期と推定される。(三浦)

F-31 (図Ⅲ-79)

位置 B8-8・9 規模 59×46×7cm

調査 II b層の下層部が焼けた状態で検出された。平面形は西洋梨形で、III層にまで及んでいる。

時期 縄文時代後期と推定される。(鎌田)

F-32 (図Ⅲ-79)

位置 B14-10・15 規模 55×50×10cm

調査 II b層の上位に作られている、平面不整形円形の厚みのある焼土である。

時期 縄文時代後期と推定される。(三浦)

F-33 (図Ⅲ-79)

位置 B7-12 規模 32×22×4cm

調査 II b層中位で検出された。不整形を呈し、レンズ状の厚い焼土である。

時期 縄文時代後期と推定される。(鎌田)

F-34 (図Ⅲ-79)

位置 D7-18・23 規模 55×48×8cm

調査 低湿部に向かう台地端のII b層の中位に作られている。平面不整形円形の厚みのある焼土である。

時期 縄文時代中期と推定される。(三浦)

F-35 (図Ⅲ-79, 図版Ⅲ-54)

位置 B7-19・20 規模 77×50×4cm

調査 II b層中位で検出された。平面形は不整形を呈す。

遺物 IV群b類土器が2点、不明細片が15点、スクレイパーが1点、黒曜石のフレイクチップが3点出土している。1にはRL斜行縄文が施されている。2は黒曜石製のスクレイパーである。

時期 IV群b類土器の時期、縄文時代後期中葉と思われる。(鎌田)

F-36 (図Ⅲ-79, 図版Ⅲ-54)

位置 C7-16・17 規模 81×60×6cm

調査 II b層中位で検出された。平面形は不整形を呈す。

遺物 III群b類・IV群b類土器が各1点、石鏃1点、黒曜石のフレイクチップが1点出土している。1は先端が欠損している黒曜石製の石鏃で、無茎平基のものである。

時期 IV群b類土器の時期、縄文時代後期中葉と思われる。(鎌田)

5 II b層の遺物

(1) 土器・土製品

II b層からはⅢ群b類・Ⅳ群b類・Ⅳ群c類を中心とする土器片25610点と三角土製品2点が出土している。

I群b類 (図Ⅲ-81-7~9, 図版Ⅲ-56)

コッタロ式・東銅路Ⅳ式など43点(0.2%)が出土している。7・8はコッタロ式で、7は微隆起状の貼付と結条体圧痕、8は口唇に細い刻みが付けられている。9は東銅路Ⅳ式で、自縄自巻の原体による縄文が施文されている。

II群a類 (図Ⅲ-81-10~16, 図版Ⅲ-56)

網文式相当・静内中野式など933点(3.7%)が出土している。10・11は太い竹管状工具による押引文が施されている網文式に相当する土器である。12~16は太めの斜行縄文や羽状縄文の施された土器で胎土に繊維を含んでいる。

Ⅲ群a類 (図Ⅲ-80-1~4, 81-17~28, 82-29~33, 88-183・184, 図版Ⅲ-50・56・57)

円筒上層式は2329点(9.1%)出土している。上層b式に相当するもの(2・3・18・20・23・24)と上層c・d式に相当するもの(1・2・17~19・21・22・25~28)があり、後者には無文地に貼付帯で文様を描くもの(2・17・19・20・21・28)と、縄文地に貼付帯で文様を描くもの(18・25~27)がある。

1は平縁で胸部が膨らみ朝顔形に開く器形である。貼付帯には細い縄文の圧痕、器面には貼付帯に沿って2本と3本1組の縄線文と半載竹管状工具による連続刺突が施されている。口縁には貼付帯による菱形の突起がある。内面は磨かれており、地文にはLR+RLの結束羽状縄文が施文されている。2はやや外反する口縁から緩やかに下る筒形の器形で、4個の大きな突起をもつ。器高45.8cmを計る。文様帯は器高の1/4ほどで貼付帯には細い縄文の圧痕が施されている。内面は磨かれており、地文にはRL+LRの結束羽状縄文が施文されている。3は肥厚させた口縁にRLの縄文を施し、縦に貼付帯が付けられている。この貼付帯を横長の環状に繋ぐ貼付帯やこれと横環する貼付帯を繋ぐ垂下する貼付帯はほとんど剥落している。内面は磨かれており、地文にはLR+RLの羽状縄文が施されている。口径30.2cmを計る。4は器面にまばらにRLとLRの縄文が認められる。底径10.0cmを計る。

18の貼付帯は細めで突起は小ぶりの台形である。20には口縁に波状に貼付が見られ、器面に2本1組の縄線文が施文されている。23には貼付帯に沿って3本1組の縄線文が廻りされ、文様帯内には同様のループ状の縄線文が施文されている。24は肥厚した口縁と貼付に細い縄文が施されている。17・21はあまり高くない台形の突起で、内面は磨かれている。19の器面には2本1組の縄線文と半載竹管状工具による連続刺突が施されている。22は外傾する口唇に對に小突起状に貼付帯が見られ、器面には角張った棒状工具による連続刺突が施されている。25・26・27は同一固体で、外傾する口唇に波状に貼付があり、横環する貼付帯を鉤歯状に繋いで文様帯を構成している。器面には角張った棒状工具による連続刺突が施されている。28の器面の一部には貼付に施文した際についた細い縄文が見られる。26・27は文様帯で、いずれも貼付帯には細い縄文が押擦されている。29~31は地文にLR+RLの結束羽状縄文が施された胴部破片である。

ミニチュア土器は本類で、183は取手、184は底部である。

Ⅲ群b類 (図Ⅲ-82-34~57, 図版Ⅲ-57)

5406点(21.1%)出土しており、ほとんどが柏木川式でわずかに天神山式がある。

32~35は天神山式である。32~34には、いずれも半載竹管状工具による施文が認められる。32は角

柱突起に貼付した粘土紐に沈線が施されている。萩ヶ岡2式に近い突起が台形よりも棒状に近いので天神山式に分類しておく。33は突起左側の口縁部で口縁肥厚帯が刻まれている。地文に複線のRLの縄文が認められる。34は口縁肥厚帯を凸面により刻まれ、肥厚帯下に沈線が引かれている。35は肥厚帯に棒状工具による沈線を引き、その両側に刺突を施している。一部分に沈線をまたいで貼付が認められる。

36~57は柏木川式である。口縁部の破片には、貼付のあるもの(36~40・43)、小突起のあるもの(40)、刺突が廻されているもの(41)、縄縄文のあるもの(42・44~46)、口唇に刺突のあるもの(47・48)、地文のみのも(49)などがある。貼付帯の施文には、縄・爪の刻みと縄縄文が併用されているもの(36~38)、竹管状工具による刻み(39)、半載竹管状工具による沈線(40)、指頭による刺突(43)などがある。39の器面と43の口唇には竹管状工具による刺突、40の器面には半載竹管状工具による沈線が施されている。50~57は胴部破片で、貼付帯のあるもの(50~52)、半載竹管状工具による押し引きのあるもの(53)、角棒状工具による連続刺突のあるもの(54)、半載竹管状工具による沈線のあるもの(55)、縦絡文のあるもの(56・57)がある。50の貼付帯は縄で刻まれている。51・52は貼付帯が竹管状工具により刻まれ、器面に連続刺突が施されている。

IV群a類(図Ⅲ-83-58~60・65・66, 図版Ⅲ-58)

361点(1.4%)出土している。余市式がほとんどで入江式がわずかにある。58~60は余市式で、地文の縄文を施して貼付帯を廻らせ縄文を施している。65・66は入江式である。角張った渦巻状、「カニのハサミ」状の沈線文が施されている。

IV群b類(図Ⅲ-80-5・6, 83-67~89, 84-90~111, 図版Ⅲ-55, 58, 59)

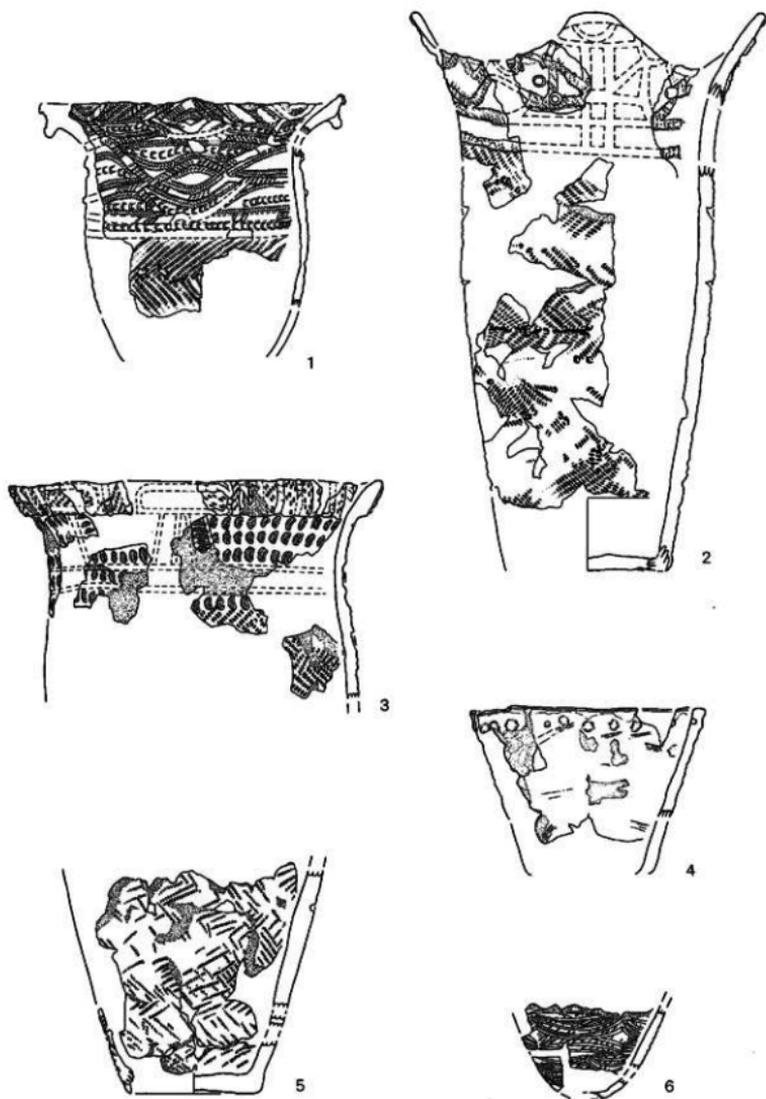
手稲式を中心に、ウサクマイC式、鯨潤式、エリモB式など6341点(24.8%)出土している。

61~64はウサクマイC式である。61の頸部には沈線で区画された磨消縄文がみられる。61~63には弧状沈線文が施されている。64は頸部が「く」の字形にくびれ、器面には平行・縦・カギ形の沈線文が施されている。

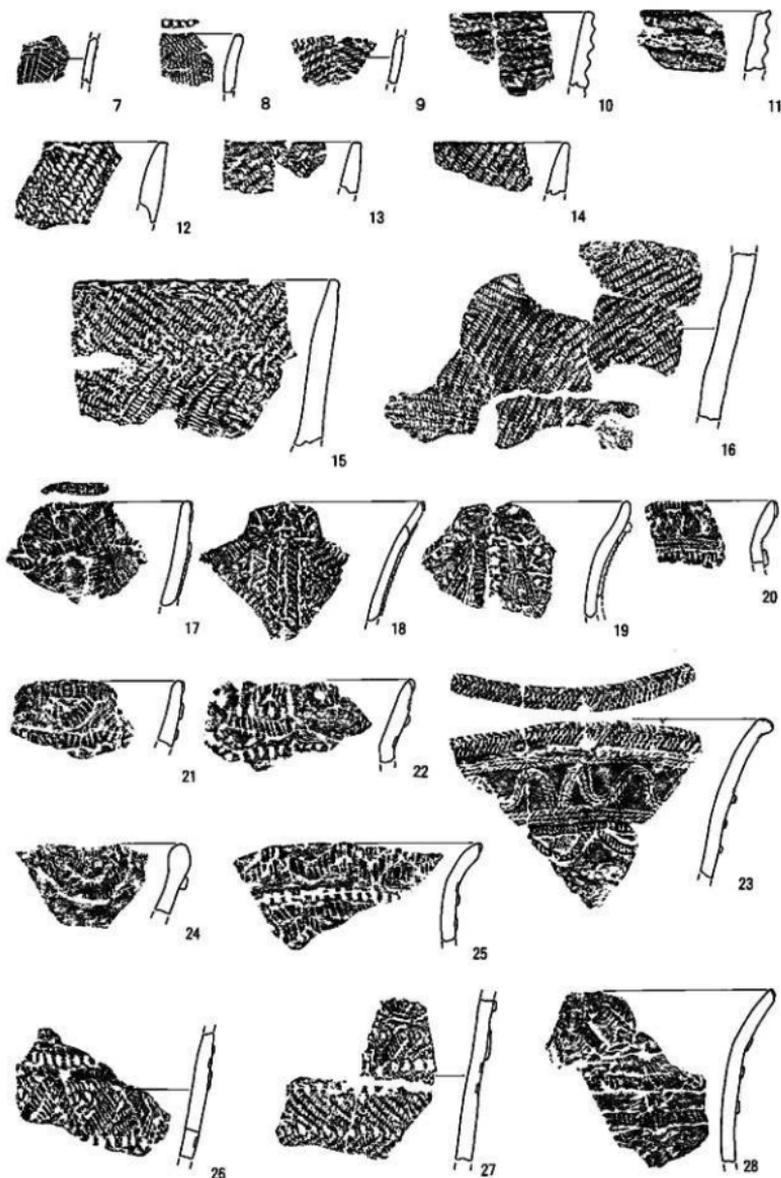
85は船舶上層式である。横走する平行沈線文と磨消縄文による雲形文が描かれている。89は、67~87・89は手稲式である。67~76は口縁部破片である。67~70は太い沈線で区切られて口縁が磨消されている。71は緩波状口縁で、磨消された口縁に沿って沈線が引かれている。口縁内面は肥厚する。72は壺形もしくは注口土器の口縁部で、頸部に沈線が廻らされ口縁が磨消されている。73は横走する平行沈線を縦の短刻線で繋いでいる。74は曲線状の沈線が認められる。いずれも口縁が磨消されている。75は口縁には太い沈線で区画された磨消帯がある。76は沈線で区画された中に横長のS字形の沈線文が施されている。77~84・89は文様帯部分で、横走する平行沈線を縦の沈線で繋ぐもの(77)、弧線で繋ぐもの(78・82・84)、逆S字状の沈線で繋ぐもの(79・80)や、横長の逆S字形の沈線文の施されたもの(81)がある。89には横走する平行沈線が施されている。

85・86・90~104は鯨潤式である。口縁・頸部にための刻目列が廻らされ(90~99)、横走する平行沈線を弧線で繋いだり(97)、や磨消縄文(98・99・101~104)が施される。97・98は刻みの間隔は広く、99は斜めに刻まれている。100は竹管状工具による刺突を刻目列状に施したものである。101は注口土器の胴部破片で、曲線的な磨消縄文が施されている。区画の中の縄文は沈線の方向に合わせた斜行縄文である。

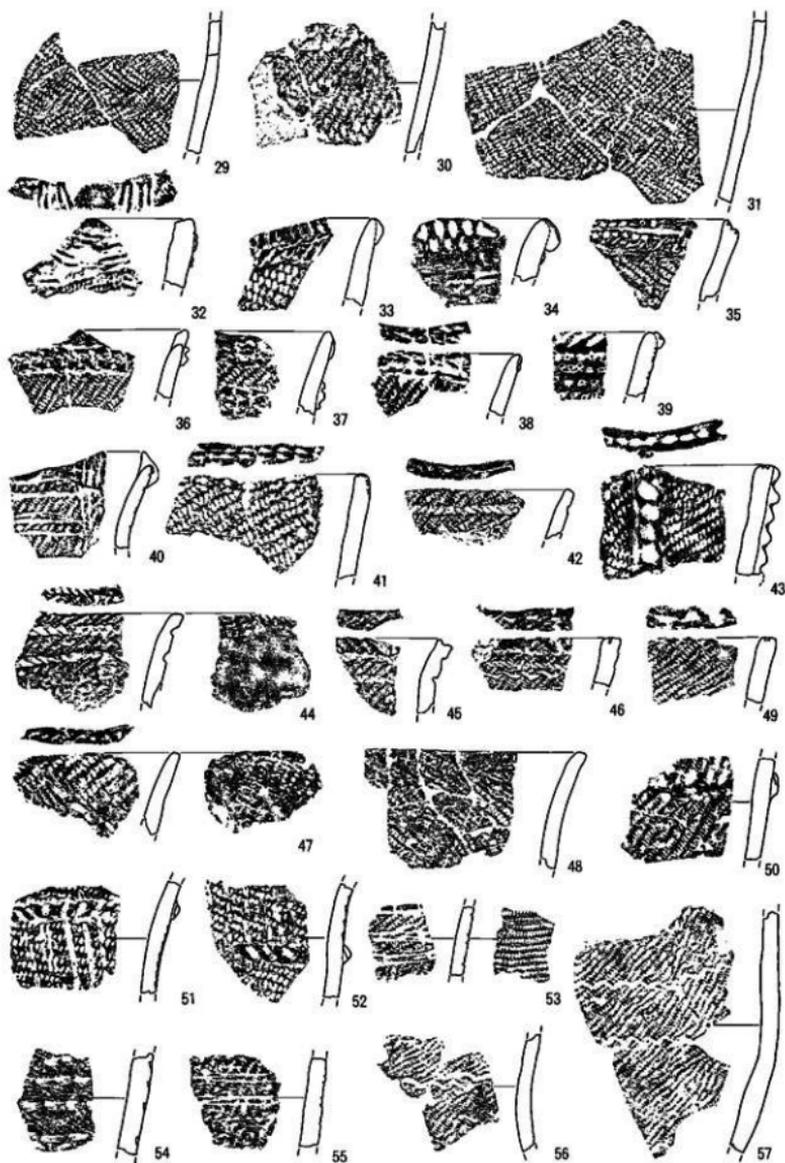
105~116はエリモB式である。口縁・頸部には細めの刻目列が廻らされ(106~110・112・114・115)、口縁に突縮文の見られるもの(108・109)もある。曲線で区画された木の葉状(106・113)や帯状(111・115・116)の磨消縄文が施されている。区画の中の縄文は、条の接点が曲線的に走る羽条縄文(110・



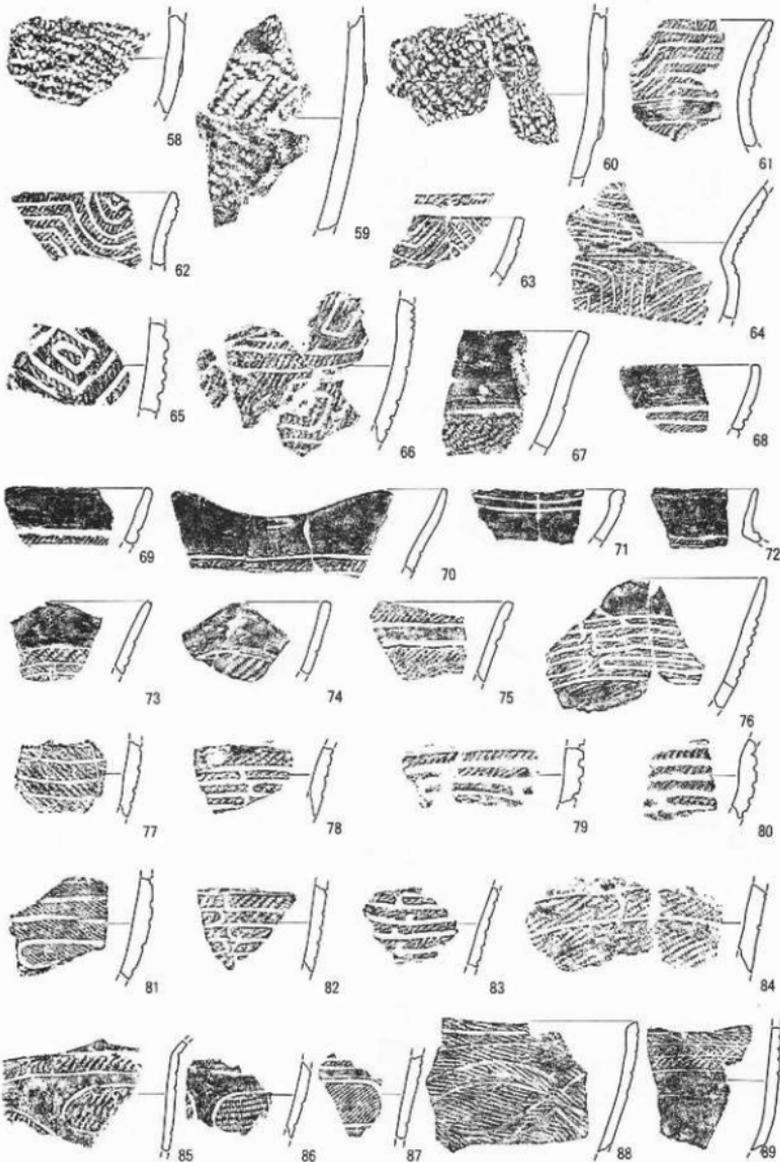
図Ⅲ-80 包含層の土器(1)



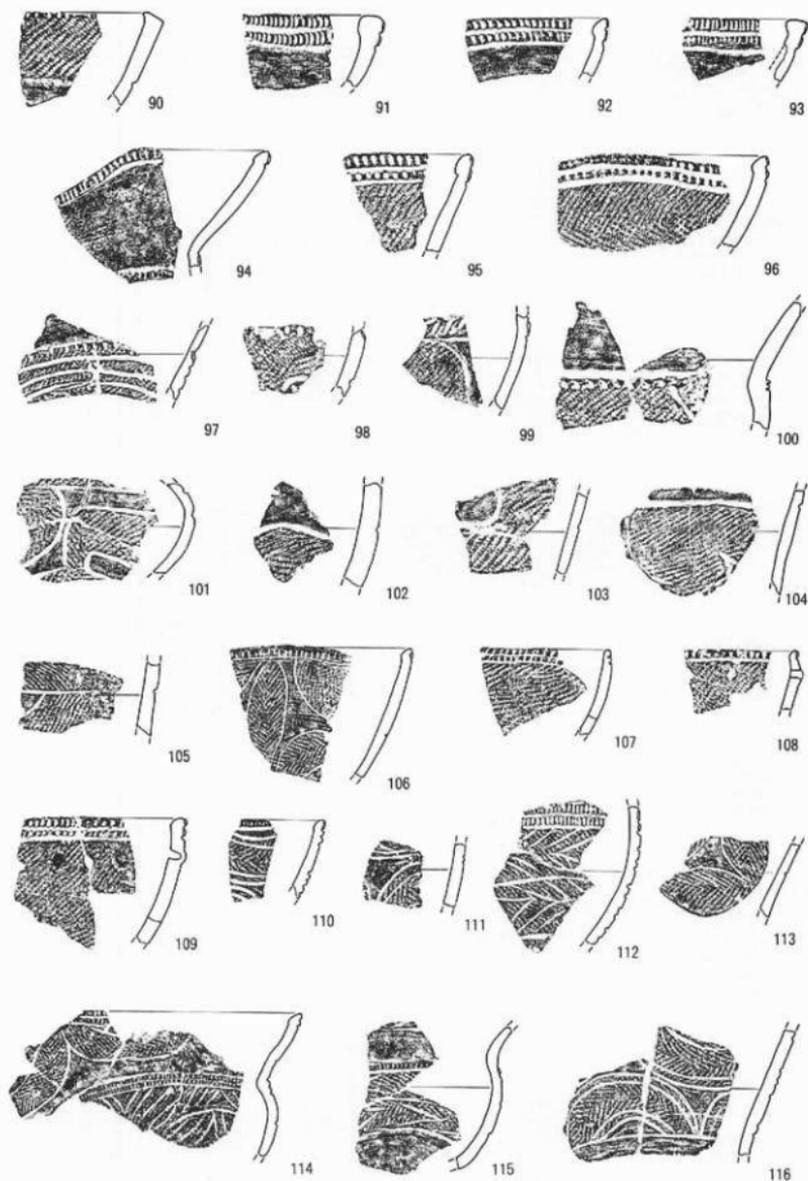
図III-81 包含層の土層(2)



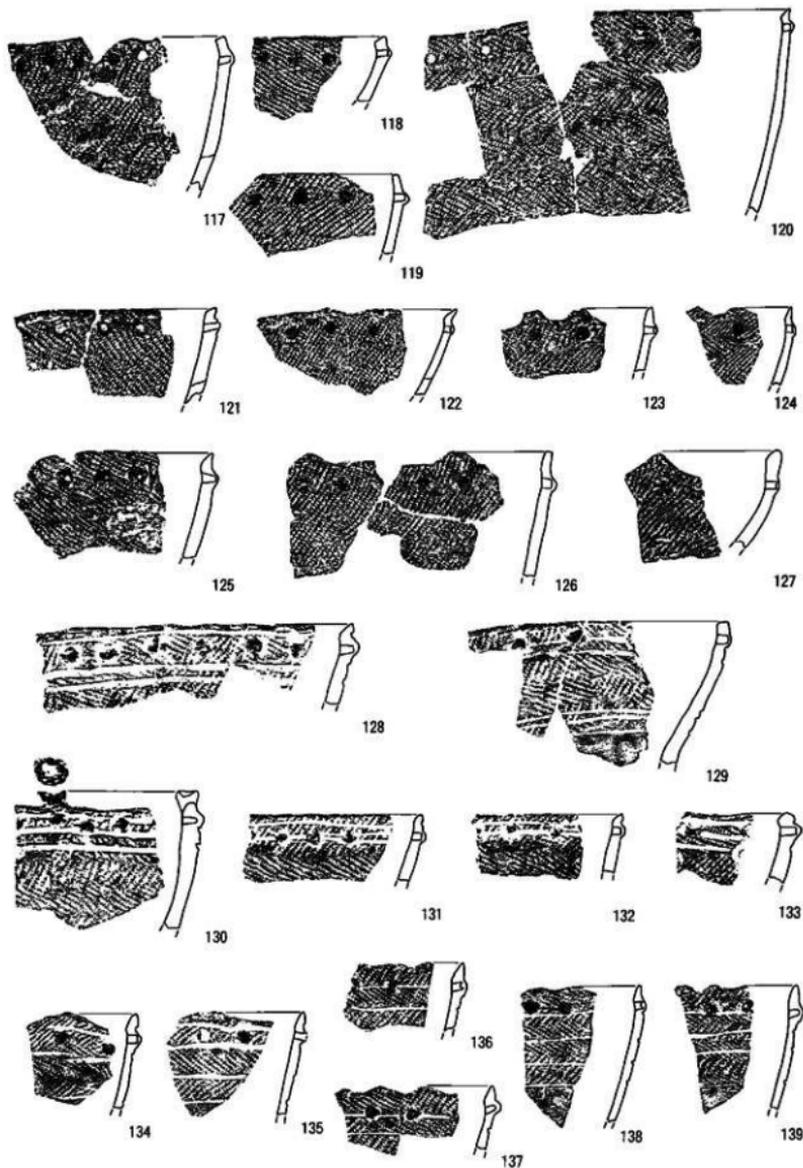
図III-82 包含層の土器③



図Ⅲ-83 包含層の土器(4)

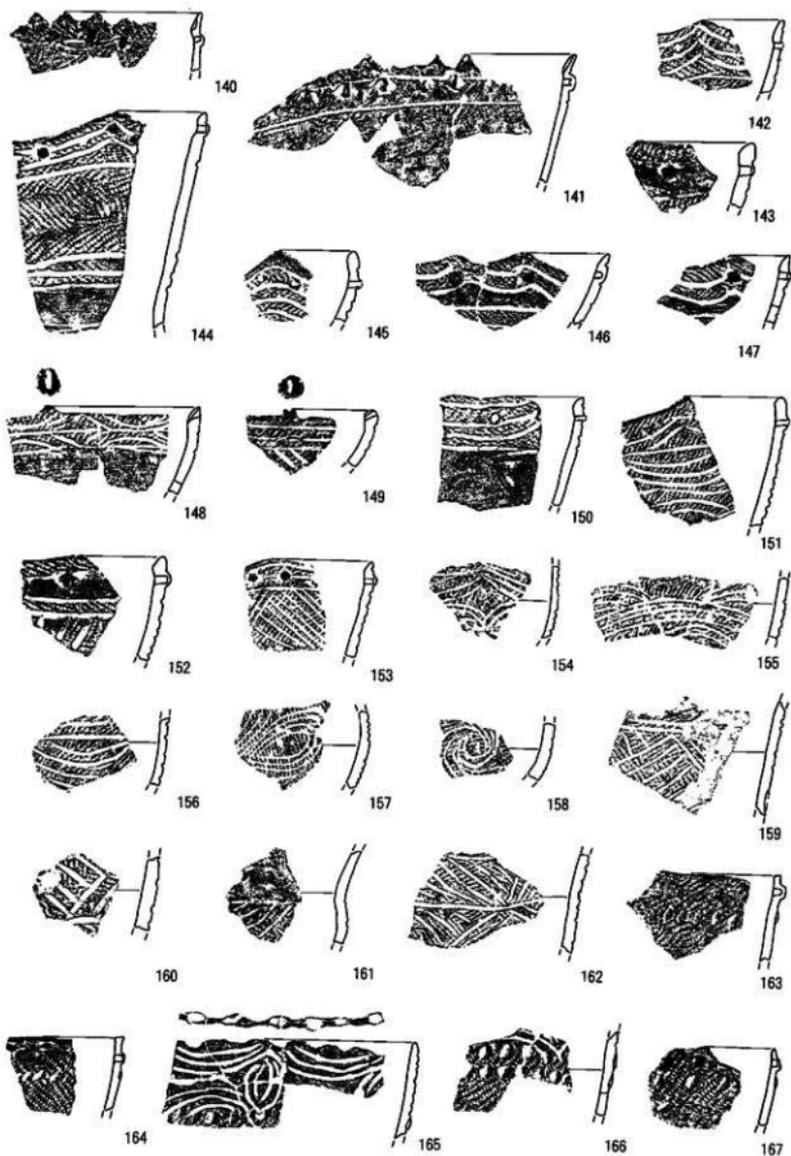


図III-84 包含層の土器(5)

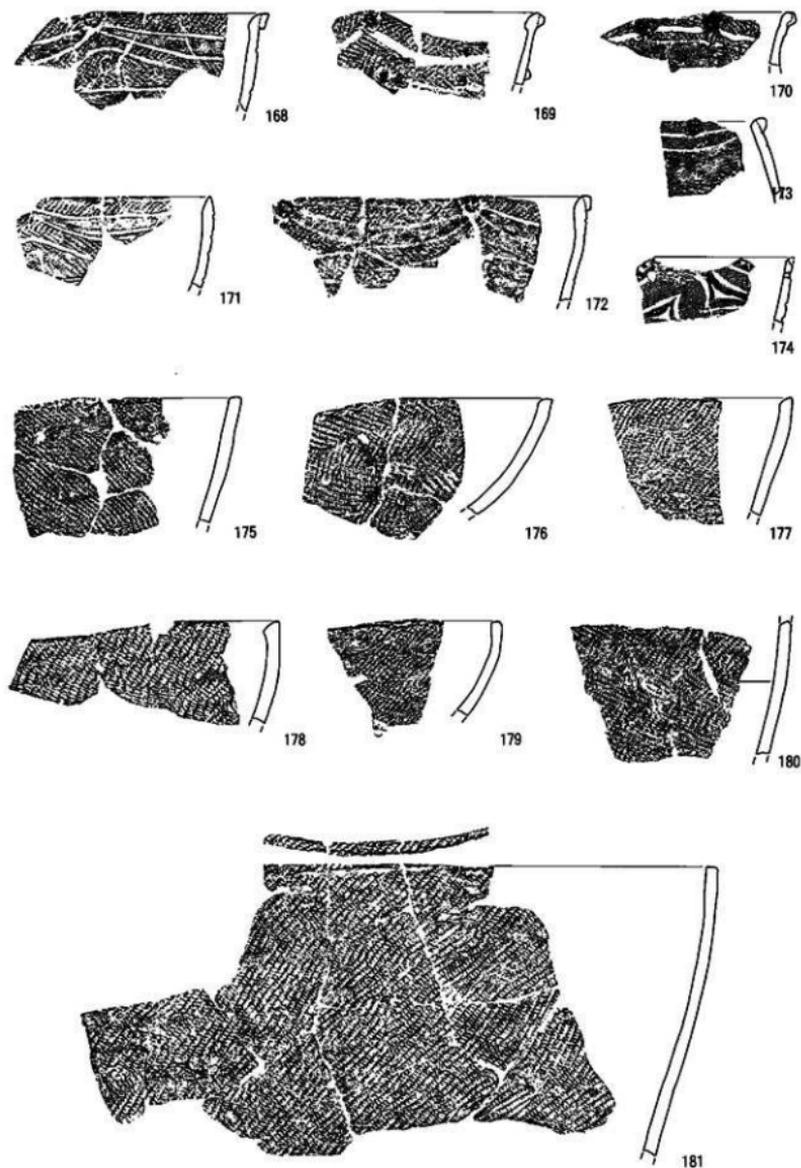


図Ⅲ-85 包含層の土器(6)

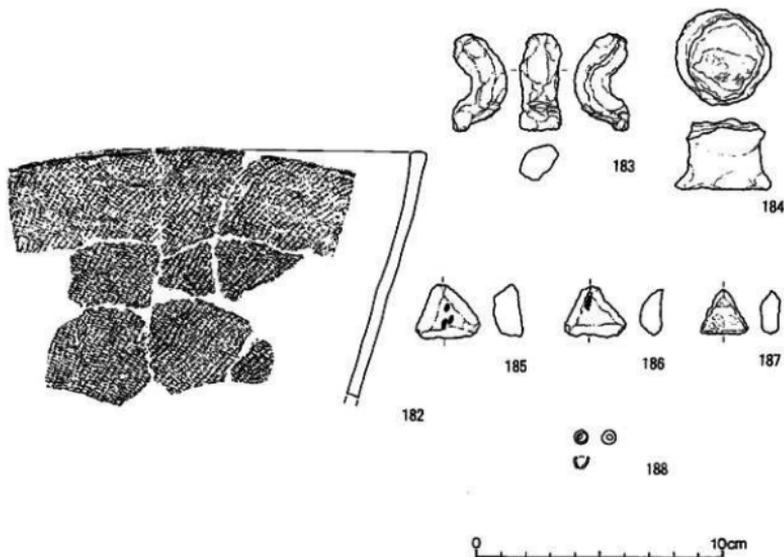
III オナツ14遺跡の調査



図III-86 包含層の土器(7)



図Ⅲ-87 包含層の土器(8)



図Ⅲ-88 包含層の土器⑨・土製品・石製品

111・113・114・116)である。

IV群c類(図Ⅲ-80-5・6, 85-117~139, 87, 87, 88-182, 図Ⅲ-59, 60, 61, 62, 63) 堂林式を中心に7483点(29.3%)出土している。

5は無文地に突瘤文、6は弧線文の施された鉢形土器である。口縁部破片には突瘤文のあるものと、突瘤文のないものがある。117~127は地文に突瘤文のあるもの。平縁・波状口縁がある。128~141・154は横走する平行沈線の施された口縁。平縁・突起のある平縁・波状口縁がある。142・144~147・153は波状沈線の施されたもの。144~147には磨消帯が認められる。143・152は口縁の磨消帯に突瘤文が施されている。152・153には斜行する沈線が認められる。148・151は弧線文のあるもの。154~162は胴部破片で、弧線文(154~157)・渦巻文(158)・斜行する沈線文(159~162)がある。163~167は爪形文のあるもの。地文に突瘤文(163・164・167)・弧線文(165・166)がある。168~173はボタン状貼付があるもので、横走する平行沈線(170)・波状沈線(169)・弧線文(168・171・172)がある。173は弧線文に貼付文、174は三叉文風沈線文が施されている。IV群c類に含めておく。175~182は地文のみのもの。

三角土製品(図Ⅲ-88-185~187)

Ⅲ群a類の土器片を削ったもので、いずれも一辺が2~3cmほどである。185・186にはLRの縄文が認められる。187は摩耗している。

(鎌田)

(2) 石器 (図版Ⅲ-64~74, No.1~134)

石鏃 (1~51)

1~17は無茎凹基、18~21は無茎平基、22~24は有茎凹基、25・26は有茎平基、27~45は有茎凸基、46はかえしの不明瞭な有茎凸基もしくは木葉形を呈する尖基、47は円基、48は小基、49は有茎凸基の底辺部が凹状のもの、50・51は木葉形で底辺が凹状のもの。

ポイントもしくは両面加工のナイフ (52~55)

52・54はかえしの不明瞭な有茎のもの。53の側には自然面が残っており、製作途中のものか。55は柳葉形のもの。

石鏃 (56~67)

56は石英片を素材としたもので、機能部は磨耗している。57・58は棒状のもの。59~67は剥片の一部に機能部を作出したもので、つまみ部の加工は63・64・66を除いて顕著ではない。65はニカ所の機能部を有するいわゆる多頭鏃である。

つまみ付ナイフ (68~78)

68~76は縦形、77・78は斜形。68~77は片面もしくは両面の周辺加工、78は半両面加工によって刃部が作出されている。なお、56・62には火熱によるはじけが認められる。

スクレイパー類 (79~94)

79~83はエンドスクレイパー。84~86・88は尖頭部をもつもので、84は鋸角剥離によって、88は全周に加工されラウンドスクレイパーに近い。87は鋸歯状の刃部をもつもの。89・90は外彎する刃部を有するもの。91は木葉形を呈する片面加工のもの。93は打面を除くほぼ全周に加工があり、外彎する刃部と直線状の刃部を有するもの。94は図下片に両面から鋸歯状の刃部が作出されたもの。

表Ⅲ-37 石器類器種別集計表

	種別	総数	内訳		(遺構内訳) 縄文			アイヌ文化期	
			包含層	遺構	竪穴住居跡	土壌	焼土	竪穴住居跡	建物跡
削片	石鏃	200	133	67	62	3	2		
	石鏃	29	22	7	7				
	ポイント・ナイフ	15	7	8	8				
	つまみ付ナイフ	32	26	6	6				
	スクレイパー類	75	57	18	16	1	1		
石	楕形石鏃	10	10						
	異形石鏃	6	5	1	1				
	Uフレイク	48	30	18	16	2			
	Rフレイク	70	37	33	32	1			
	石刃	1	1						
礫	形礫	1		1	1				
	石斧	65	45	20	20				
	石斧薄片	175	101	74	73	1			
	すり石	43	34	9	8	1			
	たたき石	36	28	8	8				
	くぼみ石	3	3						
	石皿・舎石	22	19	3	2	1			
	既石	42	34	8	6	2			
	石盤	1		1	1				
	R盤	5	5						
剥片	削片・石屑	25,549	8,461	17,088	16,950	57	81		
	石核	32	28	4	4				
	原石	7	5	2	2				
	礫・礫片	1,161	1,065	96	65	21	1	4	4
	石製品	2	1	1			1		
合計	27,630	10,157	17,473	17,288	91	85	4	4	1

異形石器 (96~100)

96・97はいわゆる三日月形石器。98は上半分を欠くが、上下対称形をなすか。99は石錐に似るが、機能部に相当するところはきわめて薄くなっている。100は両側縁に鋸歯状の加工が施されている。

楔形石器 (101~103)

101・102には縦方向に相当する剥離痕が、103には縦横二方向に相対する剥離痕が認められる。

石核 (104~107)

104は上下両端からの加撃によって剥片が生産されている。105の裏面(図右面)では横方向からの剥離で、両面とも打面は自然面である。106は細石刃礫石刻で、横位からの加撃によって打面が作出され、調整加工はない。107は106の打面部に剥片が接合したもので、素材は厚手の剥片である。

石斧 (108~114)

108・109は両刃一曲刃。110は諸刃か。片刃的で曲刃・斜刃。111は両刃一直刃。112は片刃の直刃。113の刃部は局部磨製で、再生か。両刃?一斜刃。114は刃部を欠損。

すり石 (115~120)

115~117はいわゆる北海道式石冠で、34点のすり石のうち18点を占める。118~120は礫の一侧を使用したもので、120の片腹面には潰打痕がある。

たたき石 (121~129)

121は全周に敲打痕が、両腹面には磨痕がある。122は四面体状礫の稜頂部に使用痕が認められる。123・124はほぼ全面に使用痕がある。125は5ヵ所の突出部に、126は下端と側縁半分くらいに使用痕がある。127は棒状礫の一端に使用痕があり、両面には擦痕が認められる。128は下端に使用痕が、左側面には擦痕が認められる。129は角棒状礫の両端および両腹面に使用痕があり、一面はくぼみ石状である。

砥石 (130~132)

130は表裏とも2本の溝がある有溝砥石。131は全面を、132は片面を使用した小型の砥石である。

くぼみ石 (133・134)

133・134は両面に浅い皿状のくぼみが認められる。

(千葉)

6 まとめ

当遺跡は、長都川旧流と今は痕跡をとどめるだけのエアニトマム川の合流点から南に広がる低位段丘面に立地している。その範囲は、長都川旧流に沿って北東-南西に長く500m、幅150mの約5万㎡とおさえられている。今回の調査はその北東寄りのごく一部1,620㎡であったが、縄文時代からアイヌ文化期にわたる各期の集落をとらえることができたので、これを概観しまとめとしたい。

縄文時代前期5軒の堅穴のうち、4軒がⅡ群a類の静内中野式期、1軒(H-3)がⅡ群b類の大森V式期のものであった。静内中野式期では、大型のH-11を中心に小型の3軒(H-16・18・27)がこれを取り巻く位置に造られていた。

縄文時代中期には、Ⅲ群a類の円筒上層式期に10軒(H-7・8・9・12・14・20・21・24・26・26上層)、Ⅲ群b-2類の柏木川式期に14軒(H-1・2・4・10・13・15・17・19・22・25・29・30・31・31上層)の堅穴が存在した。円筒上層式期の堅穴は、少なくとも三期にわたる集落を形成していたことがわかる。すなわち、切り合いの前後関係からは古い順にH-7・12・8とすることができ、掘揚土等の関係からは古い順にH-24・26・26上層と捉えることができるためである。また、ロングハウスH-20と、石器製作に関連すると思われるH-26は、床面の土器が接合し、同時に営まれていたことが確認できた。堅穴のつくりや柱穴もしっかりしており、安定した集落が形成されていたことがうかがえる。

柏木川式期の堅穴は、土壌や焼土とともに、調査範囲の全面に展開しており、当該期の集落の中心がこのあたりにあったことをうかがわせる。長軸が東-西方面の堅穴が多い特徴がある。切り合い等の前後関係からは、古い順にH-17・15・P-17とあり、少なくとも三期にわたって集落が営まれていたことがわかる。

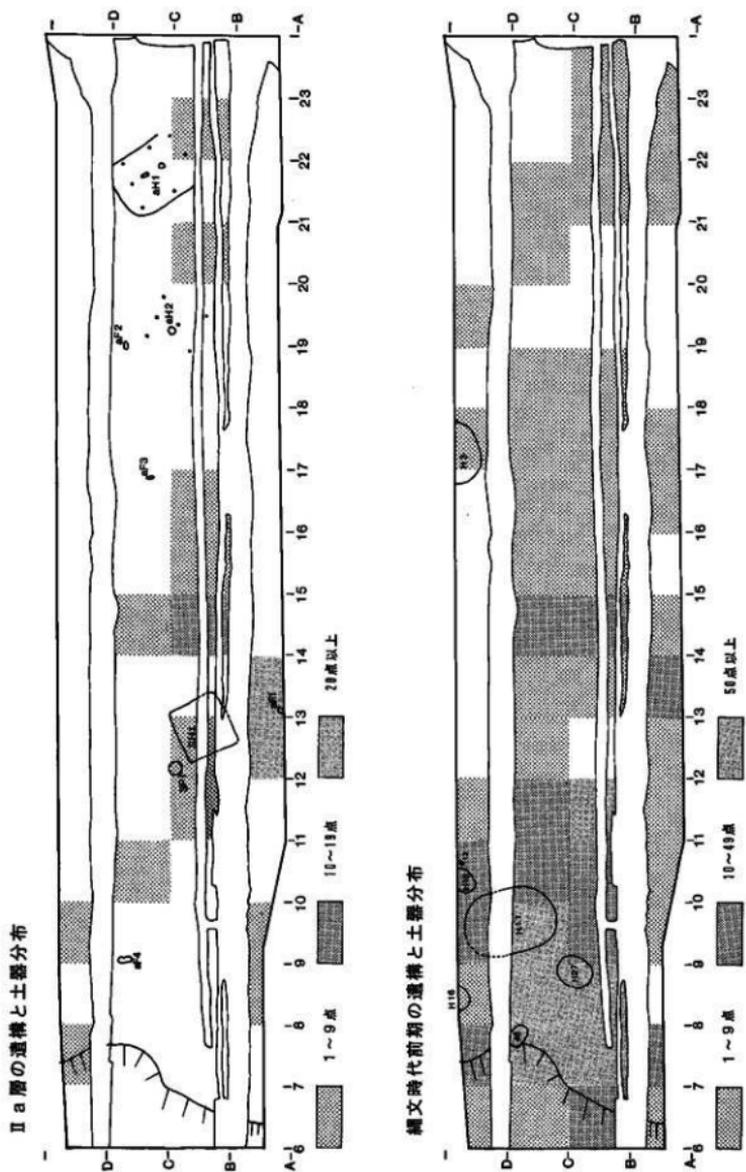
縄文時代後期は、Ⅳ群a類の余市式期が1軒(H-28)、Ⅳ群b類の手稲式期が1軒(H-23)と少ない。余市式期では、比較的大型堅穴があるにもかかわらず他に遺構がなく、土器数も少ないなど、この時期の展開がより北側にあったであろうことを思わせる。手稲式期では逆に、土壌や焼土が多く遺物点数も多い。その分布からより南側に集落の本体があったものと推定される。この時期には、墓と思われる土壌も数基(P-8・24・25・40・47)確認している。そのうちP-25の墳底からは、ヒスイ玉がみつまっている。Ⅳ群c類堂林式期には堅穴が確認されていないが、土壌・焼土数基のほか遺物点数も多く、手稲式期ともども南がやや段丘端に広がっていくようである。

縄文文化期では、堅穴1軒(SH-1)と土壌1基(SP-1)が確認されている。土器から八世紀前半の年代が与えられており、オサツ2遺跡より一時期先行する集落が、土器の出土分布からみて南側に展開するものと推定される。オサツ2遺跡を含めた大集落との関係が興味深い。

アイヌ文化期では、建物跡2軒(aH-1・2)と焼土4基(aF-1~4)が確認されている。低湿度からは木製品も出土しており、長都川と密接な関係をもつ集落が存在したのと考えられる。また、aH-1の東方150mのエアニトマム川右岸にある都のチャシとは、いかなる関係性があるのだろうか。

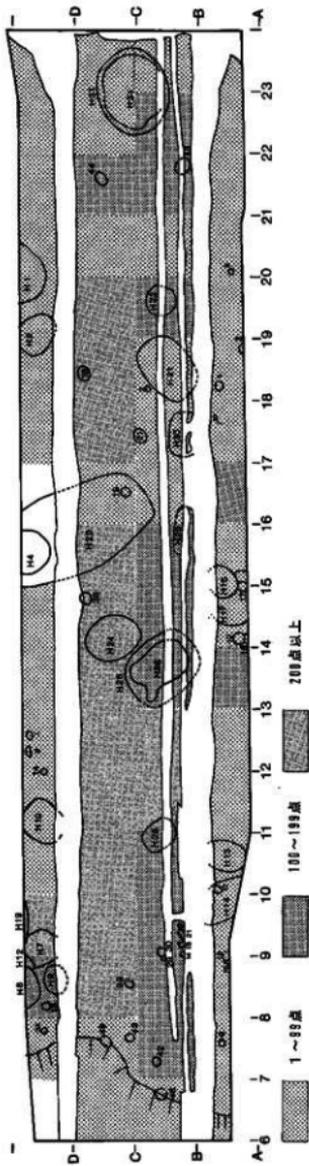
1739年に樽前c火山灰が降下した後は、低湿度セクションにあらわれたごとく今回調査範囲は、道として利用されたようである。オサツ14遺跡は、長都川を背景に旧石器時代-縄文時代-縄文文化期-アイヌ文化期と、続縄文時代を除いて、エアニトマム川が生まれ痕跡となるまで、人々の生活基盤となっていた場ということができよう。

(三浦)

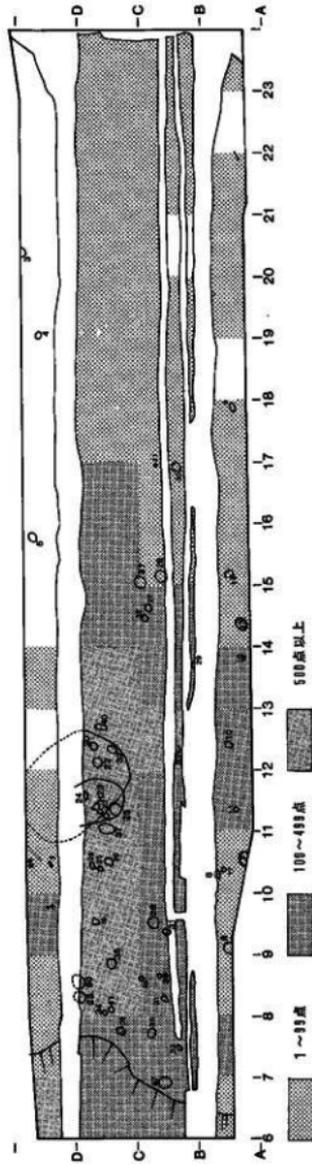


図III-89 時期別遺構・土器分布図(1)

縄文時代中期の遺構と土器分布



縄文時代後期の遺構と土器分布



図III-90 時期別遺構・土器分布図(2)

III オサツ14遺跡の調査

表Ⅲ-38 オサツ14遺跡 遺構一覧

遺構名	グリッド	切り合う遺構	時 期	備 考
aH-1	B-21・22, C-21・22		アイヌ文化期	
aH-2	B-18・19, C-19		アイヌ文化期	
aF-1	A-13-1・2		アイヌ文化期	
aF-2	C-18-24, C-19-4		アイヌ文化期	
aF-3	C-16-22		アイヌ文化期	
aF-4	C-9-4・5		アイヌ文化期	
SH-1	B-12・13, C-12・13	H-26・P-33を	縄文文化期	1/2側溝で破壊
SP-1	B-12-5・10, C-12-1・6		縄文文化期	
H-1	D-19・20	P-3に	縄文中期柏木川式	1/2範囲外
H-2	D-18	P-4に	縄文中期柏木川式	1/3範囲外 一部側溝で破壊
H-3	D-16・17		縄文前期大塚V式	1/2範囲外
H-4	D-15	H-20を P-5に	縄文中期柏木川式	1/3範囲外
H-7	D-8・9	H-11を H-12・19に	縄文中期内筒上層式	南端側溝で破壊
H-8	D-8	H-12・16を	縄文中期内筒上層式	1/2範囲外
H-9	D-8		縄文中期内筒上層式	1/2側溝で破壊
H-10	D-10・11	H-28に	縄文中期柏木川式	南端側溝で破壊
H-11	C・D-9・10	H-7に 覆土中にF-4・19	縄文前期静内中野式	中央部側溝で破壊
H-12	D-8・9	H-7を H-8に	縄文中期内筒上層式	2/3範囲外
H-13	A-10	P-7に	縄文中期	1/3側溝で破壊
H-14	A-9・10	覆土中にF-12	縄文中期内筒上層式	1/3範囲外 1/3側溝で破壊
H-15	A-14・15	H-17を P-11・17に	縄文中期柏木川式	1/3側溝で破壊
H-16	D-8	H-8に	縄文前期静内中野式	1/2範囲外
H-17	A-14・15	H-15・P-13・17に	縄文中期柏木川式	1/3範囲外 北端側溝で破壊
H-18	D-10	覆土中にF-8	縄文前期静内中野式	北端範囲外
H-19	D-9	H-7を	縄文中期	ほぼ全体範囲外
H-20	B・C・D-15・16	H-4・P-19に	縄文中期内筒上層式	北端範囲外 中央部側溝で破壊 ロングハウス
H-21	B-18・19		縄文中期柏木川式	1/3側溝で破壊
H-22	B-19		縄文中期柏木川式	1/3側溝で破壊
H-23	C-11	H-28を P-24・25に 覆土中にF-22・23	縄文後期手摺式	1/3側溝で破壊
H-24	B-14, C-13・14	H-26の掘土入る	縄文中期内筒上層式	
H-25	B-10・11		縄文中期柏木川式	一部側溝で破壊
H-26(上層遺構)	B-13・14, C-13	H-26の上層	縄文中期内筒上層式	一部側溝で破壊
H-26	B-13・14, C-13	SH-1に H-24に掘土入る	縄文中期内筒上層式	一部側溝で破壊
H-27	B・C-8・9	覆土中にF-28	縄文前期静内中野式	
H-28	C-11・12, D-11・12	H-10・P-14・24・32を H-23・P-20・22に	縄文後期余市式	中央部側溝で破壊
H-29	B-15・16		縄文中期柏木川式	2/3側溝で破壊
H-30	B-17		縄文中期柏木川式	2/3側溝で破壊
H-31(上層遺構)	B-22・23, C-22・23	H-31の上層	縄文中期柏木川式	一部側溝で破壊
H-31	B-22・23, C-22・23		縄文中期柏木川式	一部側溝で破壊

遺構名	グリッド	切り合う遺構	時期	備考
P-1	A-18-4・4・9		縄文中期柏木川式	
P-2	A-18-17・22		縄文中期	1/2範囲外
P-3	D-20-9・10・15	H-1を	縄文後期	1/2範囲外
P-4	D-18-23・24, D-19-3・4	H-2を	縄文後期	
P-5	D-15-19・24	H-4を	縄文後期堂林式	
P-6	A-9-3	F-16を	縄文後期	1/2範囲外
P-7	A-10-12・17	H-13を	縄文後期	1/2範囲外
P-8	A-10-9・14		縄文後期	1/4範囲で破壊 墓?
P-9	A-7-13・14・18・19		縄文中期	
P-10	A-12-8・13		縄文後期堂林式	
P-11	A-15-3	H-15を	縄文後期堂林式	
P-12	A-14-2・3・7・8	P-18を P-13に	縄文中期	
P-13	A-14-7・8・12・13	H-17・P-12を	縄文後期	
P-14	D-11-23, D-12-3	H-28に?	縄文中期柏木川式	
P-15	D-6-2・3・7・8		縄文中期	
P-16	C-18-9・10・14・15		縄文中期	
P-17	A-14-21・22, A-15-1・2	H-15・17を	縄文中期柏木川式	
P-18	A-14-1・2・6・7	P-12に	縄文中期	1/2範囲外
P-19	C-16-11・12・16	H-20を	縄文中期柏木川式	
P-20	C-12-9・14	H-28を	縄文後期	
P-21	B-17-10・15, C-17-6・11		縄文中期円筒上層式	
P-22	C-12-3・4	H-28を	縄文後期	
P-23	C-8-10		縄文後期ホックマ式	1/3範囲で破壊
P-24	C-11-15・20	H-23を	縄文後期手掘式	一部範囲で破壊 墓?
P-25	C-11-7・8・12・13	H-23を	縄文後期手掘式以降	墓
P-26	B-15-3・4・8・9		縄文後期	1/4範囲で破壊
P-27	B-14-25, B-15-5, C-14-21, C-15-1		縄文後期	
P-28	B-9-14・15		縄文後期堂林式	
P-29	B-8-23, B-9-3	P-30に	縄文中期円筒上層式	1/2範囲で破壊
P-30	B-8-23, B-9-3・4	P-29を	縄文中期柏木川式	南端範囲で破壊
P-31	B-9-8・13		縄文後期手掘式	1/3範囲で破壊
P-32	C-12-7・8	H-28に	縄文後期	
P-33	B-12-7・8・12・13	SH-1に	縄文後期	1/2範囲で破壊
P-34	C-8-3		縄文後期	
P-35	C-8-17・18・22・23		縄文後期	
P-36	C-14-19・20・24・25		縄文中期	一部範囲で破壊
P-37	C-10-23, C-11-2・3・4		縄文後期	
P-38	B-8-19		縄文後期	
P-39	C-8-11・16		縄文中期柏木川式	
P-40	C-12-18・19		縄文後期手掘式	墓?
P-41	C-8-2・3		縄文後期	
P-42	B-7-8・9		縄文中期柏木川式	
P-43	B-7-20, C-7-16		縄文中期柏木川式	
P-44	C-21-13・14・18・19		縄文中期柏木川式	
P-45	B-21-16・17・21・22		縄文中期柏木川式	1/2範囲で破壊
P-46	C-7-19・20・24・25, C-8-4・5		縄文前期静内中野式	墓?
P-47	B-6-23・24, B-7-3	P-48を	縄文後期手掘式	墓?
P-48	B-6-18・19・23・24	P-47に	縄文中期柏木川式	
P-49	C-7-12・13・17・18		縄文中期	
P-50	C-8-15・20		縄文後期	1/2範囲で破壊

Ⅲ オサツ14遺跡の調査

遺構名	グリッド	切り合う遺構	時 期	備 考
F-1	D-12-14・19		縄文中期	
F-2	B-18-4・5・9・10		縄文中期	
F-3	D-10-12・13		縄文後期	
F-4	D-9-17・18	H-11覆土中	縄文後期	
F-5	A-20-3		縄文中期	
F-6	A-17-19		縄文後期	
F-7	A-17-23		縄文中期	
F-8	D-10-14	H-18覆土中	縄文後期	
F-9	D-12-9・14		縄文中期	
F-10	A-13-17・22		縄文後期	
F-11	A-11-7・8		縄文後期	
F-12	A-10-4	H-14覆土中	縄文中期柏木川式	
F-13	D-10-14・19	F-8より下	縄文前期	
F-14	B-8-22, B-9-2		縄文中期	1/3側溝で破壊
F-15	A-8-23	F-16を	縄文中期	1/3範囲外
F-16	A-8-23, A-9-3	P-6・F-15に	縄文中期	1/3範囲外
F-17	A-10-8・9・13		縄文後期	
F-18	B-9-2・7		縄文中期	1/3側溝で破壊
F-19	C-9-14	H-11覆土中	縄文後期	
F-20	C-10-13		縄文後期堂林式	
F-21	B-16-24		縄文後期	
F-22	C-11-8・9・13・14	H-23覆土中	縄文後期堂林式	
F-23	C-11-3・8	H-23覆土中	縄文後期堂林式	
F-24	B-9-7・12		縄文中期柏木川式	1/3側溝で破壊
F-25	C-10-8・9・13・14		縄文後期堂林式	
F-26	C-10-4・9		縄文後期	
F-27	B-14-14・15・19・20		縄文後期	
F-28	B-8-15・20	H-27覆土中	縄文後期	
F-29	B-13-16		縄文後期	1/2側溝で破壊
F-30	B-16-22・23		縄文後期	
F-31	B-8-8・9		縄文後期	
F-32	B-14-10・15		縄文後期	
F-33	B-7-12		縄文後期	1/4側溝で破壊
F-34	D-7-18・23		縄文中期	
F-35	B-7-19・20		縄文後期手箱式	
F-36	C-7-16・17		縄文後期手箱式	

表Ⅲ-39 オサツ14遺跡 脂肪酸分析及び解析依頼資料一覧

資料№	資 料 名	遺 構 名	層 位	備 考
1	石冠(すり石)	H-26	床 面	すり面付着土入り
2	土壌内土壌	P-40	覆土4層	
3	"	"	土器内部	
4	"	"	壇底直上	

以上4点

表IV-40
層別別土器・土製品集計表

Ia層	遺構		Ib	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IVa	IVb	Vc	VI	不明細片	土製品	合計	
	住居跡	埋合層													
IIb層	埋合層										30			29	
	合計										130			130	
	Ea層遺構	住居跡			1		5	23	1	10	94		33	167	
		埋合層						4			21		23	48	
	合計				1		5	27	1	10	115		56	215	
	遺構	住居跡	4	283	125	1103	1886	241	379	69	1	464	1	4534	
		埋合層	4	286		5	26	181	14					678	
	合計		8	569	125	1107	1912	241	385	69	1	464	1	5212	
	埋合層			43	933	32	2329	5495	361	6341	7483		2882	2	25612
	合計		5	1482	167	3436	7381	602	6926	7703	1	3147	3	30889	
埋合層		5	205	2	370	904	10	848	385	27			1	2768	
合計		56	1988	189	3811	8312	613	7784	8919	178	3200	4	34027		

表III-41
遺構別土器・土製品集計表

遺構番号	層位	Ib	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IVa	IVb	Vc	VI	不明細片	土製品	合計
aH-2	SP-1埋土			4			21	23					48
	SP-2埋土							2					2
	合計			4			21	25					50
SH-1	焼痕			1	2	1							4
	埋土1						9	4					13
	埋土2				1	4	3						8
	埋土3						1						1
	埋土埋土								3				3
	埋土4						15	1					16
	埋土5						5						5
	埋土6		3		1	10	1						15
	埋土8		2		2								5
	埋土10		2	1		3	3	1					8
	埋土埋土											1	1
	埋土11	1	6			15	2						24
	埋土12					2	1						3
埋土14	3	7	1	6								17	
埋土埋土					2							1	3
埋土埋土												11	11
合計	1	5	19	1	40	73	20	6					137
H-1	埋土2		1	6									7
	埋土3		4	3									7
	埋土4		4	11									15
	床		2	10									12
	炊爨土			1									1
合計		11	31									42	
H-2	埋土2	4			20								24
	埋土4	1	2	18									21
	床			7									7
合計	5	2	45									52	
H-3	埋土2			84			22						106
	埋土3		1										1
	埋土4		1				1						2
	床		111										111
	合計		113	84			23						220
H-4	埋土1			4									4
	埋土2			11	30			1					42
	埋土3			13				1					14
	埋土4			10				1					11
	床			5									5
	合計			11	62			1	2				76
H-7	埋土	21	7	24	1				1				54
	床	2		37									41
	合計	23	7	61	1				1				95

遺構番号	層位	Ib	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IVa	IVb	Vc	VI	不明細片	土製品	合計
H-8	埋土	2	1	3	1		11					1	17
	床	1		3									4
	合計	3	1	4	1		11					1	21
H-9	埋土			2									2
	床	1		2									3
	合計	1		4									5
H-10	埋土						72				1		73
	合計						72				1		73
	埋土	33	1	25			15				26		100
H-11	床	2	95					1			17		115
	柱穴	1											1
	合計	2	129	1	25		16				43		216
H-12	埋土			12	2		1						15
	床			2								1	3
	合計			14	2		1					1	18
H-14	埋土10			1								1	2
	床			2								1	3
	合計			2								2	4
H-15	埋土1			12	5	12					5	34	64
	埋土5			11							5	16	31
	埋土6			1	10						1	13	24
	合計			13	25	12					11	62	119
H-16	埋土	1											4
	床	3											3
	合計	4											7
H-17	埋土1						27						27
	埋土2						145				39		185
	伊織土										1		1
合計						172				40		213	
H-18	埋土	12											12
	床	9											9
	合計	21											21
H-19	埋土	2											2
	合計	2											2
	埋土埋土	3	3	18	2	2							28
H-20	埋土1	6	156	199	21	37	10			9			436
	埋土2			14	3								17
	床			125	5						3		136
	伊織土			1									1
	合計	6	156	219	29	37	10			12			630

表Ⅳ-42

包含層土器・土製品集計表

	1b	1a	1b	1a	1b	1a	1b	1a	1b	不明片	土製品	合
△-6												
7	2	19		7	11	6	84	60		24		130
8				10	27	6	34	23				100
9		1		7	21	1	25	16		3		81
10	1	1		2	3	1	9	11		8		36
11		8		15	48	1	105	79				255
12		8		7	20	7	62	78		6		243
13		14		49	83	3	128	121		96		519
14		1		13	79	7	37	28		69		234
15				16	34	2	23	11		26		112
16		1		48	60	12	11	2		76		210
17		1		8	24		9			26		79
18					43					22		54
19				5	45	1		2		14		67
20				8	47		1	2		18		76
21		2		17	28	1				14		63
22		2		2	31					4		36
23		1		4	6			1		4		16
B-5	7	21		38	23	2	153	78		15		227
7	7	61		55	168	3	225	266		93		768
8		59		49	98		127	105		75		511
9	1	21		32	95	3	239	153		66		609
10	3	31	11	31	79		109	205		89		356
11	3	46	15	134	214		131	206	1	41		791
12				84	286		119	472	1	104		1061
13		6		32	75	14	117	175		75		494
14		14		49	94	4	46	71	16	53		308
15		6		25	64	11	16	19	5	59		196
16		3		39	55	4	31	15	2	13		147
17	2	5		28	55		6	2		14		112
18		1		21	42	3	1			12		80
19				53	80	1	1			38		173
20				12	43				1	12		67
21		1		85	53		1			42		182
22		2		38	119		1	37	1	199		399
23		2		11	33		1	11		58		101
C-5	2	5		19	16		209	92		25		362
7	2	131		17	53	3	127	55		34		305
8	8	206		72	178		407	296		76		1343
9		52	6	93	221		678	411		103		1664
10		21		65	236	1	928	830	2	99		2182
11		16		70	256	17	484	474		155	1	1563
12		9		80	623	22	673	902		196	1	2406
13		7		49	209	1	180	1369		30		1845
14		17		68	151	14	112	157	1	103		823
15			1	25	195	188	11	13		15		445
16		1		9	27	16	71	82		75		263
17		2		213	265	7	49			75		605
18		6		58	150	3	10	7		55		289
19				73	140		12	9		73		307
20	1	4		58		2				28		93
21		2		38	104		6			47		187
22				17	74		2			33		126
23				7	25		1			33		53
D-5		5		95	34		245	278		40		697
7	2	26		3	8		22	71	1	29		162
8	1	5		59	63	1	79	5		14		205
9		37		143	106		97	48	1	66		488
10		31		3	54		34	15		56		183
11		1		2	13		1	8		21		48
12				1	5		1			6		12
13				1	1		1			1		4
14				2								2
15												
16												
17		3		1	2							6
18				1	1							2
19		1		1	3					7		11
20				1	1							2
21				1	1							2
22				1	1							2
23				1	1							2
アットF合計	43	833	32	2329	5405	381	6341	7463	108	2882	2	28720
Ⅲ	4	89	1	206	458	4	362	163	21			1308
Ⅱ		42		49	171		304	143	6			715
アットF不明	1	74		115	275		119	80	22		1	767
Ⅲ不明	5	205	2	275	924	10	646	365	43		1	2740
合 計	49	1139	34	2659	6312	371	7199	7869	137	2892	3	28800

表-44

遺構構築土器・土製品一覽

遺構番号	回廊番号	層号	層位	ドリッド	形状	点数	分類	数量	備考
S H - 1	II - 9	1	層土 成	D-13-1	片断	1	片	13	口縁(上縁) - 口底長 10
			層土 15	B-12-1	片断	1	片	20	底、底面、腹の表面に施文、ヘタリ等、表面に施文。
			層土 6	B-12-7	片断	1	片	3	底、底面、腹にヘタリ、内面ヘタリ。
H - 1	II - 17	2	層土 4	D-20-10	片断	1	片	34	底、底面、腹に施文、口縁に施文、口底に施文、口底に施文。
			層土 2	D-19-23	片断	1	片	18	底、底面、腹に施文、口縁に施文、口底に施文、口底に施文。
			層土 4	D-20-15	片断	1	片	36	底、底面、腹に施文、口縁に施文、口底に施文、口底に施文。
H - 2	II - 18	2	層土 4	D-19-9	片断	1	片	18	底、底面、腹に施文、口縁に施文、口底に施文、口底に施文。
			層土 4	D-19-3	口縁	1	片	16	口縁に施文、口底に施文、口底に施文、口底に施文。
H - 3	II - 19	1	層土 2	D-17-4	底面	1	片	4	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 2	D-17-4	底面	1	片	4	底面長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-17-9	底面	2	片	11	底面長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 2	D-17-10	底面	2	片	16	底面長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 2	D-17-10	口縁	15	片	21	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 2	D-17-5	口縁	4	片	4	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 2	D-17-9	口縁	6	片	11	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 2	D-17-9	口縁	1	片	26	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 2	D-17-15	口縁	1	片	22	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 2	D-17-14	口縁	1	片	2	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
H - 4	II - 20	1	層土 2	D-17-15	底面	1	片	62	底面長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 3	D-17-14	口縁	1	片	6	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-16-18	口縁	1	片	26	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-16-18	口縁	1	片	26	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 2	D-17-15	口縁	1	片	45	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
H - 7	II - 22	1	層土 4	D-9-3	口縁	1	片	40	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-9-3	口縁	1	片	75	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-9-8	口縁	1	片	4	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-9-8	口縁	1	片	6	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
H - 8	II - 24	1	層土 4	D-8-23	底面	1	片	47.3	底面長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-8-14	口縁	1	片	6	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-8-9	口縁	1	片	10	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-8-9	口縁	1	片	11	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
H - 9	II - 25	1	層土 4	D-8-13	底面	1	片	3	底面長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-8-13	口縁	1	片	5	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
H - 10	II - 26	1	層土 4	D-11-3	口縁	1	片	5	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-11-7	口縁	1	片	11	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-11-8	口縁	1	片	18	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-11-8	口縁	1	片	27	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-11-3	口縁	1	片	14	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-11-3	口縁	1	片	5	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-11-8	口縁	1	片	16	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
H - 11	II - 29	1	層土 4	C-9-9	口縁	2	片	345	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	C-9-8	口縁	1	片	115	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	C-9-8	口縁	1	片	106	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	C-9-25	口縁	3	片	135	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	C-9-24	口縁	19	片	199	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	C-9-24	口縁	18	片	129	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	C-9-23	口縁	3	片	3	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
H - 12	II - 24	1	層土 4	C-10-4	口縁	1	片	25	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	C-10-4	口縁	1	片	72	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	C-10-4	口縁	1	片	74	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	C-9-24	口縁	30	片	129	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-9-14	口縁	1	片	15	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-9-18	口縁	3	片	5	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-8-24	口縁	1	片	41	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
H - 15	II - 32	1	層土 4	A-15-3	口縁	1	片	46	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	A-15-8	口縁	1	片	16	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	A-15-9	口縁	1	片	14	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	A-15-9	口縁	3	片	1	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
H - 16	II - 23	1	層土 4	D-8-14	口縁	3	片	1	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-8-14	口縁	1	片	6	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
H - 17	II - 34	1	層土 1	A-14-18	口縁	1	片	16	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 1	A-14-18	口縁	1	片	4	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 1	A-14-17	口縁	1	片	5	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 1	A-14-17	口縁	1	片	27	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 1	A-14-17	口縁	1	片	7	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 1	A-14-17	口縁	1	片	30	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 2	A-14-17	口縁	1	片	74	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 2	A-15-2	口縁	1	片	69	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 2	A-14-12	口縁	1	片	4	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 2	A-14-17	口縁	1	片	81	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
H - 18	II - 35	1	層土 4	D-10-9	口縁	1	片	81	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 4	D-10-9	口縁	1	片	95	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
H - 20	II - 39	1	層土 1	C-15-18	口縁	1	片	152	口縁長 10、底面長 10、底面長 10
			層土 1	C-15-22	口縁	7	片	256	口縁長 10、底面長 10、底面長 10

III オサツ14遺跡の調査

遺跡番号	図説番号	図名	層位	グリッド	部位	点数	分類	遺物番号	備 考	
H-26	第-54		6	覆土 1	B-13-14	口縁	1	Ⅱb	23	厚板瓦片の裏面、土質が硬く、表面に凹凸がある。磁器、土器類、鉄器類、銅器類、金器類、ガラス類、石類、骨角類、土質類、植物類、動物類、貨幣類、文書類、その他類。
			7	覆土 3	B-13-14	胴部	1	Ⅱb	28	同上。
			8	覆土 5	B-13-14	口縁	1	Ⅱb	29	同上。
			9	覆土 5	B-13-20	口縁	1	Ⅱb	47	同上。
			10	覆土 5	B-13-26	口縁	1	Ⅱb	48	同上。
			10	覆土 5	B-13-26	口縁	1	Ⅱb	36	同上。
			11	覆土 5	B-13-20	口縁	1	Ⅱb	34	同上。
			12	覆土 5	B-13-19	胴部	1	Ⅱb	44	同上。
			13	覆土 13	B-14-2	胴部	1	Ⅱa	106	同上。
			14	床 底	B-15-16	胴部	1	Ⅱa	78	同上。
			14	床 底	B-15-16	胴部	2	Ⅱa	79	同上。
			14	床 底	B-15-16	胴部	1	Ⅱa	80	同上。
			15	床	B-13-4	突起	1	Ⅱa	62	同上。
			16	床	B-13-24	三角土製物	1	Ⅱa	87	同上。
			H-27	第-56		1	覆土 1	B-8-25	胴部	1
2	覆土 1	B-8-25				口縁	1	Ⅱb	34	同上。
3	覆土 1	B-8-25				胴部	1	Ⅱa	6	同上。
4	覆土 1	B-8-20				胴部	3	Ⅱa	9	同上。
5	覆土 1	C-8-21				胴部	1	Ⅱa	11	同上。
6	覆土 1	B-8-25				口縁	1	Ⅱa	15	同上。
7	床	B-8-19				胴部	2	Ⅱa	2	同上。
8	床	B-8-25				胴部	1	Ⅱa	12	同上。
H-28	第-58		1	上層覆土	C-12-7	口縁	1	Ⅱc	15	同上。
			2	上層覆土	C-12-2	胴部	1	Ⅱc	17	同上。
			2	上層覆土	C-12-6	口縁	1	Ⅱc	17	同上。
			3	上層覆土	C-11-23	口縁	1	Ⅱc	35	同上。
			4	上層覆土	C-12-2	口縁	1	Ⅱb	26	同上。
			4	上層覆土	C-11-22	口縁	1	Ⅱb	30	同上。
			5	上層覆土	C-11-23	口縁	1	Ⅱb	35	同上。
			6	上層覆土	C-11-22	胴部	1	Ⅱb	39	同上。
			7	上層覆土	C-11-22	口縁	1	Ⅱb	42	同上。
			8	上層覆土	C-11-17	口縁	1	Ⅱb	47	同上。
			9	上層覆土	C-11-21	口縁	1	Ⅱb	39	同上。
			10	下層覆土	C-12-13	胴部	1	Ⅱb	21	同上。
			11	下層覆土	C-11-16	口縁	1	Ⅱb	52	同上。
			12	下層覆土	C-12-2	口縁	1	Ⅱb	23	同上。
			13	下層覆土	C-11-22	胴部	1	Ⅱb	54	同上。
			14	下層覆土	C-12-13	口縁	1	Ⅱb	22	同上。
			14	下層覆土	C-12-13	胴部	1	Ⅱa	22	同上。
			17	伊瓶い	C-12-5	胴部	1	Ⅱa	64	同上。
			17	伊瓶い	C-12-9	口縁・胴部	6	Ⅱa	70	同上。
			18	伊瓶い	C-12-4	口縁・胴部	3	Ⅱa	71	同上。
18	伊瓶い	C-12-4	口縁・胴部	6	Ⅱa	74	同上。			
19	伊瓶い	C-12-4	口縁・胴部	7	Ⅱa	72	同上。			
20	伊瓶い	C-12-5	胴部	2	Ⅱa	63	同上。			
21	伊瓶い	C-12-10	胴部	2	Ⅱb	66	同上。			
21	ビッド覆土	C-11-22	胴部	1	Ⅱb	73	同上。			
H-29	第-60		1	覆土 1	B-16-2	胴部	1	Ⅱb	29	同上。
			2	覆土 1	B-16-2	胴部	1	Ⅱb	6	同上。
H-30	第-61		1	覆土 1	C-22-11	胴部	1	Ⅱb	7	同上。
H-31上層遺構	第-63		1	覆土 1	C-22-6	胴部	2	Ⅱb	9	同上。
			床 底	C-22-6	胴部	5	Ⅱb	41	同上。	
			床 底	C-22-22	胴部	2	Ⅱb	70	同上。	
			覆土 2	C-22-6	胴部	2	Ⅱb	73	同上。	
			床 底	C-22-16	胴部	1	Ⅱb	42	同上。	
			2	床 底	C-22-22	胴部	1	Ⅱb	97	同上。
			床 底	C-22-22	口縁	1	Ⅱb	99	同上。	
			床 底	B-22-4	口縁	1	Ⅱb	119	同上。	
			3	床 底	B-22-25	胴部	2	Ⅱb	32	同上。
			1	床 底	C-22-24	胴部	1	Ⅱb	90	同上。
H-31	第-66		2	床 底	C-22-16	胴部	1	Ⅱb	103	同上。
			3	床 底	B-22-20	胴部	1	Ⅱb	137	同上。
			4	床 底	B-23-15	胴部	1	Ⅱb	124	同上。
			5	床 底	B-23-15	胴部	1	Ⅱb	126	同上。
			5	床 底	B-23-15	胴部	1	Ⅱb	127	同上。
			6	伊-覆土 1	B-23-15	胴部	1	Ⅱb	150	同上。
P-1	第-67		1	覆土 2	A-18-8	胴部	1	Ⅱb	1	同上。
P-5	第-68		1	覆土 1	D-15-14	胴部	1	Ⅱc	2	同上。
			覆土 1	D-15-14	胴部	1	Ⅱc	6	同上。	
P-14	第-69		1	覆土 2	D-11-23	胴部	1	Ⅱb	1	同上。
P-16	第-69		1	覆土 1	C-18-15	胴部	1	Ⅱb	1	同上。
			2	覆土 4	C-18-15	胴部	1	Ⅱb	2	同上。
P-17	第-70		1	覆土 2	A-14-22	胴部	1	Ⅱb	3	同上。
P-19	第-70		1	覆土 1	C-16-11	胴部	1	Ⅱb	2	同上。
			覆土 1	C-16-11	胴部	1	Ⅱb	12	同上。	

表Ⅲ-45
包含層掲載土器土製品一覧

図版番号	図名	アリアツ	形状	直径	高さ	重量	備考
Ⅲ-14	1	A-12-23	一底	26	11	552	丸、底方の平
	2	C-14-2	口縁・胴部	3	1	1542	どろひつツア
	3	A-13-2	口縁	1	1	595	どろひつツア
Ⅲ-50	4	C-13-19	胴部	1	1	2347	コブツツ、ナツ
	5	C-13-3	口縁	1	1	2655	ナツ、内面ツツ
	6	B-6-24	胴部	13	1	3352	口縁(-) 胴部(-)
	7	B-6-24	胴部	2	1	3244	胴部(-)
	2	D-9-3	底	1	1	39	口縁(-)
		D-9-3	底	1	1	40	底(46ka)
		D-9-3	胴部・底	5	1	41	胴部(-)
		D-9-8	胴部	3	1	43	口+丸の胴部
		D-9-8	口縁・胴部	13	1	78-4	胴部・胴部、底
		D-9-8	口縁・胴部	7	1	75-5	口縁・胴部
		C-12-7	胴部	2	1	2619	口縁(52ka)
		C-12-17	胴部	2	1	2631	胴部(-)
		C-12-23	口縁	4	1	1313	胴部(-)
		C-12-23	口縁	1	1	1314	平縁、胴部をた
		C-13-4	口縁	1	1	2075	口縁以上の部分
		C-13-4	胴部	1	1	2199	胴部以上の部分、胴部
	C-13-4	胴部	10	1	2693	平縁以上の部分	
	C-13-8	胴部	1	1	2630	平縁・胴部	
	C-13-9	口縁・胴部	6	1	2619	口+丸の胴部、文部	
	C-13-9	口縁・胴部	2	1	2682	胴部・胴部	
C-13-14	胴部	1	1	2684	胴部以上の部分		
C-13-16	胴部	1	1	2353	胴部		
C-13-22	口縁	1	1	2636	口縁		
4	D-9-8	胴部・底	25	1	75-6	口縁(-) 胴部(-)	
	D-9-8	胴部	2	1	75-8	胴部(75cm)	
	C-7-21	口縁	1	1	2310	口縁(-)	
	C-8-3	口縁・胴部	3	1	2659	胴部(-)	
	C-8-3	胴部	3	1	2734	胴部(-)	
	C-8-3	口縁	3	1	3150	口縁以上の部分	
	C-8-4	胴部	1	1	2735	口縁以上、内面ツツ	
	C-8-7	口縁・胴部	4	1	2740	口縁	
	C-8-8	口縁・胴部	2	1	2641	口縁	
	C-8-8	胴部	1	1	2674	口縁	
	C-8-8	口縁・胴部	4	1	2739	口縁	
	C-8-12	胴部	1	1	2738	口縁	
C-8-12	胴部	1	1	2977	口縁		
D-9-8	口縁	1	1	3485	口縁		
6	C-8-3	胴部	1	1	2676	口縁(-)	
	C-8-4	胴部	2	1	2639	胴部(-)	
	C-8-4	底	3	1	2670	胴部(-)	
	C-8-9	胴部	3	1	2672	丸縁、底に胴部	
	C-8-9	胴部	1	1	2260	胴部・胴部	
	C-8-10	胴部	1	1	2673	胴部	
	C-8-10	胴部	1	1	2737	胴部	
	C-8-15	胴部	1	1	2538	胴部	
	C-20-24	胴部	1	1	3004	胴部・胴部	
	C-20-24	胴部	1	1	3004	胴部・胴部	
Ⅲ-51	8	A-19-18	口縁	1	1	87	丸縁・口縁
	9	C-8-18	胴部	1	1	3143	胴部以上の部分
	10	C-13-24	口縁	1	1	2139	口+竹筒以上の部分
	11	D-11-8	口縁	1	1	345	上部分
	12	A-14-13	胴部	1	1	1206	口縁・胴部
	13	口縁	1	1	—	口縁以上、胴部	
	13	C-9-1	口縁	1	1	2154	口縁以上の部分、土
	14	C-8-4	口縁	1	1	2538	口縁
	14	C-8-4	口縁	1	1	2768	丸縁以上、口縁
	15	D-7-14	口縁	1	1	3347	口縁以上の部分
	15	D-7-14	口縁	1	1	3348	口縁以上の部分
	16	C-7-24	胴部	7	1	3287	口縁以上の部分
17	D-9-7	口縁	1	1	119	丸縁・口縁	
18	D-9-4	口縁	1	1	2352	丸縁・口縁	
19	B-13-16	口縁	4	1	2635	丸縁・口縁	
20	B-10-21	口縁	1	1	1977	丸縁・口縁	
21	D-9-8	口縁	1	1	79-1	丸縁・口縁	
22	B-11-2	口縁	2	1	2842	丸縁・口縁	
23	D-8-24	口縁	1	1	34	丸縁・口縁	
24	B-9-24	口縁	4	1	135	丸縁・口縁	
25	B-9-24	口縁	1	1	2352	丸縁・口縁	
25	B-11-12	口縁	3	1	2844	丸縁・口縁	
26	B-11-12	口縁	2	1	2843	丸縁・口縁	
27	B-11-12	口縁	1	1	2843	丸縁・口縁	
27	B-11-14	口縁	1	1	2670	丸縁・口縁	
28	D-8-6	口縁	1	1	53	丸縁・口縁	
D-8-6	口縁	2	1	53	丸縁・口縁		
29	B-14-20	口縁	1	1	1643	丸縁・口縁	
C-11-8	口縁	1	1	1989	丸縁・口縁		

図版番号	図名	アリアツ	形状	直径	高さ	重量	備考
Ⅲ-52	30	B-10-15	胴部	3	1	3296	丸縁・口縁
	31	C-11-19	胴部	1	1	1978	丸縁・口縁
	31	C-11-19	胴部	3	1	1690	丸縁・口縁
	32	C-8-6	口縁	1	1	3134	丸縁・口縁
	33	B-16-14	口縁	1	1	1000	丸縁・口縁
	34	A-6-14	口縁	1	1	275	丸縁・口縁
	35	B-10-14	口縁	1	1	62	丸縁・口縁
	36	B-15-14	口縁	1	1	1159	丸縁・口縁
	36	C-19-16	口縁	1	1	1184	丸縁・口縁
	37	A-2-17	口縁	1	1	7	丸縁・口縁
	38	C-11-6	口縁	1	1	2647	丸縁・口縁
	38	C-11-12	口縁	1	1	2655	丸縁・口縁
	39	C-12-11	口縁	1	1	1293	丸縁・口縁
	40	A-15-23	口縁	1	1	37	丸縁・口縁
	41	A-13-19	口縁	1	1	597	丸縁・口縁
	42	D-9-9	口縁	1	1	291	丸縁・口縁
	43	A-14-3	口縁	1	1	145	丸縁・口縁
	44	C-16-18	口縁	1	1	1927	丸縁・口縁
	45	B-9-16	口縁	1	1	2751	丸縁・口縁
	46	A-14-8	口縁	1	1	811	丸縁・口縁
	47	C-17-21	口縁	1	1	1452	丸縁・口縁
	48	A-13-3	口縁	1	1	619	丸縁・口縁
	49	A-13-18	口縁	1	1	263	丸縁・口縁
	49	A-13-22	口縁	2	1	617	丸縁・口縁
	50	C-15-3	胴部	3	1	1031	丸縁・口縁
	51	C-15-12	胴部	1	1	1012	丸縁・口縁
	52	C-16-7	胴部	1	1	956	丸縁・口縁
	53	B-18-18	胴部	1	1	1886	丸縁・口縁
	54	C-14-22	胴部	1	1	2909	丸縁・口縁
	55	C-14-18	胴部	1	1	1697	丸縁・口縁
56	A-14-3	胴部	2	1	340	丸縁・口縁	
57	A-14-17	胴部	1	1	216	丸縁・口縁	
58	A-14-17	胴部	1	1	1314	丸縁・口縁	
Ⅲ-53	58	C-16-16	胴部	1	1	963	丸縁・口縁
	59	C-16-12	胴部	1	1	958	丸縁・口縁
	59	C-16-16	胴部	1	1	963	丸縁・口縁
	60	C-16-16	胴部	1	1	963	丸縁・口縁
	60	C-16-17	胴部	1	1	960	丸縁・口縁
	61	C-11-13	口縁	1	1	1814	丸縁・口縁
	61	C-11-13	口縁	1	1	1959	丸縁・口縁
	62	C-11-9	口縁	1	1	1489	丸縁・口縁
	62	C-11-13	口縁	1	1	1992	丸縁・口縁
	63	B-9-9	口縁	1	1	3186	丸縁・口縁
	64	C-8-23	胴部	3	1	2626	丸縁・口縁
	65	C-22-12	胴部	1	1	2955	丸縁・口縁
66	B-9-9	胴部	2	1	3203	丸縁・口縁	
66	B-9-9	胴部	1	1	3266	丸縁・口縁	
67	B-9-14	胴部	1	1	2190	丸縁・口縁	
67	C-10-4	口縁	1	1	2121	丸縁・口縁	
68	A-17-8	口縁	1	1	775	丸縁・口縁	
69	A-7-8	口縁	1	1	371	丸縁・口縁	
70	C-10-6	口縁	1	1	2186	丸縁・口縁	
70	C-10-6	口縁	1	1	2782	丸縁・口縁	
70	C-10-14	口縁	1	1	1983	丸縁・口縁	
71	B-6-2	口縁	1	1	3410	丸縁・口縁	
71	B-6-2	口縁	1	1	3448	丸縁・口縁	
72	B-6-7	口縁	1	1	3487	丸縁・口縁	
72	D-6-8	口縁	1	1	3485	丸縁・口縁	
74	D-6-2	口縁	1	1	3480	丸縁・口縁	
74	D-6-2	口縁	1	1	3481	丸縁・口縁	
75	D-6-8	口縁	1	1	3485	丸縁・口縁	
76	A-8-4	口縁	2	1	689	丸縁・口縁	
76	A-8-8	口縁	1	1	686	丸縁・口縁	
76	A-8-9	口縁	1	1	713	丸縁・口縁	
77	C-14-24	胴部	1	1	2699	丸縁・口縁	
78	B-14-12	胴部	1	1	2143	丸縁・口縁	
79	A-12-9	胴部	1	1	223	丸縁・口縁	
79	B-11-12	胴部	1	1	2373	丸縁・口縁	
80	C-11-8	胴部	1	1	1887	丸縁・口縁	
81	C-14-7	胴部	1	1	1808	丸縁・口縁	
82	A-20-22	胴部	1	1	41	丸縁・口縁	
83	D-6-2	口縁	1	1	3430	丸縁・口縁	
84	C-10-8	胴部	1	1	1600	丸縁・口縁	
84	C-10-18	胴部	1	1	2130	丸縁・口縁	
85	C-10-2	胴部	1	1	3288	丸縁・口縁	
86	B-11-20	胴部	1	1	2163	丸縁・口縁	
87	C-8-7	胴部	1	1	2740	丸縁・口縁	
88	D-6-2	口縁	1	1	3480	丸縁・口縁	
89	A-13-23	胴部	1	1	331	丸縁・口縁	
90	A-12-9	口縁	1	1	287	丸縁・口縁	

III オサツ14歳豚の調査

図版番号	図番	グリップ	部位	点数	分量	産肉率	備考
Ⅱ-84	91	C-10-14	口線	1	197b	1682	大塚村、普通豚
	92	D-8-8	口線	1	197b	3485	大塚村、普通豚
	93	C-9-19	口線	1	197b	1939	大塚村、普通豚
	94	A-11-8	口線	1	197b	653	大塚村、普通豚
	95	B-11-8	口線	1	197b	3410	大塚村、普通豚
	96	C-11-15	口線	1	197b	2411	大塚村、普通豚
	97	C-10-8	胴部	1	197b	1896	大塚村、普通豚
	98	C-10-8	胴部	1	197b	2187	大塚村、普通豚
	99	C-12-11	胴部	1	197b	2613	大塚村、普通豚
	99	C-6-5	胴部	1	197b	3120	大塚村、普通豚
100	A-11-13	胴部	1	197b	606	竹筒工具による	
	B-12-7	胴部	1	197b	2570	横切、普通豚	
	C-12-8	胴部	2	197b	2799	横切、普通豚	
	102	B-6-24	胴部	1	197b	3360	横切、普通豚
	103	C-10-14	胴部	1	197b	1894	横切、普通豚
	103	C-10-19	胴部	1	197b	1681	横切、普通豚
	104	C-14-14	胴部	1	197b	1793	横切、普通豚
	105	B-11-25	胴部	1	197b	2668	横切、普通豚
	106	B-16-17	口線	1	197b	2527	横切、普通豚
	107	C-8-2	口線	1	197b	2733	横切、普通豚
108	C-9-3	口線	1	197b	1148	口線なし、横切	
	C-9-19	口線	1	197b	2012	横切、普通豚	
	C-9-22	胴部	1	197b	1343	横切、普通豚	
	109	C-9-24	口線	1	197b	2017	口線なし、横切
	C-10-7	口線	1	197b	2783	横切、普通豚	
	110	B-6-2	口線	1	197b	3410	横切、普通豚
	111	B-6-12	胴部	1	197b	3116	横切、普通豚
	112	A-12-13	胴部	1	197b	226	横切、()
	A-12-22	胴部	1	197b	207	() 横切、普通豚	
	113	B-10-16	胴部	1	197b	1971	横切、普通豚
114	B-10-18	胴部	1	197b	1976	横切、普通豚	
	C-11-9	胴部	1	197b	1568	口線、横切、普通豚	
	D-6-2	胴部	1	197b	3480	口線、横切、普通豚	
	D-6-6	口線	1	197b	3483	口線、横切、普通豚	
	115	A-6-18	胴部	1	197b	843	横切、横切、普通豚
	A-6-18	胴部	1	197b	844	() 横切、普通豚	
	B-6-2	胴部	2	197b	3400	横切、普通豚	
	117	B-7-20	口線	2	197b	2438	横切、普通豚
	B-7-24	口線	1	197b	3176	横切、普通豚	
	118	C-10-19	口線	1	197b	1684	横切、普通豚
119	A-7-14	口線	1	197b	784	横切、普通豚	
	C-12-13	口線	1	197b	1297	横切、普通豚	
	C-12-17	胴部	1	197b	1304	横切、普通豚	
	C-12-18	胴部	1	197b	1306	横切、普通豚	
	C-12-19	胴部	1	197b	1306	横切、普通豚	
	C-12-22	胴部	1	197b	1311	横切、普通豚	
	C-12-23	胴部	1	197b	1318	横切、普通豚	
	C-12-24	口線	2	197b	1314	横切、普通豚	
	121	B-6-5	口線	2	197b	3399	横切、普通豚
	122	B-11-28	口線	1	197b	2869	横切、普通豚
123	B-11-25	口線	1	197b	2864	横切、普通豚	
	B-10-12	口線	1	197b	3285	横切、普通豚	
	C-12-19	口線	1	197b	1308	横切、普通豚	
	B-13-15	口線	1	197b	2753	横切、普通豚	
	C-13-16	口線	1	197b	1960	横切、普通豚	
	126	C-9-18	胴部	1	197b	1678	横切、普通豚
	C-9-24	口線	2	197b	1878	横切、普通豚	
	127	B-6-3	口線	1	197b	3306	横切、普通豚
	128	C-11-13	口線	1	197b	1991	横切、普通豚
	C-11-14	口線	1	197b	1498	横切、普通豚	
129	C-11-18	口線	1	197b	2109	横切、普通豚	
	B-7-18	口線	1	197b	3233	横切、普通豚	
	B-7-20	口線	1	197b	2433	横切、普通豚	
	B-7-20	口線	1	197b	3180	横切、普通豚	
	130	C-12-12	口線	1	197b	1295	横切、普通豚
	131	A-12-8	口線	1	197b	755	横切、普通豚
	132	A-12-8	口線	1	197b	752	横切、普通豚
	133	C-12-6	口線	1	197b	1285	横切、普通豚
	134	C-10-9	口線	1	197b	2129	横切、普通豚
	135	C-13-4	口線	1	197b	2594	横切、普通豚
136	B-11-5	口線	1	197b	2841	横切、普通豚	
	C-8-25	口線	1	197b	3084	横切、普通豚	
	C-9-4	口線	1	197b	1688	横切、普通豚	
	138	C-9-3	口線	1	197b	1690	横切、普通豚
	139	C-9-17	口線	1	197b	1687	横切、普通豚
	C-9-18	口線	1	197b	1686	横切、普通豚	
	D-6-25	口線	1	197b	2235	横切、普通豚	
	B-8-25	口線	1	197b	2742	横切、普通豚	

図版番号	図番	グリップ	部位	点数	分量	産肉率	備考
Ⅱ-86	141	C-8-16	胴部	1	197b	2064	横切、普通豚
	C-8-16	口線	1	197b	2080	横切、普通豚	
	C-8-21	口線	1	197b	2061	横切、普通豚	
	C-8-22	口線	1	197b	2053	横切、普通豚	
	C-8-23	口線	1	197b	2053	横切、普通豚	
	142	C-11-9	口線	1	197b	1570	横切、普通豚
	143	C-9-3	口線	1	197b	2145	横切、普通豚
	144	B-6-4	口線	1	197b	2397	横切、普通豚
	145	A-7-3	口線	1	197b	798	横切、普通豚
	146	C-11-24	口線	1	197b	1906	横切、普通豚
147	C-12-6	口線	1	197b	1285	横切、普通豚	
	C-13-13	口線	1	197b	2683	横切、普通豚	
	A-12-8	口線	1	197b	764	横切、小犬尾片	
	A-12-9	口線	1	197b	225	横切、小犬尾片	
	149	A-6-3	口線	1	197b	236	横切、小犬尾片
	150	C-12-13	口線	1	197b	1297	横切、普通豚
	151	A-11-7	口線	1	197b	650	横切、普通豚
	152	D-6-3	口線	1	197b	3490	横切、普通豚
	153	B-7-16	口線	1	197b	3211	横切、普通豚
	154	C-13-10	胴部	1	197b	2522	横切、普通豚
155	C-9-24	胴部	1	197b	2016	横切、普通豚	
	C-10-4	胴部	1	197b	2127	横切、普通豚	
	C-10-15	胴部	1	197b	2016	横切、普通豚	
	156	D-9-9	胴部	1	197b	282	横切、普通豚
	157	A-13-2	胴部	1	197b	618	横切、普通豚
	A-13-6	胴部	1	197b	626	横切、普通豚	
	A-13-7	胴部	1	197b	304	横切、普通豚	
	158	A-13-4	胴部	1	197b	500	横切、普通豚
	159	A-7-3	胴部	1	197b	797	横切、普通豚
	160	D-6-3	胴部	1	197b	3488	横切、普通豚
161	C-11-19	胴部	1	197b	2415	横切、普通豚	
	162	A-7-3	胴部	1	197b	341	横切、普通豚
	163	D-7-18	口線	1	197b	2508	横切、普通豚
	164	D-7-12	口線	1	197b	2890	横切、普通豚
	165	C-8-24	口線	1	197b	2085	横切、普通豚
	C-9-4	口線	4	197b	2090	横切、普通豚	
	166	C-8-23	胴部	1	197b	2334	横切、普通豚
	C-8-24	胴部	2	197b	2049	横切、普通豚	
	C-8-24	胴部	1	197b	2085	横切、普通豚	
	167	D-7-4	口線	4	197b	3515	横切、普通豚
Ⅱ-87	168	C-12-5	胴部	1	197b	2062	横切、普通豚
	C-12-9	口線	1	197b	1291	横切、普通豚	
	C-12-9	口線	2	197b	1823	横切、普通豚	
	C-13-9	口線	1	197b	2619	横切、普通豚	
	169	C-13-4	口線	1	197b	2617	横切、普通豚
	C-13-9	口線	1	197b	2620	横切、普通豚	
	170	C-10-9	口線	1	197b	1472	横切、普通豚
	C-13-3	口線	1	197b	2672	横切、普通豚	
	171	C-12-21	口線	1	197b	2818	横切、普通豚
	C-13-3	口線	1	197b	2615	横切、普通豚	
172	C-12-19	口線	2	197b	1309	横切、普通豚	
	C-12-24	口線	2	197b	1316	横切、普通豚	
	C-13-4	口線	2	197b	2616	横切、普通豚	
	173	C-15-4	口線	1	197b	1037	横切、普通豚
	174	B-9-25	口線	1	197b	2248	横切、普通豚
	C-8-16	口線	1	197b	1241	横切、普通豚	
	175	A-6-18	胴部	3	197b	844	横切、普通豚
	A-6-18	胴部	2	197b	845	横切、普通豚	
	176	C-14-22	口線	1	197b	2697	横切、普通豚
	C-14-23	胴部	1	197b	2896	横切、普通豚	
C-14-23	胴部	1	197b	2604	横切、普通豚		
177	C-6-1	口線	1	197b	3425	横切、普通豚	
	C-9-24	口線	1	197b	2617	横切、普通豚	
	C-10-4	口線	1	197b	2127	横切、普通豚	
	179	A-13-13	口線	2	197b	369	横切、普通豚
	180	A-12-8	胴部	6	197b	764	横切、普通豚
	181	C-8-3	口線	3	197b	2767	横切、普通豚
	C-8-3	口線	14	197b	3150	横切、普通豚	
	C-8-8	胴部	1	197b	2729	横切、普通豚	
	182	B-9-14	口線	1	197b	2219	横切、普通豚
	B-9-14	胴部	1	197b	2243	横切、普通豚	
B-9-14	胴部	2	197b	2266	横切、普通豚		
B-9-14	胴部	3	197b	2749	横切、普通豚		
B-9-14	胴部	1	197b	3190	横切、普通豚		
C-11-19	胴部	1	197b	2220	横切、普通豚		
183	D-8-24	取手	1	197b	34	ニキヤコ	
184	D-9-2	取手	1	197b	34	ニキヤコ	
185	C-12-17	胴部	1	197b	2675	横切、普通豚	
186	C-11-16	胴部	1	197b	2856	横切、普通豚	
187	-	-	-	-	-	横切、普通豚	

表Ⅲ-46

遺構掲載石器一覽

図	番号	出土層	名称	層号	大きさ (mm)	重量(g)	石材	
Ⅲ-17	4	H-1	石斧	覆土	97.9×35.9×21.4	117.6	鹿石	
	5		石斧	覆土	97.5×38.6×24.0	126.9	片岩	
Ⅲ-18	3	H-2	石鏃	覆土	21.3×15.8×2.9	0.7	燧石	
	6	H-3	彫器	覆土	45.1×19.8×9.0	9.2	燧石	
Ⅲ-22	5	H-7	石鏃	覆土	17.2×14.7×3.6	0.7	燧石	
	6		石斧	床	81.0×44.3×23.8	149.7	片岩	
Ⅲ-24	4	H-8	石鏃	床	19.9×11.5×4.0	0.6	チャート	
	5		石鏃	床	23.1×13.9×3.8	0.7	燧石	
	6		石鏃	床	21.6×13.8×2.9	0.6	チャート	
	7		石鏃	覆土	25.5×14.3×3.5	0.8	燧石	
	8		石鏃	床	29.0×10.1×4.9	0.9	チャート	
	9	カサハ	斧	床	53.4×19.0×9.8	9.3	燧石	
	10	石斧	覆土	82.1×42.1×6.1	29.4	鹿石		
	11	石斧	床	106.1×36.5×24.1	160.0	鹿石		
	12	たき石	床	83.6×78.6×44.8	437.5	安山岩		
	14	H-12	すり石	床	37.6×53.6×38.1	81.5	安山岩	
	Ⅲ-25	2	H-9	たき石	覆土	76.8×33.9×27.5	128.1	片岩
		3		砥石	床	163×122.2×39.5	565.9	片岩
	Ⅲ-30	9	H-11	石鏃	覆土	22.9×12.8×2.5	0.6	燧石
		10		石鏃	覆土	25.5×12.5×3.0	0.6	燧石
11			石鏃	覆土	24.6×13.2×3.7	0.8	燧石	
12		砂トナリ	覆土	82.1×30.1×13.5	31.3	燧石		
13		砂岩付	斧	47.1×18.2×7.7	5.4	燧石		
14		砂岩付	斧	37.8×32.3×7.6	6.7	燧石		
15		砂岩付	斧	32.5×12.2×6.8	3.1	燧石		
16		石鏃	床	27.1×30.3×5.7	3.9	片岩		
17		すり石	敷	142.6×87.8×75.9	564.4	安山岩		
Ⅲ-32		4	H-15	カサハ	覆土	30.4×20.2×7.8	4.2	燧石
	5	カサハ	覆土	60.8×63.9×13.6	51.4	片岩		
	6	石斧	覆土	70.5×31.0×13.2	45.9	鹿石		
Ⅲ-34	11	H-17	石鏃	覆土	23.2×13.4×5.2	1.3	燧石	
	12		石鏃	覆土	32.8×13.6×8.2	2.5	砂岩	
Ⅲ-35	3	H-18	石鏃	床	18.6×15.8×2.4	1.3	燧石	
	4		石鏃	床	38.3×33.8×8.6	10.7	燧石	
Ⅲ-41	22	H-20	石鏃	床	16.7×9.3×3.2	0.4	燧石	
	23		石鏃	床	17.9×8.6×3.6	0.5	燧石	
	24		石鏃	床	19.3×12.2×6.7	0.4	燧石	
	25		石鏃	床	18.7×12.0×3.9	0.7	燧石	
	26		石鏃	床	21.4×13.0×3.1	0.6	燧石	
	27		石鏃	床	22.4×14.3×3.6	1.0	燧石	
	28		石鏃	床	21.4×14.6×3.2	0.7	燧石	
	29		石鏃	床	20.5×13.2×2.7	0.7	燧石	
	30		石鏃	床	22.2×10.2×3.4	0.6	燧石	
	31		石鏃	床	21.1×14.1×3.5	0.8	燧石	
	32		石鏃	床	23.6×16.4×3.6	1.2	燧石	
	33		石鏃	床	26.3×15.6×4.6	1.5	燧石	
	34		石鏃	床	31.1×12.2×4.5	1.4	燧石	
	35		石鏃	床	23.2×14.1×2.5	0.7	燧石	
	36		石鏃	床	23.1×10.8×4.5	0.8	燧石	
	37	砂トナリ	斧	床	43.3×29.6×11.0	10.9	燧石	
	38	カサハ	斧	床	24.3×19.3×5.5	2.6	燧石	
	39	カサハ	斧	床	67.1×21.4×15.1	14.2	片岩	
	40	石斧	床	129.5×50.5×29.8	257.8	片岩		
	41	すり石	床	82.7×116.3×58.1	870	安山岩		

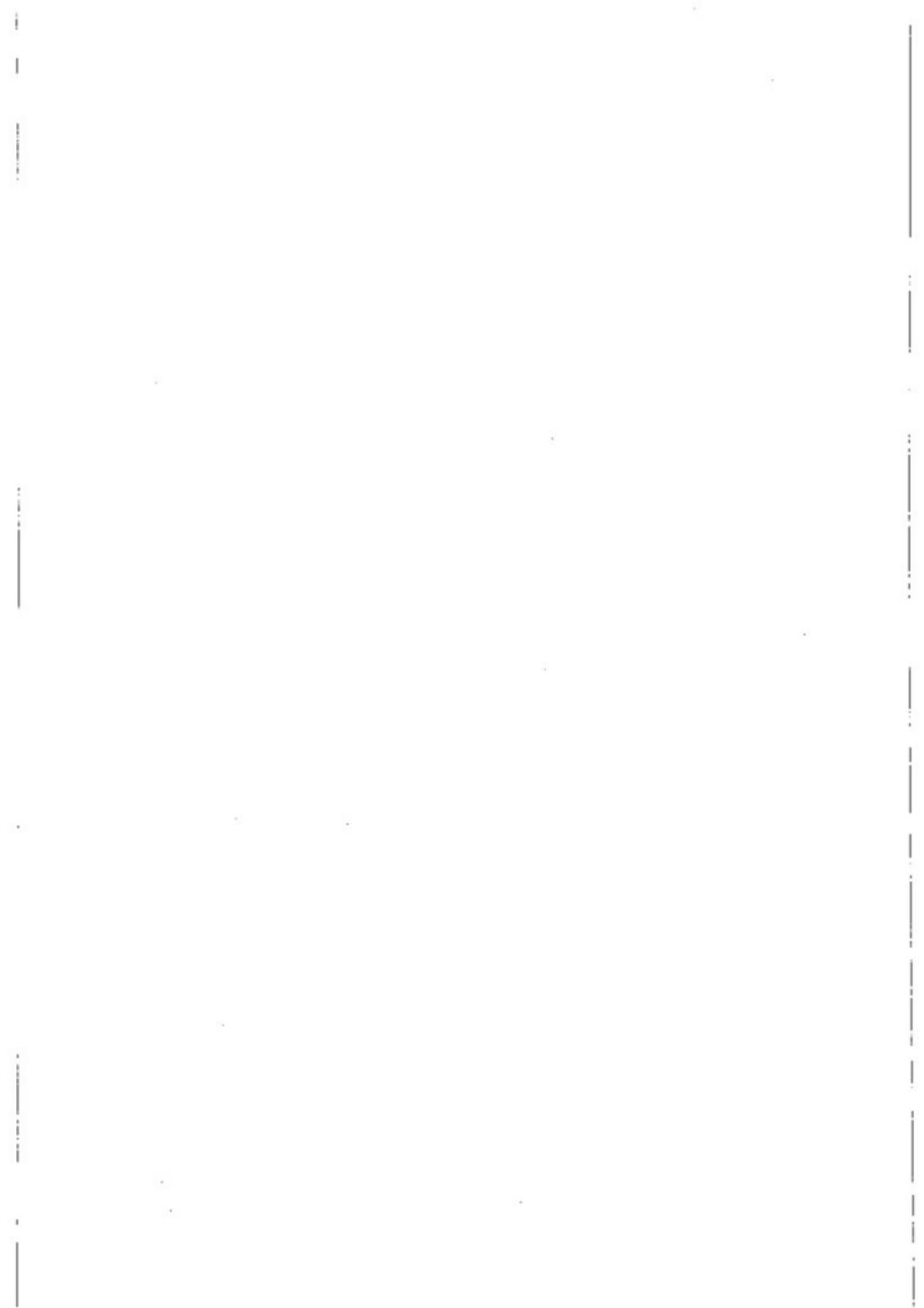
図	番号	出土層	名称	層号	大きさ (mm)	重量(g)	石材	
Ⅲ-43	2	H-21	石斧	覆土	94.0×51.1×20.5	203.5	鹿石	
	8	H-23	石鏃	床	26.1×17.5×3.8	0.9	燧石	
Ⅲ-46	9		石鏃	床	21.3×15.1×4.2	0.8	燧石	
	10		石鏃	床	18.3×10.7×5.1	0.5	片岩	
	11		石鏃	床	19.7×8.4×5.3	0.6	片岩	
	12	砂トナリ	斧	床	35.1×19.5×10.1	7.4	片岩	
	13	砂トナリ	斧	床	43.6×17.6×12.8	8.4	片岩	
	14		石鏃	床	68.5×54.6×16.2	76.8	片岩	
	Ⅲ-48	4	H-24	石斧	床	114.2×47.5×37.2	288.3	鹿石
		5		石斧	床	49.2×24.0×10.8	23.2	鹿石
		6		石斧	床	104.6×41.6×24.0	150.3	片岩
	7		石斧	床	107.9×41.4×29.2	222.8	片岩	
	Ⅲ-49	4	H-25	彫器	覆土	32.3×13.1×2.8	1.3	燧石
		5	H-26	石鏃	床	19.1×12.8×3.8	0.7	燧石
	Ⅲ-51	6	カサハ	斧	床	34.5×12.6×5.4	2.0	燧石
		17	H-26	石鏃	床	19.9×11.6×2.9	0.5	燧石
Ⅲ-55	18		石鏃	床	21.2×12.8×3.2	0.7	燧石	
	19		石鏃	床	21.3×12.8×2.7	0.5	燧石	
	20		石鏃	床	22.1×13.1×3.6	0.7	燧石	
	21		石鏃	HP-1	22.8×9.5×2.7	0.5	燧石	
	22		石鏃	床	23.8×11.8×3.3	0.6	燧石	
	23		石鏃	床	25.6×17.0×4.8	2.1	片岩	
	24		石鏃	床	34.9×14.1×4.0	1.1	燧石	
	25		石鏃	床	25.1×14.0×4.7	1.3	燧石	
	26		石鏃	床	31.5×18.8×7.0	3.4	燧石	
	27	砂岩付	斧	床	60.5×21.6×11.9	16.1	砂岩	
	28	カサハ	斧	床	57.7×22.8×10.0	11.7	燧石	
	29	すり石	床	72.8×66.0×17.4	131.8	安山岩		
	30	たき石	床	138.1×68.6×32.4	483.6	安山岩		
	31	たき石	床	117.9×74.8×32.8	358.3	安山岩		
Ⅲ-56	9	H-27	石鏃	覆土	20.2×14.8×2.7	0.7	燧石	
	10		すり石	覆土	62.5×77.5×41.1	233.5	安山岩	
	22	H-28	石鏃	覆土	24.2×11.0×2.9	0.7	燧石	
Ⅲ-59	23	カサハ	覆土	21.5×15.4×5.2	1.4	燧石		
	24	石鏃	覆土	22.5×50.5×13.1	15.4	燧石		
	25	たき石	覆土	90.2×55.2×43.8	276.6	片岩		
	7	H-31	砂トナリ	斧	61.7×25.0×8.9	9.8	片岩	
Ⅲ-66	8	カサハ	斧	43.2×40.8×12.0	19.8	片岩		
	9	石斧	床	76.5×54.6×23.1	159.6	片岩		
Ⅲ-68	2	P-5	石斧	敷	367×270×190	24000	安山岩	
Ⅲ-69	1	P-12	すり石	覆土	123.0×88.5×57.1	880	安山岩	
Ⅲ-71	2	P-25	玉	敷	20.4×18.7×13.6	9.9	砂岩	
Ⅲ-74	1	P-43	石鏃	覆土	26.5×14.5×3.4	1.0	燧石	
	2		石鏃	覆土	35.5×14.2×4.2	1.5	燧石	
Ⅲ-78	1	F-14	石鏃	-	18.1×13.4×2.3	0.5	燧石	
Ⅲ-79	2	F-35	カサハ	-	28.1×9.1×3.0	0.8	燧石	
	1	F-36	石鏃	-	16.9×16.7×3.0	0.6	燧石	

Ⅲ オサツ14遺跡の調査

表Ⅲ-47
包含層掲載石器一覽

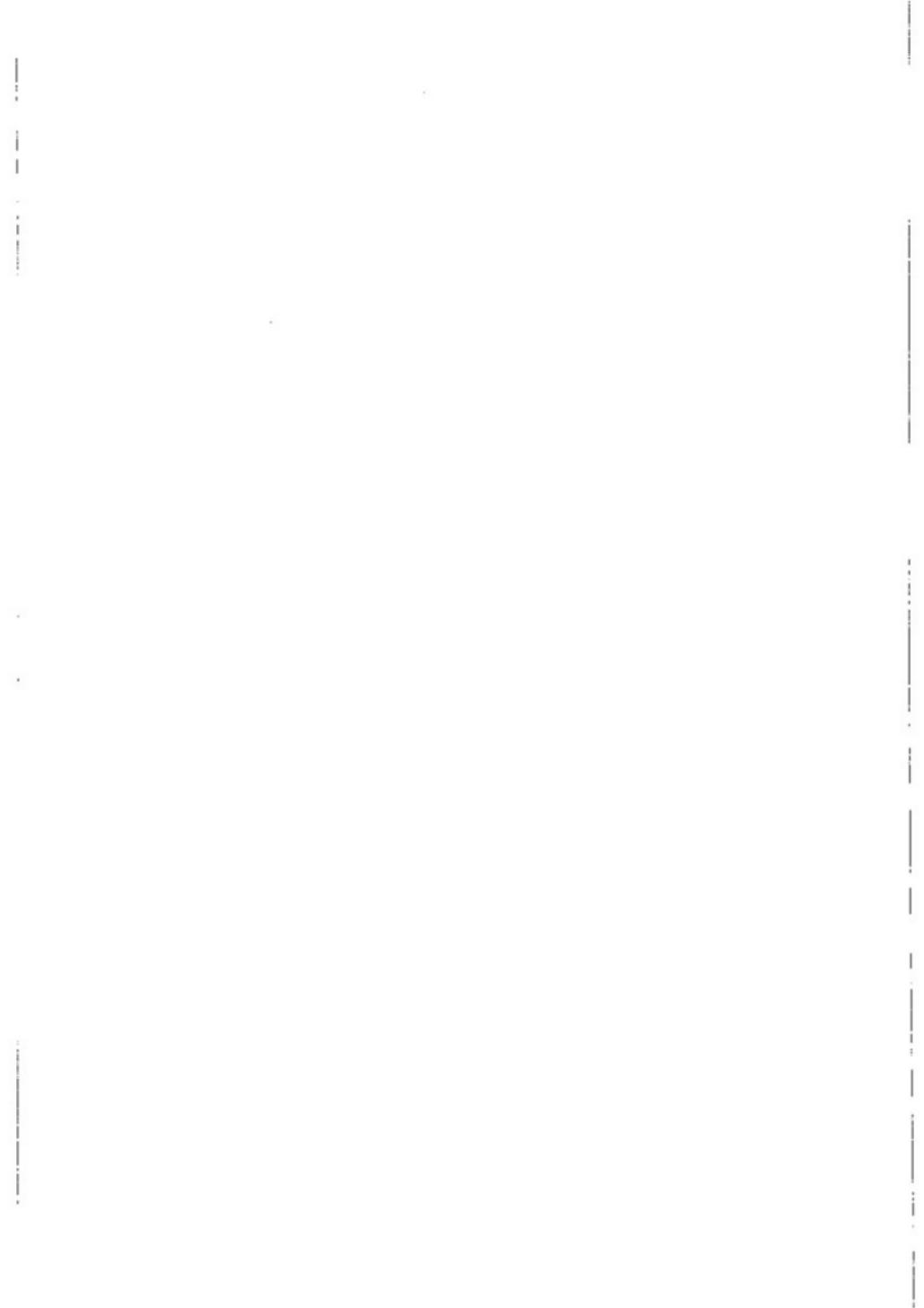
図版	番号	名称	出土区	層	大きさ(mm)	計測	石材	
Ⅲ-64	1	石鏃	C 8-13	Ⅱa	16.1×11.1× 1.7	0.3	燧石	
	2	*	C 8-24	Ⅱb	18.1×14.2× 1.9	0.4	燧石	
	3	*	C 8-24	Ⅱb	16.4×14.6× 2.7	0.4	燧石	
	4	*	B10- 9	Ⅱb	19.9×17.6× 3.2	0.7	燧石	
	5	*	C12- 9	Ⅱb	22.6×17.1× 3.8	1.2	燧石	
	6	*	C 8-12	Ⅱb	12.8×15.6× 2.8	0.7	燧石	
	7	*	B 8- 3	Ⅱb	22.7×15.5× 3.5	1.0	燧石	
	8	*	C19- 3	Ⅱb	25.6×16.0× 3.5	1.4	燧石	
	9	*	B 9-25	Ⅱb	27.1×16.1× 2.4	0.7	燧石	
	10	*	C10-13	Ⅱb	25.7×19.8× 3.0	0.9	燧石	
	11	*	C 6- 6	Ⅱb	28.0×14.8× 2.8	0.8	燧石	
	12	*	A 9-18	Ⅱb	28.7×17.0× 3.1	1.4	燧石	
	13	*	B 7-14	Ⅱb	28.8×16.8× 3.5	1.3	燧石	
	14	*	B 7- 5	Ⅱb	19.8×13.6× 2.7	0.5	燧石	
	15	*	C 9-16	Ⅱb	25.8×16.6× 2.0	0.7	燧石	
	16	*	C10-16	Ⅱb	34.0×19.0× 3.4	1.5	燧石	
	17	*	C19-10	Ⅱb	36.8×25.3× 6.2	4.8	燧石	
	18	*	B 9-19	Ⅱb	15.8×14.4× 2.0	0.4	燧石	
	19	*	C 8-22	Ⅱb	17.2×13.5× 3.4	0.5	燧石	
	20	*	A19-13	Ⅱb	24.0×16.2× 2.5	0.8	燧石	
	21	*	A18-24	Ⅱb	31.1×12.8× 2.5	1.1	燧石	
	22	*	C 8- 4	Ⅱa	20.0×13.1× 2.4	0.4	燧石	
	23	*	C11-12	Ⅱb	32.1×14.2× 3.2	0.9	燧石	
	24	*	D 7-17	Ⅱb	28.4×16.2× 3.6	1.0	燧石	
	25	*	D 9-14	Ⅱb	29.5×14.5× 3.1	0.8	燧石	
	26	*	C 9-23	Ⅱa	26.6×15.7× 3.6	1.0	燧石	
	27	*	C 9-23	Ⅱb	13.0×13.0× 3.1	0.3	燧石	
	28	*	D 8- 1	Ⅱb	19.4×13.7× 2.8	0.5	燧石	
	29	*	C 7-21	Ⅱb	20.0× 8.1× 2.1	0.3	燧石	
	30	*	C13-11	Ⅱa	20.6×10.9× 4.6	0.7	燧石	
	31	*	D 9-23	Ⅱb	24.0× 7.6× 2.9	0.4	燧石	
	32	*	C11- 7	Ⅱb	24.9× 9.8× 3.5	0.7	燧石	
	33	*	A12- 1	Ⅱb	27.1×10.7× 5.0	1.2	燧石	
	34	*	A 8-19	Ⅱb	29.5×11.1× 4.1	1.2	燧石	
	35	*	D 8-23	Ⅱb	24.1×15.8× 3.8	0.7	燧石	
36	*	D 9- 3	Ⅱb	24.8×15.3× 3.6	1.0	燧石		
37	*	C11-13	Ⅱb	26.9×13.6× 4.1	0.7	燧石		
Ⅲ-65	38	*	C11- 9	Ⅱb	34.6×15.0× 5.0	1.4	燧石	
	39	*	C12-19	Ⅱb	30.9×12.8× 3.3	1.0	燧石	
	40	*	B 8-18	Ⅱb	36.0×13.6× 4.1	1.7	燧石	
	41	*	C12-13	Ⅱb	32.5×19.6× 3.8	1.3	燧石	
	42	*	B12-14	Ⅱb	23.8×13.9× 3.6	1.0	燧石	
	43	*	B19- 3	Ⅱb	33.8×17.0× 4.1	2.0	燧石	
	44	*	C12-12	Ⅱb	43.2×18.5× 6.7	3.9	燧石	
	45	*	C10-11	Ⅱb	36.9×23.8× 8.8	4.4	燧石	
	46	*	C11-17	Ⅱb	22.9× 7.6× 4.1	0.7	燧石	
	47	*	D 9- 8	Ⅱb	27.9×14.0× 2.6	0.7	燧石	
	48	*	B 8- 4	Ⅱb	25.2×14.1× 2.9	0.7	燧石	
	49	*	C15- 3	Ⅱb	24.0×12.1× 2.1	0.5	燧石	
	50	*	B12-20	Ⅱb	36.5×12.7× 3.3	1.4	燧石	
	51	*	C15- 6	Ⅱb	48.2×13.9× 4.4	2.6	燧石	
	52	靴小刀	C12-11	Ⅱb	52.5×20.7× 8.5	7.6	燧石	
	53	*	C10- 6	Ⅱb	49.6×24.8× 8.8	9.0	燧石	
	54	*	A14-12	Ⅱb	61.7×23.5×10.3	12.2	燧石	
	55	*	D 6- 3	Ⅱb	152×30.4×14.5	59.6	燧石	
	Ⅲ-66	56	石鏃	C10-11	Ⅱb	15.4× 7.7× 4.5	0.5	燧石
		57	*	C 9-17	Ⅱb	33.1× 6.3× 5.2	0.8	燧石
58		*	C18- 3	Ⅱb	37.2×11.8×10.0	5.0	燧石	
59		*	C10-18	Ⅱb	29.4×14.4× 7.4	2.5	燧石	
60		*	B 7-13	Ⅱb	25.6×14.7× 5.1	1.8	燧石	
61		*	C 9- 7	Ⅱb	35.5×16.1× 7.5	3.8	燧石	
62		*	A11-17	Ⅱb	37.8×16.6×11.7	6.4	燧石	
63		*	B12-15	Ⅱb	40.8×17.7× 8.3	5.1	燧石	
64		*	C14- 2	Ⅱb	27.1×20.0× 7.0	2.3	燧石	
65		*	B 9-14	Ⅱb	35.4×30.0× 7.0	5.1	燧石	
66		*	A15-14	Ⅱb	32.7×32.8× 6.9	7.7	燧石	
67		*	B 6-12	Ⅱb	45.2×33.9× 5.6	5.8	燧石	

図版	番号	名称	出土区	層	大きさ(mm)	計測	石材	
Ⅲ-68	68	短剣片	A-21-1	Ⅱb	37.8×19.6× 6.1	3.5	燧石	
	69	*	A 7-19	Ⅱb	41.8×19.1× 5.8	5.1	燧石	
	70	*	B 7-10	Ⅱb	57.8×18.8× 5.0	4.9	燧石	
Ⅲ-67	71	*	D11-14	Ⅱb	63.4×33.2× 8.1	15.7	燧石	
	72	*	B 7-24	Ⅱb	47.9×19.2× 6.1	5.0	燧石	
	73	*	C10- 1	Ⅱa	59.8×33.2× 10.2	20.2	燧石	
	74	*	B 7-24	Ⅱb	57.9×33.9× 7.7	17.1	燧石	
	75	*	A21-24	Ⅱb	41.2×29.1× 7.2	10.2	燧石	
	76	*	A 7-14	Ⅱb	59.2×25.0× 8.7	13.8	燧石	
	77	*	B11- 5	Ⅱb	56.8×28.1× 6.9	8.5	燧石	
	78	*	靴小刀	Ⅱb	93.4×27.2×12.2	31.8	燧石	
	79	靴小刀	B 8-13	Ⅱb	26.6×30.1×14.1	8.9	燧石	
	80	*	D11-24	Ⅱb	29.8×29.1× 9.1	8.4	燧石	
	81	*	A14- 2	Ⅱb	31.8×38.8×14.2	15.7	燧石	
Ⅲ-69	82	*	C 7-24	Ⅱb	28.3×28.2×15.0	18.6	燧石	
	83	スリ小刀	B 6-14	Ⅱb	35.0×33.7× 9.8	9.0	燧石	
	84	*	C18- 6	Ⅱb	15.7×13.1× 5.1	2.0	燧石	
	85	*	D 6- 2	Ⅱb	37.8×33.7× 5.8	2.6	燧石	
	86	*	B10-10	Ⅱa	53.2×20.1× 8.5	7.4	燧石	
	87	*	B10- 6	Ⅱb	48.3×26.1× 7.5	9.3	燧石	
	88	*	D 7-17	Ⅱb	25.5×24.2× 6.2	4.5	燧石	
	89	*	C 7-20	Ⅱb	50.1×22.2× 7.3	7.9	燧石	
	90	*	B10-10	Ⅱb	35.8×47.0× 9.4	13.8	燧石	
	91	*	A13-13	Ⅱb	33.5×24.0× 9.0	6.0	燧石	
	92	*	B 7-24	Ⅱb	34.0×31.3× 9.7	9.5	燧石	
	93	*	A13- 9	Ⅱb	45.7×27.6× 7.6	8.8	燧石	
	94	*	B10- 4	Ⅱb	26.3×43.1× 9.4	11.8	燧石	
	95	石斧	D 6- 7	Ⅱb	32.5×13.6× 3.2	1.8	燧石	
	Ⅲ-69	96	燧石	B12-10	Ⅱb	20.6× 8.3× 3.3	0.8	燧石
		97	*	D 6- 7	Ⅱb	24.3×11.2× 4.0	0.8	燧石
		98	*	B10-20	Ⅱb	19.6×21.5× 3.0	1.1	燧石
		99	*	B 8-22	Ⅱb	40.1×13.6×12.7	7.2	燧石
100		*	C14- 3	Ⅱb	68.8×18.4× 7.6	7.5	燧石	
101		燧石	C 9- 5	Ⅱa	23.9×16.2×14.2	5.6	燧石	
102		*	B 8-23	Ⅱb	36.4×23.2× 9.8	6.6	燧石	
103		*	C 8-13	Ⅱa	38.5×26.3×10.0	8.2	燧石	
104		石核	C11-17	Ⅱb	35.2×42.2×15.5	23.2	燧石	
105		*	A12- 7	Ⅱb	44.6×43.9×18.5	32.6	燧石	
106		*	C17-17	Ⅱb	24.2×20.2×13.1	15.8	燧石	
107		*	C19-19	Ⅱb	47.8×48.8×16.2	34.9	燧石	
Ⅲ-70	108	石斧	B 7-19	Ⅱb	58.9×36.9×13.2	45.5	燧石	
	109	*	B20- 7	Ⅱb	77.0×40.5×14.3	76.3	燧石	
	110	*	D11-24	Ⅱb	97.0×38.5×15.1	91.3	燧石	
	111	*	B16-20	Ⅱb	98.6×35.7×13.8	83.1	燧石	
	112	*	A12- 8	Ⅱb	109.8×43.5×18.7	150.5	燧石	
	113	*	A16- 6	Ⅱb	108.6×36.2×32.0	191.8	燧石	
Ⅲ-71	114	ナリ石	B15-14	Ⅱa	61.5×59.3×82.1	383.0	燧石	
	116	*	C13- 8	Ⅱb	48.1×53.8×104.0	417.5	燧石	
	117	*	D 6- 2	Ⅱb	119.7×53.0×90.6	913	燧石	
	118	*	D 9-19	Ⅱb	17.5×53.2×99.4	1195	燧石	
	119	*	C 8- 1	Ⅱb	119.6×47.7×81.8	640	燧石	
Ⅲ-72	120	*	C 6-10	Ⅱb	184.7×50.7×77.8	1520	燧石	
	121	靴小刀	D 6- 3	Ⅱb	71.2×66.5×43.7	301.9	燧石	
	122	*	A15- 8	Ⅱb	47.9×57.0×54.5	205.5	燧石	
	123	*	C 6- 4	Ⅱb	59.6×51.6×47.2	253.9	燧石	
	124	*	D 6- 7	Ⅱb	63.0×53.3×38.1	199.5	燧石	
Ⅲ-73	125	*	B 8- 7	Ⅱb	83.2×72.0×46.2	394.2	燧石	
	126	*	C 9- 6	Ⅱa	85.8×78.0×47.0	456.6	燧石	
	127	*	B19-10	Ⅱb	155.5×77.3×31.8	337.5	燧石	
	128	*	D 9- 3	Ⅱb	81.0×68.8×38.1	408.3	燧石	
Ⅲ-74	129	*	B23-20	Ⅱb	93.4×41.2×24.8	151.7	燧石	
	130	燧石	C11-24	Ⅱb	57.2×30.8×11.3	18.9	燧石	
	131	*	B6-28	Ⅱb	69.2×40.0×17.8	67.4	燧石	
	132	*	A13-16	Ⅱb	87.3×36.5×15.0	57.6	燧石	
	133	石核	B 8-25	Ⅱb	95.2×66.5×43.3	245.5	燧石	
	134	*	C11-17	Ⅱb	125.8×63.1×20.3	206.1	燧石	



報告書抄録

ふりがな	ちとせしおきつにいせき ・おきつじゆうよんいせき							
書名	千歳市オサツ2遺跡(1)・オサツ14遺跡							
副書名	都地区道営畑地帯総合土地改良事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第96集							
編著者名	鈴木 信・三浦正人・鎌田 望・千葉英一							
編集機関	北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒064 札幌市中央区南26条西11丁目 TEL011-561-3131							
発行年月日	1995年3月27日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
オサツ2	北海道千歳市 都	01224	14	42°52'14"	141°39'3"	19920801~ 19921029 19930506~ 19931030	870 650	道路(農道) 建設に伴う 事前調査
オサツ14	千歳市都	01224	245	42°51'51"	141°38'53"	19940506~ 19941025	1,620	同上
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
オサツ2	集落・墓	アイヌ文化期 縄文文化期 縄文後中期 縄文中期 後期	・アイヌ墓 ・捺文竪穴 ・縄文土壇墓 ・縄文土壇 ・焼土 ・集石 ・鍛冶遺構	2 20 8 6 35 4 2	鉄製品 捺文土器, 須恵器 縄文(後北式)土器 石器 管玉, 土玉 紡錘車 鉄滓, 鉄片 フイゴ羽口	・長都川沿いの縄文期の 大集落の一端を調査。 ・捺文期の鍛冶遺構を 検出。 (縄文と低温部は 次年度報告)		
オサツ14	集落	アイヌ文化期 縄文文化期 縄文後期 中期 前期	・アイヌ文化期建物跡 同 灰土 ・捺文竪穴 同 土壇 ・縄文竪穴 同 土壇墓・土壇 同 焼土	2 4 1 1 31 50 36	鉄鍋 木製品 捺文土器 縄文土器 石器 ヒスイ玉 シカ距骨	・縄文中期円筒上層式期 のロングハウス1基。 ・中期円筒上層期と柏 木川式期等の集落で 遺構どうしの重複が 多数例有り。 ・低温部あり。		



北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第96集

千歳市 オサツ2遺跡(1)・オサツ14遺跡

—都地区道管畑地帯総合土地改良事業用地内埋蔵文化財発掘調査—

平成7年3月27日 発行

編集 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒064 札幌市中央区南26条西11丁目

Tel (011) 561-3131

Fax (011) 561-0458

印刷 札幌大同印刷株式会社

〒004 札幌市厚別区厚別東3条2丁目

Tel (011) 897-9711

